青森県埋蔵文化財調査報告書　第475集

前　川　遺　跡

－県道弘前田舎館黒石線道路改良事業に伴う遺跡発掘調査報告－

（第　一　分　冊）

２００９年３月

青森県教育委員会

青森県埋蔵文化財調査報告書　第475集

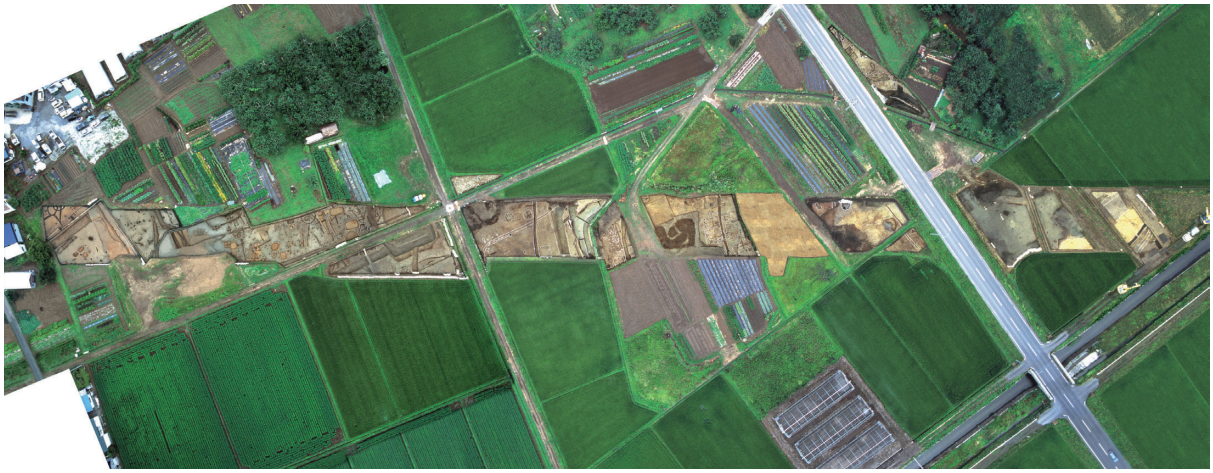
前　川　遺　跡

－県道弘前田舎館黒石線道路改良事業に伴う遺跡発掘調査報告－

（第　一　分　冊）

２００９年３月

青森県教育委員会



洪水層上面で検出された遺構

調査区上空から岩木山を望む（東から）

真上から望むＢⅣ層水田区画

ＢⅣ層水田15・16・17 畦畔検出状況（北西から）

ＢⅣ層水田（平安時代）東側水田面検出（西から）

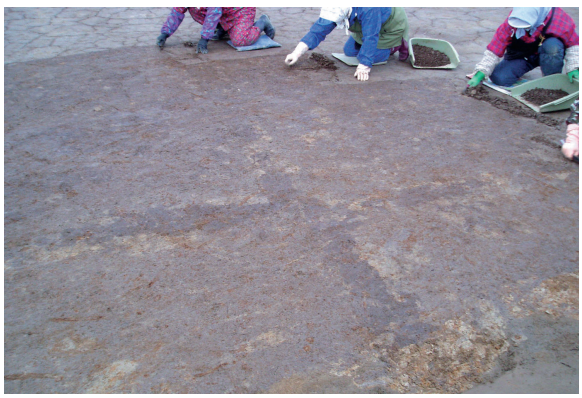
ＢⅣ層水田６他に残る足跡（北から）

ＢⅣ層水田19　足跡完掘（東から）

ＢⅣ層水田17　稲が倒れた痕跡と足跡（東から）

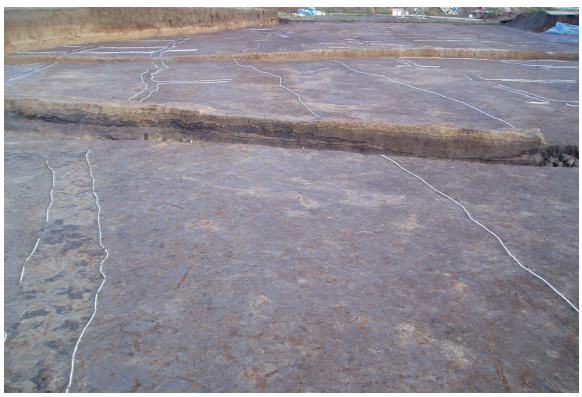
ＢⅣ層水田12他　降雨時の状況（西から）

C1 Ⅶ層水田（弥生時代中期）の全景



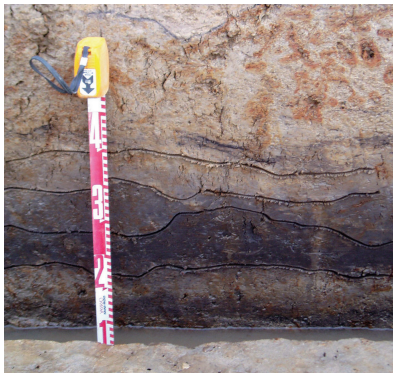
C1 Ⅶ層水田 畦畔の検出作業

C1 Ⅶ層水田 区画の大きさ



C1 Ⅶ層水田 第１号水路跡の土層断面

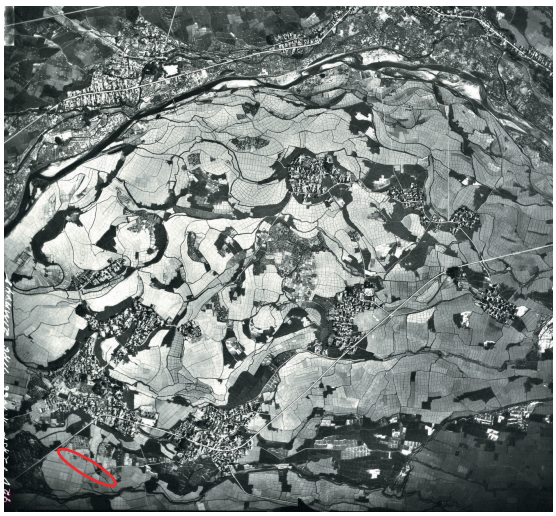
C1 Ⅶ層水田 耕作土上面の検出作業



C1Ⅶ層水田 畦畔の断面

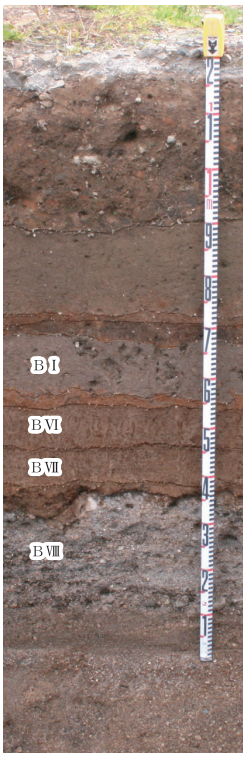
C1Ⅶ層水田 耕作土上面にみられる足跡状の痕跡

昭和50年頃撮影

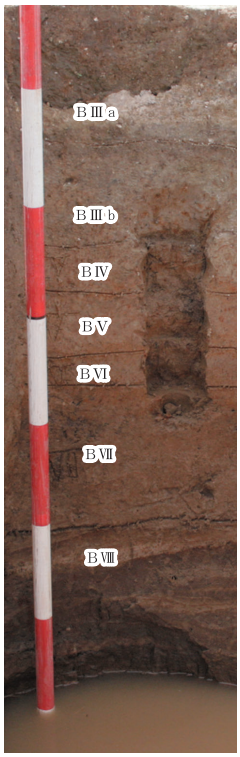


昭和20～23年頃撮影

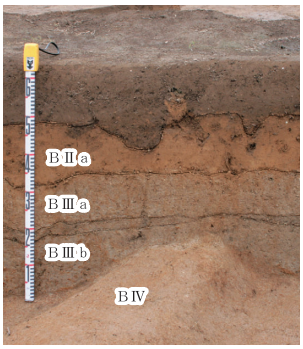
前川遺跡周辺の地形



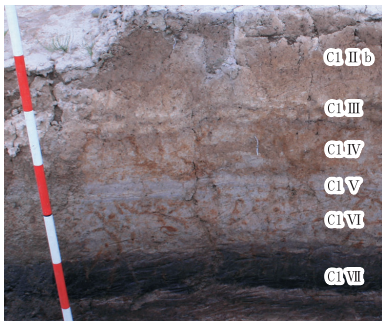
A区（A-1）



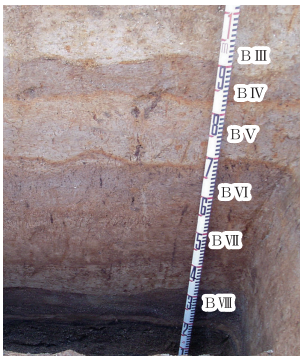
B区（B-1）



A区（A-2）



C1区（C1－1）



B区（B-2）

C1区（C1－1）

D区（D－1）

前川遺跡の基本土層

序

青森県埋蔵文化財調査センターでは、県道弘前田舎館黒石線道路改良事業の実施に先立って、平成18・19年度に田舎館村前川遺跡の発掘調査を行いました。

調査の結果、本県では初例となる平安時代の水田跡を始めとして、同時代の竪穴住居跡や中世の遺構・遺物などが多数検出されました。また、弥生時代の水田跡も検出されています。

弥生時代の水田跡で良く知られた高樋(３)遺跡や垂柳遺跡の西方に位置する本遺跡から、同時期の水田跡が見つかったことも注目されます。当時の生産域の拡がりや居住域を考える上でも貴重な資料を得ることができました。

本報告書は、これらの調査成果をまとめたものです。埋蔵文化財の調査資料として、この地域の教育を始め、埋蔵文化財の調査・研究、文化財の活用等に役立ていただければ幸いです。

最後に、発掘調査の実施から報告書の刊行にいたるまで、種々御指導・御協力くださった関係各位に対して、厚くお礼を申しあげる次第です。

平成21年３月

青森県埋蔵文化財調査センター

所　長　**伊藤　博文**

例　　言

1　本報告書は、県道弘前田舎館黒石線道路改良事業に伴い平成18・19年度に青森県埋蔵文化財調査センターが実施した前川遺跡の発掘調査報告書である。

2　前川遺跡は、青森県南津軽郡田舎館村大字田舎舘字前川地内に所在し、遺跡番号32003として青森県遺跡台帳に登録されている。

3　本報告書は、青森県埋蔵文化財調査センターが編集し、青森県教育委員会が作成した。執筆は青森県埋蔵文化財調査センター笹森文化財保護主幹、工藤文化財保護主査、斉藤文化財保護主事が担当し、執筆者名を文末に記した。依頼原稿については、執筆者名を文頭に記した。

4　発掘調査及び整理作業・報告書作成の経費は、調査を委託した青森県県土整備部道路課が負担した。

5　試料の分析、鑑定・同定等については、次の方々に依頼した(順不同、敬称略)。

石器の石質鑑定	青森県立八戸南高等学校教諭	佐々木辰雄
放射性炭素年代測定	株式会社　加速器分析研究所	
出土火山灰の分析	国立大学法人　弘前大学理工学部教授	柴　　正敏
花粉・珪藻・プラントオパール分析	株式会社　古環境研究所	
土壌分析	国立大学法人　弘前大学農学生命科学部教授	佐々木長市
稲のＤＮＡ分析	国立大学法人　弘前大学農学生命科学部准教授	石川　隆二
	総合地球環境学研究所	田中　克則
	国立大学法人　宮崎大学農学部付属農業博物館准教授	宇田津徹朗
須恵器・中世陶器の蛍光Ｘ線分析	大阪大谷女子大学　非常勤講師	三辻　利一
かわらけの胎土分析	東海大学　准教授	松本　建速
出土した人骨の鑑定	国際医療福祉大学　リハビリテーション学部准教授	奈良　貴史
水田跡に残された足跡の分析	国際医療福祉大学　リハビリテーション学部准教授	奈良　貴史
植物遺体の同定	札幌国際大学博物館　客員研究員	椿坂　恭代
木製品の樹種同定	株式会社　古代の森研究舎	
金属製品の成分分析	株式会社　吉田生物研究所	

6　出土遺物の写真撮影は、シルバーフォト、スタジオエイトに委託した。

7　本書に掲載した地形図（遺跡の位置・周辺の主な遺跡）は、国土地理院発行の５万分の１地形図「黒石」を複写して使用した。

8　挿図の縮尺は、各図ごとにスケールを付してある。写真の縮尺は、統一していない。

9　遺構・遺物の文・図中での表現は、原則として次の基準によった。

（1）主な検出遺構については次の略号を使用し、発見順に番号を付した。

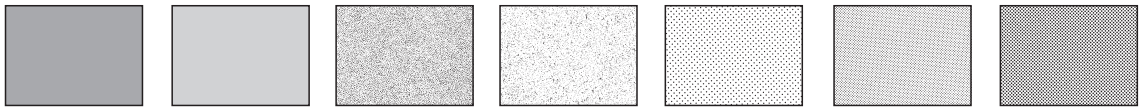
ＳＩ＝竪穴住居跡・竪穴遺構、ＳＢ＝掘立柱建物跡、ＳＫ＝土坑、ＳＥ＝井戸跡、ＳＤ＝溝跡、ＨＲ＝濠跡、ＥＮ＝円形周溝、ＯＺ＝大畦・道路跡、ＳＸ＝性格不明遺構等

（2）遺構内外堆積土の注記には、「新版標準土色帖」(小山、竹原；2001)を用いた。

（3）層位名は基本層位を「Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ…」などのローマ数字、遺構内堆積土層位を「１・２・３…」などの算用数字で表記している。また、基準土層が帰属する調査区名を「Ｂ・C1・Ｄ…」などでアルファベット大文字を冠し、細分層についてはその後にアルファベットの小文字を付けている（第２章第２節)。

（4）遺物には観察表・計測値を付した。計測値の単位は土器類はcm、石器類はmm、重量はgである。

（5）遺構・遺物実測図で使用したスクリーントーンの表示は次のとおりである。



遺構・焼土　遺構･炭化物　遺物・煤　遺物・粘土 羽口被熱部　遺物・火襷 羽口還元部　遺物･内面黒色　遺物･ウルシ

10　引用・参考文献については本文末に収めた。

11　出土陶磁器の分類および名称は、下記の文献に拠った。

藤澤　良祐　1995「瀬戸古窯址群Ⅲ－古瀬戸前期様式の編年－」『研究紀要　第３輯』(財）瀬戸市埋蔵文化財センター

横田賢次郎・森田　勉　1978「太宰府出土の輸入陶磁器について」『九州歴史資料館研究論集４』九州歴史資料館

吉岡　康暢　1982『中世須恵器の研究』吉川弘文館

上田　秀夫　1982「14～16世紀の青磁碗の分類について」『貿易陶磁研究第２号』

森田　　勉　1982「14～16世紀の白磁の形式分類と編年について」『貿易陶磁研究第２号』

12　発掘調査及び報告書作成における出土品・実測図・写真等は、現在、青森県埋蔵文化財調査センタ ーで保管している。

13　発掘調査及び本報告書作成にあたって、下記の諸氏・機関から御協力・御助言を得た（順不同、敬称略)。記して感謝の意を表します。

新井 隆一、石沢　聡、市田 俊一、伊藤 博幸、岩井 浩介、岩井 浩人、袁　家榮、遠藤 正夫、川口　潤、北林 八洲晴、工藤　司、斎藤　岳、齋藤　正、斎野 裕彦、榊原 滋高、鈴木　隆、鈴木　徹、鈴木 靖民、相馬 信吉、高橋　潤、高橋 直崇、多ヶ谷 香理、田口 雄一、武田 嘉彦、中村　大、成田 誠治、羽柴 直人、福田 友之、藤沼 邦彦、松田 隆二、松本 秀明、光谷 拓実、村上 伸二、山口 義伸、阿賀野市教育委員会、田舎館村役場、田舎館村教育委員会

目　　次

巻頭カラー
　序
例　言
目　次

第１章　調査の概要
　第１節　調査に至るまでの経過 …… 1
　第２節　調査要項 …… 1
　第３節　調査方法 …… 3
　第４節　調査の経過 …… 5

第２章　遺跡の環境と基本層序
　第１節　周辺の遺跡及び遺跡の概要 …… 7
　第２節　前川遺跡の基本層序 …… 10

第３章　Ａ区の検出遺構と出土遺物
　第１節　Ａ区の概要 …… 16
　第２節　竪穴遺構 …… 16
　第３節　掘立柱建物跡・ピット …… 17
　第４節　土坑 …… 18
　第５節　溝跡 …… 30
　第６節　濠跡 …… 41
　第７節　円形周溝 …… 45
　第８節　道路跡 …… 48

第４章　Ｂ区の検出遺構と出土遺物
　第１節　Ｂ区の概要 …… 50
　第２節　竪穴住居跡・竪穴遺構 …… 50
　第３節　掘立柱建物跡・ピット …… 66
　第４節　土坑 …… 74
　第５節　井戸跡 …… 95
　第６節　溝跡 …… 98
　第７節　濠跡 …… 133
　第８節　円形周溝 …… 140
　第９節　性格不明遺構 …… 141
　第10節　遺構外出土遺物 …… 142

第５章　Ｃ区の検出遺構と出土遺物
第１節　Ｃ区の概要 …… 144
第２節　竪穴住居跡・竪穴遺構 …… 144
第３節　掘立柱建物跡・ピット …… 154
第４節　土坑 …… 156
第５節　井戸跡 …… 170
第６節　溝跡 …… 171
第７節　道路跡 …… 185
第８節　遺構外出土遺物 …… 188

第６章　C1区の検出遺構と出土遺物
第１節　C1区の概要 …… 190
第２節　竪穴住居跡・竪穴遺構 …… 190
第３節　掘立柱建物跡・ピット …… 242
第４節　土坑 …… 244
第５節　井戸跡 …… 269
第６節　溝跡 …… 273
第７節　焼土遺構 …… 280
第８節　性格不明遺構 …… 281
第９節　遺構外出土遺物 …… 282

第７章　Ｄ区の検出遺構と出土遺物
第１節　Ｄ区の概要 …… 288
第２節　竪穴住居跡・竪穴遺構 …… 288
第３節　掘立柱建物跡・ピット …… 305
第４節　土坑 …… 306
第５節　井戸跡 …… 311
第６節　溝跡 …… 315
第７節　濠跡 …… 326
第８節　性格不明遺構 …… 338
第９節　沼跡・河川跡 …… 340
第10節　遺構外出土遺物 …… 344

第８章　水田遺構
第１節　Ⅰ層水田跡 …… 355
第２節　ＢⅣ・ＢⅤ層水田跡 …… 361
第３節　C1Ⅶ層水田跡 …… 387

第９章　理化学的分析（第二分冊）
第１節　放射性炭素年代測定結果（１）…… 1
第２節　放射性炭素年代測定結果（２）…… 7
第３節　放射性炭素年代測定結果（３）…… 14
第４節　田舎館村前川遺跡に産出する火山ガラスについて …… 19
第５節　浅瀬石川流域の河成段丘および前川遺跡周辺の地形 …… 25
第６節　津軽平野、浅瀬石川扇状地に立地する前川遺跡周辺の地形・地質 …… 30
第７節　前川遺跡にみられる河川堆積物の特徴 …… 35
第８節　前川遺跡Ｂ区におけるプラントオパール・花粉・珪藻分析 …… 40
第９節　前川遺跡ＢⅣ層水田第１号水路跡覆土のプラントオパール・花粉・珪藻分析…… 50
第10節　前川遺跡ＢⅣ層水田で確認された株跡状痕跡のプラント・オパール分析 …… 58
第11節　前川遺跡C1区におけるプラントオパール・花粉分析 …… 63
第12節　前川遺跡C1Ⅶ層水田におけるプラント・オパール分析 …… 70
第13節　前川遺跡C1Ⅶ層水田第１号水路跡におけるプラントオパール・花粉・珪藻分析 …. 79
第14節　前川遺跡Ｉ層・ＢⅣ層・C1Ⅶ層水田跡のプラント・オパール分析 …… 89
第15節　前川遺跡から出土する植物炭化物におけるＤＮＡならびにプラント・オパール解析 … 97
第16節　前川遺跡水田の根成孔隙から見た水田特性 …… 101
第17節　田舎館村前川遺跡出土の炭化植物種子 …… 107
第18節　前川遺跡出土木材の樹種 …… 116
第19節　田舎館村前川遺跡出土の人骨と足跡の人類学的報告 …… 125
第20節　前川遺跡出土須恵器と中世陶器の蛍光Ｘ線分析 …… 134
第21節　前川遺跡出土かわらけの胎土分析 …… 138
第22節　前川遺跡出土刀装具の成分分析調査 …… 144
第23節　前川遺跡出土金属製品の成分分析調査 …… 147
第24節　前川遺跡から出土した動物遺存体 …… 150

第10章　考察・まとめ（第二分冊）
第１節　弥生時代中期の土地利用 …… 154
第２節　10世紀前半の水田遺構 …… 155
第３節　平安時代の居住域について …… 160
第４節　中世の様相 …… 169
第５節　前川遺跡検出の掘立柱建物跡 …… 174
第６節　近世・近代の土地利用 …… 177

ピット・遺物観察表（第二分冊）…… 178
引用・参考文献（第二分冊）…… 228
写真図版（第二分冊）…… 229

報告書抄録 …… 397

挿　図　目　次

図１　前川遺跡調査区域図 …… ４
図２　遺跡の位置と周辺の遺跡 …… ８
図３　基本土層柱状図 …… 15
図４　Ａ区竪穴遺構 …… 16
図５　Ａ区掘立柱建物跡 …… 17
図６　Ａ区土坑（１）…… 19
図７　Ａ区土坑（２）…… 23
図８　Ａ区土坑（３）…… 26
図９　Ａ区土坑（４）・土坑出土遺物 …… 29
図10　Ａ区溝跡（１）…… 32
図11　Ａ区溝跡（２）…… 34
図12　Ａ区溝跡（３）…… 35
図13　Ａ区溝跡（４）…… 37
図14　Ａ区溝跡（５）…… 40
図15　Ａ区溝跡（６）・濠跡（１）…… 43
図16　Ａ区濠跡（２）…… 44
図17　Ａ区円形周溝（１）…… 46
図18　Ａ区円形周溝（２）…… 47
図19　Ａ区道路跡 …… 49
図20　Ｂ区竪穴遺構（１）…… 52
図21　Ｂ区竪穴住居跡（１）…… 54
図22　Ｂ区竪穴遺構（２）…… 56
図23　Ｂ区竪穴遺構（３）…… 59
図24　Ｂ区竪穴遺構（４）・土坑（１）…… 60
図25　Ｂ区竪穴遺構（５）…… 63
図26　Ｂ区竪穴遺構出土遺物（１）・竪穴住居跡出土遺物（１）…… 64
図27　Ｂ区竪穴遺構出土遺物（２）・竪穴住居跡出土遺物（２）…… 65
図28　Ｂ区掘立柱建物跡（１）…… 67
図29　Ｂ区掘立柱建物跡（２）…… 70
図30　Ｂ区ピット出土遺物 …… 73
図31　Ｂ区土坑（２）…… 75
図32　Ｂ区土坑（３）…… 77
図33　Ｂ区土坑（４）…… 80
図34　Ｂ区土坑（５）…… 83
図35　Ｂ区土坑（６）…… 86
図36　Ｂ区土坑（７）…… 90
図37　Ｂ区土坑（８）・土坑出土遺物 …… 94
図38　Ｂ区井戸跡 …… 96
図39　Ｂ区溝跡（１）…… 99
図40　Ｂ区溝跡（２）…… 101
図41　Ｂ区溝跡（３）…… 102
図42　Ｂ区溝跡（４）…… 104
図43　Ｂ区溝跡（５）…… 106
図44　Ｂ区溝跡（６）…… 108
図45　Ｂ区溝跡（７）…… 110
図46　Ｂ区溝跡（８）…… 112
図47　Ｂ区溝跡（９）…… 114
図48　Ｂ区溝跡(10) …… 116
図49　Ｂ区溝跡(11) …… 118
図50　Ｂ区溝跡(12) …… 120
図51　Ｂ区溝跡(13) …… 122
図52　Ｂ区溝跡(14) …… 125
図53　Ｂ区溝跡(15) …… 128
図54　Ｂ区溝跡(16) …… 131
図55　Ｂ区溝跡出土遺物 …… 132
図56　Ｂ区濠跡（１）・溝跡(17) …… 135
図57　Ｂ区濠跡（２）…… 137
図58　Ｂ区濠跡出土遺物 …… 139
図59　Ｂ区円形周溝 …… 140
図60　Ｂ区性格不明遺構 …… 141
図61　Ｂ区遺構外出土遺物 …… 143
図62　Ｃ区竪穴住居跡（１）…… 145
図63　Ｃ区竪穴住居跡（２）…… 147
図64　Ｃ区竪穴遺構・土坑（１）…… 149
図65　Ｃ区竪穴住居跡（３）…… 150
図66　Ｃ区竪穴住居跡出土遺物（１）…… 151
図67　Ｃ区竪穴住居跡出土遺物（２）…… 152
図68　Ｃ区竪穴住居跡出土遺物（３）…… 153
図69　Ｃ区掘立柱建物跡 …… 155
図70　Ｃ区土坑（２）…… 158
図71　Ｃ区土坑（３）・土坑出土遺物 …… 160
図72　Ｃ区土坑（４）…… 163
図73　Ｃ区土坑（５）…… 165
図74　Ｃ区土坑（６）…… 169
図75　Ｃ区井戸跡 …… 170
図76　Ｃ区井戸跡出土遺物 …… 171
図77　Ｃ区溝跡（１）…… 173
図78　Ｃ区溝跡（２）…… 174
図79　Ｃ区溝跡（３）…… 176
図80　Ｃ区溝跡（４）…… 180
図81　Ｃ区溝跡（５）…… 179
図82　Ｃ区溝跡（６）…… 183

図83　Ｃ区溝跡出土遺物 …… 184
図84　Ｃ区道路跡 …… 186
図85　Ｃ区道路跡出土遺物 …… 187
図86　Ｃ区遺構外出土遺物 …… 189
図87　C1区竪穴住居跡（１）…… 191
図88　C1区竪穴住居跡（２）…… 193
図89　C1区竪穴住居跡（３）・
竪穴遺構（１）…… 196
図90　C1区竪穴住居跡（４）・
竪穴遺構（２）…… 198
図91　C1区竪穴住居跡（５）・
竪穴遺構（３）…… 200
図92　C1区竪穴住居跡（６）…… 201
図93　C1区竪穴住居跡（７）…… 203
図94　C1区竪穴住居跡（８）…… 204
図95　C1区竪穴住居跡（９）・
竪穴遺構（４）…… 208
図96　C1区竪穴住居跡(10) …… 209
図97　C1区竪穴住居跡(11)・
竪穴遺構（５）…… 212
図98　C1区竪穴住居跡(12) …… 214
図99　C1区竪穴遺構（６）…… 215
図100　C1区竪穴遺構（７）…… 217
図101　C1区竪穴住居跡(13) …… 219
図102　C1区竪穴住居跡(14) …… 221
図103　C1区竪穴住居跡(15)・
竪穴遺構（８）・焼土遺構 …… 223
図104　C1区竪穴住居跡(16) …… 225
図105　C1区竪穴住居跡(17) …… 226
図106　C1区竪穴住居跡(18)・
竪穴遺構（９）…… 228
図107　C1区竪穴住居跡出土遺物（１）・
竪穴遺構出土遺物（１）…… 229
図108　C1区竪穴遺構出土遺物（２）…… 230
図109　C1区竪穴住居跡出土
遺物（２）…… 231
図110　C1区竪穴住居跡出土遺物（３）・
竪穴遺構出土遺物（３）…… 232
図111　C1区竪穴住居跡出土
遺物（４）…… 233
図112　C1区竪穴住居跡出土
遺物（５）…… 234
図113　C1区竪穴住居跡出土
遺物（６）…… 235
図114　C1区竪穴住居跡出土遺物（７）・
竪穴遺構出土遺物（４）…… 236
図115　C1区竪穴住居跡出土遺物（８）・
竪穴遺構出土遺物（５）…… 237
図116　C1区竪穴住居跡出土
遺物（９）…… 238
図117　C1区竪穴住居跡出土
遺物(10) …… 239
図118　C1区竪穴住居跡出土
遺物(11) …… 240
図119　C1区竪穴住居跡出土遺物(12)・
竪穴遺構出土遺物（６）…… 241
図120　C1区掘立柱建物跡・
ピット出土遺物 …… 243
図121　C1区土坑（１）…… 247
図122　C1区土坑（２）…… 250
図123　C1区土坑（３）…… 254
図124　C1区土坑（４）…… 257
図125　C1区土坑（５）…… 261
図126　C1区土坑（６）…… 266
図127　C1区土坑出土遺物（１）…… 267
図128　C1区土坑出土遺物（２）…… 268
図129　C1区井戸跡 …… 270
図130　C1区井戸跡出土遺物 …… 272
図131　C1区溝跡（１）…… 275
図132　C1区溝跡（２）…… 277
図133　C1区溝跡出土遺物（１）…… 279
図134　C1区溝跡出土遺物（２）…… 280
図135　C1区性格不明遺構 …… 281
図136　C1区遺構外出土遺物（１）…… 284
図137　C1区遺構外出土遺物（２）…… 285
図138　C1区遺構外出土遺物（３）…… 286
図139　C1区遺構外出土遺物（４）…… 287
図140　Ｄ区竪穴住居跡（１）…… 289
図141　Ｄ区竪穴住居跡（２）…… 291
図142　Ｄ区竪穴住居跡（３）…… 292
図143　Ｄ区竪穴住居跡（４）…… 293
図144　Ｄ区竪穴遺構（１）…… 295
図145　Ｄ区竪穴住居跡（５）・
竪穴遺構（２）…… 298

図146　Ｄ区竪穴住居跡出土遺物（１）…… 299
図147　Ｄ区竪穴住居跡出土遺物（２）…… 300
図148　Ｄ区竪穴住居跡出土遺物（３）…… 301
図149　Ｄ区竪穴住居跡出土遺物（４）…… 302
図150　Ｄ区竪穴住居跡出土遺物（５）…… 303
図151　Ｄ区竪穴住居跡出土遺物（６）・
　　竪穴遺構出土遺物（５）…… 304
図152　Ｄ区掘立柱建物跡・
　　ピット出土遺物 …… 305
図153　Ｄ区土坑（１）…… 308
図154　Ｄ区土坑（２）…… 310
図155　Ｄ区井戸跡・出土遺物（１）…… 312
図156　Ｄ区井戸跡出土遺物（２）…… 313
図157　Ｄ区井戸跡出土遺物（３）…… 314
図158　Ｄ区溝跡（１）・出土遺物（１）…… 316
図159　Ｄ区溝跡（２）…… 317
図160　Ｄ区溝跡（３）・土坑（３）…… 320
図161　Ｄ区溝跡（４）…… 321
図162　Ｄ区溝跡（５）…… 323
図163　Ｄ区溝跡出土遺物（２）…… 324
図164　Ｄ区溝跡（６）・出土遺物（３）…… 325
図165　Ｄ区濠跡（１）…… 327
図166　Ｄ区濠跡（２）…… 328
図167　Ｄ区濠跡（３）…… 331
図168　Ｄ区濠跡出土遺物（１）…… 332
図169　Ｄ区濠跡出土遺物（２）…… 333
図170　Ｄ区濠跡出土遺物（３）…… 334
図171　Ｄ区濠跡出土遺物（４）…… 335
図172　Ｄ区濠跡出土遺物（５）…… 336
図173　Ｄ区濠跡出土遺物（６）…… 337
図174　Ｄ区性格不明遺構・出土遺物 …… 339
図175　Ｄ区沼跡 …… 341
図176　Ｄ区河川跡 …… 342
図177　Ｄ区河川跡出土遺物 …… 343
図178　Ｄ区遺構外出土遺物（１）…… 347
図179　Ｄ区遺構外出土遺物（２）…… 348
図180　Ｄ区遺構外出土遺物（３）…… 349
図181　Ｄ区遺構外出土遺物（４）…… 350
図182　Ｄ区遺構外出土遺物（５）…… 351
図183　Ｄ区遺構外出土遺物（６）…… 352
図184　Ｄ区遺構外出土遺物（７）…… 353
図185　Ｄ区遺構外出土遺物（８）…… 354
図186　Ⅰ層水田跡（１）…… 358
図187　Ⅰ層水田跡（２）…… 359
図188　Ⅰ層水田第２号水路跡 …… 360
図189　ＢⅣ層水田跡・水路跡・足跡 …… 369
図190　ＢⅣ層水田跡Ａ区ロング
　　セクション …… 371
図191　ＢⅣ層水田跡Ｂ区ロング
　　セクション …… 372
図192　ＢⅣ層水田跡Ｃ区ロング
　　セクション …… 373
図193　ＢⅣ層水田跡・水口施設 …… 374
図194　ＢⅣ層水田水口施設（１）…… 375
図195　ＢⅣ層水田水口施設（２）…… 376
図196　ＢⅣ層水田水口施設（３）…… 377
図197　ＢⅣ層水田跡の稲株痕と足跡 … 378
図198　ＢⅣ層水田第１号水路跡・
　　畦畔 …… 379
図199　ＢⅣ層水田第２号水路跡・
　　大畦・畦畔 …… 380
図200　ＢⅣ・Ⅴ層水田跡出土遺物 …… 381
図201　ＢⅤ層水田跡 …… 382
図202　C1Ⅶ層水田跡 …… 389
図203　C1Ⅶ層水田跡出土遺物分布図 …… 391
図204　C1Ⅶ層水田跡における
　　プラント・オパール推
　　定生産量の平面分布 …… 392
図205　C1Ⅶ層水田跡標高値
　　ヒストグラム …… 393
図206　C1Ⅶ層水田跡出土遺物 …… 395
図207　前川遺跡調査区断面模式図 …… 158
図208　BⅣ層水田跡の高低・区画の
　　形態・耕作土の色調 …… 159
図209　C1－１群遺構内出土遺物 …… 161
図210　C1－２群遺構内出土遺物 …… 162
図211　D－１群遺構内出土遺物、
　　前川遺跡の土師器坏 …… 163
図212　前川遺跡で検出された
　　竪穴住居跡・竪穴遺構 …… 165

第１章　調査の概要

第１節　調査に至るまでの経過

前川遺跡は、周知の遺跡として青森県遺跡台帳に青森県遺跡番号32003として昭和60年１月に登録され、平成２年度には国道102号バイパスへの取り付け道路建設工事に、平成９年度には個人住宅の建築に関連して発掘調査が行われている。田舎館村内の県道弘前田舎館黒石線道路改良事業予定地内には、前川遺跡の他に樋口(２)遺跡が所在する。平成16年９月に当該遺跡にて弘前県土整備事務所・田舎館村教育委員会・県文化財保護課の三者で現地踏査・協議が行われている。その結果、前川遺跡に関しては遺跡登録範囲外に遺跡が拡がっている可能性があることから、平成17年度中に範囲・内容確認のための試掘調査を行うこととし、同年10月17日から10月28日にかけて同地域の試掘調査を実施した。その結果、1950年代に行われた圃場整備によって水田が造られている低地部分からも遺構が検出され、遺跡の範囲が拡大することとなり、県道改良路線内の殆どが調査対象区域となった。

樋口(２)遺跡は、昭和61年１月に青森県遺跡番号32019として登録されている。樋口(２)遺跡に関しては用地買収の状況をみて平成18年度以降に試掘調査を行うこととしている。前川遺跡に関しては事業者側の要望もあって、平成18年度中に発掘調査を終了させることとなっていたが、遺構検出面のさらに下の層から平安時代の水田遺構が検出されたこともあり、平成19年度も調査を引き続き行うこととなった。

なお、前川遺跡に関しては、平成17年12月21日付け弘県整第927号によって弘前県土整備事務所から、周知の埋蔵文化財包蔵地に対する土木工事のための発掘に関する通知があり、これを受けて同18年２月７日付け青教文第1209号によって青森県教育委員会教育長から当該発掘前における埋蔵文化財の記録の作成のための発掘調査の実施の指示がなされている。　（笹森）

第２節　調査要項

１　調査目的

県道弘前田舎館黒石線道路改良事業の実施に先立ち、当該地区に所在する前川遺跡の発掘調査を行い、その記録を保存して、地域社会の文化財の活用に資する。

２　発掘調査期間　　平成18年４月24日から同年11月22日まで
　　平成19年４月24日から同年11月22日まで

３　遺跡名及び所在地　　前川遺跡（青森県遺跡番号３２００３）
　　青森県南津軽郡田舎館村大字田舎舘字前川地内

４　調査面積　　８，６００㎡

５　調査委託者　　青森県県土整備部道路課

６　調査受託者　　青森県教育委員会

７　調査担当機関　　青森県埋蔵文化財調査センター

８　調査体制

（平成18年度）

調査指導員　村越　潔　国立大学法人　弘前大学名誉教授（考古学）
調　査　員　葛西　勵　元青森短期大学教授（考古学）
同　山田　昌久　公立大学法人　首都大学東京都市教養学部助教授（考古学）
同　島口　天　青森県立郷土館学芸主査（地質学）
調査担当者　青森県埋蔵文化財調査センター
所　長　白鳥　隆昭（現　青森県立郷土館館長）
次　長　三浦　圭介（平成19年３月退職）
総務ＧＬ　櫻庭　孝雄
調査第二ＧＬ　工藤　大
調査第一ＧＳＬ　畠山　昇
文化財保護主幹　笹森　一朗
文化財保護主査　工藤　忍
調査補助員　齋藤　明（平成19年３月退職）
〃　佐藤　綾子（平成19年３月退職）
〃　杉浦　規栄
〃　渡辺　祐輝

（平成19年度）
調査指導員　村越　潔　国立大学法人　弘前大学名誉教授（考古学）
調　査　員　工藤　雅樹　元東北歴史博物館館長（考古学）
同　三浦　圭介　元青森県埋蔵文化財調査センター次長（考古学）
同　鎌田耕太郎　国立大学法人　弘前大学教育学部教授（地質学）
同　島口　天　青森県立郷土館学芸主査（地質学）
調　査　員　鈴木　三男　国立大学法人　東北大学植物園園長（植物学）
同　佐々木長市　国立大学法人　弘前大学農学生命科学部教授（土壌学）
同　小野　映介　国立大学法人　新潟大学教育人間科学部准教授（地理学）
同　坂本　清　青森県農林総合研究センター　環境保全部長（土壌学）
同　金谷　浩　青森県フラワーセンター21あおもり　研究調整監（土壌学）
調査担当者　青森県埋蔵文化財調査センター
所　長　末永　五郎（平成20年３月退職）
次　長　三宅　徹也（平成20年３月退職）
総務ＧＬ　櫻庭　孝雄
文化財保護主幹　笹森　一朗
文化財保護主事　斉藤　慶吏
調査補助員　杉浦　規栄（平成20年３月退職）
〃　渡辺　祐輝
〃　須藤　貴子
〃　森山　裕行

第３節　調査方法

調査は、グリッド法を基本とした分層発掘を行った。

グリッドの起点は、公共座標値Ｘ＝69.968、Ｙ＝－24.484とし、１グリッド４ｍ四方として、ローマ数字と算用数字の組み合わせで設定した。具体的には、南方向にアルファベット大文字とローマ数字の組み合わせ（アルファベットはＡ～Ｙまでの25文字でＺは使用せず)を、東方向に算用数字（１・２・３…）を付して使用している。グリッドの呼称は北西隅の交点の値を用いた。なお、公共座標値は県道建設工事に合わせて世界測地系の平面直角座標系第Ｘ系を用いている。

測量原点は、基準点・水準測量委託によって設置された座標点に附せられた標高からレベル移動を行い、調査区域内に適宜設置した。

調査区は広範囲に亘るため便宜的に地区分けをした。調査区域内に存在する農道や地形によって区画し、西から東に向かってＡ区、Ｂ区、Ｃ区、Ｄ区と区分けした。尚、Ｃ区に関しては西側から東側に向かって低地部分をＣ区、微高地部分をC1区、東側に続く低地部分をC2区と便宜的に呼称していたが、C2区に関しては整理作業時にＤ区に組み込み、本報告でもＤ区として報告している。

土層の掘削は、調査区においては先行して任意に試掘溝を設定し、遺物や遺構が認められた範囲を拡張して調査を行った。盛り土は、調査担当者立ち会いのもと重機を用いて掘削し、それより下位は人力で掘削している。平成18年度の調査では基本層序の第ＢⅡ層及び第ＢⅢａ層を遺構検出面として、平成19年度の調査では基本層序第BⅣ～Ⅵ層、またC1区では第C1Ⅶ層を最終遺構確認面として調査を行った。遺構は、堆積状況を把握するために、規模や必要に応じて適宜二分法・四分法を用い、土層観察用のベルトを残しながら行った。

遺物の取り上げは、簡易遣り方測量とトータルステーションによる測量で行った。

調査区範囲や遺構の実測は、トータルステーションによる三次元測量データを用いたアイシン精機株式会社（現 株式会社CUBIC）の遺構実測支援システム「遺構くん」により図化している。また、一部の遺構については簡易遣り方測量により作成した。

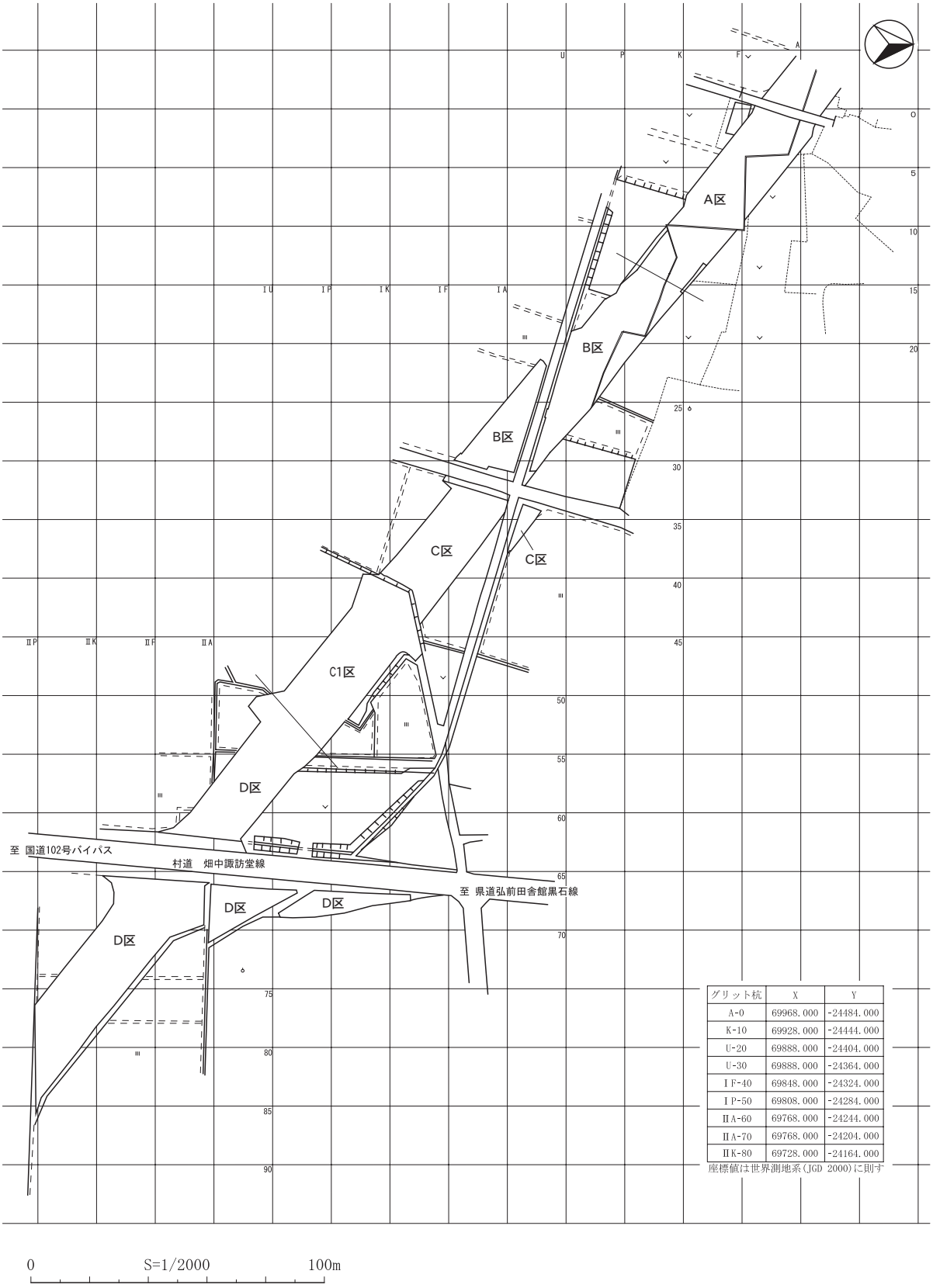
図面の縮尺は20分の１を基本とし、カマドなどは必要に応じて10分の１でも作成している。

遺構の呼称は、調査時に青森県埋蔵文化財調査センターで使用する略号を使用し、検出順に１・２・３…と呼称したが一部に欠番がある。また、遺構の種類（水田跡等）によっては略号を使用していないものも存在する。

層名は、遺構の堆積土には算用数字を付け、確認できた最終堆積土を１層として下位に順に２・３・４…と表記した。また、基本層序は基準土層の帰属する調査区名を冠し、ローマ数字で表記した(第２章第２節)。表土をⅠ層として下位へ順次Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ…と、細分に際してはアルファベット小文字（ａ・ｂ・ｃ…）を付した。土層観察には『土色帳』を用い、土色とマンセル記号を併記し、混入物などの特徴を記録した。

遺物の取り上げについては、遺構及びグリッドごとに層単位で取り上げた。なお、遺物や出土状況に応じて写真撮影や図面作成を行い、出土地点や出土状況を記録した。

写真撮影は、遺構の検出状況・土層断面・遺物出土状況・完掘状況等を中心に、調査の状況により適宜撮影した。その他必要に応じて、遺構外出土遺物や調査状況についても記録した。カメラは35㎜



グリット杭	X	Y
A-0	69968.000	-24484.000
K-10	69928.000	-24444.000
U-20	69888.000	-24404.000
U-30	69888.000	-24364.000
IF-40	69848.000	-24324.000
IP-50	69808.000	-24284.000
IIA-60	69768.000	-24244.000
IIA-70	69768.000	-24204.000
IIK-80	69728.000	-24164.000

座標値は世界測地系(JGD 2000)に則す

図 1　前川遺跡調査区域図

１眼レフカメラ（キャノンＥｏｓ７）でモノクローム・リバーサルフィルムを使用して撮影したほか、デジタルカメラ（キャノンＥｏｓＫｉｓｓ）も使用した。また、ラジコンヘリコプターによる空中撮影及び一部では写真測量による遺構・コンタ図作成も行った。（笹森）

第４節　調査の経過

平成18年度

平成18年４月24日、調査器材を搬入すると共に、前川遺跡の調査を開始する。

前川遺跡は調査区が細長いため、西側からＡ区、Ｂ区、Ｃ区、Ｄ区と呼称した。また、Ｃ区に関しては、便宜的に西側低地部分をＣ区、微高地部分をC1区、その東側の低地部分をC2区と呼称して調査を行った。

４月25日、調査区の両脇では水田が造られているため、掘り下げは比較的水の影響を受けにくいＢ区から開始した。

４月下旬、遺物は表土(耕作土)からも認められた。表土下部には現水田の不透水層が見られ、それを除去すると遺構が確認され始めた。

５月上旬、重機を使用してＡ・Ｂ区の盛り土除去を行う。並行して遺構確認・精査を行った。

５月12日、基本層序第ＢⅠ及び第ＢⅡ層を除去後に遺構が検出し始める。確認された遺構から順次精査を始める。

５月30日、Ｂ区では多数のピットと共に、竪穴遺構が検出されている。遺物は珠洲焼きの陶器や青磁・白磁といった磁器が出土しており、中世の遺構であることが判明した。

６月８日、引き続き遺構精査を続けた。溝跡と認識した遺構の中に畝状のものが混じっていることを確認した。後日、水田の畦畔であることが判明することになる。

６月26日、Ａ～Ｃ区にかけて、満遍なく遺構が検出し始めた。溝跡・濠跡では湧水のため精査が遅れ気味となった。

７月上旬、Ｂ・Ｃ区の溝や濠跡の壁面に畦畔状の高まりを数箇所で検出した。濠跡では相変わらず湧水が続いていた。

７月下旬、引き続き遺構検出・精査を行った。

８月上旬、天候にも恵まれ、調査は順調に進んだ。

８月中旬、引き続き遺構精査を行った。

８月27日、地域住民を対象とした遺跡見学会を開催した。見学者は150人を数えた。

９月上旬、天候が不順となり、調査は遅れ気味となった。

９月12日、遺構検出面の更に下層に、古代の水田跡が広範囲（Ａ～Ｃ区）に広がっていることが確認され、次年度も調査が必要であることを原因者・県文化財保護課と共に確認した。調整は原因者と文化財保護課によって行われることとなった。

９月26日、C1・Ｄ区での遺構密度が濃いことから、今年度の調査期間を11月22日まで延長することとした。引き続き遺構精査を行った。

10上旬、遺構精査を継続した。

10中旬、C1・D区の遺構精査を継続した。

11月14日、時雨の天候が続いており、雨や降雪の中での精査が続いた。

11月22日、年度中に予定していた全ての遺構の精査を終了。調査器材を積み込み調査の全日程を終了した。

平成19年度

平成19年４月24日、調査器材を搬入すると共に、前川遺跡の調査を開始する。

上面で検出される遺構は基本層序第ＢⅢ層を掘り込んで構築されており、今年度の調査はその第ＢⅢ層を除去することから始まる。検出される主な遺構は水田跡で、畦畔の上面で遺構確認をしなければいけないため、重機の使用は限定される。掘り下げは基本的に人力で行うこととした。

４月下旬、これまでのところ、第ＢⅢ層中からの遺物はほとんど見られなかった。第ＢⅢ層は２層に区分され、上層を第ＢⅢａ層、下層を第ＢⅢｂ層と呼称することとした。

５月上旬、畦畔によって区画された水田跡を検出し始める。

５月中旬、水田遺構の精査を開始する。

６月５日、原因者、文化財保護課を交えての現地協議を行う。来年度以降の予定等を確認した。

６月上旬、引き続き水田遺構の精査を行った。耕作土中には無数の足跡が残されていた。

６月12日、BⅣ層古代水田跡のプラントオパールのサンプリングを行う。

６月下旬、引き続き遺構精査を行った。

７月２日、鈴木三男調査員の現地指導。Ａ～C1区の遺構確認・遺構精査を行った。

７月18日、村越潔調査指導員の現地指導。Ｂ区の水田遺構の写真撮影を行う。

７月下旬、遺構精査を続ける。

８月上旬、古代水田遺構の精査を引き続き行った。

８月中旬、天候にも恵まれ調査は順調に進んだ。

８月下旬、周辺の水田では水を落とし始めており、調査区内での湧水は少なくなった。

９月上旬、引き続き、古代水田遺構の精査を行った。

９月中旬、天候が不順となり、精査は遅れ気味となった。

９月21日、古代水田跡検出状況の空中写真撮影を行う。天候にも恵まれ無事に終了した。

９月22日、地域住民を対象とした遺跡見学会を開催した。約100名の方々が参加した。

９月下旬、弥生時代のC1Ⅶ層水田遺構確認面の上面遺構の密度が濃いことから、今年度の調査期間を11月22日まで延長することとした。

10月中旬、C1区の上面遺構の精査を継続した。天候にも恵まれ調査は順調に進んだ。

10月25日、古代水田跡に残る足跡の剥ぎ取りを行った。天候にも恵まれ無事終了した。

11月上旬、重機を使用してC1区の掘削を行い、C1Ⅶ層弥生水田遺構の検出に勤めた。

11月13日、週末の豪雨で、調査区は冠水していた。排水作業をしながらC1区の弥生水田遺構の精査を継続した。

11月19日、寒波が襲来し、降雪中での精査となった。

11月22日、全ての遺構の精査を終了。調査器材を積み込み調査の全日程を終了した。　　（笹森）

第２章　遺跡の環境と基本層序

第１節　周辺の遺跡及び遺跡の概要

田舎館村は津軽平野の南部に位置し、東は黒石市、西は弘前市、南は平川市(旧尾上町)、北は藤崎町と接している。村全体はその源を十和田湖の外輪山に発し津軽平野の南部を西流する浅瀬石川によって形成された扇状地地形に位置し、集落の大半はその中に形成された微高地上に立地している。

田舎館村内では前川遺跡を含め現在までに24の遺跡が確認・登録されている。それらの遺跡の分布には特徴が見られ、周辺市町の遺跡を含め立地する地形によって大きく３分類することができる。①浅瀬石川左岸の微高地及び近接する沖積地上に立地する遺跡、②浅瀬石川と引座川の中間に位置する微高地上に立地する遺跡、③引座川に近接する微高地上に立地する遺跡である。前川遺跡を始めとする田舎館村内の遺跡のほとんどは①浅瀬石川左岸の微高地及び近接する沖積地上に立地している特徴を持ち、②には八幡崎(２)、五輪野、原、李平下安原遺跡等、平川市(旧尾上町)の遺跡が、③には旧大光寺城遺跡、五日市館遺跡等、平川市(旧平賀町)の遺跡が該当する。

前川遺跡は、中世段階にこの地にあったとされる安養寺跡と天徳寺跡の２つの寺院跡を総称して付された遺跡名で、東西に位置する微高地部分の東側に安養寺、西側に天徳寺が建立されていたとされる。両寺院に関連する文献は非常に少なく、安養寺は天文11年（1542)、天徳寺は天文年間（1532～1555）に同地に建立されたとされている。安養寺は歴代の田舎館城主である千徳氏が代々葬られた菩提寺とされていた。安養寺と天徳寺は千徳氏滅亡後に廃寺となったとされている。

前川遺跡は周辺での遺物の採集結果等をふまえ昭和60年１月に遺跡登録がなされ、以後、発掘調査は今回を含め４回行われている。平成２年度には国道102号バイパスの開通後、旧国道からの取り付け道路建設工事に先立ち調査が実施されている。また、平成９年度には個人住宅の建設に先立ち調査が実施されている。この２回の調査区はいずれも安養寺跡と称される東側の微高地部分にあたり、平成２年度の調査区域では中世期に関連する明確な遺構・遺物はごくわずかで、ほとんどが平安時代に相当するものであった。平成９年度の調査区域でも明確に中世期と考えられる遺構は検出されず、遺物もわずかに陶磁器片が出土したのみであった。平成17年度には県道弘前田舎館黒石線道路改良事業の前に正確な遺跡範囲を確定するための試掘調査が行われ今回の調査に至っている。

前川遺跡の今回の調査区域は、平成２年度の調査区域に接する安養寺跡と考えられている部分と、天徳寺跡と考えられている部分が含まれている。今回の調査では、両寺院跡と考えられていた微高地以外の地点から中世の遺構・遺物が多数見つかり、それらの検出面である洪水層を挟んだ下層からは古代の水田遺構が見つかっている。天徳寺跡と称される微高地部分からは古代の集落跡が見つかり、その下層からは弥生時代の水田遺構が見つかっている。本遺跡の東側には国道102号バイパスの建設工事に先立って昭和57・58年度に発掘調査が行われ、弥生時代の水田跡が発見され一躍脚光を浴びた垂柳遺跡、平成７年度に行われた発掘調査で弥生時代の水田跡や基幹水路が発見された高樋(３)遺跡が所在する。本遺跡は垂柳遺跡の西端の調査区であるⅧ区から西へ約1.2㎞程の場所に位置している。このことは、弥生時代の水田域が当初考えられていた以上に広範囲に拡がっていたことを意味し、垂柳遺跡Ⅷ区と本遺跡との間にも同時代の水田が造られていた可能性が高いことを示唆している。

（笹森）

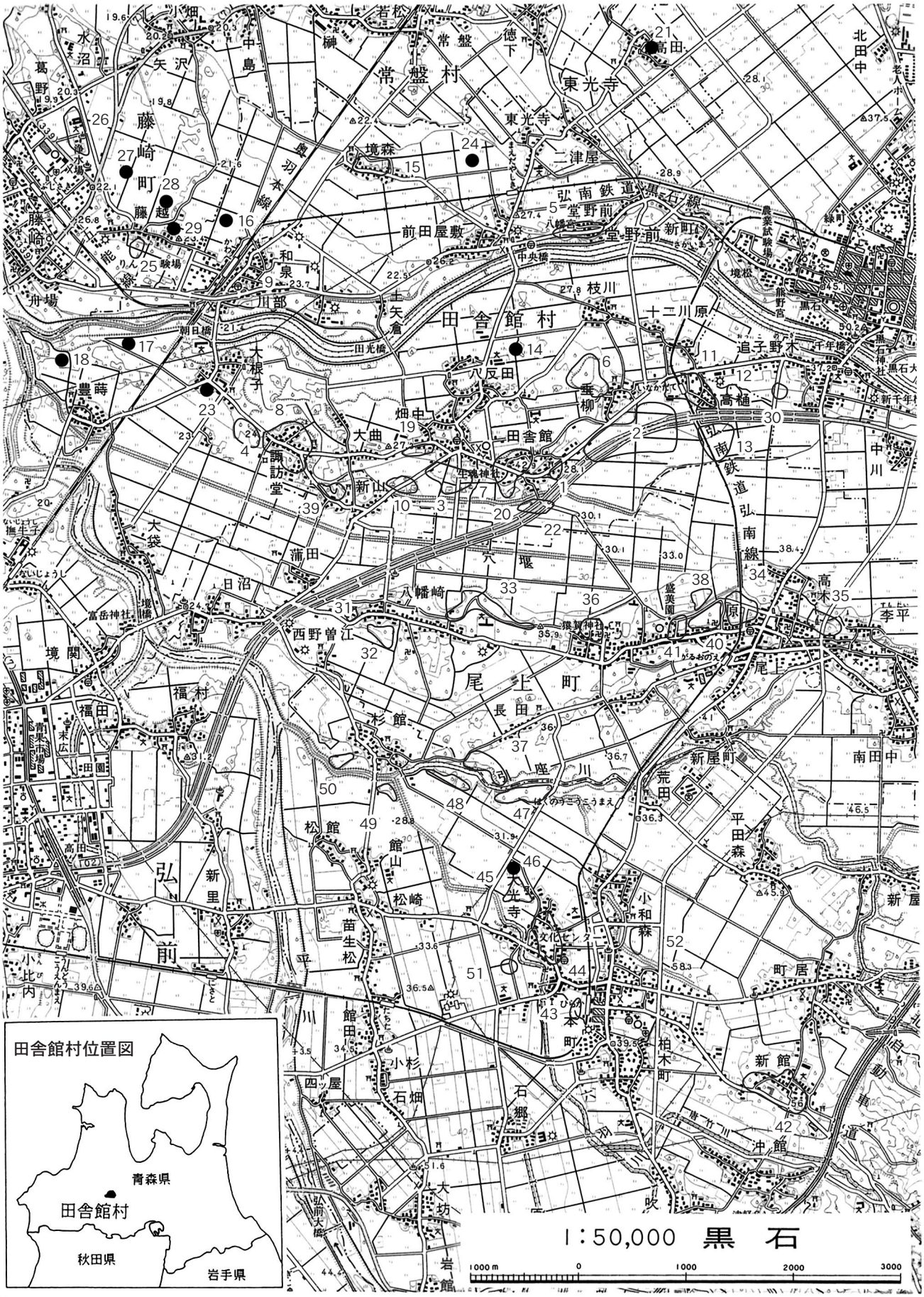


図２　遺跡の位置と周辺の遺跡

遺跡名一覧

番号	遺跡名	遺跡番号	市町村名	時代	関連文献等
1	田舎館遺跡	32001	田舎館村	縄文・弥生	
2	垂柳遺跡	32002	田舎館村	縄文・弥生	村第５集他、県第88･219集
3	前川遺跡	32003	田舎館村	弥生・平安・中世・近世以降	村第７･13集、今回報告遺跡
4	諏訪堂遺跡	32004	田舎館村	縄文・平安	
5	堂野前館	32005	田舎館村	中世	
6	垂柳館	32006	田舎館村	中世	
7	田舎館城遺跡	32007	田舎館村	中世	
8	諏訪堂館	32008	田舎館村	中世	
9	和泉館	32009	田舎館村	中世	
10	樋口（１）遺跡	32010	田舎館村	奈良・平安	
11	高樋（１）遺跡	32011	田舎館村	縄文(後)・弥生・奈良・平安	
12	高樋（２）遺跡	32012	田舎館村	奈良・平安	
13	高樋（３）遺跡	32013	田舎館村	弥生・平安	村第11集
14	観妙寺遺跡	32014	田舎館村	縄文・奈良・平安・中世	
15	境森遺跡	32015	田舎館村	弥生	
16	中西田遺跡	32016	田舎館村	奈良・平安	
17	大根子遺跡	32017	田舎館村	奈良・平安	
18	牡丹森遺跡	32018	田舎館村	中世・近世	
19	樋口（２）遺跡	32019	田舎館村	奈良・平安	
20	稲田遺跡	32021	田舎館村	奈良・平安	
21	藤巻遺跡	32022	田舎館村	奈良・平安	
22	松橋遺跡	32023	田舎館村	平安・近世	
23	松森遺跡	32024	田舎館村	縄文	
24	北佃遺跡	32025	田舎館村	弥生	
25	藤越遺跡	26001	藤崎町	縄文(晩)・平安	
26	高倉遺跡	26002	藤崎町	縄文(前・中・後・晩)	
27	中豊田遺跡	26004	藤崎町	平安	
28	杉山遺跡	26005	藤崎町	平安	
29	東亀田遺跡	26006	藤崎町	縄文(晩)	
30	浅田遺跡	04081	黒石市	平安	
31	八幡崎（１）遺跡	28001	平川市	縄文(後・晩)・平安	町第１集
32	八幡崎（２）遺跡	28002	平川市	平安	
33	五輪野遺跡	28004	平川市	縄文・弥生・奈良・平安	町第４・５集、県第219集
34	原遺跡	28005	平川市	縄文(中・後)・弥生(前)・奈良・平安	町第８集、市第３集
35	李平下安原遺跡	28008	平川市	縄文(後)・奈良・平安	町第12集、県第111集
36	猿賀館遺跡	28012	平川市	中世	
37	沼田遺跡	28014	平川市	縄文(後)・奈良・平安・中世	
38	浅田遺跡	28015	平川市	縄文・弥生・奈良・平安	町第９集
39	岡部遺跡	28016	平川市	縄文・弥生・奈良・平安	
40	猿賀浅井（１）遺跡	28017	平川市	縄文	町第10･11･12集
41	猿賀浅井（２）遺跡	28018	平川市	縄文	町第12集
42	新館城遺跡	30083	平川市	平安・近世	町第32･33集
43	堂の前遺跡	30101	平川市	弥生	
44	大光寺新城跡遺跡	30104	平川市	平安・中世	町第19･22～24･26･27･29集、市第１集
45	旧大光寺城（１）遺跡	30108	平川市	縄文・弥生・平安・中世	
46	旧大光寺城（２）遺跡	30109	平川市	縄文(後)・弥生・平安・中世	
47	五日市館遺跡	30110	平川市	弥生・平安	
48	杉館（１）遺跡	30113	平川市	弥生・平安	
49	杉館（２）遺跡	30114	平川市	弥生	
50	杉館（３）遺跡	30115	平川市	弥生	
51	駒泊遺跡	30171	平川市	縄文(前･中・後･晩)・弥生(前)・奈良・平安	町第15集
52	大光寺（４）遺跡	30173	平川市	縄文(晩)・弥生・中世	

＊31～41の平川市は平成18年１月１日に合併した旧尾上町、42～52の平川市は同じく合併した旧平賀町である

第２節　前川遺跡の基本層序

前川遺跡の調査区は対象範囲を東西方向にブロック割りしたものであり、その呼称は西から東にかけてＡ・Ｂ・Ｃ・C1・Ｄのアルファベットで表現している（図１）。遺跡内の基本層序は、標高約27ｍの微高地をなすC1区と、標高約26ｍで調査以前は水田であったＡ・Ｂ・Ｃ区およびＤ区とで、大きく異なっており、調査区全域にわたる統一的な基本土層を設定することはできなかった。構成する個々の土層の性格、各土層の平面的な広がりについては、初年度の時点では十分に把握することができず、平成19年度の調査終了後に、炭素年代測定値、テフラ等の分析データを加味し、形成年代の確定を行った。Ａ・Ｂ・Ｃ区とC1区の境界には地滑り状の不整合面（写真１）がみられたが、遺構、遺物、層位からは前者が新しく、後者の地形面が古いと判断された。こうした現場で得られた相対的な年代所見に対して、C1区の基本土層中に含まれる炭化物の測定年代結果（第９章第２節）は調和的であり、新旧関係についての裏付けを得ることができた。また、Ｄ区の層序については、C1区と比較的類似した様相がみられるものの、現有道路や上部に存在する水田耕作土、河道状の攪乱層によって遮られ、土層を連続的に対比、観察することができず、層位的なつながりを追うことができなかった。以上の点をふまえ、Ｂ区、C1区、Ｄ区の中で基盤に至るまで土層の堆積観察が良好に行い得た３地点（図３★印）を前川遺跡における基本土層観察地点とし、観察された土層の特徴から、それぞれの層序の平面的な広がりを整理した。これら基本土層はそれぞれが帰属する区名とローマ数字を冠して表記することとし、層番号の重複に伴う混乱を避けるように配慮した。本報告書における、基本土層の相対的関係、これらが対応する調査区は図３・図207に示す通りである。以下、各基本土層の記載を行う。尚、本節に関連して、調査員各位による火山灰、周辺地形、地質に関する観察所見を第９章に掲載しているので参照されたい（第９章第４・５・６・７節）。

（１）Ａ・Ｂ・Ｃ区の基本土層（基準土層Ａ－２：Ａ区Ｂ－５グリッド、Ｂ－２：Ｂ区Ⅴ－27グリッド）

第ＢⅠ層（Ａ・Ｂ・Ｃ区）

標高25.9～26.3m。層厚12㎝程度。暗褐色土（10YR4/3）を主体とする。戦後の大規模圃場整備実施以前に造営された水田跡（Ｂ区Ⅰ層水田跡）の耕作土層ないしは、これ以降の時期に帰属する畑耕作土である。Ｂ区Ⅰ層水田跡に相当する区域では、水田耕作土の上部と下部、畦畔とで色調、硬度が異なり、下記の層に細別される（図186）。

第ＢⅠａ層：褐色土（10YR4/4）とにぶい黄橙褐色土（10YR7/3）主体。土壌化が進んでおり、やや赤みを帯びる。硬度は密（25～26）で、炭化物（φ５～８㎜）と白色軽石を微量含む。

第ＢⅠｂ層：灰黄褐色土（10YR4/2）主体。硬度は中～密（24～25）で、マンガンを含む。炭化物（φ１～５㎜）と白色軽石（φ３～５㎜）を微量含む。少量の土師器・須恵器とともに近世末～近代頃の陶磁器片が出土する。

第ＢⅠｃ層：暗黄褐色土（2.5Y4/2）主体。Ｂ区Ⅰ層水田跡の不透水層に相当する。硬度は密～極密（25～29）で、白色軽石（φ１～３㎜）を微量含む。粘性弱、しまり強。

第ＢⅠｄ層：にぶい黄褐色土（10YR4/3）と灰褐色土（10YR4/1）主体。Ｂ区Ⅰ層水田跡の畦畔積み上げ土に相当する。粘性弱、しまり強で、耕作土よりも暗色、硬緻である。

第ＢⅡａ層（Ａ・Ｂ区）

標高25.9～26.2m、層厚約18㎝。火山灰質のにぶい黄褐色土（10YR5/4）を主体とする。十和田八戸テフラの二次堆積物であり、水性堆積の様相を呈する。Ａ・Ｂ区の北西部に一部が残存するのみであり、本来はA・B・C区内全域にあったものが、現代の水田によって失われたものとみられる。

第ＢⅡｂ層（Ａ・Ｂ・Ｃ区）

標高約26m、層厚約５㎝。にぶい黄褐色砂質土（10YR4/5）主体。下層の第ＢⅢ層を母材とし、わずかに土壌化が進んだとみられる層。Ｂ区およびＣ区では、平安時代～中世の遺構内堆積土の最上層で確認される土層と特徴が一致し、Ｂ・Ｃ区中央に位置する現有水路隣接部では、本層の下部において赤褐色の酸化鉄斑が顕著に確認される。規模は小さく、面的な広がりも限られており、基本土層観察地点においては断面に現れていない。

第ＢⅢ層（Ａ・Ｂ・Ｃ区）

標高25.6～26.0m、層厚24～36㎝程度。軽石の多寡によって上層（第ＢⅢa層）と下層（第ＢⅢb層）の二層に細分される。両層ともラミナが介在することから、水性堆積によるものと考えられる。上層と下層の間には若干の時間的間隙が想定され、このことは第ＢⅢa層と第ＢⅢb層の層理面で横倒しになったイネの痕跡がみられたこととも調和する。本層は10世紀前葉に噴出した十和田aテフラ（To-a）の二次堆積物（第９章第４節）であり、遺跡内には洪水等の水流によってもたらされたことが土層断面から伺うことができる（第９章第７節）。起源を異にするのガラスがほとんど含まれていないことから、降下年代から時を置かず、遺跡内にもたらされたと考えられる。

第ＢⅢａ層：にぶい黄褐色砂質土（10YR5/3）を主体とする。層厚10～20㎝、硬度は中（24～27）で、糸状、管状のマンガンを含む。下層と比べて白色軽石の割合が高い。炭化物や黒色土の混入はみられない。粘性弱、しまり強。

第ＢⅢｂ層：灰黄褐色砂質土（10YR5/2）を主体とする。層厚10～22㎝、硬度は中（24～26）で、垂直方向に管状の酸化鉄沈積物がみられる。マンガンは上層に比べると少ない。第ＢⅢa層との層理面では軽石が薄層をなし、粗砂粒が入り組む。粘性弱、しまり強。

第ＢⅣ層（Ａ・Ｂ・Ｃ区）

標高25.2～25.7m。にぶい黄褐色土（10YR4/3）を主体とする。層厚７～16㎝、Ａ・Ｂ・Ｃ区にわたり広く分布する。平安時代の水田跡（ＢⅣ層水田跡）の耕作土層である。硬度は中（21～22）で、糸状のマンガンに富む。伸長方向は水平である。第ＢⅤ層との層理面には幅２㎝程度の斑鉄の集積帯がみられる。層界は明瞭であるが、凹凸がある。粘性強、しまり強。

第ＢⅤ層（Ａ・Ｂ・Ｃ区）

標高25.1～25.6m、層厚12～16㎝。にぶい黄褐色土（10YR4/3）と褐色土（10YR4/4）の混合土を主体とする。Ｂ区Ｐ－19グリッド付近で明瞭に識別される。土壌化が進んでおり、イネのプラント・オパールも多く、水田耕作土となる可能性がある。土師器片（図200－24）が出土している。

第ＢⅥ層（Ａ・Ｂ・Ｃ区）

標高25.0～25.4m、層厚8～15㎝。にぶい黄褐色土（10YR5/3）主体。Ｂ区Ｐ－19、Ｖ－27グリッド付近では明瞭に識別される。上層と比べてやや砂質であるが、暗色で、下部に橙色の酸化鉄集積帯がみられる。イネのプラント・オパールは比較的少なく、酸化鉄の集積帯も不連続である。粘性中、

しまり強。遺物は含まれない。

第ＢⅦ層（Ａ・Ｂ・Ｃ区）

標高24.8～25.3m、層厚22～24㎝。Ｂ区Ｐ－19、Ｖ－27グリッド付近で明瞭に識別される。水性堆積による細砂層でラミナ状の構造が顕著にみられる。Ｂ区Ｐ－19グリッド付近では褐色土の割合で上下２層に分けることができる。上層（第ＢⅦa層）はにぶい黄褐色土（10YR5/3）を主体とし、炭化物を微量含む。粘性強、しまり強。下層（第ＢⅦb層）はにぶい黄褐色土（10YR5/4）を主体とし、褐色土（10YR4/6）をブロック状に含む。遺物は含まれない。

第ＢⅧ層（Ａ・Ｂ・Ｃ区）

標高25m以下、黒褐色砂礫層（10YR3/1）を主体とする。基本的には粗砂層で、水性堆積の特徴が顕著に見られる。Ａ区西側では、これに小礫が混ざるが、Ｂ区、Ｃ区と東方向に向かうにつれて、粒度が小さくなる。Ｂ区Ｖ－27グリッド付近では、黄褐色土（10YR5/6）の薄い火山灰層がみられるが、十和田八戸テフラの二次堆積物と分析されている（第９章第４節）。遺物は含まれない。Ｐ－19付近では、本層の下部で湧水が生じた。

（２）C1区の基本土層（基準土層C1－１：C1区ＩＭ－45グリッド、C1－２：C1区ＩＯ－44グリッド）

第C1Ⅰ層（C1区）

標高26.5～27.1m、層厚16～36㎝。にぶい黄褐色土（10YR4/3）主体。微高地最上層にあたり、現代の畑耕作土層である。

第C1Ⅱ層（C1区）

標高26.6～26.9m、層厚は約35㎝。褐色土（10YR4/4）を主体とする火山灰質のシルトで、やや暗色の上部の層を第C1Ⅱa層、上層と比べてやや赤みを帯び、褐鉄粒子を含む粘質土層を第C1Ⅱb層とした。第C1Ⅱb層の下部には再堆積時に僅かに混入したとみられる白頭山苫小牧テフラ（B-Tm）が検出されている（第９章第４節）。C1区では、本層を切る平安時代の竪穴住居跡が複数検出されている。

第C1Ⅲ層（C1区）

標高26.4～26.6m、層厚４～18㎝。黄褐色土（10YR5/6）を主体とする火山灰質のシルト層で明色である。無遺物層で、遺構は検出されていない。粉状の炭化物が比較的多く含まれている。

第C1Ⅳ層（C1区）

標高26.2～26.4m、層厚18～22㎝。白色粘土層で、赤褐色の酸化鉄斑がみられる。無遺物層で、遺構は検出されていない。

第C1Ⅴ層（C1区）

標高26.1～26.3m、層厚８～12㎝。白色粘土を主体とする。火山灰状の粘質土層がラミナをなして堆積しており、水性堆積の様相を呈する。本層を水平に削剥していくと、下層にある第C1Ⅵ層を筋状に浸食する流路跡を確認することができる。本層の下部には炭化物が比較的多く含まれており、その測定年代値は2060±30yrBP（IAAA-71826）である。また、直上の第C1Ⅳ層下部に食い込む状態で埋没樹がみられ、その測定年代値は1880±30yrBP（IAAA-71825）であった（第９章第２節）。

第C1Ⅵ層（C1区）

標高25.9～26.1m、層厚20～24㎝。黄褐色粘質土を主体とする。炭化物に由来するとみられる黒色

土の薄層が層の下部にあり、これを第C1Ⅵb層、上層を第C1Ⅵa層とした。下部の硬度は中（20～21）であり、含まれている炭化物は繊維質で、灰状を呈する。

第C1Ⅶ層（C1区）

標高25.6～25.9m。灰黄褐色～黒褐色粘質土を主体とする。弥生時代中期に造営された水田跡（C1Ⅶ層水田跡）の耕作土層およびこれを被覆する直上の堆積土層である。層の厚さはC1区の西側で厚くなり、ＩＭ－45グリッド付近は、色調の違いから７枚に細分される（第C1Ⅶa～g層）。

最上層の第C1Ⅶa層には、火山灰質シルトがブロック状に含まれており第C1Ⅶb層上面にみられた足跡状の凹凸面に堆積している。これらは、十和田八戸テフラの二次堆積物と鑑定されており、垂柳遺跡第Ⅴ層に併行するものとみられる。層厚は約30㎝で、本層を削剥する過程で第C1Ⅶb・Ⅶc層が帯状に現れる。

尚、本層の上面で第C1Ⅴ・Ⅵ層をブロック状に含んだ風倒木痕が複数箇所確認されているが、土層断面観察の結果、第C1Ⅱ～Ⅲ層から生じているものが多く、立木が存在した年代もこれに準ずるものと考えられる。

第C1Ⅶa層：灰黄褐色粘質土（10YR4/2）を主体とする。炭化物、マンガン極小粒を微量含み、斑鉄が雲状にみられる。硬度は中（21）であり、上層との層界は明瞭・平坦である。

第C1Ⅶb層：灰褐色粘質土（10YR4/1）を主体とする。上層の第C1Ⅶa層よりも暗色であるが、下層の第C1Ⅶc層より明るい。第C1Ⅶa層との層界は明瞭であり、そのラインはC1区内でも多様性に富む。褐鉄が雲状ないし管状にみられ、糸根状の空隙が観察される。上層との層界は画然・波状をなし、C1Ⅶ層水田跡の耕作土とみられる。

第C1Ⅶc層：黒褐色粘質土（10YR3/1）を主体とする。上層の第C1Ⅶb層よりも暗色で硬緻である。褐鉄粒は筋状にみられ、斑鉄は雲状を呈する。上層との層界は漸移・波状である。本層に含まれる炭化物の測定年代は2210±30yrBP（IAAA-71827）である（第９章第２節）。

第C1Ⅶd層：黒褐色粘土（10YR3/1）を主体とする。にぶい黄橙色土粒20%、炭化物小粒～極小粒７％が斑状に混入する。マンガンを含み、点状の酸化鉄粒がみられる。硬度は中（20～21）で上層との層界は明瞭・波状である。

第C1Ⅶe層：黒褐色粘土（10YR3/2）を主体とする。褐鉄が管状に混入し、雲状の斑鉄がみられる。

第C1Ⅶf層：灰黄褐色粘土（10YR4/2）を主体とする。褐鉄が管状に混入し、斑鉄は雲状を呈する。にぶい黄橙色土粒７％が斑状に混入する。

第C1Ⅶg層：灰黄褐色粘土（10YR5/2）を主体とする。点状の褐鉄がみられ、にぶい黄色橙色土粒を３％含み、炭化物極小～小粒が７％混入する。

第C1Ⅷ層（C1・Ｄ区の一部）

標高25.5～25.6m。層厚約10㎝。にぶい黄橙色粘土（10YR6/3）を主体とする。点状の褐鉄が１％みられる。マンガン小粒が３％混入する。本層の直上で得られた炭化物の炭素年代測定値は3000±30yrBP（IAAA-71828）である。

第C1Ⅸ層（C1・Ｄ区の一部）

標高25.4～25.5m、層厚４～９㎝、灰黄褐色粘土（10YR4/2）を主体とする。明黄褐色土粒を７％含み、帯状に集積した褐鉄がみられる。

第C1Ⅹ層（C1・D区の一部）

標高約25.4m。層厚約２㎝。にぶい黄橙色粘土（10YR7/2）を主体とする。炭化物極小粒を３％含み、糸状の褐鉄が５％みられる。

第C1Ⅺ層（C1・D区の一部）

標高25.3～25.4m。黒色粘質土（10YR2/1）を主体とする。西側では層厚約８㎝程度で、安定した厚さをみせるが、東側では薄く、断面ではわずかに褶曲した線として確認できるのみである。ＩＭ－45付近では、本層の下部で湧水が生じた。

第C1Ⅻ層（C1・D区の一部）

標高25.1～25.3m、層厚約30㎝。上部はにぶい黄橙色粘土（10YR6/3）であり、下部はわずかに砂を含んだ褐色粘土（10YR4/4）である。点状・雲状の褐鉄が15％含まれる。

第C1ⅩⅢ層（C1・D区の一部）

標高24.9～25.1m、層厚約15㎝。にぶい黄橙色粘土（10YR5/3）を主体とする。点状・雲状・管状の褐鉄がみられる。

第C1ⅩⅣ層（C1・D区の一部・D区の一部）

標高24.7～24.9m、層厚約20㎝。にぶい黄褐色砂（10YR5/4）を主体とする。雲状の褐鉄と管状の空隙があり、水性堆積の特徴がみられる。

第C1ⅩⅤ層（C1・D区の一部）

標高24.7m以下、灰黄褐色粘質土（10YR6/2）を主体とする。黒色粘土（10YR2/1）小粒１％、糸状の褐鉄１％が観察される。

（3）D区の基本土層（基準土層D－１：D区ⅡH・I－65グリッド）

第ＤⅠ層（D区）

標高25.5～25.8m、層厚約30㎝。近年までの水田耕作土層で、下記の４層に細分される。

第ＤⅠａ層：黒褐色土（10YR3/2）を主体とする。軽石（φ1～10㎜）を極微量含み、褐鉄が微量混入する。土壌化が進んだ水田耕作土層。しまり強、粘性弱。

第ＤⅠｂ層：暗褐色土（10YR3/3）を主体とする。軽石（φ1～5㎜）、炭化物粒（φ1～10㎜）を極微量含む。鉄分が水平にみられ、水田不透水層と考えられる。しまり強、粘性弱。

第ＤⅠｃ層：にぶい黄褐色土（10YR4/3）を主体とする。層の上部と下部で鉄分が層状に中量混入。しまりやや強、粘性中。本層の上面において近世以降と考えられる遺構が検出されている。

第ＤⅠｄ層：灰黄褐色粘質土（10YR4/2）を主体とする。白色粘土が層の下部で少量層状に混入する。軽石（φ1～20㎜）微量、斑鉄が少量みられる。しまり中、粘性強。層下部の様相はC1区における第C1Ⅵ～Ⅶ層に類似しており、第ＤⅡ層が流水による撹乱を受けたものとみられる。

第ＤⅡ層（D区）

標高25.2～25.6m、層厚約40㎝。土質・色調から下記の３層に細分される。

第ＤⅡａ層：黒褐色粘質土（10YR2/2）を主体とする。白色粘土がブロック状に少量混入し、炭化物（φ1～15㎜）極微量、酸化鉄粒微量混入。しまり中、粘性強。弥生時代中期の遺物が出土する。

第ＤⅡb 層：黒色粘質土（10YR2/1）を主体とする。白色粘土がブロック状に混入。炭化物（φ1～15㎜）、炭化植物遺体を含む。しまり中、粘性なし。土質、色調は第C1Ⅶ層に類似する。弥生時代中期の遺物が出土する。

第ＤⅡc 層：オリーブ黒色粘質土（10YR3/1）を主体とする。軽石（φ1～5㎜）微量、焼土極微量、炭化物（φ1～10㎜）極微量含む。グライ化が顕著である。

第ＤⅢ層（Ｄ区）

標高25.1～25.2m、層厚約10㎝。オリーブ黒色土（5Y3/1）を主体とする。軽石（φ1～5㎜）を極微量含む。しまり中、粘性強、グライ化が顕著である。

第ＤⅣ層（Ｄ区）

標高25.0～25.1m、層厚4～12㎝。黒色土（5Y2/1）を主体とする。しまり弱、粘性中。砂層と泥層が互層をなしており、グライ化が顕著である。

第ＤⅤ層（Ｄ区）

標高24.8～25.1m、層厚約20㎝。オリーブ黒色土（5Y3/1）を主体とする。炭化材を少量、軽石（φ1～5㎜）を極微量含む。しまり強、粘性なし。砂と礫が互層をなす。本層の下部には砂礫層があり、層理面付近で湧水が生じた。　（斉藤）

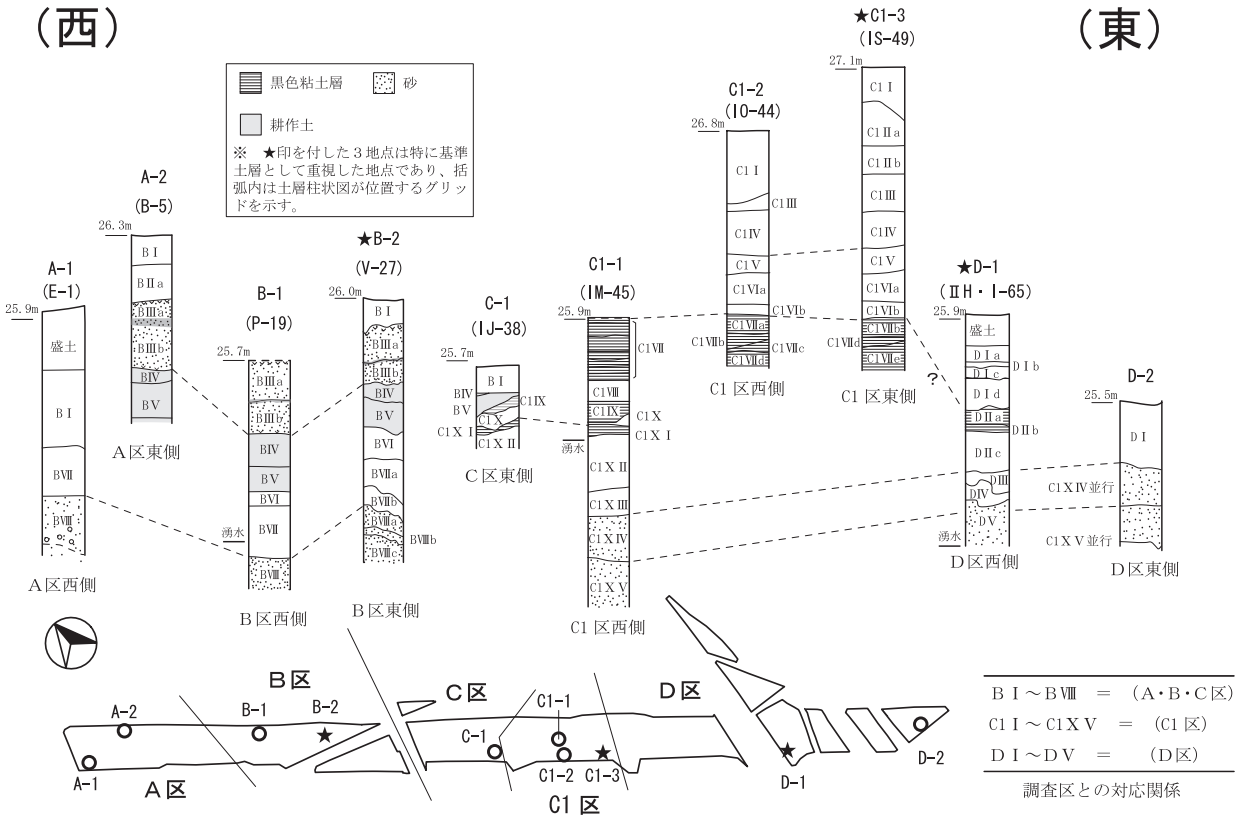


図３　基本土層柱状図

第３章　Ａ区の検出遺構と出土遺物

第１節　Ａ区の概要

前川遺跡Ａ区は調査区の北西側に位置している。平成18年度の調査開始段階で同調査区の東西の一部に未買収区域が存在していたため、便宜的にその間をＡ区と呼称した。現況は大部分が畑地で一部が盛り土部分となっていた。畑地は圃場整備後の水田から耕地転換されている状況が確認され、一部では広範囲に土取りを伴う土壌改良が行われている。盛り土は旧表土から１m以上盛られている状況が平成17年度の試掘調査時に確認されている。現地形での標高は26m前後を測る。現地形では判断できなかったが、微高地部分と低地部分が混在する区域となっていたものと考えられる。

今回の調査では、基本層序第ＢⅢａ・ＢⅢｂ層上面から竪穴遺構１基、掘立柱建物跡１棟、土坑24基、溝跡15条、濠跡３条、円形周溝２基、道路跡１条、ピットが多数検出された。遺物はかわらけを中心に遺構内外から少量出土している。また、後述することとなるが、圃場整備後の水田の下からⅠ層水田跡、基本層序第ＢⅢｂ層の下からＢⅣ層水田跡・水路跡が検出されている。

第２節　竪穴遺構

第１号竪穴遺構（ＡＳＩ－１）（図４）

【位置・確認】Ｃ－４グリッド他に位置している。基本層序第ＢⅢａ層上面で確認した。

【重複】調査区外に大部分が存在する第１号性格不明遺構(今回未報告)と重複している。堆積土の観察から、本遺構が新しいことが確認できる。

【形態・規模】長軸方向である北側が調査区外にかかっているため全容は不明である。平面形はやや隅丸の長方形を呈するものと思われる。確認できる短軸は180㎝、壁高は最大で24㎝を測る。

【壁・床面】壁は床面からほぼ垂直に立ち上がっている。床面は地床で、多少凹凸が見られる。基本層序第ＢⅣ層を床面としている。

【堆積土】１層の単層である。斑文状に基本層序第ＢⅢａ・Ⅲｂ層が混入しており人為堆積の様相を呈している。

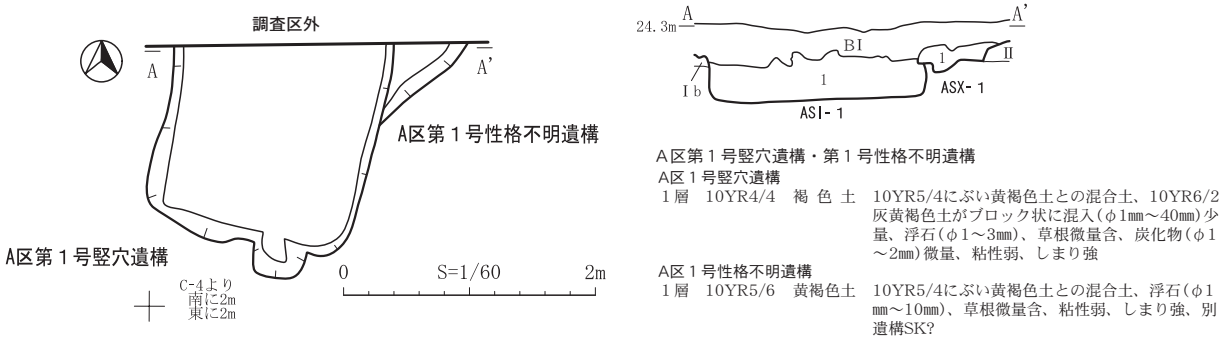
【柱穴】検出されなかった。

【壁溝】検出されなかった。

【その他の施設】検出されなかった。

【出土遺物】堆積土中より土師器の小片が出土している。

【小結】形状及び堆積土の状況や出土遺物から、古代～中世の竪穴遺構と考えられる。　（笹森）



Ａ区第１号竪穴遺構・第１号性格不明遺構

Ａ区１号竪穴遺構

１層	10YR4/4	褐色土	10YR5/4にぶい黄褐色土との混合土、10YR6/2灰黄褐色土がブロック状に混入(φ1㎜～40㎜)少量、浮石(φ1～3㎜)、草根微量含、炭化物(φ1～2㎜)微量、粘性弱、しまり強

Ａ区１号性格不明遺構

１層	10YR5/6	黄褐色土	10YR5/4にぶい黄褐色土との混合土、浮石(φ1㎜～10㎜)、草根微量含、粘性弱、しまり強、別遺構SK?

図４　Ａ区竪穴遺構

第３節　掘立柱建物跡・ピット

１　掘立柱建物跡

第１号掘立柱建物跡（ＡＳＢ－１）（図５）

【位置】Ｈ～Ｊ－９・10グリッドに位置する。

【重複】認められない。

【構造・規模】構造は桁行３間、梁間２間を数える建物跡である。総計11基の柱穴を検出したが、周辺には本遺構に関連する可能性のあるピットが14基程確認できる。主軸方位はＮ－3.9°－Ｅである。建物跡の規模は東西5,754㎜、南北6,509㎜を測る。棟方向は南北棟である。

【柱穴】柱穴の規模は長径29～37㎝、短径26～36㎝、深さは９～74㎝を測る。第16・18・20・30・44・51号ピットでは柱痕を検出した。

【柱間寸法】桁行1,667㎜～2,183㎜、梁間1,891㎜～2,527㎜を測る。

【出土遺物】遺物は出土しなかった。

【小結】建物構造と出土遺物から、第18号溝跡と同時期に存在していた可能性がある。　（工藤）

２　ピット

Ａ区におけるピットは総計80基検出した。その内第１号掘立柱建物跡を構成する11基と関連する可能性の高い14基を除くと55基となる。これらは第１号竪穴遺構及び土坑群の周辺から比較的集中して検出され、直線に並ぶものも検出されているが、それらの遺構に付随する建物を構成していた可能性については不明な点が多い。規模は径11～42.6㎝、深さは5.2～48.3㎝を測る。　（笹森）

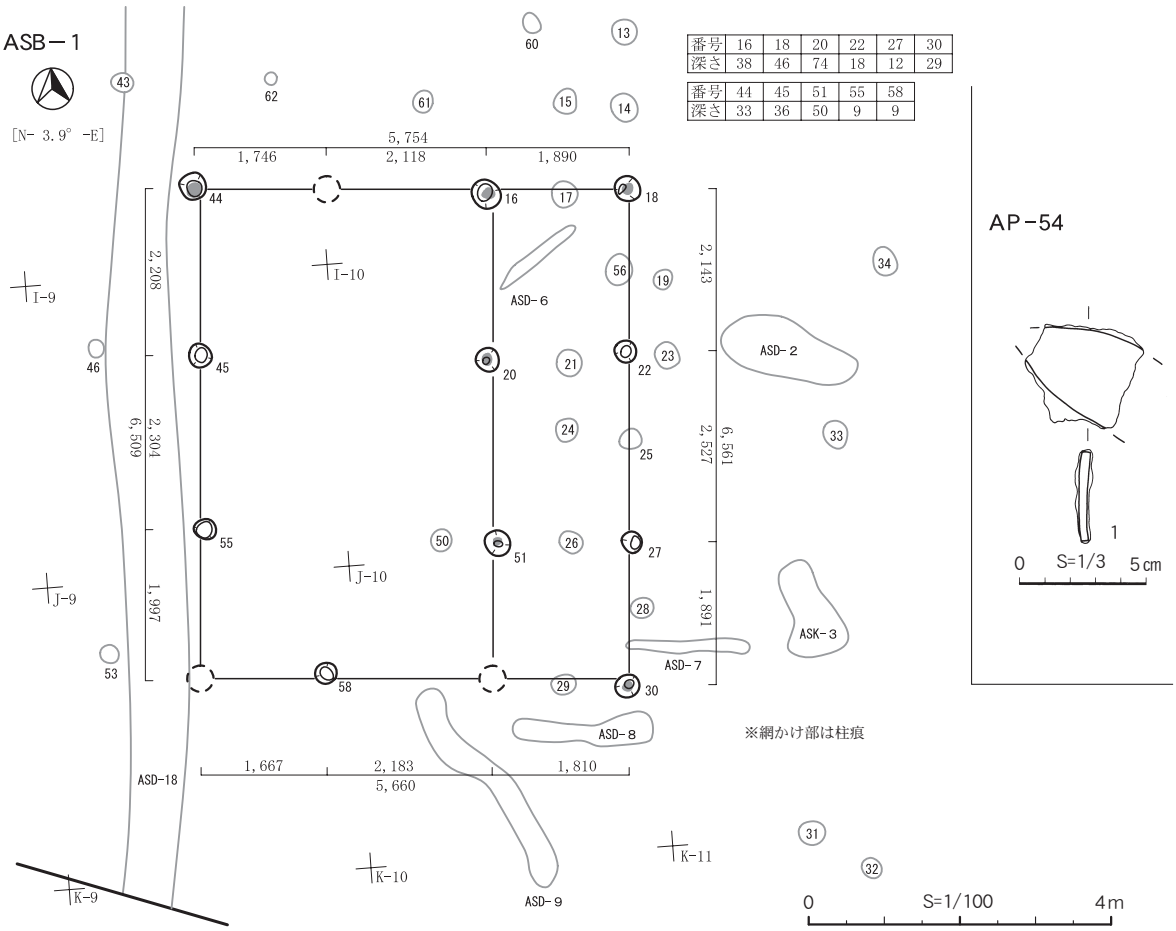


図５　Ａ区掘立柱建物跡

第４節　土坑

第１号土坑（ＡＳＫ－１）（図６）

【位置・確認】Ｈ－11・12グリッドに位置する。基本土層第BⅢ層中で確認した。
【重複】認められなかった。
【形態・規模】北側が調査区外に延び、全体形状は不明であるが、現存する長軸は298㎝、短軸125㎝の楕円形を呈するものと思われ、深さは67㎝を測る。断面形はＶ字形を呈する。
【壁・底面】壁は底面から急に立ち上がり、溝跡に類似する。底面は平坦である。
【堆積土】全体に基本土層第BⅡｂ層に類似した土が堆積する。自然堆積後に人為的に埋め戻された様相を呈する。
【出土遺物】遺物は出土しなかった。
【小結】南北方向に伸びる溝跡の可能性がある。基本土層第BⅡｂ層を壊して構築されることから、平安時代以降に埋没したと思われる。（工藤）

第２号土坑（ＡＳＫ－２）（図６）

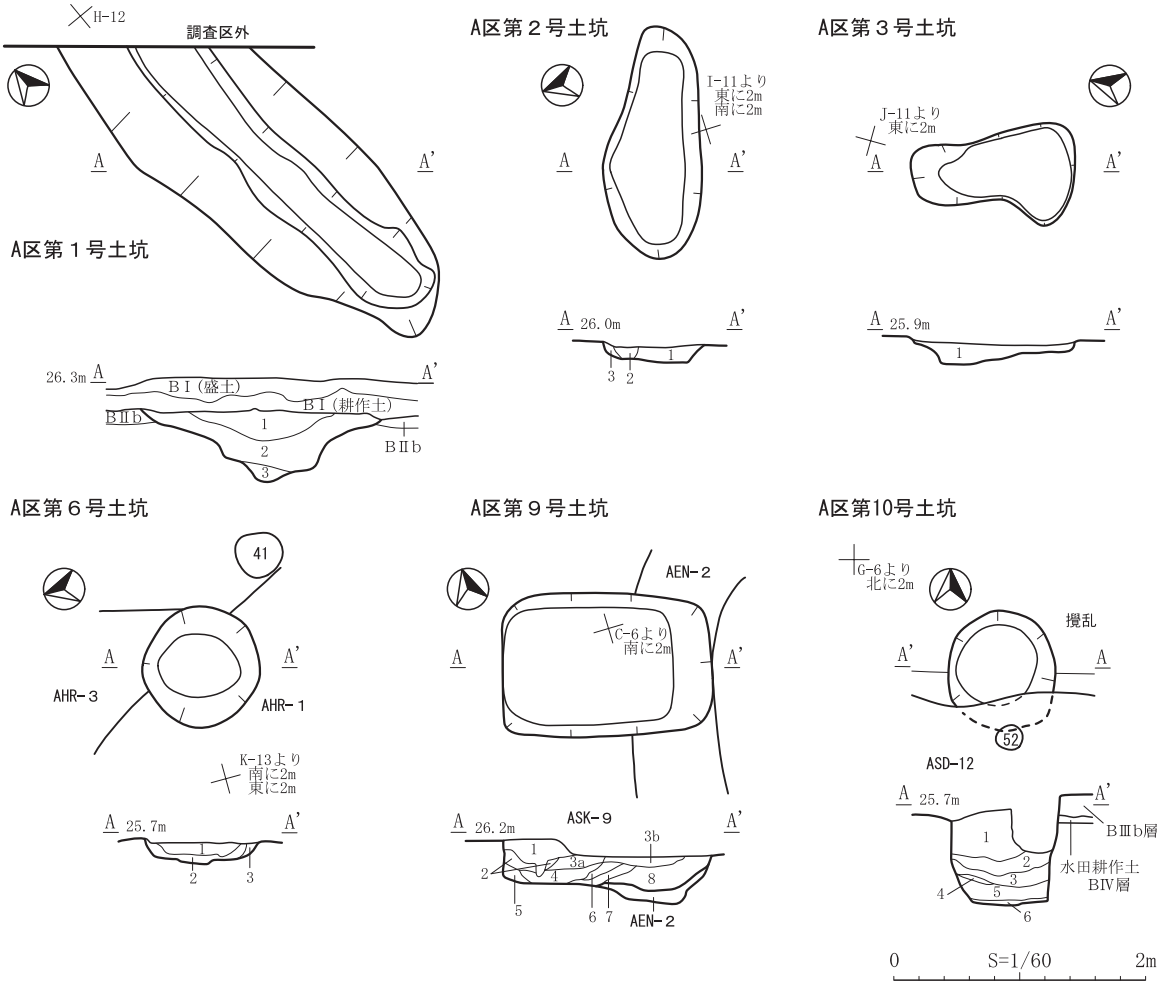
【位置・確認】Ｉ－11グリッドに位置する。基本層序第BⅢ層中で確認した。
【重複】認められなかった。
【形態・規模】長軸183㎝、短軸76㎝の不定楕円形を呈し、深さは19㎝を測る。
【壁・底面】壁は底面から緩やかに立ち上がる。底面は平坦である。
【堆積土】褐色土が堆積しており、自然堆積の様相を呈する。
【出土遺物】覆土上層より、かわらけ（土師器皿）の破片が出土している。
【小結】掘り込みが浅い土坑である。出土遺物や検出層位から、中世以降に埋没したと思われる。（工藤）

第３号土坑（ＡＳＫ－３）（図６）

【位置・確認】Ｊ－11グリッドに位置する。基本層序第BⅢ層中で確認した。
【重複】認められなかった。
【形態・規模】長軸129㎝、短軸68㎝の不定形を呈し、深さは17㎝を測る。
【壁・底面】壁は底面から急に立ち上がるが、一部は緩やかである。底面は平坦である。
【堆積土】にぶい黄橙色土が堆積し、基本層序第BⅢ層の小塊を含む。締まりが非常に強い。自然堆積の様相を呈する。
【出土遺物】遺物は出土しなかった。
【小結】検出層位と堆積土から、平安時代以降に埋没したと思われる。（工藤）

第４号土坑（ＡＳＫ－４）

検出時に土坑と認識したが調査段階で遺構と判断しなかったため、欠番とした。



A区第１号土坑

１層	10YR4/4	褐色土	2.5Y5/3黄褐色シルト粒(φ1～30㎜)少量、浮石(φ1～5㎜)微量、粘性なし、しまり強
２層	10YR4/4	褐色土	浮石(φ1～20㎜)微量、黒色土粒(φ1～5㎜)極微量、粘性なし、しまり弱
３層	10YR4/4	褐色土	10YR5/4にぶい黄褐色土多量、浮石(φ1～5㎜)微量、粘性なし、しまりやや強

A区第２号土坑

１層	10YR4/6	褐色土	浮石(φ1～3㎜)微量、粘性弱、しまり強
２層	10YR5/4	にぶい黄褐色土	浮石(φ1～2㎜)極微量、粘性弱、しまり強
３層	10YR4/4	褐色土	浮石(φ1～2㎜)極微量、粘性弱、しまり強

A区第３号土坑

1層	10YR6/4	にぶい黄橙色土	10YR6/6明記褐色土多量、浮石(φ1～10㎜)少量、 第BⅢ層(10YR6/3にぶい黄橙色土)ブロック状に混入、粘性弱、しまり強

A区第６号土坑

１層	10YR5/3	にぶい黄褐色土	10YR4/3にぶい黄褐色土多量、浮石(φ1～10㎜)微量、下層に第B｣層ブロック状に混入、粘性中、しまり強
２層	10YR5/3	にぶい黄褐色土	10YR4/3にぶい黄褐色土多量、浮石(φ1～10㎜)微量、炭化物(φ1～5㎜)極微量、粘性中、しまり強
３層	10YR4/4	褐色土	浮石(φ1～3㎜)極微量、粘性中、しまり強

A区第９号土坑

１層	10YR4/4	褐色土	浮石(φ1～3㎜)微量、炭化物(φ1～15㎜)微量、粘性弱、しまり強
２層	10YR4/6	褐色土	浮石(φ1～5㎜)極微量、炭化物 (φ1～10㎜)微量、粘性弱、しまりやや強
３a層	10YR5/4	にぶい黄褐色土	浮石(φ1～10㎜)微量、炭化物(φ1～10㎜)微量、粘性弱、しまり強
３b層	10YR4/4	褐色土	第BⅢ層少量混入、炭化物(φ1～5㎜)極微量、粘性弱、しまり強
４層	10YR4/6	褐色土	第BⅢ層微量混入、粘性弱、しまり中
５層	10YR4/4	褐色土	第BⅢ層量混入、粘性弱、しまり弱
６層	10YR4/6	褐色土	第BⅢ層微量混入、粘性弱、しまりやや中
７層	10YR4/6	褐色土	第BⅢ層微量混入、浮石(φ1～5㎜)極微量、粘性弱、しまり強
８層	10YR4/6	褐色土	浮石(φ1～10㎜)微量、炭化物(φ1～5㎜)極微量、粘性弱、しまり強

A区第10号土坑

１層	10YR4/6	褐色土	浮石(φ1～15㎜)少量、少々砂混じり、粘性弱、しまり強
２層	10YR6/4	にぶい黄橙色土	浮石(φ1～10㎜)極微量、第BⅢ層大量混入、粘性弱、しまり強
	10YR4/4	褐色土の混合土	
３層	10YR3/4	暗褐色土	浮石(φ1～10㎜)極微量、粘性弱、しまり中
４層	10YR4/4	褐色土	浮石(φ1～10㎜)極微量、炭化物(φ1～20㎜)微量、粘性中、しまり弱
５層	10YR3/4	暗褐色土	浮石(φ1～5㎜) 極微量、炭化物(φ1～20㎜)微量、粘性中、しまり弱
６層			砂層(基盤層か？)

図６　Ａ区土坑（１）

第５号土坑（ＡＳＫ－５）

検出時に土坑と認識したが調査段階で遺構と判断しなかったため、欠番とした。

第６号土坑（ＡＳＫ－６）（図６）

【位置・確認】Ｋ－13グリッドに位置する。基本層序第BⅢ層中で確認した。

【重複】第１号濠跡や第３号濠跡と重複している。新旧関係は本遺構が新しい。

【形態・規模】直径90～95㎝の円形を呈し、深さは17㎝を測る。

【壁・底面】壁は底面から緩やかに立ち上がる。底面は鍋底型で起伏がある。

【堆積土】にぶい黄褐色土を主体とし、上層に基本層序第BⅢ層起源の小塊を包含する。自然堆積の様相を呈する。

【出土遺物】遺物は出土しなかった。

【小結】遺構の新旧関係と検出層位から、中世以降に埋没したと思われる。（工藤）

第７号土坑（ＡＳＫ－７）

検出時に土坑と認識したが、調査の結果、遺構と判断しなかったため欠番とした。

第８号土坑（ＡＳＫ－８）

検出時に土坑と認識したが、調査の結果、遺構と判断しなかったため欠番とした。

第９号土坑（ＡＳＫ－９）（図６）

【位置・確認】Ｃ－５・６グリットに位置する。基本層序第ＢⅢａ層上面で確認した。

【重複】第２号円形周溝と重複している。堆積土の観察から本遺構が新しい。

【形態・規模】平面形は隅丸の長方形を呈する。155㎝、短軸112㎝、深さは35㎝を測る。

【壁・底面】壁は西側は底面からほぼ垂直に、南北壁はやや急に、東壁は緩やかに立ち上がっている。底面にはやや起伏がある。

【堆積土】８層に分層できた。全体的に浮石が混入しており人為堆積の様相を呈している。

【出土遺物】図示できるような遺物は出土していない。

【小結】形態からお墓の可能性が考えられる。中世以降の可能性が高い。（笹森）

第10号土坑（ＡＳＫ－10）（図６・９）

【位置・確認】Ｆ－６グリットに位置する。

【重複】第12号溝跡及びＢⅣ層水田跡と重複している。堆積土の観察から両遺構よりも本遺構が新しい。

【形態・規模】平面形は円形を呈している。長径90㎝、短径85㎝、深さは85㎝を測る。

【壁・底面】壁は底面から西側ではほぼ垂直に、その他ではやや急に立ち上がっている。底面はほぼ平坦である。

【堆積土】６層に分層できた。全体的に浮石が混入しており人為堆積の様相を呈している。

【出土遺物】遺構底面付近より、かわらけ（土師器Ⅲ）が出土している。12世紀末から13世紀初頭のものと思われる（図９－１）。
【小結】形態から柱穴の可能性が考えられる。時期は出土遺物から中世の可能性が高い。　（笹森）

第11号土坑（ＡＳＫ－11）

検出時に土坑と認識したが、調査の結果、遺構と判断しなかったため欠番とした。

第12号土坑（ＡＳＫ－12）（図７）
【位置・確認】Ｈ－４グリッドに位置する。基本層序第BⅢ層中で確認した。
【重複】認められなかった。
【形態・規模】西側の一部が調査区外へ延びており、全体形状は不明であるが、長軸45㎝、短軸37㎝の楕円形を呈するものと思われ、深さは27㎝を測る。
【壁・底面】壁は緩やかに立ち上がる。底面は鍋底型を呈しなだらかである。
【堆積土】基本層序第BⅢ層起源の小塊を包含し、締まりが非常に強い。自然堆積の様相を呈する。
【出土遺物】遺物は出土しなかった。
【小結】検出層位と堆積土の状況から平安時代以降に埋没したと思われる。遺構規模と形態から、柱穴の可能性がある。　（工藤）

第13号土坑（ＡＳＫ－13）（図７）
【位置・確認】Ｈ－４グリッドに位置する。基本層序第BⅢ層中で確認した。
【重複】第14号土坑と重複し、本遺構が新しい。
【形態・規模】西側の一部が調査区外に延びているため、全体形状は不明であるが、現存長軸70㎝、短軸64㎝であり、方形を呈するものと思われる。深さは30㎝を測る。
【壁・底面】壁は緩やかに立ち上がる。底面は鍋底型を呈し、起伏が著しい。
【堆積土】褐色土を主体とする。基本層序第BⅢ層起源の小塊を包含する。自然堆積の様相を呈する。
【出土遺物】遺物は出土しなかった。
【小結】検出層位と堆積土の状況から平安時代以降に埋没したと思われる。　（工藤）

第14号土坑（ＡＳＫ－14）（図７）
【位置・確認】Ｈ－４グリッドに位置する。基本層序第BⅢ層中で確認した。
【重複】第13・15号土坑と重複している。新旧関係は第13号遺構よりも古く、第15号遺構より新しい。
【形態・規模】西側の一部が調査区外に延びており、また第13号土坑に破壊されているため、全体形状は不明である。現存長軸75㎝、短軸68㎝である。深さは29㎝を測る。
【壁・底面】壁は緩やかに立ち上がる。底面は鍋底型で、起伏がある。
【堆積土】褐色土を主体とし、基本層序第BⅢ層起源の小塊を全体に含む。自然堆積の様相を呈する。
【出土遺物】覆土より土師器甕の破片が出土している。
【小結】出土遺物や検出層位と堆積土の状況から、平安時代以降に埋没したと思われる。　（工藤）

第15号土坑（ＡＳＫ－15）（図７）
【位置・確認】Ｈ－４グリッドに位置する。基本層序第Ⅲ層中で確認した。
【重複】第14号土坑と重複し、本遺構が古い。
【形態・規模】長軸149㎝、短軸91㎝の長方形を呈し、深さは30㎝を測る。
【壁・底面】壁は緩やかに立ち上がる。底面は起伏がある。
【堆積土】褐色土やにぶい黄褐色土を主体とする。１層下部が平坦であり、人為堆積の様相を呈す。
【出土遺物】遺物は出土していない。
【小結】遺構の新旧関係や検出層位および堆積土の状況から、平安時代以降に埋没したと思われる。
（工藤）

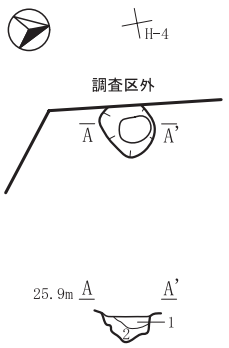
第16号土坑（ＡＳＫ－16）
検出時に土坑と認識したが、調査の結果、遺構と判断しなかったため欠番とした。

第17号土坑（ＡＳＫ－17）（図７）
【位置・確認】Ｈ－５グリッドに位置する。基本層序第Ⅲ層中で確認した。
【重複】認められなかった。
【形態・規模】長軸58㎝、短軸50㎝の円形を呈し、深さは34㎝を測る。
【壁・底面】壁は急に立ち上がる。底面は鍋底型を呈しなだらかである。
【堆積土】褐色土を主体とし、基本層序第Ⅲ層起源の小塊を全体に含む。
【出土遺物】遺物は出土しなかった。
【小結】遺構規模と形態から、柱穴の可能性がある。検出層位と堆積土の状況から、平安時代以降に埋没したと思われる。
（工藤）

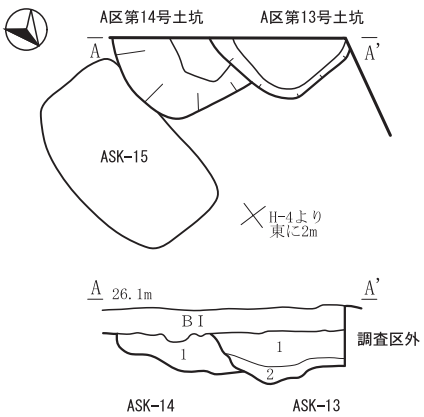
第18号土坑（ＡＳＫ－18）（図７）
【位置・確認】Ｈ－５グリッドに位置する。基本層序第Ⅲ層中で確認した。
【重複】認められなかった。
【形態・規模】長軸164㎝、短軸151㎝のほぼ正方形を呈し、深さは37㎝を測る。
【壁・底面】壁は急に立ち上がる。底面には起伏がある。
【堆積土】褐色土を主体とし、基本層序第Ⅲ層起源の小塊を全体に包含し、１層には炭化物と焼土粒を微量に含む。１層下部が平坦であり、人為堆積の様相を呈する。
【出土遺物】１層からかわらけ（土師器皿）破片が出土しており(図９－２・４・５)、第20号土坑覆土上層から出土した土師器皿と接合する個体がある（図９－３）。
【小結】出土遺物や検出層位および堆積土の状況から、中世以降に埋没したと思われる。　（工藤）

第19号土坑（ＡＳＫ－19）（図７）
【位置・確認】H-５・６グリッドに位置する。基本層序第Ⅲ層中で確認した。
【重複】認められなかった。

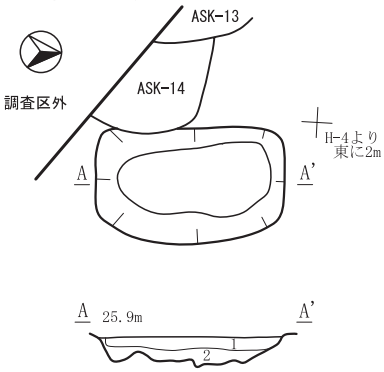
A区第12号土坑



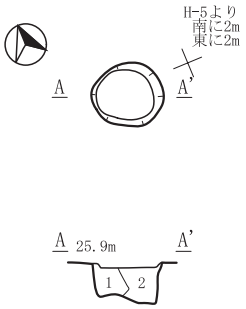
A区第13・14号土坑



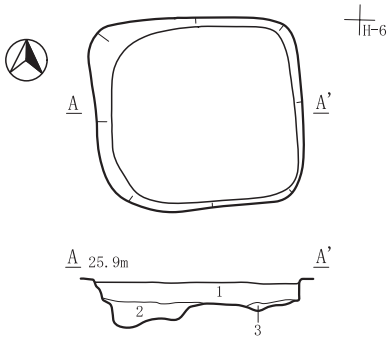
A区第15号土坑



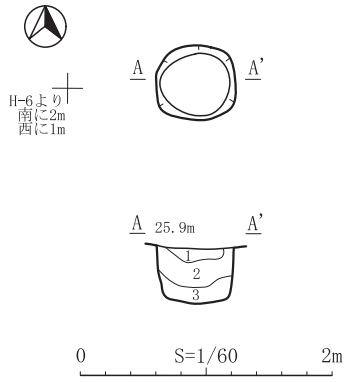
A区第17号土坑



A区第18号土坑



A区第19号土坑



A区第12号土坑
1層　10YR4/4　褐色土　第BⅢ層(白色土、10YR5/4にぶい黄褐色土、褐色土、5YR5/8明黄褐色土)混入、浮石(φ1～3㎜)極微量、粘性弱、しまり強
2層　10YR4/4　褐色土　第BⅢ層(白色土、10YR5/4にぶい黄褐色土、褐色土、7.5YR5/8明黄褐色土)ブロック状に混入、浮石(φ1～3㎜)極微量、粘性弱、しまり強

A区第13号土坑
1層　10YR4/4　褐色土　10YR3/4暗褐色土多量、浮石(φ1～5㎜)極微量、第BⅢ層(10YR5/4にぶい黄褐色土)ブロック状に混入、粘性なし、しまりなし
2層　10YR4/4　褐色土　浮石(φ1～5㎜)極微量、第BⅢ層ブロック状に混入、粘性なし、しまりなし

A区第14号土坑
1層　10YR4/4　褐色土　10YR4/3にぶい黄褐色土多量、浮石(φ1～10㎜)極微量、第BⅢ層ブロック状に混入、粘性なし、しまりなし

A区第15号土坑
1層　10YR4/4　褐色土　浮石(φ1～2㎜)極微量、炭化物(φ1～2㎜)極微量、粘性中、しまり強
2層　10YR5/3　にぶい黄褐色土　粘性やや中、しまり強

A区第17号土坑
1層　10YR4/6　褐色土　浮石(φ1～3㎜)極微量、炭化物(φ1～5㎜)極微量、第BⅢ層ブロック状に混入、粘性弱、しまり中
2層　10YR4/6　褐色土　浮石(φ1～3㎜)極微量、上層から中層にかけて第BⅢ層ブロック状に混入、粘性弱、しまり強

A区第18号土坑
1層　10YR4/4　褐色土　浮石(φ1～15㎜)極微量、炭化物(φ1～15㎜)極微量、焼土粒(φ1～3㎜)極微量、第BⅢ層(白色土、赤褐色土)ブロック状に混入、粘性弱、しまり強
2層　10YR4/4　褐色土　浮石(φ1～10㎜)極微量、炭化物(φ1～15㎜)極微量、第BⅢ層（白色土、赤褐色土)ブロック状に混入、粘性弱、しまり強
3層　10YR5/6　黄褐色土　第BⅢ層白色土（10YR6/3にぶい黄橙色土）ブロック状に混入、粘性中、しまり強

A区第19号土坑
1層　10YR5/4　にぶい黄褐色土　浮石(φ1～2㎜)極微量、炭化物(φ1～2㎜)極微量、粘性弱、しまり強
2層　10YR4/4　褐色土　浮石(φ1～2㎜)極微量、粘性弱、しまり強
3層　10YR4/4　褐色土　10YR5/4にぶい黄褐色土の混合土、粘性弱、しまり強

図７　Ａ区土坑（２）

【形態・規模】長軸62㎝、短軸59㎝の円形を呈し、深さは43㎝を測る。
【壁・底面】壁は急に立ち上がる。底面は鍋底型を呈し、比較的平坦である。
【堆積土】にぶい黄褐色土・褐色土を主体とする。自然堆積の様相を呈する。
【出土遺物】遺物は出土しなかった。
【小結】遺構規模と形態から、柱穴の可能性がある。検出層位と堆積土の状況から、平安時代以降に埋没したと思われる。（工藤）

第20号土坑（ＡＳＫ－20）（図８・９）
【位置・確認】Ｇ・Ｈ－６グリッドに位置する。基本層序第Ⅲ層中で確認した。
【重複】認められなかった。
【形態・規模】長軸224㎝、短軸132㎝の長方形を呈し、深さは41㎝を測る。
【壁・底面】壁は急に立ち上がる。底面は鍋底型を呈し、起伏がある。
【堆積土】１・２層は炭化物塊を多く含む暗褐色土を主体とし、３層はにぶい黄褐色土を主体とする。人為堆積の様相を呈する。
【出土遺物】１層と２層からかわらけ（土師器皿）が11点出土しており、第18号土坑１層出土の個体と、第10号溝跡中層出土の個体とそれぞれ接合する。
【小結】出土遺物と堆積土の状況から、中世以降に埋没したと思われる。１層から出土した炭化物小塊は放射性炭素年代測定の分析を行った結果、1020±30yrBP（暦年較正１σ：990～1025AD）の年代が得られている。詳細な分析結果は第９章第１節に掲載している。（工藤）

第21号土坑（ＡＳＫ－21）
検出時に土坑と認識したが調査段階で遺構と判断しなかったため、欠番とした。

第22号土坑（ＡＳＫ－22）（図８・９）
【位置・確認】Ｈ－６グリッドに位置する。基本層序第Ⅲ層中で確認した。
【重複】認められなかった。
【形態・規模】長軸114㎝、短軸83㎝の長方形を呈し、深さは38㎝を測る。
【壁・底面】壁は急に立ち上がる。底面には起伏がある。
【堆積土】１層は炭化物を含む褐色土を主体とし、２層はにぶい黄褐色土を主体とする。１層下部が平坦であり、人為堆積の様相を呈する。
【出土遺物】１層からかわらけ（土師器皿）が出土しており、第23号土坑１層出土のかわらけと接合する（図９－７）。
【小結】出土遺物と検出層位および堆積土の状況から、中世以降に埋没したと思われる。（工藤）

第23号土坑（ＡＳＫ－23）（図８・９）
【位置・確認】Ｈ－６グリッドに位置する。基本層位第Ⅲ層中で確認した。
【重複】認められなかった。

【形態・規模】長軸172㎝、短軸170㎝のほぼ正方形を呈し、深さは30㎝を測る。
【壁・底面】壁は急に立ち上がる。底面は起伏が著しい。
【堆積土】炭化物を含む褐色土を主体とする。１層下部が平坦であり、人為堆積の様相を呈する。
【出土遺物】覆土上層より須恵器甕、１層からかわらけ（土師器皿）と炭化物塊が出土し、第22号土坑出土の土師器皿と接合する（図９－７）。
【小結】出土遺物や堆積土の状況から、中世以降に埋没したと思われる。１層から出土した炭化物塊は放射性炭素年代測定の分析を行った結果、910±30yrBP（暦年較正1σ：1040～1100AD（40.4%）・1110～1170AD（27.8%））の年代が得られている。詳細な分析結果は第９章第１節に掲載している。

（工藤）

第24号土坑（ＡＳＫ－24）（図８）
【位置・確認】Ｉ－６グリッドに位置する。基本層序第BⅢ層中で確認した。
【重複】認められなかった。
【形態・規模】直径61～62㎝の円形を呈し、深さは27㎝を測る。
【壁・底面】壁はなだらかに立ち上がる。底面にはなだらかである。
【堆積土】炭化物を含む暗褐色土を主体とする。
【出土遺物】遺物は出土しなかった。
【小結】遺構規模と形態から、柱穴の可能性がある。検出層位と堆積土の状況から、平安時代以降に埋没したと思われる。

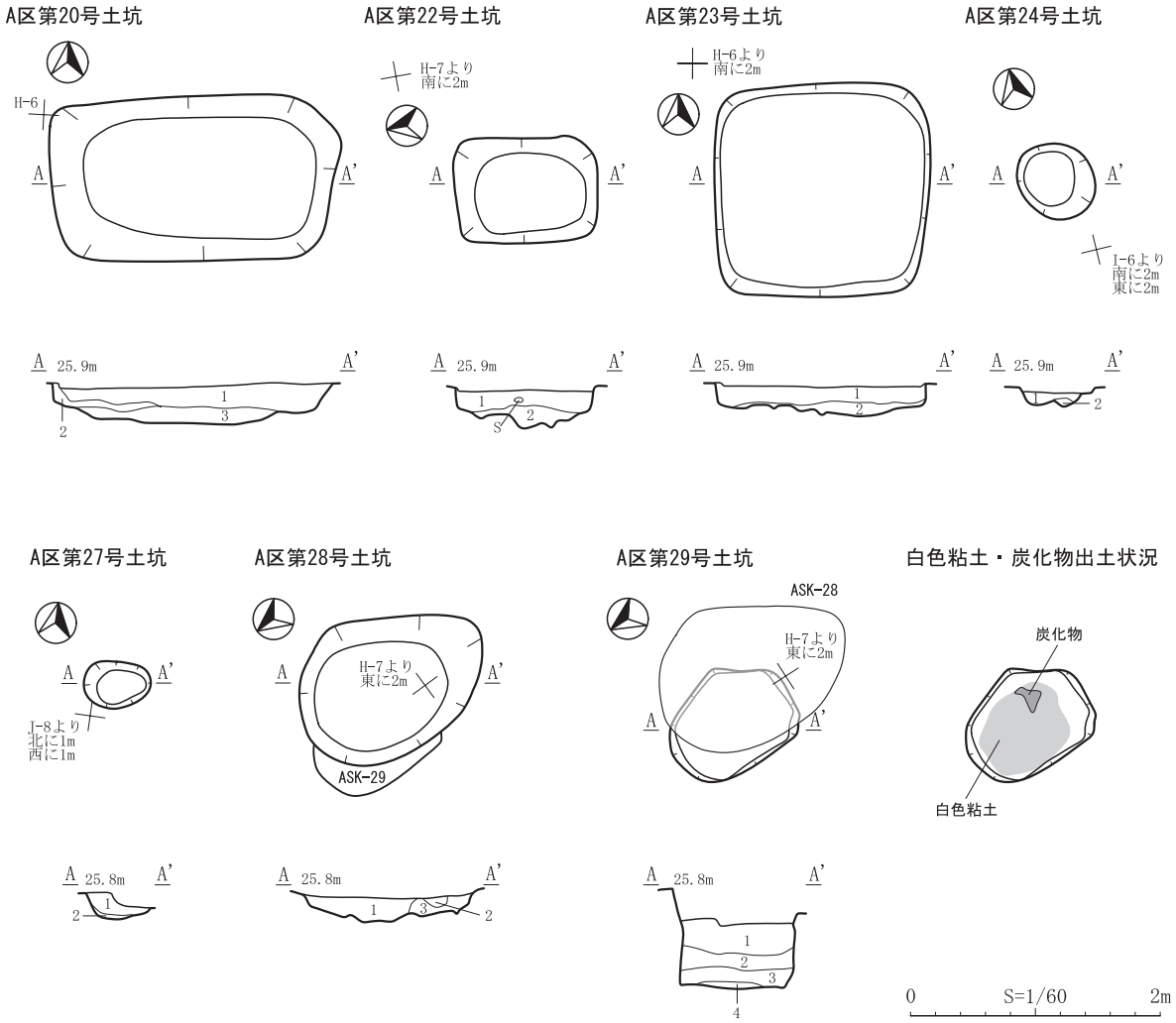
（工藤）

第25号土坑（ＡＳＫ－25）
検出時に土坑と認識したが調査段階で遺構と判断しなかったため、欠番とした。

第26号土坑（ＡＳＫ－26）
検出時に土坑と認識したが調査段階で遺構と判断しなかったため、欠番とした。

第27号土坑（ＡＳＫ－27）（図８）
【位置・確認】Ｉ－７グリッドに位置する。基本層序第BⅢ層中で確認した。
【重複】認められなかった。
【形態・規模】長軸53㎝、短軸38㎝の楕円形を呈し、深さは23㎝を測る。
【壁・底面】壁は急に立ち上がる。底面は鍋底型を呈し、なだらかである。
【堆積土】粒径が細かいにぶい黄褐色土を主体とする。自然堆積の様相を呈する。
【出土遺物】遺物は出土しなかった。
【小結】遺構規模と形態から、柱穴の可能性がある。検出層位と堆積土の状況から、平安時代以降に埋没したと思われる。

（工藤）



A区第20号土坑
1層　10YR4/3　にぶい黄褐色土　浮石(φ1～2㎜)極微量、炭化物(φ1～5㎜)中量、粘性中、しまり強
2層　10YR4/4　褐色土　炭化物浮石(φ1～3㎜)微量、粘性弱、しまり強
3層　10YR5/3　にぶい黄褐色土　浮石(φ1～2㎜)極微量、粘性中、しまり強

A区第22号土坑
1層　10YR4/4　褐色土　炭化物(φ1～2㎜)極微量、粘性やや強、しまり強
2層　10YR5/3　にぶい黄褐色土　粘性中、しまり強

A区第23号土坑
1層　10YR4/4　褐色土　浮石(φ1～35㎜)微量、炭化物(φ1～20㎜)極微量、
2層　10YR4/3　にぶい黄褐色土　第BⅢ層（白色土 10YR6/4褐色土、7.5YR4/6褐色土)ブロック状に混入、粘性弱、しまり強
浮石(φ1～5㎜)極微量、粘性弱、しまり強

A区第24号土坑
1層　10YR3/4　暗褐色土　炭化物(φ1～2㎜)極微量、粘性弱、しまり強
2層　10YR5/4　にぶい黄褐色土　粘性弱、しまり強

A区第27号土坑
1層　10YR5/4　にぶい黄褐色土　炭化物(φ1～10㎜)極微量、粘性やや中、しまりやや強
2層　10YR4/2　灰黄褐色土　炭化物(φ1～5㎜)極微量、第BⅢ層ブロック状に混入、粘性中、しまり中

A区第28号土坑
1層　10YR6/3　にぶい黄褐色土　浮石(φ1～2㎜)極微量、粘性中、しまり強
2層　10YR4/3　にぶい黄褐色土　浮石(φ1～2㎜)極微量、炭化物(φ1～2㎜)極微量、粘性弱、しまり強
3層　10YR4/4　褐色土　浮石(φ1～2㎜)極微量、炭化物(φ1～2㎜)極微量、粘性中、しまり強

A区第29号土坑
1層　10YR3/4　暗褐色土　浮石(φ1～3㎜)極微量、第BⅢ層白色粘土ブロック状に混入、第BⅢ層赤褐色土ブロック状に混入、粘性中、しまり中
2層　10YR3/4　暗褐色土　浮石(φ1～3㎜)極微量、炭化物(φ1～10㎜)極微量、第BⅢ層赤褐色土混入、粘性中、しまり中
3層　10YR4/4　褐色土　10YR5/4にぶい黄褐色土多量、粘性弱、しまり中
4層　10YR7/4　にぶい黄橙色土　粘性弱、しまり中

図８　Ａ区土坑（３）

第28号土坑（ＡＳＫ－28）（図８・９）

【位置・確認】Ｇ・Ｈ－７グリッドに位置する。基本層序第Ⅲ層中で確認した。

【重複】第29号土坑と重複している。新旧関係は本遺構が新しい。

【形態・規模】長軸143㎝、短軸116㎝の楕円形を呈し、深さは23㎝を測る。

【壁・底面】壁は緩やかに立ち上がる。底面はなだらかである。

【堆積土】にぶい黄褐色土と褐色土を主体とし、基本層序第Ⅲ層の小～中塊を多量に含む。人為堆積の様相を呈する。

【出土遺物】覆土上層から土師器甕、１層からかわらけ（土師器皿）が出土している（図９－８）。

【小結】出土遺物と検出層位および堆積土の状況から、中世以降に埋没したと思われる。　（工藤）

第29号土坑（ＡＳＫ－29）（図８）

【位置・確認】Ｇ・Ｈ－７グリッドに位置する。基本層序第Ⅲ層中で確認した。

【重複】第28号土坑と重複している。新旧関係は本遺構が古い。

【形態・規模】東側の一部が第28号土坑に壊されており、現存長軸105㎝、短軸80㎝の楕円形を呈するものと思われる。深さは68㎝を測る。

【壁・底面】壁は急に立ち上がる。底面は平坦である。

【堆積土】堆積土の遺構確認面付近の土層は、第28号土坑に壊されており不明である。暗褐色土を主体とし、３層には白色粘質土が炭化物とともに板状に堆積する。人為堆積の様相を呈する。

【出土遺物】遺物は出土しなかった。

【小結】検出層序と堆積土の状況から、平安時代以降に埋没したと思われる。　（工藤）

第30号土坑（ＡＳＫ－30）

検出時に土坑と認識したが調査段階で遺構と判断しなかったため、欠番とした。

第31号土坑（ＡＳＫ－31）

検出時に土坑と認識したが調査段階で遺構と判断しなかったため、欠番とした。

第32号土坑（ＡＳＫ－32）

検出時に土坑と認識したが調査段階で遺構と判断しなかったため、欠番とした。

第33号土坑（ＡＳＫ－33）（図９）

【位置・確認】Ｍ・Ｎ－13グリッドに位置する。基本層序第Ⅲ層中で確認した。

【重複】第１号濠跡・第２号濠跡、Ｂ区第40号溝跡と重複している。新旧関係は本遺構が新しい。

【形態・規模】長軸107㎝、短軸106㎝の楕円形を呈する。深さは17㎝を測る。

【壁・底面】壁は緩やかに立ち上がる。底面には起伏がある。

【堆積土】にぶい黄褐色土を主体とする。

【出土遺物】遺物は出土しなかった。

【小結】遺構の新旧関係や堆積土の状況から、中世以降に埋没したと思われる。（工藤）

第34号土坑（ＡＳＫ－34）（図９）

【位置・確認】Ｈ・Ｉ－５・６グリッドに位置する。基本層序第BⅢ層中で確認した。

【重複】第54号ピットと重複している。新旧関係は本遺構が古い。

【形態・規模】直径62～63㎝の円形を呈し、深さは35㎝を測る。

【壁・底面】壁は緩やかに立ち上がる。底面は急に立ち上がる。

【堆積土】褐色土を主体とする。基本層序第BⅢ層の小塊を含み、人為堆積の様相を呈する。

【出土遺物】遺物は出土しなかった。

【小結】遺構規模と形態から、柱穴の可能性がある。検出層位と堆積土の状況から、平安時代以降に埋没したと思われる。（工藤）

第35号土坑（ＡＳＫ－35）（図９）

【位置・確認】Ｌ－10グリッドに位置する。基本層序第BⅢ層中で確認した。

【重複】第１号溝跡と重複している。新旧関係は本遺構が古い。

【形態・規模】東側が第１号溝跡に壊されており全体形状は不明であるが、現存長軸38㎝、短軸36㎝の楕円形を呈するものと思われる。深さは９㎝を測る。

【壁・底面】壁は緩やかに立ち上がる。底面は鍋底型を呈し、なだらかである。

【堆積土】褐色土を主体とし、２層中に炭化物を多く含む。

【出土遺物】遺物は出土しなかった。

【小結】遺構規模と形態から、柱穴の可能性がある。遺構の新旧関係や検出層位および堆積土の状況から、平安時代以降に埋没したと思われる。（工藤）

第36号土坑（ＡＳＫ－36）（図９）

【位置・確認】Ｌ－９・10グリッドに位置する。基本層序第ＢⅢｂ層中で確認した。

【重複】認められなかった。

【形態・規模】平面形は円形を呈する。長径72㎝、短径62㎝、深さは53㎝を測る。

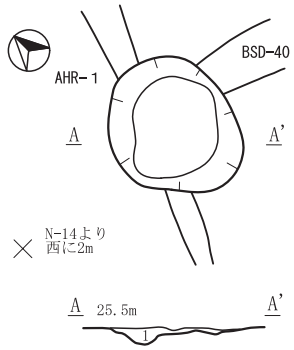
【壁・底面】壁は底面からやや急に立ち上がっている。底面は中央に向かって傾斜を有する。

【堆積土】８層に分層できた。基本層序第ＢⅢｂ層や第ＢⅣ層がブロック状に混入しており人為堆積の様相を呈している。

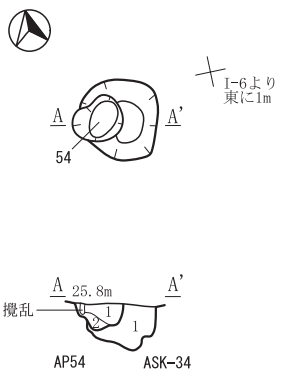
【出土遺物】図示できるような遺物は出土していない。

【小結】詳細は不明であるが、形態から柱穴の可能性も考えられる。（笹森）

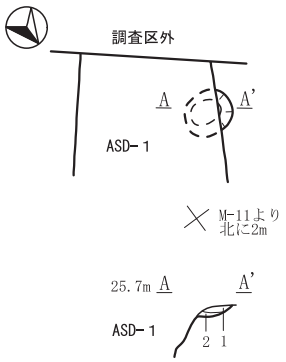
A区第33号土坑



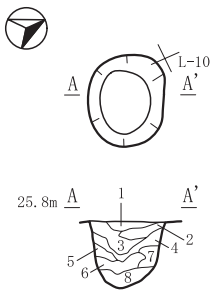
A区第34号土坑



A区第35号土坑



A区第36号土坑



0　S=1/60　2m

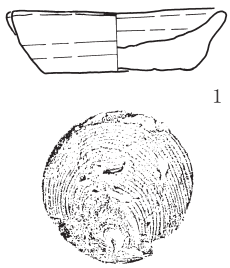
A区第33号土坑
1層　10YR4/3　にぶい黄褐色土　浮石(φ1～10㎜)極微量、上層に第BⅢ層ブロック状に混入、粘性弱、しまり強

A区第34号土坑
1層　10YR4/4　褐色土　10YR5/3にぶい黄褐色土多量、浮石(φ1～10㎜)極微量、第BⅢ層ブロック状に混入、粘性弱、しまり強
AP54
1層　10YR4/4　褐色土　10YR5/4にぶい黄褐色土多量、浮石(φ1～10㎜)極微量、炭化物(φ1～30㎜)極微量、粘性弱、しまり強
2層　10YR4/4　褐色土　層下層に第BⅢ層ブロック状に混入、粘性弱、しまり強

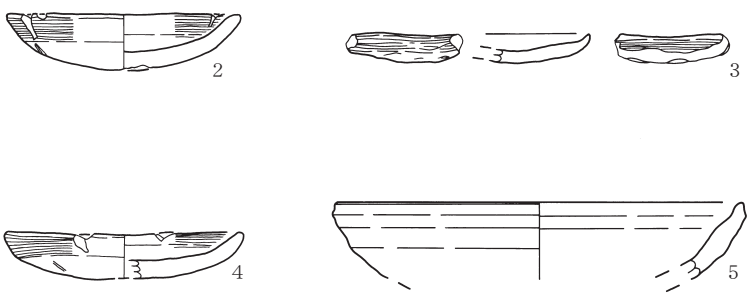
A区第35号土坑
1層　10YR4/4　褐色土　炭化物(φ1～3㎜)極微量、第BⅢ層ブロック状に混入、粘性やや中、しまり強
2層　10YR4/3　にぶい黄褐色土　炭化物(φ1～2㎜)微量、層全体に炭混入、粘性弱、しまり中

A区第36号土坑
1層　10YR4/4　褐色土　浮石極微量、炭化物極微量
2層　10YR4/4　褐色土　浮石極微量、炭化物極微量
3層　10YR5/6　黄褐色土　10YR6/2灰黄褐色土が微量に含まれている、浮石極微量、炭化物極微量
4層　10YR4/3　にぶい黄褐色土　10YR4/6褐色土が含まれている、浮石極微量、炭化物全体の10％
5層　10YR4/4　褐色土　浮石極微量、炭化物極微量
6層　10YR4/4　褐色土　浮石極微量、炭化物極微量
7層　10YR5/8　黄褐色土　10YR4/6褐色土が含まれている、浮石極微量
8層　10YR5/8　黄褐色土　浮石極微量、炭化物極微量

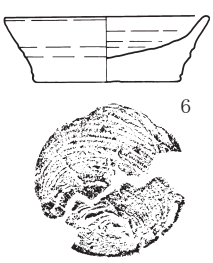
ASK-10



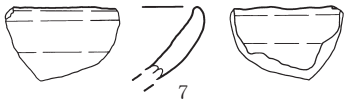
ASK-18



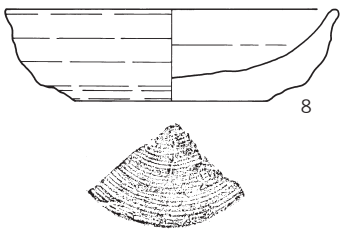
ASK-20, ASD-10・12



ASK-22・23



ASK-28



S=1/3
0　10cm

図９　Ａ区土坑（４）・土坑出土遺物

第５節　溝跡

第１号溝跡（ＡＳＤ－１）（図10）

【位置・確認】Ｉ～Ｌ－10～13グリッドに位置する。基本層序第Ⅲ層上面で確認した。

【重複】第35号土坑・第25号溝跡・第１号濠跡と重複している。新旧関係は第35号土坑より本遺構が新しい。第25号溝跡と第１号濠跡との新旧関係は判断できなかった。

【形態・規模】北東から南西方向に直線的に延びるものであり、東北部と南西部が調査区域外に延びているため全容は不明である。確認される長さは16.7m、確認面での最大幅は163㎝、底面幅は78㎝、深さは35㎝を測る。

【壁・底面】壁は底面から緩やかに立ち上がる。底面はやや凹凸があり、断面形状はU字型を呈している。

【堆積土】上層は暗褐色土を主体とし、炭化物を多く含む。下層は褐色土を主体とし、にぶい黄褐色粘土を多量に含む。自然堆積の様相を呈する。

【出土遺物】遺物は出土しなかった。

【小結】直線的に延びることから、区画溝の可能性がある。遺構の新旧関係と堆積土の状況から、中世以降の溝跡と思われる。（工藤）

第２号溝跡（ＡＳＤ－２）（図10）

【位置・確認】Ｉ－12グリッドに位置する。基本層序第Ⅲ層上面で確認した。

【重複】第25号溝跡と重複している。新旧関係は本遺構が古い。

【形態・規模】北西から南東方向に直線的に延びるものであり、東部が第25号溝跡により破壊されているため全容は不明である。確認される長さは87㎝、確認面での最大幅は39㎝、底面の最大幅は20㎝、深さは19㎝を測る。

【壁・底面】断面形状はU字型を呈している。

【堆積土】褐色土とにぶい黄褐色土を主体とする。２層には、基本層序第Ⅲ層の小塊を少量含む。自然堆積の様相を呈する。

【出土遺物】遺物は出土しなかった。

【小結】検出層位と堆積土の状況から、平安時代以降に埋没したものと思われる。（工藤）

第３号溝跡（ＡＳＤ－３）

遺構確認時に溝跡と認識したが調査の結果、遺構と判断しなかったため、欠番とした。

第４号溝跡（ＡＳＤ－４）

遺構確認時に溝跡と認識したが調査の結果、遺構と判断しなかったため、欠番とした。

第５号溝跡（ＡＳＤ－５）（図15）

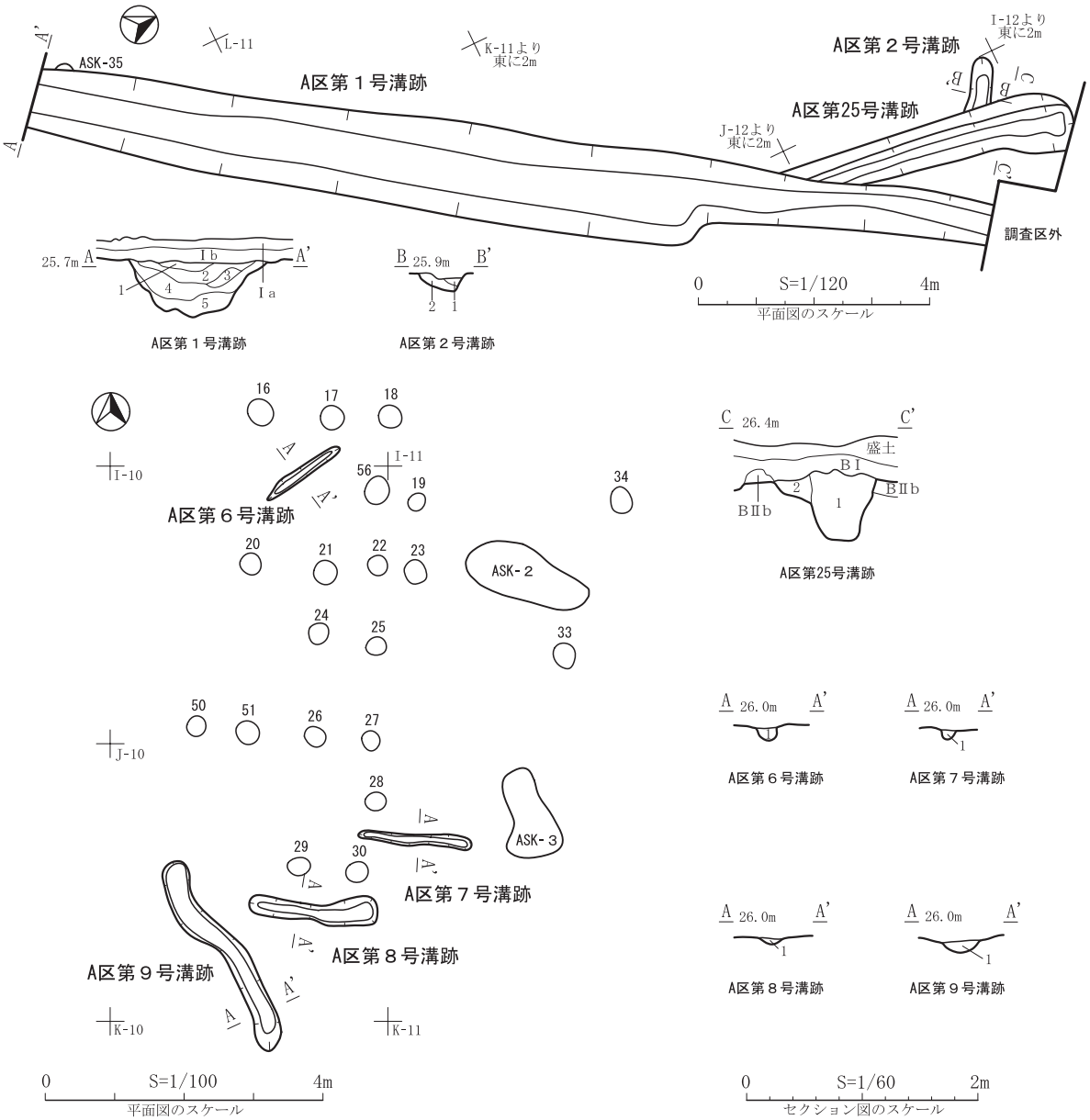
【位置・確認】Ｋ－13・14グリッドに位置する。基本層序第Ⅲ層上面で確認した。

【重複】第２号濠跡・第77号ピットと重複している。新旧関係は本遺構が第２号濠跡より古く、第77号ピットより新しい。
【形態・規模】北西から南東方向に延びるものであり、南東部が第２号濠跡により破壊されているため全容は不明である。確認される長さは1.2m、確認面での最大幅は49㎝、底面の最大幅は43㎝、深さは12㎝を測る。
【壁・底面】断面形状は箱型を呈している。
【堆積土】褐色土を主体とする。基本層序第BⅢ層の小塊を少量含む。
【出土遺物】遺物は出土しなかった。
【小結】遺構の新旧関係や検出層位および堆積土の状況から、平安時代以降に埋没したものと思われる。（工藤）

第６号溝跡（ＡＳＤ－６）（図10）
【位置・確認】Ｈ・Ｉ－10グリッドに位置する。基本層序第BⅢ層上面で確認した。
【重複】認められない。
【形態・規模】北東から南西方向に延びるものであり、確認される長さは1.3m、確認面での最大幅は20㎝、底面の最大幅は９㎝、深さは14㎝を測る。
【壁・底面】断面形状はU字型を呈している。
【堆積土】粒子が均一な、にぶい黄褐色土を主体とし、自然堆積の様相を呈する。
【出土遺物】遺物は出土しなかった。
【小結】直線的に構築される小規模な溝跡である。検出層位および堆積土の状況から、平安時代以降に埋没したものと思われる。（工藤）

第７号溝跡（ＡＳＤ－７）（図10）
【位置・確認】Ｊ－10・11グリッドに位置する。基本層序第BⅢ層上面で確認した。
【重複】なし。
【形態・規模】東西方向に延びるものであり、確認される長さは1.6m、確認面での最大幅は18㎝、底面の最大幅は10㎝、深さは12㎝を測る。
【壁・底面】断面形状はU字型を呈している。
【堆積土】粒子が均一な、にぶい黄褐色土を主体とし、自然堆積の様相を呈する。
【出土遺物】遺物は出土しなかった。
【小結】直線的に延びる小規模な溝跡である。検出層位および堆積土の状況から、平安時代以降に埋没したものと思われる。（工藤）

第８号溝跡（ＡＳＤ－８）（図10）
【位置・確認】Ｊ－10グリッドに位置する。基本層序第BⅢ層上面で確認した。
【重複】なし。
【形態・規模】東西方向に延びるものであり、確認される長さは1.9m、確認面での最大幅は43㎝、底



A区第１号溝跡
1層　10YR3/4　暗褐色土　炭化物(φ1～2㎜)極微量、粘性強、しまり強
2層　10YR3/3　暗褐色土　浮石(φ1～2㎜)極微量、炭化物(φ1～3㎜)少量、粘性強、しまり強
3層　10YR4/4　褐色土　10YR3/3暗褐色土多量、浮石(φ1～2㎜)極微量、炭化物(φ1～2㎜)極微量、粘性強、しまり強
4層　10YR4/4　褐色土　浮石(φ1～2㎜)極微量、粘性強、しまり強
5層　10YR5/3　にぶい黄褐色土　10YR5/4にぶい黄褐色粘土多量、粘性強、しまり強

A区第２号溝跡
1層　10YR4/4　褐色土　浮石(φ1～3㎜)極微量、粘性弱、しまり強
2層　10YR5/4　にぶい黄褐色土　浮石(φ1～15m)極微量、第BⅢ層ブロック状に混入、粘性弱、しまり強

A区第25号溝跡
1層　10YR4/4　褐色土　10YR4/3にぶい黄褐色土多量、10YR3/3暗褐色土粒ブロック(φ1～70㎜)中量、
2.5Y6/3にぶい黄色シルト粒ブロック(φ1～30㎜)少量、浮石(φ1～10㎜)微量、粘性中
2層　10YR4/4　褐色土　浮石(φ1～5㎜)微量、粘性中、しまり強

A区第６号溝跡
1層　10YR5/4　にぶい黄褐色土　浮石(φ1～2㎜)極微量、粘性弱、しまり強

A区第７号溝跡
1層　10YR5/4　にぶい黄褐色土　浮石(φ1～2㎜)極微量、粘性弱、しまり中

A区第８号溝跡
1層　10YR5/4　にぶい黄褐色土　浮石(φ1～2㎜)極微量、粘性弱、しまり中

A区第９号溝跡
1層　10YR4/6　褐色土　10YR6/4にぶい黄橙色土多量、粘性弱、しまり強

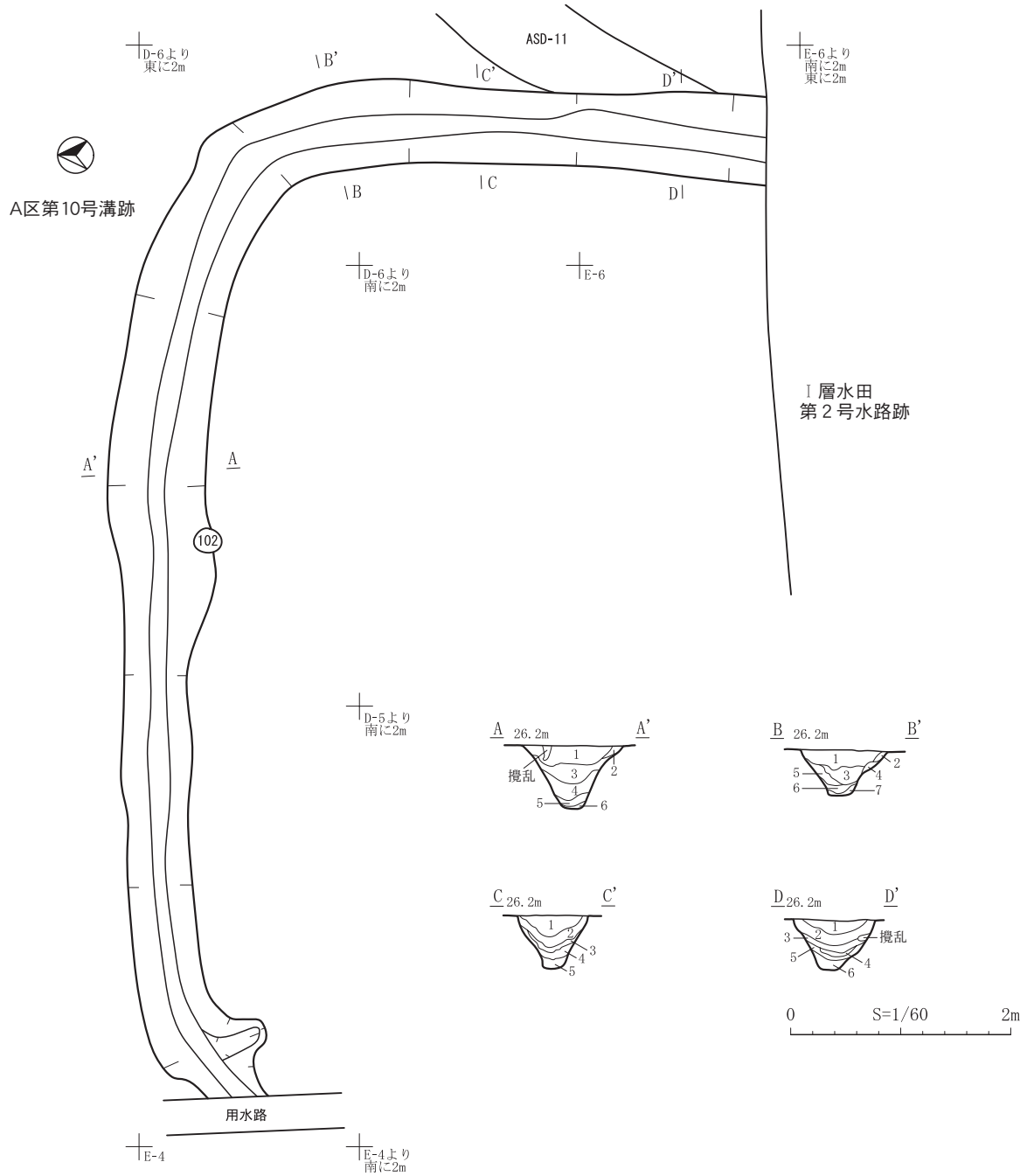
図10　A区溝跡（1）

面の最大幅は26㎝、深さは９㎝を測る。
【壁・底面】断面形状はV字型を呈している。
【堆積土】粒子が均一な、にぶい黄褐色土を主体とし、自然堆積の様相を呈する。
【出土遺物】遺物は出土しなかった。
【小結】直線的に構築される小規模な溝跡である。検出層位および堆積土の状況から、平安時代以降に埋没したものと思われる。（工藤）

第９号溝跡（ＡＳＤ－９）（図10）
【位置・確認】Ｊ・Ｋ－10グリッドに位置する。基本層序第BⅢ層上面で確認した。
【重複】なし。
【形態・規模】北西から南東方向に延び、Ｓ字型に屈曲するものである。確認された長さは3.1ｍ、確認面での最大幅は42㎝、底面の最大幅は30㎝、深さは17㎝を測る。
【壁・底面】断面形状はU字型を呈している。
【堆積土】粒子が均一な褐色土を主体とし、自然堆積の様相を呈する。
【出土遺物】遺物は出土しなかった。
【小結】検出層位および堆積土の状況から、平安時代以降に埋没したものと思われる。（工藤）

第10号溝跡（ＡＳＤ－10）（図11）
【位置・確認】Ｆ－５・６グリッドに位置している。基本層序第ＢⅢａ層中で確認した。
【重複】第11号溝跡及びⅠ層水田第２号水路跡と重複している。第11号溝跡との明確な新旧関係は不明であるが、本遺構が新しい可能性が高い。Ⅰ層水田第２号水路跡よりは古い。
【形態・規模】確認できた上面幅70～90㎝、底面幅30～50㎝、深さは60㎝前後を測る。
【壁・底面】基本層序第ＢⅢａ～Ⅵ層を壁・底面としている。壁は底面からやや急に立ち上がっている。底面はほぼ平坦に造られている。断面の形状は逆台形状を呈している。
【堆積土】５～８層に分層できた。ほぼ自然堆積の様相を呈している。
【出土遺物】堆積土中層からかわらけ（土師器Ⅲ）が出土しており、第20号土坑の１層出土と第12号溝跡の２層出土の個体と接合する（図９－６）。12世紀末から13世紀初頭のものである。
【小結】出土遺物より、中世の可能性が高い。（笹森）

第11号溝跡（ＡＳＤ－11）（図12）
【位置・確認】Ｅ－６グリッド他に位置している。基本層序第ＢⅢａ層中で確認した。
【重複】第10号溝跡、第１号円形周溝と重複している。堆積土の状況から第１号円形周溝より古いことが確認できた。第10号溝跡との明確な関係は不明であるが、本遺構が古い可能性が高い。基本層序第ＢⅢｂ層の下に存在するＢⅣ層水田跡よりは新しい。
【形態・規模】確認できた上面幅70～90㎝、底面幅20～30㎝、深さは50㎝前後を測る。
【壁・底面】基本層序第ＢⅢａ～Ⅵ層を壁・底面としている。壁は底面からやや急に立ち上がっている。底面はほぼ平坦に造られている。断面の形状は逆台形状を呈している。



A区第10号溝跡　A-A′

1層	10YR5/4	にぶい黄褐色土	10YR3/3暗褐色土粒(φ5～25㎜)微量、浮石(φ1～5㎜)微量、10YR6/4にぶい黄橙色土が層下部に混入、粘性なし、しまり強
2層	10YR5/6	黄褐色土	粘性なし、しまり強
3層	10YR5/6	黄褐色土	2.5Y5/3黄褐色土多量、層下部に10YR3/3暗褐色土が円形に混合、2.5Y6/3にぶい黄色シルト混入、粘性なし、しまり強
4層	10YR4/4	褐色土	10YR4/3にぶい黄橙色土多量、粘性なし、しまり中
5層	10YR3/4	暗褐色土	10YR5/4にぶい黄褐色土多量、10YR5/4にぶい黄褐色シルト質土が層右上部に混入、粘性なし、しまり中
6層	10YR5/4	にぶい黄褐色土	粘性なし、しまりやや強

A区第10号溝跡　B-B′

1層	10YR4/4	褐色土	10YR5/6黄褐色土多量、浮石(φ1～5㎜)極微量、粘性なし、しまり中
2層	10YR5/6	黄褐色土	粘性なし、しまり強
3層	10YR4/4	褐色土	10YR5/4にぶい黄褐色土多量、浮石(φ1～30㎜)微量、炭化物粒(φ1～3㎜)極微量、粘性なし、しまりやや強
4層	10YR5/4	にぶい黄褐色土シルト	粘性なし、しまり強
5層	10YR4/4	褐色土	10YR5/6黄褐色土多量、浮石(φ1～15㎜)微量、粘性なし、しまりやや強
6層	2.5Y6/3	にぶい黄色土	10YR5/4にぶい黄褐色土多量、浮石(φ1～30㎜)微量、炭化物粒(φ1～3㎜)極微量、粘性なし、しまり強
7層	10YR4/4	褐色土	2.5Y6/3にぶい黄色土多量、粘性弱、しまりやや強

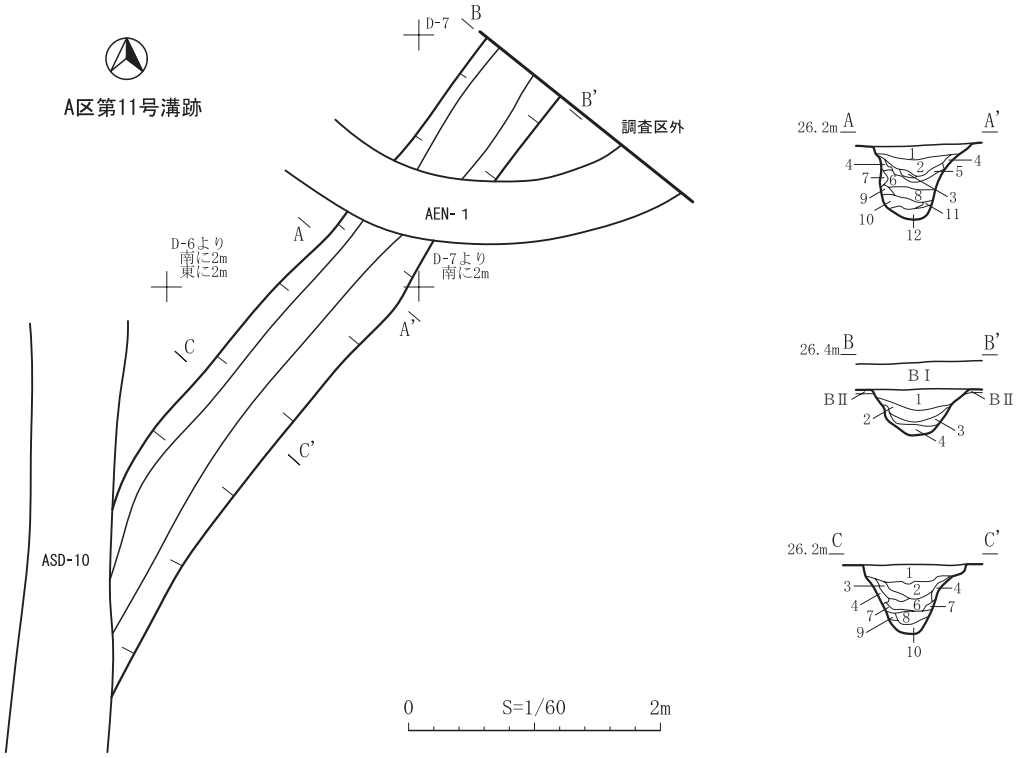
A区第10号溝跡　C-C′

1層	10YR5/4	にぶい黄褐色土	2.5Y6/3にぶい黄色土多量、浮石(φ1～5㎜)微量、粘性なし、しまり強
2層	10YR3/4	暗褐色土	層の左右両方の上は10YR5/6黄褐色土粘性なし、しまりやや強
3層	10YR5/4	にぶい黄褐色土	粘性なし、しまりやや強
4層	10YR4/4	褐色土	2.5Y6/3にぶい黄色シルト粒が層右側に混入、粘性なし、しまり中
5層	10YR5/4	にぶい黄褐色土	2.5Y6/3にぶい黄色土多量、7.5YR5/8明褐色土粒(φ1～5㎜)微量、粘性なし、しまり中

A区第10号溝跡　D-D′

1層	10YR4/4	褐色土	10YR5/6黄褐色土多量、浮石(φ1～5㎜)極微量、粘性なし、しまり中
2層	10YR3/4	暗褐色土	層の左右両方の上は10YR5/6黄褐色土、粘性なし、しまりやや強
3層	10YR5/4	にぶい黄褐色土	粘性なし、しまりやや強
4層	10YR4/4	褐色土	2.5Y6/3にぶい黄色シルト粒が層右側に混入、粘性なし、しまり中
5層	10YR5/4	にぶい黄褐色土シルト	粘性なし、しまり強
6層	10YR5/4	にぶい黄褐色土	2.5Y6/3にぶい黄色土多量、7.5YR5/8明褐色土粒(φ1～5㎜)微量、粘性なし、しまり中

図11　A区溝跡（2）



A区第11号溝跡　A-A′

1層	10YR4/4	褐色土	浮石(φ1～5㎜)極微量、粘性やや弱、しまりやや弱
2層	10YR5/6	黄褐色土	2.5Y6/3にぶい黄色多量、鉄分微量混入　浮石(φ1～5㎜)極微量粘性やや弱、しまりやや強
3層	2.5Y5/3	黄褐色シルト	10YR4/4褐色土多量、浮石混入、粘性やや弱、しまりやや強
4層	2.5Y5/3	黄褐色シルト	10YR4/4褐色土多量、浮石(φ1～5㎜)微量、しまり強
5層	10YR4/4	褐色土	10YR5/4にぶい黄褐色土多量、浮石(φ1～5㎜)極微量、粘性やや弱、しまりやや強
6層	10YR4/4	褐色土	浮石(φ1～10㎜)微量、層右側がまばらに混入、粘性やや弱、しまり強
7層	10YR4/4	褐色土	10YR5/3にぶい黄褐色土多量、粘性やや弱、しまり中
8層	10YR3/4	暗褐色土	10YR5/4にぶい黄褐色多量、粘性弱、しまり中
9層	10YR4/4	褐色土	10YR5/4にぶい黄褐色土多量、炭化物粒(φ10㎜)極微量、しまり中
10層	10YR3/4	暗褐色土	10YR4/4褐色土多量、粘性やや弱、しまり中
11層	2.5Y5/3	黄褐色シルト	10YR3/4暗褐色土多量、炭化物粒(φ1～3㎜)極微量、しまり強
12層	10YR3/4	暗褐色土	2.5Y5/3灰黄褐色多量、粘性中、しまりやや強

A区第11号溝跡　B-B′

1層	10YR4/4	褐色土	しまり中
2層	10YR4/4	褐色土	2.5Y5/3黄褐色多量、鉄分微量混入、粘性中、しまり中
3層	2.5Y5/3	黄褐色シルト	10YR4/4褐色土多量、しまりやや強
4層	2.5Y5/3	黄褐色シルト	10YR4/4褐色土中量混入、粘性弱、しまりやや強

A区第11号溝跡　C-C′

1層	10YR4/4	褐色土	浮石(φ1～5㎜)極微量、粘性やや弱、しまりやや弱
2層	10YR5/6	黄褐色土	2.5Y6/3にぶい黄色多量、鉄分微量混入　浮石(φ1～5㎜)極微量、粘性やや弱、しまりやや強
3層	2.5Y5/3	黄褐色シルト	10YR4/4褐色土多量、浮石混入、粘性やや弱、しまりやや強
4層	2.5Y5/3	黄褐色シルト	10YR4/4褐色土多量、浮石(φ1～5㎜)微量、しまり強
5層	10YR4/4	褐色土	10YR5/4にぶい黄褐色土多量、浮石(φ1～5㎜)極微量、粘性やや弱、しまりやや強
6層	10YR4/4	褐色土	浮石(φ1～10㎜)微量、層右側でまばらに混入、粘性やや弱、しまり強
7層	10YR4/4	褐色土	10YR5/3にぶい黄褐色土多量、粘性やや弱、しまり中
8層	10YR3/4	暗褐色土	10YR5/4にぶい黄褐色多量、粘性弱、しまり中
9層	10YR4/4	褐色土	10YR5/4にぶい黄褐色土多量、炭化物粒(φ10㎜)極微量、しまり中
10層	10YR3/4	暗褐色土	10YR4/4褐色土多量、粘性やや弱、しまり中

図12　Ａ区溝跡（３）

【堆積土】４～13層に分層できた。ほぼ自然堆積の様相を呈している。
【出土遺物】円礫が出土しているが図示できるような遺物ではない。
【小結】詳細については不明であるが、第１号円形周溝より古いことから、平安時代の溝跡の可能性が高い。（笹森）

第12号溝跡（ＡＳＤ－12）（図13）
【位置・確認】Ｆ・Ｇ－4～6グリッドに位置する。基本層序第BⅢ層上面で確認した。
【重複】第10号土坑、第52号ピットと重複している。新旧関係は本遺構が古い。
【形態・規模】東西方向に直線的に延びるものであり、西部が調査区域外に延びているため全容は不明である。確認された長さは9.1m、確認面での最大幅は188㎝、底面の最大幅は115㎝、深さは36㎝を測る。
【壁・底面】断面形状は箱型を呈し、底面は起伏が著しい。
【堆積土】炭化物を含む褐色土とにぶい黄橙色土を主体とし、２層には基本層序第ＢⅣ層の小塊が混入する。人為堆積の様相を呈する（図９－６）。
【出土遺物】１層より、かわらけ（土師器皿）が出土しており、第20号土坑１層出土と第10号溝跡中層出土の個体と接合する。
【小結】出土遺物と遺構の新旧関係から、中世以降に埋没したものと思われる。（工藤）

第13号溝跡（ＡＳＤ－13）
遺構確認時に溝跡と認識したが調査の結果、遺構と判断しなかったため、欠番とした。

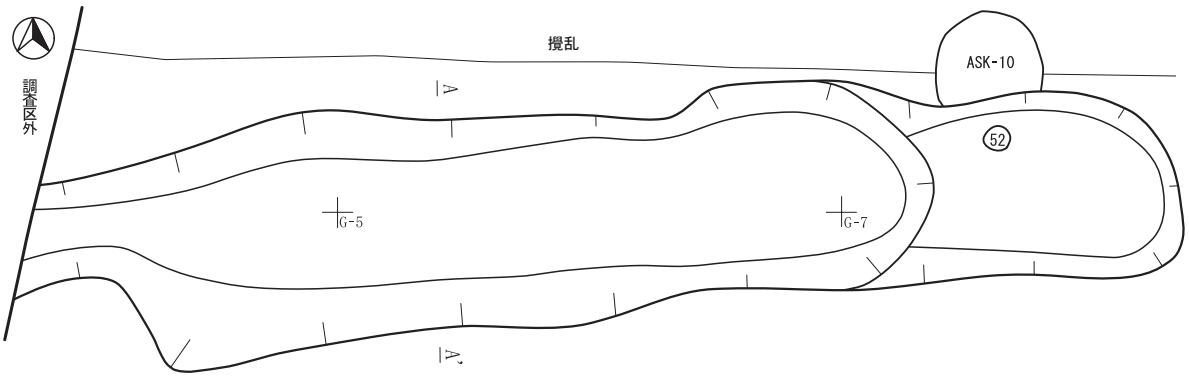
第14号溝跡（ＡＳＤ－14）
遺構確認時に溝跡と認識したが調査の結果、遺構と判断しなかったため、欠番とした。

第15号溝跡（ＡＳＤ－15）
遺構確認時に溝跡と認識したが調査の結果、遺構と判断しなかったため、欠番とした。

第16号溝跡（ＡＳＤ－16）
遺構確認時に溝跡と認識したが調査の結果、遺構と判断しなかったため、欠番とした。

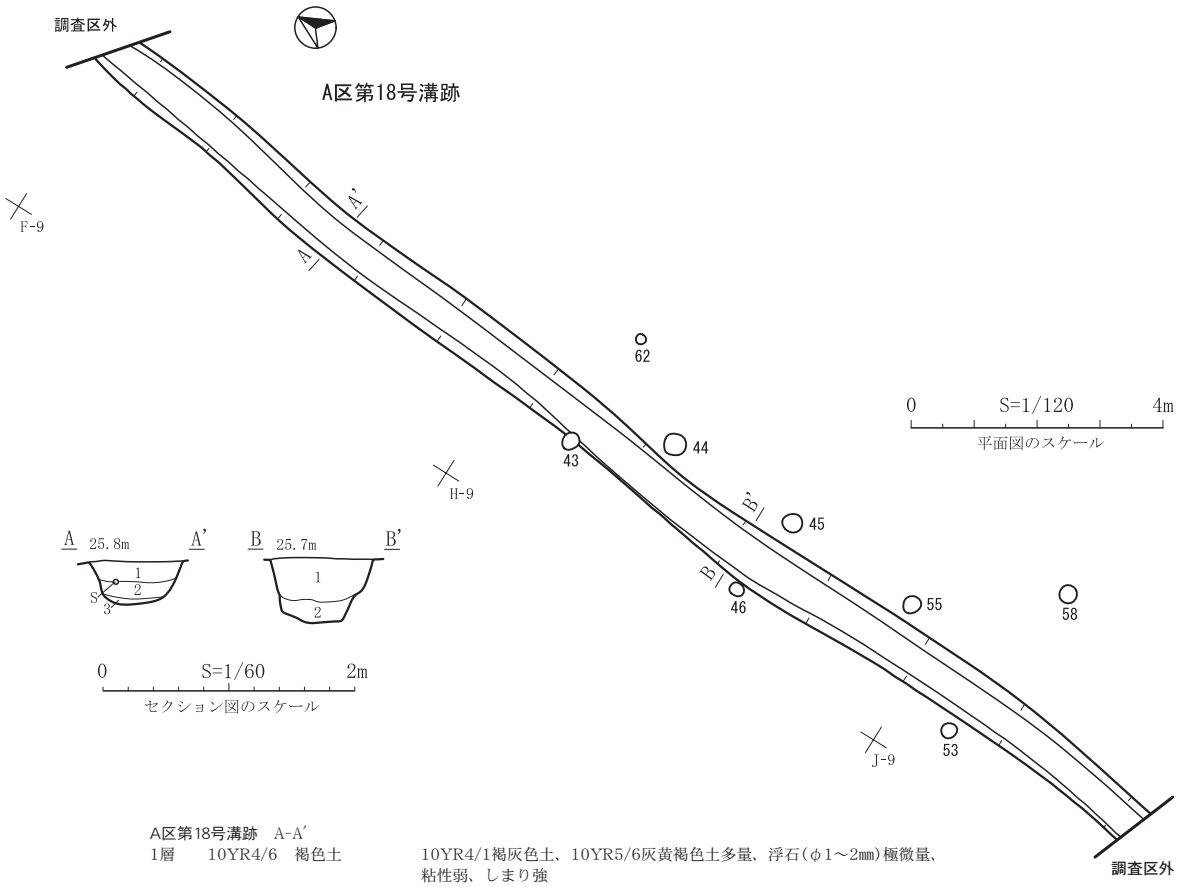
第17号溝跡（ＡＳＤ－17）
遺構確認時に溝跡と認識したが調査の結果、遺構と判断しなかったため、欠番とした。

第18号溝跡（ＡＳＤ－18）（図13）
【位置・確認】Ｆ～Ｋ－9グリッドに位置する。基本層序第BⅢ層上面で確認した。
【重複】第43号ピットと重複している。新旧関係は本遺構が古い。
【形態・規模】南北方向に直線的に延びるものであり、南・北部が調査区外に存在するため全容は不明



A区第12号溝跡

A区第12号溝跡
1層　10YR4/4　褐色土　浮石(φ1～20㎜)微量、炭化物(φ1～5㎜)極微量、
第BⅢ層(10YR6/3にぶい黄橙色土)ブロック状に混入、粘性弱、しまり強
2層　10YR6/4　にぶい黄橙色土　10YR5/4にぶい黄褐色土多量、浮石(φ1～3㎜)極微量、
床面土(7.5YR5/8黄褐色土)ブロック状に混入、粘性弱、しまり強



A区第18号溝跡　A-A′
1層　10YR4/6　褐色土　10YR4/1褐灰色土、10YR5/6灰黄褐色土多量、浮石(φ1～2㎜)極微量、
粘性弱、しまり強
2層　10YR5/3　にぶい黄褐色土　浮石(φ1～2㎜)極微量、粘性弱、しまり強
3層　10YR4/4　褐色粘土　粘性強、しまり強

A区第18号溝跡　B-B′
1層　10YR4/6　褐色土　浮石(φ1～2㎜)極微量、粘性強、しまり強
2層　10YR4/4　褐色粘土　10YR5/4にぶい黄褐色土多量、粘性やや強、しまり強

図13　A区溝跡（４）

である。確認された長さは20.6m、確認面での最大幅は88㎝、底面の最大幅は58㎝、深さ65㎝を測る。
【壁・底面】断面形状はU字型であり、一部箱形を呈する。底面はなだらかである。
【堆積土】上層は粒子が均一な褐色土を主体とし、底面付近は褐色粘質土を主体とする。自然堆積の様相を呈する。
【出土遺物】１層から銭貨が出土している。面文が不明瞭であり、銭種は不明である。掲載はしていない。
【小結】直線的に延びることから、区画溝の可能性がある。検出層位と堆積土の状況から、平安時代以降に埋没したものと思われる。（工藤）

第19号溝跡（ＡＳＤ－19）

遺構確認時に溝跡と認識したが調査の結果、遺構と判断しなかったため、欠番とした。

第20号溝跡（ＡＳＤ－20）（図14）
【位置・確認】Ｄ－３グリッド他に位置している。基本層序第ＢⅣ層中で確認した。
【重複】第23・24号溝跡、第１号道路状遺構東側側溝(ＡＳＤ－21)と重複している。本遺構が道路状遺構側溝より古く、他の溝跡との新旧は不明である。ＢⅣ層水田跡よりは新しい。
【形態・規模】半円状に検出されている。確認できた外径は470㎝、内径は320㎝、深さは最大82㎝を測る。
【壁・底面】基本層序第ＢⅣ～Ⅵ層を壁・底面としている。壁は底面からやや急に立ち上がっている。底面はほぼ平坦に造られている。断面の形状は逆台形状を呈している。
【堆積土】９層に分層できた。ほぼ自然堆積の様相を呈している。
【出土遺物】覆土中層より土師器片や焼成粘土塊が出土している（図14－１）。
【小結】円形周溝の可能性も考えられるが判然としない。土師器片等が出土してることから平安時代の可能性が高い。（笹森）

第21号溝跡（ＡＳＤ－21）

第１号道路跡側溝としたため整理段階で欠番とした。

第22号溝跡（ＡＳＤ－22）

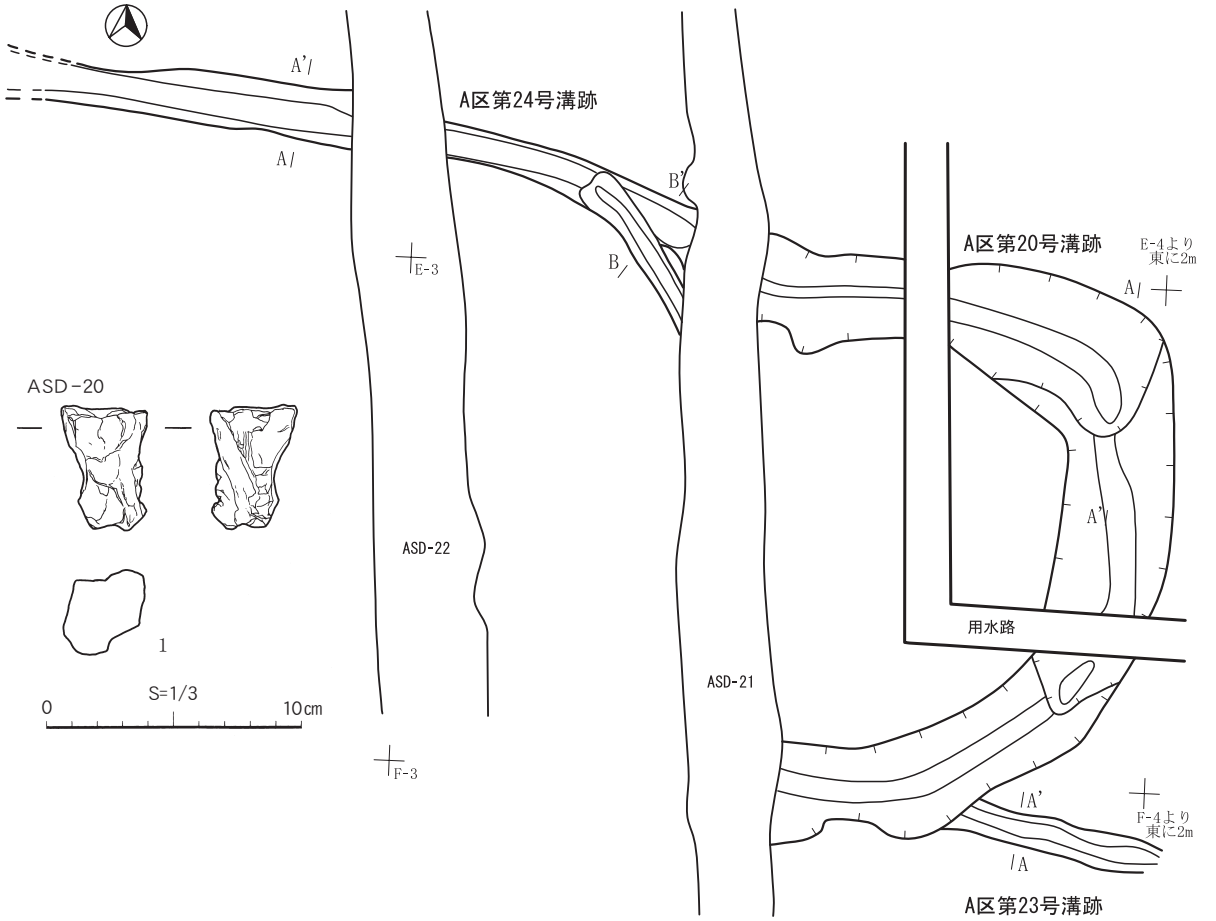
第１号道路跡側溝としたため整理段階で欠番とした。

第23号溝跡（ＡＳＤ－23）（図14）
【位置・確認】Ｆ－４グリッドに位置している。基本層序第ＢⅣ層中で確認した。
【重複】第20号溝跡及びＢⅣ層水田跡と重複している。第20号溝跡との新旧関係は不明である。ＢⅣ層水田跡よりは新しい。
【形態・規模】西側は第20号溝跡に接し、東側は削平を受けている。確認できた長さは160㎝、幅25㎝、深さは８㎝を測る。

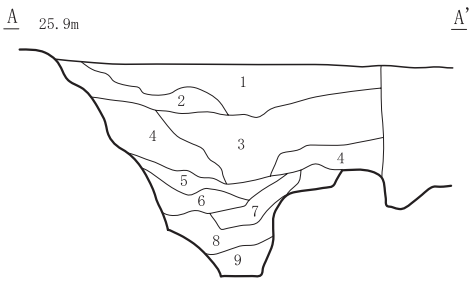
【壁・底面】基本層序第ＢⅣ層を壁・底面としている。壁は底面から緩やかに立ち上がっている。底面はほぼ平坦に造られている。断面の形状は逆台形状を呈している。
【堆積土】１層の単層である。自然堆積の様相を呈している。
【出土遺物】図示できるような遺物は出土していない。
【小結】詳細については不明であるが、中世以降の可能性が高い。　（笹森）

第24号溝跡（ＡＳＤ－24）（図14）
【位置・確認】Ｄ－２グリッド他に位置している。基本層序第ＢⅣ層中で確認した。
【重複】第１号道路跡（ＡＳＤ－21・22）と重複している。新旧関係は本遺構が古い。
【形態・規模】確認できた長さは5.3m、幅30～42㎝、深さは22～24㎝を測る。
【堆積土】７～９層に分層できた。一部人為堆積の様相を呈している。
【壁・底面】基本層序第ＢⅣ・Ⅴ層を壁・底面としている。壁は底面から緩やかに立ち上がっている。底面はほぼ平坦に造られている。断面の形状は逆台形状を呈している。
【出土遺物】図示できるような遺物は出土していない。
【小結】詳細については不明であるが、中世以降の可能性が高い。　（笹森）

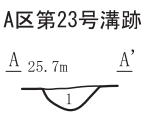
第25号溝跡（ＡＳＤ－25）（図10）
【位置・確認】Ｈ・Ｉ－12グリッドに位置する。基本層序第BⅢ層上面で確認した。
【重複】第１号溝跡・第２号溝跡と重複している。新旧関係は第２号溝跡より新しい。第１号溝跡との新旧関係は判断できなかった。
【形態・規模】南北方向に直線的な軸を持つものであり、北部が調査区外に延びるため全容は不明である。確認された長さは5.2m、確認面での最大幅は103㎝、底面の最大幅は39㎝、深さは56㎝を測る。
【壁・底面】断面形状は箱型を呈している。
【堆積土】褐色土を主体とし、基本土層第BⅢ層の小塊、にぶい黄色シルトを少量含む。
【出土遺物】遺物は出土しなかった。
【小結】本遺構と第１号溝跡の覆土下層や底面標高が類似し、また底面に段差が無く連続することから、第１号溝跡とほぼ同時期に使用され埋没したと考えられるため、中世以降に埋没した可能性がある。
（工藤）



平面図のスケール

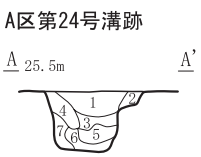


A区第20号溝跡			
1層	10YR4/4	褐色土	10YR5/4にぶい黄褐色土との混合土、浮石(φ1～10mm)微量、第BⅢ層(10YR7/3にぶい黄橙色土と10YR1/4にぶい黄橙色土の混合土)、粘性弱、しまり強
2層	10YR4/4	褐色土	10YR4/3にぶい黄褐色土との混合土、浮石(φ1～15mm)極微量、第BⅢ層(10YR7/3にぶい黄橙色土と10YR4/4にぶい黄橙色土の混合土)、焼土(φ1～3mm)極微量(1.5YR5/8明褐色土)、粘性弱、しまり強
3層	10YR4/3	にぶい黄褐色土	10YR4/4褐色土との混合土、浮石(φ1～15mm)微量、第BⅢ層(10YR6/3にぶい黄褐色土がブロック状に混入)、10YR5/4にぶい黄褐色と7.5YR4/6褐色土の混合土がブロック状に混入、炭化物(φ1～5mm)極微量、粘性弱、しまり強
4層	10YR4/4	褐色土	10YR4/3にぶい黄褐色土との混合土、浮石(φ1～10mm)極微量、炭化物(φ1～5mm)極微量、第BⅢ層(10YR5/4にぶい黄褐色と10YR6/3にぶい黄橙色土の混合土がブロック状に混入)、10YR5/4にぶい黄褐色土と7.5YR4/6褐色土の混合土がブロック状に混入、粘性弱、しまり強
5層	10YR4/6	褐色土	10YR4/3にぶい黄褐色と10YR5/4にぶい黄褐色土との混合土、浮石(φ1～10mm)極微量、第BⅢ層(10YR5/4にぶい黄褐色土)ブロック状に混入、粘性弱、しまりやや強
6層	10YR4/6	褐色土	10YR4/3にぶい黄褐色土との混合土、浮石(φ1～5mm)微量、第BⅢ層(10YR6/3にぶい黄橙色がブロック状に中量混入)
7層	10YR4/3	にぶい黄褐色土	10YR4/4褐色土と10YR4/6褐色土との混合土、第BⅢ層(10YR6/4にぶい黄橙色土と10YR5/4にぶい黄褐色土の混合土が多量に混入)、粘性やや弱、しまり強
8層	10YR5/4	にぶい黄褐色土	7.5YR4/6褐色土との混合土、浮石(φ1～3mm)極微量、第BⅢ層(10YR5/4にぶい黄褐色土の混合土がブロック状に混入)、(第BⅤ層崩落土)、粘性中、しまり中
9層	10YR4/4	褐色土	10YR4/5にぶい黄褐色土との混合土、浮石(φ1～5mm)極微量、第BⅢ層(10YR5/4にぶい黄褐色土と第BⅤ層がブロック状に混入)、粘性弱、しまりやや強



A区第23号溝跡

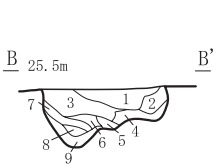
1層	10YR4/4 褐色土	10YR4/6褐色土との混合土、第BⅢ層と第BⅡ層が混入、浮石(φ1～2mm)微量、小石(φ2cm)極微量、粘性弱、しまり強



A区第24号溝跡　A-A'

1層	10YR3/4	暗褐色土
2層	10YR4/3	にぶい黄褐色土
3層	10YR4/4	褐色土
4層	10YR4/3	にぶい黄褐色土
5層	10YR4/3	にぶい黄褐色土
6層	10YR4/3	にぶい黄褐色粘土
7層	10YR4/3	にぶい黄褐色粘土

10YR4/4褐色土との混合土、浮石(φ1～2mm)極微量、粘性弱、しまり強
浮石(φ1～10mm)微量、粘性弱、しまり強
10YR4/3にぶい黄褐色土との混合土、第BⅢ層ブロック状に微量混入、粘性やや中、しまりやや強
浮石(φ1～3mm)微量、第BⅢ層ブロック状に少量混入(10YR5/3にぶい黄褐色土)、粘性やや中、しまりやや強
第BⅤ(10YR5/4にぶい黄褐色粘土)と(7.5YR4/6褐色土と10YR4/4褐色土)ブロック状に中量混入、粘性やや中、しまりやや強
第BⅤ層崩落土ブロック状に中量混入、第BⅢ層粒状に極微量混入、粘性やや中、しまりやや強
10YR4/4褐色土との混合土、第BⅢ層ブロック状に微量混入(7.5YR4/6褐色土含)、粘性中、しまりやや強



A区第24号溝跡　B-B'

1層 A-A'	1層	相当
2層 A-A'	2層	相当
3層 A-A'	4層	相当
4層	10YR5/4	にぶい黄褐色土
5層	10YR4/4	褐色土
6層	10YR5/4	にぶい黄褐色土
7層	10YR5/4	にぶい黄褐色土
8層	10YR4/4	褐色土
9層	10YR4/3	にぶい黄褐色土

第BⅤ層ブロック状に混入
5YR2/3極暗赤褐色土がブロック状に混入、第AⅥ層ブロック状に混入
第BⅤ層崩落土多量に混入、粘性弱、しまり強
10YR5/4にぶい黄橙色土との混合土、浮石(φ1～5mm)極微量、第BⅢ層ブロック状に混入、粘性弱、しまり強
粘性弱、しまりやや強
粘性弱、しまり強、第BⅢ層崩落土　10YR4/4褐色土　ブロック状に混入
第BⅥ層ブロック状に混入、粘性弱、しまり強
第BⅢ層とBⅣ層ブロック状に混入、粘性やや中、しまりやや強、A-A' 7層　相当

0　S=1/30　1m

セクション図のスケール

図14　A区溝跡（5）

第６節　濠跡

第１号濠跡（ＡＨＲ－１）（図15・16）

【位置・確認】Ｉ～Ｎ－12～14グリッドに位置する。基本層序第ＢⅢ層上面で検出した。

【重複】第６号土坑・第33号土坑・第１号溝跡・第２号濠跡・第３号濠跡と重複し、本遺構が第６号土坑・第33号土坑より古く、第２号濠跡・第３号濠跡より新しい。第１号溝跡との新旧関係は判断できなかった。

【形態・規模】南北方向に緩やかなＳ字型を呈しながら屈曲し延びるものであり、調査区外に達するため全容は不明である。確認される長さは22.1m、確認面での最大幅は258㎝、底面幅は80㎝、深さは136㎝で、断面形状はＵ・Ｖ字型を呈している。

【壁・底面】壁の底面からの立ち上がりは急である。底面はほぼ平坦に造られている。

【堆積土】褐色土を主体とし、上層にはシルト質の灰黄褐色土を多量に含む。中層には炭化物を少量、下層では基本層序第ＢⅢ層の中塊をやや多く含み、底面の一部には砂が堆積する。自然堆積の様相を呈する。

【ピット】濠跡底面及び壁面からは検出されなかった。

【その他の施設】検出されなかった。

【出土遺物】上層からウシ・ウマ類の遊離歯片と、中層（セクションＢ－Ｂ′の２層)より、珠洲擂鉢体部破片が出土した。珠洲は全体が摩滅しており、内面の卸目は確認できなかった。詳細な帰属年代は不明である。また、須恵器壺破片が出土している（図16－１）。

【小結】遺構内の堆積土層から、構築当時は間欠的な流水環境であったものと思われ、出土遺物と土層堆積の状況から、平安時代末以降に埋没したものと思われる。　（工藤）

第２号濠跡（ＡＨＲ－２－１・２）（図15・16）

本遺構は土層断面と底面の状況から新・旧の２時期に分けられるため、それぞれ第２号濠跡（新)、第２号濠跡（古）とし、略称は新しい遺構をAHR－２－１、古い遺構をAHR－２－２とした。

【位置・確認】Ｊ～Ｎ－13～15グリッドに位置する。基本層序第ＢⅢ層上面で検出した。

【重複】第33号土坑・第５号溝跡・第１号濠跡・第３号濠跡・Ｂ区第54号溝跡と重複し、本遺構が第33号土坑・第１号濠跡・第３号濠跡・Ｂ区第54号溝跡より古く、第５号溝跡より新しい。

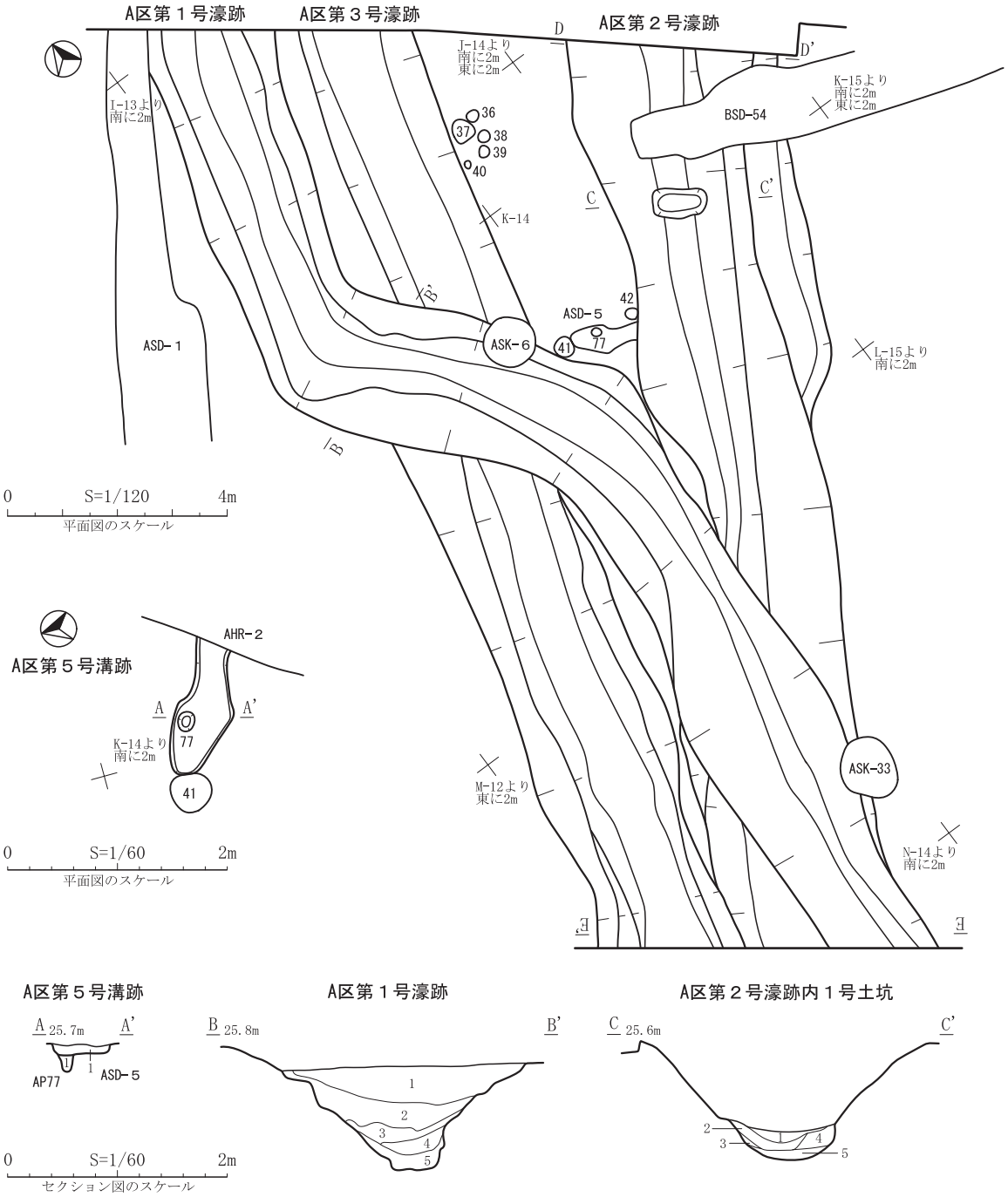
【形態・規模】北東から南西方向に直線的に延びるものであり、調査区外に延びるため全容は不明である。確認される長さは16.6m、確認面での最大幅は388㎝、底面の最大幅は81㎝、深さは143㎝で、断面形状は北部はU字型、南部では箱形を呈している。

【壁・底面】壁の底面からの立ち上がりは急である。底面はほぼ平坦に造られており、断面形状はU字型を呈する。

【堆積土】第２号濠跡（新）の上～中層は黄褐色土や褐色土を主体とし、炭化物を微量に含む。下層は褐色～暗褐色土を主体とし、最下層に粘性の強い暗褐色土が堆積する。上層は人為堆積の様相を呈するが、下層は滞水環境による自然堆積の様相を呈する。第２号濠跡（古）は、にぶい黄褐色土を主体とし、層間に砂が板状に堆積している状況が散見されることから、恒常的な流水作用により埋没し

たことが看取される。
【ピット】濠跡底面及び壁面からは検出されなかった。
【その他の施設】濠跡内の底面付近より、土坑１基を検出した。第２号濠跡（新）の８層を掘り込み構築されている。堆積土は粘性が強く、第２－１号濠跡Ｄ－Ｄ′土層断面の６層に相当する土壌が堆積し、滞水環境における自然堆積の様相を呈する。遺物は出土しておらず、自然作用により形成された可能性もある。
【出土遺物】堆積土下層より須恵器短頸壺（図16－２）および、甕（図16－３）の破片が出土している。また、最下層から、被熱した礫や黒色物質が付着する礫が出土している。
【小結】調査区北部Ｄ－Ｄ′の土層断面と底面状況から、本遺構は少なくとも１度の改修行為が行われていたものと判断される。第２号濠跡（古）は流水環境で埋没し、第２号濠跡（新）では廃絶後滞水環境で埋没した後に人為的に埋め立てが行われたことが判明し、出土遺物と新旧関係から、平安時代末以降に埋没したものと思われる。（工藤）

第３号濠跡（ＡＨＲ－３）（図15・16）
【位置・確認】Ｊ～Ｎ－12～14グリッドに位置する。基本層序第ＢⅢ層上面で検出した。
【重複】第１号濠跡・第６号土坑・第２号濠跡と重複し、本遺構が第６号土坑・第１号濠跡より古く、第２号濠跡より新しい。
【形態・規模】北東から南西方向に直線的に延びるものであり、調査区外に達するため全容は不明である。確認される長さは17.8m、確認面での最大幅は266㎝、底面の最大幅は113㎝、深さは135㎝である。
【壁・底面】壁の底面からの立ち上がりは急である。底面は平坦に造られており、断面形状は箱形を呈している。
【堆積土】にぶい黄褐色土と灰黄褐色土を主体とし、上・中層は基本土層第ＢⅢ層と層相が類似する土が堆積し、下層に粘性の強い灰黄褐色土が堆積する。全体に自然堆積の様相を呈する。
【ピット】濠跡底面及び壁面からは検出されなかった。
【その他の施設】検出されなかった。
【出土遺物】遺構底面より、須恵器壺体部破片が出土している。掲載はしていない。
【小結】出土遺物や土層堆積状況から、平安時代末以降に埋没したと思われる。（工藤）

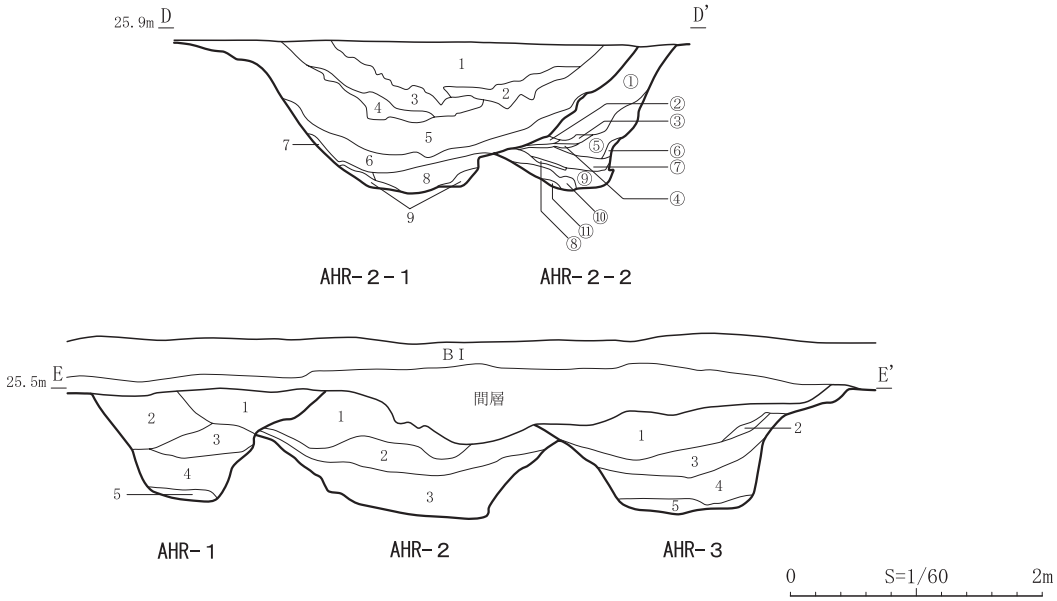


A区第１号溝跡　A-A′
1層　10YR4/4　褐色土　10YR6/4にぶい黄橙色土多量、浮石(φ1～3㎜)極微量、基本土層第BⅢ層の小塊を少量混入、粘性弱、しまり強
AP77
1層　10YR2/3　黒褐色土　10YR3/3暗褐色土多量、粘性弱、しまり強

A区第１号濠跡　B-B′
1層　10YR4/4　褐色土　浮石(φ1～20㎜)少量、第BⅢ層ブロック状に混入、粘性弱、しまり強
2層　10YR4/4　褐色土　浮石(φ1～30㎜)微量、炭化物(φ1～5㎜)極微量、粘性やや中、しまり強
3層　10YR4/3　にぶい黄褐色土　浮石(φ1～15㎜)極微量、第BⅢ層少量混入、粘性弱、しまり強
4層　10YR4/4　褐色土　浮石(φ1～10㎜)極微量、第BⅢ層ブロック状に混入、粘性中、しまり強
5層　10YR4/4　褐色土　浮石(φ1～20㎜)極微量、全体に第BⅢ層ブロック状に混入、粘性やや中、しまり強

A区第２号濠跡内１号土坑　C-C′
1層　10YR3/3　暗褐色粘土　10YR4/3にぶい黄褐色粘土、粘性強、しまりやや強
2層　10YR4/2　灰黄褐色粘土　10YR4/3にぶい黄褐色粘土、粘性強、しまりやや弱
3層　10YR4/3　にぶい黄褐色粘土　粘性やや強、しまり弱
4層　10YR4/3　にぶい黄褐色粘土　粘性やや強、しまり弱
5層　10YR4/2　灰黄褐色粘土　粘性やや強、しまりやや弱

図15　Ａ区溝跡（６）・濠跡（１）



A区第２－１・２号濠跡　D-D′

1層	10YR5/6	黄褐色土	浮石(φ1～3㎜)極微量、炭化物極微量、第BⅢ層(φ1～5cm)ブロック状に混入、粘性中、しまりやや強
2層	10YR4/6	褐色土	浮石(φ1～3㎜)極微量、炭化物極微量、粘性弱、しまりやや強
3層	10YR4/6	褐色土	浮石(φ1～3㎜)極微量、粘性強、しまり強
4層	10YR4/6	褐色土	浮石(φ1～3㎜)極微量、炭化物極微量、10YR5/9黄褐色土が全体の50％混入、粘性弱、しまりやや強
5層	10YR4/2	灰黄褐色土	浮石(φ1～3㎜)極微量、粘性強、しまり強
6層	10YR4/6	褐色土	浮石(φ1～3㎜)極微量、粘性弱、しまり強
7層	10YR5/4	にぶい黄褐色土	10YR6/2灰黄褐色土混入、粘性中、しまり中
8層	10YR6/2	灰黄褐色土	浮石(φ1～7㎜)極微量、粘性中、しまりやや強
9層	10YR6/2	灰黄褐色土	浮石極微量、炭化物極微量、粘性中、しまり中
①層	10YR5/3	にぶい黄褐色土	浮石(φ1～3㎜)極微量、小石(φ1～2cm)、10YR5/8黄褐色土混入、粘性弱、しまりやや強
②層	10YR5/4	にぶい黄褐色土	浮石(φ1～3㎜)極微量、粘性弱、しまりやや強
③層	10YR5/4	にぶい黄褐色土	浮石(φ1～3㎜)極微量、砂を大量に含(30％)、粘性弱、しまりやや強
④層	10YR5/4	にぶい黄褐色土	浮石(φ1～3㎜)極微量、粘性弱、しまりやや強
⑤層	10YR5/3	にぶい黄褐色土	浮石(φ1～3㎜)極微量、10YR5/6黄褐色土が全体に混入、粘性弱、しまりやや強
⑥層	10YR5/6	黄褐色土	浮石(φ1～3㎜)極微量、10YR5/8明赤褐色土混入、粘性弱、しまりやや強
⑦層	10YR6/2	灰黄褐色土	浮石(φ1～3㎜)極微量、10YR5/4にぶい黄褐色土混入、粘性弱、しまりやや強
⑧層	10YR5/3	にぶい黄褐色土	7.5YR4/6褐色土混入、粘性中、しまりやや強
⑨層	10YR5/4	にぶい黄褐色土	浮石(φ1～3㎜)極微量、10YR6/2灰黄褐色土混入、粘性中、しまりやや強
⑩層	10YR5/3	にぶい黄褐色土	7.5YR5/8明褐色土混入、粘性中、しまり中
⑪層	10YR6/2	灰黄褐色土	砂微量混入、7.5YR5/8明褐色土微量混入、粘性弱、しまりやや強

A区第１～３号濠跡　E-E′

間層	10YR5/2	灰黄褐色土	浮石(φ1～20㎜)微量、粘性やや中、しまり強

A区第１号濠跡

1層	10YR4/3	にぶい黄褐色土	10YR4/2灰黄褐色土多量、浮石(φ1～30㎜)極微量、炭化物(φ1～5㎜)極微量、粘性中、しまり強
2層	10YR4/4	褐色土	10YR5/3にぶい黄褐色土多量、浮石(φ1～5㎜)極微量、粘性やや中、しまり強
3層	10YR5/2	灰黄褐色土	10YR4/3にぶい黄褐色土多量、浮石(φ1～10㎜)極微量、炭化物(φ1～5㎜)極微量、粘性中、しまり強
4層	10YR4/3	にぶい黄褐色土	浮石(φ1～5㎜)極微量、第BⅢ層ブロック状に混入、粘性中、しまり強
5層	10YR5/2	灰黄褐色土､砂	砂層下部に第B｣層がブロック状に混入、粘性中、しまり強

A区第２号濠跡

1層	10YR4/3	にぶい黄褐色土	10YR5/3にぶい黄褐色土多量、浮石(φ1～3㎜)極微量、粘性やや中、しまり強 10YR5/2灰黄褐色土、10YR6/2灰黄褐色土多量、
2層	10YR4/4	褐色土	浮石(φ1～10㎜)極微量、炭化物(φ1～15㎜)極微量、粘性やや強、しまり中
3層	2.5Y3/1	暗褐色粘質土	10YR3/2暗褐色土、10YR5/2灰黄褐色土多量、浮石(φ1～3㎜)極微量、粘性強、しまり中

A区第３号濠跡

1層	10YR5/4	にぶい黄褐色土	10YR4/3にぶい黄褐色土、10YR4/2灰黄褐色土多量、浮石(φ1～10㎜)微量、粘性中、しまり強
2層	10YR6/2	灰黄褐色土	粘性弱、しまり強
3層	10YR4/3	にぶい黄褐色土	10YR5/3にぶい黄褐色土、10YR6/4にぶい黄橙色土多量、 浮石(φ1～5㎜)極微量、炭化物(φ1～5㎜)極微量、粘性中、しまりやや強
4層	10YR5/2	灰黄褐色土	10YR5/3にぶい黄褐色土多量、浮石(φ1～10㎜)微量、炭化物(φ1～5㎜)極微量、粘性強、しまり強
5層	10YR5/3	にぶい黄褐色土	粘性やや強、しまり中

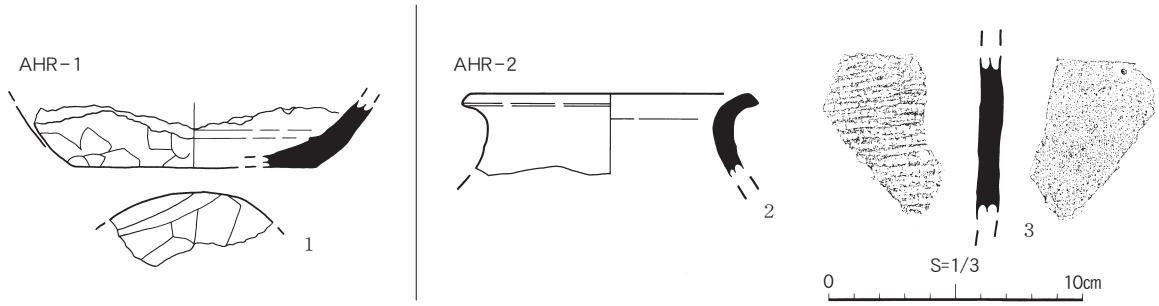


図16　A区濠跡（２）

第７節　円形周溝

第１号円形周溝（ＡＥＮ－1）（図17）

【位置・確認】Ｃ－６グリッド他に位置している。平成17年度の試掘調査時に第５トレンチで確認されている。基本層序第ＢⅢａ層上面で確認したが、調査区際の一部では基本層序第ＢⅡａ層から掘り込まれている様子が確認できる。

【重複】第２号円形周溝、第11号溝跡、及びＢⅣ層水田跡・水路跡と一部重複している。検出面及び堆積土の観察から、本遺構が第２号円形周溝、第11号溝跡より新しいことが確認できた。また、基本層序第ＢⅢｂ層の下に存在するＢⅣ層水田跡や水路跡よりも新しい。

【平面形・規模】北側約半分が調査区外に位置しているため全容を伺い知ることはできないが、平面形はやや不整な円形を呈するものと思われる。推定外径4.6m、推定内径3.9mを測る。溝の上面幅は46～60㎝、底面幅は12～20㎝、深さは36～50㎝を測る。青森市や青森市浪岡で検出されている円形周溝によく見られる開口部は見あたらない。調査区外に存在するか、開口部を持たずに全周するタイプの可能性が考えられるが、後者の可能性が高い。

【周溝壁・底面】周溝壁は底面からやや急に立ち上がっている。底面は最初からほぼ平坦に造られている。断面の形状は逆台形状を呈している。

【ピット】底面及び壁面からも検出されなかった。

【その他の施設】検出されなかった。

【周溝堆積土】５～７層に分層できた。自然堆積の様相を呈している。

【出土遺物】堆積土上層から貝殻が１点出土しているが、本遺構に伴う遺物の可能性は低い。そのほかでは円礫が出土している。他には遺構に伴うような遺物は出土していない。

【小結】形状及び堆積土の状況から、平安時代に造られた円形周溝と考えられる。調査区際の土層堆積状況からは旧表土やマウンド・主体部等の存在を確認することはできなかった。　（笹森）

第２号円形周溝（ＡＥＮ－2）（図18）

【位置・確認】Ｃ－６グリッド他に位置している。第１号円形周溝同様、平成17年度の試掘調査時に第５トレンチで確認されている。基本層序第ＢⅢａ層上面で確認した。

【重複】第１号円形周溝、第10号溝跡、第９号土坑、及びＢⅣ層水田跡・水路跡と重複している。ＢⅣ層水田跡・水路跡を除く全ての遺構より本遺構が古いことが土層の堆積状況から確認できた。

【平面形・規模】北側の一部が調査区外に位置しているため全容を伺い知ることはできないが、平面形は不整な円形を呈するものと思われる。溝の上面幅は54～100㎝、底面幅は18～40㎝、深さは44～50㎝を測る。第１号円形周溝同様、開口部は見あたらない。調査区外に存在するか、こちらも開口部を持たずに全周するタイプの可能性が考えられるが、後者の可能性が高い。

【周溝壁・底面】周溝壁は底面からやや急に立ち上がっている。底面は最初からほぼ平坦に造られている。断面の形状は逆台形状を呈している。

【ピット】底面及び壁面からも検出されなかった。

【その他の施設】検出されなかった。

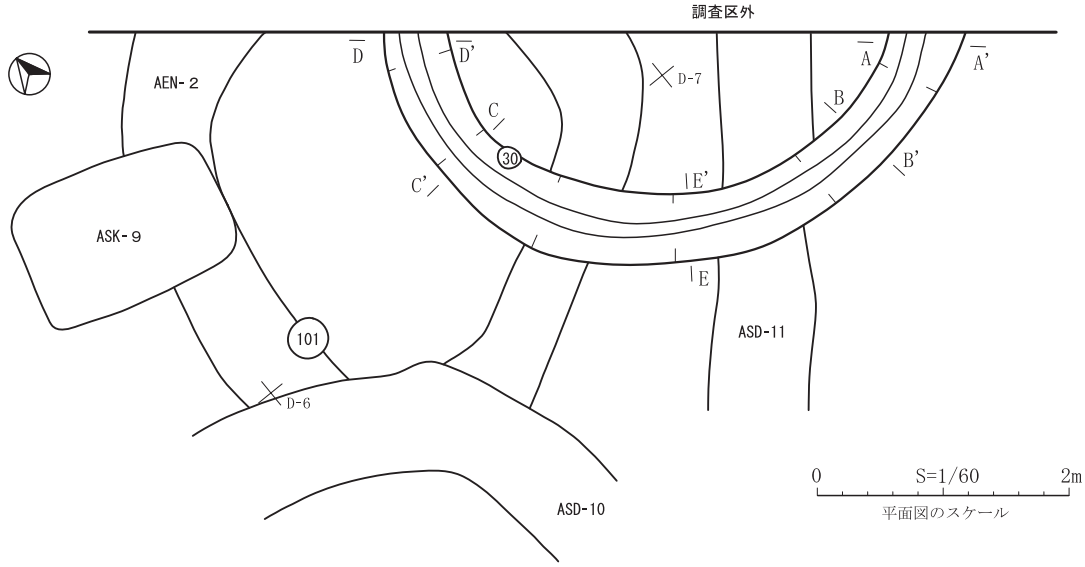
【周溝堆積土】５～９層に分層できた。自然堆積の様相を呈している。

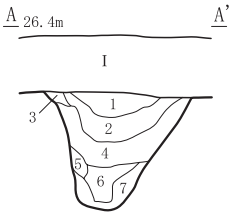
【出土遺物】遺物は出土していない。

【小結】形状及び堆積土の状況から、平安時代に造られた円形周溝と考えられる。第１号円形周溝同様、調査区際の土層堆積状況からは旧表土やマウンド・主体部等の存在を確認することはできなかった。

（笹森）

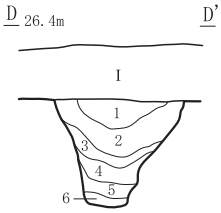
A区第１号円形周溝





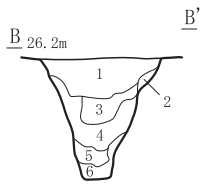
A区第１号円形周構　A-A′

1層	10YR4/4	褐色土	浮石(φ1～10㎜)微量、焼土粒(φ1～3㎜)極微量、粘性弱、しまり弱
2層	10YR3/4	暗褐色土	浮石(φ1～5㎜)極微量、炭化物(φ1～3㎜)極微量、粘性弱、しまり中
3層	10YR4/4	褐色土	浮石(φ1～3㎜)極微量、粘性弱、しまりやや強浮
4層	10YR4/6	褐色土	石(φ1～15㎜)極微量、粘性弱、しまり弱
5層	10YR5/4	にぶい黄褐色土	第BⅢ層崩落層
6層	10YR4/4	褐色土	浮石(φ1～2㎜)微量、焼土粒(φ1～3㎜)極微量、粘性やや中、しまりやや中
7層	10YR3/4	暗褐色土	10YR5/4にぶい黄褐色土多量、浮石(φ1～5㎜)極微量　粘性やや中、しまり中



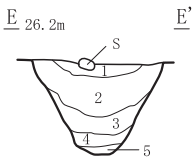
A区第１号円形周構　D-D′

1層	10YR3/4	暗褐色土	浮石(φ1～5㎜)極微量、第BⅢ層微量混入、粘性弱、しまり弱
2層	C-C′2層に相当		
3層	10YR3/4	暗褐色土	浮石(φ1～3㎜)極微量、第BⅢ層微量混入、粘性弱、しまり弱
4層	C-C′4層に相当		
5層	10YR3/4	暗褐色土	浮石(φ1～5㎜)極微量、第BⅢ層微量混入、粘性やや中、しまり中
6層	C-C′6層に相当		



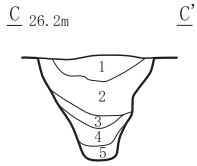
A区第１号円形周構　B-B′

1層	10YR4/4	褐色土	浮石(φ1～3㎜)極微量、第BⅢ層微量混入、粘性弱、しまり強
2層	10YR4/4	褐色土	細かい砂混じり、浮石(φ1～2㎜)極微量、粘性弱、しまり中
3層	10YR4/6	褐色土	浮石(φ1～3㎜)極微量、粘性弱、しまり中
4層	10YR4/6	褐色土	浮石第BⅢ層落ち込み、粘性弱、しまりやや強
5層	10YR3/4	暗褐色土	赤紫色の粘土質の土多量混入、粘性やや強、しまり弱
6層	10YR3/4	暗褐色土	赤紫色の粘土質の土多量混入、粘性やや強、しまり弱



A区第１号円形周構　E-E′

1層	C-C′4層に相当		
2層	10YR4/6	褐色土	浮石(φ1～10㎜)微量、第BⅢ層少量混入、粘性弱、しまり弱
3層	10YR4/6	褐色土	
4層	10YR5/6	黄褐色土	浮石(φ1～3㎜)極微量第BⅢ層中量混入、粘性弱、しまりやや強
5層	10YR5/4	にぶい黄褐色土	第BⅢ層混入、粘性弱、しまり強



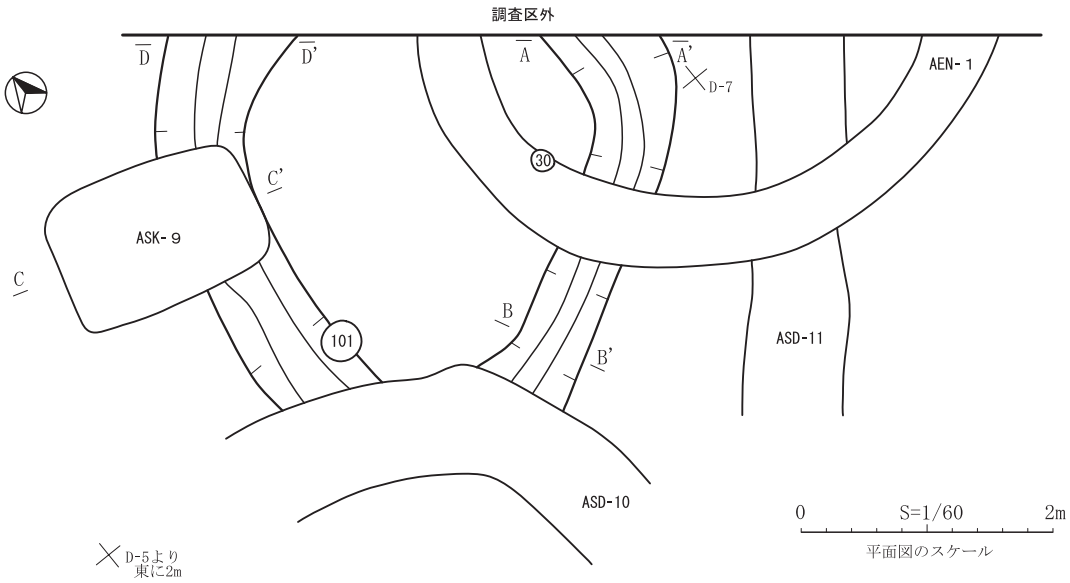
A区第１号円形周構　C-C′

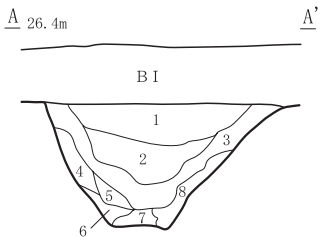
1層	10YR5/6	黄褐色土	浮石(φ1～2㎜)微量、第BⅢ層微量混入、粘性弱、しまり中
2層	10YR4/4	褐色土	浮石(φ1～5㎜)微量、第BⅢ層中量混入、粘性弱、しまり弱
3層	10YR6/8	明黄褐色土	浮石(φ1～15㎜)極微量、第BⅢ層少量混入、粘性弱、しまりやや強
4層	10YR4/4	褐色土	浮石(φ1～15㎜)極微量、第BⅢ層微量混入、粘性弱、しまり中
5層	10YR5/4	にぶい黄褐色土	浮石(φ1～5㎜)極微量、粘性弱、しまり弱

0 S=1/30 1m
セクション図のスケール

図17　A区円形周溝（1）

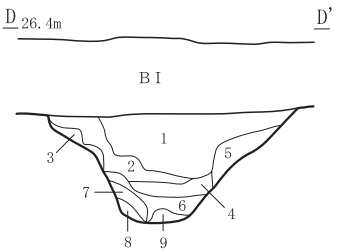
A区第２号円形周溝





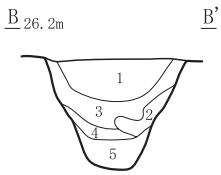
A区第２号円形周溝　A-A'

1層	10YR5/6	黄褐色土　浮石(φ1～5mm)極微量、第BⅢ層少量混入、粘性弱、しまり中
2層	10YR4/6	褐色土　浮石(φ1～5mm)微量、粘性弱、しまり弱
3層	10YR5/6	黄褐色土　浮石(φ1～5mm)微量、粘性弱、しまり弱
4層	10YR4/4	褐色土　浮石(φ1～10mm)少量混入、第BⅢ層少量混入、粘性やや中、しまり弱
5層	10YR5/6	黄褐色土　粘性やや強、しまり弱
6層	10YR5/8	黄褐色土　浮石(φ1～5mm)微量、第BⅢ層中量混入(落ち込み？)、粘性やや中、しまり中
7層	7.5YR5/8	明褐色土　浮石(φ1～10mm)少量、第BⅢ層多量混入(落ち込み？)、粘性やや中、しまり中
8層	10YR5/4	にぶい黄褐色土 粘性やや強、しまりややや中



A区第２号円形周溝　D-D'

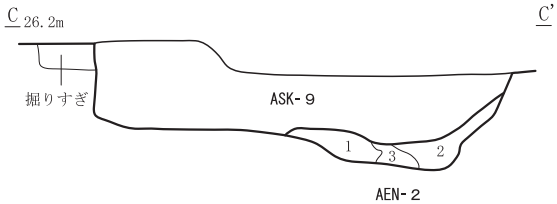
1層	10YR4/6	褐色土　浮石(φ1～3mm)極微量、炭化物(φ1～10mm)微量、にじんだ炭化物ブロック状に広がる、粘性やや中、しまり中
2層	10YR4/6	褐色土
3層	10YR3/4	暗褐色土
4層	10YR3/4	暗褐色土　粘性弱、しまり弱
5層	10YR4/6	褐色土　浮石(φ1～10mm)極微量、第BⅢ層微量混入、粘性弱,、しまり弱
6層	10YR5/6	黄褐色土
7層	10YR5/4	にぶい黄褐色土 浮石(φ1～10mm)微量、第BⅢ層多量混入(流れ込み)、粘性弱、しまり強
8層	10YR5/4	にぶい黄褐色土 粘性やや強、しまり弱
9層	10YR4/4	褐色土　粘性弱、しまり強



A区第２号円形周溝　B-B'

1層	10YR4/4	褐色土 浮石(φ1～10mm)微量、第BⅢ層少量混入、粘性弱、しまりやや強
2層	10YR4/6	褐色土 浮石(φ1～5mm)極微量、第BⅢ層との混土層(流れ込み？)、粘性弱、しまり弱
3層	A-A'4層に相当	
4層	10YR4/6	褐色土 第BⅢ層微量混入、粘性弱、しまり弱
5層	10YR4/4	褐色土 第BⅢ層多量混入

0　S=1/30　1m
セクション図のスケール



A区第２号円形周溝　C-C'

1層	10YR4/4	褐色土 第BⅢ層中量混入、粘性弱、しまり強
2層	10YR4/6	褐色土 炭化物(φ1～10mm)極微量混入、第BⅢ層微量混入、粘性やや中、しまりやや強
3層	10YR4/4	褐色土 第BⅢ層多量混入、粘性弱、しまり強

図18　Ａ区円形周溝（２）

第８節　道路跡

第１号道路跡（ＡＳＤ－21・22）（図19）

【位置・確認】Ａ－２グリッド他に位置している。宅地造成に伴う盛土及び圃場整備後の水田の不透水層(酸化鉄集積層)除去後、基本層序第ＢⅤ層中で確認した。当初は２条の溝跡として精査していたが、ほぼ並行して検出された溝跡が道路側溝としての性格を持つ可能性があることから道路跡と認定した。

【重複】Ⅰ層水田跡及びＢⅣ層水田跡と一部で重複しているものと思われる。新旧関係は両遺構より本遺構が新しいことが堆積土の状況から確認できる。

【側溝平面形・規模】路面の両端に側溝を有する。側溝の検出状況から拡幅、或いは移動が１回行われたものと考えられる。側溝の推定上面幅は36～70㎝、底面幅18～32㎝、深さは16～28㎝を測る。路面幅は約170～200㎝程である。軸方向はＮ－３°－Ｗで、ほぼ南北方向を示している。

【路面】検出面にはかなり凹凸が見られるが、轍状の溝や明確な硬化面は検出することはできなかった。使用時の路面はかなり削平されている可能性が高い。検出面での路面と思われる部分の断面形状は幅広の台形状を呈している。

【側溝堆積土】２～５層に分層できた。暗褐色土が主体で人為堆積の様相を呈している。

【側溝壁・底面】側溝壁は底面からやや急に立ち上がっている。底面はほぼ平坦に造られている。側溝断面の形状は逆台形状を呈している。

【ピット】側溝底面及び壁面、路面からも検出されなかった。

【その他の施設】検出されなかった。

【出土遺物】図示できるような遺物は出土していない。

【小結】詳細な時期は不明であるが、この土地は圃場整備後に畑地に耕地転換されている。水田から畑地への転換に伴う時に造られた道路の可能性が考えられる。その後の宅地造成時にはかなり削平を受けていた可能性が高い。この道路跡の南側の延長部(調査区外)には側溝が見られない現在の農道が続いている状況が確認できる。（笹森）

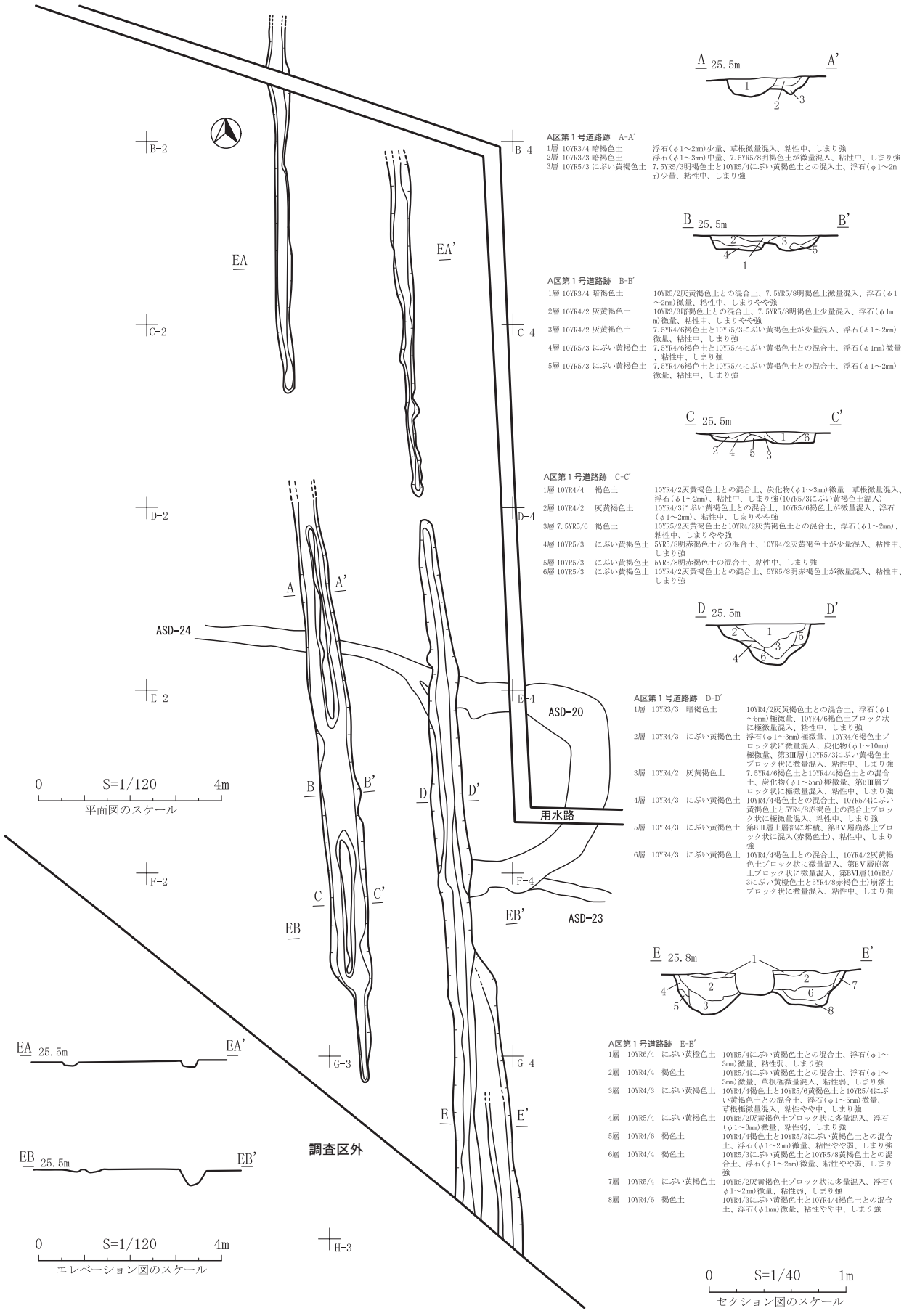

A 25.5m A'
1
2
3
A区第１号道路跡　A-A'
1層 10YR3/4 暗褐色土　浮石(φ1～2mm)少量、草根微量混入、粘性中、しまり強
2層 10YR3/3 暗褐色土　浮石(φ1～3mm)中量、7.5YR5/8明褐色土が微量混入、粘性中、しまり強
3層 10YR5/3 にぶい黄褐色土　7.5YR5/3明褐色土と10YR5/4にぶい黄褐色土との混入土、浮石(φ1～2mm)少量、粘性中、しまり強
B 25.5m B'
1
2
3
4
5
A区第１号道路跡　B-B'
1層 10YR3/4 暗褐色土　10YR5/2灰黄褐色土との混合土、7.5YR5/8明褐色土微量混入、浮石(φ1～2mm)微量、粘性中、しまりやや強
2層 10YR4/2 灰黄褐色土　10YR3/3暗褐色土との混合土、7.5YR5/8明褐色土少量混入、浮石(φ1mm)微量、粘性中、しまりやや強
3層 10YR4/2 灰黄褐色土　7.5YR4/6褐色土と10YR5/3にぶい黄褐色土が少量混入、浮石(φ1～2mm)微量、粘性中、しまり強
4層 10YR5/3 にぶい黄褐色土　7.5YR4/6褐色土と10YR5/4にぶい黄褐色土との混合土、浮石(φ1mm)微量、粘性中、しまり強
5層 10YR5/3 にぶい黄褐色土　7.5YR4/6褐色土と10YR5/4にぶい黄褐色土との混合土、浮石(φ1～2mm)微量、粘性中、しまり強
C 25.5m C'
1
2
3
4
5
6
A区第１号道路跡　C-C'
1層 10YR4/4　褐色土　10YR4/2灰黄褐色土との混合土、炭化物(φ1～3mm)微量　草根微量混入、浮石(φ1～2mm)、粘性中、しまり強(10YR5/3にぶい黄褐色土混入)
2層 10YR4/2　灰黄褐色土　10YR4/3にぶい黄褐色土との混合土、10YR5/6褐色土が微量混入、浮石(φ1～2mm)、粘性中、しまりやや強
3層 7.5YR5/6　褐色土　10YR5/2灰黄褐色土と10YR4/2灰黄褐色土との混合土、浮石(φ1～2mm)、粘性中、しまりやや強
4層 10YR5/3　にぶい黄褐色土　5YR5/8明赤褐色土との混合土、10YR4/2灰黄褐色土が少量混入、粘性中、しまり強
5層 10YR5/3　にぶい黄褐色土　5YR5/8明赤褐色土の混合土、粘性中、しまり強
6層 10YR5/3　にぶい黄褐色土　10YR4/2灰黄褐色土との混合土、5YR5/8明赤褐色土が微量混入、粘性中、しまり強
D 25.5m D'
1
2
3
4
5
6
A区第１号道路跡　D-D'
1層 10YR3/3　暗褐色土　10YR4/2灰黄褐色土との混合土、浮石(φ1～5mm)極微量、10YR4/6褐色土ブロック状に極微量混入、粘性中、しまり強
2層 10YR4/3　にぶい黄褐色土　浮石(φ1～3mm)極微量、10YR4/6褐色土ブロック状に微量混入、炭化物(φ1～10mm)極微量、第BⅢ層(10YR5/3にぶい黄褐色土ブロック状に微量混入、粘性中、しまり強
3層 10YR4/2　灰黄褐色土　7.5YR4/6褐色土と10YR4/4褐色土との混合土、炭化物(φ1～5mm)極微量、第BⅢ層ブロック状に極微量混入、粘性中、しまり強
4層 10YR4/3　にぶい黄褐色土　10YR4/4褐色土との混合土、10YR5/4にぶい黄褐色土と5YR4/8赤褐色土のブロック状に極微量混入、粘性中、しまり強
5層 10YR4/3　にぶい黄褐色土　第BⅢ層上層部に堆積、第BⅤ層崩落土ブロック状に混入(赤褐色土)、粘性中、しまり強
6層 10YR4/3　にぶい黄褐色土　10YR4/4褐色土との混合土、10YR4/2灰黄褐色土ブロック状に微量混入、第BⅤ層崩落土ブロック状に微量混入、第BⅥ層(10YR6/3にぶい黄橙色土と5YR4/8赤褐色土)崩落土ブロック状に微量混入、粘性中、しまり強
E 25.8m E'
1
2
3
4
5
6
7
8
A区第１号道路跡　E-E'
1層 10YR6/4　にぶい黄橙色土　10YR5/4にぶい黄褐色土との混合土、浮石(φ1～3mm)微量、粘性弱、しまり強
2層 10YR4/4　褐色土　10YR5/4にぶい黄褐色土との混合土、浮石(φ1～3mm)微量、草根極微量混入、粘性弱、しまり強
3層 10YR4/3　にぶい黄褐色土　10YR4/4褐色土と10YR5/6黄褐色土と10YR5/4にぶい黄褐色土との混合土、浮石(φ1～5mm)微量、草根極微量混入、粘性やや中、しまり強
4層 10YR5/4　にぶい黄褐色土　10YR6/2灰黄褐色土ブロック状に多量混入、浮石(φ1～3mm)微量、粘性弱、しまり強
5層 10YR4/6　褐色土　10YR4/4褐色土と10YR5/3にぶい黄褐色土との混合土、浮石(φ1～2mm)微量、粘性やや弱、しまり強
6層 10YR4/4　褐色土　10YR5/3にぶい黄褐色土と10YR5/8黄褐色土との混合土、浮石(φ1～2mm)微量、粘性やや弱、しまり強
7層 10YR5/4　にぶい黄褐色土　10YR6/2灰黄褐色土ブロック状に多量混入、浮石(φ1～2mm)微量、粘性弱、しまり強
8層 10YR4/6　褐色土　10YR4/3にぶい黄褐色土と10YR4/4褐色土との混合土、浮石(φ1mm)微量、粘性やや中、しまり強
B-2
B-4
C-2
C-4
D-2
D-4
E-2
E-4
F-2
F-4
G-3
G-4
H-3
EA
EA'
EB
EB'
A
A'
B
B'
C
C'
D
D'
E
E'
ASD-20
ASD-23
ASD-24
用水路
調査区外
0 S=1/120 4m
平面図のスケール
EA 25.5m EA'
EB 25.5m EB'
0 S=1/120 4m
エレベーション図のスケール
0 S=1/40 1m
セクション図のスケール

図19　Ａ区道路跡

第４章　Ｂ区の検出遺構と出土遺物

第１節　Ｂ区の概要

前川遺跡Ｂ区は東西方向に延びる村道畑中９号線を挟んで南北に位置している。調査区Ａ区の東側に位置する未買収区域から村道畑中９号線に直交する村道畑中３号線の西側までを便宜的にＢ区と呼称した。現況は村道畑中９号線の北側が畑地、南側は圃場整備後の水田となっていた。北側の畑地、南側の水田共に村道より一段低い場所に位置しており、標高は26m前後を測る。北側の畑地は現在使用していない用水路の南側で圃場整備後の水田を耕地転換している状況が確認されている。北西側では盛り土の畑地がＡ区から続いている。村道畑中９号線より南側の水田は休耕状態であったが、調査区の南西側では現在耕作中の水田に、東側では現在利用されている用水路に接していることもあり、常時水の影響下にあった。旧地形では基本的に北東から南西方向に緩やかな傾斜を、西側は北西から南東方向、東側は南東から北西方向へ緩やかな傾斜を持っていたものと思われる。

今回の調査では基本層序第ＢⅢａ・Ⅲｂ層上面から、竪穴住居跡２軒、竪穴遺構11基、掘立柱建物跡15棟、土坑40基、井戸跡３基、溝跡46条、濠跡２条、円形周溝１基、性格不明遺構１基、ピットが多数検出されている。遺物は遺構内外からかわらけを中心に土師器・須恵器、土製品、石製品、金属製品等が出土している。また、基本層序第ＢⅢｂ層の下からはＡ区同様ＢⅣ層水田跡がほぼ全域で検出されている。

第２節　竪穴住居跡・竪穴遺構

第１号竪穴遺構（ＢＳＩ－１）（図20・26）

【位置・確認】Ｓ・Ｔ－19グリッドに位置する。基本層序第ＢⅢ層上面で確認した。

【重複】第278号ピットと重複する。新旧関係は本遺構が第278号ピットより新しい。

【形態・規模】平面形は隅丸の長方形を呈する。長軸2.6m、短軸2.1m、深さは45㎝を測る。主軸方位はＮ－25°－Ｅである。

【壁・床面】壁は床面からほぼ垂直に立ち上がる。床面はほぼ平坦に造られている。

【堆積土】13層に分層できた。暗褐色・褐色土を主体に浮石や炭化物が混在し、人為堆積の様相を呈する。

【カマド】検出されなかった。

【柱穴】柱穴と考えられるピットは検出されなかった

【壁溝】検出されなかった。

【その他の施設】検出されなかった。

【出土遺物】堆積土中や床面から金属製品（図26－１～５）が出土している。

【小結】形状及び堆積土の状況や出土遺物から、中世の竪穴遺構の可能性が高い。

（笹森）

第２号竪穴遺構（ＢＳＩ－２）（図20）

【位置・確認】Ｑ・Ｒ－21グリッドに位置する。基本層序第ＢⅢ層上面で確認した。

【重複】第６号土坑、Ｉ層水田第１号水路跡、第286・287号ピット、第３・10・11号掘立柱建物跡と重複する。新旧関係は本遺構が第６号土坑よりも新しく、Ｉ層水田第１号水路跡、第286・287号ピット、第３・11号掘立柱建物跡より古い。第10号掘立柱建物跡との重複関係は判断できなかった。

【形態・規模】北側がすべてＩ層水田第１号水路跡により壊され欠失する。平面形は隅丸長方形を呈する。長軸2.3m、現存短軸1.5mを測る。深さは平均84㎝を測り、主軸方位はＮ－20°－Ｅである。

【堆積土】暗褐色土と褐色土を主体とする。上層から中層には炭化物粒と焼土粒を含む。人為堆積の様相を呈する。

【壁・床面】壁は底面からほぼ垂直に立ち上がる。床はほぼ平坦に造られている。

【柱穴】柱穴と考えられるピットは検出されなかった。

【壁溝】検出されなかった。

【その他の施設】検出されなかった。

【出土遺物】遺物は出土しなかった。

【小結】底面に柱穴を伴わないものである。形状及び堆積土の状況から、中世の竪穴遺構の可能性が高い。

（工藤）

第３号竪穴住居跡（ＢＳＩ－３）

遺構確認時に認識したが調査段階で遺構と判断しなかったため、欠番とした。

第４号竪穴遺構（ＢＳＩ－４）（図20・26）

【位置・確認】Ｔ・Ｕ－24・25グリッドに位置する。基本層序第ＢⅢ層上面で確認した。

【重複】第６・35号溝跡、第２号井戸跡、第16号掘立柱建物跡と重複する。重複関係は本遺構が第６・35号溝跡、第２号井戸跡より新しい。第16号掘立柱建物跡との重複関係は判断できなかった。

【形態・規模】平面形は隅丸長方形を呈する。長軸4.7m、短軸2.9mを測る。深さは平均66㎝を測り、主軸方位はＮ－65°－Ｗである。

【壁・床面】壁は床面からやや開きながら立ち上がる。床面はほぼ平坦である。

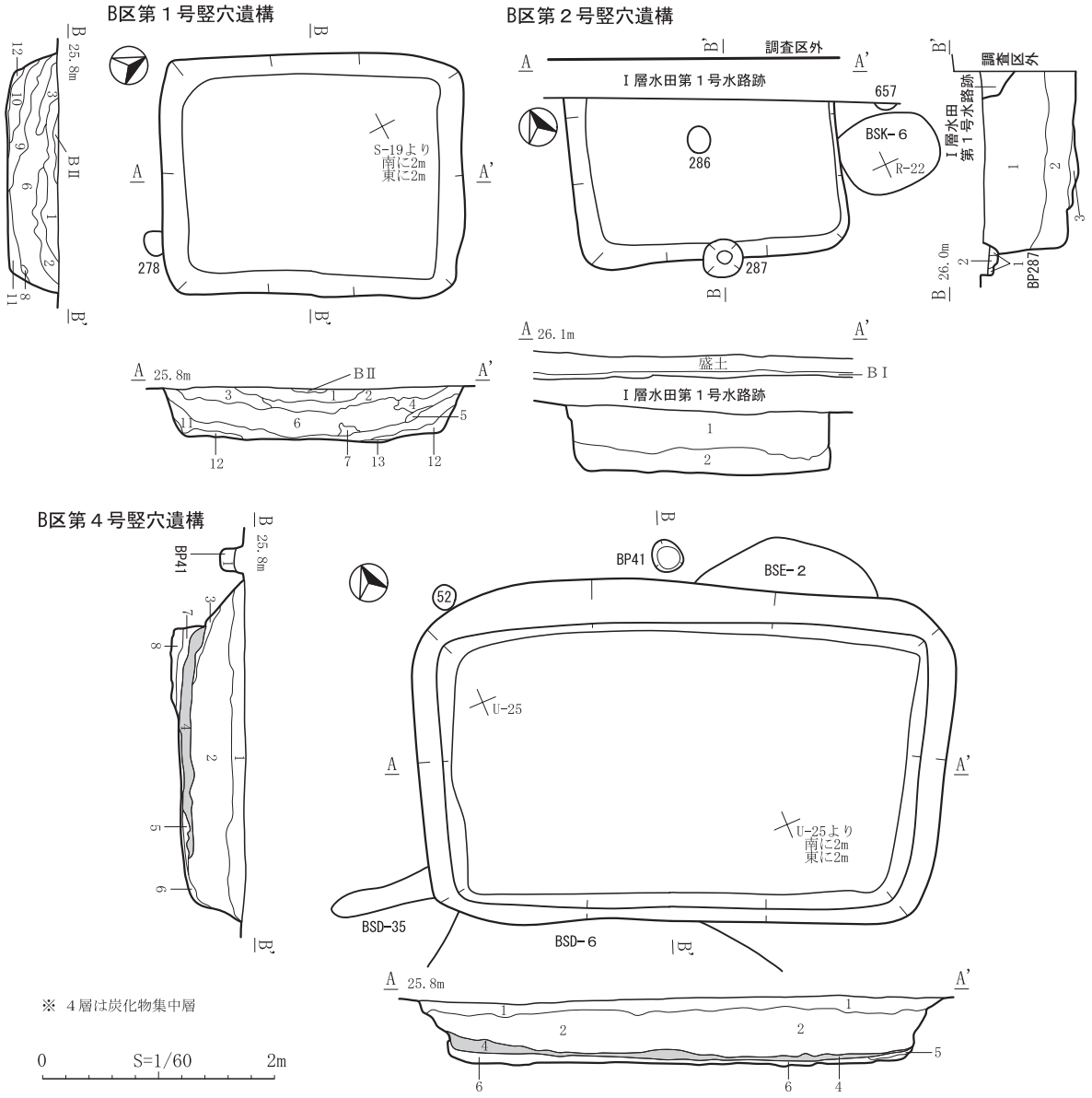
【堆積土】にぶい黄褐色土と灰黄褐色土を主体とする。底層に近い４層は粘性が強く、炭化物や中礫や大礫をやや多く含む。また本層は底面が平坦であり、下層の６層も粘土質で粘性が強い。５～８層は人為堆積と思われ、１層から４層までは自然堆積の可能性がある。

【柱穴】検出されなかった。

【壁溝】検出されなかった。

【その他の施設】検出されなかった。

【出土遺物】土師器、陶器、焼成粘土塊、金属製品が出土している。土師器は甕で、１層と堆積土中層より出土している。陶器は内面に卸目を有する時期不明の珠洲擂鉢で、１層から出土している（図26－６）。焼成粘土塊は覆土中層から出土している。



B区第１号竪穴遺構

1層	10YR3/4	暗褐色土	浮石(φ1～15㎜)小量、炭化物(φ1～10㎜)微量、10YR6/3にぶい黄橙色極微量、焼土ブロック(φ10㎜)極微量、粘性弱、しまり強
2層	10YR3/4	暗褐色土	浮石(φ1～10㎜)小量、炭化物(φ1～5㎜)微量、焼土粒(φ1～3㎜)極微量、粘性弱、しまり強
3層	10YR4/4	褐色土	浮石(φ1～20㎜)小量、炭化物(φ1～5㎜)極微量、焼土粒(φ1～3㎜)極微量、粘性弱、しまり強
4層	10YR4/4	褐色土	浮石(φ1～5㎜)微量、炭化物(φ1～20㎜)小量、焼土粒(φ1～3㎜) 極微量、粘性弱、しまり強
5層	10YR4/3	にぶい黄褐色土	10YR2/2黒褐色土多量、浮石(φ1～3㎜)極微量、粘性中、しまり中
6層	10YR4/6	褐色土	浮石(φ1～20㎜)中量、炭化物(φ1～10㎜)小量、白色粘土小量混入、粘性弱、しまり強
7層	10YR3/4	褐色土	10YR2/1黒褐色土多量、浮石(φ1～5㎜)微量、炭化物(φ1～3㎜)極微量、粘性中、しまり中
8層	10YR4/4	暗褐色土	粘性中、しまりやや強
9層	10YR4/4	褐色土	浮石(φ1～15㎜)微量、炭化物(φ20㎜)極微量、灰？微量混入、粘性中、しまり強
10層	10YR4/4	褐色土	浮石(φ10～30㎜)多量、炭化物(φ1～5㎜)微量、灰？微量混入、白色粘土微量混入、粘性中、しまり強
11層	10YR3/4	暗褐色土	浮石(φ1～3㎜)極微量、焼土粒(φ1～5㎜)極微量、炭化物多量、粘性弱、しまり強
12層	10YR4/4	褐色土	炭化物(φ1～3㎜)極微量、焼土ブロック(φ20㎜)微量、浮石(φ1～3㎜)極微量、粘土質土層、粘性中、しまり強

B区第２号竪穴遺構　A-A′ B-B′

1層	10YR3/4	暗褐色土	2.5YR5/3黄褐色シルト・10YR4/2灰黄褐色粘土ブロック(φ20～17㎜)多量、浮石(φ1～5㎜)中量、炭化物粒(φ1～20㎜)小量、焼土粒(φ1～5㎜)微量、2.5YR6/3にぶい黄色シルト粒ブロック(φ1～20㎜)中量、粘性中、しまり強
2層	10YR3/4	暗褐色土	2.5YR6/3黄褐色シルト、10YR4/4褐色粘土(φ1～15㎜)多量、10YR4/6褐色土(φ1～20㎜)中量、炭化物粒(φ1～15㎜)小量、浮石(φ1～5㎜)小量、焼土粒 (φ1～5㎜) 微量、粘性強、しまり強
3層	10YR4/4	褐色土	10YR5/4にぶい黄褐色土多量、炭化物粒(φ1～5㎜)微量、浮石(φ1～2㎜)極微量、粘性強、しまり強

BP287

1層	10YR4/4	褐色土	炭化物粒(φ1～10㎜)小量、浮石(φ1～2㎜)小量、焼土粒(φ1～2㎜)極微量、粘性強、しまり強
2層	10YR3/3	暗褐色土	10YR5/4にぶい黄褐色シルト粒(φ1～20㎜)小量、炭化物粒(φ1～5㎜)微量、焼土粒(φ1～5㎜)微量、浮石(φ1～3㎜)微量、粘性中、しまり強

B区第４号竪穴遺構　A-A′ B-B′

1層	10YR4/3	にぶい黄褐色土	浮石(φ1～10㎜)小量、炭化物(φ1～5㎜)微量、焼土粒 (φ1～3㎜) 極微量、粘性弱、しまり強
2層	10YR4/3	にぶい黄褐色土	浮石(φ1～15㎜)小量、炭化物(φ1～20㎜)微量、焼土粒(φ1～3㎜)極微量、第BⅢ層まばらに混入、粘性中、しまり中
3層	10YR4/2	灰黄褐色土	浮石(φ1～10㎜)極微量、炭化物(φ1～3㎜)極微量、粘性中、しまり中
4層	10YR4/2	灰黄褐色土	浮石(φ1～3㎜)極微量、炭化物(φ1～3㎜)多量、焼土粒(φ1～3㎜)極微量、第BⅢ層上層に混入、粘性強、しまり弱
5層	10YR4/2	灰黄褐色土	焼土粒(φ1～3㎜)極微量、第BⅢ層上層に混入、粘性強、しまり弱
6層	10YR5/2	灰黄褐色土	浮石(φ1～3㎜)極微量、炭化物(φ1～3㎜)極微量、粘土質、粘性強、しまり弱
7層	10YR5/3	にぶい灰黄褐色土	浮石(φ1～5㎜)微量、炭化物(上層に帯状に薄く混入)、粘性弱、しまり強
8層	10YR4/3	にぶい灰黄褐色土	7.5YR5/8明褐色土(第BⅢ層か？)多量、白色粘土中量、浮石(φ1～5㎜)極微量、粘性弱、しまりやや強

図20　B区竪穴遺構（１）

【小結】底面に柱穴を伴わないものである。形状及び堆積土の状況から、中世の竪穴遺構の可能性が高い。

（工藤）

第５号竪穴遺構（ＢＳＩ－５）

整理段階で第15号竪穴遺構と名称変更したため、欠番とした。

第６号竪穴住居跡（ＢＳＩ－６）（図21・26・27）

【位置・確認】ＩＤ･Ｅ－29･30グリッドに位置している。基本層序第ＢⅢａ層中で確認した。第19号竪穴遺構の南東隣に位置する。

【重複】認められない。

【形態・規模】調査区内に現存する農業用水路のため、北東隅を含む東側の一部を検出することができなかった。平面形はやや隅丸の方形を呈するものと思われる。長軸242㎝、短軸236㎝、深さは40㎝を測る。

【堆積土】５層に分層できた。ほぼ自然堆積の様相を呈している。２層は層厚0.5～２㎝、４層は層厚１～３㎝で炭化粒を多量に含む層である。農業用水路脇のため堆積土は常に湿性に富んでいた。

【壁・床面】壁は床面からほぼ垂直に立ち上がっている。床面は地床であるが、水分を含むとかなり軟弱になる。第19号竪穴遺構に比べ明確な硬化面は見られない。

【柱穴】柱穴と考えられるピットは検出されなかった。

【壁溝】検出されなかった。

【カマド】南壁西寄りに１基検出された。煙道部は半地下式を呈していたものと思われ、やや傾斜を持ちながら昇り、南壁から120㎝程突出している。袖部は比較的良好に残存しており、人為的に壊された様子は認められない。明確な火床面は見られなかった。カマド前面には灰溜まりと考えられる擂り鉢状の落ち込みを有している。灰溜まりは長径44㎝、短径30㎝の横長の卵形を呈し、深さは20㎝を測る。カマドの軸方位はＳ－30°－Ｗを測る。

【その他の施設】検出されなかった。

【出土遺物】カマド部分を中心に土師器や土製品が出土している。

【小結】出土遺物から、平安時代の竪穴住居跡と考えられる。第19号竪穴遺構同様、基本層序第ＢⅢａ・Ⅲｂ層を掘り込んで構築されている。洪水後、ある程度地盤が落ち着いてから構築されたものと考えられる。

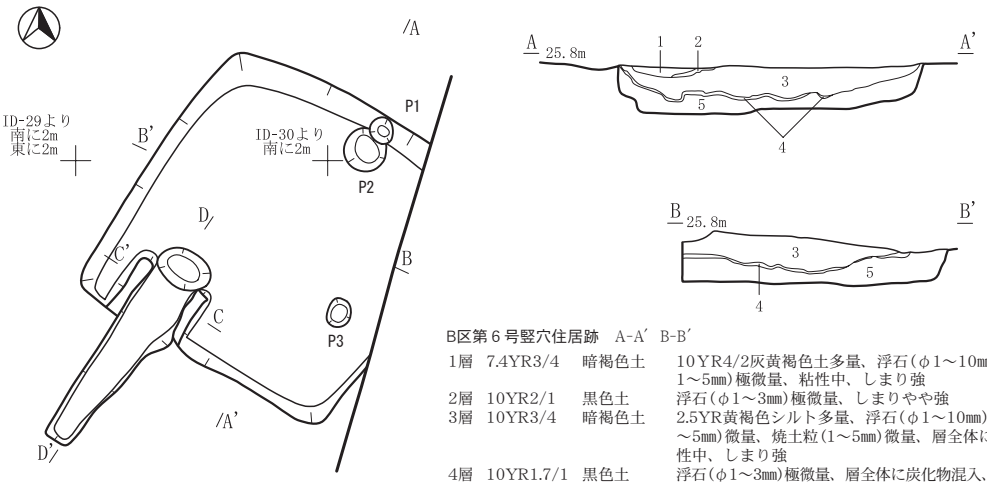
（笹森）

第７号竪穴遺構（ＢＳＩ－７）（図22）

【位置・確認】Ｏ・Ｐ－16グリッドに位置する。基本層序第ＢⅢ層上面で確認した。

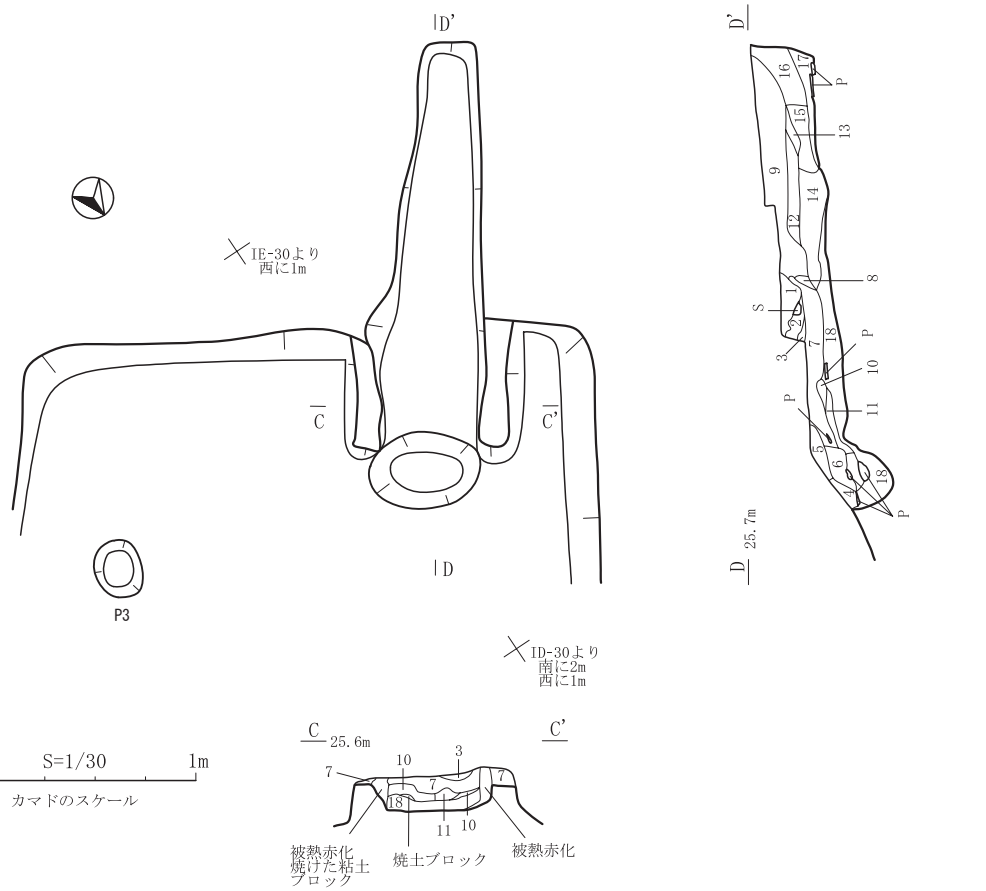
【重複】第８号竪穴遺構、第482・484・526号ピットと重複する。新旧関係は本遺構が古い。

【形態・規模】南東部が第８号竪穴遺構に破壊され欠失するが、平面形は隅丸長方形を呈するものと思われる。長軸2.7m、短軸2.1mを測る。深さは平均90㎝を測り、主軸方位はＮ－59°－Ｗである。



B区第６号竪穴住居跡　A-A′ B-B′

1層	7.4YR3/4	暗褐色土	10YR4/2灰黄褐色土多量、浮石(φ1～10㎜)小量、炭化物(φ1～5㎜)極微量、粘性中、しまり強
2層	10YR2/1	黒色土	浮石(φ1～3㎜)極微量、しまりやや強
3層	10YR3/4	暗褐色土	2.5YR黄褐色シルト多量、浮石(φ1～10㎜)小量、炭化物(φ1～5㎜)微量、焼土粒(1～5㎜)微量、層全体に焼土小量混入、粘性中、しまり強
4層	10YR1.7/1	黒色土	浮石(φ1～3㎜)極微量、層全体に炭化物混入、粘性弱、しまり強
5層	10YR4/4	褐色砂質土	10YR5/3にぶい黄褐色砂質土多量、炭化物粒(φ1～20㎜)微量、浮石(φ1～15㎜)微量、焼土粒(φ1～10㎜)微量、層中間下部に炭化物層状に混入、粘性強、しまりやや強



B区第６号竪穴住居跡カマド　C-C′ D-D′

1層	10YR3/4	暗褐色土	浮石(φ1～10㎜)大量、粘性なし、しまり強、砂と浮石からなる層
2層	10YR4/4	褐色土	砂混入、粘性なし、しまり中
3層	10YR1.7/1	黒色	粘性弱、しまり弱、炭化層、少量含む
4層	10YR4/4	褐色土	砂と浮石(φ1～2㎜)小量、粘性なし、しまり強
5層	10YR4/3	にぶい黄褐色土	10YR4/6褐色土混入、浮石(φ1～3㎜)小量、粘性弱、しまり強
6層	10YR4/3	にぶい黄褐色土	極小～小の浮石3%程含む、一部に10YR3/2黒褐色土3cmほど含む、しまり中､粘土質
7層	10YR5/4	にぶい黄褐色土	砂と浮石(φ1～3㎜)小量含む、粘性なし、しまり強
8層	2.5YR5/2	暗灰黄土	砂と小量の浮石(φ1～2㎜)含む、粘性なし、しまり強
9層	10YR3/4	暗褐色	砂と浮石(φ1～10㎜)からなる層、粘性なし、しまり強
10層	7.5YR3/4	暗褐色土	粘性中、しまり弱
11層	5YR4/8	赤褐色	粘性なし、しまり強、焼土層
12層	10YR4/3	にぶい黄褐色土	浮石(φ1～3㎜)を30%ほど含む、右端10cmのところに10YR2/1黒色の炭混入、粘性なし、しまり中
13層	10YR5/4	にぶい黄褐色土	浮石(φ1～2㎜)小量、粘性なし、しまり強
14層	10YR4/4	褐色土	7.5YR4/4褐色の焼土粒量混入、浮石(φ1～2㎜)小量含む、粘性弱、しまり強
15層	10YR4/2	灰黄褐色土	10YR4/4褐色土多量、浮石(φ1～4㎜)35%程含む、粘性なし、しまり強
16層	10YR5/4	にぶい黄褐色土	浮石(φ1～4㎜)15%程混入、粘性なし、しまり強
17層	10YR2/1	黒色土	10YR4/4褐色土多量、浮石(φ1～4㎜)35%程含む、粘性弱、しまり弱
18層	10YR2/1	黒色土	粘性なし、しまり強、炭化物層

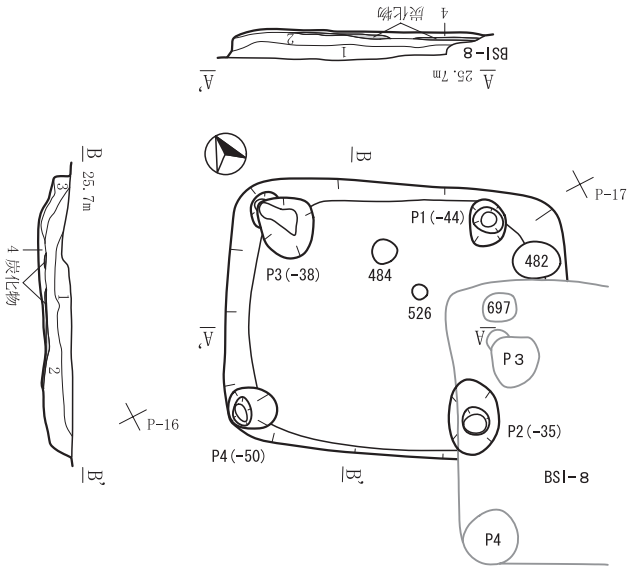
図21　B区竪穴住居跡（１）

【堆積土】１・２層は黄橙色土であり、底面付近の２層と４層の間に炭化物層が面的に堆積しており、人為堆積の様相を呈する。
【壁・床面】壁は床面からやや開きながら立ち上がる。床面は基本土層第Ⅲ層を掘り込み、ほぼ平坦に造られている。
【柱穴】床面および壁際から計４基のピットを検出した。すべて主柱穴と考えられる。
【壁溝】検出しなかった。
【その他の施設】検出されなかった。
【出土遺物】遺物は出土しなかった。
【小結】本遺構の底面に堆積する炭化物がピット１・３上に堆積していることから、本遺構の廃絶後の床面で火を使用した行為が行われた可能性がある。破壊のため全体形状が不明であるが、規模や土層堆積状況が隣接する第８号竪穴遺構と類似していることから、東側に張出を持つ第８号竪穴遺構と同様の平面形態が想定され、遺構の新旧関係や検出層位および堆積土から、13世紀以降に埋没した可能性がある。　（工藤）

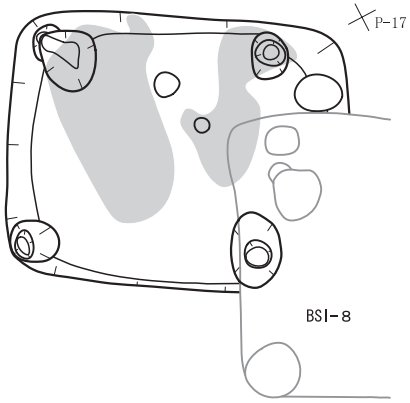
第８号竪穴遺構（ＢＳＩ－８）（図22）
【位置・確認】Ｐ－16・17グリッドに位置する。基本層序第ＢⅢ層上面で確認した。
【重複】第７号竪穴遺構と重複する。新旧関係は本遺構が新しい。
【形態・規模】平面形は東側に張出部を持つ隅丸方形を呈する。長軸2.6m、短軸2.2mを測る。深さは平均22㎝を測り、主軸方位はＮ－61°－Ｗである。
【堆積土】褐色土を主体とし、全体に炭化物粒を含む。１～３層には基本土層第ＢⅢ層の小塊が含まれ、底面には炭化物が面的に堆積しており、人為堆積の様相を呈する。
【壁・床面】壁は底面からやや開きながら立ち上がる。床面は基本土層第ＢⅢ層を掘り込み、ほぼ平坦に造られている。
【柱穴】床面壁際や張り出し部に計７基のピットを検出した。主柱穴と考えられるのはピット１・２・３・４であり、壁内側の床面から検出されている。
【壁溝】検出しなかった。
【その他の施設】南東壁側中央に張り出しを持つ。張出部の壁際にピット６・７が検出されており、床面からピット５を検出した。
【出土遺物】遺物は出土しなかった。
【小結】本遺構の底面に堆積する炭化物がピット１・２・５を覆い堆積していることから、柱を抜き取った後に床面付近で火を使用した行為が行われた可能性がある。床面から出土した炭化物塊について放射性炭素年代測定を行った結果、730±30yrBP（暦年較正１σ：1260～1290AD）の年代が得られており、本遺構が13世紀に廃絶した可能性を示す。年代測定の詳細な分析結果は第９章第１節に掲載している。　（工藤）

第９号竪穴遺構（ＢＳＩ－９）（図23・27）
【位置・確認】Ｏ・Ｐ－17グリッドに位置する。基本層序第ＢⅢ層上面で確認した。

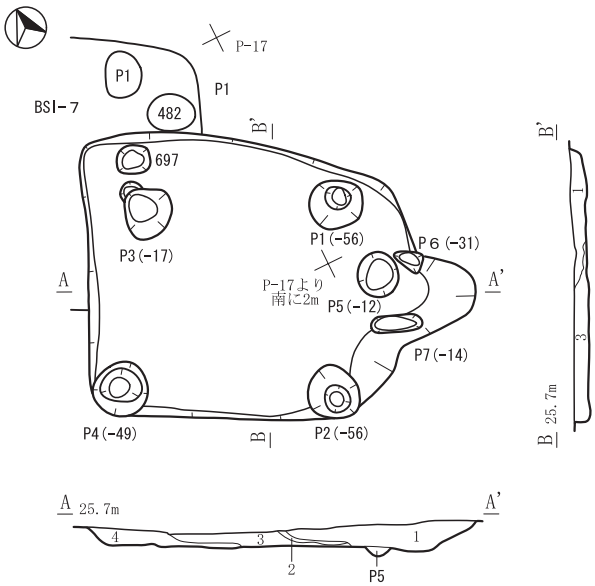
B区第７号竪穴遺構



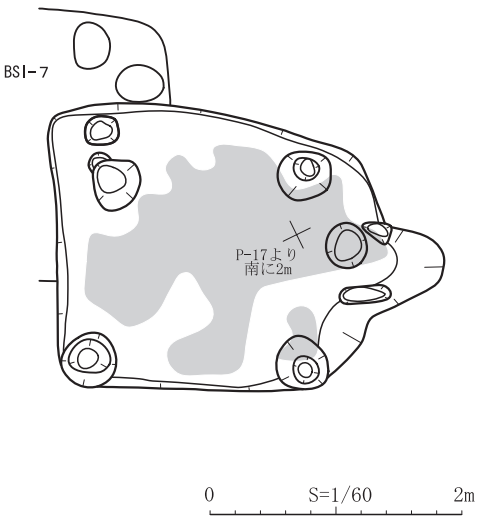
B区第７号竪穴遺構 炭化物出土状況



B区第８号竪穴遺構



B区第８号竪穴遺構 炭化物出土状況



B区第７号竪穴遺構
1層　10YR4/4　褐色土　10YR6/3にぶい黄橙色土多量、炭化物(φ1～2㎜)極微量、粘性強、しまり強
2層　10YR4/4　褐色土　10YR5/4にぶい黄褐色土多量、炭化物(φ1～2㎜)極微量、粘性強、しまり強
3層　10YR4/4　褐色土　10YR5/4にぶい黄褐色土多量、粘性強、しまり強
4層　10YR4/4　褐色土　粘性強、しまり強

B区第８号竪穴遺構
1層　10YR4/4　褐色土　浮石(φ1～15㎜)小量、炭化物(φ1～10㎜)微量、第BⅢ層ブロック状に混入、下部に炭化物板状に堆積、粘性弱、しまり強
2層　10YR4/4　褐色土　浮石(φ1～3㎜)極微量、炭化物(φ1～20㎜)微量、炭化物ブロック状に混入、下部に炭化物板状に堆積、粘性弱、しまり強
3層　10YR4/4　褐色土　浮石(φ1～5㎜)極微量、炭化物(φ1～35㎜)極微量、第BⅢ層ブロック状に混入、下部に炭化物板状に堆積、粘性弱、しまり強
4層　10YR4/4　褐色土　浮石(φ1～5㎜)微量、炭化物(φ1～40㎜)極微量、第BⅢ層ブロック状に混入、下部に炭化物板状に堆積、粘性弱、しまり強

図22　B区竪穴遺構（２）

【重複】第10号竪穴遺構、Ⅰ層水田第１号水路跡、第538・539・541・545・546・547・548・549・701号ピットと重複する。新旧関係は本遺構が第10号竪穴遺構、Ⅰ層水田第１号水路跡より古い。第538・539・541・545・546・547・548・549・701号ピットとの新旧関係は判断できなかった。
【形態・規模】北側をⅠ層水田第１号水路跡に、東側を第10号竪穴遺構に破壊され欠失するが、平面形は隅丸方形を呈すると思われる。長軸2.2m、現存短軸2.1ｍを測る。深さは33㎝を測り、主軸方位はＮ－78°－Ｗである。
【堆積土】灰黄褐色土を主体とし、全体に炭化物粒を含む。底面には炭化物が面的に堆積している。
【壁・床面】壁は底面からほぼ垂直に立ち上がる。床面は基本土層第ＢⅢ層を掘り込み、ほぼ平坦に造られている。
【柱穴】床面及び壁際から計７基のピットを検出した。いずれも調査の不備により本遺構に伴うものか新旧関係が判断できなかった。主柱穴の可能性が高いものは第538・545・546・701号ピットであり、本遺構の隅に位置し、壁の内側に検出されるものである。また、隣接するⅠ層水田第１号水路跡の完掘後に検出した第534・548・549・550・708号ピットは位置的に本遺構に伴う可能性がある。
【壁溝】南西隅に壁溝状の溝跡が検出された。幅22㎝から26㎝、深さ８㎝を測る。
【その他の施設】検出されなかった。
【出土遺物】２層から須恵器壺甕類が出土している（図27－４）。
【小結】破壊のため全体形状が不明であるが、平面形および規模や土層堆積状況が、第７・８号竪穴遺構と類似しており、第８号竪穴遺構と同様に東側に張出を持つ平面形態が想定される。よって13世紀以降に埋没した可能性を導くことができる。

（工藤）

第10号竪穴遺構（ＢＳⅠ－10）（図23）
【位置・確認】Ｏ・Ｐ－17・18グリッドに位置する。基本層序第ＢⅢ層上面で確認した。
【重複】第９号竪穴遺構、Ⅰ層水田第１号水路跡、第531・532・533・535・536・540・548・549・550・708号ピットと重複する。新旧関係は本遺構が第９号竪穴遺構より新しく、Ⅰ層水田第１号水路跡、第540号ピットよりも古い。第531・532・533・535・536・548・549・550・708号ピットとの新旧関係は判断できなかった。
【形態・規模】北側の大半をⅠ層水田第１号水路跡に破壊され欠失する。平面形は不整円形を呈する。長軸2.4m、短軸2.2ｍを測る。深さは最大で13㎝を測る。
【堆積土】全体に褐色土を主体とする。鉄分の凝集が目立ち、炭化物粒を微量含む。
【壁・床面】本遺構の掘り込みが浅く、壁面の明確な床からの立ち上がりは観察できない。床面は基本土層第ＢⅢ層を掘り込み平坦に造られている。
【柱穴】壁際から計３基のピットを検出した。いずれも調査の不備により本遺構に伴うものか新旧関係が判断できなかった。また、隣接するⅠ層水田第１号水路跡の完掘後に検出した第533・536・548・549・550・708号ピットは検出位置や重複関係から、本遺構に伴う可能性がある。
【壁溝】東壁付近のみ検出された。幅39㎝から42㎝を測る。

【その他の施設】検出されなかった。
【出土遺物】遺物は出土しなかった。
【小結】平面形が不整円形を呈し、他の竪穴遺構と異なる様相を示しており、遺構の掘込の浅さに起因するものと思われる。新旧関係や、検出層位および堆積土の状況から、13世紀以降に埋没した可能性がある。

（工藤）

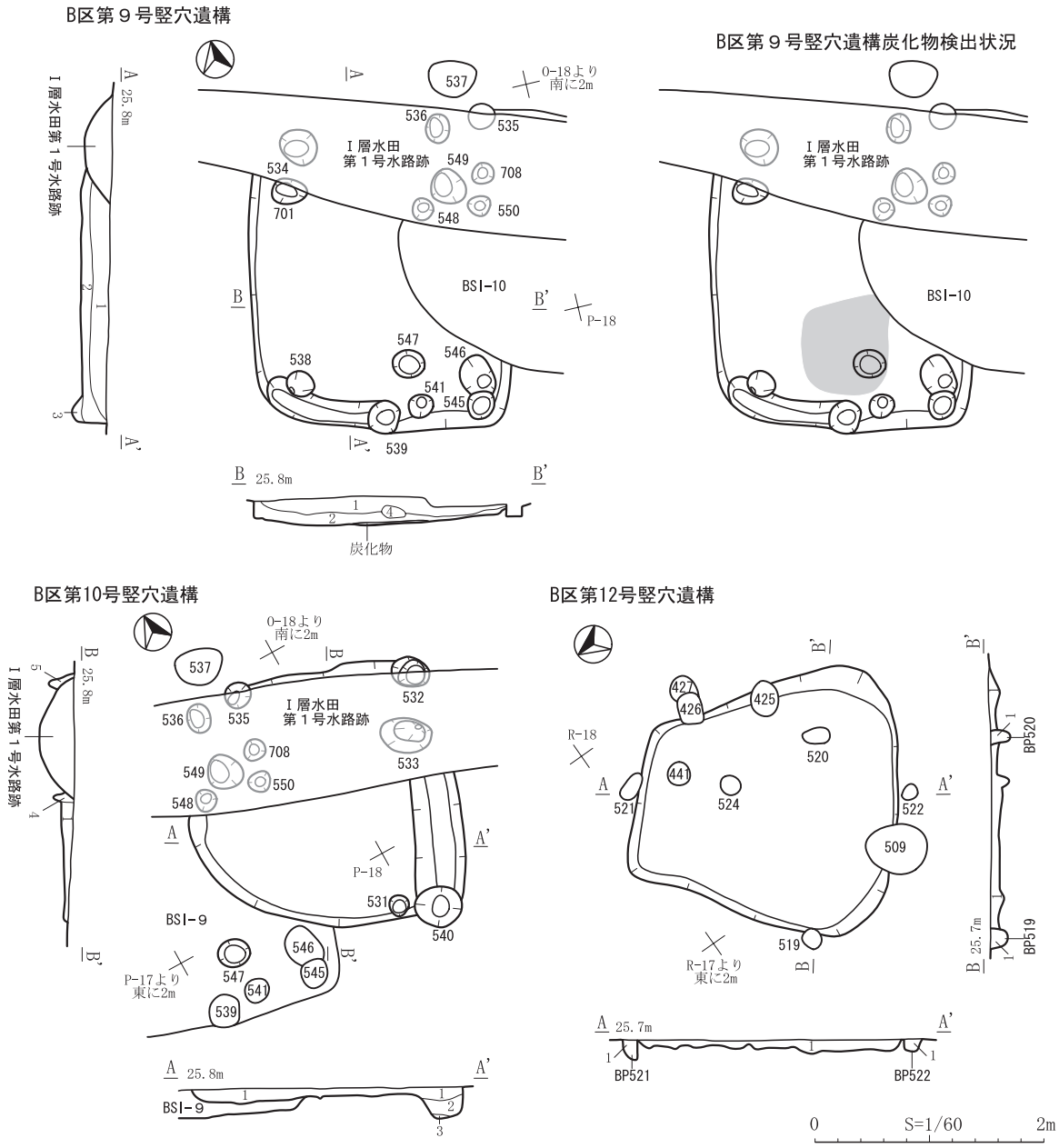
第11号竪穴遺構（ＢＳＩ－11）

整理段階で第１号井戸跡と名称変更したため、欠番とした。

第12号竪穴遺構（ＢＳＩ－12）（図23）
【位置・確認】Ｑ・Ｒ－17グリッドに位置する。基本層序第ＢⅢ層上面で確認した。
【重複】第７号掘立柱建物跡、第425・426・441・509・519・520・521・524号ピットと重複する。新旧関係は本遺構が第７号掘立柱建物跡、第425・426・509・519・520・521号ピットより古い。第441・524号ピットとの新旧関係は判断できなかった。
【形態・規模】平面形は不整方形を呈し、最大幅は2.3mを測る。深さは平均11㎝を測る。
【堆積土】全体ににぶい黄褐色土を主体とし、鉄分の凝集が観察される。
【壁・床面】本遺構の掘り込みが浅く、壁の立ち上がりの確認は困難である。確認される箇所では、底面からほぼ垂直に立ち上がる。床面は基本土層第ＢⅢ層を掘り込みほぼ平坦に造られている。
【柱穴】本遺構に明確に伴うピットは検出されなかった。
【壁溝】検出されなかった。
【その他の施設】検出されなかった。
【出土遺物】遺物は出土しなかった。
【小結】平面形が不整円形を呈し、検出状況から、床面に柱穴を伴う可能性が低いものである。検出層位および堆積土の状況から、平安時代以降に埋没したものと思われる。

（工藤）

第13号竪穴遺構（ＢＳＩ－13）（図24）
【位置・確認】Ｖ－29グリッドに位置する。基本層序第ＢⅢｂ層上面で確認した。
【重複】第35号土坑と重複する。堆積土の観察から本遺構が古いことが確認できた。
【形態・規模】大部分が北側の調査区外に存在するため全体形状は不明である。検出部分から推定すると、やや隅丸の方形を呈するものと思われる。確認できた深さは32㎝を測る。
【壁・床面】壁は底面からほぼ垂直に立ち上がる。床面にはやや起伏が見られる。
【堆積土】４層に分層された。暗褐色土が主体で浮石を含み、人為堆積の様相を呈している。
【柱穴】柱穴と考えられるピットは検出されなかった。
【壁溝】検出されなかった。
【その他の施設】検出されなかった。

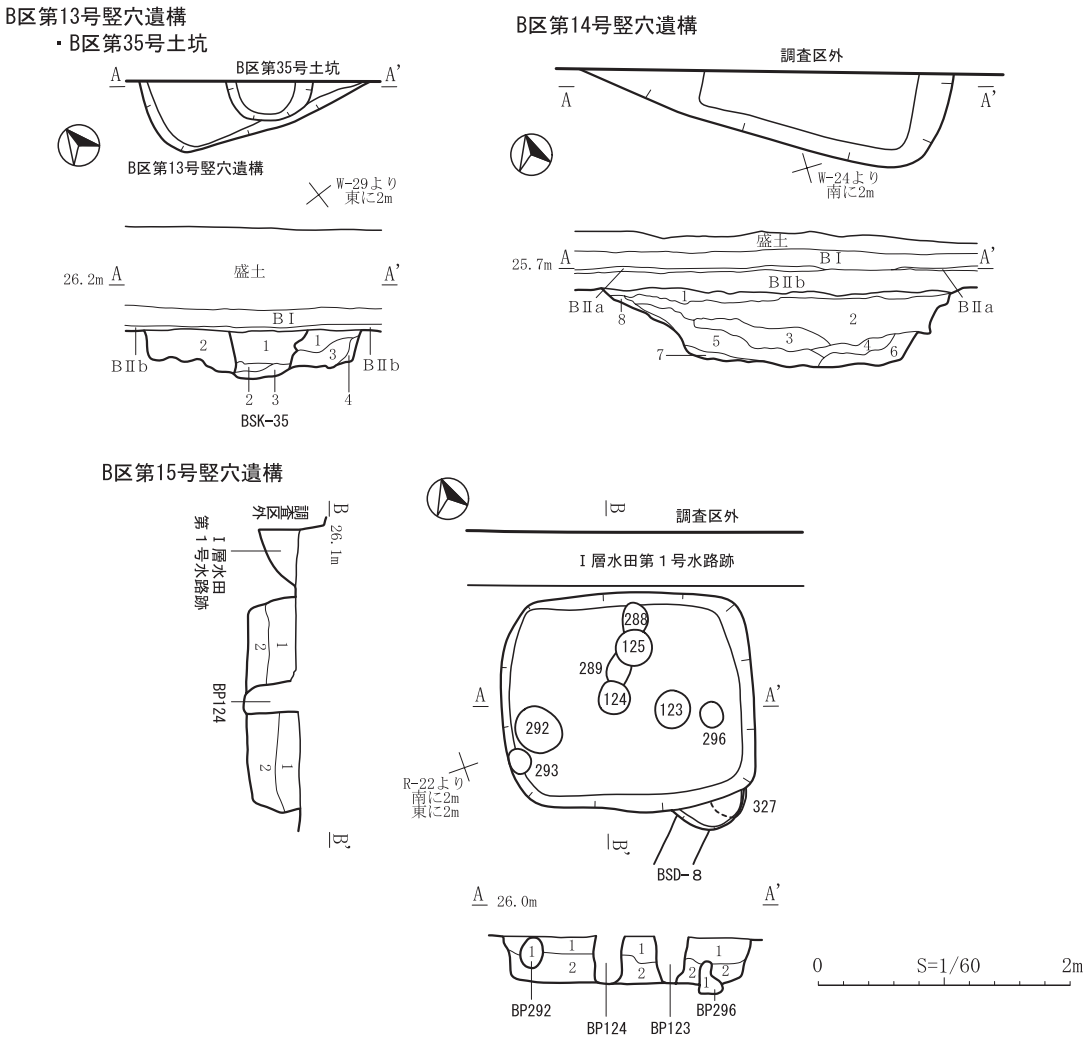


B区第９号竪穴遺構
1層　10YR4/2　灰黄褐色土　　10YR3/4暗褐色土多量、浮石(φ1～5㎜)極微量、炭化物(φ1～5㎜)極微量、粘性中、しまり強
2層　10YR4/2　灰黄褐色土　　10YR3/4暗褐色土多量、浮石(φ1～5㎜)極微量、炭化物(φ1～5㎜)極微量、粘性中、しまりやや強
3層　10YR4/4　褐色土　　浮石(φ1～3㎜)極微量、第BⅢ層ブロック状に混入、粘性中、しまりやや強
4層　10YR4/2　灰黄褐色土　　10YR4/4褐色土多量、炭化物(φ1～3㎜)極微量、粘性強、しまりやや強

B区第10号竪穴遺構
1層　10YR4/4　褐色土　　10YR5/3にぶい黄褐色土多量、浮石(φ1～10㎜)微量、粘性弱、しまり強
2層　10YR4/4　褐色土　　10YR5/3にぶい黄褐色土多量、浮石(φ1～10㎜)極微量、炭化物(φ1～2㎜)極微量、粘性弱、しまり強
3層　10YR4/4　褐色土　　10YR5/3にぶい黄褐色土多量、浮石(φ1～3㎜)極微量、炭化物(φ1～5㎜)極微量、粘性弱、しまり強
4層　10YR5/4　にぶい黄褐色土　浮石(φ1～10㎜)微量、炭化物(φ1～20㎜)極微量、粘性弱、しまり強
5層　10YR5/3　にぶい黄褐色土　10YR4/2灰黄褐色土多量、浮石(φ1～5㎜)極微量、粘性弱、しまり強

B区第12号竪穴遺構
1層　10YR5/4　にぶい黄褐色土　浮石(φ1～2㎜)極微量、粘性弱、しまり強
BP519
1層　10YR4/4　褐色土　　浮石(φ1～2㎜)極微量、粘性弱、しまり強
BP520
1層　10YR4/4　褐色土　　浮石(φ1～2㎜)極微量、粘性弱、しまり強
BP521
1層　10YR4/4　褐色土　　浮石(φ1～2㎜)極微量、粘性弱、しまり強
BP522
1層　10YR4/4　褐色土　　浮石(φ1～2㎜)極微量、粘性弱、しまり強

図23　Ｂ区竪穴遺構（３）



B区第13号竪穴遺構

1層	10YR3/4 暗褐色土	浮石(φ1～15㎜)微量、炭化物(φ1～5㎜)極微量、粘性弱、しまり強
2層	10YR3/3 暗褐色土	炭化物(φ1～10㎜)微量、粘性弱、しまり強
3層	10YR3/4 暗褐色土	浮石(φ1～10㎜)極微量、焼土粒(φ1～5㎜)極微量、粘性弱、しまりやや強
4層	10YR4/4 褐色土	浮石(φ1～20㎜)小量混入、第BⅢ層？小量混入、粘性弱、しまり強

B区第35号土坑

1層	10YR4/4 褐色土	第BⅢ層中量、浮石(φ1～15㎜)微量、炭化物(φ1～10㎜)微量、粘性弱、しまり強
2層	10YR3/4 暗褐色土	第BⅢ層微量、浮石(φ1～3㎜)極微量、粘性弱、しまり中
3層	10YR4/4 褐色土	炭化物(φ1～10㎜)極微量、粘性中、しまり中

B区第14号竪穴遺構

1層	10YR4/4 褐色土	10YR5/3にぶい黄褐色多量、浮石(φ1～5㎜)微量、粘性なし、しまり強
2層	10YR4/4 褐色土	10YR4/6褐色土多量、2.5YR6/3にぶい黄色シルト粒ブロック(φ5～60㎜)中量、炭化物粒(φ1～5㎜)小量、浮石(φ1～5㎜)微量、粘性なし、しまり強
3層	2.5YR6/3 にぶい黄色シルト	10YR4/3にぶい黄褐色土多量、10YR4/6褐色土粒ブロック(φ1～80㎜)中量、浮石(φ1～10㎜)微量、粘性中、しまり強
4層	10YR4/2 灰黄褐色土	10YR4/6褐色土多量、2.5YR6/3にぶい黄色シルト(φ3～10㎜)微量、炭化物粒(φ1～5㎜)微量、粘性中、しまりやや強
5層	10YR4/3 にぶい黄褐色土	10YR4/4褐色土多量、10YR4/6褐色土粒ブロック(φ1～30㎜)小量、2.5YR6/3にぶい黄色シルト粒(φ1～15㎜)微量、粘性中、しまり強
6層	10YR4/3 にぶい黄褐色土	7.5YR4/6褐色土多量、2.5YR5/3黄褐色シルト粒ブロック(φ5～40㎜)中量、粘性中、しまり強
7層	10YR4/4 褐色土	10YR4/6褐色土粒ブロック(φ1～50㎜)中量、炭化物粒(φ1～3㎜)微量、粘性強、しまり強
8層	10YR4/4 褐色土	10YR4/6褐色土粒(φ1～3㎜)小量、炭化物粒(φ1～2㎜)微量、粘性弱、しまり強

B区第15号竪穴遺構

1層	10YR4/4 褐色土	10YR4/3にぶい黄褐色土多量、10YR6/1褐灰色粘土(φ1～50㎜)中量、浮石(φ1～15㎜)小量、炭化物粒(φ1～30㎜)微量、焼土粒(φ1～3㎜)微量、粘性中、しまり強
2層	10YR4/6 褐色土	10YR4/4褐色土多量、10YR6/1褐灰色粘土(φ1～50㎜)中量、炭化物粒(φ1～5㎜)小量、浮石(φ1～3㎜)微量、焼土粒(φ1～2㎜)極微量、粘性やや強、しまり強

BP292

1層	10YR4/4 褐色土	浮石(φ1～10㎜)微量、10YR6/3にぶい黄橙色土(φ5㎜)混入、粘性弱、しまり強

BP296

1層	10YR3/4 暗褐色土	10YR4/4褐色土多量、炭化物粒(φ1～5㎜)微量、焼土粒(φ1～3㎜)微量、浮石(φ1～2㎜)微量、粘性強、しまりやや強

図24　B区竪穴遺構（4）・土坑（1）

【出土遺物】図示できるような遺物は出土していない。
【小結】詳細については不明であるが、確認できる形状や堆積土の状況から、中世の竪穴遺構の可能性が高い。

（笹森）

第14号竪穴遺構（ＢＳＩ－14）（図24）
【位置・確認】Ｗ－23・24グリッドに位置している。基本層序第ＢⅢｂ層上面で確認した。遺構の大部分は北側を東西方向に延びる村道畑中９号線の下部に存在する。
【重複】検出範囲では認められない。
【形態・規模】前述したように大部分が村道畑中９号線の下に存在するため全容を伺い知ることはできない。確認できる１辺の長さは最大280㎝、壁高は60㎝を測る。
【堆積土】８層に分層できた。基本層序第ＢⅢａ・Ⅲｂ層をブロック状に混入しており、人為堆積の様相を呈している。
【壁・床面】壁は床面から緩やかに立ち上がっている。床面は地床で、多少凹凸が見られる。
【柱穴】柱穴と思われるピットは検出されなかった。
【壁溝】検出されなかった。
【その他の施設】検出されなかった。
【出土遺物】遺物は出土していない。
【小結】詳細については不明であるが、確認できる形状及び堆積土から、中世の竪穴遺構の可能性が高い。

（笹森）

第15号竪穴遺構（ＢＳＩ－15）（図24）
調査段階では第９号土坑（ＢＳＫ－９）・第８号土坑（ＢＳＫ－８）・第５号竪穴遺構としたが、整理段階で統合し第15号竪穴遺構（ＢＳＩ－15）に名称変更した。
【位置・確認】Ｒ－22・23グリッドに位置する。基本層序第BⅢｂ層上面で確認した。
【重複】第５・14号掘立柱建物跡、第123・124・125・288・289・292・293・296・327号ピットと重複する。新旧関係は本遺構が第14号掘立柱建物跡、第123・124・125・288・289・292・293・296号ピットより古く、第５号掘立柱建物跡、第327号ピットより新しい。
【形態・規模】平面形は南東隅に張り出しを持つ隅丸方形を呈する。長軸2.0m、短軸1.7mを測る。深さは平均34㎝を測り、主軸方位はＮ－16°－Ｅである。
【堆積土】褐色土を主体とし、炭化物粒や焼土粒を少量含む。遺構中央部の底面付近から、灰状物質が出土している。堆積状況は人為堆積の様相を呈する。
【壁・床面】壁は底面からやや開きながら立ち上がる。床面は基本土層第ＢⅢ層と第ＢⅣ層を掘り込み平坦に造られている。
【柱穴】検出されなかった。
【壁溝】検出されなかった。

【その他の施設】北東隅に張出を有し、内部に第327ピットが検出されている。出入り口の痕跡の可能性がある。
【出土遺物】１層から砥石が出土している。断面が四角形のものであり、砥面としているのは３面である（図27－５）。
【小結】底面に柱穴を伴わないものである。出土遺物や検出層位および堆積土の状況から、平安時代以降に埋没したものと思われる。

（工藤）

第16号竪穴住居跡（ＢＳＩ－16）

遺構確認時に竪穴住居跡と認識したが調査段階で遺構と判断しなかったため、欠番とした。

第17号竪穴住居跡（ＢＳＩ－17）

遺構確認時に竪穴遺構と認識したが調査段階で第３号井戸跡と名称変更したため、欠番とした。

第18号竪穴住居跡（ＢＳＩ－18）

遺構確認時に竪穴住居跡と認識したが整理段階で第15号竪穴遺構と統合したため、欠番とした。

第19号竪穴遺構（ＢＳＩ－19）（図25・27）
【位置・確認】ＩＤ－28･29グリッドに位置している。基本層序第ＢⅢａ層中で確認されている。平成17年度の試掘調査、第１トレンチで検出・精査されている。第６号竪穴住居跡の北西隣に位置する。
【重複】現存区域では認められない。
【形態・規模】遺構の半分強が南西側の調査区外に存在するため、全容を伺い知ることはできない。平面形は方形を基調としながら張り出し部を有する形態と考えられる。確認できる１辺は最大5.05m、壁高は最大20㎝を測り、北東壁南東部に張り出しを有している。張り出し部の幅は約2.2m、北東壁からの奥行きは約70㎝、壁高は最大17㎝を測る。
【堆積土】遺構内の堆積土は４層に分層でき、ほぼ自然堆積の様相を呈している。確認面では基本層序第ＢⅡｂ層に覆われていた。
【壁・床面】壁は床面からほぼ垂直に立ち上がっている。床面は地床で、ほぼ平坦に造られている。一部で硬化している部分も見受けられる。
【柱穴】確認できた壁際から柱穴と考えられるピットが総計13基検出されている。中でも住居の各隅及び張り出し部の付け根部分に、比較的規模の大きい柱穴が計３基（ピット１～３）確認できた。径30～50㎝、深さは65～71㎝を測る。その他に柱穴と考えられるピットは計10基（ピット４～13）検出されている。径12～32㎝、深さは12～40㎝を測る。特に張り出し部分からは７基（ピット５～11）と、比較的密に検出されている。
【壁溝】検出されなかった。
【カマド】調査区内からは検出されなかった。類例からすると調査区外の張り出し部を有する長辺側の南東壁に付随していた可能性が高いものと思われる。

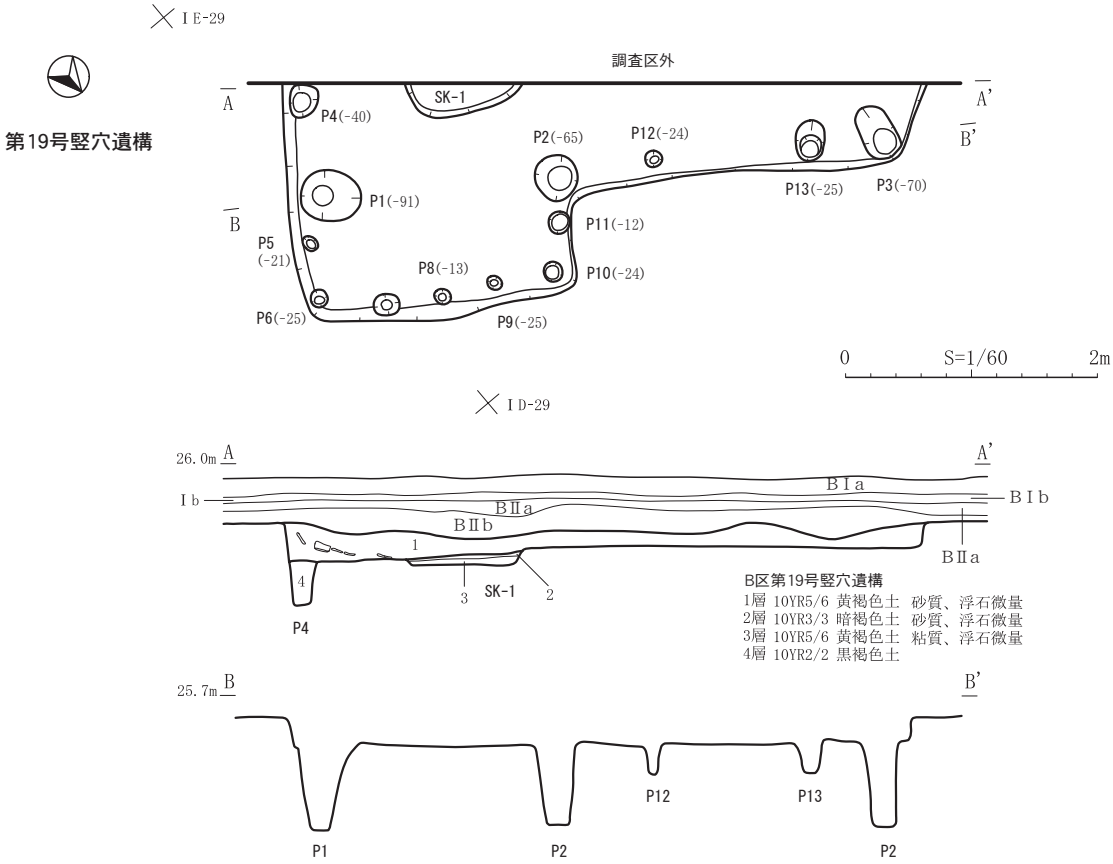


図25　Ｂ区竪穴遺構（５）

【その他の施設】土坑が１基検出されている。半分強が南西側調査区外に存在するため、全容を伺うことはできない。確認できた長さは94㎝、深さは最大14㎝を測る。形状は小判形、或いは隅丸の長方形を呈するものと思われる。堆積土は２層に分層でき、自然堆積の様相を呈している。

【出土遺物】１号土坑及びピット４周辺を中心に土師器甕が出土している。また、張り出し部の壁際の床面直上からは扁平な礫が６個出土している。

【小結】確認できる平面形態や出土遺物から、平安時代の竪穴遺構と考えられる。第６号竪穴住居跡同様洪水後、ある程度地盤が落ち着いてから構築されたものと考えられる。

（笹森）

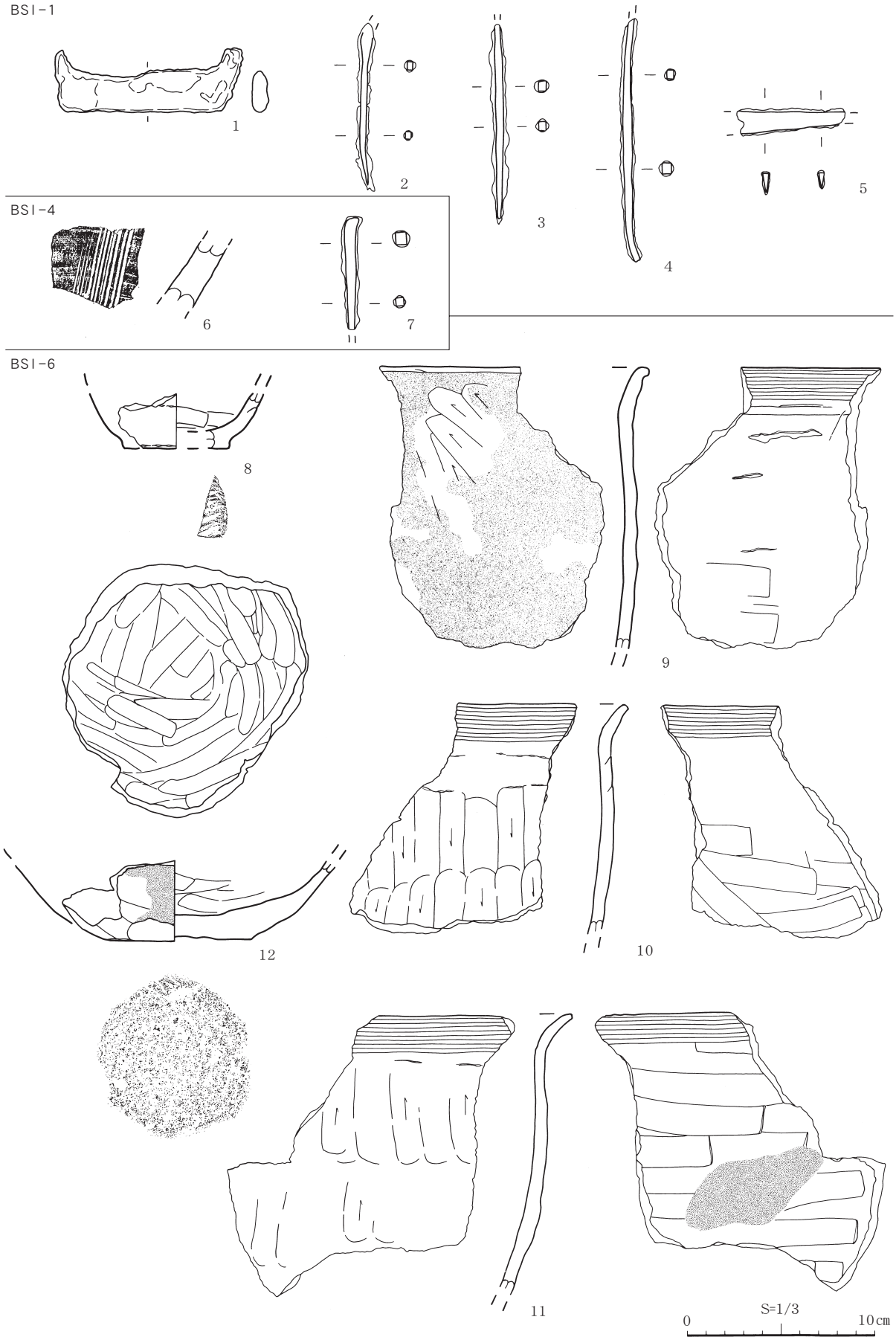


図26　B区竪穴遺構出土遺物（1）・竪穴住居跡出土遺物（1）

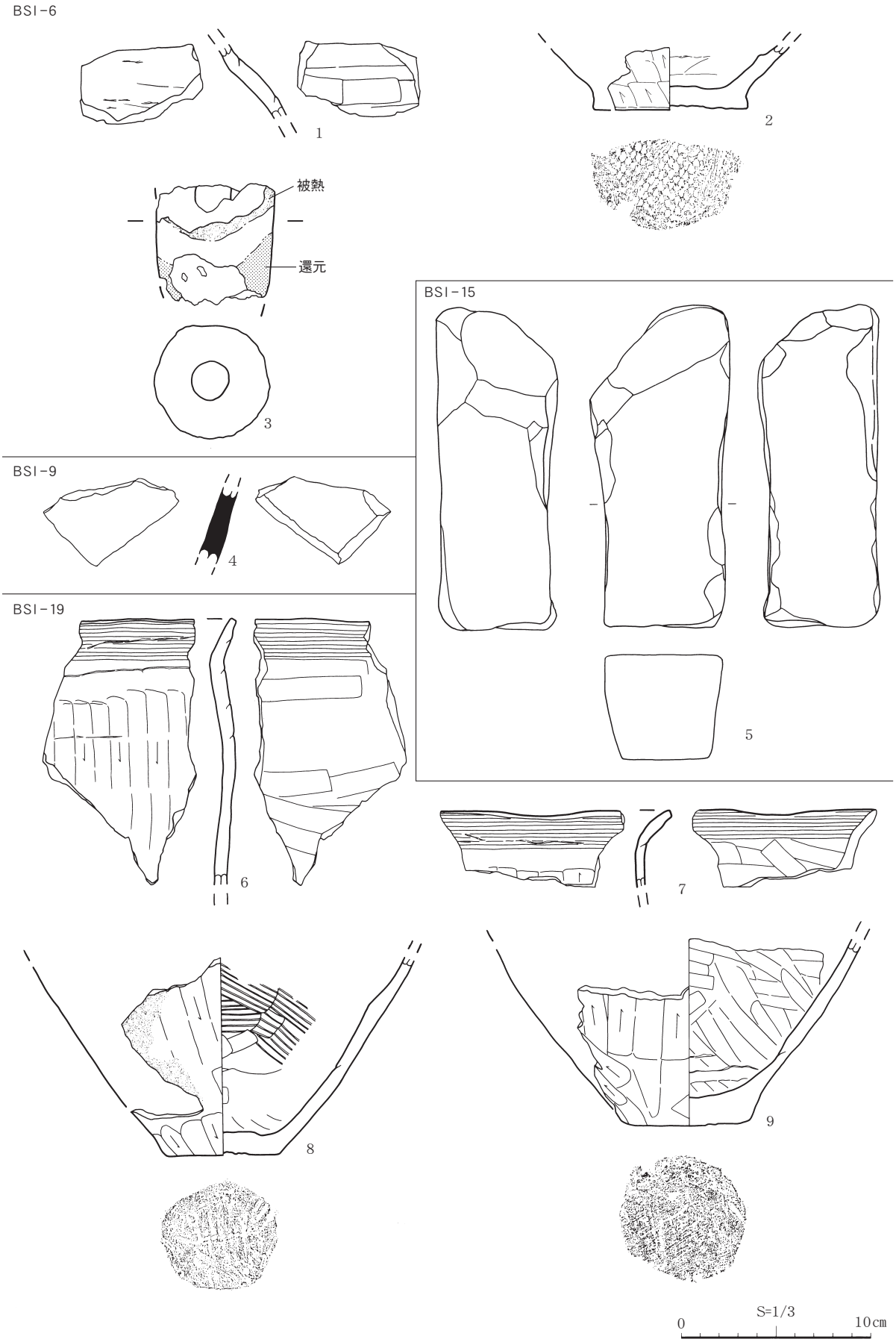


図27　Ｂ区竪穴遺構出土遺物（２）・竪穴住居跡出土遺物（２）

第３節　掘立柱建物跡・ピット

１　掘立柱建物跡

Ｂ区で検出した掘立柱建物跡は、第２号掘立柱建物跡から第16号掘立柱建物跡までの15棟を検出した。以下詳細を報告する。

第２号掘立柱建物跡（ＢＳＢ－２）（図28）

【位置・確認】Ｒ・Ｓ－20・21グリッドに位置する。基本層序第ＢⅢ層で検出した。

【重複】第９・12号掘立柱建物跡、第192・246・249号ピットと重複し、第９号掘立柱建物跡、第249号ピットよりも新しく、第12号掘立柱建物跡、第192・246号ピットより古い。

【構造・規模】構造は桁行２間（4,905㎜）、梁間１間（2,118㎜）の建物跡である。総計６基の柱穴を検出した。主軸方位はＮ－68.8°－Ｗである。棟方向は北西－南東棟である。

【柱穴】柱穴の規模は長径22～34㎝、短径21～29㎝、深さは９～32㎝を測る。第489号ピットでは柱痕を検出した。

【柱間寸法】桁行2,029㎜～2,876㎜、梁間2,118㎜を測る。

【出土遺物】遺物は出土していない。

【小結】検出層位から10世紀以降に埋没したものと考えられる。

（工藤）

第３号掘立柱建物跡（ＢＳＢ－３）（図28）

【位置・確認】Ｑ・Ｒ－20～22グリッドに位置する。基本層序第ＢⅢ層で検出した。

【重複】第２号竪穴遺構、第４号土坑と重複し、本遺構が新しい。

【構造・規模】構造は桁行３間（5,970㎜）、梁間２間（3,214㎜）の建物跡である。総計10基の柱穴を検出した。主軸方位はＮ－68.2°－Ｗである。

【柱穴】柱穴の規模は長径26～37㎝、短径14～31㎝、深さは７～36㎝を測る。第211・168・309・397号ピットでは柱痕を検出した。

【柱間寸法】桁行1,884㎜～2.051㎜、梁間1,349㎜～1,865㎜を測る。

【出土遺物】遺物は出土していない。

【小結】検出層位から10世紀以降に埋没したものと考えられる。

（工藤）

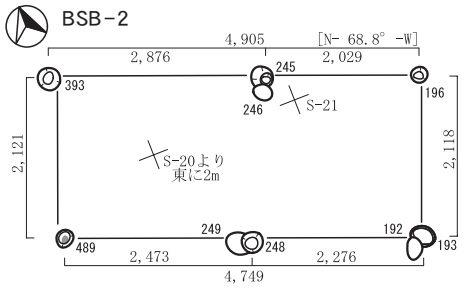
第４号掘立柱建物跡（ＢＳＢ－４）（図28）

【位置・確認】Ｐ～Ｑ－21～22グリッドに位置する。基本層序第ＢⅢ層上面で検出した。

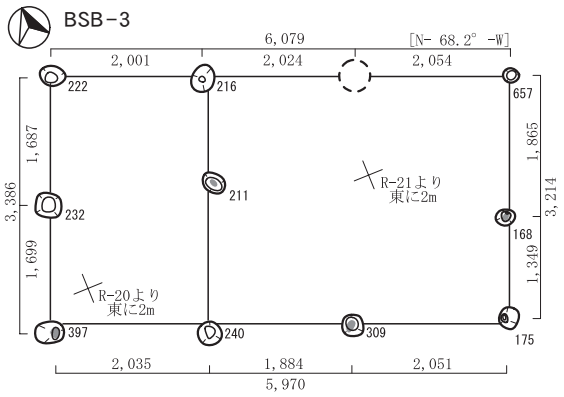
【重複】第41号土坑と重複し、本遺構が新しい。

【構造・規模】総計10基の柱穴からなり、桁行４間、梁間１間の建物跡である。主軸方位はＮ－21.1°－Ｗである。建物跡の規模は桁行４間（7,460㎜）、梁間１間（2,287㎜）を測る。

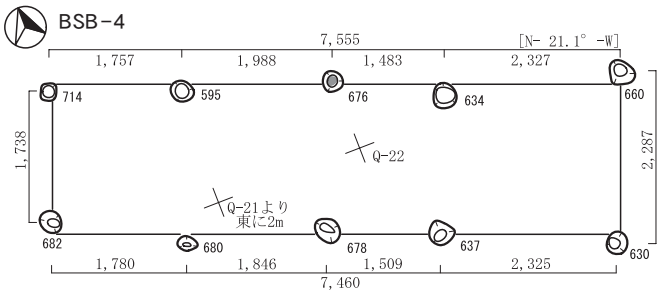
【柱穴】柱穴の規模は長径24～36㎝、短径19～30㎝、深さは13～52㎝を測る。第676号ピットでは柱



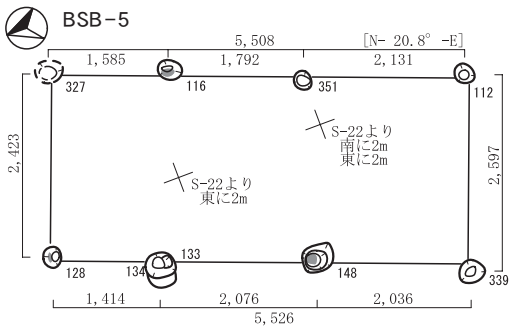
番号	193	196	245	248	393	489
深さ	9	24	19	19	23	32



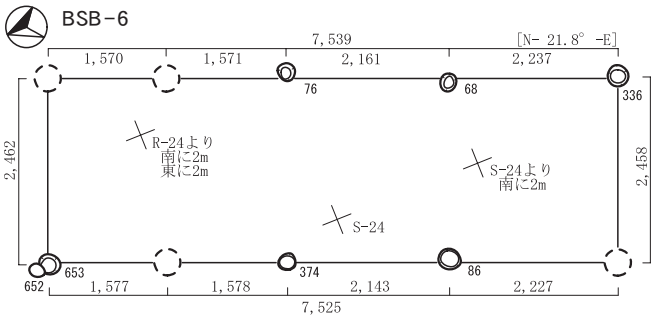
番号	168	175	211	216	222	232	240	309	397	657
深さ	15	32	15	35	26	36	26	25	14	7



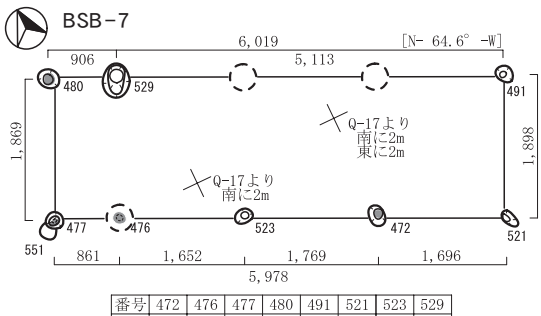
番号	595	630	634	637	660	676	678	680	682	714
深さ	22	52	37	41	42	13	24	13	45	20



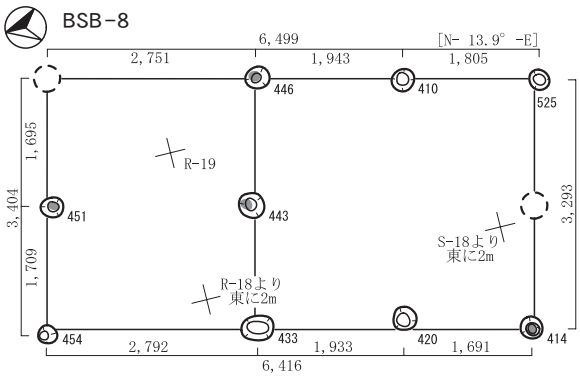
番号	112	116	128	133	148	327	339	351
深さ	10	15	39	48	42	23	29	22



番号	68	76	86	93	336	374	653
深さ	11	12	11	9	12	18	36



番号	472	476	477	480	491	521	523	529
深さ	26	–	–	15	13	12	11	28



番号	410	414	420	433	443	446	451	454	525
深さ	19	22	14	26	25	28	14	43	16

※網かけ部は柱痕

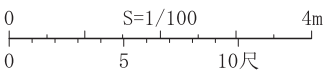


図28　Ｂ区掘立柱建物跡（１）

痕を検出した。
【柱間寸法】桁行1,483㎜～2,327㎜、梁間1,738㎜～2,287㎜を測る。
【出土遺物】遺物は出土しなかった。
【小結】検出層位から10世紀以降に埋没したものと考えられる。

（斉藤）

第５号掘立柱建物跡（ＢＳＢ－５）（図28）
【位置・確認】Ｒ～Ｔ－21・22グリッドに位置する。基本層序第ＢⅢ層上面で検出した。
【重複】第15号竪穴遺構、第１号円形周溝、第８・９・10号溝跡、第134号ピットと重複し、第１号円形周溝、第８・９・10号溝跡、第134号ピットより新しく、第15号竪穴遺構よりも古い。
【構造・規模】構造は桁行３間（5,526㎜）、梁間１間（2,597㎜）の建物跡である。総計８基の柱穴を検出した。主軸方位はＮ－20.8°－Ｅである。
【柱穴】柱穴の規模は長径25～47㎝、短径16～39㎝、深さは10～48㎝を測る。第116・148号ピットでは柱痕を検出した。
【柱間寸法】桁行1,414㎜～2,076㎜、梁間2,597㎜を測る。
【出土遺物】第148号ピット堆積土より珠洲壺甕類破片が出土しており、12世紀半ばから14世紀のものと思われる。
【小結】出土遺物と検出層位から12世紀半ば以降に埋没したものと考えられる。

（工藤）

第６号掘立柱建物跡（ＢＳＢ－６）（図28）
【位置・確認】Ｒ・Ｓ－23・24グリッドに位置する。基本層序第ＢⅢ層で検出した。
【重複】第14・15号溝跡、第652号ピットと重複し、本遺構が第14号溝跡より新しく、第652号ピットより古い。第15号溝跡との新旧関係は判断できなかった。
【構造・規模】構造は桁行４間（7,539㎜）、梁間１間（2,458㎜）の建物跡である。総計６基の柱穴を検出した。主軸方位はＮ－21.8°－Ｅである。
【柱穴】柱穴の規模は長径23～30㎝、短径22～28㎝、深さは９～36㎝を測る。
【柱間寸法】桁行2,143㎜～2,237㎜、梁間2,458㎜を測る。
【出土遺物】第336号ピットの堆積土から、鉄滓が出土している。掲載はしていない。
【小結】検出層位から10世紀以降に埋没したものと考えられる。

（工藤）

第７号掘立柱建物跡（ＢＳＢ－７）（図28）
【位置】Ｐ～Ｒ－16～18グリッドに位置する。基本層序第ＢⅢ層で検出した。
【重複】第12号竪穴遺構、第16号掘立柱建物跡、第28号土坑、第551号ピットと重複し、本遺構が第12号竪穴遺構、第16号掘立柱建物跡、第551号ピットよりも新しい。第28号土坑との重複関係は判断できなかった。

【構造・規模】構造は桁行４間、梁間１間の建物跡である。総計７基の柱穴を検出した。主軸方位はＮ－64.6°－Ｗである。
【柱穴】柱穴の規模は長径24～45㎝、短径14～36㎝、深さは10～28㎝を測る。第472・476・477・480号ピットでは柱痕を検出した。
【柱間寸法】桁行861㎜～1,769㎜、梁間1,898㎜を測る。
【出土遺物】遺物は出土していない。
【小結】検出層位から10世紀以降に埋没したものと考えられる。

（工藤）

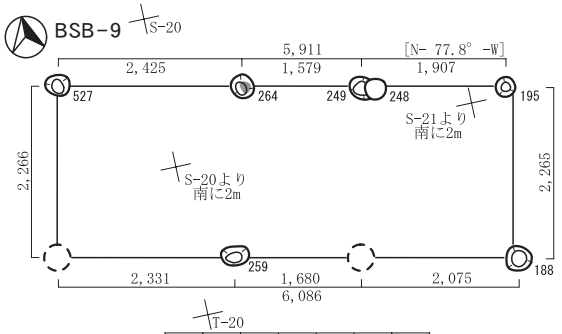
第８号掘立柱建物跡（ＢＳＢ－８）（図28）
【位置・確認】Ｑ～Ｓ－18・19グリッドに位置する。基本層序第ＢⅢ層で検出した。
【重複】第１号井戸跡と重複し、本遺構が新しい。
【構造・規模】構造は桁行３間（6,499㎜）、梁間２間（3,404㎜）の建物跡である。総計９基の柱穴を検出した。主軸方位はＮ－13.9°－Ｅである。
【柱穴】柱穴の規模は長径26～44㎝、短径24～33㎝、深さは14～43㎝を測る。第414・443・446・451ピットでは柱痕を検出した。
【柱間寸法】桁行1,691㎜～2,792㎜、梁間1,695㎜～1,709㎜を測る。
【出土遺物】遺物は出土していない。
【小結】検出層位から10世紀以降に埋没したものと考えられる。

（工藤）

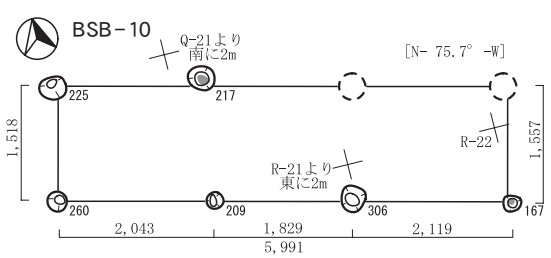
第９号掘立柱建物跡（ＢＳＢ－９）（図29）
【位置・確認】Ｓ・Ｔ－19・21グリッドに位置する。基本層序第ＢⅢ層で検出した。
【重複】第１号竪穴遺構、第２号掘立柱建物跡、第248号ピットと重複し、本遺構が第２号掘立柱建物跡、第248号ピットより古い。第１号竪穴遺構との重複関係は判断できなかった。
【構造・規模】構造は桁行３間（6,086㎜）、梁間１間（2,265㎜）の建物跡である。総計６基の柱穴を検出した。主軸方位はＮ－77.8°－Ｗである。
【柱穴】柱穴の規模は長径27～37㎝、短径20～33㎝、深さは12～35㎝を測る。第264号ピットでは柱痕を検出した。
【柱間寸法】桁行で1,579㎜～2,425㎜、梁間2,265㎜を測る。
【出土遺物】遺物は出土していない。
【小結】検出層位から10世紀以降に埋没したものと考えられる。

（工藤）

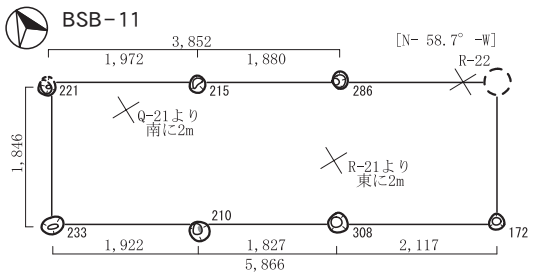
第10号掘立柱建物跡（ＢＳＢ－10）（図29）
【位置・確認】Ｑ・Ｒ－20～22グリッドに位置する。基本層序第ＢⅢ層で検出した。
【重複】第２号竪穴遺構、第４号土坑と重複し、第４号土坑より新しい。第２号竪穴遺構との重複関係



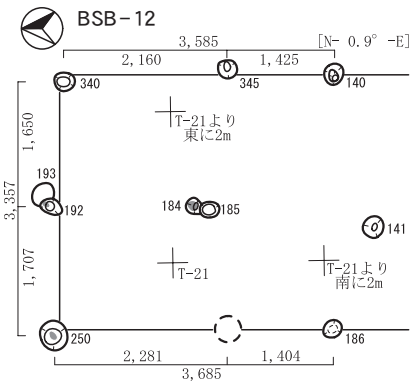
番号	188	195	249	259	264	527
深さ	30	17	12	21	35	18



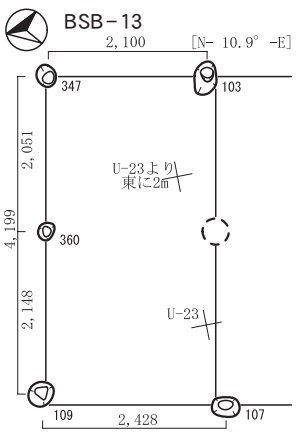
番号	167	209	217	225	260	306	657
深さ	8	18	19	32	33	33	7



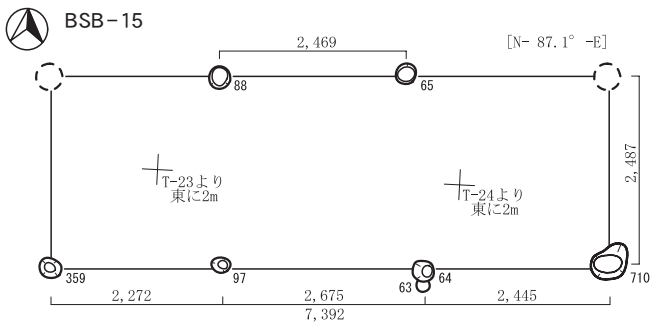
番号	172	210	215	221	233	286	308
深さ	9	19	9	36	22	44	24



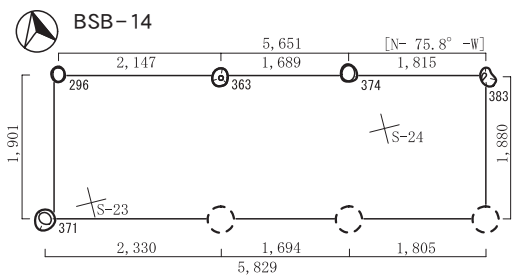
番号	140	141	185	186	192	250	340	345
深さ	19	22	8	－	29	14	24	20



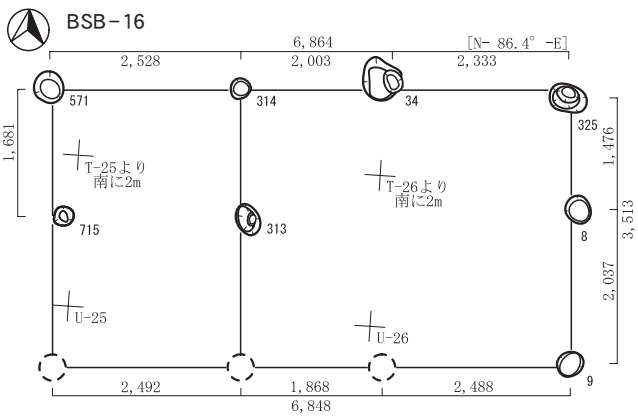
番号	103	107	109	347	360
深さ	30	26	29	38	20



番号	64	65	88	97	359	710
深さ	41	9	13	18	28	40



番号	296	363	371	374	383
深さ	5	29	20	18	12



番号	8	9	34	313	314	325	551	571
深さ	19	9	45	34	19	34	33	45

※網かけ部は柱痕

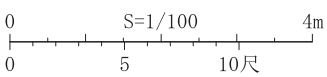


図29　B区掘立柱建物跡（2）

は判断できなかった。
【構造・規模】構造は桁行３間（5,991㎜）、梁間１間（1,557㎜）の建物跡である。総計７基の柱穴を検出した。主軸方位はＮ－75.7°－Ｗである。
【柱穴】柱穴の規模は長径21～36㎝、短径22～35㎝、深さは７～33㎝を測る。第167・217号ピットでは柱痕を検出した。
【柱間寸法】桁行1,829㎜～2,119㎜、梁間1,557㎜を測る。
【出土遺物】遺物は出土していない。
【小結】検出層位から10世紀以降に埋没したものと考えられる。（工藤）

第11号掘立柱建物跡（ＢＳＢ－11）（図29）
【位置・確認】Ｑ・Ｒ－20～22グリッドに位置する。基本層序第ＢⅢ層で検出した。
【重複】第２号竪穴遺構、第４号土坑、Ⅰ層水田第１号水路跡と重複し、本遺構が新しくⅠ層水田第１号水路跡より古い。
【構造・規模】構造は桁行３間（5,866㎜）、梁間１間（1,846㎜）の建物跡である。総計７基の柱穴を検出した。主軸方位はＮ－58.7°－Ｗである。
【柱穴】柱穴の規模は長径21～30㎝、短径17～25㎝、深さは９～44㎝を測る。第210号ピットでは柱痕を検出した。
【柱間寸法】桁行1,827㎜～2,117㎜、梁間1,846㎜を測る。
【出土遺物】遺物は出土していない。
【小結】検出層位から10世紀以降に埋没したものと考えられる。（工藤）

第12号掘立柱建物跡（ＢＳＢ－12）（図29）
【位置・確認】Ｓ・Ｔ－20・21グリッドに位置する。基本層序第ＢⅢ層で検出した。
【重複】第２号掘立柱建物跡、第７・８号溝跡と重複し、本遺構が新しい。
【構造・規模】南部が調査区外に延びると思われるため全容は不明であるが、構造は桁行２間以上、梁間２間の建物跡である。総計６基の柱穴を検出し、周辺には本遺構に関連する可能性のあるピットが３基程確認できる。主軸方位はＮ－0.9°－Ｅである。
【柱穴】柱穴の規模は長径27～39㎝、短径21～35㎝、深さは８～29㎝を測る。第192・250号ピットでは柱痕を検出した。
【柱間寸法】桁行1,404㎜～2,281㎜、梁間1,650㎜～1,707㎜を測る。
【出土遺物】遺物は出土していない。
【小結】遺構の新旧関係や検出層位から10世紀以降に埋没したものと考えられる。（工藤）

第13号掘立柱建物跡（ＢＳＢ－13）（図29）
【位置・確認】Ｔ・Ｕ－22・23グリッドに位置する。基本層序第ＢⅢ層で検出した。
【重複】第14・15号溝跡と重複し、本遺構が新しい。
【構造・規模】南部が調査区外に延びると思われるため全容は不明であるが、構造は桁行１間（2,428

㎜）以上、梁間２間（4,199㎜）の建物跡である。総計５基の柱穴を検出した。主軸方位はＮ－10.9°－Ｅである。
【柱穴】柱穴の規模は長径26～36㎝、短径21～32㎝、深さは20～38㎝を測る。
【柱間寸法】桁行2,428㎜、梁間2,051㎜～2,148㎜を測る。
【出土遺物】遺物は出土していない。
【小結】検出層位から10世紀以降に埋没したものと考えられる。（工藤）

第14号掘立柱建物跡（ＢＳＢ－14）（図29）
【位置・確認】Ｒ・Ｓ－22～24グリッドに位置する。基本層序第ＢⅢ層で検出した。
【重複】第15号竪穴遺構、第11号溝跡、第14号溝跡、第１号円形周溝と重複し、第15号竪穴遺構、第１号円形周溝よりも新しく、第14号溝跡よりも古い。第11号溝跡との重複関係は判断できなかった。
【構造・規模】構造は桁行３間（5,829㎜）、梁間１間（1,880㎜）の建物跡である。総計５基の柱穴を検出した。主軸方位はＮ－75.8°－Ｗである。
【柱穴】柱穴の規模は長径21～28㎝、短径17～27㎝、深さは５～29㎝を測る。
【柱間寸法】桁行1,689㎜～2,417㎜、梁間1,901㎜を測る。
【出土遺物】遺物は出土していない。
【小結】検出層位から10世紀以降に埋没したものと考えられる。（工藤）

第15号掘立柱建物跡（ＢＳＢ－15）（図29）
【位置・確認】Ｓ・Ｔ－23～25グリッドに位置する。基本層序第ＢⅢ層で検出した。
【重複】第52号土坑、第11・14・15号溝跡、第63・553・572・576号ピットと重複し、本遺構が第11・14・15号溝跡、第63・553・572・576号ピットよりも新しい。第52号土坑との重複関係は判断できなかった。
【構造・規模】構造は桁行３間（7,392㎜）、梁間１間（2,487㎜）の建物跡である。総計６基の柱穴を検出した。主軸方位はＮ－87.1°－Ｅである。
【柱穴】柱穴の規模は長径29～55㎝、短径19～42㎝、深さは９～41㎝を測る。
【柱間寸法】桁行2,272㎜～2,675㎜、梁間2,487㎜を測る。
【出土遺物】遺物は出土していない。
【小結】検出層位から10世紀以降に埋没したするものと考えられる。（工藤）

第16号掘立柱建物跡（ＢＳＢ－16）（図29）
【位置・確認】Ｔ・Ｕ－24～26グリッドに位置する。基本層序第ＢⅢ層で検出した。
【重複】第４号竪穴遺構、第７号掘立柱建物跡、第２号井戸跡、第19・21・22号溝跡、第329号ピットと重複し、第19号溝跡よりも新しく、第７号掘立柱建物跡、第329号ピットよりも古い。第４号竪穴遺構、第２号井戸跡、第21・22号溝跡との重複関係は判断できなかった。
【構造・規模】構造は桁行３間（6,848㎜）、梁間２間（3,513㎜）の建物跡である。総計８基の柱穴を検出した。主軸方位はＮ－86.4°－Ｅである。

【柱穴】柱穴の規模は長径28～57㎝、短径27～52㎝、深さは９～45㎝を測る。
【柱間寸法】桁行1,868㎜～2,492㎜、梁間1,476㎜～2,037㎜を測る。
【出土遺物】遺物は出土しなかった。
【小結】周辺遺構の重複関係と第２号井戸跡出土炭化物の放射性炭素年代測定結果は850±30yrBPの値が与えられており（第９章第１節）、周辺遺構の新旧関係と測定結果から13世紀半ば以降に埋没したものと思われる。（工藤）

２　ピット

Ｂ区におけるピットは、掘立柱建物跡に使用されたものも含めて650基を検出した。掘立柱建物跡を構成するものと判断されたもののほかにも、柱穴または柵跡と考えられるピットが多数検出された。
【位置・確認】Ｂ区全域における基本層序第ＢⅢ層上面で検出した。特にＯ～Ｗ－16～30グリッドの範囲内には多数検出された。
【形態・規模】平面形は円形や楕円形が多いが、方形のものも散見される。不定形を呈するものは、抜き取り穴が伴うものが多い。規模は長径12～57㎝、短径８～52㎝、深さは1.8～71.7㎝を測り、長径は30㎝前後のものが多く、40㎝以上は少数である。深さは10～20㎝を測るものが多い。
【堆積土】堆積土中に柱痕を確認したものでは、堀方堆積土は灰黄褐色～褐色土が多く柱痕堆積土は暗褐色土のものが多い。柱痕が確認できなかったピットの堆積土は、にぶい黄褐色～褐色土である傾向がある。
【出土遺物】堆積土から陶器、鉄滓、獣骨が出土している。陶器は珠洲擂鉢であり、第81・148・380号ピットから出土し、第148号ピット出土のものは14世紀以前、第380号ピット出土のものは13世紀末から14世紀半ば頃のものである（図30－１・２）。第81号ピット出土個体は時期不明であり掲載はしていない。鉄滓は第106・256・336・440号ピットから出土し、椀形滓と思われるものがある。獣骨は第329号ピット１層から出土している。
【小結】出土遺物や新旧関係から、第148号ピットは14世紀以降、第380号ピットは14世紀半ば以降の年代に帰属する可能性が高く、検出されたピットの多くは、堆積土や分析状況から、中世以降の年代に帰属する可能性が高い。（工藤）

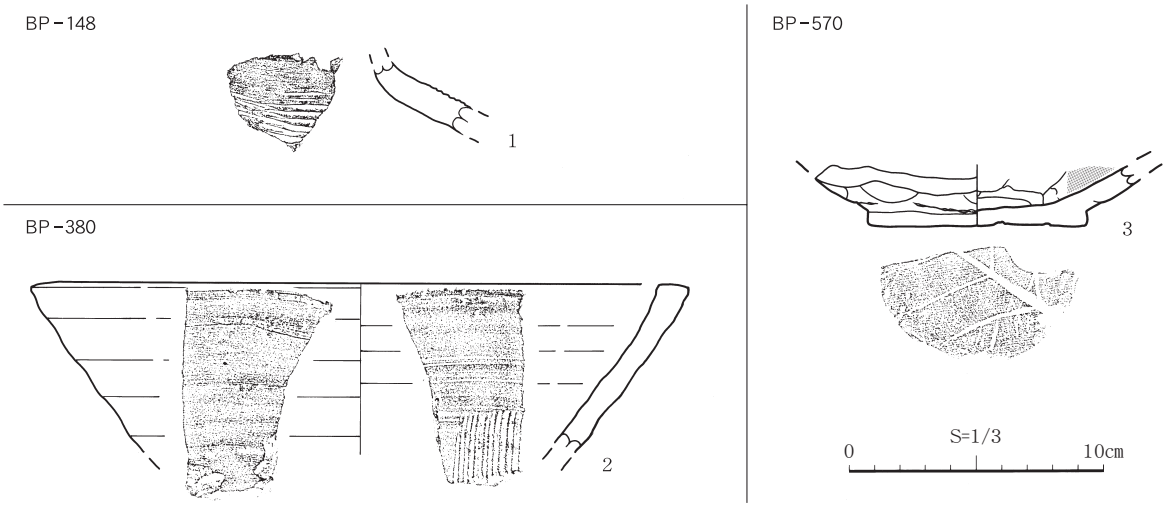


図30　Ｂ区ピット出土遺物

第４節　土坑

第１号土坑（ＢＳＫ－１）（図31）

【位置・確認】Ｎ－17グリッドに位置する。基本層序第ＢⅢ層直上で確認した。

【重複】認められない。

【形態・規模】直径72㎝の円形を呈し、深さは13㎝を測る。

【壁・底面】壁は底面から緩やかに立ち上がる。底面は鍋底型を呈する。

【堆積土】褐色土を主体とし、上層に灰色粘質土中塊をやや多く含み、下層に炭化物小塊を少量含む。人為堆積の様相を呈する。

【出土遺物】遺物は出土していない。

【小結】堆積土上層にⅠ層水田１号水路跡の堆積土に類似した灰色粘質土中塊が含まれることから、近世に埋没した可能性がある。

（工藤）

第２号土坑（ＢＳＫ－２）（図31）

【位置・確認】Ｎ－17グリッドに位置する。基本層序第ＢⅢ層直上で確認した。

【重複】認められない。

【形態・規模】長軸１ｍ61㎝、短軸１ｍ34㎝の不定形を呈し、深さは38㎝を測る。

【壁・底面】壁は底面から緩やかに立ち上がる。底面は鍋底型である。

【堆積土】褐色土を主体とし、灰色粘土を含む締まりが強い堆積土である。人為堆積の様相を呈する。

【出土遺物】遺物は出土していない。

【小結】検出層位や堆積土の状況から、平安時代以降に埋没したと思われる。

（工藤）

第３号土坑（ＢＳＫ－３）（図31）

【位置・確認】Ｓ－19・20グリッドに位置する。基本層序第ＢⅢ層直上で確認した。

【重複】認められない。

【形態・規模】長径74㎝、短径70㎝の円形を呈し、深さは20㎝を測る。

【壁・底面】壁は底面から緩やかに立ち上がる。底面は鍋底型である。

【堆積土】２層に分層された。自然堆積と思われる。

【出土遺物】遺物は出土していない。

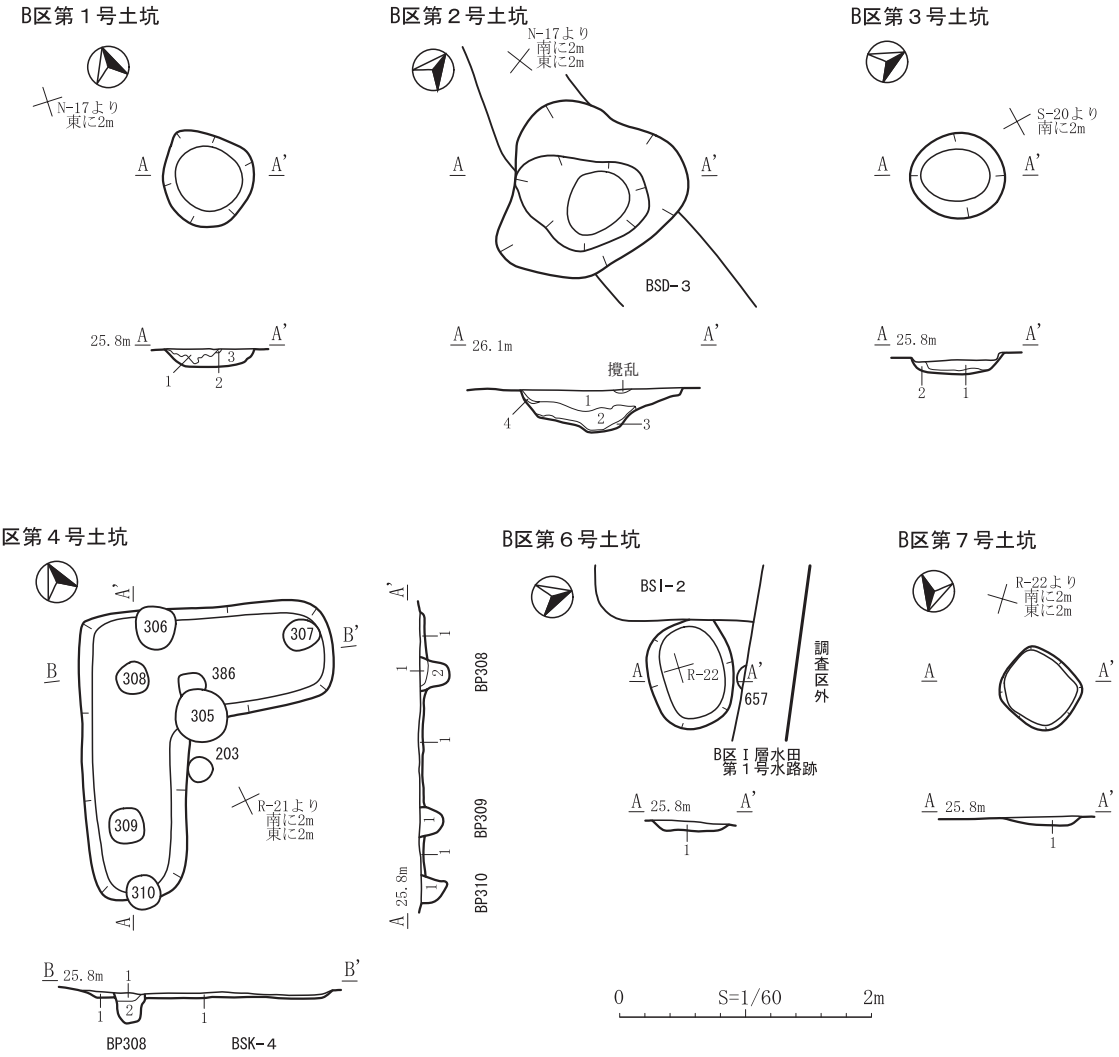
【小結】詳細については不明であるが検出された層位から、平安時代以降の可能性が高い。

（笹森）

第４号土坑（ＢＳＫ－４）（図31）

【位置・確認】Ｒ－21グリッドに位置する。基本層序第ＢⅢ層直上で確認した。

【重複】第３・10・11号掘立柱建物跡、第305・306・307・308・309・310・386号ピットよりも古い。



B区第１号土坑
1層　10YR3/3　黒褐色土　　浮石(φ1～15㎜)微量、粘性なし、しまり強
2層　10YR3/4　暗褐色土　　炭化物粒(φ2㎜)微量、粘性なし、しまり強
3層　10YR4/4　褐色土　　炭化物粒(φ1～2㎜)微量、浮石(φ1～2㎜)微量、粘性なし、しまり強

B区第２号土坑
1層　10YR4/2　灰黄褐色土　　10YR4/3にぶい黄褐色土多量、浮石(φ1～3㎜)小量、粘性弱、しまり強
2層　10YR4/4　褐色土　　粘性弱、しまり強
3層　10YR4/4　褐色土　　10YR5/4にぶい黄褐色土多量、粘性弱、しまり強
4層　10YR4/4　褐色土　　7.5YR4/6褐色土、粘性弱、しまり強

B区第３号土坑
1層　10YR5/4　にぶい黄褐色土　浮石(φ1～10㎜)微量、シルト質、粘性弱、しまりやや強
2層　10YR4/6　褐色土　　第BⅢ層中量含む、浮石(φ1～5㎜)極微量、粘性やや強、しまりやや強

B区第４号土坑
1層　10YR4/3　にぶい黄褐色土　浮石(φ1～2㎜)微量、粘性中、しまり強
BP308
1層　10YR4/4　褐色土　　粘性強、しまり強
2層　10YR4/3　にぶい黄褐色土　炭化物(φ1～2㎜)極微量、粘性強、しまり強
BP309
1層　10YR4/4　褐色土　　炭化物(φ1～2㎜)極微量、粘性強、しまり強
BP310
1層　10YR4/3　にぶい黄褐色土　浮石(φ1～2㎜)微量、粘性中、しまり強

B区第６号土坑
1層　7.5YR4/4　褐色土　　10YR4/2灰黄褐色土多量、炭化物微量、粘性強、しまりやや強

B区第７号土坑
1層　10YR4/3　にぶい黄褐色土　浮石(φ1～5㎜)微量、焼土粒(φ1～3㎜)極微量、粘性弱、しまり強

図31　Ｂ区土坑（２）

【形態・規模】平面形はＬ字型を呈し、長辺227㎝、短辺202㎝、幅は26㎝から27㎝を測る。深さは７㎝を測る。
【壁・底面】壁は底面から緩やかに立ち上がり、底面は平坦である。
【堆積土】にぶい黄褐色土を主体とする。
【出土遺物】遺物は出土していない。
【小結】基本層序第ＢⅢ層をわずかに掘り込む浅いもので、平面形がＬ字型を呈する特殊な土坑である。検出層位や堆積土の状況から、平安時代以降に埋没したと思われる。

（工藤）

第５号土坑（ＢＳＫ－５）

遺構確認時に第４号土坑と切り合う土坑と判断し設定したが、精査の結果、単独遺構ではなく第４号土坑と同一の遺構と判断したため、欠番とした。

第６号土坑（ＢＳＫ－６）（図31）
【位置・確認】Ｑ・Ｒ－21・22グリッドに位置する。基本層序第ＢⅢ層直上で確認した。
【重複】第２号竪穴遺構と重複している。新旧関係は第２号竪穴遺構より古い。
【形態・規模】長軸84㎝、短軸68㎝の楕円形を呈し、深さは８㎝を測る。
【壁・底面】壁は底面から緩やかに立ち上がる。底面は鍋底型でなだらかである。
【堆積土】褐色土を主体とし、炭化物の小塊を微量に含む。
【出土遺物】遺物は出土していない。
【小結】基本層序第ＢⅢ層をわずかに掘り込む浅い土坑である。検出層位や堆積土の状況から、平安時代以降に埋没したと思われる。

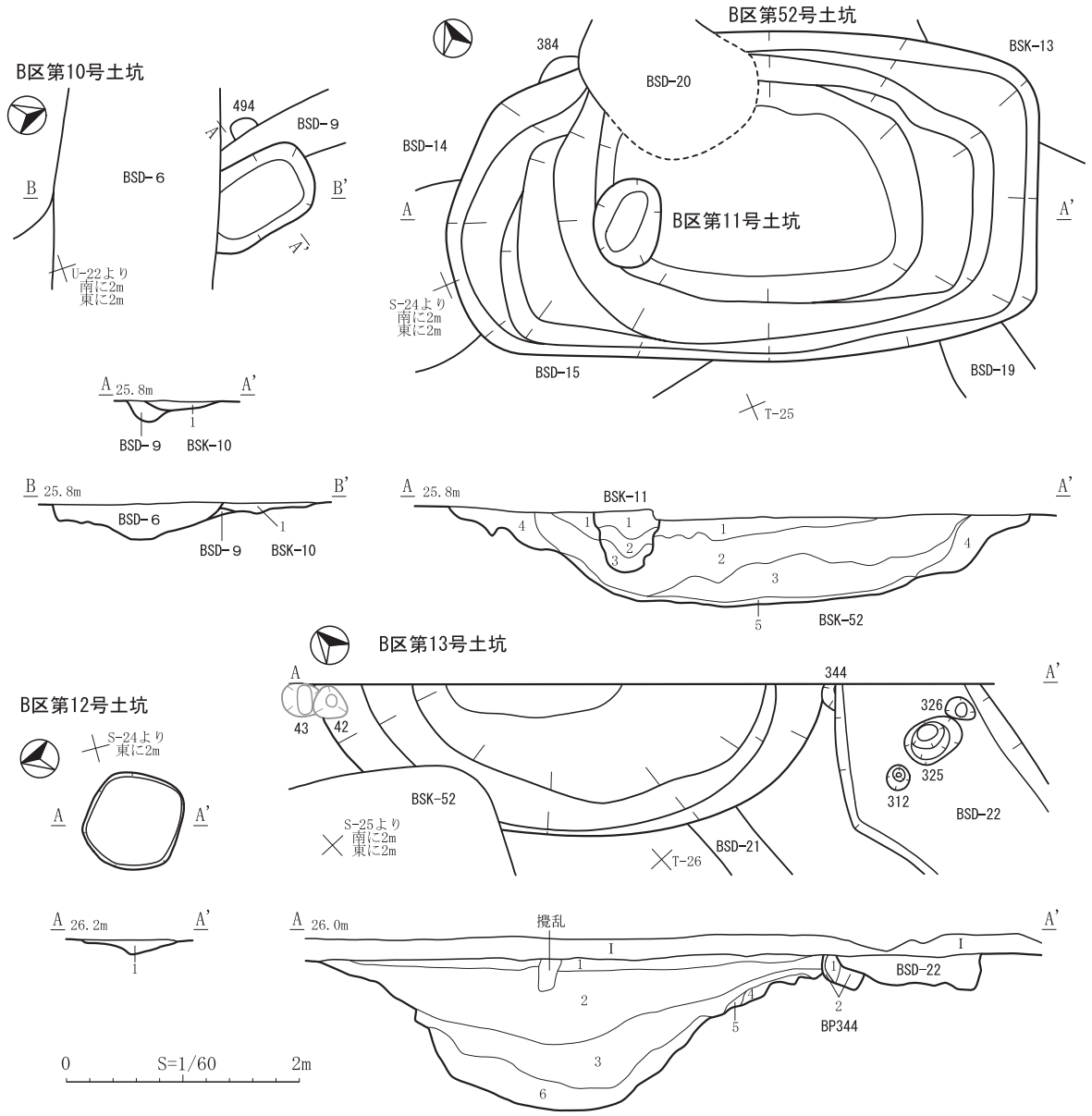
（工藤）

第７号土坑（ＢＳＫ－７）（図31）
【位置・確認】Ｒ－22グリッドに位置する。基本層序第ＢⅢ層直上で確認した。
【重複】認められない。
【形態・規模】長軸58㎝、短軸55㎝の方形を呈し、深さは８㎝を測る。
【壁・底面】壁は底面から緩やかに立ち上がっている。底面はほぼ平坦である。
【堆積土】１層の単層で、自然堆積である。
【出土遺物】遺物は出土していない。
【小結】検出された層序や堆積土の状況から、平安時代以降に埋没した可能性が高い。

（笹森）

第８号土坑（ＢＳＫ－８）

遺構確認時に土坑と認識したが調査段階で第15号竪穴遺構の付属施設と判断したため、欠番とした。



B区第10号土坑

1層	10YR4/4	褐色土	炭化物(φ1～10㎜)小量、浮石(φ1～5㎜)微量、下層に第BⅢ層混入、粘性なし、しまり強

B区第11号土坑

1層	10YR3/4	暗褐色土	浮石(φ1～10㎜)小量、焼土粒1～5㎜微量、炭化物2～3㎜極微量、10YR6/4にぶい黄橙色粘土が1～10㎜微量、粘性中、しまり強
2層	10YR3/4	暗褐色土	7.5YR5/6明褐色土多量、浮石(φ1～20㎜)小量、焼土粒(φ1～5㎜)微量、10YR6/4にぶい黄橙色粘土ブロック状が層の中央に混入、粘性中、しまりやや強
3層	10YR4/4	褐色土	浮石(φ1～40㎜)中量、焼土粒(φ1～5㎜)微量、10YR3/1黒褐色が層の左側に混入、粘性中、しまりやや強

B区第52号土坑

1層	10YR3/4	暗褐色土	7.5YR4/6褐色粘土多量、浮石(φ1～2㎜)小量、炭化物粒(φ1～2㎜)微量、基本層序第BⅢ層に相当し、粘土の量が下に行くほど多くなる、粘性強、しまり強
2層	10YR3/4	暗褐色土	7.5YR4/4褐色粘土多量、浮石(φ1～30㎜)中量、小石(φ10～20㎜)小量、粘性強、しまり強
3層	7.5YR4/4	褐色粘土	10YR4/4褐色粘土多量、浮石(φ1～3㎜)小量、炭化物粒(φ1～2㎜)微量、粘性強、しまり強
4層	10YR4/3	にぶい黄褐色粘土	10YR4/4褐色土多量、炭化物粒(φ1～20㎜)微量、浮石(φ1～2㎜)微量、粘性中、しまり強
5層	10YR3/2	黒褐色粘土	7.5YR4/4褐色粘土多量、浮石(φ1～3㎜)小量、炭化物(φ1～3㎜)極微量、粘性中、しまり強

B区第12号土坑

1層	10YR4/3	にぶい黄褐色土	炭化物(φ1～5㎜)小量、浮石(φ１～５㎜)微量、第BⅢ層ブロック状に含む、粘性弱、しまり強

B区第13号土坑

1層	10YR4/3	にぶい黄褐色土	浮石(φ1～2㎜)極微量、粘性弱、しまり中
2層	10YR3/4	暗褐色土	浮石(φ1～2㎜)極微量、炭化物(φ1～1.5㎜)極微量、小石(φ1～2㎝)小量、粘性中、しまり強
3層	10YR3/3	暗褐色土	浮石(φ1～2㎜)極微量、粘性中、しまり強
4層	10YR5/4	にぶい黄褐色土	10YR4/6褐色土多量、粘性弱、しまり強
5層	10YR4/4	褐色土	浮石(φ1～2㎜)極微量、粘性中、しまり強
6層	10YR3/4	暗褐色土	粘性強、しまり強

BP344

1層	10YR4/4	褐色土	浮石(φ1～1.5㎜)極微量、粘性中、しまり中
2層	10YR5/4	にぶい黄褐色土	10YR4/4褐色土多量、浮石(φ1～2㎜)極微量、粘性中、しまり中

図32　Ｂ区土坑（３）

第９号土坑（ＢＳＫ－９）

遺構確認時に土坑と認識したが整理段階で第15号竪穴遺構と名称変更したため、欠番とした。

第10号土坑（ＢＳＫ－10）（図32）

【位置・確認】Ｕ－22グリッドに位置する。基本層序第ＢⅢ層直上で確認した。

【重複】第９号溝跡より新しく、第６号溝跡より古い。

【形態・規模】第６・９号溝跡と一部重複しているため全体形状は不明である。推定長軸120㎝、短軸65㎝の長方形を呈するものと思われ、深さは10㎝を測る。

【壁・底面】壁は底面から緩やかに立ち上がっている。底面はやや起伏を持つ。

【堆積土】１層の単層で、人為堆積の様相を呈する。

【出土遺物】遺物は出土していない。

【小結】詳細については不明であるが遺構の重複から、中世以降の可能性が高い。

（笹森）

第11号土坑（ＢＳＫ－11）（図32）

【位置・確認】Ｓ－24グリッドに位置する。基本層序第ＢⅢ層直上で確認した。

【重複】第52号土坑と重複している。新旧関係は本遺構が新しい。

【形態・規模】長軸75㎝、短軸57㎝の楕円形を呈し、深さは53㎝を測る。

【壁・底面】壁は底面から緩やかに立ち上がる。底面は鍋底型でなだらかである。

【堆積土】暗褐色土を主体とし、炭化物の小塊や焼土粒を少量含む。人為堆積の様相を呈する。

【出土遺物】遺物は出土していない。

【小結】遺構の新旧関係、検出層位および堆積土から、中世以降に埋没したと思われる。

（工藤）

第12号土坑（ＢＳＫ－12）（図32）

【位置・確認】Ｒ・Ｓ－24グリッドに位置する。基本層序第ＢⅢ層直上で確認した。

【重複】第14号溝跡と重複し、本遺構が新しい。

【形態・規模】長軸91㎝、短軸88㎝の円形を呈し、深さは最大13㎝を測る。

【壁・底面】壁は底面から急に立ち上がっている。底面は中央に向かって傾斜している。

【堆積土】１層の単層である。人為堆積の様相を呈している。

【出土遺物】遺物は出土していない。

【小結】遺構の新旧関係から、中世以降に埋没した可能性が高い。

（笹森）

第13号土坑（ＢＳＫ－13）（図32）

【位置・確認】Ｓ・Ｔ－25・26グリッドに位置する。基本層序第ＢⅢ層直上で確認した。

【重複】第52号土坑・第42・43・344号ピット・第21号溝跡と重複している。新旧関係は第52号土

坑・第42・43・344号ピットより古く、第21号溝跡より新しい。
【形態・規模】遺構北東側の大半が調査区外に位置するため、全体形状は不明である。現存長軸438㎝、短軸130㎝であり、楕円形を呈していたと思われる。深さは128㎝を測る。
【壁・底面】壁は緩やかに立ち上がる。底面は調査区外に存在するため不明である。
【堆積土】暗褐色土を主体とし、２層は白色粘土塊を全体に含む。人為堆積の様相を呈する。
【出土遺物】遺物は出土していない。
【小結】調査時は底面から湧水が確認されており、平面規模や底面の形状および深さから、井戸跡の可能性も考えられる。遺構の新旧関係、検出層位および堆積土の状況から、中世以降に埋没したものものと思われる。

（工藤）

第14号土坑（ＢＳＫ－14）

遺構確認時に認識したが調査段階で遺構と判断しなかったため、欠番とした。

第15号土坑（ＢＳＫ－15）（図33）
【位置・確認】Ｕ・Ｖ－25・26グリッドに位置する。基本層序第ＢⅢ層直上で確認した。
【重複】第23号溝跡と重複している。新旧関係は本遺構が第23号溝跡よりも新しい。
【形態・規模】長軸253㎝、短軸118㎝の不整楕円形を呈し、深さは41㎝を測る。
【壁・底面】壁は底面から緩やかに立ち上がる。底面は鍋底型であり、なだらかである。
【堆積土】１層と２層に炭化物を含み、２層底面には面的に炭化物が堆積する。
【出土遺物】１層から不明金属製品が出土している。掲載はしていない。
【小結】検出層位および堆積土の状況、新旧関係から、中世以降に埋没した可能性がある。

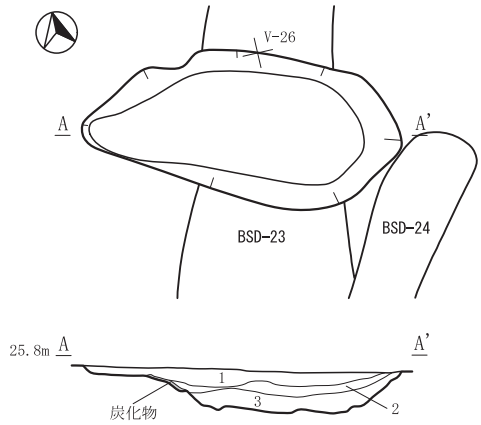
（工藤）

第16号土坑（ＢＳＫ－16）（図33）
【位置・確認】Ｔ－23グリッドに位置する。基本層序第ＢⅢ層直上で確認した。
【重複】認められない。
【形態・規模】長軸57㎝、短軸50㎝の卵形を呈し、深さは16㎝を測る。
【壁・底面】壁は底面からやや急に立ち上がっている。底面はほぼ平坦であるが、段を有している。
【堆積土】５層に分層された。褐色土主体で浮石・炭化物を含み、人為堆積の様相を呈している。
【出土遺物】図示できるような遺物は出土していない。
【小結】詳細については不明である。検出層位から、平安時代以降の可能性が高い。

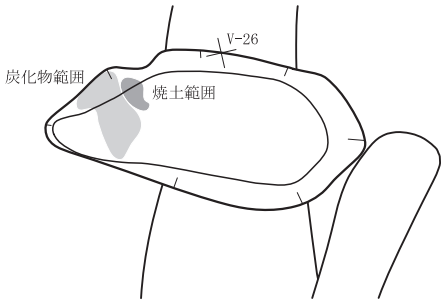
（笹森）

第17号土坑（ＢＳＫ－17）（図33）
【位置・確認】Ｖ－27グリッドに位置する。基本層序第ＢⅢ層直上で確認した。
【重複】第25号溝跡、第１号濠跡と重複している。新旧関係は本遺構が第25号溝跡、第１号濠跡より

B区第15号土坑

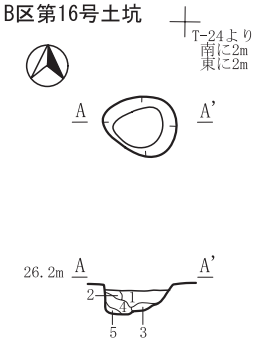


炭化物・焼土検出状況

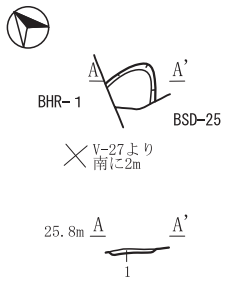


B区第15号土坑
1層　10YR3/4　暗褐色土　　浮石(φ1～2㎜)極微量、炭化物(φ1～2㎜)極微量、粘性中、しまり強
2層　10YR4/4　褐色土　　浮石(φ1～2㎜)極微量、炭化物(φ1～2㎜)極微量、粘性中、しまり強
3層　10YR5/4　にぶい黄褐色土　7.5YR4/6褐色粘土多量、粘性強、しまり強

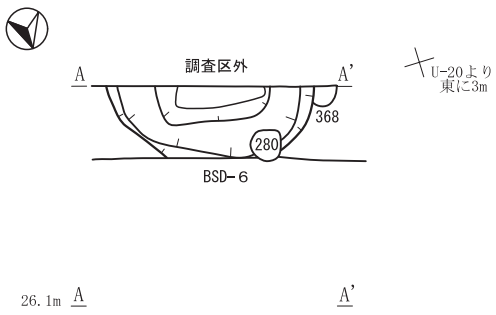
B区第16号土坑



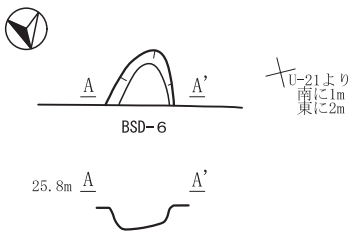
B区第17号土坑

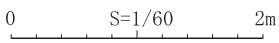


B区第19号土坑



B区第20号土坑





B区第16号土坑
1層　10YR4/6　褐色土　　浮石(φ1～3㎜)極微量、炭化物(φ1～3㎜)極微量、粘性弱、しまり強
2層　10YR4/4　褐色土　　浮石(φ1～3㎜)極微量、炭化物(φ1～3㎜)極微量、粘性弱、しまり強
3層　10YR4/4　褐色土　　浮石(φ1～5㎜)極微量、粘性弱、しまり強
4層　10YR4/4　褐色土　　浮石(φ1～3㎜)極微量、粘性弱、しまり強
5層　10YR4/6　褐色土　　炭化物(φ1～5㎜)極微量、焼土粒(φ1～5㎜)極微量、粘性強、しまり中

B区第17号土坑
1層　10YR4/4　褐色土　　10YR5/4にぶい黄褐色土多量、粘性弱、しまり強

B区第19号土坑
1層　10YR3/4　暗褐色土　　浮石(φ1～2㎜)極微量、炭化物(φ1～1.5㎜)極微量、粘性強、しまり強
2層　10YR4/4　褐色土　　10YR6/3にぶい黄褐色土・10YR4/6褐色砂多量、浮石(φ1～1.5㎜)極微量、炭化物(φ1～2㎜)極微量、粘性強、しまり強
3層　10YR3/4　暗褐色粘土　　炭化物(φ1～20㎝)中量、粘性強、しまり強
4層　10YR4/4　褐色土　　炭化物(φ1～20㎝)多量、焼土微量、粘性強、しまり強
5層　10YR5/4　にぶい黄褐色土　10YR4/4褐色土多量、粘性強、しまり強
6層　10YR4/4　褐色土　　7.5YR3/4暗褐色砂多量、焼土微量、粘性弱、しまり中
BP368
1層　10YR4/4　褐色土　　粘性中、しまり強

図33　B区土坑（4）

も古い。
【形態・規模】一部が第25号溝跡、第１号壕跡と重複しているため、全体形状は不明である。現存長軸43㎝、短軸36㎝を測り、楕円形を呈していたと思われる。深さは７㎝を測る。
【壁・底面】壁は緩やかに立ち上がる。底面は鍋底型でなだらかである。
【堆積土】褐色土を主体とする。基本土層第ＢⅢ層起源の中塊を包含する。人為堆積と思われる。
【出土遺物】遺物は出土していない。
【小結】平面形状から土坑としたが、溝跡の可能性も考えられる。遺構の新旧関係、検出層位および堆積土の状況から、中世以降に埋没したものと思われる。

（工藤）

第18号土坑（ＢＳＫ－18）

整理段階で第２号井戸跡と名称変更したため、欠番とした。

第19号土坑（ＢＳＫ－19）（図33）
【位置・確認】Ｔ・Ｕ－20グリッドに位置する。基本層序第ＢⅢ層直上で確認した。
【重複】第６号溝跡、第280・368号ピットと重複している。新旧関係は本遺構が第368号ピットよりも新しく、第280号ピットより古い。第６号溝跡との新旧関係は判断できなかった。
【形態・規模】本遺構の南西側が調査区外に広がるため、全体形状は不明であるが、長軸165㎝、現存短軸57㎝を測り、楕円形を呈すると思われる。深さは99㎝を測る。
【壁・底面】壁は東・西・北側に段を有し、内部に方形の掘り込みが認められる。底面は平坦である。
【堆積土】暗褐色土と褐色土を主体とする。覆土中層の３・４層には炭化物を多量に含み焼土小塊も少量含む。炭化物は底面にも面的に堆積する。人為堆積の様相を呈する。
【出土遺物】遺物は出土していない。
【小結】平面規模や底面の形状及び深さから、井戸跡の可能性も考えられるが、調査時は湧水が確認できなかった。検出層位と堆積土の状況から、平安時代以降に埋没したと思われる。

（工藤）

第20号土坑（ＢＳＫ－20）（図33）
【位置・確認】Ｕ－21グリッドに位置する。基本層序第ＢⅢ層直上で確認した。
【重複】第６号溝跡と重複するが、本遺構との新旧関係は判断できなかった。
【形態・規模】一部が第６号溝跡と重複しているため、全体形状は不明である。現存長軸48㎝、短軸45㎝であり、楕円形を呈していたと思われる。深さは20㎝を測る。
【壁・底面】壁は緩やかに立ち上がる。底面は鍋底型を呈する。
【堆積土】土層観察前に完掘したため不明である。
【出土遺物】遺物は出土していない。
【小結】検出層位と堆積土の状況から、平安時代以降に埋没したと思われる。

（工藤）

第21号土坑（ＢＳＫ－21）（図34・37）

【位置・確認】ＩＣ－30グリッドに他位置する。基本層序第ＢⅢ層直上で確認した。

【重複】第29・30・32号と重複している。第29号溝跡より古く、第30・32号溝跡との関係は不明であるが同時期の可能性も考えられる。

【形態・規模】東側が調査区外に延び、また第29号溝跡と重複していることもあり、全体形状は不明である。深さは最大44㎝を測る。

【壁・底面】壁は底面から緩やかに立ち上がっている。底面は中央に向かいやや傾斜を持っている。

【堆積土】４層に分層できた。暗褐色土を主体とし、浮石を含んでいる。自然堆積の様相を呈す。

【出土遺物】４層より珠洲擂鉢が出土している。14～15世紀のものである（図37－１）。

【小結】詳細については不明であるが出土遺物から、中世段階の可能性が高い。

（笹森）

第22号土坑（ＢＳＫ－22）（図34・37）

【位置・確認】Ｙ－27グリッドに位置する。第１号濠跡検出面で確認した。

【重複】第１号濠跡と重複している。検出状況から、本遺構が新しい。

【形態・規模】平面形は楕円形を呈し、長径66㎝、短径36㎝、深さは22㎝を測る。

【壁・底面】遺構堆積土を壁・底面としている。壁は底面から緩やかに立ち上がっている。底面は中央部に向かって傾斜を有している。断面の形状は概ね擂り鉢状である。

【堆積土】４層に分層された。灰や炭化物等を含む層からなり、人為堆積の様相を呈している。

【出土遺物】堆積土中から古銭（図37－２～６）が計５点出土している他、火葬骨と思われる骨片が出土している。骨片の分析結果は第９章第19節に掲載している。２層より採取した土壌サンプル（382g）から多量の炭化米が検出されている（第９章17節）。

【小結】出土遺物から、中世段階の火葬墓と考えられる。永楽通寶が出土していることから、16世紀以降に造られた可能性が高い。

（笹森）

第23号土坑（ＢＳＫ－23）

遺構確認時に認識したが調査段階で遺構と判断しなかったため、欠番とした。

第24号土坑（ＢＳＫ－24）（図34）

【位置・確認】Ｑ－19グリッドに位置する。基本層序第ＢⅢ層直上で確認した。

【重複】第448号ピットと重複し、本遺構が古い。

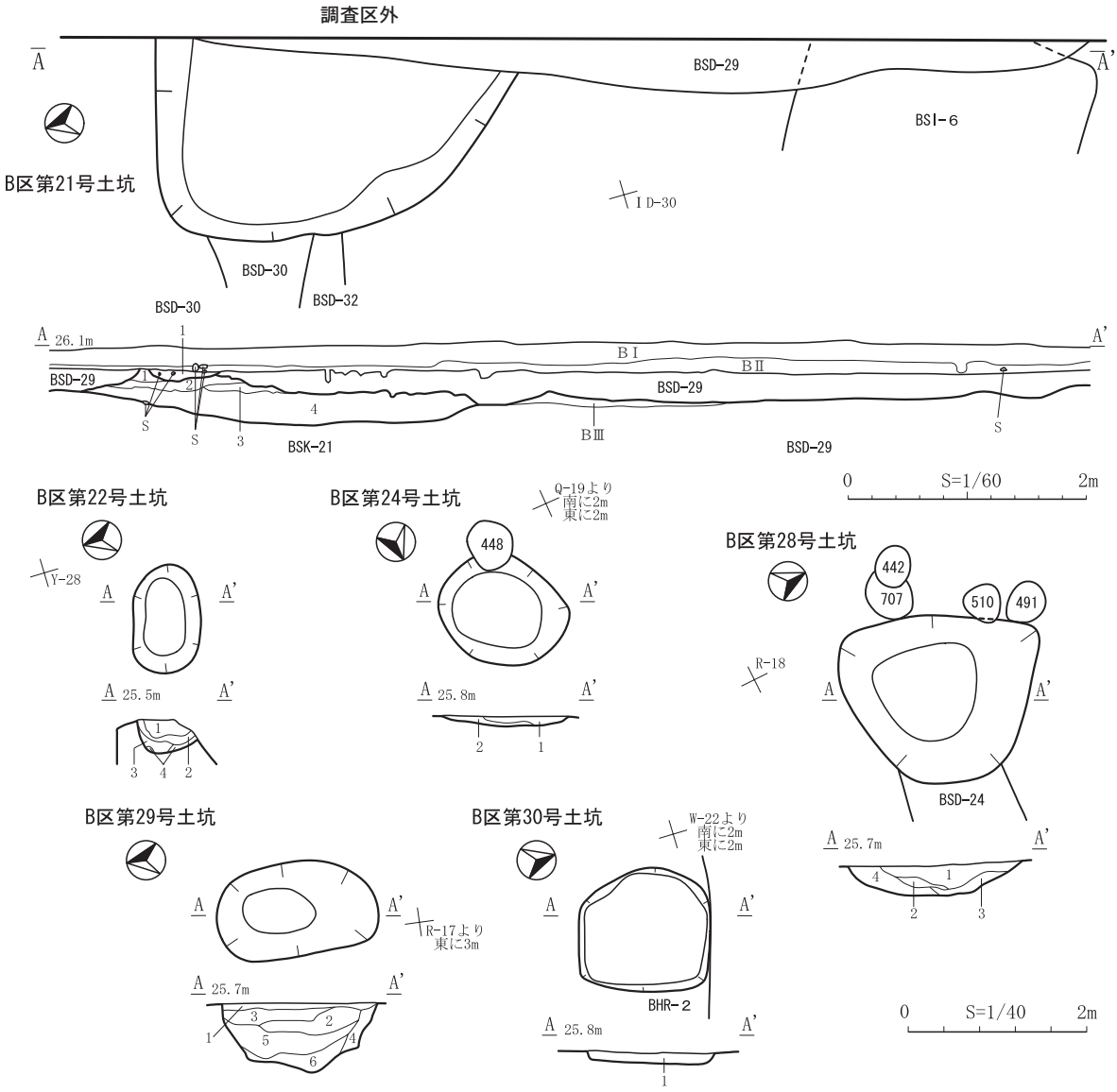
【形態・規模】長軸68㎝、短軸59㎝の楕円形を呈し、深さは７㎝を測る。

【壁・底面】壁は緩やかに立ち上がる。底面は鍋底型を呈する。

【堆積土】暗褐色土を主体とする。

【出土遺物】遺物は出土していない。

【小結】掘り込みが極めて浅い土坑である。検出層序と堆積土の状況から、平安時代以降に埋没したと



B区第21号土坑

1層	7.5YR3/4	暗褐色土	10YR4/2灰黄褐色土多量、浮石(φ1～5㎜)小量、粘性中、しまり強
2層	10YR3/4	暗褐色土	10YR4/3灰黄褐色粘土多量、土浮石（φ1～10㎜)小量、粘性強、しまり強
3層	10YR3/4	暗褐色土	10YR3/2黒褐色土多量、浮石(φ1～10㎜)小量、粘性強、しまり強
4層	10YR3/2	黒褐色粘土	7.5YR3/4暗褐色土粒(φ1～3㎜)中量、浮石(φ～10㎜)微量、炭化物(φ40㎜)極微量、粘性強、しまり強
5層	10YR4/2	灰黄褐色粘土	7.5YR3/4暗褐色褐色粘土粒(φ1～2㎜)小量、粘性なし、しまり強

B区第22号土坑

1層	10YR4/4	褐色土	浮石(φ1～5㎜)微量、灰が微量混入、粘性なし、しまり強
2層	2.5YR5/1	黄灰色灰	骨混入、粘性なし、しまりなし
3層	10YR2/2	黒褐色土	10YR3/1黒褐色灰多量、炭化物粒(φ1～2㎜)微量、粘性なし、しまり弱
4層	10YR4/4	褐色土	2.5YR6/3にぶい黄色(φ5㎜)極微量、粘性なし、しまり中

B区第24号土坑

1層	10YR4/3	暗褐色土	浮石(φ1～15㎜)極微量、炭化物(φ1～3㎜)極微量、粘性弱、しまり強
2層	10YR4/3	暗褐色土	浮石(φ1～10㎜)極微量、第BⅢ層ブロック状に混入、粘性弱、しまり強

B区第28号土坑

1層	10YR3/4	暗褐色土	10YR5/4にぶい黄褐色土多量、土浮石(φ1～2㎜)極微量、炭化物(φ1～2㎜)極微量、粘性強、しまり強
2層	10YR4/3	にぶい黄褐色土	粘性強、しまり強
3層	10YR4/4	褐色土	粘性強、しまり強
4層	10YR3/3	暗褐色土	浮石(φ1～2㎜)極微量、粘性強、しまり強

B区第29号土坑

1層	10YR3/4	暗褐色土	浮石(φ1～2㎜)極微量、炭化物(φ1～2㎜)極微量、粘性中、しまり強
2層	10YR4/3	にぶい黄褐色土	浮石(φ1～2㎜)極微量、炭化物(φ1～2㎜)極微量、粘性中、しまり強
3層	10YR5/3	にぶい黄褐色土	浮石(φ1～2㎜)極微量、炭化物(φ1～2㎜)極微量、粘性中、しまり強
4層	10YR4/4	褐色土	浮石(φ1～2㎜)極微量、炭化物(φ1～2㎜)極微量、粘性中、しまり強
5層	10YR4/4	褐色土	10YR5/3にぶい黄褐色土多量、浮石（φ1～2㎜)極微量、粘性中、しまり強
6層	10YR5/6	黄褐色土	浮石(φ1～2㎜)極微量、粘性中、しまり強

B区第30号土坑

1層	10YR5/3	にぶい黄褐色土	浮石(φ1～20㎜)小量、鉄分小量混入、炭化物粒(φ1～5㎜)微量、粘性なし、しまり強

図34　Ｂ区土坑（５）

思われる。

（工藤）

第25号土坑（ＢＳＫ－25）

遺構確認時に認識したが調査段階で遺構と判断しなかったため、欠番とした。

第26号土坑（ＢＳＫ－26）

遺構確認時に認識したが調査段階で遺構と判断しなかったため、欠番とした。

第27号土坑（ＢＳＫ－27）

遺構確認時に認識したが調査段階で遺構と判断しなかったため、欠番とした。

第28号土坑（ＢＳＫ－28）（図34）

【位置・確認】Ｑ－18グリッドに位置する。基本層序第ＢⅢ層直上で確認した。

【重複】第７号掘立柱建物跡、第42号溝跡、第491・510・707号ピットと重複し、新旧関係は本遺構が第510号ピットより古く、第42号溝跡・第707号ピットよりも新しい。第491号ピット・第７号掘立柱建物跡との新旧関係は判断できなかった。

【形態・規模】長軸111㎝、短軸94㎝の円形を呈し、深さは22㎝を測る。

【壁・底面】壁は緩やかに立ち上がる。底面は鍋底型を呈する。

【堆積土】暗褐色土を主体とする。４層中に炭化物と焼土小塊を含む。人為堆積の様相を呈する。

【出土遺物】遺物は出土していない。

【小結】検出層位と堆積土の状況から、平安時代以降に埋没したと思われる。

（工藤）

第29号土坑（ＢＳＫ－29）（図34）

【位置・確認】Ｑ－17グリッドに位置する。基本層序第ＢⅢ層直上で確認した。

【重複】認められない。

【形態・規模】長軸90㎝、短軸53㎝の楕円形を呈し、深さは39㎝を測る。

【壁・底面】壁は緩やかに立ち上がる。底面は鍋底型を呈する。

【堆積土】褐色土や暗褐色土を主体とする。上層から中層の堆積土には炭化物小塊を含む。人為堆積の様相を呈する。

【出土遺物】遺物は出土していない。

【小結】検出層位と堆積土の状況から、平安時代以降に埋没したと思われる。

（工藤）

第30号土坑（ＢＳＫ－30）（図34）

【位置・確認】Ｗ－22グリッドに位置する。第２号濠跡検出面で確認した。

【重複】第２号濠跡と重複している。新旧関係は本遺構が新しい。
【形態・規模】平面形はやや不整な方形を呈し、長軸74㎝、短軸66㎝、深さは６㎝を測る。
【壁・底面】遺構堆積土を壁・底面としている。壁は底面からやや急に立ち上がっている。底面はほぼ平坦である。
【堆積土】１層の単層である。自然堆積の様相を呈している。
【出土遺物】遺物は出土していない。
【小結】詳細については不明であるが遺構の重複から、中世以降の可能性が高い。

（笹森）

第31号土坑（ＢＳＫ－31）

遺構確認時に遺構と認識したが調査段階で遺構と判断しなかったため、欠番とした。

第32号土坑（ＢＳＫ－32）

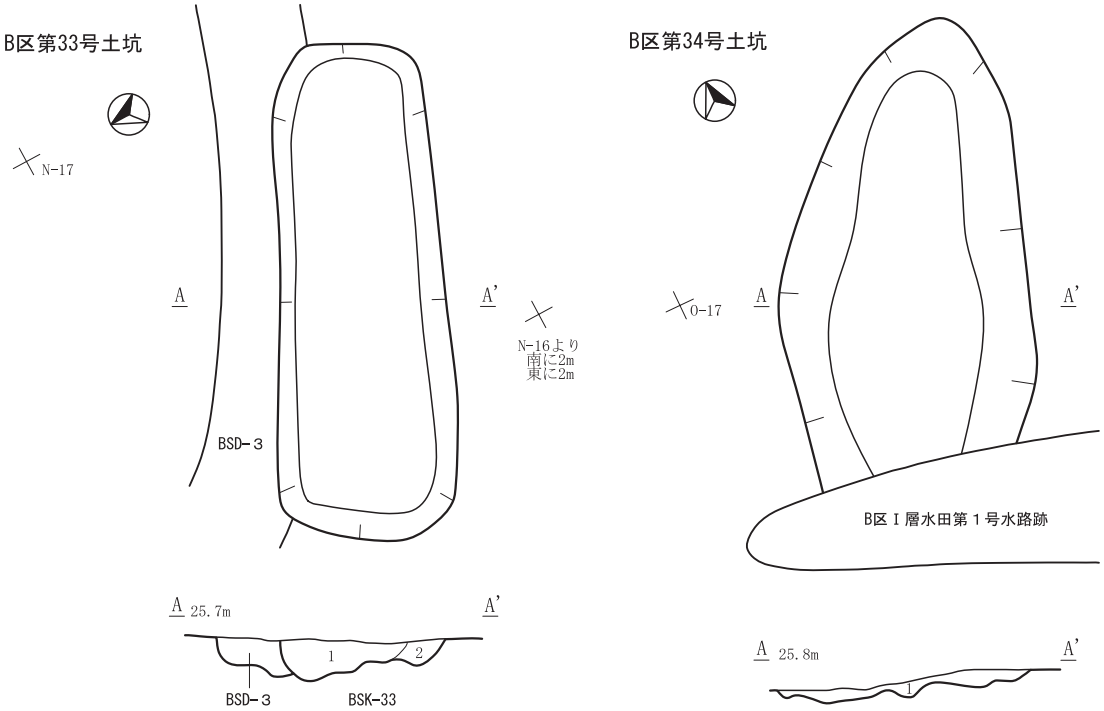
遺構確認時に遺構と認識したが調査段階で遺構と判断しなかったため、欠番とした。

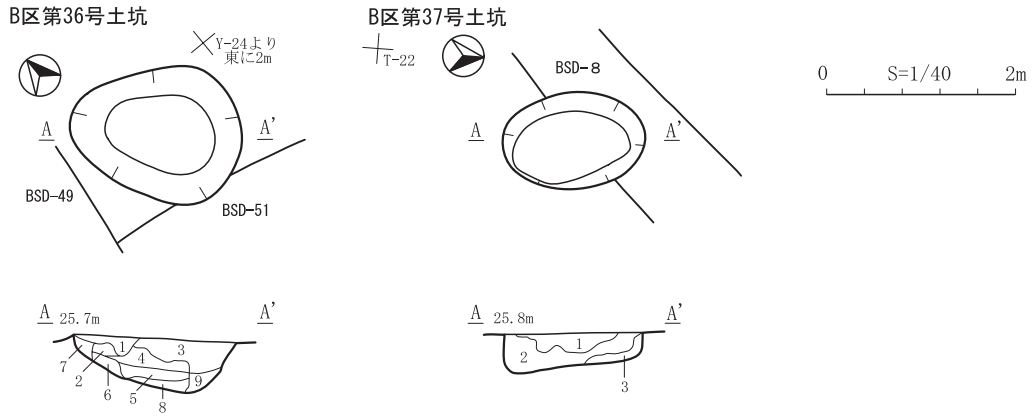
第33号土坑（ＢＳＫ－33）（図35）
【位置・確認】Ｎ－16グリッドに位置する。基本層序第ＢⅢ層直上で確認した。
【重複】第３号溝跡と重複している。新旧関係は本遺構が新しい。
【形態・規模】長軸261㎝、短軸93㎝の長方形を呈し、深さは21㎝を測る。
【壁・底面】壁は緩やかに立ち上がり、底面には凹凸がある。溝跡の可能性がある。
【堆積土】上層は基本層序第ＢⅡ層に類似する土層を主体とし、第ＢⅢ層の小塊を含む。
【出土遺物】遺物は出土していない。
【小結】検出層位と堆積土の状況から、平安時代以降に埋没したと思われる。

（工藤）

第34号土坑（ＢＳＫ－34）（図35）
【位置・確認】Ｎ・Ｏ－17グリッドに位置する。基本層序第ＢⅢ層直上で確認した。
【重複】Ⅰ層水田第１号水路跡と重複する。新旧関係は本遺構が古い。
【形態・規模】本遺構の南部がⅠ層水田第１号水路跡により破壊されている。現存長軸230㎝、短軸133㎝を測り、楕円形を呈すると思われる。深さは27㎝を測る。
【壁・底面】壁は緩やかに立ち上がり、底面はなだらかである。
【堆積土】にぶい黄褐色土を主体とする。
【出土遺物】遺物は出土していない。
【小結】検出層位と堆積土の状況から、平安時代以降に埋没したと思われる。溝跡の可能性がある。

（工藤）





B区第33号土坑・B区第3号溝跡　A-A′ C-C′

B区第33号土坑

1層	10YR4/4	褐色土	浮石(φ1～10㎜)極微量、第BⅢ層(10YR6/4にぶい黄橙色土)ブロック状に混入、粘性弱、しまり強
2層	10YR4/4	褐色土	浮石(φ1～5㎜)極微量、第BⅢ層ブロック状に混入、粘性弱、しまり強

B区第34号土坑

1層	10YR5/4	にぶい黄褐色土	10YR6/4にぶい黄橙色土多量、浮石(φ1～2㎜)極微量、粘性強、しまり強

B区第36号土坑

1層	10YR4/3	にぶい黄褐色粘土	7.5YR4/6褐色土多量、浮石(φ1～5㎜)微量、鉄分が層下部層状に混入、粘性やや強、しまり強
2層	10YR4/4	褐色粘質土	浮石(φ1～5㎜)極微量、粘性やや強、しまりやや強
3層	10YR4/2	灰黄褐色粘質土	10YR5/3にぶい黄褐色粘質土多量、鉄分(φ1～2㎜)小量、浮石(φ1～5㎜)極微量、粘性やや強、しまりやや強
4層	10YR3/4	暗褐色粘質土	10YR4/3にぶい黄褐色粘質土多量、浮石(φ1～3㎜)微量、粘性強、しまりやや強
5層	10YR3/4	暗褐色粘質土	
6層	10YR5/4	にぶい黄褐色シルト質土	鉄分(φ1～20㎜)微量、粘性弱、しまり強
7層	2.5Y5/3	黄褐色シルト質土	10YR4/3にぶい黄褐色粘土多量、浮石(φ1～3㎜)微量、鉄分(φ1～3㎜)微量、粘性なし、しまりなし
8層	10YR4/4	褐色粘質土	層下部に2.5Y5/3黄褐色土が(φ1～2㎝)帯状に混入、浮石(φ1～3㎜)極微量、粘性やや強、しまりやや強
9層	2.5Y5/3	黄褐色シルト質	10YR4/4褐色土多量、鉄分(φ1～25㎜)中量、粘性やや弱、しまり強

B区第37号土坑

1層	10YR4/3	にぶい黄褐色土	浮石(φ1～10㎜)中量、焼土粒(φ10㎜)極微量、炭化物粒(φ1～3㎜)極微量、粘性弱、しまり強
2層	10YR5/3	にぶい黄褐色土	10YR3/4暗褐色土混入、浮石(φ1～10㎜)小量、粘性中、しまり強
3層	10YR4/2	灰黄褐色粘土	10YR3/4暗褐色土混入、浮石(φ1～5㎜)微量、粘性強、しまり強

図35　B区土坑（6）

第35号土坑（ＢＳＫ－35）（図24）

【位置・確認】Ｖ－29グリッドに位置する。第13号竪穴遺構検出面で確認した。

【重複】第13号竪穴遺構と重複している。新旧関係は本遺構が新しい。

【形態・規模】約半分が調査区外に延びている為全体形状は不明であるが、ほぼ円形を呈するものと思われる。推定直径70㎝、深さは39㎝を測る。

【壁・底面】遺構堆積土を壁面、基本層序第ＢⅣ層を底面としている。壁は底面からほぼ垂直立ち上がっている。底面はやや起伏を持つ。

【堆積土】３層に分層できた。褐色土を主体に炭化物を含んでいる。人為堆積の様相を呈す。

【出土遺物】遺物は出土していない。

【小結】詳細については不明であるが遺構の重複から、中世以降の可能性が高い。

（笹森）

第36号土坑（ＢＳＫ－36）（図35）

【位置・確認】Ｘ・Ｙ－24グリッドに位置する。基本層序第ＢⅢｂ層中で確認した。

【重複】一部第51号溝跡と重複している。新旧関係は本遺構が新しい。

【形態・規模】平面形はやや不整な円形を呈し、長径90㎝、短径70㎝、深さは26㎝を測る。

【壁・底面】第ＢⅢｂ層を壁・底面としている。壁は底面から緩やかに立ち上がっている。底面は中央に向かってやや傾斜を持つ。

【堆積土】９層に分層できた。粘質土を主体とし、人為堆積の様相を呈している。

【出土遺物】遺物は出土していない。

【小結】詳細については不明であるが、遺構の重複から中世以降の可能性が高い。

（笹森）

第37号土坑（ＢＳＫ－37）（図35）

【位置・確認】Ｓ－22グリッドに位置する。基本層序第ＢⅢ層直上で確認した。

【重複】第８号溝跡と重複する。新旧関係は本遺構が第８号溝跡より新しい。

【形態・規模】長軸75㎝、短軸51㎝の楕円形を呈する。深さは22㎝を測る。

【壁・底面】壁は急に立ち上がる。底面はなだらかである。

【堆積土】にぶい黄褐色土を主体とし、上層は焼土粒と炭化物粒を微量含む。人為堆積の様相を呈する。

【出土遺物】遺物は出土していない。

【小結】検出層位と堆積土の状況から、平安時代以降に埋没したと思われる。

（工藤）

第38号土坑（ＢＳＫ－38）（図36）

【位置・確認】Ｐ－21グリッドに位置する。基本層序第ＢⅠ層中で検出した。

【重複】本遺構の下位には、第42号土坑、第588・589号ピットがあり、これらよりも新しいが、直接的な重複関係は有さない。

【形態・規模】長軸126㎝、短軸108㎝の不整円形を呈し、深さは12㎝である。
【壁・底面】壁は底面からゆるやかに立ち上がり、断面形は皿状を呈する。底面は平坦である。
【堆積土】黄褐色土が主体をなし、人為堆積的様相を呈する。堆積土には第ＢⅠ層に由来する水田耕作土をブロック状に含む。
【出土遺物】遺物は出土していない。
【小結】Ⅰ層水田耕作土に由来するグライ化土壌が斑状に含まれており、検出層位とあわせて考えるとⅠ層水田よりもわずかに古いか、ないしはこれとほぼ同様の年代（近世以降）が与えられる。

（斉藤）

第39号土坑（ＢＳＫ－39）（図36）
【位置・確認】Ｋ－15グリッドに位置する。第ＢⅡb層直下、第ＢⅢ層直上で検出した。
【重複】第54号溝跡と重複しており、これよりも新しい。
【形態・規模】遺構の北側は調査区外のため、全体形状は不明であるが、長軸78㎝、推定短軸約40㎝の不整円形を呈するものとみられる。確認部分の最深部は20㎝を測る。
【壁・底面】壁は底面からわずかに外反気味に立ち上がる。底面はわずかに湾曲する。
【堆積土】２層には第ＢⅢ層に由来する軽石ブロックが含まれており、１層には、第ＢⅡ層に相当する褐色土が堆積する。層の上部は自然堆積的様相を呈する。
【出土遺物】遺物は出土していない。
【小結】検出層位、遺構の重複関係から、本遺構は10世紀前葉以降に帰属するものと考えられる。

（斉藤）

第40号土坑（ＢＳＫ－40）（図36）
【位置・確認】Ｒ－24グリッド他に位置する。基本層序第ＢⅠ層直下、第ＢⅢ層上部で確認した。
【重複】第56号溝跡よりも新しい。
【形態・規模】長軸84㎝、短軸48㎝の楕円形を呈し、深さは30㎝を測る。
【壁・底面】壁は底面から外湾するように立ち上がり、底面の形状は平坦である。
【堆積土】Ⅰ層水田の耕作土に由来する灰黄褐色土が主体をなし、白色軽石粒が含まれる。また、２層下部には灰状物質がブロック状に混入している。
【出土遺物】遺物は出土していない。
【小結】本遺構は検出層位、ならびに堆積土の特徴からⅠ層水田とほぼ同一年代（近世以降）に帰属すると考えられる。

（斉藤）

第41号土坑（ＢＳＫ－41）（図36）
【位置・確認】Ｐ－21グリッドに位置する。第ＢⅠ層の直下、第ＢⅢ層の直上で検出した。
【重複】第714号ピットと重複し、これよりも古い。
【形態・規模】長軸84㎝、短軸78㎝の隅丸方形を呈し、深さは24㎝を測る。

【壁・底面】壁は底面からほぼ垂直に立ち上がり、底面はほぼ平坦である。
【堆積土】１層はやや黒みが強く、２層には第ＢⅢ層に由来する砂質土が斑状に混ざる。
【出土遺物】遺物は出土していない。
【小結】検出層位から、10世紀前葉以降の年代が与えられる。

（斉藤）

第42号土坑（ＢＳＫ－42）（図36）
【位置・確認】Ｐ－21グリッドに位置する。第ＢⅠ層の直下、第ＢⅢ層の直上で検出した。
【重複】第711・712号ピットと重複し、これらよりも古い。
【形態・規模】直径72㎝程度の円形を呈する。深さは15㎝を測る。
【壁・底面】壁はほぼ垂直に立ち上がり、底面はほぼ平坦である。
【堆積土】褐色土が主体となり、炭化物、焼土粒が含まれる。１層には第ＢⅢ層に由来する砂質土がブロック状に混入する。
【出土遺物】遺物は出土していない。
【小結】検出層位から、10世紀前葉以降の年代が与えられる。

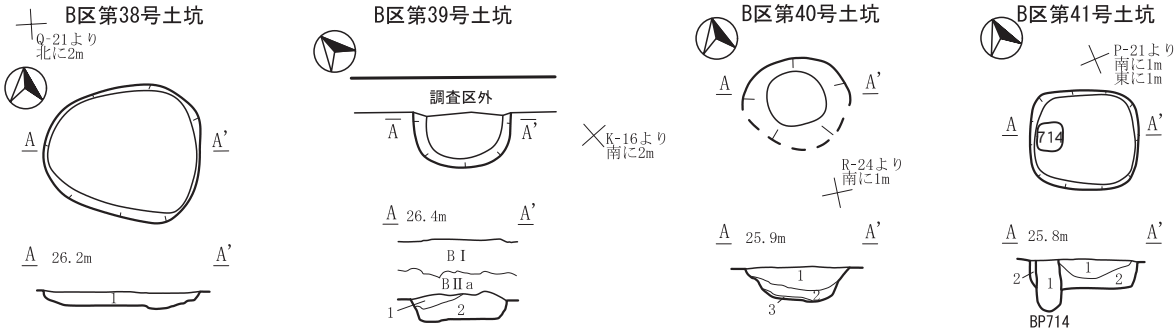
（斉藤）

第43号土坑（ＢＳＫ－43）（図36）
【位置・確認】Ｑ－22グリッドに位置する。第ＢⅠ層直下、第ＢⅢ層直上で検出した。
【重複】第713号ピットと重複し、これよりも古い。
【形態・規模】長軸72㎝、短軸60㎝の不整円形を呈し、最深部は15㎝を測る。
【壁・底面】壁は底面からなだらかに立ち上がり、断面形状は皿状を呈する。
【堆積土】単層をなし、人為堆積的様相を呈する。
【出土遺物】遺物は出土していない。
【小結】検出層位から10世紀前葉以降の年代が与えられる。

（斉藤）

第44号土坑（ＢＳＫ－44）（図36）
【位置・確認】Ｑ－21・22グリッドに位置する。第ＢⅠ層直下、第ＢⅢ層直上で検出した。
【重複】なし。
【形態・規模】南側が現代の水路によって壊されているため、全体形状は不明だが、直径100㎝程度の円形を呈するものと考えられる。
【壁・底面】壁は底面から外傾気味に立ち上がり、底面は概ね平坦である。
【堆積土】堆積土には軽石が比較的多く含まれており、人為堆積的様相を呈する。
【出土遺物】遺物は出土していない。
【小結】検出層位から10世紀前葉以降の年代が与えられる。

（斉藤）

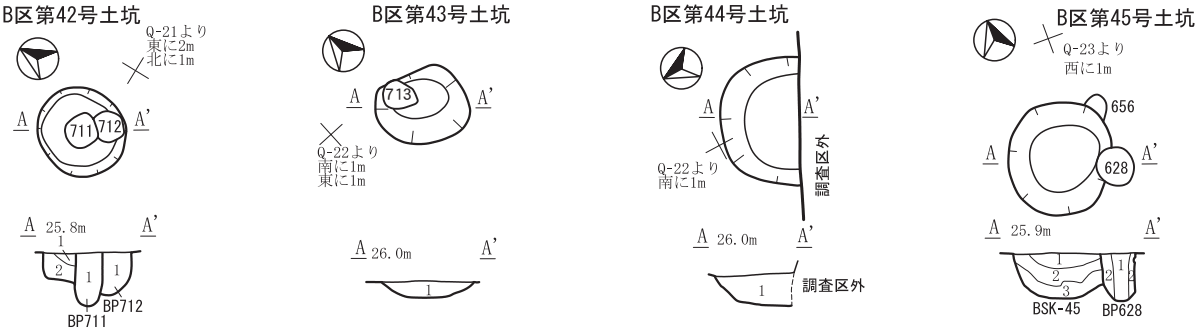


B区第38号土坑
1層　10YR4/3　にぶい黄褐色土　浮石(φ1～3mm)極微量(2%)、炭化物(φ1～5mm)極微量(1%)、粘性弱、しまり強

B区第39号土坑
1層　10YR4/4　褐色土　浮石(φ1～3mm)極微量、炭化物(φ1～3mm)極微量、粘性弱、しまり強
2層　10YR4/4　褐色土　第BⅢ層ブロック状に混入(にぶい黄橙)、粘性弱、しまり強

B区第40号土坑
1層　10YR4/2　灰黄褐色土　浮石(φ1～25mm)微量、粘性弱、しまり強
2層　10YR4/2　灰黄褐色土　浮石(φ1～5mm)極微量、炭化物(φ1～3mm)極微量、層下部に灰ブロック状に混入、第BⅢ層粒状に混入、粘性やや中、しまり強
3層　10YR4/1　褐灰色土　粘性弱、しまり強、灰混じり土

B区第41号土坑
1層　10YR4/3　にぶい黄褐色土　浮石(φ1～5mm)微量、炭化物(φ1～3mm)極微量、第BⅢ層ブロック状に混入、粘性弱、しまり強
2層　10YR4/4　褐色土　浮石(φ1～10mm)微量、第BⅢ層ブロック状に混入、粘性弱、しまり強
BP714
1層　10YR3/4　暗褐色土　炭化物(φ1～45mm)極微、第BⅢ層ブロック状に混入、粘性弱、しまり中

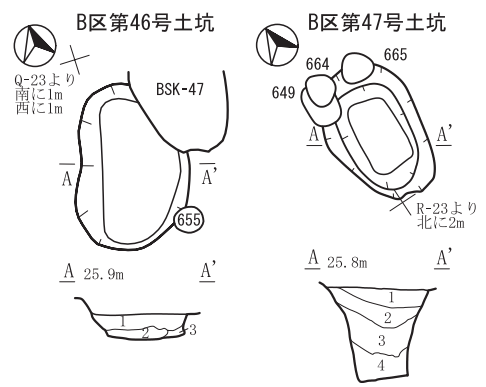


B区第42号土坑
1層　10YR4/4　褐色土　浮石(φ1～15mm)微量、炭化物(φ1～20mm)極微量、第BⅢ層ブロック状に混入、粘性弱、しまり強
2層　10YR4/3　にぶい黄褐色土　浮石(φ1～5mm)極微量、炭化物(φ1～10mm)極微量、焼土粒(φ1～3mm)極微量、第BⅢ層ブロック状に混入、粘性弱、しまり強
BP711
1層　10YR4/3　にぶい黄褐色土　焼土粒(φ1～10mm)極微量、粘性やや中、しまり強
BP712
1層　10YR4/4　褐色土　炭化物(φ1～3mm)極微量、粘性やや中、しまり強

B区第43号土坑
1層　10YR3/3　暗褐色土　10YR3/1黒褐色土との混合土、浮石(φ1～3mm)微量、炭化物(φ1～10mm)微量、粘性弱、しまり中

B区第44号土坑
1層　10YR4/4　褐色土　10YR4/3にぶい黄褐色土との混合土、炭化物(φ1～3mm)極微量、浮石(φ1～3mm)極微、粘性弱、しまり強

B区第45号土坑
1層　10YR4/4　褐色土　浮石(φ1～3mm)微量、粘性弱、しまり強
2層　10YR4/3　にぶい黄褐色土　浮石(φ1～3mm)極微量、粘性弱、しまり強
3層　10YR4/3　にぶい黄褐色土　10YR4/4褐色土との混合土、浮石(φ1～3mm)微量、粘性弱、しまり強
BP628
1層　10YR4/3　にぶい黄褐色土　10YR4/4褐色土との混合土、炭化物(φ1～5mm)極微量、粘性弱、しまり強、柱痕
2層　10YR4/4　褐色土　炭化物(φ1～5mm)極微量、浮石(φ1～3mm)微量、粘性弱、しまり強、埋土



B区第46号土坑
1層　10YR4/4　褐色土　浮石(φ1～2mm)極微量、炭化物(φ1～3mm)極微量、粘性弱、しまり強
2層　10YR6/2　灰黄褐色土　粘性やや強、しまり強
3層　10YR5/4　にぶい黄褐色土　粘性中、しまり強

B区第47号土坑
1層　10YR4/3　にぶい黄褐色土　10YR6/2灰黄褐色土との混合土、炭化物(φ3～5mm)極微量
浮石(φ1～3mm)微量、粘性弱、しまりやや強
2層　10YR4/3　にぶい黄褐色土　炭化物(φ3～5mm)極微量、浮石(φ1～3mm)極微量、粘性弱、しまり弱
3層　10YR4/4　褐色土　10YR5/3にぶい黄褐色土との混合土、浮石(φ3～5mm)極微量、粘性弱、しまり弱
4層　10YR4/2　灰黄褐色土　浮石(φ1～3mm)極微量、粘性弱、しまり弱

0　S=1/60　2m

図36　B区土坑（7）

第45号土坑（ＢＳＫ－45）（図36）

【位置・確認】Ｑ－22グリッドに位置する。第ＢⅠ層直下、第ＢⅢ層直上で検出した。

【重複】第628・656号ピットと重複し、第628号ピットよりも古く、第656号ピットよりも新しい。

【形態・規模】直径約90cmの円形を呈し、深さは24cmを測る。

【壁・底面】壁は底面から緩やかに立ち上がり、断面形状は弧状をなす。底面の状態は鍋底状である。

【堆積土】堆積土上部では、炭化物粒、第ＢⅢ層に由来する軽石ブロックが堆積し、人為堆積的様相を呈する。

【出土遺物】遺物は出土していない。

【小結】検出層位から10世紀前葉以降の年代が与えられる。

（斉藤）

第46号土坑（ＢＳＫ－46）（図36）

【位置・確認】Ｑ－22グリッドに位置し、基本層序第ＢⅠ層直下、第ＢⅢ層直上で検出した。

【重複】第47号土坑、第655号ピットと重複し、これらよりも古い。

【形態・規模】長軸132cm、短軸90cmの不整楕円形を呈し、深さは21cmを測る。

【壁・底面】壁は底面から外湾気味に立ち上がり、底面は概ね平坦である。

【堆積土】層の上部では、軽石が微量混入しているが、混入物が少なく、自然堆積的様相を呈する。

【出土遺物】遺物は出土していない。

【小結】検出層位から10世紀前葉以降の年代が与えられる。

（斉藤）

第47号土坑（ＢＳＫ－47）（図36）

【位置・確認】Ｑ－23グリッド他に位置する。基本層序第ＢⅠ層直下、第ＢⅢ層直上で検出した。

【重複】第46号土坑、第649・664・665号ピットと重複しており、第46号土坑よりも新しく第649・664・665号ピットよりも古い。

【形態・規模】長軸114cm、短軸75cmの不整円形を呈し、深さは72cmを測る。

【壁・底面】壁は底面からほぼ垂直に立ち上がり、底面は平坦である。

【堆積土】堆積土上部では炭化物が含まれており、下部では、相対的に混入物が少なくなる。

【出土遺物】遺物は出土していない。

【小結】検出層位から10世紀前葉以降の年代が与えられる。

（斉藤）

第48号土坑（ＢＳＫ－48）（図37）

【位置・確認】Ｑ－23グリッドに位置する。基本層序第ＢⅠ層直下、第ＢⅢ層直上で検出した。

【重複】第49号土坑、第11号溝跡、第626・663号ピットと重複しており、第626・663号ピットよりも古く、第11号溝跡・第49号土坑よりも新しい。

【形態・規模】南側が攪乱によって壊されているため全体形状は不明だが、平面形状は概ね直径90cm

程度の隅丸方形をなすものと考えられる。確認面からの深さは約60㎝を測る。
【壁・底面】壁は底面からやや外傾しながら立ち上がり、底面は概ね平坦である。
【堆積土】堆積土上部は皿状に掘り込まれるような状態で、土坑上部に抜き穴状の掘方が加えられている。したがって、第49号土坑との新旧関係については、あくまでも、層上部のみが確認される状態で下部の新旧は不明である。
【出土遺物】遺物は出土していない。
【小結】検出層位から10世紀前葉以降の年代が与えられる。

（斉藤）

第49号土坑（ＢＳＫ－49）（図37）
【位置・確認】Ｑ－22グリッドに位置する。基本層序第ＢⅠ層直下、第ＢⅢ層直上で検出した。
【重複】第48号土坑、第663号ピットと重複し、これらよりも古い。
【形態・規模】南側が攪乱を受け、全体形状は不明だが、短軸幅60㎝の隅丸方形を呈するものとみられる。検出面からの深さは約66㎝を測る。
【壁・底面】壁は底面からほぼ垂直に立ち上がる。底面は平坦である。
【堆積土】上層では微量の炭化物を含むが、下部では混入物がほとんどみられない。
【出土遺物】遺物は出土していない。
【小結】検出層位から、10世紀前葉以降の年代が与えられる。

（斉藤）

第50号土坑（ＢＳＫ－50）（図37）
【位置・確認】Ｑ－22グリッドに位置する。基本層序第ＢⅠ層直下、第ＢⅢ層直上で検出した。
【重複】認められない。
【形態・規模】南側は現代の攪乱によって全体形状が不明だが、直径72㎝程度の円形を呈するものとみられる。深さは36㎝を測る。
【壁・底面】壁は底面から外湾しながら立ち上がる。
【堆積土】第ＢⅢ層に由来する砂質土ブロックを混入し、人為堆積的様相を呈する。
【出土遺物】遺物は出土していない。
【小結】検出層位から10世紀前葉以降の年代が与えられる。

（斉藤）

第51号土坑（ＢＳＫ－51）（図37）
　調査段階では第12号溝跡（ＢＳＤ－12）としたが、整理段階で第51号土坑に名称変更した。
【位置・確認】Ｓ－22・23グリッドに位置する。
【重複】第11号溝跡と重複する。新旧関係は本遺構が古い。
【形態・規模】本遺構の東側は第11号溝跡に破壊される。現存長軸131㎝、短軸60㎝を測り、楕円形を呈すると思われる。深さは11㎝を測る。

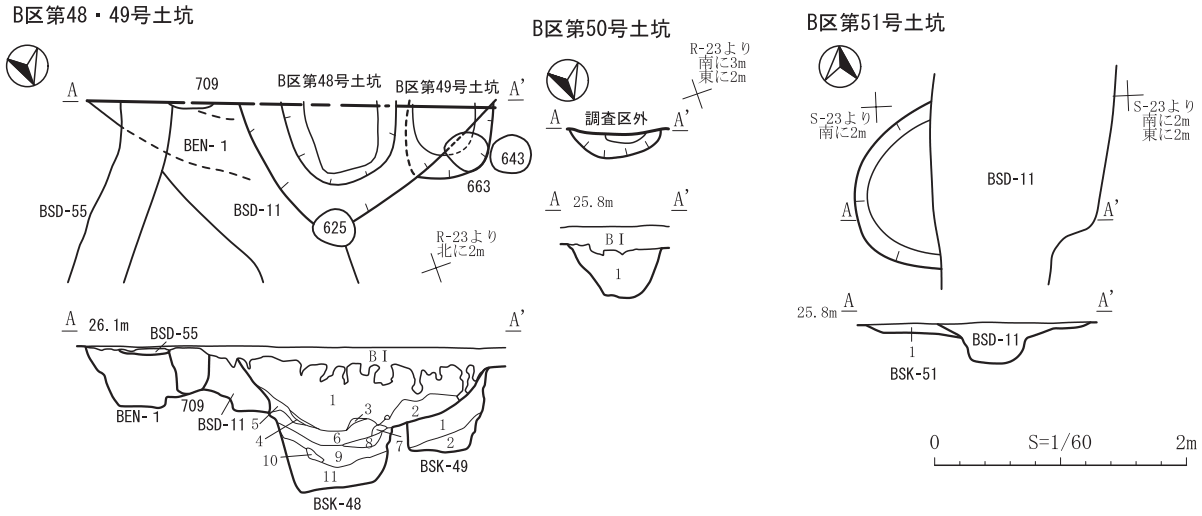
【壁・底面】底面はなだらかで平坦である。
【堆積土】褐色土が堆積する。
【出土遺物】遺物は出土していない。
【小結】新旧関係と検出層位および堆積土の状況から、平安時代以降に埋没したと思われる。

（工藤）

第52号土坑（ＢＳＫ－52）（図32）

調査段階では第５号竪穴遺構（ＢＳＩ－５）としたが、整理段階で第52号土坑に名称変更した。
【位置・確認】Ｓ－24・25グリッドに位置する。基本層序第ＢⅢ層直上で確認した。
【重複】第15号掘立柱建物跡、第11・13号土坑、第14・15・19・20号溝跡、第384号ピットと重複する。新旧関係は本遺構が第11号土坑、第20号溝跡よりも古く、第13号土坑、第14・15・19号溝跡、第384号ピットより新しい。第15号掘立柱建物跡との重複関係は判断できなかった。
【形態・規模】長軸505㎝、短軸283㎝の楕円形を呈する。深さは81㎝を測る。
【壁・底面】壁は底面から緩やかに立ち上がり、確認面付近で段を有する。底面はなだらかで鍋底型を呈するが、壁面は凹凸がある。
【堆積土】１～３層は褐色粘質土の中～大塊を多量に含む。下層には炭化物小塊を含む土層が堆積する。人為堆積の様相を呈する。
【出土遺物】遺物は出土していない。
【小結】底面からは柱穴などの付帯施設は検出されなかった。新旧関係や検出層序および堆積土の状況から、14世紀以降に埋没した可能性が高い。

（工藤）



B区第48号土坑

1層	10YR4/3	にぶい黄褐色土	10YR4/2灰黄褐色土との混合土、浮石(φ1～10mm)微量、炭化物(φ1～15mm)極微量、第BⅢ層(シラス)ブロック状に混入、粘性弱、しまり強
2層	10YR4/3	にぶい黄褐色土	10YR3/3暗褐色土との混合土、浮石(φ1～5mm)極微量、炭化物(φ1～5mm)極微量、粘性弱、しまり強
3層	10YR4/2	灰黄褐色土	粘性やや中、しまりやや強
4層	10YR4/3	にぶい黄褐色土	浮石(φ1～3mm)極微量　上層に10YR2/1黒色土推積、粘性やや弱、しまり強
5層	10YR4/4	褐色土	浮石(φ1～3mm)極微量、粘性弱、しまり強
6層	10YR4/3	にぶい黄褐色土	浮石(φ1～3mm)極微量、炭化物(φ1～10mm)極微量、上層に10YR2/1黒色土推積、粘性やや中、しまりやや強
7層	10YR4/6	褐色土	粘性やや強、しまりやや強
8層	10YR4/4	褐色土	粘性やや中、しまりやや強
9層	10YR4/3	にぶい黄褐色土	炭化物(φ1～20mm)極微量 浮石(φ1～10mm)極微量、粘性中、しまり中
10層	10YR4/2	灰黄褐色土	粘性強、しまり中
11層	10YR4/4	褐色土	第BⅢ層(シラス)崩落土がブロック状の混入粘性中、しまり中

B区第49号土坑

1層	10YR4/2	灰黄褐色土	10YR4/3にぶい黄褐色土との混合土、炭化物(φ1～10mm)極微量、粘性やや中、しまり強
2層	10YR4/2	灰黄褐色土	10YR5/4にぶい黄褐色土との混合土、粘性中、しまり中

B区第50号土坑

BⅠ層	10YR4/2	灰黄褐色土	7.5YR3/4暗褐色土との混合土、浮石(φ1～5mm)極微量、炭化物(φ1～30mm)極微量、第BⅢ層(シラス)ブロック状に混入、粘性弱、しまり強
1層	10YR4/3	にぶい黄褐色土	浮石(φ1～3mm)極微量、炭化物(φ1～5mm)極微量、粘性やや中、しまり強

B区第51号土坑

1層	10YR4/4	褐色土	浮石(φ1～2mm)極微量、粘性強、しまり強

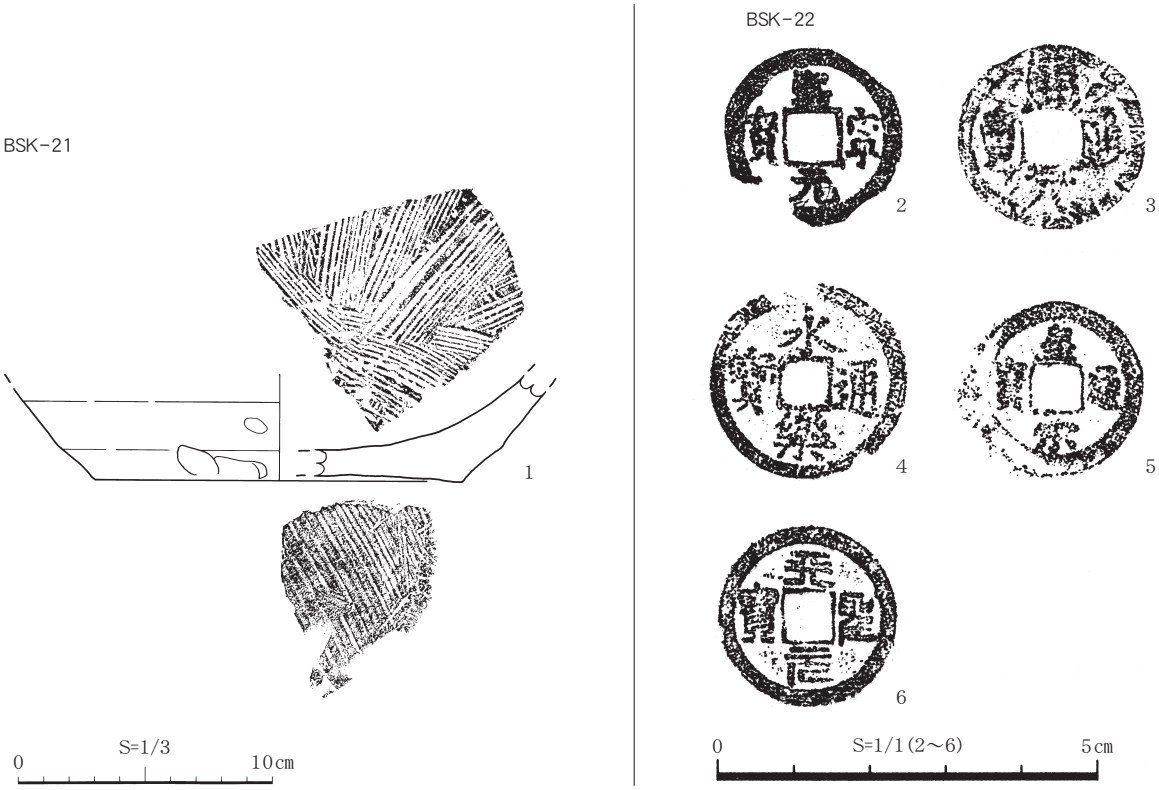


図37　B区土坑（8）・土坑出土遺物

第５節　井戸跡

第１号井戸跡（ＢＳＥ－１）（図38）

調査時点では第11号竪穴遺構（ＢＳＩ－11）としたが、整理段階で第１号井戸跡（ＢＳＥ－１）に名称変更した。

【位置・確認】Ｒ－19グリッドに位置する。基本層序第ＢⅢ層上面で検出した。

【重複】第８号掘立柱建物跡、第409・410号ピットと重複する。新旧関係は本遺構が古い。

【形態・規模】長軸310㎝、短軸268㎝を測り、不整円形を呈する。湧水のため、確認面から105㎝の深さで精査を断念した。壁は底面からほぼ垂直に立ち上がる。

【堆積土】上層は炭化物を少量含む褐色土が堆積する。土層断面や遺構覆土からは、井側の痕跡は認められなかった。３層は井桁や井側等を抜き取った痕跡と思われ、１・２・３層は井側抜き取り後に人為的に埋め戻した土層と考えられる。

【出土遺物】４層から、表面と欠損部に炭化物が付着している自然礫が出土している。

【小結】検出層位や堆積土の状況から、平安時代以降に人為的に埋められたものと思われる。

（工藤）

第２号井戸跡（ＢＳＥ－２）（図38）

調査段階では第18号土坑（ＢＳＫ－18）としたが、整理段階で第２号井戸跡（ＢＳＥ－２）に名称変更した。

【位置】Ｔ・Ｕ－25グリッドに位置する。

【重複】第４号竪穴遺構、第19号溝跡、第16号掘立柱建物跡と重複し、新旧関係は本遺構が第19号溝跡よりも新しく、第４号竪穴遺構より古い。第16号掘立柱建物跡との重複関係は判断できなかった。

【形態・規模】現存長軸192㎝、短軸185㎝であり、ほぼ円形を呈している。湧水のため確認面から64㎝の深さで精査を断念した。壁はほぼ垂直に立ち上がる。

【堆積土】人為堆積の様相を呈する。１・２層は井戸上部構造である井桁を抜き取った痕跡と思われる。３層は井戸枠内の埋土、４～６層は井戸枠の裏込めされた掘り方埋土と考えられる。１層には礫が混入し、井戸枠内埋土には炭化物小塊を含む。

【出土遺物】１層より土師器坏と弥生中期の土器片、炭化物小塊、湧水レベル付近からは炭化物小塊が出土している。放射性炭素年代測定の分析を行った結果、850±30yrBP（暦年較正１σ1165～1220AD）の値が与えられている。

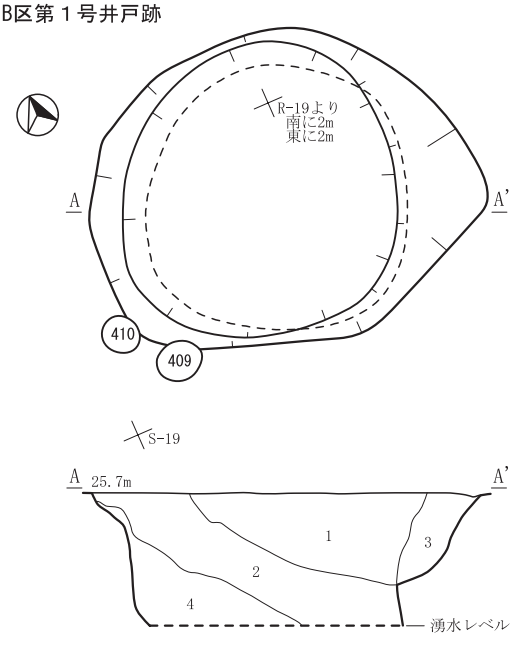
【小結】湧水レベルから出土した炭化物小塊は、湧水の影響を受けているが、３層または６層であることは確実であり、炭化物の放射性炭素年代測定の結果と遺構の検出層序から、本遺構は12世紀半ばから13世紀半ばにかけての期間に人為的に埋められたものと思われる。

（工藤）

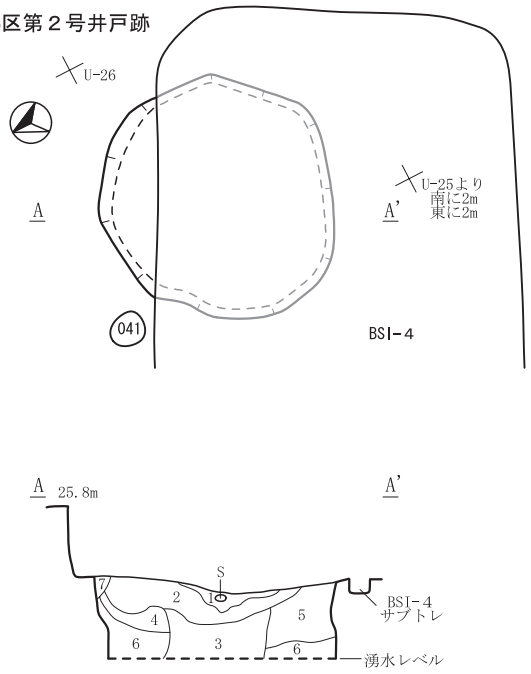
第３号井戸跡（ＢＳＥ－３）（図38）

調査段階では第17号竪穴遺構（ＢＳＩ－17）としたが、整理段階で第３号井戸跡（ＢＳＥ－３）に

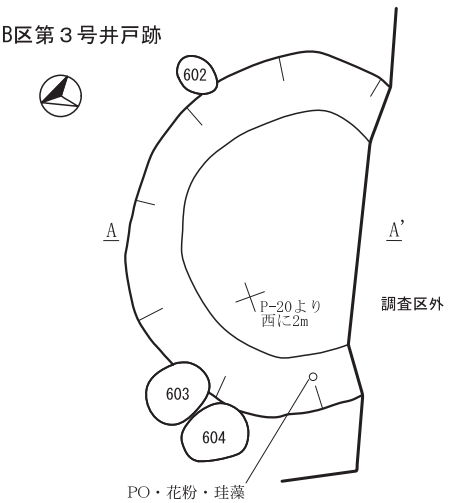
B区第１号井戸跡

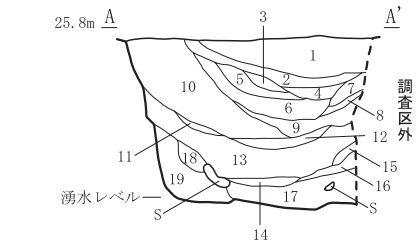


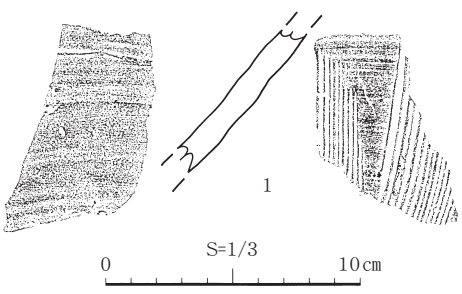
B区第２号井戸跡

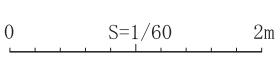


B区第３号井戸跡









B区第１号井戸跡

1層	10YR4/3	にぶい黄褐色土	浮石(φ1～2mm)極微量、炭化物(φ1～2mm)極微量、粘性強、しまり強
2層	10YR4/4	褐色土	浮石(φ1～2mm)極微量、焼土粒(φ1～4cm)極微量、粘性強、しまり強
3層	10YR4/4	褐色土	10YR5/4にぶい黄褐色粘土多量、浮石(φ1～2mm)極微量、炭化物(φ1～2mm)極微量、粘性強、しまり強
4層	10YR3/4	暗褐色土	10YR4/4褐色粘土多量、浮石(φ1～2mm)極微量、炭化物(φ1～2mm)極微量、粘性強、しまり強

B区第２号井戸跡

1層	10YR5/6	黄褐色土	10YR4/4褐色土多量、小礫(φ5～7mm)小量、炭化物(φ1～5mm)微量、浮石(φ1～3mm)微量、粘性強、しまりやや強
2層	10YR4/3	にぶい黄褐色土シルト	浮石(φ1～5mm)小量、小礫(φ10～30mm)微量、炭化物粒(φ1～15mm)微量、粘性強、しまり強
3層	10YR4/2	灰黄褐色土	10YR4/1褐灰色土多量、浮石(φ1～3mm)中量、小礫(φ10～30mm)小量、炭化物粒(φ1～10mm)微量、粘性強、しまり中
4層	10YR4/2	灰黄褐色粘土(シルト)	小礫(5mm)微量、浮石(φ1～3mm)微量、炭化物粒(φ1～10mm)極微量、粘性中、しまり中
5層上層	10YR4/4	褐色砂・シルト	10YR3/2黒褐色粘土が層全体に混入、小礫(φ5～30mm)中量、浮石(φ1～5mm)小量、粘性なし、しまり強
5層下層	10YR3/3	暗褐色砂	10YR3/2黒褐色粘土が層全体に混入、小礫(φ5～30mm)中量、浮石(φ1～5mm)小量、粘性なし、しまり中
6層	7.5YR4/6	褐色土	10YR4/4褐色土多量、10YR4/1褐色粘土が層の全体に混入、炭化物粒(φ1～15mm)小量、浮石(φ1～5mm)小量、粘性強、しまり中
7層	10Y4/4	褐色土	粘性強、しまり強

B区第３号井戸跡

1層	10YR4/3	にぶい黄褐色土	10YR6/1褐灰色との混合土、炭化物(φ5mm～1cm)極微量、浮石(φ1～3mm)極微量、粘性弱、しまり強
2層	10YR4/4	褐色土	10YR6/8明黄褐色土との混合土、10YR3/1黒褐色砂が混入、浮石(φ3～5mm)微量、粘性弱、しまり強
3層	10YR4/4	褐色土	10YR3/1黒褐色砂との混合土、炭化物(φ3～5mm)極微量、粘性弱、しまりやや強
4層	10YR3/4	暗褐色土	10YR3/1黒褐色砂との混合土、炭化物(φ1～3mm)極微量、浮石(φ1～3mm)極微量、粘性弱、しまりやや強
5層	10YR3/2	黒褐色土	10YR5/4にぶい黄褐色土との混合土、10YR3/1黒褐色砂が25%混入、炭化物(φ5～8mm)微量　浮石(φ1～3mm)極微量、粘性弱、しまり強
6層	10YR3/3	暗褐色土	10YR4/4褐色土との混合土、10YR3/1黒褐色砂混入、炭化物(φ5～8mm)微量　浮石(φ1～3mm)極微量、粘性弱、しまり強
7層	10YR3/4	暗褐色土	10YR5/4にぶい黄褐色土の混合土、浮石(φ1～3mm)微量、粘性弱、しまり強
8層	10YR3/1	黒褐色砂	10YR5/4にぶい黄褐色土の混合土、粘性やや弱、しまり弱
9層	10YR3/3	暗褐色土	10YR4/4褐色土との混合土、10YR3/1黒褐色砂混入、浮石(φ1～3mm)微量、粘性弱、しまりやや強
10層	10YR4/3	にぶい黄褐色土	10YR6/4にぶい黄褐色土との混合土、炭化物(φ5～8mm)微量　浮石(φ1～3mm)微量、粘性弱、しまり強
11層	10YR3/1	黒褐色土	10YR4/3にぶい黄褐色土との混合土、粘性弱、しまり弱
12層	10YR3/2	黒褐色土	10YR3/3暗褐色土との混合土炭化物(φ3～5mm)極微量　浮石(φ1～3mm)極微量、粘性弱、しまりやや強
13層	10YR3/4	暗褐色土	炭化物(φ1～2mm)極微量　浮石(φ1～2mm)極微量、粘性やや強、しまり強
14層	10YR4/2	灰黄褐色粘土	10YR3/1黒褐色粘土との混合土、粘性強、しまり強
15層	10YR5/3	にぶい黄褐色粘土	10YR4/2灰黄褐色粘土との混合土、焼土粒(φ1～2mm)極微量、粘性強、しまり強、焼土層
16層	10YR3/2	黒褐色粘土	10YR5/3にぶい黄褐色粘土との混合土、炭化物(φ1～2mm)極微量、粘性やや強、しまり強
17層	10YR4/3	にぶい黄褐色粘土	7.5YR3/4暗褐色粘土との混合土、炭化物(φ1～10mm)少量、粘性強、しまり強
18層	10YR5/3	にぶい黄褐色土	10YR3/4暗褐色土との混合土、粘性強、しまり強、自然堆積層
19層	10YR4/4	褐色土	10YR5/3にぶい黄褐色土との混合土、7.5YR2/2黒褐色土混入、炭化物(φ5～8mm)微量混入　浮石(φ3～5mm)微量、粘性弱、しまり強

図38　B区井戸跡

名称変更した。

【位置・確認】Ｏ・Ｐ－19グリッドに位置する。基本層序第ＢⅠ層直下、第ＢⅢ層上面で検出した。

【重複】第602・603・604号ピットと重複しており、これらよりも古い。

【形態・規模】遺構の南側の一部はⅠ層水田第１号水路跡などによって壊されており、全体形状は不明である。平面形は概ね正円をなし、壁面はほぼ垂直に立ち上がる。長軸および短軸はいずれも推定値であるが、それぞれ294㎝、264㎝である。深さは138㎝を測る。

【堆積土】大半は黒色土と焼土が互層をなし、人為堆積的様相が顕著にみられる。壁際に堆積した17層については、遺構の壁が崩落した初期堆積土とみられる。層の下部では、ＢⅣ層水田跡の耕作土に由来する粘質土ブロックが多量に含まれている。また、堆積土上位にある黒色土中には、炭化物、第ＢⅢ層に由来する軽石粒が多く含まれる。

【出土遺物】陶器は珠洲擂鉢で、内面の卸目や胎土の状況から、13世紀末から14世紀半ば頃のものである（図38－１）。磁器は肥前の瓶類で、近世のものであり、混入の可能性がある。

【小結】遺構の検出層位ならびに、堆積土上部から出土した遺物の年代から、本遺構の帰属は10世紀前葉以降、14世紀半ば以前と考えられる。

（斉藤）

第６節　溝跡

第１号溝跡（旧遺構名ＢＳＤ－１・５、新遺構名Ｉ層水田第１号水路跡）（図186）

本遺構は、当初Ｂ区第１・５号溝跡として確認し精査を行ったが、整理段階において、Ｂ区基本層序第ＢⅠ層で確認した水田跡と付随する溝跡と判明したため、別項でⅠ層水田第１号水路跡として報告することとした。

（工藤）

第２号溝跡（ＢＳＤ－２）（図39）

【位置・確認】Ｎ－18・19グリッドに位置する。基本層序第ⅢＢ層直上で確認した。

【重複】第３号溝跡と重複し、本遺構が第３号溝跡より古い。

【形態・規模】南北方向に直線的に延びるものであり、北部は調査区外に延びるため全容は不明であるが、確認できた範囲での長さは約６ｍ30㎝、上面の最大幅は115㎝、底面の最大幅は60㎝、深さは北部では約80㎝、南部では約40㎝を測る。

【壁・底面】断面形状は箱形を呈する。

【堆積土】褐色土やにぶい黄褐色土を主体とし、白色・褐色粘土を斑状に含む。

【出土遺物】遺物は出土していない。

【小結】当初第２・４号溝跡として確認したが、整理段階で第４号溝跡を統合した。土層堆積状況から、平安時代末から中世に構築され埋没した可能性が高い。

（工藤）

第３号溝跡（ＢＳＤ－３）（図39）

【位置・確認】Ｍ－16グリッド他に位置する。基本層序第ⅢＢａ層直上で確認した。

【重複】第２・33号土坑、第２号溝跡と重複し、第２号溝跡より新しく第２・33号土坑より古い。

【形態・規模】確認面での最大幅は80㎝、底面の最大幅は54㎝、深さは16～38㎝を測る。

【壁・底面】断面形状は逆台形状形を呈している。

【堆積土】４～６層に分層できた。褐色粘土を主体として浮石を含んでいる。人為堆積と思われる。

【出土遺物】図示できるような遺物は出土していない。

【小結】詳細については不明であるが、遺構の重複関係から中世以降の可能性が高い。

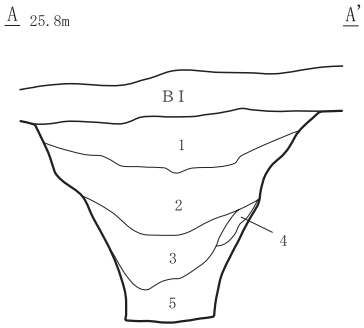
（笹森）

第４号溝跡（ＢＳＤ－４）

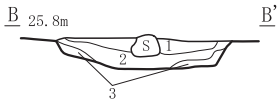
整理段階で第２号溝跡と統合したため、欠番とした。

第５号溝跡（ＢＳＤ－５）

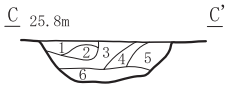
遺構確認時に溝跡と認識したが、精査段階で遺構ではないことが判明したため欠番とした。



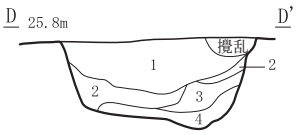
B区第２号溝跡　A-A′
1層　10YR4/4　褐色土　10YR4/6褐色土多量、浮石(φ1～5㎜)小量混入、炭化物粒(φ2～5㎜)極微量混入、粘性なし、しまり強
2層　10YR4/3　にぶい黄褐色土　浮石(φ1～3㎜)微量混入、粘性なし、しまり強
3層　10YR4/4　褐色土　浮石(φ1～2㎜)極微量混入、炭化物(φ1cm)極微量、粘性中、しまり強
4層　10YR4/4　褐色土　2.5Y5/3褐色粘土多量、粘性中、しまり強
5層　10YR4/3　にぶい黄褐色土　2.5Y5/3黄褐色土粘土多量、浮石(φ1～3㎜)極微量、粘性強、しまり強



B区第２号溝跡　B-B′
1層　10YR4/4　褐色土　浮石(φ1～15㎜)微量混入、炭化物(φ2～20㎜)微量、礫混入、粘性弱、しまり強
2層　10YR3/4　暗褐色土　浮石(φ1～5㎜)微量混入、炭化物(φ1～2㎜)極微量、礫混入、粘性弱、しまり強
3層　10YR4/4　褐色土　浮石(φ1～10㎜)極微量混入、粘性弱、しまり強



B区第３号溝跡　C-C′
1層　10YR4/4　褐色土　浮石(φ1～10㎜)微量混入、炭化物(φ5㎜)極微量、焼土粒(φ2㎜)極微量、粘性弱、しまり強
2層　10YR4/6　褐色粘質土　粘性中、しまり強
3層　10YR4/2　灰黄褐色土　浮石(φ1～3㎜)微量混入、炭化物(φ3㎜)極微量、粘性中、しまり強
4層　10YR4/4　褐色土　浮石(φ1㎜)極微量、炭化物(φ1㎜)極微量、粘性中、しまり強
5層　10YR4/4　褐色土　浮石(φ1～2㎜)極微量混入、粘性中、しまり強
6層　10YR4/3　にぶい黄褐色土　2.5Y6/3にぶい黄褐色シルトが斑状に混入、浮石(φ1～2㎜)極微量混入、粘性弱、しまり強



B区第３号溝跡　D-D′
1層　10YR4/6　褐色粘質土　粘性中、しまり強
2層　10YR4/2　灰黄褐色土　浮石(φ1～3㎜)微量混入、炭化物(φ3㎜)極微量、粘性中、しまり強
3層　10YR4/4　褐色土　浮石(φ1～10㎜)極微量、粘性強、しまりやや強
4層　10YR4/4　褐色土　浮石(φ1～2㎜)極微量混入、粘性中、しまり強

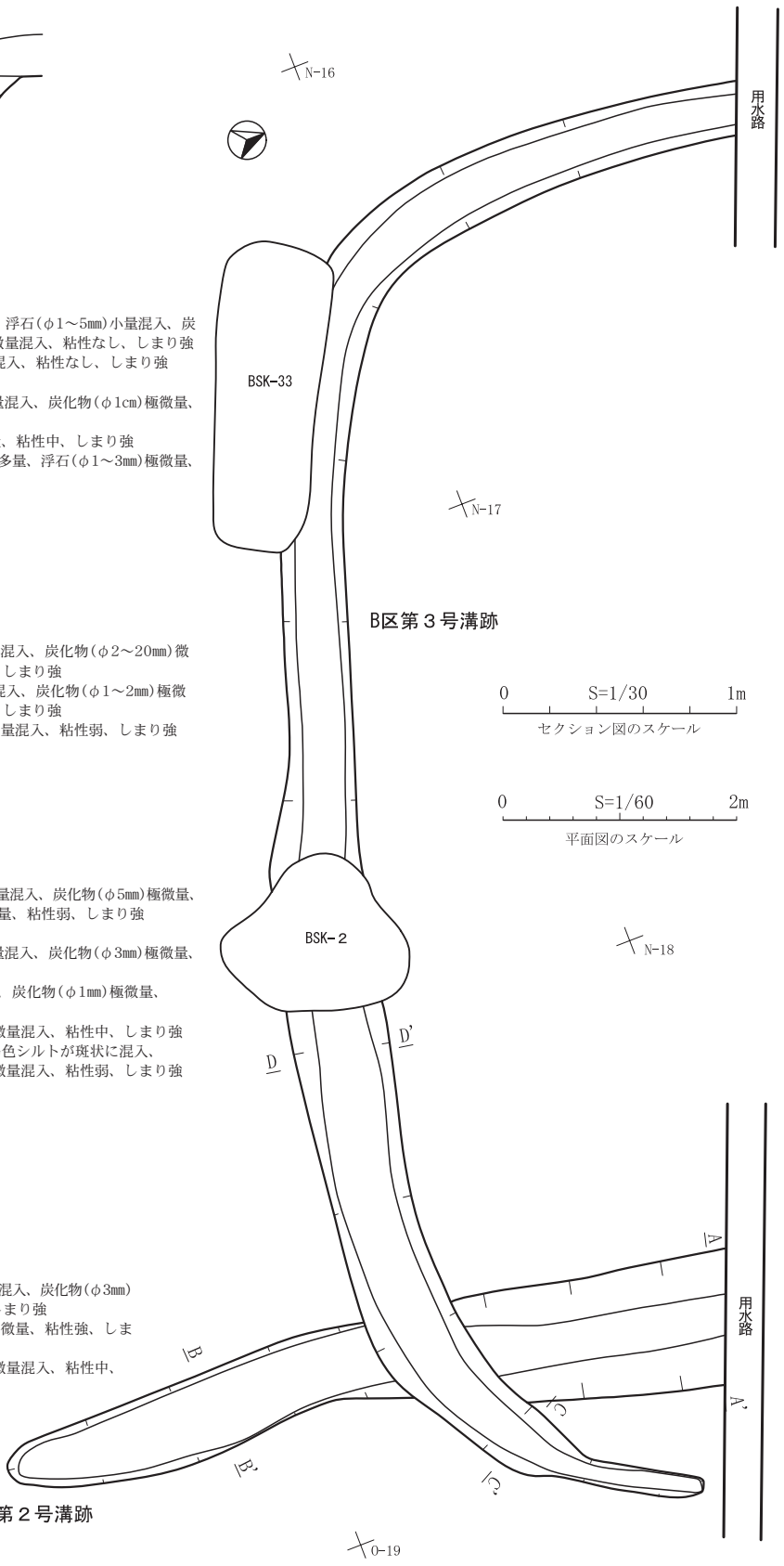


図39　Ｂ区溝跡（１）

第６号溝跡（ＢＳＤ－６）（図40・55）

【位置・確認】Ｔ～Ｖ－19～25グリッドに位置する。基本層序第ＢⅢ層直上で確認した。

【重複】第４号竪穴遺構、第10・19・20号土坑、第９・13・15・16・46号溝跡、第53・54・55・141・255・257・275・276・279・280・285・281・298・299・300・301・316・317・318・319・320・328・329・330・331・332・333・334・377・378・495号ピットと重複し、本遺構が第４号竪穴遺構、第13号溝跡、第53・54・55・141・255・257・275・276・279・280・285・281・298・299・300・301・316・317・318・319・320・328・329・330・332・333・334・377・378・495号ピットより古く、第10号土坑、第９・15・16・46号溝跡より新しい。第19・20号土坑、第331号ピットとの新旧関係は判断できなかった。

【形態・規模】村道３号線に平行し直線的にほぼ南西－北東方向に延びる。西側は調査区外に延び、東端は平面形が土坑状となる。南部が村道３号線下に連続するため全容は不明であるが、溝状を呈する部分の長さは22m、上面幅は最大153cm、底面は63cm、深さは42cmを測り、土坑状となる東側部分は長径595cm、短径328cm、深さは98cmを測る。

【壁・底面】壁面は底面から緩やかに立ち上がり、底面は比較的平坦である。断面形状はU字形を呈している。

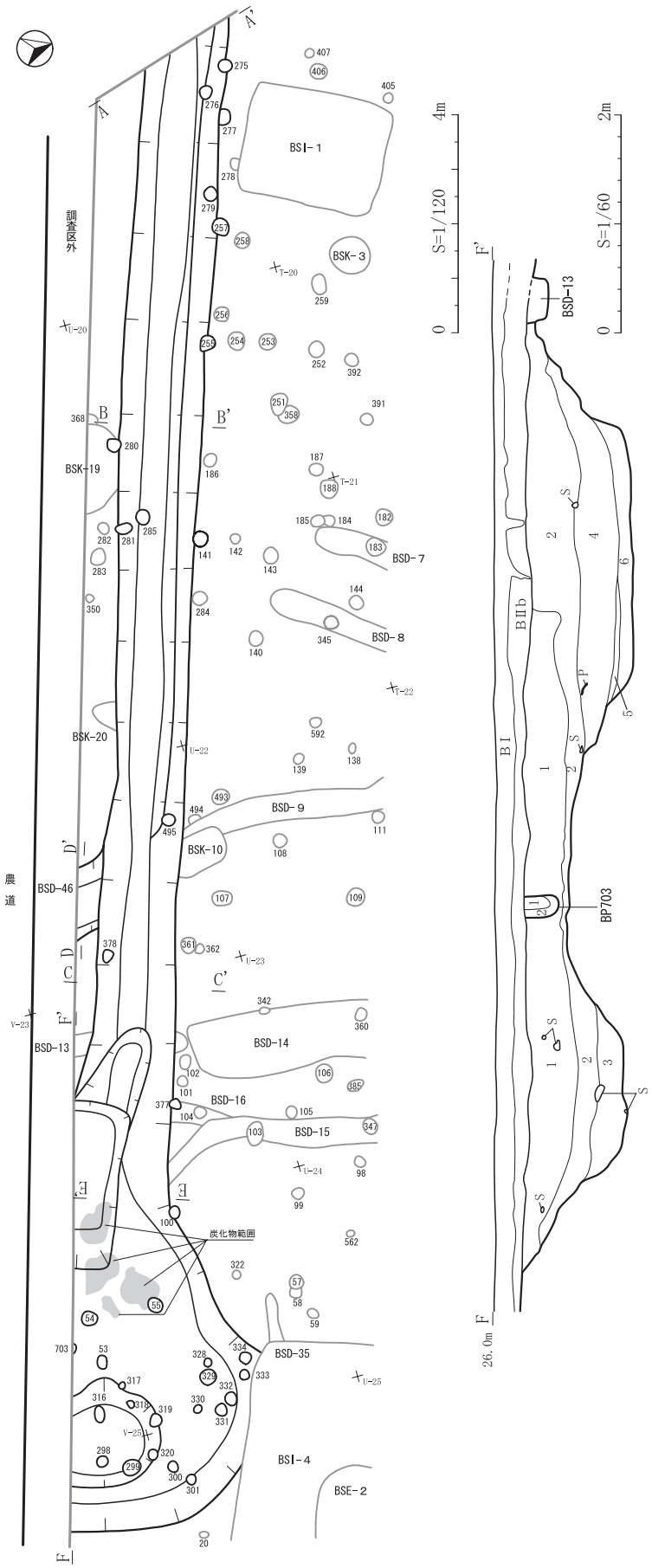
【堆積土】総じて上層は褐色土、下層は暗褐色土を主体とする。土坑状を呈する箇所では、底層付近で炭化物が面的に出土しており土層は色相がやや暗い。全体に自然堆積であるが、土坑状を呈する箇所では最上層が人為堆積の様相を呈する。

【出土遺物】陶器、磁器、石製品、動物遺存体（ウシ・ウマ類）が出土している。陶器は珠洲擂鉢で13世紀前半から半ば頃のものである。３層と４層から出土している（図55－２・４）。磁器は白磁碗と青磁碗で、白磁碗は12～13世紀のものと思われるもので底面から出土している（図55－３）。青磁碗は龍泉窯系であり、釉調から12世紀半ばから13世紀初頭にかけてのものと推定される（図55－１）。

石製品はるつぼ状石製品（図55－５）、砥石、玉状石製品、不明石製品（図55－６）がある。るつぼ状石製品は円礫を素材とし、口縁端部の一部に炭化物が付着し被熱の痕跡を残すものであり、堆積土から炭化物が付着した礫とともに出土している。口縁部から最深部までは36㎜の深さを測る。内面の凹みの表面は工具による刺突痕がなく比較的平滑であり、溶着物は観察できなかった。底面に相当する部分は自然面で、平坦な地面への正置は困難であり、用途は不明のものである。砥石は砥面が２面のものと１面のものがあり、いずれも10層からの出土である。玉状石製品は直径約７cm程度のボール型を呈するもので、３層から出土している。砥石と玉状石製品は掲載していない。不明石製品では円礫に沈線を刻み周回させたものを図示した（図55－６）。他に、円盤状の礫片面若しくは両面を、棒状器具の回転により穿孔した石製品がある。凹石に類似しており、穿孔作業の台石に使用されたものとも考えられるものである。掲載はしていない。

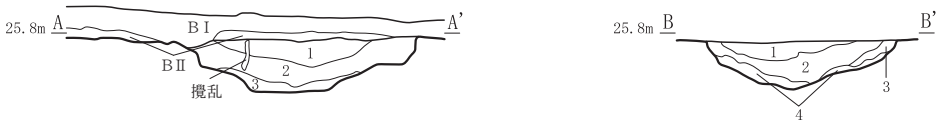
【小結】本遺構は土層の堆積状況から、溝跡と、水溜めや池のような施設が複合したものと考えられ、滞水環境であったことが伺われる。出土遺物や検出層序および堆積土から、13世紀前半頃に埋没した可能性が高い。

（工藤）



B区第６号溝跡　F-F'
1層　10YR4/4　褐色土　10YR4/2灰黄褐色土多量、浮石(φ1～10mm)少量、炭化物粒(φ1～10mm)微量、小礫(φ50～100mm)混入、層右側に黒色土粒・灰混入、粘性中、しまり強
2層　10YR4/2　灰黄褐色粘質土　7.5YR4/6褐色土多量、浮石(φ1～5mm)極微量、10YR3/1黒褐色粘土が中～下部にかけて混入(A-A'のみ)、粘性強、しまり強
3層　10YR3/2　黒褐色粘質土　7.5YR4/6褐色土ブロック(φ5～30mm)少量、2.5YR5/2暗灰黄褐色粘土粒ブロック(φ2～40mm)微量、炭化物粒(φ5mm)極微量、10YR4/2灰黄褐色砂質土が帯状に混入、粘性強、しまりやや強
4層　10YR4/1　褐灰色粘質土　砂質(φ3～5mm)の小礫少量含、粘性強
5層　10YR3/1　黒褐色粘質土　φ1mmの砂を多量に含む、粘性強
6層　10YR4/1　褐灰色砂質土　炭化物微量、粘土塊少量含む
BP703
1層　10YR4/3　にぶい黄褐色土　10YR3/4暗褐色土多量、浮石(φ1～5mm)少量、炭化物粒(φ1～5mm)微量、粘性中、しまり強
2層　10YR4/4　褐色土　7.5YR4/6褐色土多量、浮石(φ1～10mm)微量、焼土粒(φ1～10mm)極微量、炭化物粒(φ1～7mm)極微量、粘性強、しまり強

図40　Ｂ区溝跡（２）



B区第６号溝跡　A-A′
1層　10YR4/4　褐色土　　浮石(φ1～5㎜)小量、炭化物(φ1～3㎜)極微量、粘性弱、しまり強
2層　10YR4/4　褐色土　　浮石(φ1～10㎜)小量、炭化物(φ1～5㎜)極微量、粘性弱、しまり強
3層　10YR4/3　にぶい黄褐色土　焼土粒(φ1～3㎜)極微量、粘性強、しまり弱

B区第６号溝跡　B-B′
1層　10YR4/4　褐色土　　浮石(φ1～5㎜)微量、炭化物(φ1～3㎜)極微量、粘性弱、しまり強
2層　10YR4/4　褐色土　　浮石(φ1～3㎜)極微量、焼土粒(φ1～3㎜)極微量、粘性弱、しまり強
3層　10YR4/4　褐色土　　浮石(φ1～10㎜)微量、焼土粒(φ1～3㎜)極微量、粘性弱、しまり中
4層　10YR4/3　にぶい黄褐色土　浮石(φ1～5㎜)極微量、焼土粒(φ1～3㎜)極微量、地山混入、粘性中、しまり弱

B区第６号溝跡　C-C′
1層　10YR3/4　暗褐色土　　浮石(φ1～10㎜)微量、炭化物(φ1～5㎜)極微量、粘性弱、しまり強
2層　10YR3/4　暗褐色土　　浮石(φ1～5㎜)極微量、炭化物(φ１～20㎜)小量、焼土ブロック(φ10～20㎜)微量、粘性中、しまり中
3層　10YR3/3　暗褐色土　　浮石(φ1～10㎜)小量、炭化物(φ1～15㎜)極微量、焼土粒(φ1～3㎜)極微量、粘性中、しまり弱
4層　10YR3/3　暗褐色土　　浮石(φ1～3㎜)極微量、地山下層に少量混入、粘性中、しまり中
5層　10YR3/4　暗褐色土　　地山下層に混入、粘性弱、しまり強
6層　10YR3/4　暗褐色土　　浮石(φ1～5㎜)微量、粘性弱、しまり強

B区第46号溝跡　D-D′
1層　10YR4/4　褐色土　　浮石(φ1～15㎜)極微量、炭化物(φ1～20㎜)極微量、粘性弱、しまり強
2層　10YR4/4　褐色土　　浮石(φ1～15㎜)極微量、炭化物(φ1～10㎜)極微量、焼土粒(φ1～3㎜)極微量、粘性弱、しまり強
3層　10YR4/3　にぶい黄褐色土　浮石(φ1～5㎜)極微量、炭化物(φ1～5㎜)極微量、粘性中、しまり中
4層　10YR4/3　にぶい黄褐色土　浮石(φ1～5㎜)極微量、粘性中、しまり中
5層　10YR4/3　にぶい黄褐色土　第BⅢ層崩落土、粘性弱、しまり強
6層　10YR4/3　にぶい黄褐色土　粘性弱、しまり強

B区第6号溝跡　E-E′
1層　10YR4/4　褐色土　　浮石(φ1～10㎜)少量、炭化物(φ1～5㎜)極微量、中央下層に地山ブロック状に混入、粘性弱、しまり強
2層　10YR4/4　褐色土　　浮石(φ1～3㎜)微量、炭化物(φ1～10㎜)極微量、下層に地山ブロック状に混入、粘性弱、しまり強
3層　10YR4/3　にぶい黄褐色土　浮石(φ1～5㎜)極微量、炭化物(φ1～5㎜)極微量、焼土粒(φ1～3㎜)極微量、粘性中、しまり中
4層　10YR4/3　にぶい黄褐色土　浮石(φ1～3㎜)極微量、炭化物(φ1～3㎜)極微量、粘性中、しまり中
5層　10YR4/3　にぶい黄褐色土　浮石(φ1～3㎜)極微量、炭化物(φ1～10㎜)極微量、焼土ブロック(φ30～40㎜)極微量、粘性中、しまり弱
6層　10YR4/3　にぶい黄褐色土　浮石(φ1～10㎜)極微量、炭化物(φ1～10㎜)極微量、上層から中層にかけて地山ブロック状に混入、粘性中、しまり中
7層　10YR4/2　灰褐色土　　浮石(φ1～10㎜)極微量、粘性やや強、しまり中
8層　10YR4/3　にぶい黄褐色土　浮石(φ1～10㎜)極微量、炭化物(φ1～3㎜)極微量、中層に地山ブロック状に混入、粘性弱、しまり強
9層　10YR4/3　にぶい黄褐色土　浮石(φ1～15㎜)少量、炭化物(φ1～5㎜)極微量、焼土粒(φ1～5㎜)極微量、粘性弱、しまり強
10層 10YR4/2　灰褐色土　　炭化物(φ1～20㎜)微量、粘性中、しまり弱
11層 10YR4/3　にぶい黄褐色土　浮石(φ1～10㎜)極微量、炭化物(φ1～5㎜)極微量、焼土粒(φ1～10㎜)極微量、中央から右にかけて灰土層、粘性中、しまり弱
12層 10YR5/3　にぶい黄褐色土　層下部に灰土混入、粘性中、しまり弱
13層 10YR4/2　灰褐色土　　炭化物(φ1～5㎜)極微量、層左に地山混入、粘性強、しまり弱
14層 10YR5/3　にぶい黄褐色土　砂層、粘性中、しまり弱
15層 10YR4/2　灰褐色土　　炭化物(φ1～5㎜)極微量、粘性中、しまり弱

図41　B区溝跡（3）

第７号溝跡（ＢＳＤ－７）（図42）

【位置・確認】Ｓ・Ｔ－21グリッドに位置する。基本層序第ＢⅢ層直上で確認した。

【重複】第12号掘立柱建物跡、第183・340・341号ピットと重複し、本遺構が古い。

【形態・規模】直線的に延びるもので、長さは4.6m、幅は約60㎝、深さは約20㎝を測る。

【壁・底面】断面形状はU字形を呈する。

【堆積土】褐色土を主体とし、全体に基本層序第ＢⅢ層の小塊や炭化物を含む。自然堆積の様相を呈する。

【出土遺物】遺物は出土していない。

【小結】直線的に延びることから、地割溝としての遺構性格が想定される。検出層序と堆積土の状況から、平安時代以降に埋没したものと思われる。

（工藤）

第８号溝跡（ＢＳＤ－８）（図42）

【位置・確認】Ｒ～Ｔ－21・22グリッドに位置する。基本層序第ＢⅢ層直上で確認した。

【重複】第５・第12号掘立柱建物跡、第37号土坑、第１号円形周溝、第327・339・345・346・577号ピットと重複し、本遺構が第１号円形周溝より新しく、第５・12号掘立柱建物跡、第37号土坑、第327・339・345・346・577号ピットより古い。

【形態・規模】直線的に延びるもので、北部は第327号ピットにより破壊されるため全体は不明である。確認できる長さは8.8m、幅は29～55㎝、深さは約30㎝を測る。

【壁・底面】断面形状はU字形を呈する。

【堆積土】にぶい黄褐色土や褐色土を主体とする。自然堆積により埋没した可能性が高い。

【出土遺物】遺物は出土していない。

【小結】直線的に延びることから、地割溝としての遺構性格が想定される。検出層序と堆積土の状況から、平安時代以降に埋没したものと思われる。

（工藤）

第９号溝跡（ＢＳＤ－９）（図42）

【位置・確認】Ｓ～U－22グリッドに位置する。基本層序第ＢⅢ層直上で確認した。

【重複】第10号土坑、第６号溝跡、第112・494号ピットと重複し、本遺構が第494号ピットより新しく、第10号土坑、第６号溝跡、第５号掘立柱建物跡、第112号ピットより古い。

【形態・規模】南北にやや屈曲しながら延びるもので、南部は第10号土坑と第６号溝跡により破壊されているため全体は不明である。確認できる長さは5.3m、幅は41～60㎝、深さは30㎝を測る。

【壁・底面】断面形状はU字型を呈する。

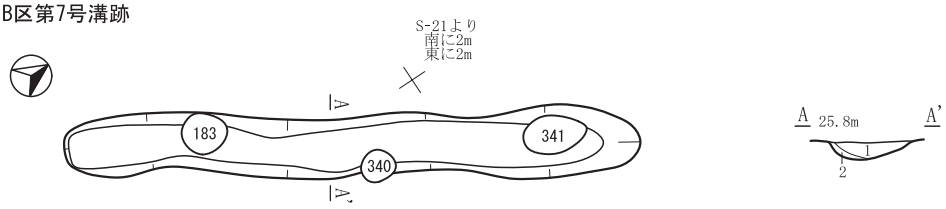
【堆積土】暗褐色土や褐色土を主体とする。上層には白色粘土塊や基本層序第ＢⅢ層小塊を少量含む。自然堆積により埋没した可能性がある。

【出土遺物】遺物は出土していない。

【小結】新旧関係や検出層序および堆積土の状況から、平安時代以降に埋没したものと思われる。

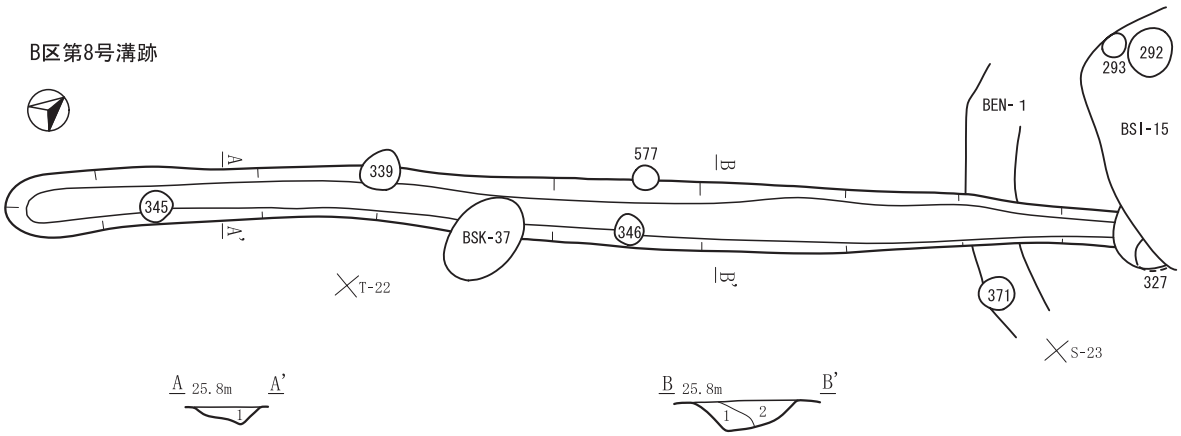
（工藤）

B区第7号溝跡



B区第７号溝跡
1層　10YR4/4　褐色土　　浮石(φ1～3㎜)極微量、炭化物(φ1～10㎜)極微量、斑状に第BⅢ層ブロック状に混入、粘性弱、しまり強
2層　10YR4/4　褐色土　　浮石(φ1～5㎜)極微量、下層と中層に第BⅢ層ブロック状に混入、粘性弱、しまり強

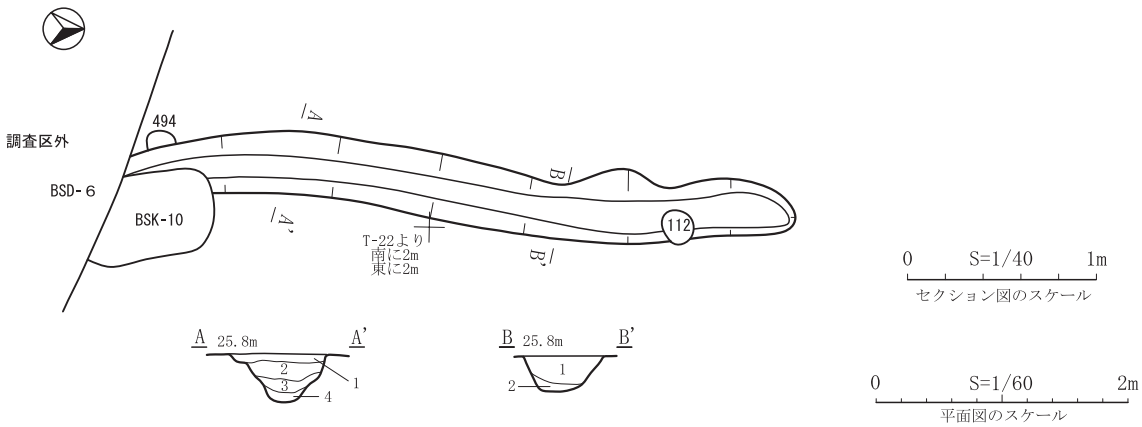
B区第8号溝跡



B区第８号溝跡　A-A′
1層　10YR5/4　にぶい黄褐色土　浮石(φ1～2㎜)極微量、粘性弱、しまり強

B区第８号溝跡　B-B′
1層　10YR4/4　褐色土　　浮石(φ1～2㎜)極微量、粘性弱、しまり強
2層　10YR5/4　にぶい黄褐色土　浮石(φ1～2㎜)極微量、粘性弱、しまり強

B区第9号溝跡



B区第９号溝跡　A-A′
1層　10YR4/4　褐色土　　炭化物(φ1～3㎜)極微、10YR5/2灰黄褐色粘土中量、浮石(φ1～10㎜)少量、粘性なし、しまり強
2層　10YR3/4　暗褐色土　　浮石(φ1～5㎜)微量、焼土粒(φ1㎜)極微量、粘性なし、しまり強
3層　10YR4/4　褐色土　　浮石(φ1～5㎜)極微量、粘性弱、しまり強
4層　10YR4/3　にぶい黄褐色土　浮石(φ1～5㎜)極微量、粘性弱、しまり強

B区第９号溝跡　B-B′
1層　10YR4/4　褐色土　　浮石(φ1～2㎜)極微量、炭化物(φ1～2㎜)極微量、粘性中、しまり強
2層　10YR5/4　にぶい黄褐色土　浮石(φ1～2㎜)極微量、粘性中、しまり強

図42　B区溝跡（４）

第10号溝跡（ＢＳＤ－10）（図43）

【位置・確認】Ｓ－22グリッドに位置する。基本層序第ＢⅢ層直上で確認した。

【重複】第５号掘立柱建物跡、第351号ピットと重複し、本遺構が第５号掘立柱建物跡、第351号ピットより古い。

【形態・規模】確認できる長さは約1.8m、上面幅は約65㎝、底面の最大幅は53㎝、深さは約８㎝を測る。

【壁・底面】断面形状はU字型を呈している。

【堆積土】褐色土やにぶい黄褐色土を主体とする。

【出土遺物】遺物は出土していない。

【小結】検出層序および堆積土の状況から、平安時代以降に埋没したものと思われる。

（工藤）

第11号溝跡（ＢＳＤ－11）（図43）

【位置・確認】Ｑ～Ｔ－23グリッドに位置する。基本層序第ＢⅢ層直上で確認した。

【重複】第14・15号掘立柱建物跡、第48・第51号土坑、第55号溝跡、Ｂ区Ⅰ層水田第１号水路跡、第１号円形周溝、第85・120・121・122・359・367・372・382・626・661・662・709号ピットと重複し、本遺構は第55号溝跡、Ｂ区Ⅰ層水田第１号水路跡、第15号掘立柱建物跡、第48・51号土坑、第85・120・121・122・359・367・372・382・626・661・662・709号ピットより古く、第１号円形周溝より新しい。第14号掘立柱建物跡との新旧関係は判断できなかった。

【形態・規模】確認面での最大幅は166㎝、底面の最大幅は37㎝で、断面形状はU字型や箱形を呈している。南北方向に２条が重複するような格好を呈し、東側では浅く約10㎝、西側では50㎝前後とやや深い。

【壁・底面】東壁は底面から急に立ち上がり、西壁は底面から段を経て立ちあがる。

【堆積土】堆積土の最上層には黒色土が主体をなし、Ｒ－23グリッド中央付近では焼土ブロックを含む。下層には黄褐色土が堆積している。

【出土遺物】遺物は出土していない。

【小結】遺構の重複関係、および検出層位から、10世紀前葉以降に帰属する。

（斉藤）

第12号溝跡（ＢＳＤ－12）

遺構確認時に溝跡と認識したが、整理段階で第51号土坑と名称変更したため、欠番とした。

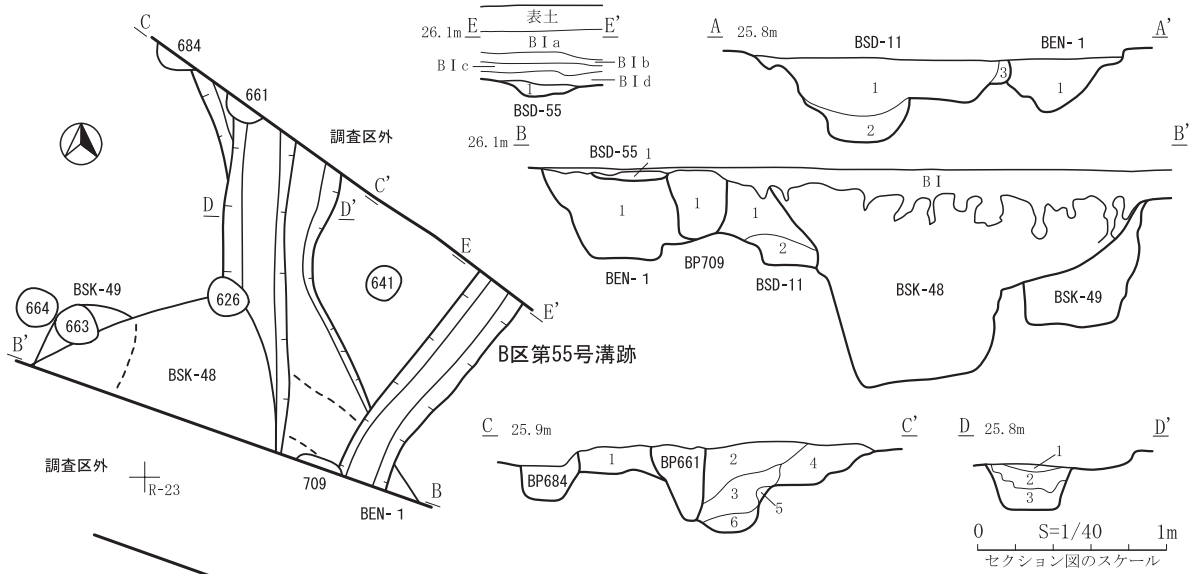
第13号溝跡（ＢＳＤ－13）（図44）

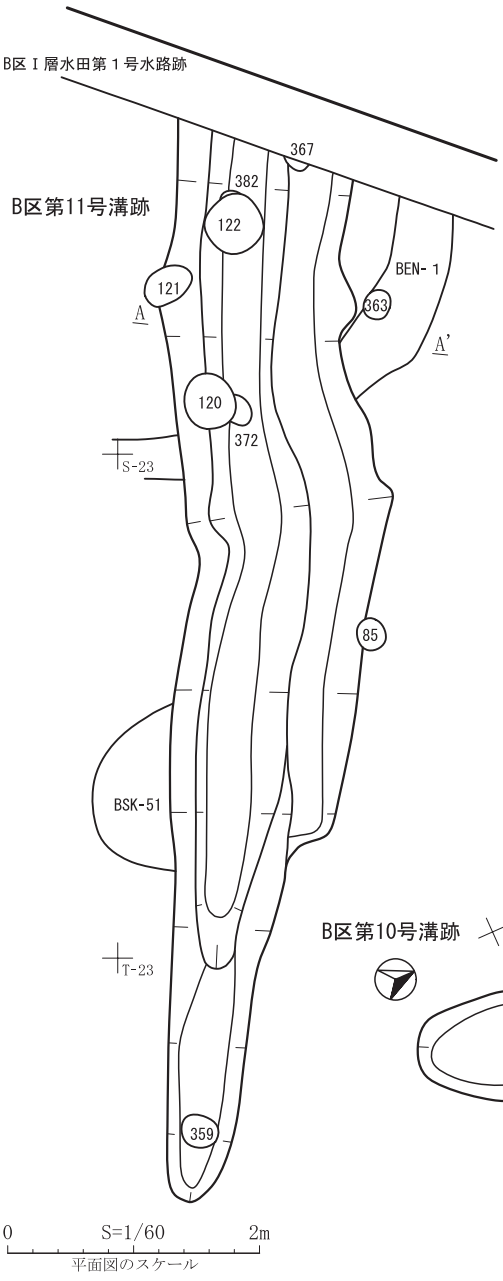
【位置・確認】Ｕ－23グリッド他に位置する。基本層序第ＢⅢ層直上で確認した。

【重複】第６号溝跡と重複し、本遺構が新しい。

【形態・規模】確認面での最大幅は40㎝、底面の最大幅は30㎝、深さは16㎝を測る。

【壁・底面】壁は底面から緩やかに立ち上がっている。底面はほぼ平坦に造られている。断面形状は





B区第11号溝跡　B区第１号円形周溝　A-A′

B区第11号溝跡			
1層	10YR4/4	褐色土	2.5YR6/3にぶい黄色シルト粒(φ1～20mm)中量、浮石(φ1～15mm)少量、炭化物粒(φ2～15mm)微量、粘性中、しまり強
2層	10YR4/4	褐色土	2.5Y5/3黄褐色粘土・7.5YR4/6褐色粘土(φ2～25mm)多量、黒褐色粘土(φ2～5mm)少量、炭化物粒(φ1～5mm)微量、浮石(φ2～5mm)極微量、粘性強、しまり強
3層	10YR4/4	褐色土	2.5Y6/2灰黄褐色粘土多量、粘性なし、しまり強
B区第１号円形周溝			
1層	10YR4/4	褐色土	2.5Y6/2灰黄褐色粘土ブロック(φ5～70mm)中量、浮石(φ1～10mm)少量、炭化物(φ1～5mm)微量、粘性なし、しまり強

B区第１号円形周溝　B区第11号溝跡　B区第55号溝跡　B-B′

B区第１号円形周溝			
1層	10YR4/3	にぶい黄褐色土	浮石(φ1～15mm)微量、10YR4/6褐色土、全体に混入、7.5YR4/4褐色土との混合土、粘性弱、しまり強
B区第11号溝跡			
1層	10YR4/3	にぶい黄褐色土	浮石(φ1～10mm)微量、7.5YR4/4褐色土との混合土、粘性弱、しまり強
2層	10YR4/3	にぶい黄褐色土	浮石(φ1～20mm)極微量、第Ⅲ層(シラス)混入、7.5YR4/4褐色土との混合土、粘性弱、しまり強
B区第55号溝跡			
1層	10YR4/3	にぶい黄褐色土	10YR5/3にぶい黄褐色土がブロック状に混入、浮石(φ1～3mm)極微量、粘性弱、しまり強
BP709			
1層	10YR4/4	褐色土	浮石(φ1～10mm)微量、粘性弱、しまり強

B区第11号溝跡　C-C′

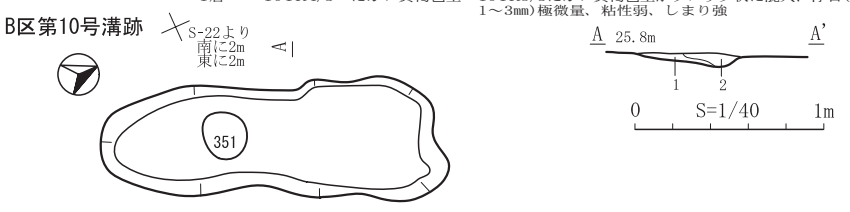
1層	10YR4/3	にぶい黄褐色土	浮石(φ1～3mm)微量、炭化物(φ1～3mm)極微量、粘性弱、しまり強
2層	10YR4/3	にぶい黄褐色土	浮石(φ1～5mm)微量、炭化物(φ1～3mm)極微量、粘性弱、しまり強
3層	10YR4/2	灰黄褐色土	浮石(φ1～10mm)極微量、炭化物(φ1～2mm)極微量、粘性弱、しまり強
4層	10YR4/4	褐色土	浮石(φ1～3mm)微量、炭化物(φ1～3mm)極微量、粘性弱、しまり強
5層	10YR5/4	にぶい黄褐色土	浮石(φ1～5mm)極微量、炭化物(φ1～3mm)極微量、粘性弱、しまり強
6層	10YR4/4	褐色土	第BⅢ層崩落土混入、浮石(φ1～10mm)微量、粘性弱、しまり強
7層	10YR5/4	にぶい黄褐色土	第BⅢ層崩落土混入、粘性弱、しまり強
8層	10YR5/4	にぶい黄褐色土	第BⅢ層崩落土混入、粘性やや中、しまりやや強

B区第11号溝跡　D-D′

1層	10YR2/2	黒褐色土	10YR4/4褐色土の混合、炭化物(φ1～3mm)微量、浮石(φ1～3mm)微量内に5YR4/8赤褐色土がブロック状に混入、粘性弱、しまり強
2層	10YR4/6	褐色土	浮石(φ1～2mm)極微量、粘性弱、しまり強
3層	10YR4/6	褐色土	浮石(φ1～2mm)極微量、炭化物(φ1～3mm)極微量、粘性弱、しまり強

B区第55号溝跡　E-E′

BIa層	10YR5/4	にぶい黄褐色土	浮石(φ1～15mm)少量、粘性弱、しまり強
BIb層	10YR5/2	灰黄褐色土	浮石(φ1～5mm)微量、粘性弱、しまり強
BIc層	10YR4/2	灰黄褐色土	浮石(φ1～3mm)微量、炭化物(φ1～3mm)極微量、粘性弱、しまり強
BId層	10YR5/2	灰黄褐色土	浮石(φ1～3mm)微量、鉄分含む7.5YR4/4褐色土多量に混入、粘性弱、しまり強
1層	10YR4/3	にぶい黄褐色土	10YR5/3にぶい黄褐色土がブロック状に混入、浮石(φ1～3mm)極微量、粘性弱、しまり強



B区第10号溝跡　A-A′

1層	10YR4/4	褐色土	浮石(φ1～2mm)極微量、粘性中、しまり強
2層	10YR4/3	にぶい黄褐色土	浮石(φ1～2mm)極微量、炭化物(φ1～2mm)極微量、粘性中、しまり強

図43　B区溝跡（5）

逆台形状を呈している。
【堆積土】暗褐色及び黒褐色土が堆積する。自然堆積と思われる。
【出土遺物】図示できるような遺物は出土していない。
【小結】詳細については不明であるが、遺構の重複関係から中世～近世の可能性が高い。　　（笹森）

第14号溝跡（ＢＳＤ－14）（図44）
【位置・確認】Ｒ～Ｕ－23～25グリッドに位置する。基本層序第ＢⅢ層直上で確認した。
【重複】第12・52号土坑、第20号溝跡、第６・13・14・15号掘立柱建物跡、第72・73・75・76・77・80・81・83・86・87・88・89・92・93・97・342・353・354・360・365・366・369・376・373・374・375・383・384号ピットと重複し、本遺構が第12・52号土坑、第20号溝跡、第13・15号掘立柱建物跡、第72・73・75・76・77・83・86・87・88・89・92・93・97・342・360号ピットより古く、第80・81・353・354・365・366・369・373・375・376・383・384号ピットより新しい。第374号ピットとの新旧関係は判断できなかった。また、第６号・第14号掘立柱建物跡よりも新しい可能性がある。
【形態・規模】南西から北東方向に延び、Ｓ－24グリッド付近で南東方向へＬ字型に屈曲するものである。第52号土坑や第20号溝跡に破壊され全容は不明であるが、確認できる長さは約14.5m、上面幅は107㎝から186㎝、底面は154㎝から13㎝、深さは38㎝を測る。
【壁・底面】Ｕ～Ｖ－23グリッド付近では、壁は底面からやや急に立ち上がり、底面は平坦で断面形状はU字型を呈する。Ｒ～Ｓ－23～24グリッド付近では壁は緩やかに立ち上がり、底面は凹凸がやや多くみられる。断面形状は幅広の逆台形型を呈する。
【堆積土】にぶい黄褐色土や褐色土を主体とし、炭化物を少量含む。S－24グリッド付近では底面付近から炭化物が面的に堆積していた。人為堆積と思われる。
【出土遺物】珠洲擂鉢が出土している。口縁部は欠損しているが、内面の卸目の密度や胎土の状況から、13世紀半ばから14世紀半ば頃のものと思われる。（図55－８）。
【小結】出土遺物や土層堆積状況から、13世紀半ばから14世紀半ば以降に廃絶し埋没した可能性がある。
（工藤）

第15号溝跡（ＢＳＤ－15）（図45）
【位置・確認】Ｓ～Ｕ－23・24グリッドに位置する。基本層序第ＢⅢ層直上で確認した。
【重複】第６・13・15号掘立柱建物跡、第52号土坑、第６・16号溝跡、第65・66・103・336・347号ピットと重複し、本遺構が第13・15号掘立柱建物跡、第52号土坑、第６号溝跡、第65・66・103号ピットより古く、第16号溝跡より新しい。第６号掘立柱建物跡、第336・347号ピットとの新旧関係は判断できなかった。
【形態・規模】南西から北東方向に一部短く屈曲しながら延び、Ｓ－23グリッド付近で南東方向へ屈曲するものである。第52号土坑に東部を破壊され全容は不明であるが、確認できる長さは約10.2m、上面幅は27㎝～1m26㎝、深さは43㎝を測る。
【壁・底面】Ｕ－23グリッド付近の深さは極端に浅く、Ｔ－23～24グリッド付近では、壁は底面から

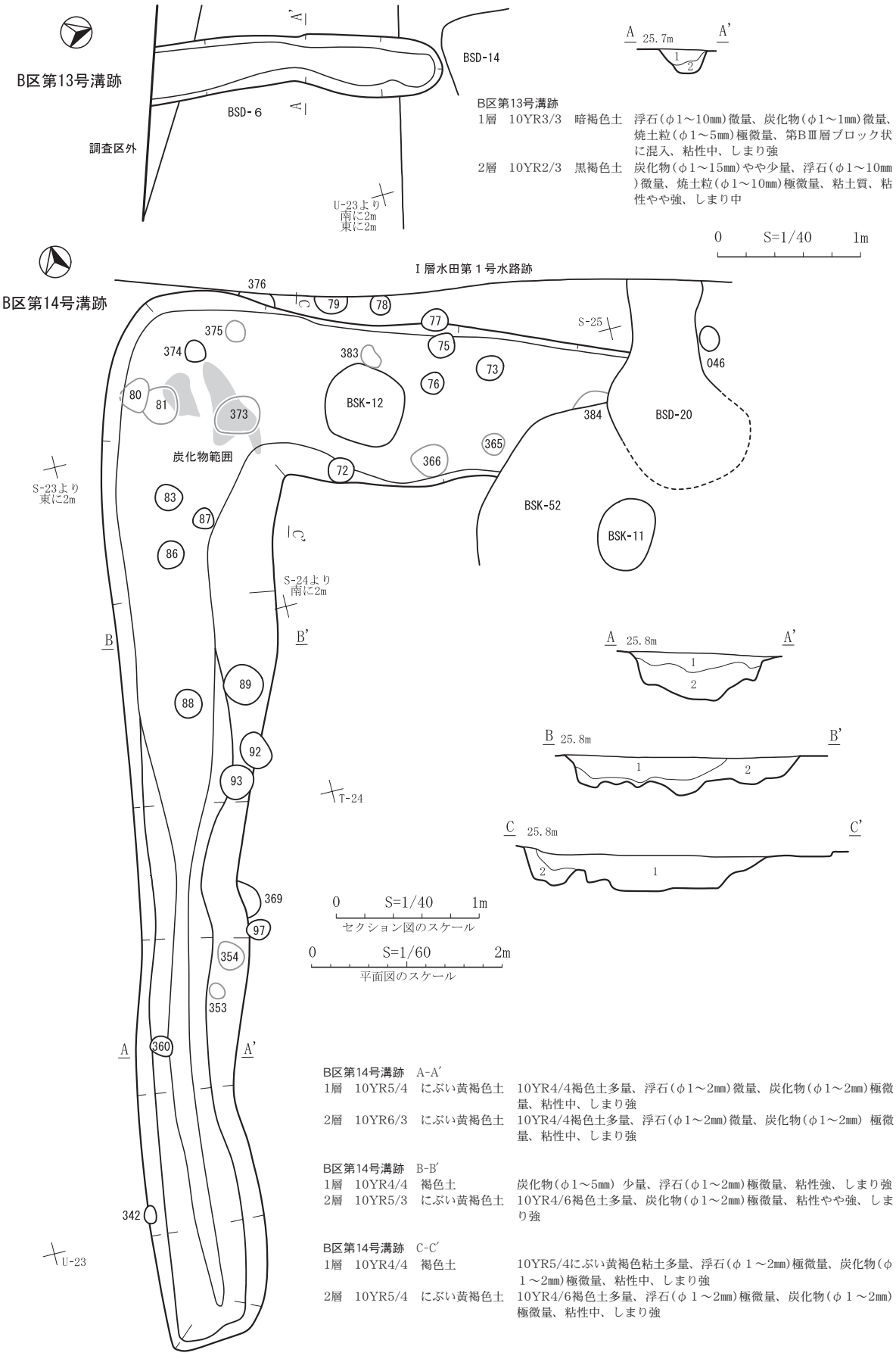

B区第13号溝跡
BSD-14
BSD-6
調査区外
U-23より
南に2m
東に2m
A 25.7m A'
1
2
B区第13号溝跡
1層 10YR3/3 暗褐色土 浮石(φ1～10㎜)微量、炭化物(φ1～1㎜)微量、焼土粒(φ1～5㎜)極微量、第BⅢ層ブロック状に混入、粘性中、しまり強
2層 10YR2/3 黒褐色土 炭化物(φ1～15㎜)やや少量、浮石(φ1～10㎜)微量、焼土粒(φ1～10㎜)極微量、粘土質、粘性やや強、しまり中
0 S=1/40 1m
B区第14号溝跡
Ⅰ層水田第１号水路跡
BSK-12
BSD-20
BSK-52
BSK-11
炭化物範囲
S-25
S-23より
東に2m
S-24より
南に2m
T-24
A 25.8m A'
B 25.8m B'
C 25.8m C'
0 S=1/40 1m
セクション図のスケール
0 S=1/60 2m
平面図のスケール
B区第14号溝跡 A-A′
1層 10YR5/4 にぶい黄褐色土 10YR4/4褐色土多量、浮石(φ1～2㎜)微量、炭化物(φ1～2㎜)極微量、粘性中、しまり強
2層 10YR6/3 にぶい黄褐色土 10YR4/4褐色土多量、浮石(φ1～2㎜)微量、炭化物(φ1～2㎜) 極微量、粘性中、しまり強
B区第14号溝跡 B-B′
1層 10YR4/4 褐色土 炭化物(φ1～5㎜) 少量、浮石(φ1～2㎜)極微量、粘性強、しまり強
2層 10YR5/3 にぶい黄褐色土 10YR4/6褐色土多量、炭化物(φ1～2㎜)極微量、粘性やや強、しまり強
B区第14号溝跡 C-C′
1層 10YR4/4 褐色土 10YR5/4にぶい黄褐色粘土多量、浮石(φ１～2㎜)極微量、炭化物(φ１～2㎜)極微量、粘性中、しまり強
2層 10YR5/4 にぶい黄褐色土 10YR4/6褐色土多量、浮石(φ１～2㎜)極微量、炭化物(φ１～2㎜)極微量、粘性中、しまり強

図44　B区溝跡（6）

急に立ち上がり、底面は平坦で断面形状はＶ字型を呈する。Ｓ－24グリッドでは底面の標高は最も低い。壁は底面から緩やかに立ち上がり、底面はなだらかで断面形状はU字型を呈している。
【堆積土】上層は暗褐色土や褐色土を基本とする。下層は褐色シルト質の土層である。人為堆積と思われる。
【出土遺物】覆土１層と２層より土師器坏、１層より不明鉄製品と椀型鉄滓が出土している。掲載はしていない。
【小結】本遺構と第16・19号溝跡は、遺構の軸線を根拠とすると方形区画遺構の一部を構成する可能性がある。検出層序および堆積土の状況から平安時代以降に埋没したものと思われる。

（工藤）

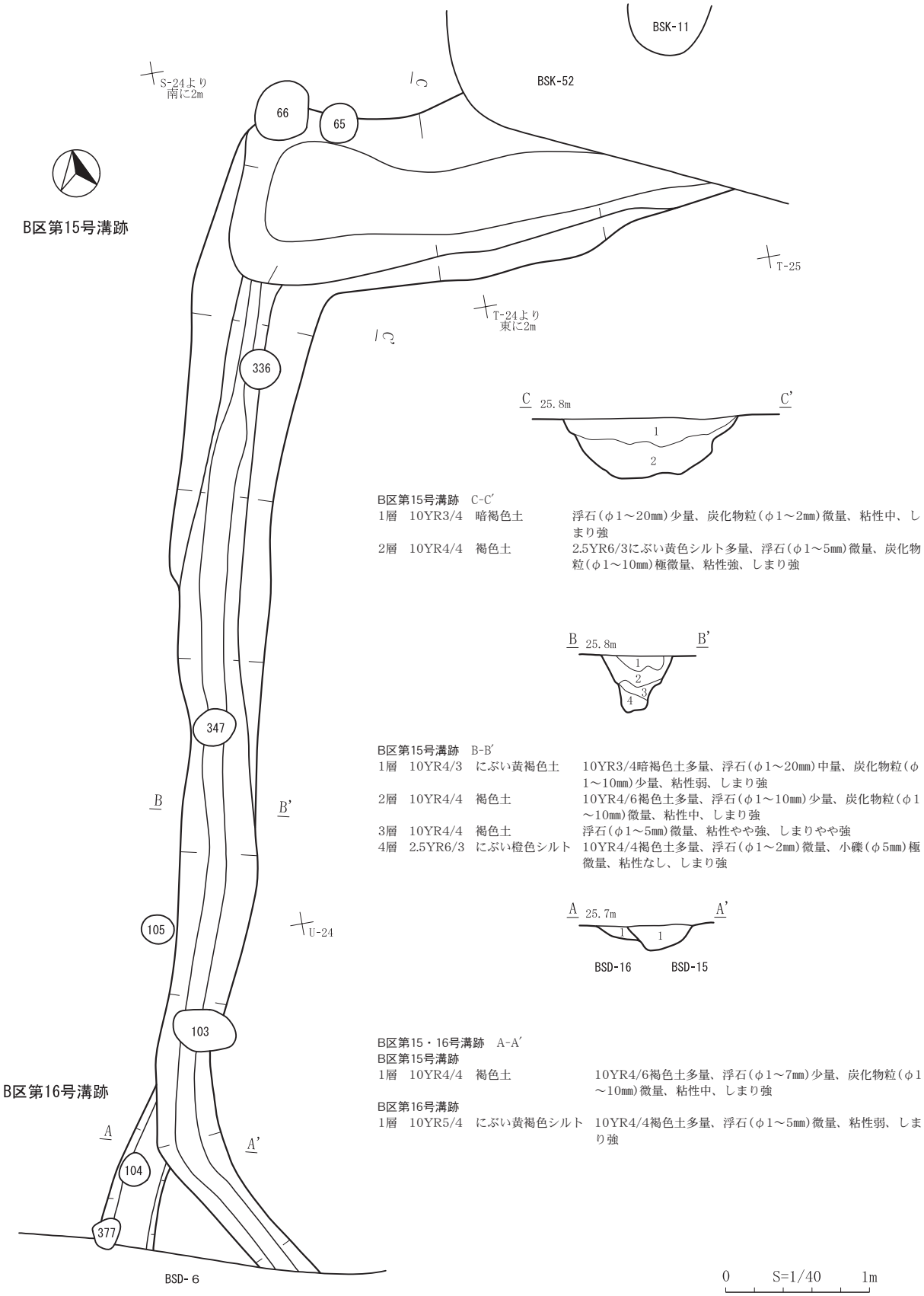
第16号溝跡（ＢＳＤ－16）（図45）
【位置・確認】Ｕ－23グリッドに位置する。基本層序第ＢⅢ層直上で確認した。
【重複】第６・15号溝跡・第104・377号ピットと重複し、本遺構が古い。
【形態・規模】南部を第６号溝跡、北部を第15号溝跡に破壊され全容は不明であるが、確認できる長さは約１ｍ14㎝、上面幅は38～40㎝、底面幅は24㎝、深さは約６㎝を測る。
【壁・底面】壁は底面から緩やかに立ち上がる。底面はなだらかであり、南部の第６号溝跡付近が最も深くなっている。断面形状はU字型を呈している。
【堆積土】にぶい黄褐色シルト土層を主体とする。自然堆積の様相を呈する。
【出土遺物】遺物は出土していない。
【小結】本遺構と第15・19号遺構は、遺構の軸線を根拠とすると方形区画遺構の一部を構成する可能性がある。検出層序および堆積土の状況から平安時代以降に埋没したものと思われる。

（工藤）

第17号溝跡（ＢＳＤ－17）
遺構確認時に溝跡と認識したが調査段階で下層遺構の畦畔と判明したため、遺構番号を欠番とした。

第18号溝跡（ＢＳＤ－18）
遺構確認時に溝跡と認識したが調査段階で下層遺構の畦畔と判明したため、遺構番号を欠番とした。

第19号溝跡（ＢＳＤ－19）（図46）
【位置・確認】Ｔ－25グリッドに位置する。基本層序第ＢⅢ層直上で確認した。
【重複】第16号掘立柱建物跡、第52号土坑、第２号井戸跡、第313・314号ピットと重複し、本遺構が古い。
【形態・規模】南部を第２号井戸跡、北部を第52号土坑に破壊され全容は不明であるが、北西から南東方向に直線的に延びるものであり、確認できる長さは約３ｍ60㎝、上面幅は43～61㎝、底面幅は39㎝、深さは24㎝を測る。
【壁・底面】壁は底面から緩やかに立ち上がり、底面はなだらかである。断面形状はU字型を呈する。



B区第15号溝跡　C-C′

1層	10YR3/4　暗褐色土	浮石(φ1～20㎜)少量、炭化物粒(φ1～2㎜)微量、粘性中、しまり強
2層	10YR4/4　褐色土	2.5YR6/3にぶい黄色シルト多量、浮石(φ1～5㎜)微量、炭化物粒(φ1～10㎜)極微量、粘性強、しまり強

B区第15号溝跡　B-B′

1層	10YR4/3　にぶい黄褐色土	10YR3/4暗褐色土多量、浮石(φ1～20㎜)中量、炭化物粒(φ1～10㎜)少量、粘性弱、しまり強
2層	10YR4/4　褐色土	10YR4/6褐色土多量、浮石(φ1～10㎜)少量、炭化物粒(φ1～10㎜)微量、粘性中、しまり強
3層	10YR4/4　褐色土	浮石(φ1～5㎜)微量、粘性やや強、しまりやや強
4層	2.5YR6/3　にぶい橙色シルト	10YR4/4褐色土多量、浮石(φ1～2㎜)微量、小礫(φ5㎜)極微量、粘性なし、しまり強

B区第15・16号溝跡　A-A′

B区第15号溝跡

1層	10YR4/4　褐色土	10YR4/6褐色土多量、浮石(φ1～7㎜)少量、炭化物粒(φ1～10㎜)微量、粘性中、しまり強

B区第16号溝跡

1層	10YR5/4　にぶい黄褐色シルト	10YR4/4褐色土多量、浮石(φ1～5㎜)微量、粘性弱、しまり強

図45　B区溝跡（7）

【堆積土】褐色粘質土を主体とする。
【出土遺物】遺物は出土していない。
【小結】本遺構と第15・16号遺構は、遺構の軸線を根拠とすると方形区画遺構の一部を構成する可能性がある。検出層序および堆積土の状況から平安時代以降に埋没したものと思われる。

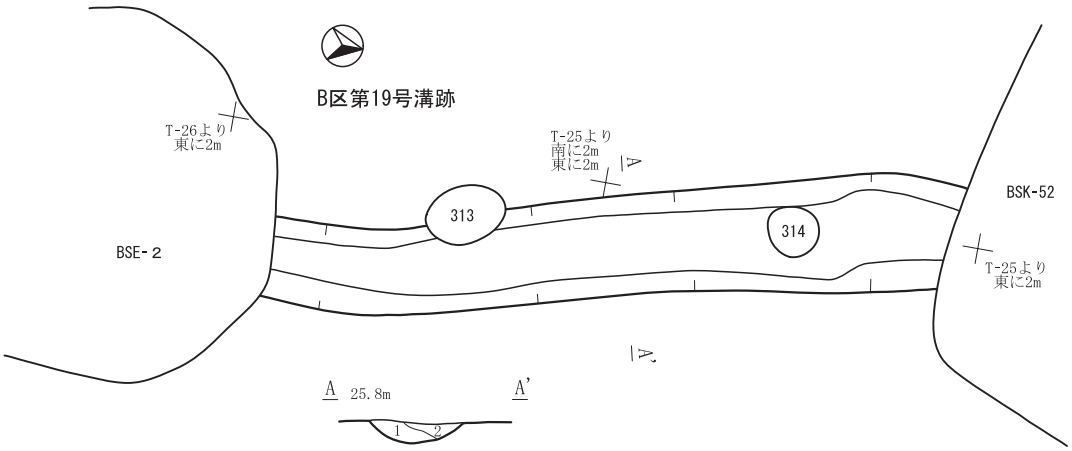
（工藤）

第20号溝跡（ＢＳＤ－20）（図46）
【位置・確認】Ｒ・Ｓ－24・25グリッドに位置する。基本層序第ＢⅢ層直上で確認した。
【重複】第52号土坑、Ⅰ層水田第１号水路跡、第384号ピットと重複し、本遺構がⅠ層水田第１号水路跡より古く、第52号土坑や第384号ピットより新しい。
【形態・規模】南西から北東方向に逆Ｓ字型に延びるもので、北東方向はⅠ層水田第１号水路跡に破壊され、また調査時の錯誤のため南西部の平面図を作成しなかったために全容は不明であるが、確認できる長さは２ｍ19㎝、上面幅は64～111㎝、底面幅は39～92㎝、深さは27㎝を測る。
【壁・底面】壁は底面から緩やかに立ち上がり、底面はなだらかである。断面形状はＵ字型を呈する。
【堆積土】１層下部には炭化物が面的に堆積し、焼土の中塊が少量混入する。Ａ－Ａ′土層断面の１層と８層には焼土が集積している。
【出土遺物】遺物は出土していない。
【小結】平面形態により溝跡と判断したが、底面付近の堆積土中に炭化物が面的に出土し、焼土が比較的多量に出土することと、平面の形状が楕円形を呈していることから、カマドまたはカマド状遺構の可能性も考えられる。検出層序および堆積土の状況から、平安時代以降に埋没したものと思われる。

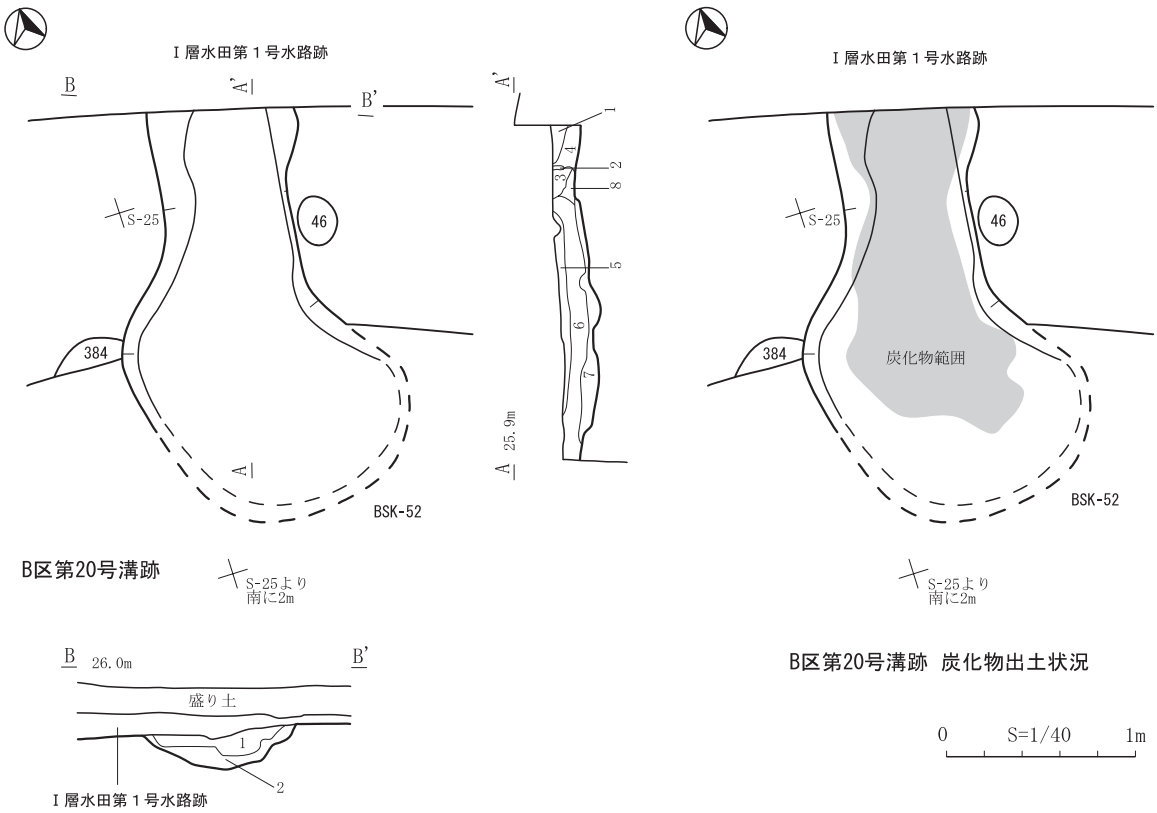
（工藤）

第21号溝跡（ＢＳＤ－21）（図47）
【位置・確認】Ｓ～Ｕ－26グリッドに位置する。基本層序第ＢⅢ層直上で確認した。
【重複】第16号掘立柱建物跡、第13号土坑・第22・23号溝跡・第22・23・24・26・29・30・297・335号ピットと重複し、本遺構が第13号土坑・第22・23号溝跡・第23・24・29・30・297・335号ピットより古い。第16号掘立柱建物跡、第22・26号ピットとの新旧関係は判断できなかった。
【形態・規模】南北に直線的に延びるものであり、南部は第23号溝跡、北部は第13号土坑に破壊され全容は不明であるが、確認できる長さは６ｍ83㎝、上面幅は39～58㎝、底面は14～31㎝、深さは９㎝を測る。
【壁・底面】同一の軸を持つ２条の溝跡が切り合ったような様相を呈する。本遺構の西側底面は深く凹凸を有し、壁は急に立ち上がる。断面形状はＵ字型を呈する。東壁は底面から緩やかに立ち上がり、平坦な段を経て立ち上がる。断面形状は幅広の逆台形型を呈している。
【堆積土】暗褐色土を主体とし、１層中に炭化物粒を微量含む。
【出土遺物】１層から土師器が出土している。掲載はしていない。
【小結】底面の形状と、軸が直線的であることを根拠とすると、布堀溝（柵跡）の可能性も考えられる。検出層序や堆積土の状況および出土遺物から、平安時代以降に埋没したものと思われる。

（工藤）



B区第19号溝跡
1層　10YR4/6　褐色粘質土　7.5YR4/4褐色土多量、粘性強、しまり強
2層　10YR4/6　褐色粘質土　7.5YR5/4にぶい黄褐色多量、粘性強、しまり強



B区第20号溝跡

B区第20号溝跡　炭化物出土状況

0　S=1/40　1m

B区第20号溝跡　A-A′

1層	10YR3/4	暗褐色土	10YR4/3にぶい黄褐色土多量、浮石(φ1～10㎜)少量、焼土粒(φ1～5㎜)微量、炭化物粒(φ1～5㎜)微量、層左下に7.5YR4/6褐色焼土が混入、粘性中、しまり強
2層	10YR5/8	明褐色焼土	10YR2/1黒褐色土多量、粘性なし、しまり中
3層	10YR4/4	褐色土	7.5YR3/4暗褐色土多量、浮石(φ1～3㎜)微量、炭化物粒(φ1～2㎜)極微量、粘性弱、しまり強
4層	10YR2/1	黒褐色土	10YR4/2灰黄褐色土多量、焼土粒(φ1～10㎜)中量、浮石(φ1～10㎜)微量、粘性強、しまりやや強
5層	10YR4/4	褐色土	10YR3/2黒褐色土多量、小礫(φ1～10㎜)中量、浮石(φ1～5㎜)微量、炭化物粒(φ1～3㎜)微量、焼土粒(φ1～2㎜)極微量、粘性なし、しまり強
6層	10YR3/3	暗褐色土	10YR4/4褐色土多量、黒色土粒(φ1～10㎜)中量、浮石(φ1～10㎜)微量、炭化物粒(φ1～3㎜)微量、焼土粒(φ1～3㎜) 微量、粘性なし、しまり強
7層	10YR4/4	褐色土	10YR2/1黒褐色土多量、炭化物粒(φ1～5㎜)少量、炭化物粒(φ1～5㎜)少量、浮石(φ1～3㎜)極微量、焼土粒(φ3㎜)極微量、粘性中、しまり強
8層	7.5YR4/4	褐色土	7.5YR4/6褐色焼土多量、粘性中、しまりやや強

B区第20号溝跡　B-B′

1層	10YR3/4	暗褐色土	浮石(φ1～2㎜)極微量混入、炭化物(φ1～2㎜)極微量、焼土(φ１～6㎜)少量、粘性なし、しまり強
2層	10YR4/1	褐灰色土	焼土(φ１～1.5㎜)少量混入、粘性弱、しまり強

図46　B区溝跡（8）

第22号溝跡（ＢＳＤ－22）（図47）

【位置・確認】Ｓ～Ｕ－26グリッドに位置する。基本層序第ＢⅢ層直上で確認した。

【重複】第16号掘立柱建物跡、第21・23号溝跡、第８・10・24・25・28・302・303・312・324・325・344・326号ピットと重複し、本遺構が第23号溝跡・第10・24・25・28・302・303・312号ピットより古く、第16号掘立柱建物跡、第21号溝跡、第324・344・326号ピットより新しい。第８・325号ピットとの新旧関係は判断できなかった。

【形態・規模】南西－北東方向に延びるもので、第23号溝跡に破壊され北東は調査区外にあるため全容は不明であるが、確認できる長さは６ｍ95㎝、上面幅は60～160㎝、底面幅は50～135㎝、深さは15～22㎝を測る。

【壁・底面】壁は底面からやや急に立ち上がり、底面は平坦である。断面形状は幅広の逆台形型を呈する。

【堆積土】褐色粘質土を主体とし、褐色土や浮石、また白色粘質土を斑状に含む。炭化物粒を微量に含む。人為堆積の様相を呈する。

【出土遺物】遺構底面より土師器坏破片が出土している。掲載はしていない。

【小結】検出層序や堆積土の状況および出土遺物から、平安時代以降に埋没したものと思われる。

（工藤）

第23号溝跡（ＢＳＤ－23）（図47）

【位置・確認】Ｕ・Ｖ－25・26グリッドに位置する。基本層序第ＢⅢ層直上で確認した。

【重複】第15号土坑・第21・22・24号溝跡・第１号濠跡・第12号ピットと重複し、本遺構が第24号溝跡・第１号濠跡・第15号土坑・第12号ピットより古く、第21・22号溝跡より新しい。

【形態・規模】南から北東へ屈曲して延びるものであり、第１号濠跡や第15号土坑に破壊され、南部は調査区外に延びるため全容は不明であるが、確認できる長さは８ｍ43㎝、上面幅は42㎝～１ｍ39㎝、底面幅は20～116㎝、深さは20～31㎝を測る。

【壁・底面】壁は底面からやや急に立ち上がり、底面はなだらかである。断面形状は南部では幅広の逆台形型を呈し、北東ではU字型を呈する。

【堆積土】褐色土を主体とし、基本層序第BⅢ層の小～中塊を少量含み、炭化物粒を微量に含む。人為堆積の様相を呈する。

【出土遺物】２層から土師器内黒坏破片が出土している。掲載はしていない。

【小結】検出層序や堆積土の状況および出土遺物から、平安時代以降に埋没したものと思われる。

（工藤）

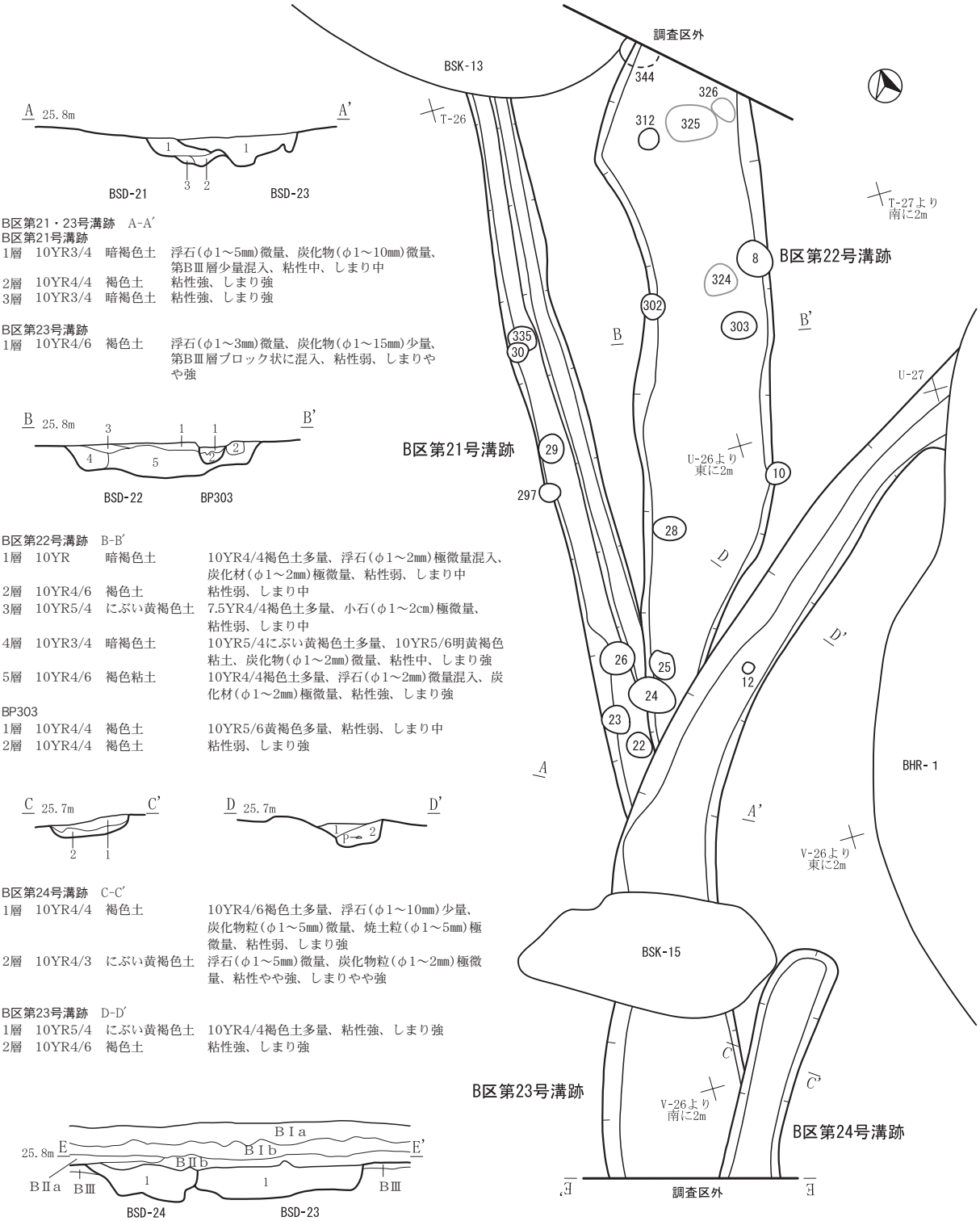
第24号溝跡（ＢＳＤ－24）（図47）

【位置・確認】Ｖ－26グリッドに位置する。基本層序第ＢⅢ層直上で確認した。

【重複】第23号溝跡と重複し、本遺構が第23号溝跡より新しい。

【形態・規模】南西から南東へ延びるものであり、南西部が調査区外に延びるため全容は不明であるが、確認できる長さは２ｍ31㎝、上面幅は50～61㎝、深さは20㎝を測る。

【壁・底面】壁は底面から緩やかに立ち上がり、断面形状は逆台形型を呈している。底面はなだらか



B区第21・23号溝跡　A-A′

B区第21号溝跡

1層	10YR3/4　暗褐色土	浮石(φ1～5㎜)微量、炭化物(φ1～10㎜)微量、第BⅢ層少量混入、粘性中、しまり中
2層	10YR4/4　褐色土	粘性強、しまり強
3層	10YR3/4　暗褐色土	粘性強、しまり強

B区第23号溝跡

1層	10YR4/6　褐色土	浮石(φ1～3㎜)微量、炭化物(φ1～15㎜)少量、第BⅢ層ブロック状に混入、粘性弱、しまりやや強

B区第22号溝跡　B-B′

1層	10YR　暗褐色土	10YR4/4褐色土多量、浮石(φ1～2㎜)極微量混入、炭化材(φ1～2㎜)極微量、粘性弱、しまり中
2層	10YR4/6　褐色土	粘性弱、しまり中
3層	10YR5/4　にぶい黄褐色土	7.5YR4/4褐色土多量、小石(φ1～2㎝)極微量、粘性弱、しまり中
4層	10YR3/4　暗褐色土	10YR5/4にぶい黄褐色土多量、10YR5/6明黄褐色粘土、炭化物(φ1～2㎜)微量、粘性中、しまり強
5層	10YR4/6　褐色粘土	10YR4/4褐色土多量、浮石(φ1～2㎜)微量混入、炭化材(φ1～2㎜)極微量、粘性強、しまり強

BP303

1層	10YR4/4　褐色土	10YR5/6黄褐色多量、粘性弱、しまり中
2層	10YR4/4　褐色土	粘性弱、しまり強

B区第24号溝跡　C-C′

1層	10YR4/4　褐色土	10YR4/6褐色土多量、浮石(φ1～10㎜)少量、炭化物粒(φ1～5㎜)微量、焼土粒(φ1～5㎜)極微量、粘性弱、しまり強
2層	10YR4/3　にぶい黄褐色土	浮石(φ1～5㎜)微量、炭化物粒(φ1～2㎜)極微量、粘性やや強、しまりやや強

B区第23号溝跡　D-D′

1層	10YR5/4　にぶい黄褐色土	10YR4/4褐色土多量、粘性強、しまり強
2層	10YR4/6　褐色土	粘性強、しまり強

B区第23・24号溝跡　E-E′

B区第23号溝跡

1層	10YR4/4　褐色土	2.5Y6/3にぶい黄色シルト多量、浮石(φ1～10㎜)微量、炭化物粒（φ2～10㎜）微量、粘性弱、しまり強

B区第24号溝跡

1層	10YR4/4　褐色土	2.5Y6/3にぶい黄色シルト多量、浮石(φ1～15㎜)微量、炭化物粒(φ1～2㎜)微量、層左側に10YR4/2灰黄褐色粘土混入、粘性中、しまり強

0　S=1/40　1m
セクション図のスケール

0　S=1/60　2m
平面図のスケール

図47　B区溝跡（9）

である。
【堆積土】褐色土を主体とし、にぶい黄褐色シルトや基本層序第ＢⅢ層起源の小塊を多量に含む。人為堆積の様相を呈する。
【出土遺物】遺物は出土していない。
【小結】検出層序および堆積土の状況から、平安時代以降に埋没したものと思われる。

（工藤）

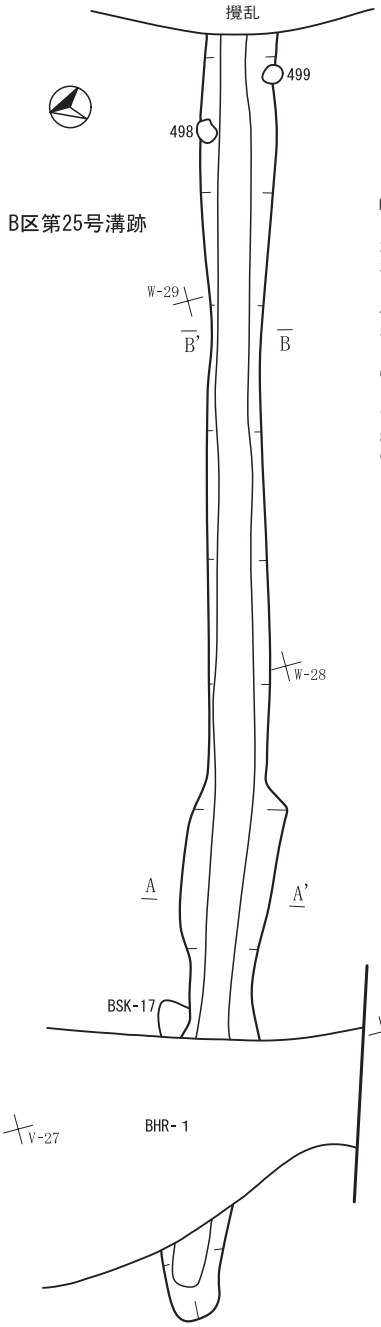
第25号溝跡（ＢＳＤ－25）（図48）
【位置・確認】Ｖ・Ｗ－26～29グリッドに位置する。基本層序第ＢⅢ層直上で確認した。
【重複】第17号土坑・第１号濠跡・第498・499号ピットと重複し、本遺構が第１号濠跡、第498・499号ピットより古く、第17号土坑より新しい。
【形態・規模】南東から北西方向に直線的に延びるものであり、南東部が攪乱に破壊され北西部が第１号濠跡に破壊されるため全容は不明であるが、確認できる長さは約13m60㎝、上面幅は51～97㎝、底面幅は24～44㎝、深さは73㎝を測る。
【壁・底面】壁は緩やかに立ち上がり、底面はほぼ平坦である。断面形状は箱型を呈している。
【堆積土】上層から中層にかけては暗褐色土、下層は褐色土を主体とし、粘土塊を多く含む。自然堆積の様相を呈する。
【出土遺物】１層から動物遺存体（大型哺乳類）、覆土から不明鉄製品が出土している。掲載はしていない。
【小結】検出層序および堆積土の状況から、平安時代以降に埋没したものと思われる。

（工藤）

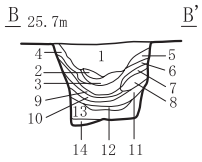
第26号溝跡（ＢＳＤ－26）（図48）
【位置・確認】Ｕ－27グリッドに位置する。基本層序第ＢⅢ層直上で確認した。
【重複】認められない。
【形態・規模】南西から北東方向に延びるものであり、長さは81㎝、上面幅は33～36㎝、底面幅は24㎝前後、深さは17㎝を測る。
【壁・底面】壁は底面から緩やかに立ち上がり、底面はやや凹凸がある。断面形状はＵ字型を呈している。
【堆積土】暗褐色土を主体とし、焼土粒と炭化物を微量に含む。
【出土遺物】遺物は出土していない。
【小結】削平により、本遺構のほとんどは破壊されており、詳細は不明である。検出層序および堆積土の状況から、平安時代以降に埋没したものと思われる。

（工藤）

第27号溝跡（ＢＳＤ－27）
確認時に溝跡と認識したが調査段階で第１号濠跡と同一であることが判明したため、遺構番号を欠

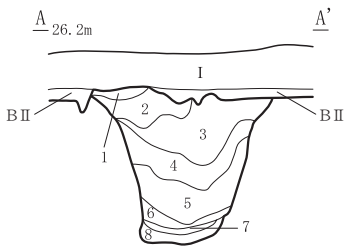


B区第25号溝跡



B区第25号溝跡　B-B'

1層	10YR3/3　暗褐色土	炭化物粒(φ1～5㎜)微量、粘性弱、しまり強
2層	10YR5/4　にぶい黄褐色土	浮石(φ1～5㎜) 極微量、粘性弱、しまり強
3層	10YR3/2　黒褐色土	10YR4/4褐色土多量、浮石(φ1～15㎜)少量、炭化物粒(φ1～5㎜)微量、粘性弱、しまり強
4層	10YR5/4　にぶい黄褐色シルト粘土	浮石(φ1～10㎜)微量、粘性なし、しまり強
5層	10YR5/4　にぶい黄褐色シルト粘土	10YR3/2黒褐色土多量、浮石(φ1～5㎜)極微量、粘性なし、しまり強
6層	10YR4/4　褐色土	10YR3/3暗褐色土多量、浮石(φ1～5㎜)微量、炭化物粒(φ1～3㎜)極微量、粘性なし、しまり強
7層	10YR3/4　暗褐色土	鉄分少量含む、粘性弱、しまりやや強
8層	2.5YR6/4　にぶい黄色シルト粘土	鉄分少量、粘性なし、しまり強
9層	10YR6/4　にぶい黄橙色	10YR4/4褐色土多量、浮石(φ1～3㎜)極微量、粘性なし、しまり強
10層	10YR4/4　褐色土	浮石(φ1～3㎜)極微量、粘性なし、しまり強
11層	10YR5/4　にぶい黄褐色シルト粘土	浮石(φ1～5㎜)微量、粘性中、しまり弱
12層	10YR3/2　黒褐色粘土質土	粘性強、しまり強
13層	10YR3/4　暗褐色シルト	10YR4/4褐色粘土ブロック少量混入、粘性なし、しまり強
14層	10YR3/2　黒褐色シルト	粘性なし、しまり強



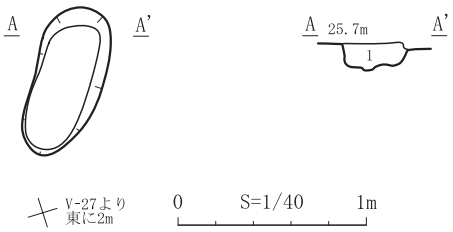
B区第25号溝跡　A-A'

1層	7.5YR4/6　褐色土	10YR3/4暗褐色土多量、浮石(φ1～5㎜)微量、粘性弱、しまり強
2層	10YR4/3　にぶい黄褐色粘土	10YR3/4暗褐色土多量、浮石(φ1～10㎜)少量、炭化物粒(φ1～2㎜)極微量、焼土粒(φ1～2㎜)極微量、粘性中、しまり強
3層	10YR3/3　暗褐色土	10YR4/3にぶい黄褐色粘土多量、浮石(φ1～10㎜)少量、炭化物粒(φ1～5㎜)極微量、焼土粒(φ1～2㎜)極微量、粘性中、しまり強
4層	10YR3/3　暗褐色土	炭化物粒(φ1～5㎜)少量、浮石(φ1～3㎜)微量、焼土粒(φ1～2㎜)極微量、粘性中、しまり強
5層	10YR4/4　褐色土	10YR3/3暗褐色土多量、浮石(φ1～5㎜)微量、炭化物粒(φ1～2㎜)微量、粘性中、しまり強
6層	10YR4/4　褐色砂	粘性なし、しまり強
7層	10YR4/4　褐色土	粘性強、しまり強
8層	10YR3/4　暗褐色土	粘性強、しまり強

0　S=1/80　4m
B区第25号溝跡　平面図のスケール

0　S=1/40　1m
セクション図のスケール

B区第26号溝跡



B区第26号溝跡

1層	10YR3/4　暗褐色土	焼土粒(φ1～5㎜)微量、炭化物粒(φ1～3㎜)微量、浮石(φ1～3㎜)極微量、粘性中、しまり強

図48　B区溝跡（10）

番とした。

第28号溝跡（ＢＳＤ－28）

確認時に溝跡と認識したが調査段階で遺構ではないことが判明したため、遺構番号を欠番とした。

第29号溝跡（ＢＳＤ－29）（図49）

【位置・確認】Ｙ－30グリッド他に位置している。基本層序第ＢⅡ層中で確認した。

【重複】第21号土坑と重複している。土層の堆積状況から本遺構が新しいことが確認できた。

【形態・規模】北側及び南東側が調査区域外に延びている。確認できた範囲での長さは約12m、上面幅45～70㎝である。

【壁・底面】壁は底面から緩やかに立ち上がっている。底面は中央に向かい傾斜を持つ。

【堆積土】２層に分層できた。自然堆積の様相を呈している。最下層の２層は泥の沈殿層で、水の影響による堆積と考えられる。

【壁・底面】基本層序第ＢⅡ層を壁・底面としている。壁は底面から緩やかに立ち上がっている。底面は堝底状を呈している。

【出土遺物】１層から陶器、凹石が出土している。陶器は珠洲擂鉢と、近世と思われる産地不明碗類である。凹石は自然礫の両面を使用するものである。掲載はしていない。

【小結】出土遺物や堆積土の状況から近世以降の水路跡、或いは区画溝と考えられる。

（笹森）

第30号溝跡（ＢＳＤ－30）（図50）

【位置・確認】ＩＢ－27グリッド他に位置している。基本層序第ＢⅢａ層中で確認した。

【重複】第32・34号溝跡、第21号土坑と重複している。第21号土坑・第34号溝跡より本遺構が新しく、第32号溝跡との関係は不明である。

【形態・規模】確認できた範囲での長さは約11.5m、上面幅は22～86㎝である。

【壁・底面】壁は底面から緩やかに立ち上がっている。底面はほぼ平坦である。

【堆積土】１～２層に分層できた。自然堆積の様相を呈している。

【壁・底面】第34号溝跡堆積土及び基本層序第ＢⅢ層を壁・底面としている。壁は底面から緩やかに立ち上がっている。断面の形状は概ね逆台形状を呈している。

【出土遺物】礫が数点出土している。

【小結】詳細については不明であるが、遺構の重複関係から中世以降の可能性が高い。

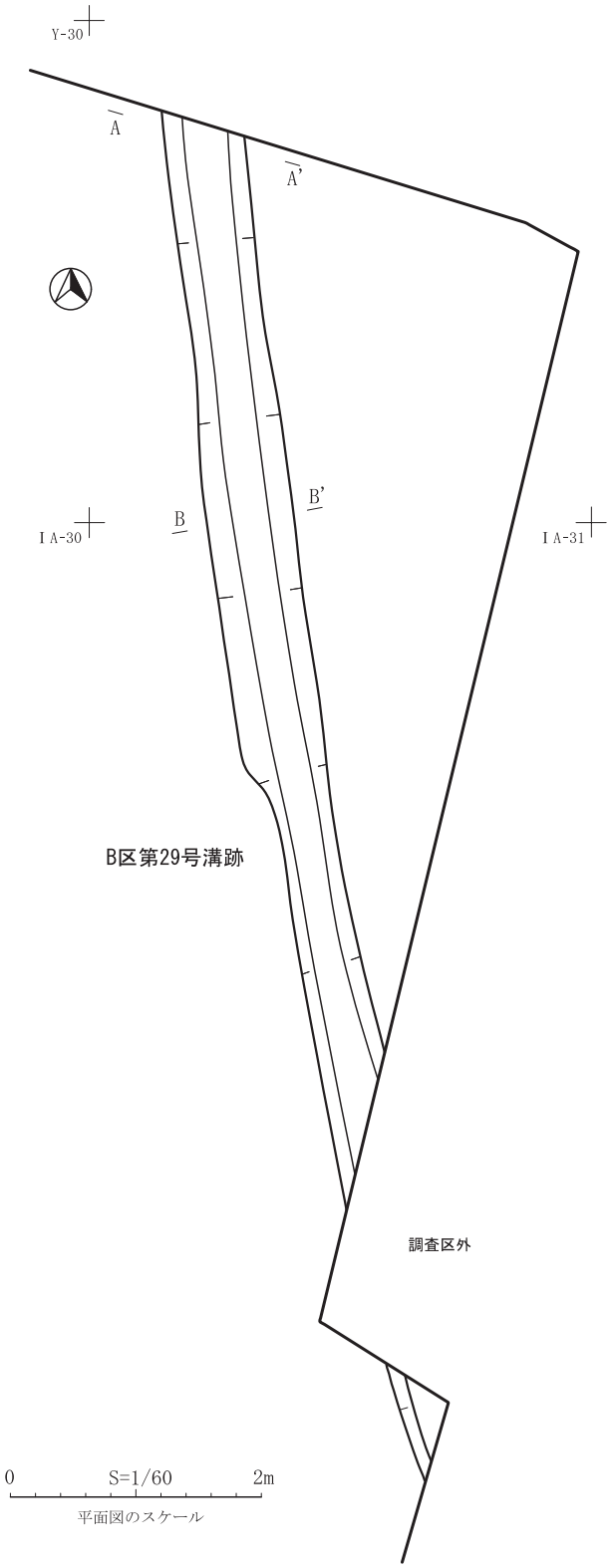
（笹森）

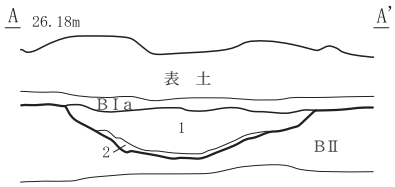
第31号溝跡（ＢＳＤ－31）（図50）

【位置・確認】ＩＢ－28グリッドに位置している。基本層序第ＢⅢａ層中で確認した。

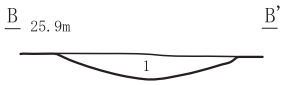
【重複】認められない。

【形態・規模】確認できた範囲での長さは約4.5m、上面幅は40～54㎝である。





B区第29号溝跡　A-A′
1層　10YR4/2　灰黄褐色土　2.5YR4/6赤褐色土多量、浮石(φ1～2㎜)
極微量混入、粘性弱、しまり強
2層　7.5YR3/4　暗褐色土　粘性弱、しまり強



B区第29号溝跡　B-B′
1層　10YR4/2　灰黄褐色土　10YR4/6褐色土多量、浮石(φ1～10㎜)
少量混入、粘性弱、しまり強

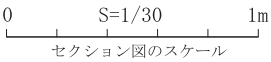


図49　B区溝跡（11）

【壁・底面】壁は底面から緩やかに立ち上がっている。底面はほぼ平坦である。
【堆積土】１層の単層である。自然堆積の様相を呈している。
【壁・底面】基本層序第ＢⅢｂ層を壁・底面としている。壁は底面から緩やかに立ち上がっている。断面の形状は概ね逆台形状を呈している。
【出土遺物】礫が数点出土している。
【小結】詳細については不明であるが、検出層位から中世以降の可能性が高い。

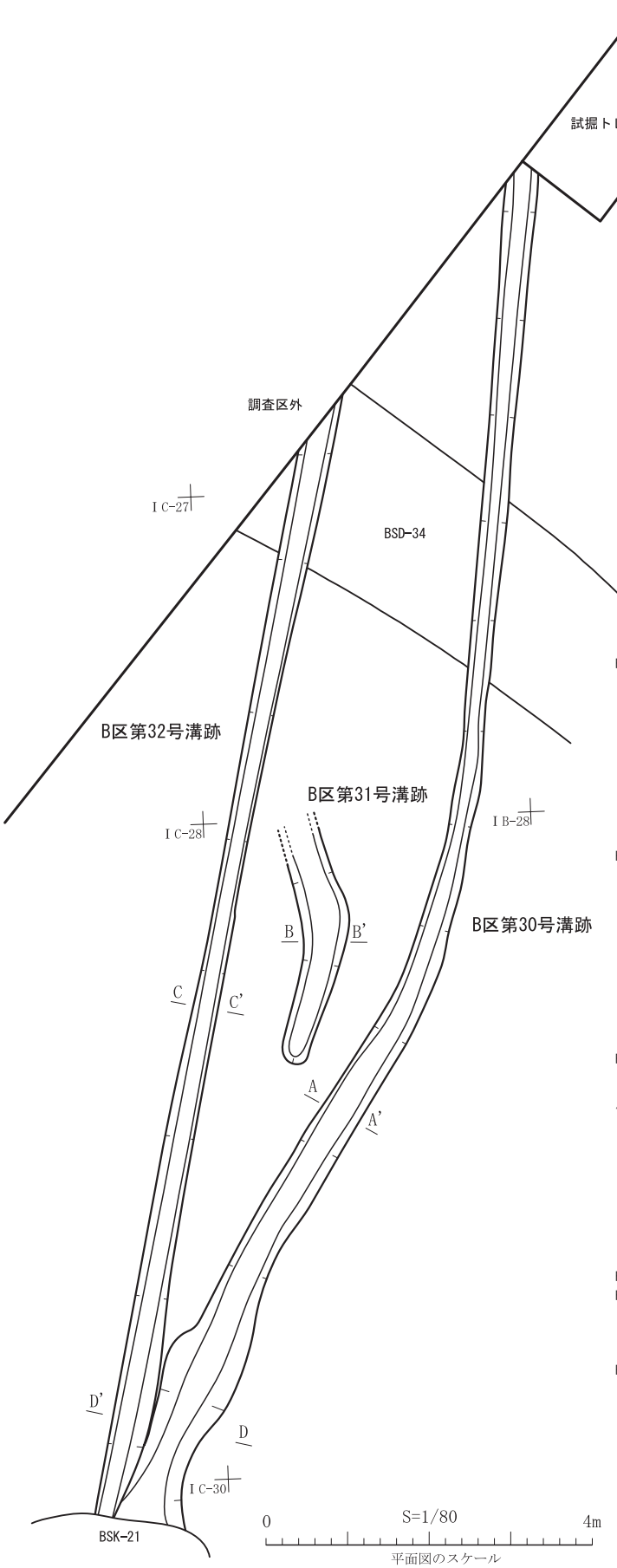
（笹森）

第32号溝跡（ＢＳＤ－32）（図50）
【位置・確認】ＩＢ－26グリッドに位置している。基本層序第ＢⅢａ層中で確認した。
【重複】第30・34号溝跡、第21号土坑と重複している。第21号土坑・第34号溝跡より本遺構が新しく、第30号溝跡との関係は不明である。
【形態・規模】確認できた範囲での長さは約14.0m、上面幅は22～42㎝である。
【壁・底面】壁は底面からほぼ垂直に立ち上がっている。底面は中央に向かい傾斜を持つ。断面はU字状を呈している。
【堆積土】２～４層に分層できた。自然堆積の様相を呈している。
【壁・底面】基本層序第ＢⅢａ層を壁・底面としている。壁は底面から緩やかに立ち上がっている。断面の形状は概ねU字状を呈している。
【出土遺物】礫が数点出土している。
【小結】詳細については不明であるが、検出層位から中世以降の可能性が高い。

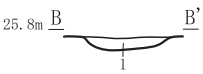
（笹森）

第33号溝跡（ＢＳＤ－33）（図56）
【位置・確認】Ｙ－30グリッドに位置している。基本層序第ＢⅢ層中で確認した。
【重複】第１号濠跡と重複している。明確な新旧関係は不明であるが、同時期か本遺構が古い可能性が高い。
【形態・規模】確認できた範囲での長さは約2.0m、上面幅は60～70㎝、底面幅25～30㎝、深さは43㎝を測る。
【壁・底面】壁は底面からやや急に立ち上がっている。底面は中央に向かいやや傾斜を持ち、東から西に向かい緩やかな傾斜を持つ。
【堆積土】６層に分層できた。暗褐色土を主体とし炭化物を混入する。自然堆積の様相を呈している。
【壁・底面】基本層序第ＢⅢａ・Ⅲｂ層を壁・底面としている。壁は底面からやや急に立ち上がっている。断面の形状はU字状を呈している。
【出土遺物】礫が数点出土している。
【小結】詳細については不明であるが、遺構の重複関係から平安時代～中世の可能性が高い。

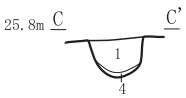
（笹森）



B区第30号溝跡　A-A′
1層　10YR3/3　暗褐色土　10YR4/2灰黄褐色土多量、浮石(φ1～10mm)少量、粘性弱、しまり強



B区第31号溝跡　B-B′
1層　10YR2/3　黒褐色シルト　浮石(φ1～10mm)中量、炭化物粒(φ1～5mm)微量、焼土粒(φ1～2mm)極微量、粘性弱、しまり強



B区第32号溝跡　C-C′
1層　10YR4/2　灰黄褐色シルト　浮石(φ1～3mm)微量、粘性強、しまり弱
4層　10YR3/3　暗褐色土　浮石(φ1～5mm)少量、粘性弱、しまり強

B区第30号溝跡・B区第32号溝跡　D-D′

B区第30号溝跡
1層 BSD-30A-A'を参照
2層 10YR3/2　黒褐色土　浮石 (φ1～15mm)微量、粘性弱、しまり強

B区第32号溝跡
1層 BSD-32C-C'を参照
2層 10YR2/2　黒褐色粘土　浮石(φ1～3mm)微量、粘性強、しまり弱
3層 10YR3/4　暗褐色シルト　浮石(φ1～5mm)少量、粘性弱、しまり強
4層 BSD-32C-C''を参照

0　S=1/40　1m
セクション図のスケール

図50　B区溝跡（12）

第34号溝跡（ＢＳＤ－34）（図56）

【位置・確認】ＩＡ－27グリッド他に位置している。基本層序第ＢⅢｂ層中で確認した。平成17年の試掘調査第１トレンチでも確認されている。

【重複】第１号濠跡、第30・32号溝跡と重複している。いずれの遺構よりも本遺構が古いことが土層の堆積状況から確認できる。

【形態・規模】確認できた範囲での長さは約8.0m、上面幅160～200㎝、底面幅50～80㎝、深さは80㎝を測る。

【壁・底面】壁は底面からやや急に立ち上がっている。底面はほぼ平坦で、南から北に向かってやや傾斜を有している。

【堆積土】10層に分層できた。暗褐色土を主体とし、ほぼ自然堆積の様相を呈している。

【壁・底面】基本層序第ＢⅢ～Ⅶ層を壁・底面としている。壁は底面からやや急に立ち上がっている。断面の形状は逆台形状を呈している。

【出土遺物】底面からウシ・ウマ類の遊離歯片が出土している。

【小結】詳細については不明であるが、平安時代の区画溝の可能性が考えられる。

（笹森）

第35号溝跡（ＢＳＤ－35）（図51）

【位置・確認】Ｕ－24グリッドに位置する。基本層序第ＢⅢ層直上で確認した。

【重複】第４号竪穴遺構と重複し、本遺構が古い。

【形態・規模】ほぼ東西方向に延びるもので、東側を第４号竪穴遺構に破壊されるため全容は不明であるが、確認される長さは約89㎝、上面幅は18～27㎝、底面幅は11㎝前後、深さは18㎝前後を測る。

【壁・底面】壁は底面から急に立ち上がる。底面はなだらかであるが東側の一部は深い。断面形状はU字型を呈している。

【堆積土】暗褐色土を主体とし、炭化物粒を微量に含む。

【出土遺物】遺物は出土していない。

【小結】検出層序および堆積土の状況から、平安時代以降に埋没したものと思われる。

（工藤）

第36号溝跡（ＢＳＤ－36）（図51）

【位置・確認】Ｐ－18・19グリッドに位置する。基本層序第ＢⅢ層直上で確認した。

【重複】第380号ピットと重複し、本遺構が古い。

【形態・規模】南西から北東に直線的に延びるものであり、東側が調査区外へ延びることから、全容は不明であるが、確認される長さは１m76㎝、上面幅は33～50㎝、底面幅は17～21㎝、深さは９㎝前後を測る。

【壁・底面】壁は底面から急に立ち上がり、底面は凹凸が著しい。断面形状はU字型を呈している。

【堆積土】にぶい黄褐色シルトや灰黄褐色粘土を主体とする。

【出土遺物】遺物は出土していない。

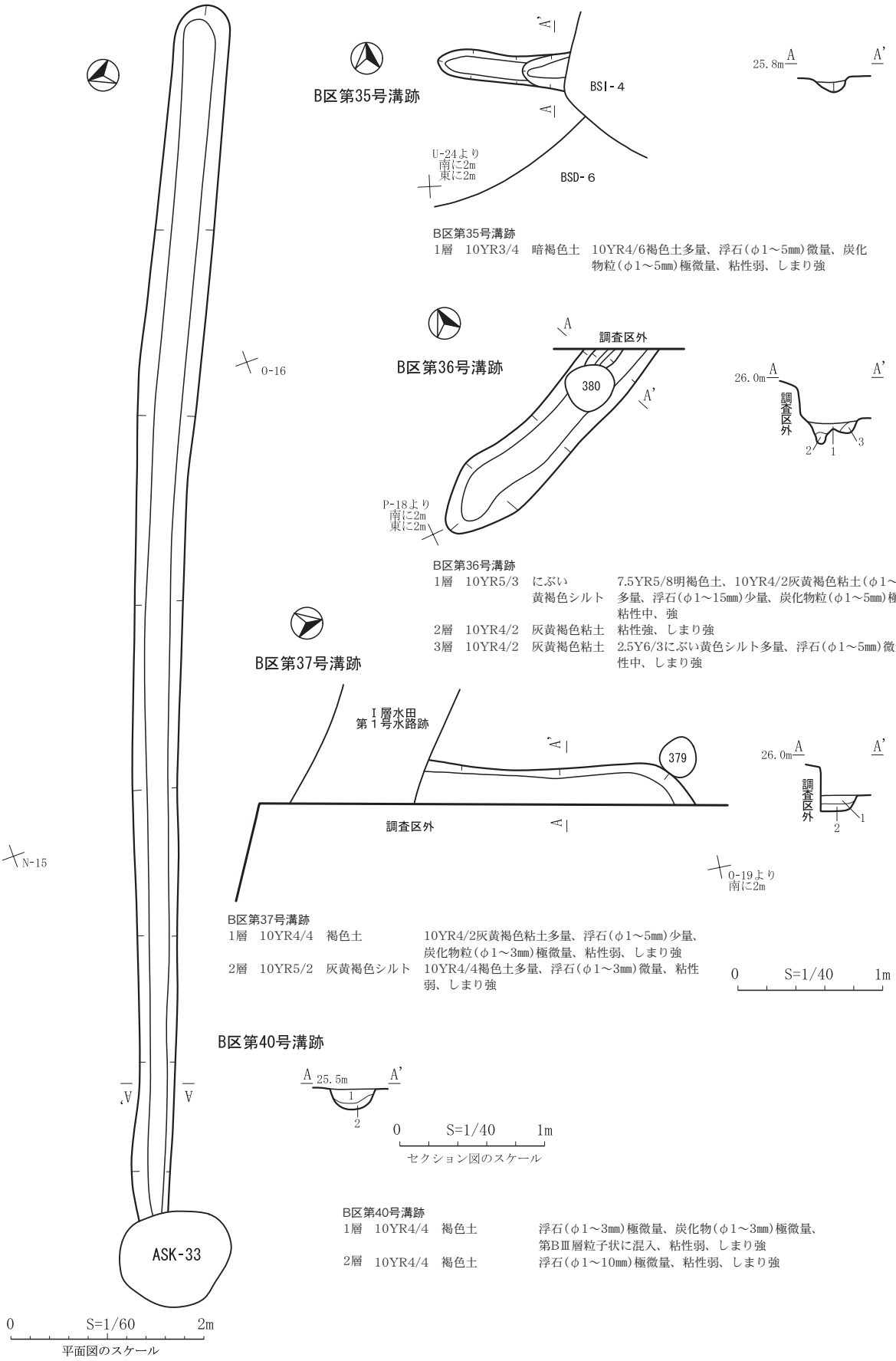

B区第35号溝跡
BSI-4
BSD-6
U-24より
南に2m
東に2m
25.8m
A
A'
B区第35号溝跡
1層　10YR3/4　暗褐色土　10YR4/6褐色土多量、浮石(φ1～5mm)微量、炭化物粒(φ1～5mm)極微量、粘性弱、しまり強
B区第36号溝跡
調査区外
380
P-18より
南に2m
東に2m
26.0m
調査区外
1
2
3
B区第36号溝跡
1層　10YR5/3　にぶい黄褐色シルト　7.5YR5/8明褐色土、10YR4/2灰黄褐色粘土(φ1～20mm)多量、浮石(φ1～15mm)少量、炭化物粒(φ1～5mm)極微量、粘性中、強
2層　10YR4/2　灰黄褐色粘土　粘性強、しまり強
3層　10YR4/2　灰黄褐色粘土　2.5Y6/3にぶい黄色シルト多量、浮石(φ1～5mm)微量、粘性中、しまり強
B区第37号溝跡
Ⅰ層水田
第1号水路跡
379
調査区外
0-16
0-19より
南に2m
N-15
B区第37号溝跡
1層　10YR4/4　褐色土　10YR4/2灰黄褐色粘土多量、浮石(φ1～5mm)少量、炭化物粒(φ1～3mm)極微量、粘性弱、しまり強
2層　10YR5/2　灰黄褐色シルト　10YR4/4褐色土多量、浮石(φ1～3mm)微量、粘性弱、しまり強
0　S=1/40　1m
B区第40号溝跡
25.5m
1
2
0　S=1/40　1m
セクション図のスケール
B区第40号溝跡
1層　10YR4/4　褐色土　浮石(φ1～3mm)極微量、炭化物(φ1～3mm)極微量、第BⅢ層粒子状に混入、粘性弱、しまり強
2層　10YR4/4　褐色土　浮石(φ1～10mm)極微量、粘性弱、しまり強
ASK-33
0　S=1/60　2m
平面図のスケール

図51　B区溝跡（13）

【小結】遺構の新旧関係と検出層序および堆積土から、14世紀半ば以降に埋没したと思われる。

（工藤）

第37号溝跡（ＢＳＤ－37）（図51）

【位置・確認】Ｏ－18グリッドに位置する。基本層序第ＢⅢ層直上で確認した。

【重複】第379号ピットと重複し、本遺構が古い。

【形態・規模】ほぼ南北方向に延びるもので、南部はⅠ層水田第１号水路跡に破壊され、東壁はすべて調査区外にあるため全容は不明であるが、確認される長さは１ｍ94㎝、上面幅は31㎝、深さは16㎝を測る。

【壁・底面】壁は底面から急に立ち上がり、底面は平坦である。断面形状はU字型を呈すると思われる。

【堆積土】褐色土を主体とする。

【出土遺物】遺物は出土していない。

【小結】検出層序および堆積土の状況から、平安時代以降に埋没したものと思われる。

（工藤）

第38号溝跡（ＢＳＤ－38）（図56）

【位置・確認】Ｘ－26グリッド他に位置する。基本層序第ＢⅢａ層直上で確認した。

【重複】第２号濠跡と重複し、堆積土の状況から本遺構が古い事が確認できた。

【形態・規模】確認面での最大幅は160㎝、底面の最大幅は20㎝、深さは80㎝を測る。

【壁・底面】壁は底面からやや急に立ち上がっている。底面は平坦で、東から西に向かって傾斜を有している。断面形状は逆台形状を呈している。

【堆積土】12層に分層できた。暗褐色土を主体とし、浮石や炭化物を含む。一部人為堆積の様相を呈している。

【出土遺物】図示できるような遺物は出土していない。

【小結】構築・埋没年代は、第２号濠跡の構築前である。

（笹森）

第39号溝跡（ＢＳＤ－39）

確認時に溝跡と認識したが、調査段階で遺構ではないことが判明したため欠番とした。

第40号溝跡（ＢＳＤ－40）（図51）

【位置・確認】Ｎ・Ｏ－14～16グリッドに位置する。基本層序第ＢⅢ層直上で確認した。

【重複】第33号土坑と重複し、本遺構が古い。

【形態・規模】北西－南東方向に直線的に延びるものであり、南部を第33号土坑に破壊されるため全体は不明であるが、確認できた範囲での長さは約12.5m、上面幅は34～63㎝、底面幅は９～34㎝、深さは36㎝を測る。

【壁・底面】断面形状はU字型を呈している。

【堆積土】褐色土を主体とし、自然堆積の様相を呈する。
【出土遺物】遺物は出土していない。
【小結】本遺構は直線的であるため、遺構性格として地割溝の可能性が考えられる。軸線はⅠ層水田第１号水路跡と類似するが、堆積土の層相は他の平安時代以降と思われる遺構の堆積土と類似することから、平安時代以降に埋没したものと思われる。（工藤）

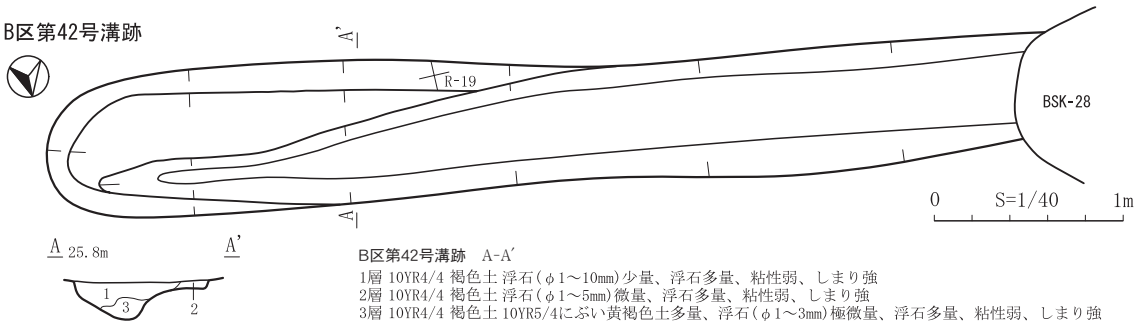
第41号溝跡（ＢＳＤ－41）
確認時に溝跡と認識したが調査段階で遺構ではないことが判明したため、欠番とした。

第42号溝跡（ＢＳＤ－42）（図52）
【位置・確認】Ｑ・Ｒ－18・19グリッドに位置する。基本層序第ＢⅢ層中で確認した。
【重複】第28号土坑と重複し、本遺構が古い。
【形態・規模】ほぼ東西方向に延びるものであり、西部を第28号土坑に破壊されるため全体は不明であるが、確認できた範囲での長さは５ｍ33㎝、上面幅は６～76㎝、底面幅は９～36㎝、深さは25㎝を測る。
【壁・底面】壁は底面から緩やかに立ち上がり、底面はなだらかである。断面形状はU字型で東側は一部V字型を呈する。
【堆積土】褐色土を主体とし、３層にはにぶい黄褐色土を多量に含む。
【出土遺物】遺物は出土していない。
【小結】検出層序および堆積土の状況から、平安時代以降に埋没したものと思われる。
（工藤）

第43号溝跡（ＢＳＤ－43）（図52）
【位置・確認】Ｑ－17グリッドに位置する。
【重複】認められない。
【形態・規模】直線的に延びるものであり、確認できた長さは約97㎝、上面幅は25㎝、底面幅は８㎝、深さは８㎝を測る。
【壁・底面】壁は底面から緩やかに立ち上がり、底面はなだらかである。断面形状はU字型を呈している。
【堆積土】暗褐色土を主体とし、微量の炭化物粒を含む。
【出土遺物】遺物は出土していない。
【小結】小規模な溝跡であり、大部分は削平により破壊されたものと思われる。検出層序および堆積土の状況から、平安時代以降に埋没したものと思われる。
（工藤）

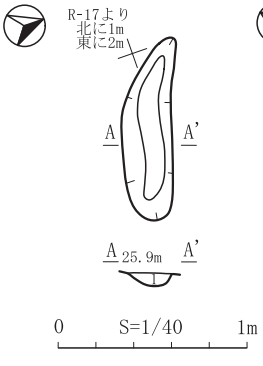
第44号溝跡（ＢＳＤ－44）（図52）
【位置・確認】Ｑ－17グリッドに位置する。基本層序第ＢⅢ層直上で確認した。

B区第42号溝跡



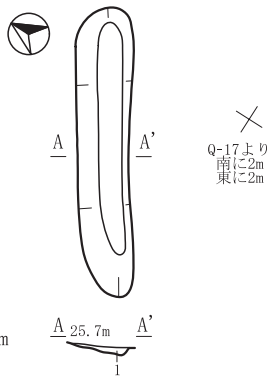
B区第42号溝跡　A-A′
1層 10YR4/4 褐色土 浮石(φ1～10㎜)少量、浮石多量、粘性弱、しまり強
2層 10YR4/4 褐色土 浮石(φ1～5㎜)微量、浮石多量、粘性弱、しまり強
3層 10YR4/4 褐色土 10YR5/4にぶい黄褐色土多量、浮石(φ1～3㎜)極微量、浮石多量、粘性弱、しまり強

B区第43号溝跡



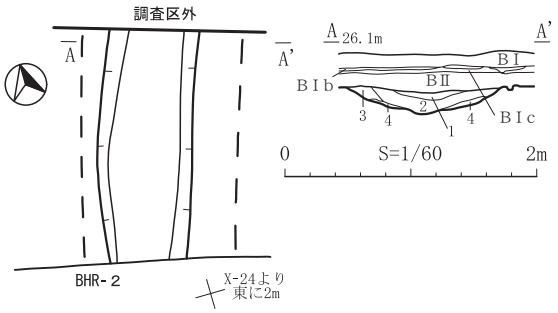
B区第43号溝跡　A-A′
1層 10YR3/4 暗褐色土 浮石(φ1～35㎜)極微量、炭化物(φ1～5㎜)極微量、粘性中、しまり強

B区第44号溝跡



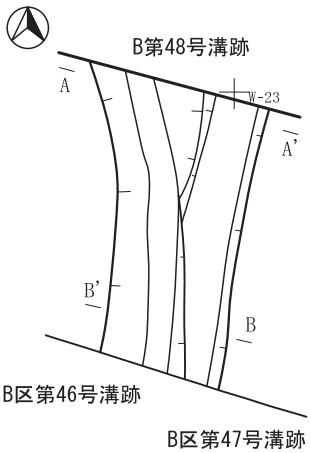
B区第44号溝跡　A-A′
1層 10YR5/6 黄褐色土 10YR3/4暗褐色土多量、浮石(φ1～3㎜)極微量、粘性弱、しまり強

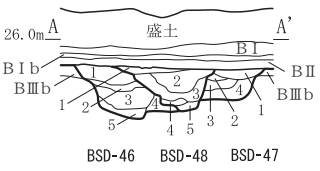
B区第45号溝跡

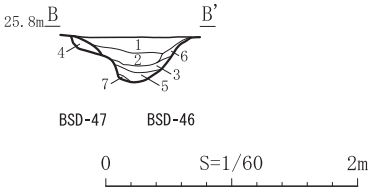


B区第45号溝跡　A-A′
1層 10YR3/4 暗褐色土 10YR4/4褐色土多量、浮石(φ1～10㎜)微量、炭化物(φ1～5㎜)極微量、粘性弱、しまり強
2層 10YR3/4 暗褐色土 浮石(φ1～10㎜)微量、ローム極微量混入、粘性中、しまりやや強、粘土質
3層 10YR3/4 暗褐色土 浮石(φ1～20㎜)多量、粘性弱、しまり強
4層 10YR4/4 褐色土　浮石 (φ1～15㎜) 微量、粘性弱、しまり中

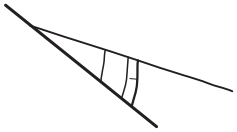
B区第46・47・48号溝跡







BHR-2



B区第46・47・48号溝跡　A-A′

B区第46号溝跡
1層 10YR4/3　にぶい黄褐色土 10YR3/4暗褐色土多量、浮石 (φ1～15㎜)少量、粘性なし、しまり強
2層 10YR4/3　にぶい黄褐色土 鉄分微量、浮石(φ1～5㎜)微量、粘性弱、しまり強
3層 10YR4/2　灰黄褐色粘土　7.5YR3/4暗褐色土多量、浮石(φ1～5㎜)微量、粘性なし、しまりやや強
4層 2.5YR6/3 にぶい黄褐色土 10YR4/6褐色土多量、粘性なし、しまり強、地山層
5層 10YR4/2　灰黄褐色粘土　10YR4/6褐色土多量、浮石(φ1～3㎜)極微量、粘性弱、しまり強

B区第47号溝跡
1層 10YR4/3　にぶい黄褐色土　7.5YR3/4暗褐色土多量、浮石(φ1～3㎜)微量、粘性なし、しまり強
2層 10YR5/4　にぶい黄褐色土　浮石(φ1～5㎜)極微量、炭化物粒(φ1～3㎜)極微量、粘性なし、しまり強
3層 10YR4/3　にぶい黄褐色土　7.5YR4/4褐色土多量、浮石(φ1～5㎜)極微量、炭化物粒(φ1～5㎜)極微量、粘性なし、しまり強
4層 10YR4/4　褐色土　7.5YR3/4暗褐色土多量、浮石(φ1～5㎜) 極微量、粘性なし、しまり強

B区第48号溝跡
1層 10YR4/3　にぶい黄褐色土　7.5YR3/4暗褐色土多量、浮石(φ1～15㎜) 微量、粘性なし、しまり強
2層 10YR4/3　にぶい黄褐色土　10YR5/3にぶい黄褐色シルト多量、7.5YR3/4暗褐色土少量混入、浮石 (φ1～15㎜)微量混入、炭化物粒(φ1～5㎜)極微量、粘性弱、しまり強
3層 10YR4/3　にぶい黄褐色土　7.5YR3/4暗褐色土多量、浮石(φ1～5㎜)微量、層真ん中に灰極微量混入、炭化物粒(φ1～3㎜)極微量、粘性弱、しまり強
4層 2.5YR6/3 にぶい黄色シルト 10YR5/4にぶい黄褐色土多量、浮石(φ1～3㎜)極微量、炭化物粒(φ3㎜)極微量、粘性弱、しまり強、地山混じり層
5層 10YR4/3　にぶい黄褐色土　2.5YR6/3にぶい黄色シルト中量、黄色シルト中量混入(地山混じり)、粘性なし、しまり強

B区第46・47号溝跡　B-B′
1層　A-A'BSD-046に相当
2層　A-A'BSD-046に相当
3層　A-A'BSD-046に相当
5層　A-A'BSD-046に相当
6層
7層 10YR4/3　にぶい黄褐色土　7.5YR3/4暗褐色土多量、浮石(φ1～3㎜)微量、粘性なし、しまり強
2.5YR6/3 にぶい黄色　粘性弱、しまり弱

B区第47号溝跡
4層　A-A'BSD-47に相当

図52　B区溝跡（14）

【重複】認められない。
【形態・規模】直線的に延びるものであり、確認できた長さは154㎝、上面幅は30㎝、底面幅は11㎝、深さは８㎝を測る。
【壁・底面】断面形状はU字型を呈している。
【堆積土】黄褐色土を主体とし、灰色粘土小塊を含む。
【出土遺物】遺物は出土していない。
【小結】小規模な溝跡であり、大部分は削平により破壊されたものと思われる。検出層序および堆積土の状況から、平安時代以降に埋没したものと思われる。

（工藤）

第45号溝跡（ＢＳＤ－45）（図52）
【位置・確認】Ｗ－24グリッドに位置している。基本層序第ＢⅢ層中で確認した。
【重複】第２号濠跡と重複している。明確な新旧関係は不明であるが同時期か新しい可能性が高い。
【形態・規模】確認できた範囲での長さは約2.0m、推定上面幅は125～130㎝、底面幅45～55㎝、深さは18㎝を測る。
【堆積土】４層に分層できた。暗褐色土を主体とした自然堆積の様相を呈している。
【壁・底面】基本層序第ＢⅢ層を壁・底面としている。壁は底面からやや急に立ち上がっている。断面の形状は逆台形状を呈している。
【出土遺物】遺物は出土していない。
【小結】詳細については不明であるが、遺構の重複関係から中世以降の可能性が高い。

（笹森）

第46号溝跡（ＢＳＤ－46）（図52）
【位置・確認】Ｗ－22・23グリッドに位置している。基本層序第ＢⅢｂ層中で確認した。
【重複】第２号濠跡、及び第47・48号溝跡と重複している。第48号溝跡より新しいことが、土層の堆積状況から確認できる。第２号濠跡とは同時期か本遺構が新しい可能性が高い。
【形態・規模】確認できた範囲での長さは約2.0m、推定上面幅は約90㎝である。
【堆積土】４層に分層できた。自然堆積の様相を呈している。
【壁・底面】基本層序第ＢⅢｂ層を壁・底面としている。壁は底面からやや急に立ち上がっている。断面の形状は逆台形状を呈している。
【出土遺物】遺物は出土していない。
【小結】詳細については不明であるが、遺構の重複関係から中世以降の可能性が高い。

（笹森）

第47号溝跡（ＢＳＤ－47）（図52）
【位置・確認】Ｗ－22・23グリッドに位置している。基本層序第ＢⅢ層中で確認した。
【重複】第２号濠跡、及び第46・48号溝跡と重複している。第48号溝跡より本遺構が古いことが、土

層の堆積状況から確認できる。第２号濠跡とは同時期か本遺構が新しい可能性が高い。
【形態・規模】確認できた範囲での長さは約2.0m、推定上面幅は約60㎝である。
【堆積土】４層に分層できた。自然堆積の様相を呈している。
【壁・底面】基本層序第ＢⅢｂ層を壁・底面としている。壁は底面からやや急に立ち上がっている。断面の形状は逆台形状を呈している。
【出土遺物】遺物は出土していない。
【小結】詳細については不明であるが、遺構の重複関係から中世以降の可能性が高い。

（笹森）

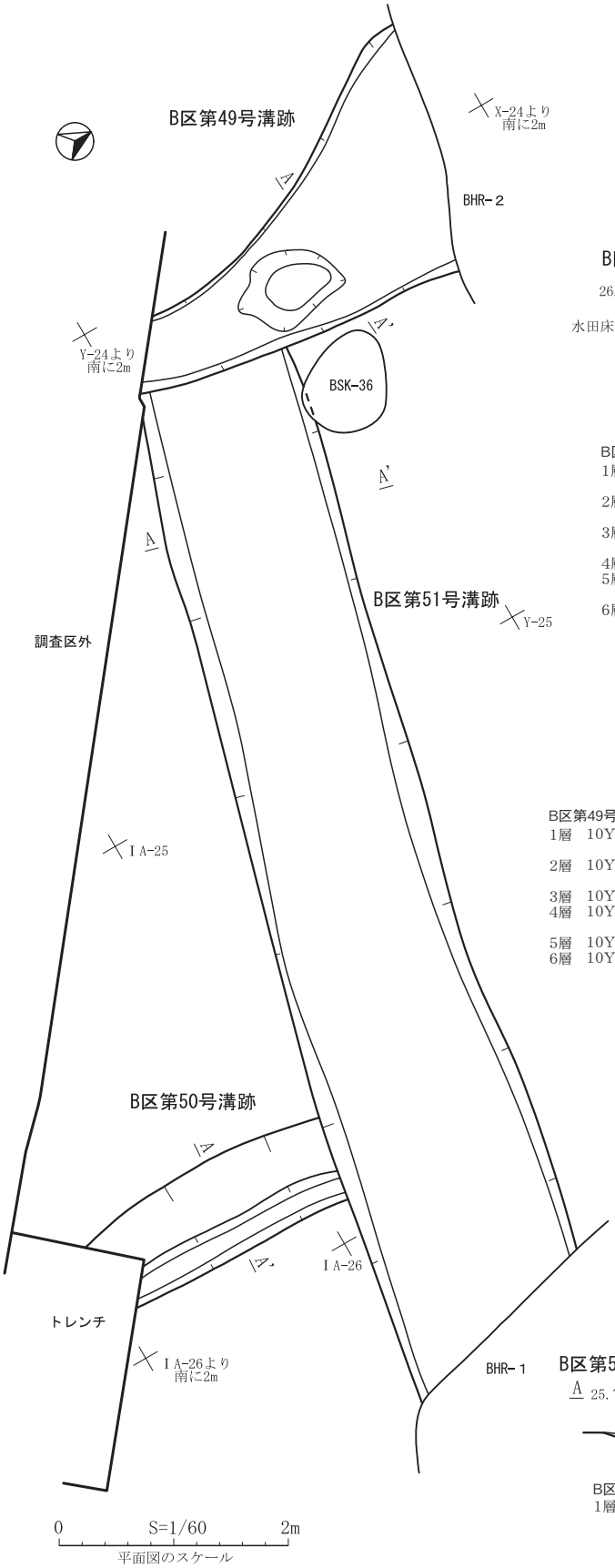
第48号溝跡（ＢＳＤ－48）（図52）
【位置・確認】Ｗ－22・23グリッドに位置している。基本層序第ＢⅢ層中で確認した。
【重複】第２号濠跡、及び第46・47号溝跡と重複している。第47号溝跡より古いことが、土層の堆積状況から確認できる。第２号濠跡とは同時期か本遺構が新しい可能性が高い。
【形態・規模】確認できた範囲での長さは約2.0m、上面幅は80～92㎝である。
【堆積土】５層に分層できた。自然堆積の様相を呈している。
【壁・底面】基本層序第ＢⅢｂ層を壁・底面としている。壁は底面からやや急に立ち上がっている。断面の形状は逆台形状を呈している。
【出土遺物】遺物は出土していない。
【小結】詳細については不明であるが、遺構の重複関係から中世以降の可能性が高い。

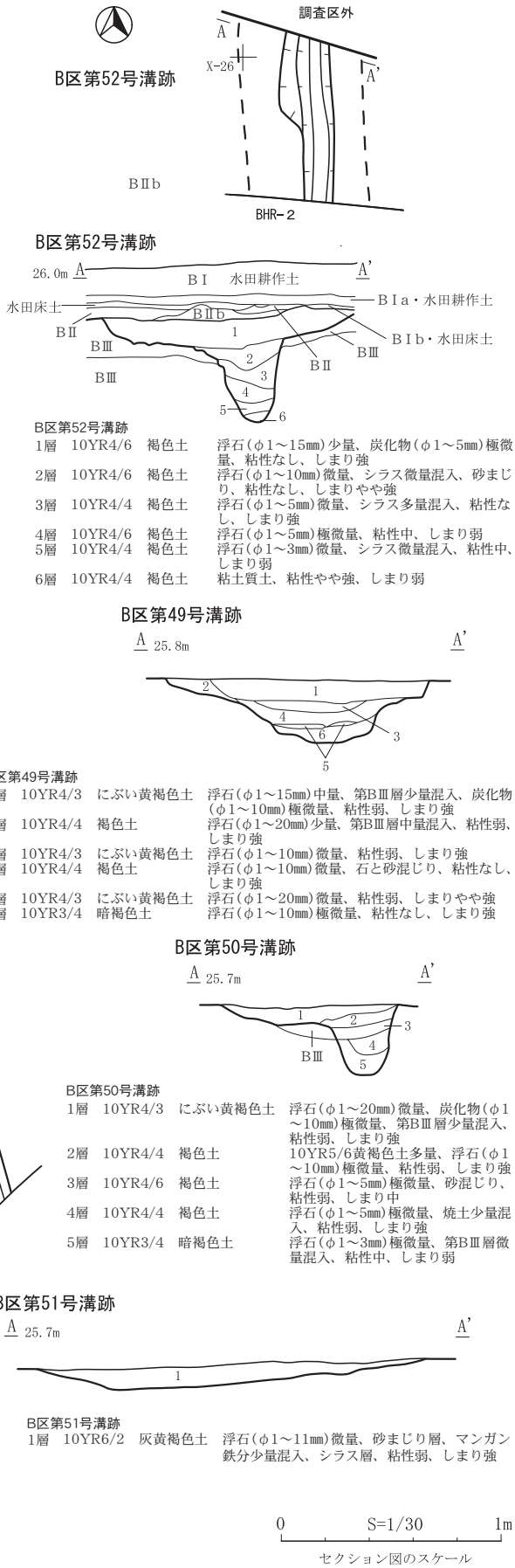
（笹森）

第49号溝跡（ＢＳＤ－49）（図53）
【位置・確認】Ｘ－23グリッド他に位置している。基本層序第ＢⅢｂ層中で確認した。
【重複】第２号濠跡、及び第51号溝跡と重複している。第51号溝跡より本遺構が新しいことが、土層の堆積状況から確認できる。第２号濠跡とは同時期か、それより新しい可能性が高い。
【形態・規模】確認できた範囲の長さは約3.0m、上面幅は68～240㎝、深さは最大56㎝である。
【堆積土】６層に分層できた。自然堆積の様相を呈している。
【壁・底面】基本層序第ＢⅢｂ層を壁・底面としている。壁は底面からやや急に立ち上がっている。断面の形状は逆台形状を呈している。
【出土遺物】遺物は出土していない。
【小結】詳細については不明であるが、遺構の重複関係から中世以降の可能性が高い。

（笹森）

第50号溝跡（ＢＳＤ－50）（図53）
【位置・確認】Ｙ・ＩＡ－25グリッドに位置する。基本層序第ＢⅢｂ層直上で確認した。
【重複】第51号溝跡と重複し、明確な新旧関係は不明である。
【形態・規模】確認面での最大幅は85㎝、底面の最大幅は16㎝、深さは65㎝を測る。





B区第52号溝跡

1層	10YR4/6	褐色土	浮石(φ1～15㎜)少量、炭化物(φ1～5㎜)極微量、粘性なし、しまり強
2層	10YR4/6	褐色土	浮石(φ1～10㎜)微量、シラス微量混入、砂まじり、粘性なし、しまりやや強
3層	10YR4/4	褐色土	浮石(φ1～5㎜)微量、シラス多量混入、粘性なし、しまり強
4層	10YR4/6	褐色土	浮石(φ1～5㎜)極微量、粘性中、しまり弱
5層	10YR4/4	褐色土	浮石(φ1～3㎜)微量、シラス微量混入、粘性中、しまり弱
6層	10YR4/4	褐色土	粘土質土、粘性やや強、しまり弱

B区第49号溝跡

1層	10YR4/3	にぶい黄褐色土	浮石(φ1～15㎜)中量、第BⅢ層少量混入、炭化物(φ1～10㎜)極微量、粘性弱、しまり強
2層	10YR4/4	褐色土	浮石(φ1～20㎜)少量、第BⅢ層中量混入、粘性弱、しまり強
3層	10YR4/3	にぶい黄褐色土	浮石(φ1～10㎜)微量、粘性弱、しまり強
4層	10YR4/4	褐色土	浮石(φ1～10㎜)微量、石と砂混じり、粘性なし、しまり強
5層	10YR4/3	にぶい黄褐色土	浮石(φ1～20㎜)微量、粘性弱、しまりやや強
6層	10YR3/4	暗褐色土	浮石(φ1～10㎜)極微量、粘性なし、しまり強

B区第50号溝跡

1層	10YR4/3	にぶい黄褐色土	浮石(φ1～20㎜)微量、炭化物(φ1～10㎜)極微量、第BⅢ層少量混入、粘性弱、しまり強
2層	10YR4/4	褐色土	10YR5/6黄褐色土多量、浮石(φ1～10㎜)極微量、粘性弱、しまり強
3層	10YR4/6	褐色土	浮石(φ1～5㎜)極微量、砂混じり、粘性弱、しまり中
4層	10YR4/4	褐色土	浮石(φ1～5㎜)極微量、焼土少量混入、粘性弱、しまり強
5層	10YR3/4	暗褐色土	浮石(φ1～3㎜)極微量、第BⅢ層微量混入、粘性中、しまり弱

B区第51号溝跡

1層	10YR6/2	灰黄褐色土	浮石(φ1～11㎜)微量、砂まじり層、マンガン鉄分少量混入、シラス層、粘性弱、しまり強

図53　B区溝跡（15）

【壁・底面】断面形状はU字型を呈し、西側にテラス状の段を有している。
【堆積土】暗褐色土を主体とし浮石を含んでいる。ほぼ自然堆積の様相を呈する。
【出土遺物】図示できるような遺物は出土していない。
【小結】詳細については不明であるが、中世の可能性が高いものと思われる。　（笹森）

第51号溝跡（ＢＳＤ－51）（図53）
【位置・確認】Ｙ－24グリッド他に位置している。基本層序第ＢⅢｂ層中で確認した。
【重複】第１号濠跡、及び第49・50号溝跡と重複している。第１号濠跡とは同時期かそれより古い可能性がある。第49号溝跡より古く、第50号溝跡との関係は不明である。
【形態・規模】確認できた範囲での長さは約9.0m、上面幅は150～180㎝である。
【堆積土】１層の単層である。自然堆積の様相を呈している。
【壁・底面】基本層序第ＢⅢｂ層を壁・底面としている。壁は底面から緩やかに上がっている。断面の形状は逆台形状を呈している。
【出土遺物】遺物は出土していない。
【小結】詳細については不明であるが、遺構の重複関係から中世の可能性が高い。　（笹森）

第52号溝跡（ＢＳＤ－52）（図53）
【位置・確認】Ｗ－26グリッド他に位置している。基本層序第ＢⅢｂ層中で確認した。
【重複】第２号濠跡と重複している。同時期かそれより新しい可能性がある。
【形態・規模】確認できた範囲での長さは約1.5m、推定上面幅は130㎝、底面幅は６～８㎝、深さは最大50㎝を測る。
【堆積土】６層に分層できた。褐色土を主体とした自然堆積の様相を呈している。
【壁・底面】基本層序第ＢⅢｂ層を壁・底面としている。壁は底面からやや急に立ち上がっている。断面形状は逆台形状を呈している。
【出土遺物】遺物は出土していない。
【小結】遺構の重複関係から中世以降の可能性が高い。　（笹森）

第53号溝跡（ＢＳＤ－53）（図54）
【位置・確認】Ｋ－16グリッド他に位置する。基本層序第ＢⅢａ層直上で確認した。
【重複】第54号溝跡と重複し、本遺構が新しい。
【形態・規模】確認面での最大幅は２m、底面の最大幅は1.5m、深さは40㎝を測る。
【壁・底面】壁は底面から比較的緩やかに立ち上がっている。断面形状は逆台形状を呈している。
【堆積土】３層に分層された。暗褐色土を主体とし、自然堆積の様相を呈している。
【出土遺物】堆積土２層から、黒色物質が付着する礫が出土している。また、図示していないが鉄滓が出土してる。
【小結】遺構の重複関係から中世以降の可能性が高い。　（笹森）

第54号溝跡（ＢＳＤ－54）（図54）

【位置・確認】Ｋ－14グリッド他に位置する。基本層序第ＢⅢａ層直上及びＡ区第２号濠跡検出面で確認した。

【重複】Ａ区第２号濠跡及び第53号溝跡と重複している。堆積土の観察からＡ区第２号濠跡より新しく、第53号溝跡より古いことが確認できた。

【形態・規模】確認面での最大幅は1.2m、底面の最大幅は38㎝、深さは80㎝を測る。

【壁・底面】断面形状は逆台形状を呈している。

【堆積土】４層に分層された。褐色土を主体とし、自然堆積の様相を呈している。

【出土遺物】図示できるような遺物は出土していない。

【小結】遺構の重複関係から平安時代～中世頃の可能性が高い。（笹森）

第55号溝跡（ＢＳＤ－55）（図59）

【位置・確認】Ｑ－23グリッドに位置する。基本層序第ＢⅠ層直下、第ＢⅢ層上面で検出した。

【重複】第11号溝跡、第１号円形周溝、第647号ピットと重複しており、第11号溝跡、第１号円形周溝よりも新しく、第647号ピットよりも古い。また、本遺構の南西方向にある第８号溝跡とは軸方位が揃い、ともに第１号円形周溝より新しく、同一遺構となる可能性がある。

【形態・規模】確認面での最大幅は約0.5m、底面の最大幅は約0.2mである。検出面からの深さは浅く20㎝程度である。

【壁・底面】断面形状は皿状を呈し、底面はわずかに凹凸がみられる。

【堆積土】にぶい黄褐色土を主体とし、軽石を含む。

【出土遺物】遺物は出土していない。

【小結】検出層序から10世紀前葉以降に帰属する。また、遺構の重複関係、および堆積土の特徴から平安時代末～中世頃に降るものと考えられる。（斉藤）

第56号溝跡（ＢＳＤ－56）（図54）

【位置・確認】Ｒ－24グリッド他に位置する。基本層序第ＢⅠ層直下、第ＢⅢ層上面で検出した。

【重複】第40号土坑、第６号掘立柱建物跡、第652・653・654号ピットと重複し本遺構が最も古い。

【形態・規模】確認面での最大幅は1.2m、底面の最大幅は0.7ｍを測る。

【壁・底面】断面形状はU字型を呈しており、最深部の深さは約50㎝である。

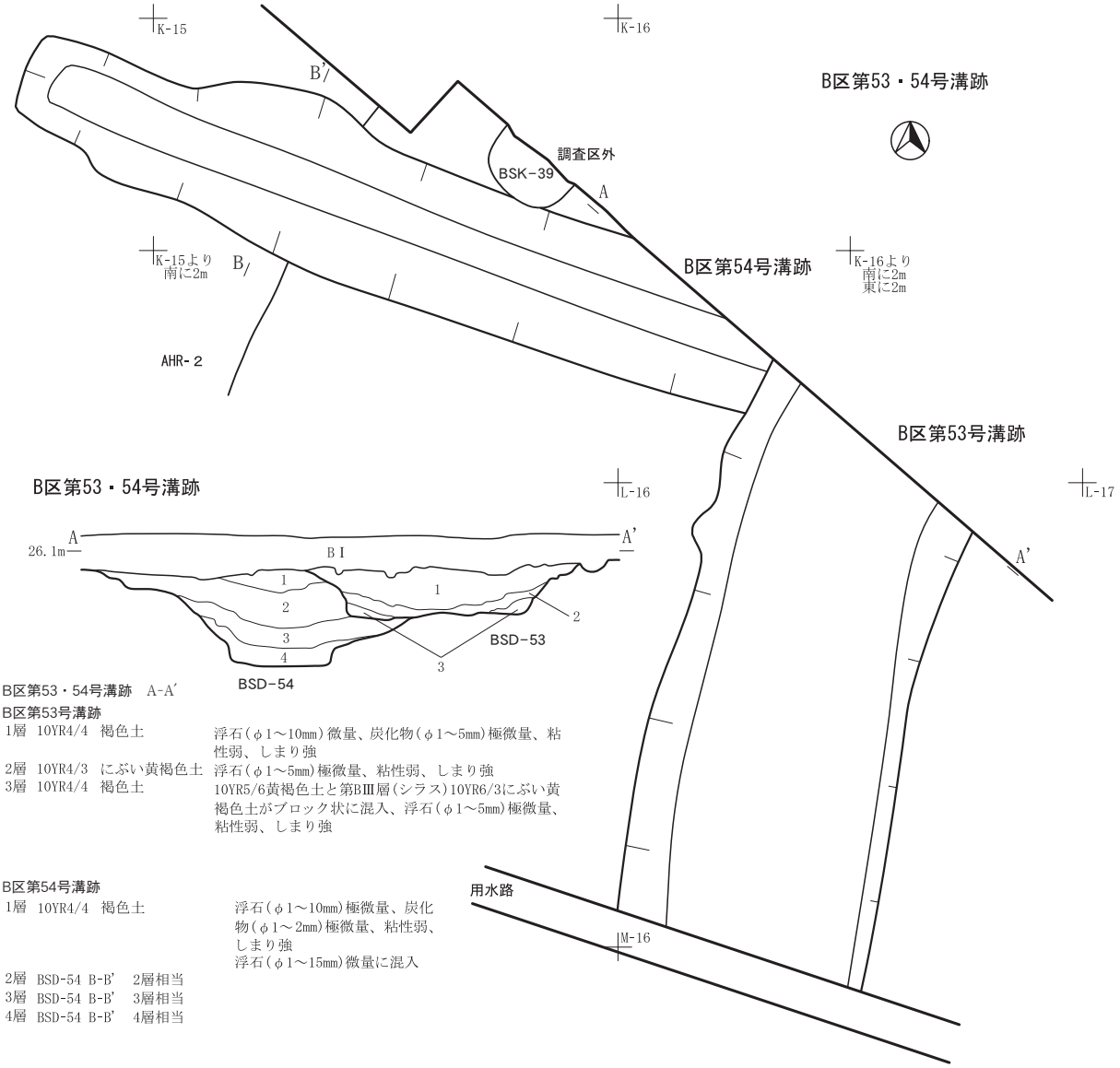
【堆積土】褐色土を主体とし、ＢⅣ層水田跡の耕作土に由来する粘質土を含む。

【出土遺物】遺物は出土していない。

【小結】構築・埋没年代は第ＢⅢ層の上位にあることから10世紀前葉以降である。（斉藤）

第57号溝跡（ＢＳＤ－57）

欠番とした。



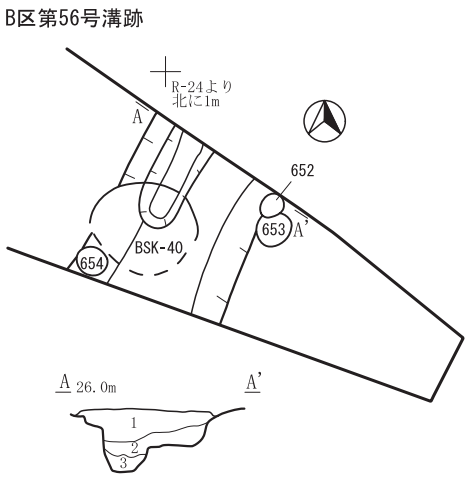
B区第53・54号溝跡　A-A'

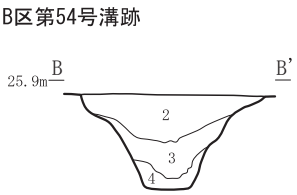
B区第53号溝跡

1層	10YR4/4　褐色土	浮石(φ1～10mm)微量、炭化物(φ1～5mm)極微量、粘性弱、しまり強
2層	10YR4/3　にぶい黄褐色土	浮石(φ1～5mm)極微量、粘性弱、しまり強
3層	10YR4/4　褐色土	10YR5/6黄褐色土と第Ⅲ層(シラス)10YR6/3にぶい黄褐色土がブロック状に混入、浮石(φ1～5mm)極微量、粘性弱、しまり強

B区第54号溝跡

1層	10YR4/4　褐色土	浮石(φ1～10mm)極微量、炭化物(φ1～2mm)極微量、粘性弱、しまり強 浮石(φ1～15mm)微量に混入
2層	BSD-54 B-B'　2層相当	
3層	BSD-54 B-B'　3層相当	
4層	BSD-54 B-B'　4層相当	





B区第54号溝跡　B-B'

2層	10YR4/4　褐色土	浮石(φ1～25mm)極微量、粘性弱、しまり強
3層	10YR4/3　にぶい黄褐色土	浮石(φ1～15mm)極微量、粘性弱、しまり強
4層	10YR4/4　褐色土	第Ⅲ層(シラス)10YR6/3にぶい黄橙色土がブロック状に多量混入、浮石(φ1～20mm)極微量、粘性やや中、しまりやや強

B区第56号溝跡

1層	10YR4/4　褐色土	10YR3/4暗褐色土との混合土、炭化物(φ1～2mm)極微量 浮石(φ1～3mm)極微量、粘性弱、しまり強
2層	10YR4/4　褐色土	炭化物(φ1～3mm)極微量　浮石(φ1～2mm)極微量、粘性弱、しまり強
3層	10YR5/4　にぶい黄褐色粘土	10YR6/4にぶい黄橙色土との混合土、粘性強、しまり強

0　S=1/60　2m

図54　Ｂ区溝跡（16）

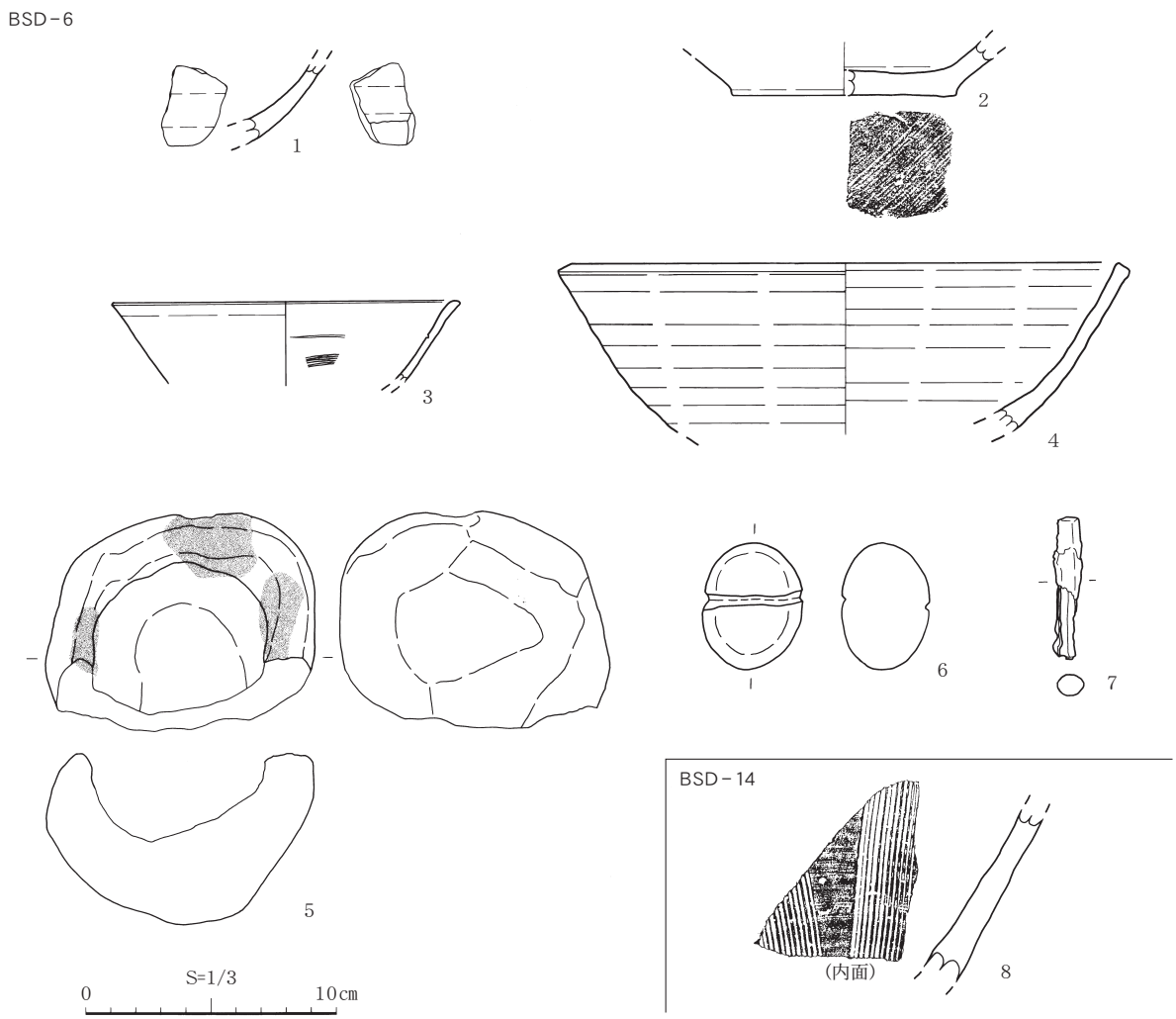


図55　B区溝跡出土遺物

第７節　濠跡

第１号濠跡（ＢＨＲ－１・ＢＳＤ－27）（図56・57・58）

【位置・確認】Ｕ－26グリッド他に位置している。第ＢⅢｂ層中で確認した。Ｙ－26とＩＡ－29グリッドでほぼ直角に曲がっている。調査区外にも２カ所のコーナーが存在しているものと考えられる。農道を挟んで北側の調査区でＢ区第27号溝跡として精査した遺構と同一のものである。

【重複】第２号濠跡、第23・25・33・34・38号溝跡、中世の土坑墓の可能性が高い第22号土坑と重複している。本遺構は第23・25・34・38号溝跡、第２号濠跡より新しく、第22号土坑より古いことが堆積土の状況から確認できた。第33号溝跡との明確な関係は不明である。

【形態・規模】前述したように、平面形は４カ所のコーナーを有する矩形区画を呈するものと考えられる。上面幅130～400㎝、底面幅50～170㎝、深さは70～130㎝を測る。北部が調査区外に延び、また、東部の一部が削平を受けているため、全容を伺い知ることはできない。大部分が農道の下に存在する西側部分では濠の上面幅が他に比べ比較的狭く造られている特徴をもつ。区画内側の１辺は約12～14mを測り、区画内部の推定面積は168㎡程である。

【壁・底面】壁は底面から緩やかに立ち上がっている。底面はほぼ平坦に造られている。断面の形状は逆台形状を呈している。

【ピット】濠跡底面及び壁面からは検出されなかった。

【その他の施設】区画内側から11基のピットが検出されている。また、同じく区画内側の調査区際から竪穴遺構及び土坑が１基ずつ検出されているが、本遺構に伴うものかどうかは不明である。

【堆積土】10～20層に分層できた。暗褐色やにぶい黄褐色土を主体とし、ほぼ自然堆積の様相を呈している。下部には泥の堆積層が認められ、水が溜まっていた時期があったことが推定できる。

【出土遺物】堆積土中から陶磁器片や石製品・古銭・礫等が出土している。また動物遺存体も出土している。動物遺存体を除けば濠からの出土遺物は意外と少ない傾向が見受けられる。濠として機能していた時期は比較的きれいな状態が保たれていた可能性が高い。動物遺存体は泥層の上面から出土する傾向が見られる。陶器はいずれも珠洲擂鉢で、２点は13世紀半ばから14世紀にかけてのものである。８層と９層から出土した（図58－１・２・３）。石製品はいずれも砥石であり（図58－４・５）、図58－５の砥石は壁の側面に張り付くように出土している。出土品は４面が使用されている。「＋」状の線刻が１面に見られる。「＋」状の線刻が施されている遺物は今回の調査区からは離れているが、平成２年度に精査された遺構番号３からも出土している。古銭は銘が判読できるもの２点、判読できないもの１点を拓影図で示した。判読できたものは治平元寶（初鋳年1064・北宋）と元豊通寶（初鋳年1078・北宋）である。

【小結】堆積土中の出土遺物や第22号土坑との重複関係から、中世の所産と考えられる。形状からは前述しているように矩形区画を構成していた遺構と考えられる。区画内部からはピットや竪穴遺構の一部が検出されているが、施設が存在したと思われる大部分は現在の農道の下や調査区外に存在している。道路の付け替えも困難な状況のため調査することができず全容を伺い知ることはできなかった。遺構の性格や機能を明らかにするような遺物も見つかっていないため不明な点が多い。

（笹森）

第２号濠跡（ＢＨＲ－2）（図56・57・58）

【位置・確認】Ｗ－21グリッド他に位置している。位置的には平成17年度試掘調査第２トレンチで確認された遺構と考えられる。第ＢⅢｂ層中で確認した。第２トレンチ部分は水田耕作に伴う漏水と耕作土崩落の危険性があるため本調査は行っていない。

【重複】第１号濠跡、第45・46・47・48・49・52号溝跡と重複している。土層の堆積状況から第１号濠跡より本遺構が古いことが確認できた。溝跡との関係は不明な点が多いが、本遺構が古いか同時期の可能性が高いものと考えられる。

【形態・規模】平面形はやや幅広の溝状を呈している。上面幅280～310㎝、底面幅100～120㎝、深さは90～100㎝を測り、第１号濠跡よりは浅く掘り込まれている。西側が調査区外に延びているため、全容を伺い知ることはできない。東側は大部分が第１号濠跡と重複している。農道を挟んだＣ区には同一の遺構が認められない。底面の痕跡はＹ－29グリッド付近まで確認できることから、この付近で北方向にほぼ直角に曲がっていた可能性も考えられる。

【壁・底面】壁は底面から緩やかに立ち上がっている。底面はほぼ平坦に造られている。断面の形状は逆台形状を呈している。

【ピット】底面及び壁面からも検出されなかった。

【その他の施設】検出されなかった。

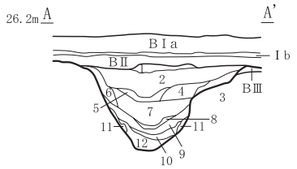
【堆積土】９～18層に分層できた。にぶい黄褐色土を主体とし、ほぼ自然堆積の様相を呈している。下層では水の影響を受けている様子が見られる。

【出土遺物】陶器、石製品、礫が出土している。陶器は時期不明の珠洲壺である（図58－９）。石製品は砥石であり、２点出土した。１点は直径10㎝程度の円礫の片面を利用した中砥若しくは仕上げ砥と思われるものであるが他１点は不明である。６層や覆土下層から出土しており、掲載はしていない。

【小結】堆積土中の出土遺物から中世の所産と考えられる。調査区外の広範囲に渡り区画を形成していた濠跡の可能性が高い。また、堆積土の観察から濠として機能していた期間はきれいな状態が保たれていたものと考えられ、埋没過程においても同様のことが言える。

（笹森）

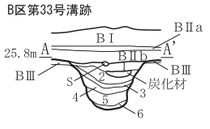
B区第38号溝跡



B区第38号溝跡　A-A'

1層	10YR4/4	褐色土	浮石(φ1～20mm)少量、炭化物(φ1～15mm) 微量、地山との混土層、粘性弱、しまり強
2層	10YR4/6	褐色土	浮石(φ1～25mm)少量、炭化物(φ1～10mm)微量、地山との混土層、粘性弱、しまり強
3層	10YR4/4	褐色土	浮石(φ1～5mm) 微量、炭化物(φ1～5mm)極微量、地山(ローム)との混土層、粘性中、しまり強
4層	10YR3/4	暗褐色土	浮石(φ1～25mm)微量、粘性中、しまり強
5層	10YR3/4	暗褐色土	浮石(φ1～10mm)微量、地山(ローム)との混土層、粘性中、しまり弱
6層	10YR4/4	褐色土	浮石(φ1～5mm)微量、地山(ローム)との混土層、粘性弱、しまり強
7層	10YR3/4	暗褐色土	浮石(φ1～10mm)極微量、ロームとの混土層、粘性やや強、しまりやや強、多少粘土質
8層	10YR2/2	黒褐色土	浮石(φ1～5mm) 極微量、粘性強、しまり強、粘土質
9層	10YR4/4	褐色土	浮石(φ1～10mm)微量、しらす微量含む、粘性やや強、しまり中
10層	10YR2/1	黒色土	ローム微量含む、溶けた炭化物含む？、粘性弱、しまり弱
11層	10YR5/4	にぶい黄褐色土	地山崩落層
12層	10YR5/4	にぶい黄褐色土	浮石(φ1～3mm)極微量、地山混入、粘性強、しまり弱、粘土質

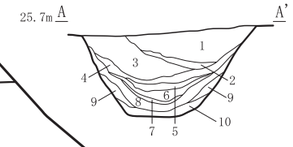
B区第33号溝跡



B区第33号溝跡　A-A'

第ＢⅠ層	10YR3/3	暗褐色粘土	7.5YR4/4褐色粘土、粘性強、しまり強
第ＢⅡa層	7.5YR3/4	暗褐色粘土	7.5YR4/2灰褐色粘土、粘性強、しまり強
第ＢⅡb層	10YR2/3	黒褐色粘土	10YR3/2黒褐色粘土、浮石(φ1～3mm)極微量、粘性強、しまり強
			※Ⅱb層と1層の間に遺物
1層	10YR3/2	黒褐色粘土	粘性強、しまり強
2層	10YR4/3	灰黄褐色粘土	浮石(φ1～3mm)小量混入、炭化材1～15cm、粘性中、しまり強
3層	7.5YR3/2	黒褐色粘土	10YR2/3黒褐色粘土多量、浮石(φ1～2mm)小量混入、炭化物(φ1～2mm)微量、粘性中、しまり中
4層	10YR3/3	暗褐色粘土	浮石(φ1～2mm)極微量、粘性中、しまり強
5層	10YR3/3	暗褐色粘土	浮石(φ1～2mm)極微量、粘性強、しまり強
6層	10YR3/3	暗褐色土	10YR5/4にぶい黄褐色粘土多量、粘性強、しまり強

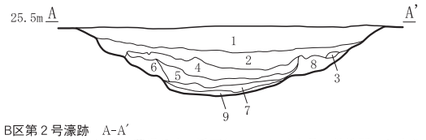
B区第34号溝跡



B区第34号溝跡　A-A'

1層	10YR4/4	褐色土	浮石(φ1～15mm)微量、粘性中、しまり中
2層	10YR4/3	にぶい黄褐色土	浮石(φ1～5mm)極微量、灰(φ1～5mm)極微量、粘性中、しまり中
3層	10YR4/4	褐色土	浮石(φ1～15mm)微量、灰(φ1～10mm)極微量、粘性中、しまり中
4層	10YR4/3	にぶい黄褐色土	浮石(φ1～5mm)極微量、焼土粒(φ1～2mm)極微量、粘性やや強、しまり中
5層	10YR3/1	黒褐色土	10YR3/2黒褐色土多量、浮石(φ１～５mm)微量、ほぼ砂状の層、粘性弱、しまり強
6層	10YR5/3	にぶい黄褐色土	浮石(φ1～10mm)極微量、粘性強、しまり弱、粘土質層
7層	10YR3/1	黒褐色土	層の下方に焼けた様々な跡あり、粘性強、しまり弱、粘土質層
8層	10YR5/4	にぶい黄褐色土	浮石(φ1～15mm)微量、灰少量混入、少々砂混じり、粘性中、しまり中
9層	10YR5/4	にぶい黄褐色土	浮石(φ1～10mm)極微量、灰微量混入、粘性やや強、しまり弱
10層	10YR5/3	にぶい黄褐色土	小石混じり、地山混入、粘性中、しまり中

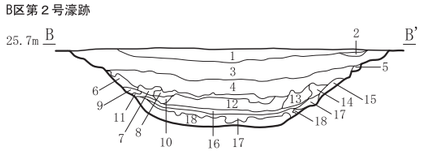
B区第２号濠跡



B区第２号濠跡　A-A'

1層	10YR4/3	にぶい黄褐色土	浮石(φ1～10mm)少量、粘性弱、しまり強
2層	10YR4/3	にぶい黄褐色土	浮石(φ1～10mm)微量、鉄分(φ1～10mm)微量、粘性弱、しまりやや強
3層	10YR5/3	にぶい黄褐色土	浮石(φ5mm)極微量、層状に鉄分混入、粘性なし、しまり強
			2.5YR5/2暗灰黄色粘土質土多量、炭化物粒(φ1～15mm)極微量、粘土ブロックが
4層	10YR4/3	にぶい黄褐色土	層中央に混入、層右側上部にシルト粒混入、粘性中、しまりやや強
5層	10YR4/3	にぶい黄褐色土	浮石(φ1～5mm)極微量、炭化物粒(φ1～5mm)極微量、粘性弱
6層	10YR3/4	暗褐色土	浮石(φ1～3mm)極微量、層状に鉄分混入、粘性弱、しまりやや強
7層	10YR3/2	黒褐色土	炭化物粒(φ1～3mm)極微量、粘性強、しまりやや強
8層	10YR3/4	暗褐色土	10YR4/4褐色土多量、炭化物粒(φ1～5mm)極微量、粘性やや強、しまり強
9層	10YR5/2	灰黄褐色土	層の下部に鉄分マンガン層状に混入、粘性やや強、しまり強、砂混じりの白色粘土層

B区第２号濠跡



B区第２号濠跡　B-B'

1層	10YR4/2	灰黄褐色土	浮石(φ1～25mm)少量、炭化物(φ1～10mm)極微量、シラスと白色粘土中量混入、粘性なし、しまり強
2層	10YR4/6	褐色土	浮石(φ1～3mm)極微量、粘性なし、しまりやや強
3層	A-A'1層に相当		
4層	A-A'2層に相当		
5層			粘性なし、しまり強、シラス層、掘り過ぎか?
6層	A-A'8層に相当		
7層	10YR3/4	暗褐色土	浮石(φ1～3mm)極微量、鉄分微量混入、粘性強、しまり中
8層	A-A'4層に相当		
9層	10YR3/4	暗褐色土	浮石(φ1～3mm)極微量、粘性弱、しまり弱
10層	10YR3/3	暗褐色土	浮石(φ1～10mm)微量、鉄分マンガン微量混入、粘性弱、しまり弱
11層	10YR4/6	褐色土	浮石(φ1～3mm)極微量、シラス多量混入、粘性弱、しまり強
12層	A-A'5層に相当		
13層	10YR5/4	にぶい黄褐色土	7.5YR5/6明褐色土多量、上方に白色粘土・下方に鉄分が層状に中量混入、粘性中、しまり中
14層	10YR4/3	にぶい黄褐色土	浮石(φ1～15mm)微量、シラス少量混入、粘性弱、しまり中
15層	A-A'6層に相当		
16層	A-A'7層に相当		
17層	A-A'9層に相当		
18層	10YR4/4	褐色土	浮石(φ1～5mm)極微量、鉄分・マンガン微量混入、粘性中、しまり中、粘土質シルト

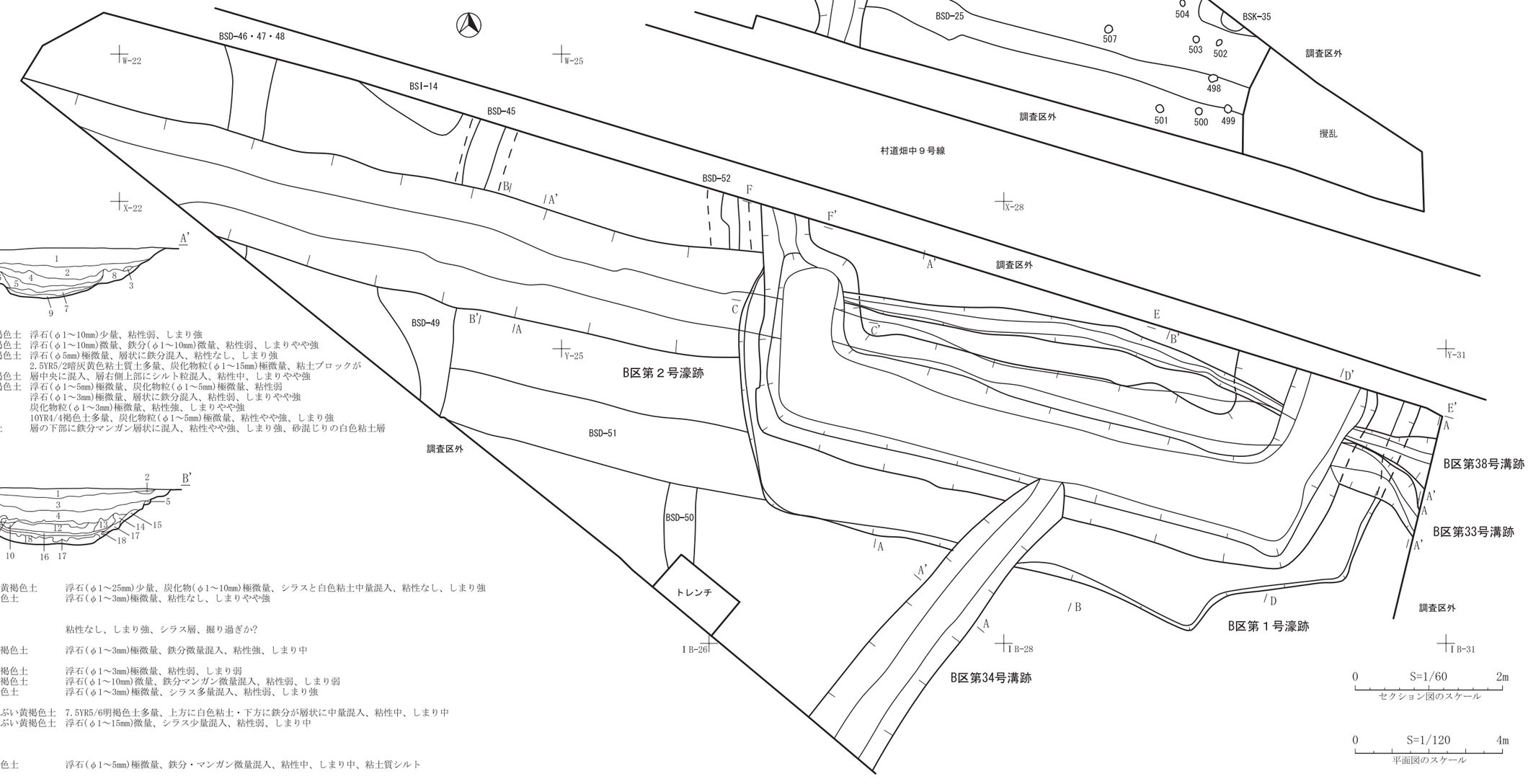
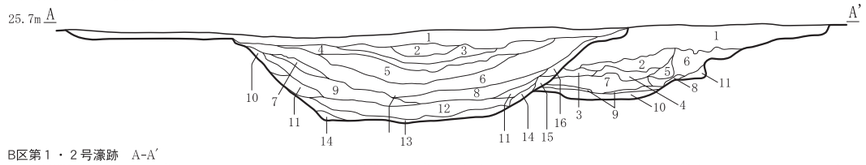


図56　B区濠跡（１）・溝跡（17）

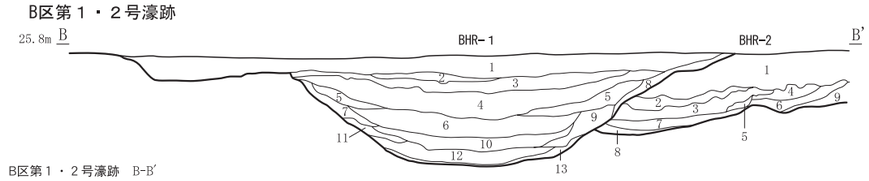
B区第１・２号濠跡



B区第１・２号濠跡　A-A'

1層	10YR3/4	暗褐色土	10YR4/2灰黄褐色土多量、浮石(φ1～5mm)中量、2.5YR6/3にぶい黄色土(φ20～80mm)少量、礫(φ20～40mm)混入、粘性中、しまりやや強
2層	10YR4/3	にぶい黄褐色土	7.5YR3/4暗褐色土多量、浮石(φ1～10mm)少量、炭化物粒(φ1～3mm)微量、粘性強、しまりやや強
3層	10YR4/2	灰黄褐色土	7.5YR3/4暗褐色土多量、浮石(φ1～3mm)少量、炭化物(φ1～5mm)微量、粘性やや強、しまり強
4層	10YR3/4	暗褐色土	10YR4/3にぶい黄褐色粘土多量、炭化物粒(φ1～5mm)極微量、浮石(φ1～3mm)微量、粘性弱、しまりやや強
5層	10YR4/2	灰黄褐色土	7.5YR4/6褐色土多量、浮石(φ1～20mm)少量、炭化物(φ1～5mm)微量、焼土粒(φ1～5mm)微量、粘性中、しまりやや強
6層	10YR3/4	暗褐色土	10YR4/2灰黄褐色粘土多量、浮石(φ1～10mm)微量、炭化物(φ1～5mm)微量、焼土粒(φ1～5mm)微量、粘性強、しまり中
7層	10YR3/3	暗褐色土	浮石(φ1～3mm)極微量、層の右から左にかけて10YR6/4にぶい黄橙色土混入、粘性強、しまり強
8層	10YR3/4	暗褐色土	10YR4/1褐灰色粘土多量、浮石(φ1～5mm)微量、炭化物(φ1～5mm)極微量、焼土粒(φ1～2mm)極微量、粘性強、しまり強
9層	10YR3/3	暗褐色土	10YR4/1褐灰色粘土多量、炭化物(φ1～15mm)少量、焼土粒(φ1～3mm)微量、浮石(φ1～3mm)微量、粘性強、しまり強
10層	10YR3/4	暗褐色土	10YR4/6褐色土多量、粘性強、しまり強
11層	10YR4/2	灰黄褐色粘土	7.5YR4/4褐色土粒(φ1～10mm)少量、炭化物(φ2～3mm)、浮石(φ2～3mm)微量、粘性強、しまり強
12層	10YR4/1	褐灰色粘土	炭化物(φ1～10mm)微量,(φ1～3mm)微量、焼土粒(φ1～3mm)微量、粘性強、しまり強
13層	10YR4/1	褐灰色粘土	7.5YR4/6褐色土多量、粘性強、しまり強
14層	10YR4/3	にぶい黄褐色粘土質シルト	粘性強、しまり強
15層	10YR1.7/1	黒色土	10YR3/3暗褐色土、粘性強、しまり強
16層	10YR4/4	褐色土	2.5YR5/2暗灰黄色土多量、浮石(φ1～5mm)微量、炭化物(φ1～3mm)極微量、層の左下には7.5YR4/6褐色(φ1～15mm)微量、粘性強、しまり強
1層	B-B'1層に相当		
2層	B-B'2層に相当		
3層	10YR4/4	褐色土	浮石(φ1～5mm)極微量、鉄分微量混入、粘性弱、しまり強
4層	B-B'3層に相当		
5層	10YR4/3	にぶい黄褐色土	浮石(φ1～5mm)極微量、鉄分少量含む、粘性弱、しまり強
6層	B-B'4層に相当		
7層	10YR4/2	灰黄褐色土	10YR4/4褐色土多量、浮石(φ1～10mm)極微量、地山少量混入、粘性弱、しまり中
8層	B-B'6層に相当		
9層	B-B'7層に相当		
10層	B-B'8層に相当		
11層	B-B'9層に相当		

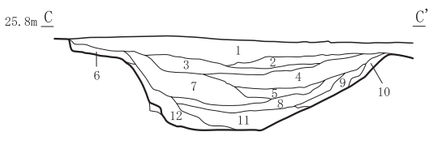
B区第１・２号濠跡



B区第１・２号濠跡　B-B'

1層	10YR3/4	暗褐色土	浮石(φ1～10mm)少量、炭化物(φ1～5mm)微量、粘性弱、しまり強
2層	10YR4/4	褐色土	浮石(φ1～10mm)微量、炭化物(φ1～3mm)極微量、粘性弱、しまりやや強
3層	10YR3/4	暗褐色土	炭化物(φ1～10mm)微量、浮石(φ1～5mm)微量、焼土粒(φ1～10mm)極微量、地山崩落土混入、粘性中、しまり中
4層	A-A'5層に相当		
5層	10YR3/4	暗褐色土	浮石(φ1～10mm)微量、炭化物(φ1～3mm)極微量、粘性中、しまり中
6層	10YR3/3	暗褐色土	A-A'6層に相当
7層	10YR3/4	暗褐色土	浮石(φ1～3mm)極微量、炭化物(φ1～3mm)極微量、層の上層に地山混入、粘性強、しまり弱
8層	10YR3/4	暗褐色土	浮石(φ1～3mm)極微量、炭化物(φ1～3mm)極微量、焼土粒(φ1～5mm)極微量、地山少量混入、粘性やや強、しまり中
9層	10YR3/4	暗褐色土	浮石(φ1～2mm)極微量、炭化物(φ1～40mm)極微量、焼土粒(φ1～10mm)微量、地山混入、粘性やや強、しまり弱
10層	A-A'12層に相当		
11層	10YR3/3	暗褐色土	焼土粒(φ1～5mm)少量、地山混入、粘性やや強、しまり強
12層	A-A'13層に相当		
13層	A-A'14層に相当		
1層	10YR4/3	にぶい黄褐色土	浮石(φ1～25mm)少量、炭化物(φ1～10mm)微量、粘性なし、しまり強
2層	10YR4/3	にぶい黄褐色土	10YR4/4褐色土多量、浮石(φ1～10mm)微量、炭化物(φ1～10mm)微量、粘性弱、しまり強
3層	10YR4/3	にぶい黄褐色土	10YR4/4褐色土多量、浮石(φ1～10mm)極微量、炭化物(φ1～5mm)極微量、鉄分を少量含む、粘性弱、しまりやや強
4層	10YR3/4	暗褐色土	浮石(φ1～5mm)極微量、炭化物(φ1～10mm)極微量、鉄分が上部に多量混入、粘性中、しまり中
5層	10YR3/4	暗褐色土	浮石(φ1～3mm)極微量、粘性やや強、しまり中、粘土質土
6層	10YR3/4	暗褐色土	浮石(φ1～20mm)微量、炭化物(φ1～10mm)微量、鉄分少量混入、粘性中、しまり中
7層	10YR2/3	黒褐色土	浮石(φ1～3mm)極微量、炭化物(φ1～5mm)極微量、粘性やや強、しまり弱、粘土質土
8層	10YR4/2	灰黄褐色粘土	鉄分微量含む、炭化物(φ1～10mm)極微量、地山的な粘土、粘性強、しまり中
9層	10YR4/4	褐色土	浮石(φ1～10mm)微量、鉄分が上部に少量混入、粘性中、しまり中

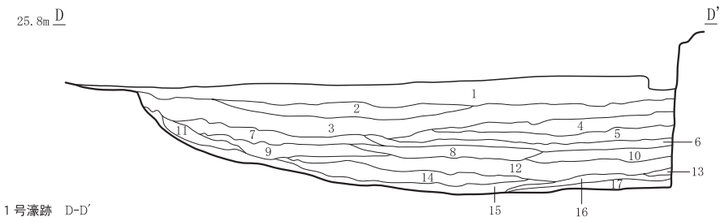
B区第１号濠跡



B区第１号濠跡　C-C'

1層	A-A'1層に相当		
2層	10YR3/4	暗褐色土	浮石(φ1～20mm)微量、炭化物(φ1～10mm)極微量、焼土粒(φ1～5mm)極微量、粘性弱、しまり強
3層	10YR3/3	暗褐色土	浮石(φ1～10mm)微量、炭化物(φ1～5mm)極微量、焼土粒(φ1～3mm)極微量、粘性弱、しまりやや強
4層	10YR3/4	暗褐色土	浮石(φ1～10mm)少量、炭化物(φ1～5mm)極微量、粘性弱、しまりやや強
5層	10YR3/4	暗褐色土	浮石(φ1～10mm)微量、炭化物(φ1～10mm)極微量、焼土粒(φ1～10mm)微量、粘性中、しまり中
6層	10YR4/3	にぶい黄褐色土	浮石(φ1～20mm)微量、粘性弱、しまり強、地山っぽい
7層	10YR3/3	暗褐色土	浮石(φ1～20mm)微量、炭化物(φ1～3mm)極微量、焼土粒(φ1～3mm)極微量、粘性中、しまり中
8層	10YR3/4	暗褐色土	浮石(φ1～25mm)微量、炭化物(φ1～10mm)極微量、粘性強、しまり中
9層	10YR3/3	暗褐色土	浮石(φ1～15mm)微量、焼土粒(φ1～5mm)極微量、粘性中、しまりやや強
10層	10YR3/2	黒褐色土	浮石(φ1～15mm)微量、炭化物(φ1～3mm)極微量、粘性中、しまりやや強
11層	A-A'12層に相当		
12層	10YR3/2	黒褐色土	10YR3/3暗褐色土多量、浮石(φ1～10mm)微量、炭化物(φ1～10mm)、地山混入、粘性強、しまりやや強

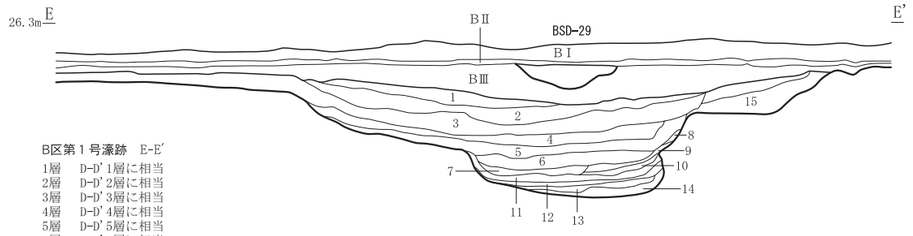
B区第１号濠跡



B区第１号濠跡　D-D'

1層	C-C'1層に相当		
2層	10YR3/4	暗褐色土	10YR4/3にぶい黄褐色土多量、浮石(φ1～20mm)微量、炭化物(φ1～5mm)極微量、焼土粒(φ1～3mm)極微量、粘性中、しまり強
3層	10YR4/3	にぶい黄褐色土	浮石(φ1～10mm)微量、炭化物(φ1～20mm)極微量、焼土粒(φ1～10mm)極微量、粘性中、しまり強
4層	10YR3/3	暗褐色土	10YR3/2黒褐色土多量、浮石(φ1～10mm)微量、炭化物(φ1～15mm)微量、焼土粒(φ1～3mm)極微量、粘性中、しまり中
5層	10YR3/2	黒褐色土	10YR3/3暗褐色土多量、浮石(φ1～20mm)微量、炭化物(φ1～5mm)極微量、焼土粒(φ1～5mm)極微量、粘性強、しまり中
6層	10YR3/2	黒褐色土	浮石(φ1～10mm)微量、炭化物(φ1～20mm)極微量、焼土粒(φ1～3mm)極微量、粘性強、しまりやや強
7層	10YR3/3	暗褐色土	浮石(φ1～5mm)微量、炭化物(φ1～3mm) 極微量、焼土粒(φ1～3mm)極微量、粘性やや強、しまり中
8層	10YR4/2	灰黄褐色土	浮石(φ1～10mm)中量、炭化物(φ1～10mm)極微量、地山下層にブロック状と全体に混入、粘性中、しまり中
9層	10YR4/2	灰黄褐色土	浮石(φ1～25mm)微量、炭化物(φ1～5mm)極微量、粘性中、しまり強
10層	10YR4/2	灰黄褐色土	浮石(φ1～10mm)極微量、炭化物(φ1～5mm)極微量、地山ブロック状に混入、粘性強、しまり中
11層	10YR4/3	にぶい黄褐色土	浮石(φ1～5mm)極微量、炭化物(φ1～5mm)極微量、焼土粒(φ1～5mm)極微量、地山ブロック状に混入、粘性強、しまり弱
12層	10YR4/2	灰黄褐色土	浮石(φ1～10mm)極微量、炭化物(φ1～10mm)極微量、全体に地山粒子状に混入、粘性中、しまり中
13層	10YR4/3	にぶい黄褐色土	浮石(φ1～5mm)極微量、炭化物(φ1～3mm)極微量、地山ブロック状に混入、粘性強、しまり強
14層	10YR4/2	灰黄褐色土	浮石(φ1～5mm)極微量、炭化物(φ1～5mm)極微量、全体に地山粒子状に混入、粘性強、しまり中
15層	10YR4/2	灰黄褐色土	浮石(φ1～5mm)極微量、炭化物(φ1～5mm)極微量、地山下層を中心に全体に混入、粘性強、しまり強
16層	10YR3/2	黒褐色土	浮石(φ1～3mm)極微量、地山粒子状に混入、粘性中、しまりやや弱、下層砂層
17層	10YR4/2	灰黄褐色土	粘性弱、しまり弱、下層砂層

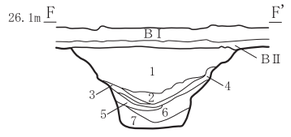
B区第１号濠跡・第29号溝跡



B区第１号濠跡　E-E'

1層	D-D'1層に相当		
2層	D-D'2層に相当		
3層	D-D'3層に相当		
4層	D-D'4層に相当		
5層	D-D'5層に相当		
6層	D-D'6層に相当		
7層	D-D'11層に相当		
8層	10YR2/2	黒褐色土	浮石(φ1～3mm)微量、粘性やや強、しまり中、粘土質
9層	10YR3/3	暗褐色土	浮石(φ1～5mm)微量、炭化物粒(φ1～10mm)極微量、粘性中、しまりやや強
10層	10YR3/4	暗褐色土	浮石(φ1～3mm)極微量、粘性やや強、しまり強、粘土質
11層	D-D'12層に相当		
12層	D-D'13層に相当		
13層	D-D'16層に相当		
14層	D-D'15層に相当		
15層	10YR4/4	褐色土	浮石(φ1～20mm)微量、炭化物粒(φ1～10mm)微量、焼土微量混入、粘性中、しまり強

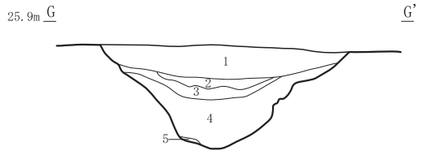
B区第１号濠跡



B区第１号濠跡　F-F'

1層	10YR3/4	暗褐色土	A-A'1層に相当
2層	10YR3/4	暗褐色土	浮石(φ1～10mm)微量、炭化物(φ1～20mm)極微量、焼土粒(φ1～3mm)極微量、粘性中、しまり強
3層	10YR3/4	暗褐色土	浮石(φ1～3mm)微量、炭化物(φ1～2mm)極微量、粘性弱、しまり強
4層	10YR3/4	暗褐色土	浮石(φ1～15mm)微量、粘性弱、しまり強、砂層4層上層に全体的に広がっている
5層	10YR4/4	褐色土	浮石(φ1～15mm)微量、地山がまばらに全体に広がっている、粘性中、しまり強
6層	10YR3/4	暗褐色土	浮石(φ1～10mm)微量、炭化物(φ1～15mm)極微量、焼土粘(φ1～3mm)極微量、粘性中、しまり強
7層			砂層の互層

B区第１号濠跡



B区第１号濠跡　G-G'

1層	10YR3/4	暗褐色土	浮石(φ1～20mm)中量、炭化物粒(φ1～15mm)少量、焼土粒(φ1～5mm)微量、粘性弱、しまり強
2層	10YR3/3	暗褐色土	浮石(φ1～10mm)少量、炭化物粒(φ1～2mm)微量、粘性中、しまり強
3層	10YR3/4	暗褐色土	焼土ブロック(φ1～3.5mm)中量、浮石(φ1～10mm)少量、炭化物粒(φ1～5mm)微量、粘性中、しまり強
4層	10YR3/4	暗褐色土	10YR3/3暗褐色土多量、浮石(φ1～10mm)中量、炭化物粒(φ1～5mm)微量、下層に
5層	10YR2/3	黒褐色シルト	10YR3/3暗褐色粘土が帯状に混入、粘性中、しまり強、粘性弱、しまり強

0　S=1/60　2m

図57　B区濠跡（２）

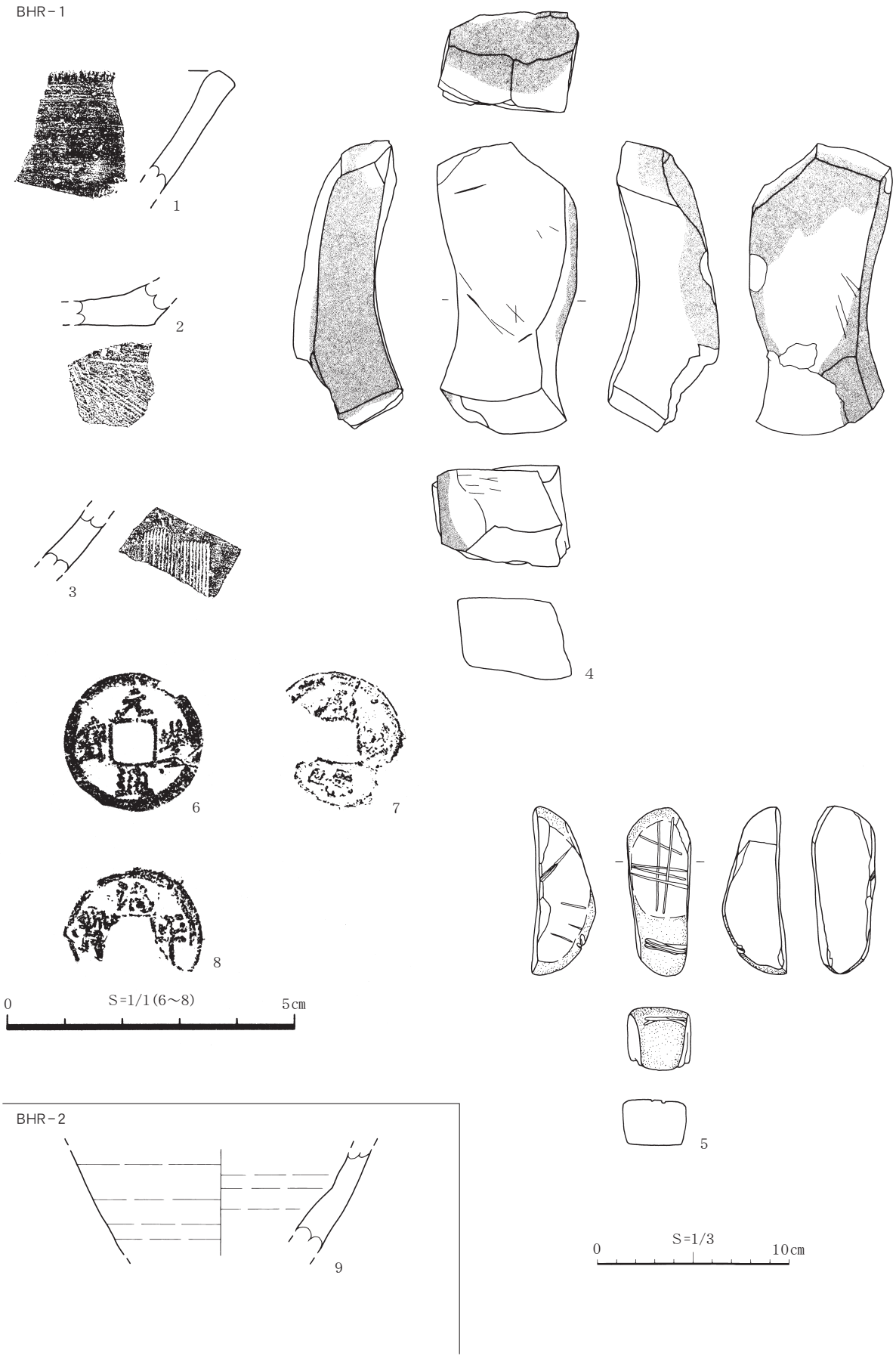


図58　Ｂ区濠跡出土遺物

第８節　円形周溝

第１号円形周溝（ＢＥＮ－１）（図59）

【位置】Ｑ～Ｓ－21～23グリッドに位置する。

【重複】第５号掘立柱建物跡、Ｂ区Ⅰ層水田第１号水路跡、第８・11・55号溝跡、第117・118・119・127・129・348・349・355・356・357・363・371・709号ピットと重複し、本遺構が第５号掘立柱建物跡、Ⅰ層水田第１号水路跡、第11・55号溝跡、第117・118・119・127・129・348・349・355・356・357・363・371号ピットより古く、第８号溝跡より新しい。

【形態・規模】平面形は円形を呈する。外径５ｍ22㎝、内径４ｍ42㎝を測る。溝の上面幅は37～63㎝、底面の最大幅は18㎝、深さは34㎝を測る。

【周溝壁・底面】周溝壁は底面から急に立ち上がる。断面形状はU字型を呈している。

【ピット】底面及び壁面からも検出されなかった。

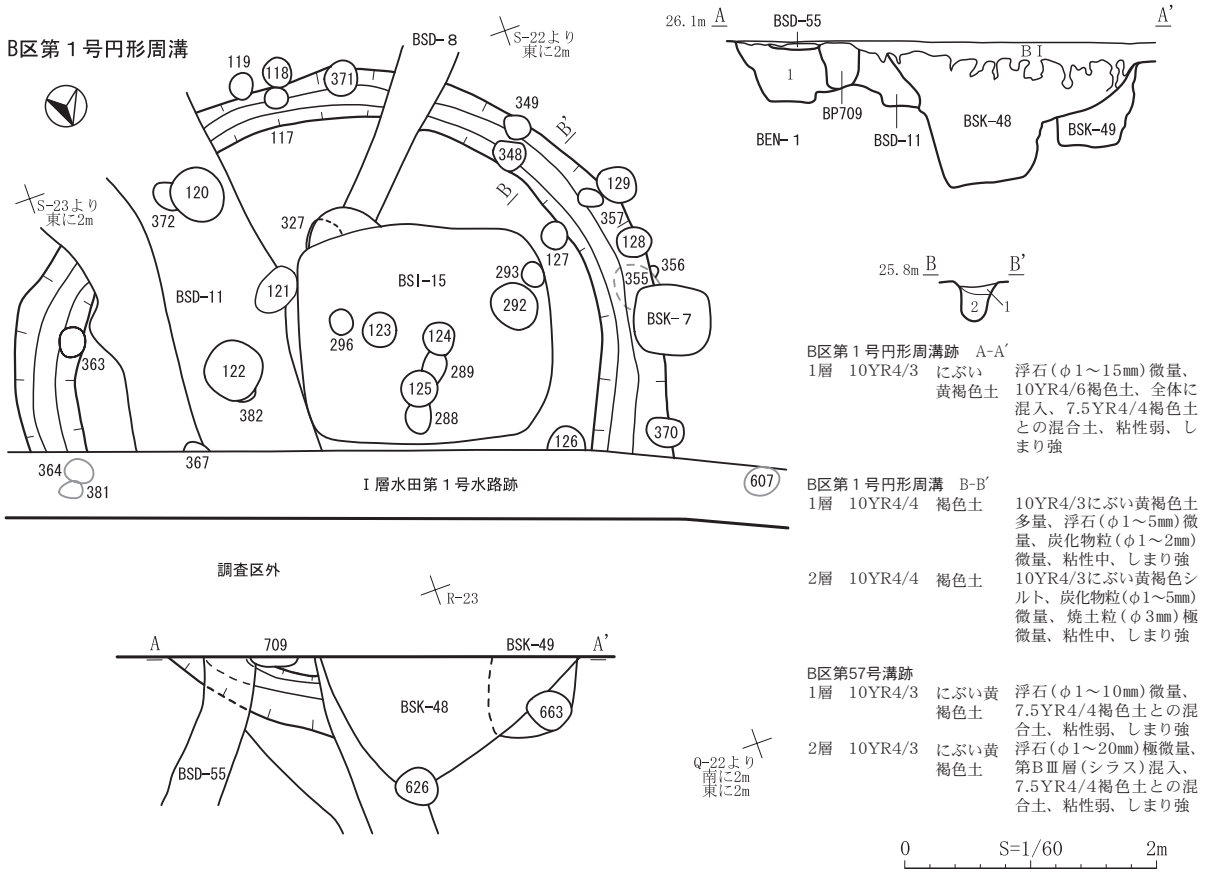
【その他の施設】検出されなかった。

【堆積土】褐色土を主体とし、炭化物・焼土小塊を少量含む。

【出土遺物】遺物は出土しなかった。

【小結】検出層位や土層堆積状況から、平安時代以降に埋没したものと思われる。

（工藤）



B区第１号円形周溝跡　A-A'

1層	10YR4/3	にぶい黄褐色土	浮石(φ1～15㎜)微量、10YR4/6褐色土、全体に混入、7.5YR4/4褐色土との混合土、粘性弱、しまり強

B区第１号円形周溝　B-B'

1層	10YR4/4	褐色土	10YR4/3にぶい黄褐色土多量、浮石(φ1～5㎜)微量、炭化物粒(φ1～2㎜)微量、粘性中、しまり強
2層	10YR4/4	褐色土	10YR4/3にぶい黄褐色シルト、炭化物粒(φ1～5㎜)微量、焼土粒(φ3㎜)極微量、粘性中、しまり強

B区第57号溝跡

1層	10YR4/3	にぶい黄褐色土	浮石(φ1～10㎜)微量、7.5YR4/4褐色土との混合土、粘性弱、しまり強
2層	10YR4/3	にぶい黄褐色土	浮石(φ1～20㎜)極微量、第BⅢ層(シラス)混入、7.5YR4/4褐色土との混合土、粘性弱、しまり強

図59　B区円形周溝

第９節　性格不明遺構

第１号性格不明遺構（ＢＳＸ－１）（図60）

【位置・確認】Ｏ・Ｐ－21グリッドに位置する。基本層序第ＢⅠ層直下、第ＢⅢ層直上で検出した。

【重複】なし。

【形態・規模】遺構の大部分が調査区外にあるため、全体形状は不明である。調査区内においては、ほぼ垂直の角をもつ平面プランが確認された。断面形は逆台形状である。確認面からの深さは約１ｍ25cmである。

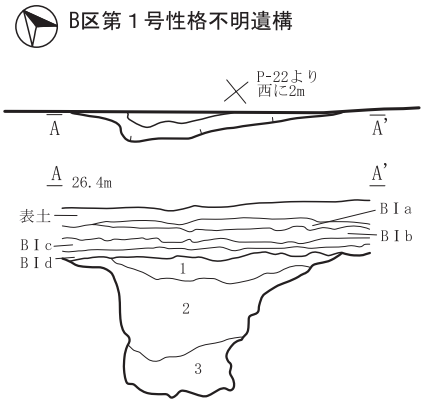
【壁・底面】底面はほぼ平坦をなし、壁面は底面から外傾する形で緩やかに立ち上がる。

【堆積土】上層から下層までにぶい黄褐色土が主体となり、比較的均質な様相であり、人為堆積的な様相を呈する。

【出土遺物】遺物は出土していない。

【小結】限定的ではあるが、確認された平面形、断面形から判断すると濠跡の端部ないし、竪穴遺構の可能性が考えられる。帰属時期は検出層位から10世紀前葉以降と判断される。

（斉藤）



B区第１号性格不明遺構

第BⅠa層	10YR4/4	褐色土	10YR7/2にぶい黄橙色土と10YR2/2黒褐色土と10YR4/3にぶい黄褐色土と7.5Y5/8明褐色土との混合土、粘性弱、しまり強
第BⅠb層	10YR5/2	灰黄褐色土	10YR6/3にぶい黄橙色との混合土、炭化物(φ1～5mm)極微量、粘性弱、しまり強
第BⅠc層	10YR4/2	灰黄褐色土	10YR5/4にぶい黄褐色土と10YR3/6暗赤褐色土との混合土、粘性弱、しまり強
第BⅠd層	10YR5/2	灰黄褐色土	5YR3/6暗赤褐色土との混合土、粘性弱、しまり強
1層	10YR4/3	にぶい黄褐色土	10YR5/4にぶい黄褐色土と10YR5/2灰黄褐色土との混合土、炭化物(φ1～15mm)極微量、焼土粒(φ1～30mm)極微量、10YR5/4にぶい黄褐色土と10YR5/8明褐色土の混合土粒状に混入、粘性やや弱、しまり強
2層	10YR4/3	にぶい黄褐色土	10YR6/3にぶい黄褐色土との混合土、炭化物(φ1～10mm)微量、10YR7/3にぶい黄橙色粘性土がブロック状に混入、粘性中、しまり強
3層	10YR4/3	にぶい黄褐色土	10YR5/2灰黄褐色土と10YR6/6明黄褐色土と7.5YR5/8明褐色土との混合土、炭化物(φ1～5mm)極微量、粘性中、しまり強

0　S=1/60　2m

図60　Ｂ区性格不明遺構

第10節　遺構外出土遺物

Ｂ区の遺構外からは、土師器・須恵器・陶磁器・石製品・金属製品（銭貨）が出土している。Ｂ区における調査前の土地利用状況は田地や畑地で、土地改変による攪乱が基本層序第ＢⅢ層上面まで及んでいる箇所が大半であり、遺構外出土遺物は基本層序第Ⅰ層や攪乱層からの出土が多くを占める。

１　土器・陶磁器

土師器、須恵器、かわらけ（図61－１）、青磁碗（図61－２）、珠洲擂鉢（図61－３・４・５・６・７）、近世・近現代陶磁器が出土している。

古代の遺物は土師器２点、須恵器７点と数量的に極めて少なく、須恵器は甕体部破片や坏があり、耕作時に受けたと思われる二次的な損壊が多い。

かわらけはＢ区西部の地表面から採集されたものであり、土師器皿の出土が集中するＡ区から表土が移動された際に混入した可能性が高い。器種は口径13㎝の大皿で、成形技法はロクロによるものであり、底面には右回転の回転糸切り痕を有する。

青磁碗は胎土や釉調から龍泉窯系と思われるもので、内面には縦方向に二本の縦線が陰刻され、土師器皿と青磁碗は12世紀から13世紀にかけてのものと思われる。

珠洲擂鉢は、口縁端部の外側を面取りするもの（図61－３・４・５）、口縁端部を内面に面取りし波状文を施すもの（図61－７）などがあり、13世紀から15世紀にかけてのものがある。

近世の可能性がある陶磁器は合計41点出土した。陶器は量的に少なく、器種が確認可能なものでは産地不明の香炉が出土している。磁器は、盛土または第ＢⅠ層から肥前碗皿類・鉢類・小坏類が出土しており、特に染付の碗皿類が比較的多く出土するが細片が多く、器形全体が把握できるものは出土しなかった。

２　石製品・金属製品

石製品では磨製石斧（図61－８）が出土し、金属製品（銭貨）では寛永通宝（図61－９・10）が出土した。磨製石斧の石質は角閃岩であり、基端と刃部が欠損するものである。出土位置はＢ区の西部に位置するP－19グリッドであり、耕作土の移動に伴って混入したものと思われる。 銭貨は寛永通宝のみ出土しており、北宋銭などの渡来銭は出土しなかった。

３　まとめ

Ｂ区における遺構外出土遺物は、全体的に遺物量が少なく、特に古代の遺物が少ない。中世12世紀末から15世紀の遺物は一定量まとまって出土しており、Ｂ区の遺構様相を反映しているものと思われる。また近世陶磁器は小破片が多く、耕作時に損壊したものと考えられる。

（工藤）

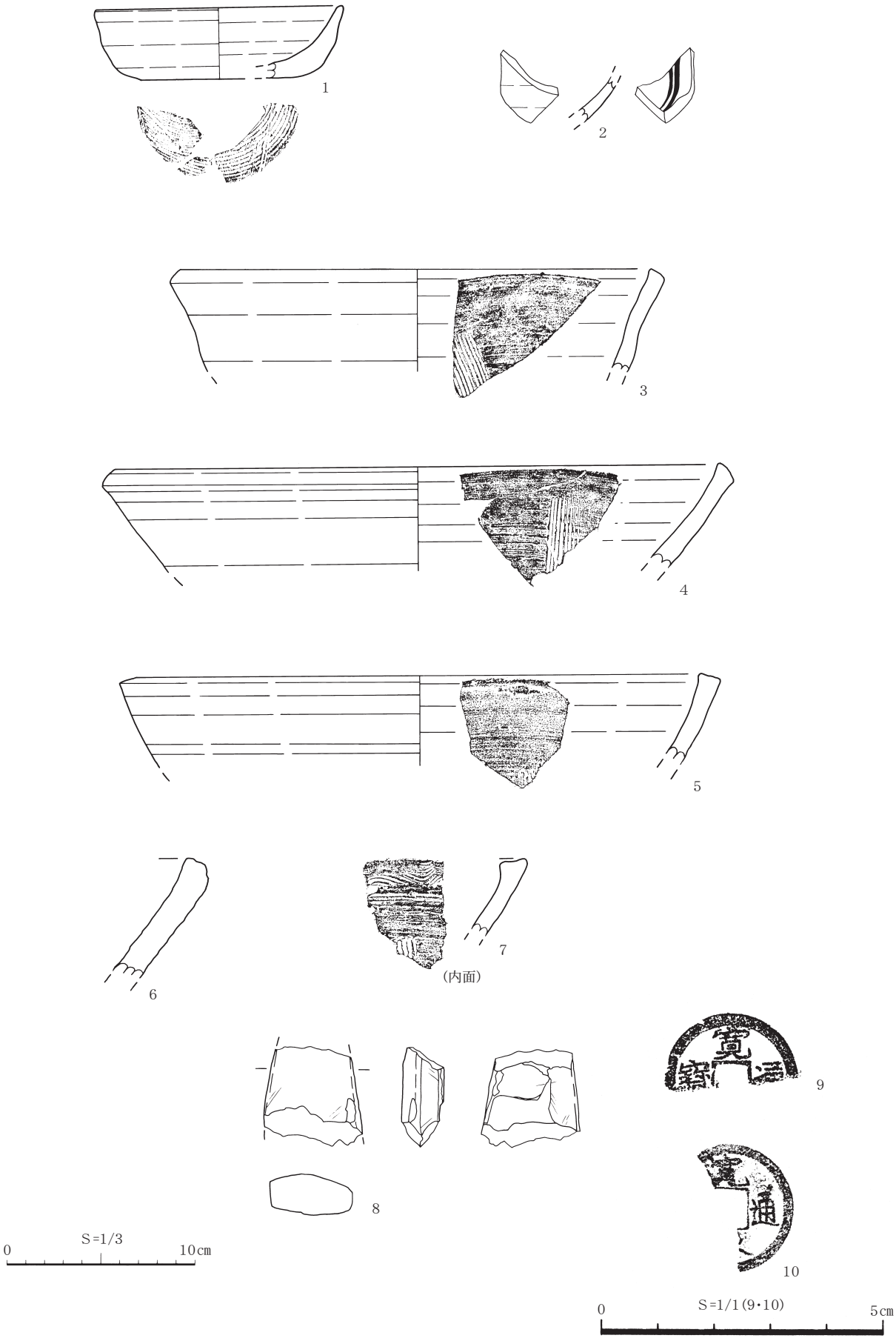


図61　Ｂ区遺構外出土遺物

第５章　Ｃ区の検出遺構と出土遺物

第１節　Ｃ区の概要

前川遺跡Ｃ区は調査区の中央部、村道畑中３号線の東側及び村道畑中９号線の南側に位置し、飛び地のように村道畑中９号線の北側にも一部存在する。現況は全て圃場整備後の水田となっている。村道部分からは一段下がっており、標高は25.8m前後を測る。調査区東側に接する部分には微高地(調査区のC1区)が形成されていて、大部分が畑として現在利用されている。本調査区とC1区の便宜的な境には現在利用されている用水路が１条存在している。現地形では判断できなかったが、微高地部分は堆積土の状況から、圃場整備後の水田域まで拡がっていたことが確認されている。旧地形では微高地の存在する南東から北西方向、また北東から南西方向に緩く傾斜していたものと考えられる。

今回の調査では、基本層序第ＢⅢａ層の上面、及び基本層序第C1Ⅸ・Ⅹ層の上面から竪穴住居跡４軒、竪穴遺構３基、掘立柱建物跡２棟、土坑28基、溝跡14条、道路跡１条、ピットが多数検出された。遺物は遺構内外から土師器を中心に須恵器、土製品、金属製品等が出土している。また、Ａ・Ｂ区同様に基本層序第ＢⅢｂ層の下からＢⅣ層水田遺構が検出されている。

第２節　竪穴住居跡・竪穴遺構

第１号竪穴住居跡（ＣＳＩ－１）（図62・66）

【位置・確認】ＩＧ－36グリッド他に位置している。基本層序第ＢⅢａ層中で確認した。

【重複】第５号溝跡、第13号溝跡、第５号土坑と重複している。堆積土の観察から本遺構が第13号溝跡より新しく、第５号溝跡・第５号土坑よりも古いことが確認できた。

【形態・規模】南西側の一部が調査区外に延びているため全容を伺い知ることはできない。平面形はやや隅丸の方形を呈するものと思われる。推定長軸400㎝、短軸380㎝、深さは40㎝を測る。

【堆積土】８層に分層できた。黒褐色・暗褐色土を主体として自然堆積の様相を呈しているが、北西壁際には人為的な焼土の堆積が認められる。

【壁・床面】壁は床面からほぼ垂直に立ち上がっている。床面は地床であるが、水分を含むとかなり軟弱になる。壁・床共に基本層序第ＢⅢａ・ＢⅢｂ層を基盤としている。

【柱穴】床面からピットが２基検出されているが、深さは12～13㎝と比較的浅く柱穴とは考えにくい。

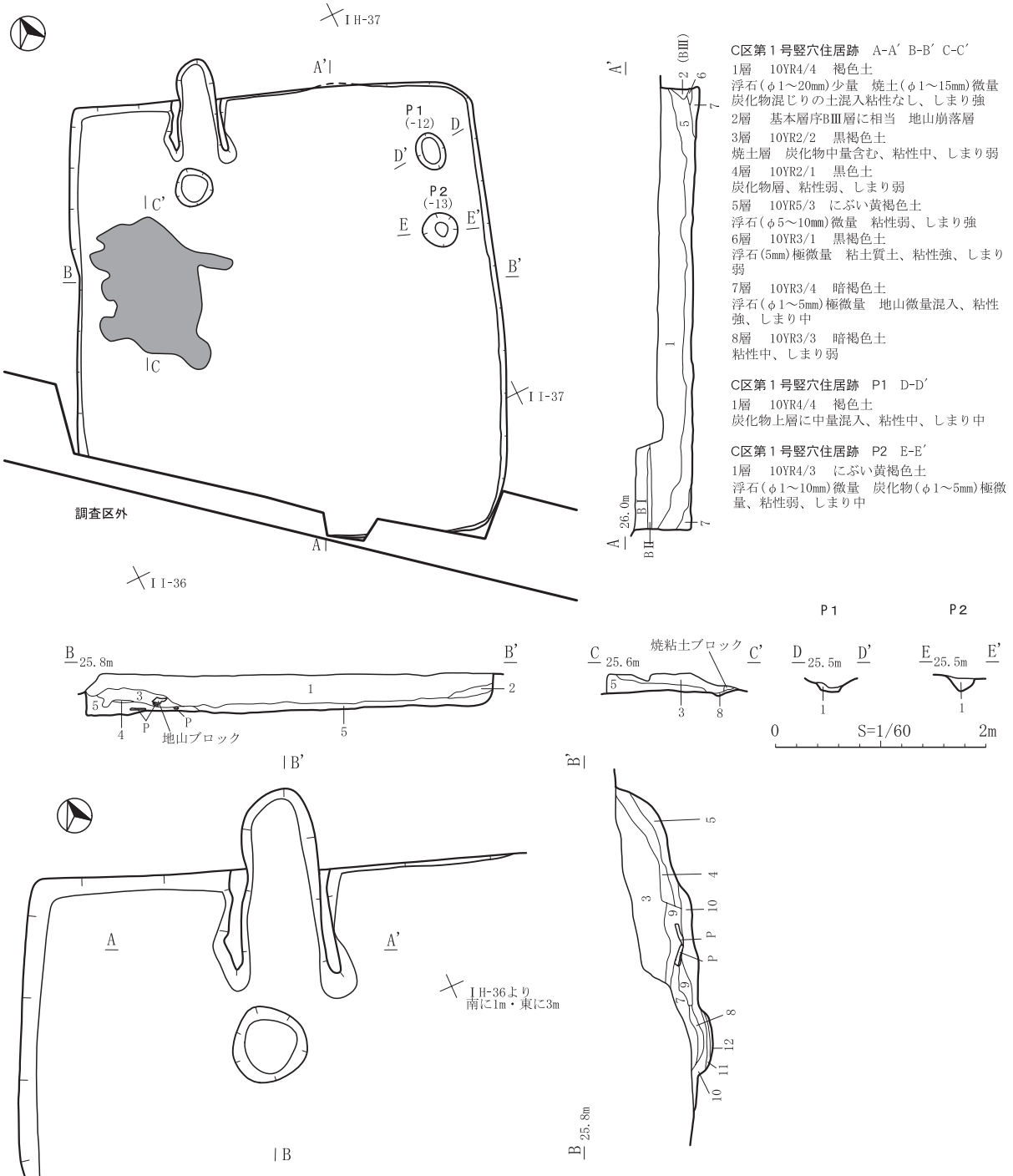
【壁溝】検出されなかった。

【カマド】北東壁北西寄りに１基検出された。煙道部は半地下式を呈していたものと思われ、壁から40㎝程突出している。袖部はやや残存しているが、人為的に壊された様子は認められない。燃焼部は不鮮明であるが灰溜まりと考えられる擂り鉢状の落ち込みを有している。灰溜まりは長径50㎝、短径40㎝の横長の卵形を呈し、深さは20㎝を測る。カマドの軸方位はＮ－25°－Ｅを測る。

【その他の施設】検出されなかった。

【出土遺物】カマド部分を中心に土師器が出土している。

【小結】出土遺物から、平安時代の竪穴住居跡と考えられる。基本層序第ＢⅢａ・ＢⅢｂ層を掘り込ん



C区第１号竪穴住居跡　A-A′ B-B′ C-C′

1層　10YR4/4　褐色土
浮石(φ1～20mm)少量　焼土(φ1～15mm)微量
炭化物混じりの土混入粘性なし、しまり強

2層　基本層序BⅢ層に相当　地山崩落層

3層　10YR2/2　黒褐色土
焼土層　炭化物中量含む、粘性中、しまり弱

4層　10YR2/1　黒色土
炭化物層、粘性弱、しまり弱

5層　10YR5/3　にぶい黄褐色土
浮石(φ5～10mm)微量　粘性弱、しまり強

6層　10YR3/1　黒褐色土
浮石(5mm)極微量　粘土質土、粘性強、しまり弱

7層　10YR3/4　暗褐色土
浮石(φ1～5mm)極微量　地山微量混入、粘性強、しまり中

8層　10YR3/3　暗褐色土
粘性中、しまり弱

C区第１号竪穴住居跡　P1　D-D′

1層　10YR4/4　褐色土
炭化物上層に中量混入、粘性中、しまり中

C区第１号竪穴住居跡　P2　E-E′

1層　10YR4/3　にぶい黄褐色土
浮石(φ1～10mm)微量　炭化物(φ1～5mm)極微量、粘性弱、しまり中

C区第１号竪穴住居跡カマド　A-A′ B-B′

1層	住居覆土１層に相当	
2層	10YR2/1　黒色土	ほぼ炭化物層　灰少量混入、粘性弱、しまり弱
3層	10YR4/4　褐色土	浮石(φ1～10mm)極微量　炭化物(φ1～5mm)極微量、粘性弱しまりやや強
4層	7.5YR3/4　暗褐色土	焼粘土多量混入　カマド崩落層？、粘性やや強、しまり弱
5層	7.5YR2/3　極暗褐色土	焼土ブロック混入　浮石(φ1～10mm)微量、粘性やや強、しまり弱、粘土質
6層	10YR4/4　褐色土	浮石(φ1～20mm)少量　焼土粒(φ1～10mm)微量、粘性やや中、しまり中
7層	10YR3/3　暗褐色土	焼粘土中量混入　炭化物(φ1～10mm)少量、粘性中、しまり弱
8層	10YR2/3　黒褐色土	焼土粒(φ1～5mm)極微量　炭化物(φ1～5mm)極微量、粘性中、しまり弱
9層	5YR4/8　赤褐色土	ほぼ焼土層　炭化物(φ1～10mm)微量、粘性弱、しまりやや強、カマド崩落層
10層	10YR2/1　黒色土	ほぼ炭化物層　地山微量混入、粘性やや中、しまり弱
11層	10YR4/4　褐色土	浮石(φ1～5mm)微量、粘性弱、しまり中
12層	10YR2/1　黒色土	炭化物層、粘性弱、しまり弱
13層	10YR2/3　黒褐色土	一部被熱　下部に炭化物混入、粘性強、しまり中
14層	10YR4/3　にぶい黄褐色土	地山と同色　基部造り出しによる構築方と思われる(BⅢa・b層)

図62　Ｃ区竪穴住居跡（１）

で構築されている。古代のＢⅣ層水田跡より新しい住居跡である。住居内ピットから出土した木炭については放射性炭素年代測定を行っており、980±30yrBPという結果が得られている。詳細については第９章第１節に掲載している。

（笹森）

第２号竪穴住居跡（ＣＳＩ－２）（図63・67・68）

【位置・確認】ＩＣ･Ｄ－35･36グリッド他に位置している。基本層序第ＢⅢａ層中で確認した。

【重複】認められない。

【形態・規模】平面形はやや隅丸の長方形を呈する。長軸320㎝、短軸280㎝、壁高は最大で40㎝を測る。

【堆積土】６層に分層できた。自然堆積の様相を呈している。

【壁・床面】壁は床面からほぼ垂直に立ち上がっている。床面は地床であるが、水分を含むとかなり軟弱になる。

【柱穴】検出されなかった。

【壁溝】検出されなかった。

【カマド】北東壁北西寄りに１基検出された。煙道部は半地下式を呈していたものと思われ、壁から30㎝程突出している。袖部は比較的良好に残存している。人為的に壊された様子は認められない。燃焼部は不鮮明であるが、前面には灰溜まりと考えられる擂り鉢状の落ち込みを有している。灰溜まりは長径56㎝、短径50㎝の不整な円形を呈し、深さは最大16㎝を測る。カマドの軸方位はＮ－17°－Ｅを測る。

【その他の施設】北東及び南東壁のコーナー部に棚状の段を有している。上部での規模は長軸180㎝、短軸90㎝の不整な長方形を呈し、床面からの高さは25㎝前後を測る。版築工法ではなく竪穴構築時に最初から作り出している様子が窺える。上面はほぼ平坦に造られていた。

【出土遺物】カマド部分を中心に土師器や不明石製品が出土している。また、２層から大型哺乳類の骨片が出土している。不明石製品は、形状から支脚として使用された可能性があるものである。掲載はしていない。

【小結】出土遺物から、平安時代の竪穴住居跡と考えられる。基本層序第ＢⅢａ層を掘り込んで構築されている。ＢⅣ層水田跡より新しい住居跡である。

（笹森）

第３号竪穴遺構（ＣＳＩ－３）（図64）

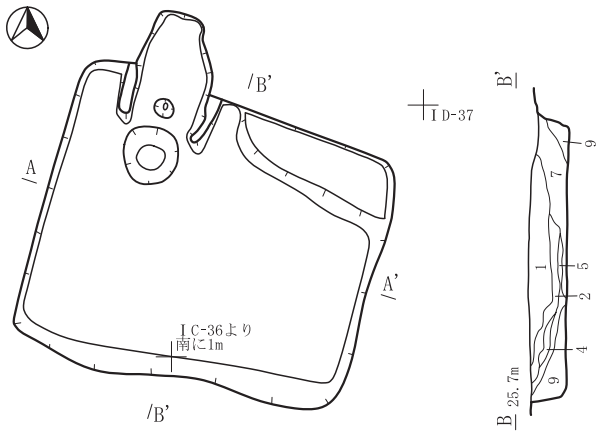
【位置・確認】ＩＤ･Ｅ－37グリッドに位置している。基本層序第ＢⅢａ層及び第13号溝跡検出面で確認した。

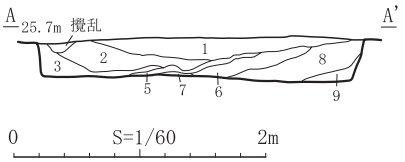
【重複】第13号溝跡と重複している。新旧関係は本遺構が新しいことが確認できる。

【形態・規模】やや不整な方形を呈している。長軸300㎝、短軸290㎝、壁高は最大で20㎝を測る。

【壁・床面】壁は床面から緩やかに立ち上がっている。床面は地床で、かなり凹凸が見られる。基本層序第ＢⅢａ層及び第13号溝跡堆積土を床面としている。

【柱穴】床面からピットが計12基検出されている。本遺構に伴う柱穴であるとは積極的には考えにくい。

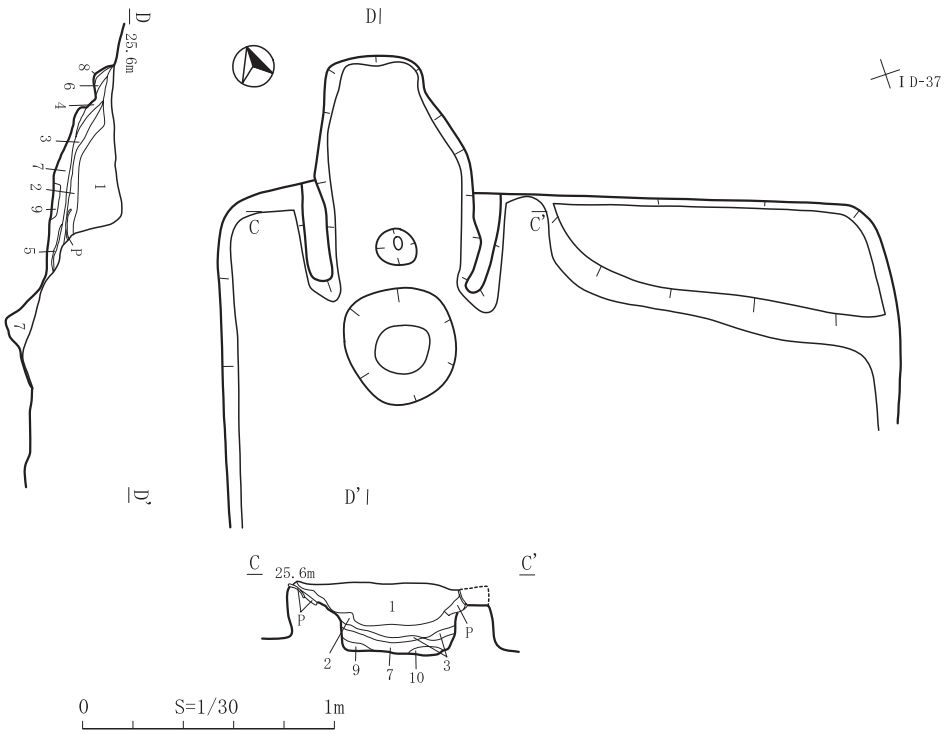




0　S=1/60　2m

C区第２号竪穴住居跡　A-A′ B-B′

1層	10YR4/4	褐色土	浮石(φ1～20㎜)少量　焼土(φ1～15㎜)極微量、粘性弱、しまり強
2層	10YR4/4	褐色土	浮石(φ1～10㎜)微量　焼土粒(φ1～5㎜)極微量、粘性弱、しまり強
3層	10YR3/4	暗褐色土	浮石(φ1～10㎜)微量　焼土粒(φ1～10㎜)極微量　地山微量混入、粘性弱、しまり中
4層	10YR3/4	暗褐色土	浮石(φ1～20㎜)少量　炭化物(φ1～15㎜)微量、粘性弱、しまり弱
5層	10YR2/3	黒褐色土	炭化物層　浮石(φ1～10㎜)微量、粘性弱しまり中
6層	10YR4/6	褐色土	浮石(φ1～20㎜)微量　灰微量混入、粘性弱しまり中
7層	10YR5/3	にぶい黄褐色土	浮石(φ1～10㎜)微量　炭化物少量混入、粘性弱、しまり強
8層	10YR4/3	にぶい黄褐色土	浮石(φ1～25㎜)少量　灰微量混入　焼土(φ1～20㎜)微量混入、粘性弱、しまりやや強
9層	10YR4/4	褐色土	浮石(φ1～5㎜)微量　炭化物(φ1～10㎜)極微量、粘性やや中、しまり中



0　S=1/30　1m

C区第２号竪穴住居跡カマド　C-C′ D-D′

1層	10YR3/4	暗褐色土	浮石(φ1～10㎜)微量　黒褐色土粒(φ1～10㎜)微量、粘性強、しまり中
2層	10YR3/3	暗褐色粘土質土	炭化物(φ1～15㎜)微量　浮石(φ1～2㎜)極微量、粘性強、しまりやや弱
3層	7.5YR3/2	黒褐色焼粘土	炭化物粒(φ1～3㎜)微量、粘性強、しまりやや強
4層	10YR4/4	褐色粘土質土	浮石(φ1～20㎜)微量　炭化物粒(φ1～5㎜)微量、粘性強、しまり中
5層	10YR3/3	暗褐色焼粘土	7.5YR5/6明褐色焼土多量、粘性強、しまり中
6層	10YR2/1	黒色炭化物	浮石(φ1～10㎜)微量、粘性やや強、しまり中
7層	10YR1.7/1	黒色炭化物	層上層に10YR3/1黒褐色灰が幅2cm～2.5cmの帯状に混入　SecA-A'の方が灰多く、層下層に炭が幅0.5cm～1cmの帯状に混入、粘性強しまり弱
8層	10YR4/4	褐色土	浮石(φ5㎜)極微量、粘性弱、しまり強
9層	2.5Y5/3	黄褐色粘土	炭化物(φ5㎜)極微量、粘性強、しまり中
10層	10YR4/3	にぶい黄褐色粘土	炭化物粒(φ1～5㎜)極微量　浮石(φ1～3㎜)極微量、粘性強、しまり中

図63　Ｃ区竪穴住居跡（２）

【壁溝】検出されなかった。
【その他の施設】検出されなかった。
【堆積土】２層に分層できた。人為堆積の様相を呈している。
【出土遺物】土師器の細片や椀型滓が出土しているが、図示できるような遺物ではない。
【小結】出土遺物や形状及び堆積土の状況から、古代～中世の竪穴遺構と考えられる。

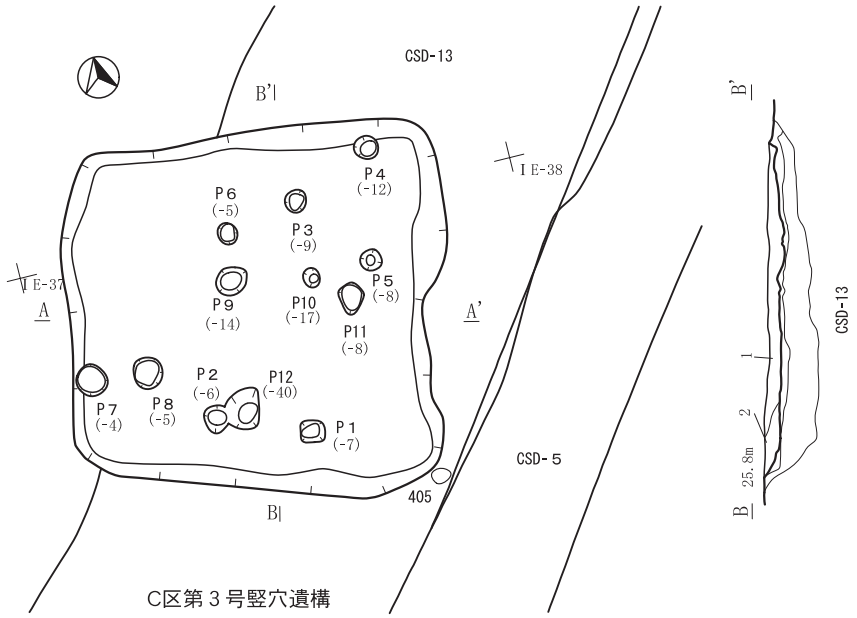
（笹森）

第４号竪穴遺構（ＣＳＩ－４）（図64）
【位置・確認】Ｘ･Ｙ－34･35グリッドに位置している。基本層序第ＢⅢａ層中で確認した。
【重複】第５号竪穴遺構と重複している。新旧関係は堆積土の観察から本遺構が新しいことが確認できる。
【形態・規模】大半が農道及び用水路部分の調査区外に延びているため全容を伺い知ることはできない。確認できる１辺の長さは約300㎝、壁高は最大で39㎝を測る。
【壁・床面】壁は床面からほぼ垂直に立ち上がっている。床面は地床で、多少凹凸が見られるが、ほぼ平坦である。基本層序第ＢⅤ層を床面としている。
【柱穴】検出されなかった。
【壁溝】検出されなかった。
【その他の施設】検出されなかった。
【堆積土】８層に分層できた。人為堆積の様相を呈している。
【出土遺物】土師器片や須恵器長頸壺の口縁部片が出土している。
【小結】出土遺物や形状及び堆積土の状況から、古代～中世の竪穴遺構と考えられる。

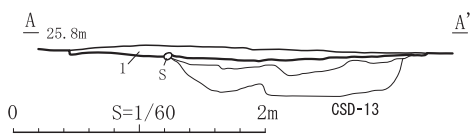
（笹森）

第５号竪穴遺構（ＣＳＩ－５）（図64）
【位置・確認】Ｘ－34グリッドに位置している。基本層序第ＢⅢａ層中で確認した。
【重複】第４号竪穴遺構、第30号土坑と重複している。新旧関係は堆積土の観察から本遺構が第30号土坑より新しく第４号竪穴遺構古いことが確認できる。
【形態・規模】大半が用水路部分及び農道の調査区外に延びているため全容を伺い知ることはできない。確認できる１辺の長さは約200㎝、壁高は最大で59㎝を測る。
【壁・床面】壁は床面からほぼ垂直に立ち上がっている。床面は地床で、多少凹凸が見られるが、ほぼ平坦である。基本層序第ＢⅤ層を床面としている。
【柱穴】検出されなかった。
【壁溝】検出されなかった。
【その他の施設】検出されなかった。
【堆積土】６層に分層できた。人為堆積の様相を呈している。
【出土遺物】図示できるような遺物は出土していない。
【小結】形状及び堆積土の状況から、古代～中世の竪穴遺構と考えられる。

（笹森）

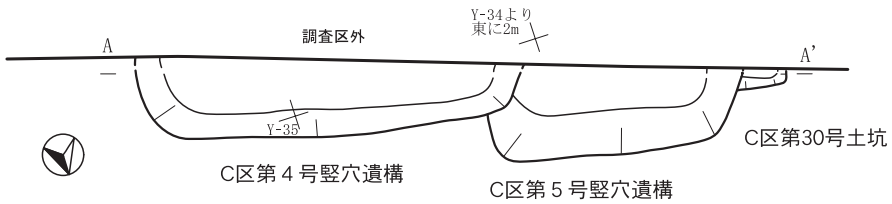


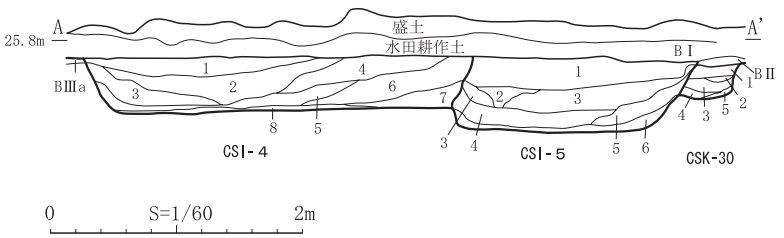
C区第３号竪穴遺構



C区第３号竪穴遺構　A-A′ B-B′

1層	10YR3/3	暗褐色土	10YR3/2黒褐色粘土多量、浮石(φ2～20mm)微量　炭化物(φ1～3mm)極微量、粘性弱、しまり強
2層	7.5YR3/4	暗褐色土	10YR4/2灰黄褐色粘土多量、浮石(φ1～25mm)微量、粘性中、しまり強





C区第４号竪穴遺構　A-A′

1層	10YR4/6	褐色土	浮石(φ1～20mm)少量　炭化物(φ1～10mm)微量、粘性弱、しまり強
2層	10YR4/4	褐色土	浮石(φ1～10mm)微量　シラスまばらに少量混入　炭化物(φ1～10mm)極微量、粘性弱、しまり中
3層	10YR4/6	褐色土	浮石(φ1～15mm)微量　シラスブロック状に中量混入、粘性弱、しまり中
4層	10YR3/4	暗褐色土	浮石(φ1～5mm)極微量　炭化物(φ1～5mm)極微量　粘性弱、しまり強
5層	10YR5/6	黄褐色土	浮石(φ1～15mm)極微量　暗褐色土(φ60mm)ブロック状に混入、粘性弱、しまりやや強
6層	10YR3/3	暗褐色土	浮石(φ1～10mm)極微量　炭化物(φ1～10mm)極微量　シラス微量混入、粘性弱、しまり弱
7層	10YR4/2	灰黄褐色土	浮石(φ1～5mm)極微量、粘性弱、しまり強
8層	10YR5/4	にぶい黄褐色土	浮石(φ1～15mm)極微量　地山との混合層、粘性弱、しまり強

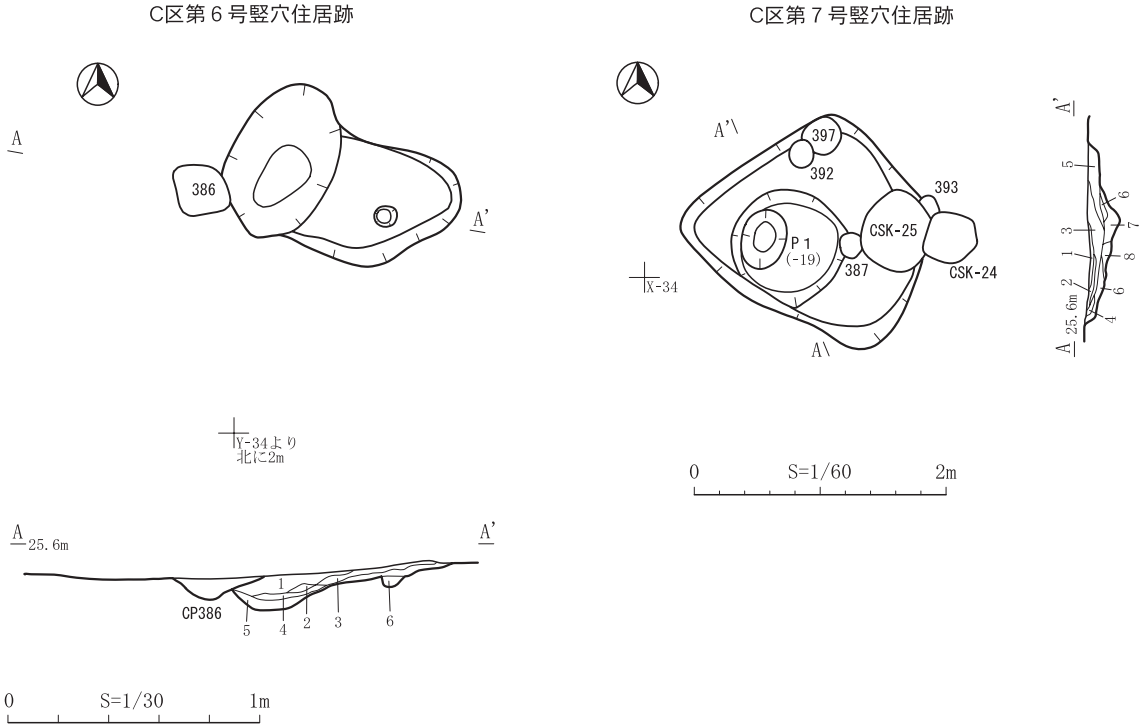
C区第５号竪穴遺構　A-A′

1層	10YR3/3	暗褐色土	浮石(φ1～2mm)極微量　黄色粘土少量混入　炭化物(φ1～10mm)極微量、粘性弱、しまり強
2層	10YR4/2	灰黄褐色土	浮石(φ1～10mm)微量、粘性弱、しまり強、Pit覆土?
3層	10YR4/3	にぶい黄褐色土	浮石(φ1～10mm)極微量　粘性弱、しまり中
4層	10YR4/2	灰黄褐色土	浮石(φ1～5mm)極微量　シラス微量混入、粘性弱、しまり中
5層	10YR5/3	にぶい黄褐色土	浮石(φ1～10mm)極微量　黄色粘土微量混入、粘性やや中、しまり弱
6層	10YR4/3	にぶい黄褐色土	浮石(φ1～10mm)極微量　地山との混合層、粘性弱、しまりやや強

C区第30号土坑　A-A′

1層	CSK-28、1層参照		
2層	10YR3/3	暗褐色土	浮石(φ1～10mm)微量　炭化物(φ1～5mm)極微量、粘性強、しまり強
3層	10YR4/3	にぶい黄褐色シルト	10YR3/3暗褐色粘土質土多量、浮石(φ1～5mm)微量、炭化物(φ1～10mm)極微量、粘性強、しまりやや強
4層	2.5Y5/3	黄褐色シルト質土	粘性中、しまり強
5層	10YR4/3	にぶい黄褐色土	粘性強、しまり強

図64　Ｃ区竪穴遺構・土坑（１）



C区第６号竪穴住居跡　A-A′

1層	10YR4/3	にぶい黄褐色土	焼土ブロック(1～2cm)10% 炭化物5%混入、粘性中、しまり中
2層	10YR3/4	暗褐色土	炭化物20%　灰30%混入、粘性弱、しまり中
3層	10YR5/4	にぶい黄褐色土	浮石(φ2～3mm)少量　細砂粒(φ1mm以下)10%混入、粘性強、しまり中
4層	10YR4/3	にぶい黄褐色土	細砂粒(φ1mm以下)20%混入、粘性強、しまり中、住居覆土
5層	10YR2/1	黒色土	炭と灰の層　焼土少量混入、粘性弱、しまり弱
6層	10YR3/2	黒褐色土	Pit?粘土や地山が混ざっている層、粘性弱、しまりやや強

C区第７号竪穴住居跡　A-A′

1層	10YR4/6	褐色土	浮石(φ1～20mm)少量　シラス微量混入、粘性弱、しまりやや強
2層	10YR3/4	暗褐色土	浮石(φ1～5mm)極微量　炭化物(φ1～5mm)微量、粘性弱、しまり強
3層	10YR4/4	褐色土	浮石(φ1～10mm)微量　炭化物(φ1～5mm)極微量、粘性弱、しまり強
4層	10YR4/6	褐色土	浮石(φ1～5mm)微量、粘性弱、しまりやや強
5層	10YR6/4	にぶい黄褐色土	浮石(φ1～10mm)極微量　炭化物(φ1～10mm)極微量　焼土粒(φ1～15mm)微量　シラス少量混入、粘性弱、しまり強
6層	10YR5/4	にぶい黄褐色土	浮石(φ1～3mm)微量　炭化物(φ1～30mm)少量　焼けた粘土と焼土中量混入、粘性中、しまりやや強
7層	10YR2/1	黒色土	炭と灰の層　焼土(φ1～25mm)微量、粘性弱、しまり弱
8層	10YR3/3	暗褐色土	浮石(φ1～5mm)極微量　白色・褐色粘土少量混入、粘性中、しまり中、焼けた粘土層

図65　Ｃ区竪穴住居跡（３）

第６号竪穴住居跡（ＣＳＩ－６）（図65）

【位置・確認】Ｘ－33･34グリッドに位置している。基本層序第ＢⅢａ層中で確認した。カマドのみの確認である。

【重複】第386号ピットと重複している。堆積土の観察から本遺構が古いことが確認できる。

【形態・規模】不明である。

【堆積土】不明である。

【壁・床面】不明である。

【柱穴】不明である。

【壁溝】不明である。

【カマド】南東壁に付随していたものと考えられる。煙道部は半地下式を呈していたものと思われる。袖部はほとんど残存していない。火床面も不鮮明で、灰溜まりと考えられる擂り鉢状の落ち込みが認められる程度である。落ち込みの長径63㎝、短径41㎝、深さは14㎝を測る。

【その他の施設】不明である。

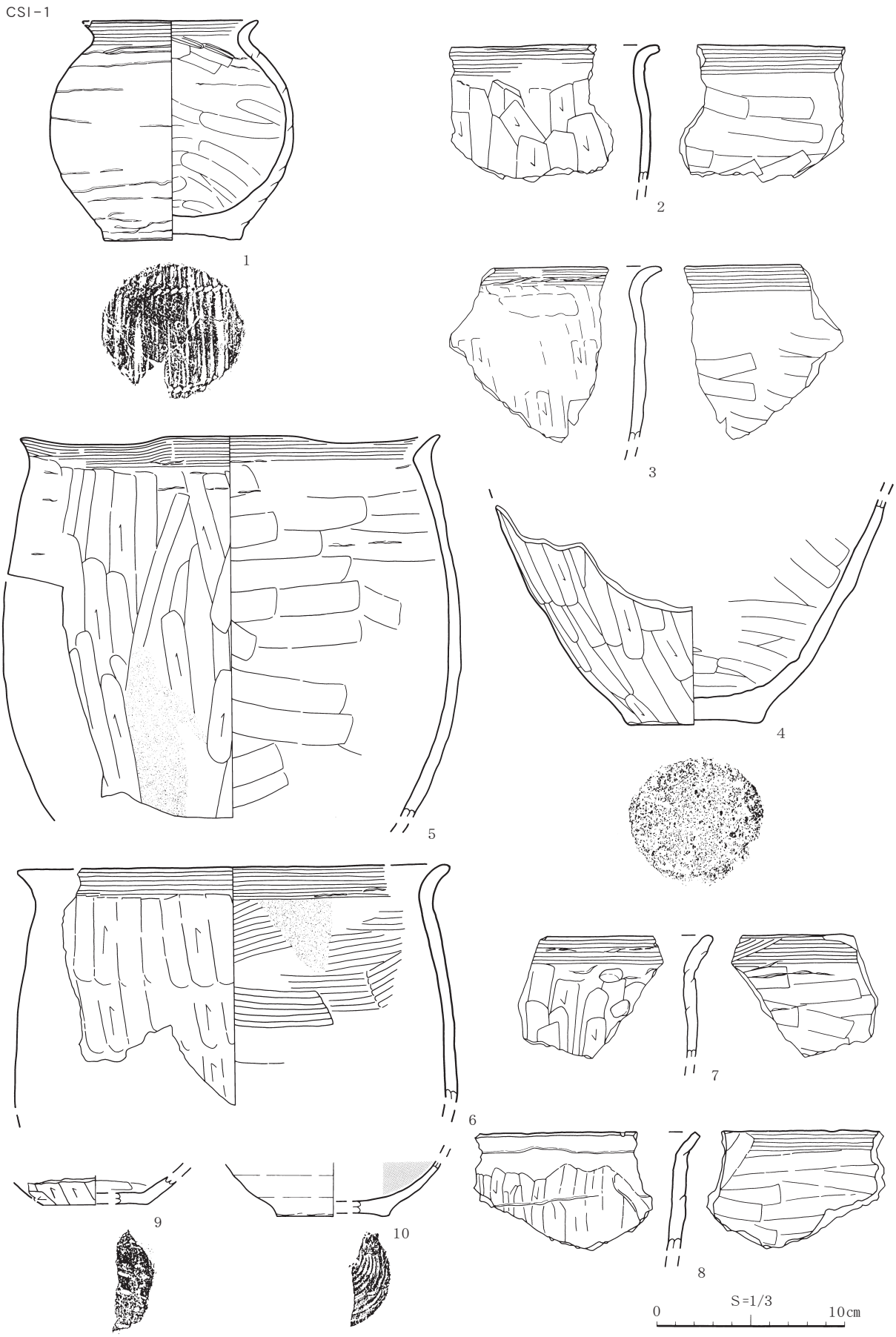


図66　Ｃ区竪穴住居跡出土遺物（１）

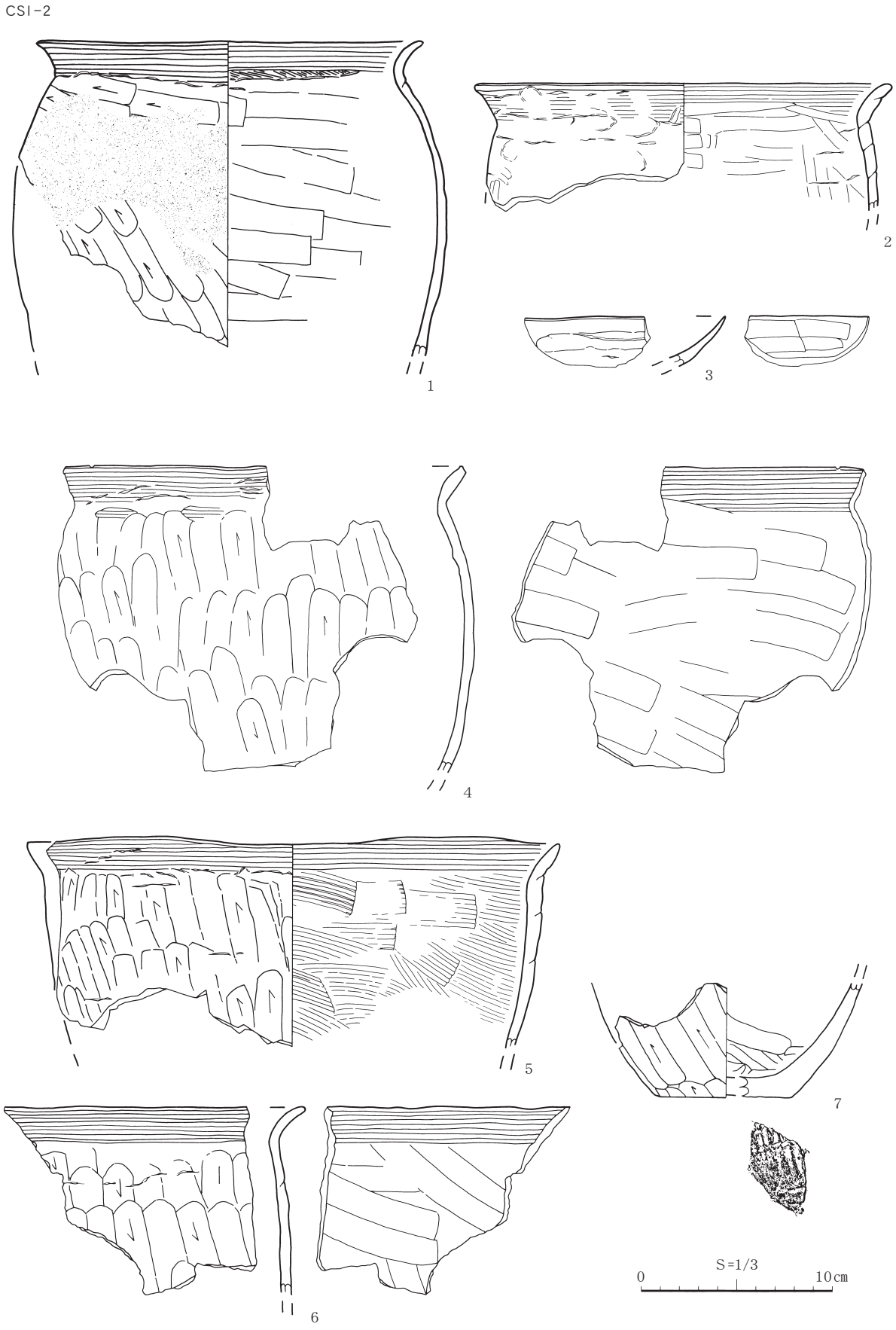


図67　C区竪穴住居跡出土遺物（２）

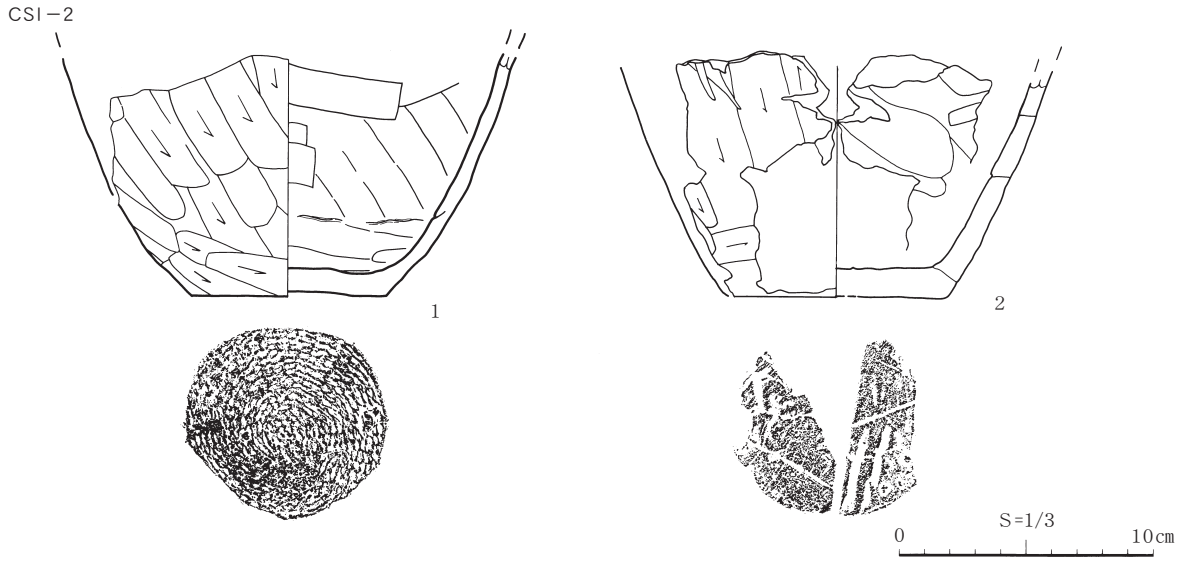


図68　Ｃ区竪穴住居跡出土遺物（３）

【出土遺物】土師器甕の破片が出土しているが図示できるような遺物ではない。

【小結】カマドと思われる痕跡の検出から、平安時代の竪穴住居跡の一部と考えられる。基本層序第ＢⅢａ層を掘り込んで構築されている。古代のＢⅣ層水田跡より新しい住居跡である。

（笹森）

第７号竪穴住居跡（ＣＳＩ－７）（図65）

【位置・確認】Ｗ･Ｘ－34グリッドに位置している。基本層序第ＢⅢａ層中で確認した。カマド周辺と考えられる部分のみの検出である。

【重複】第18号掘立柱建物跡、第24・25号土坑、第387・392・393・397号ピットと重複している。全ての遺構より古いことが堆積土の状況から確認できた。

【形態・規模】不明である。

【堆積土】不明である。

【壁・床面】不明である。

【柱穴】不明である。

【壁溝】不明である。

【カマド】南東壁に付随していたものと考えられる。煙道部は半地下式を呈していたものと思われるが、袖部はほとんど残存していない。火床面も不鮮明で灰溜まりと考えられる擂り鉢状の浅い落ち込みが認められる程度である。

【その他の施設】不明である。

【出土遺物】図示できるような遺物は出土していない。

【小結】平安時代の竪穴住居跡の一部と考えられる。基本層序第ＢⅢａ層を掘り込んで構築されている。

（笹森）

第３節　掘立柱建物跡・ピット

第17号掘立柱建物跡（ＣＳＢ－17）（図69）

【位置】ＩＤ－33グリッド外に位置する。

【重複】なし。

【構造・規模】構造は身舎の桁行２間以上（5,398㎜以上）、身舎の梁間２間（3,895㎜）を測る建物跡で、その周囲に庇が付随する構造と考えられる。総計15基の柱穴を検出した。主軸方位はＮ－15.5°－Ｅである。

【柱穴】柱穴の規模は長径29～37㎝、短径26～36㎝、深さは12～38㎝を測る。第３・４・５・７・10・11・14・15号ピットでは柱痕を検出した。

【柱間寸法】身舎の桁行2,507～2,891㎜、梁間1,867～2,028㎜を測る。庇と思われる桁行は1,136～2,891㎜、梁間は1,146～2,028㎜を測る。

【出土遺物】遺物は出土しなかった。

【小結】建物構造から、第１号道路跡と同時期に造られた可能性がある。

（笹森）

第18号掘立柱建物跡（ＣＳＢ－18）（図69）

【位置】Ｗ－34グリッド外に位置する。

【重複】第７号竪穴住居跡よりも新しい。

【構造・規模】構造は身舎の桁行３間（5,519㎜）、身舎の梁間１間（1,755㎜）を測る建物跡で、その周囲に庇が付随する構造と考えられる。総計16基の柱穴を検出した。主軸方位はＮ－82°－Ｅである。

【柱穴】柱穴の規模は長径22～42㎝、短径20～39㎝、深さは３～35㎝を測る。柱痕を検出したピットはない。

【柱間寸法】身舎の桁行1,769～1,959㎜、身舎の梁間1,755～1,980㎜を測る。庇と思われる桁行は1,523～2,136、梁間は1,243～1,980㎜を測る。

【出土遺物】遺物は出土しなかった。

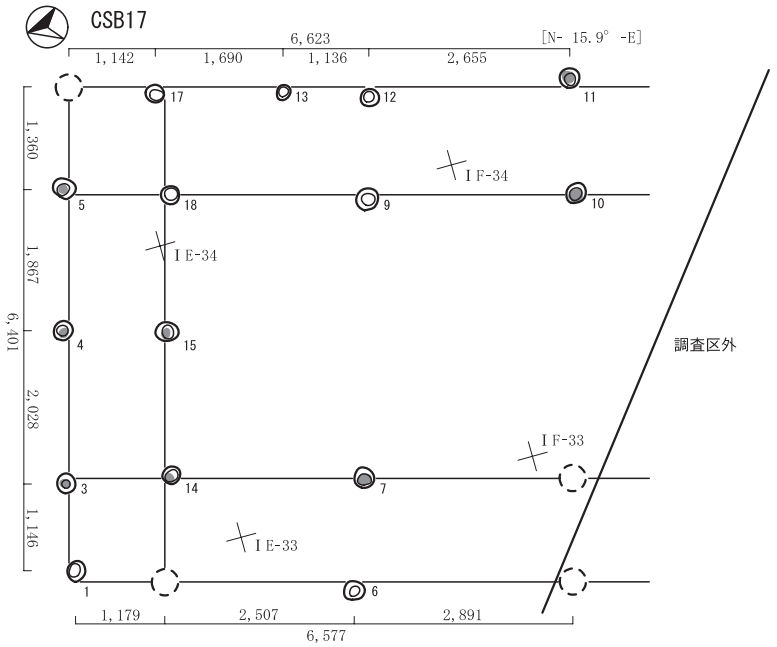
【小結】建物の軸方向から、第17号掘立柱建物跡とは構築時期に違いがあった可能性が高い。

（笹森）

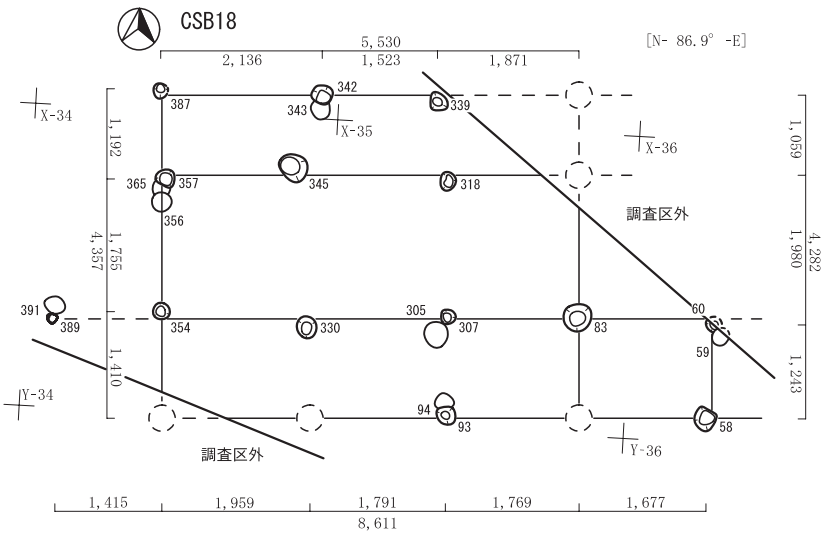
ピット（ＣＰ）（付図２）

Ｃ区で検出されたピットは総計214基である。その内第17・18号掘立柱建物跡を構成する31基を除くと183基となる。これらの検出状況は今回の調査で検出された第１号道路跡を境に様相を異にする。第１号道路跡の北側では総数164基のピットが検出され、全体の約９割が集中している傾向が確認できる。第１号道路跡を境として南北両区域から掘立柱建物跡が１棟ずつ検出されていることも興味深く、南側に位置する第17号掘立柱建物跡の桁行軸方向は道路跡にほぼ直交するのに対し、北側に位置する第18号掘立柱建物跡の桁行・梁間の軸方向は道路跡とはいくらかずれている様子が確認できる。前述したように構築時期に違いがあった可能性も考えられる。

（笹森）



番号	1	3	4	5	6	7	9	10	11	12	13	14	15	17	18
深さ	30	17	25	23	25	25	31	22	28	38	32	12	19	30	24



番号	58	60	83	93	305	307	318	330	339	342	345	354	357	387	389	391
深さ	14	11	35	34	24	7	10	23	22	32	23	14	16	23	3	18

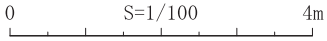


図69　Ｃ区掘立柱建物跡

第４節　土坑

第１号土坑（ＣＳＫ－１）（図70）

【位置・確認】ＩＤ・ＩＥ－32グリッド他に位置している。基本層序第ＢⅢａ層中で確認した。

【重複】第３号溝跡と重複している。明確な新旧関係は不明であるが、同時期に存在していた可能性も考えられる。

【形態・規模】西側が調査区外に延びている。確認できた範囲での長さは約3.7ｍである。平面形は円形を呈する可能性が高い。

【壁・底面】基本層序第ＢⅢａ層を壁・底面としている。壁は底面から緩やかに立ち上がっている。底面は中央部に向かって傾斜を有している。断面の形状は概ね擂り鉢状である。

【堆積土】９層に分層できた。自然堆積の様相を呈している。

【出土遺物】礫が多量に出土している。図示できるものではない。

【小結】詳細については不明である。

（笹森）

第２号土坑（ＣＳＫ－２）（図70）

【位置・確認】ＩＥ－32グリッドに位置している。基本層序第ＢⅢａ層中で確認した。

【重複】認められない。

【形態・規模】平面形はやや隅丸の長方形を呈している。長軸106㎝、短軸52㎝、深さは20㎝を測る。

【壁・底面】基本層序第ＢⅢａ層を壁・底面としている。壁は底面からほぼ垂直に立ち上がっている。底面は平坦である。断面の形状は箱状である。

【堆積土】１層の単層である。人為堆積の様相を呈している。

【出土遺物】堆積土中から土師器の細片、底面から円礫が数点出土している。

【小結】詳細については不明であるが形状から、古代以降の土坑墓の可能性も考えられる。

（笹森）

第３号土坑（ＣＳＫ－３）（図70）

【位置・確認】ＩＤ－32・33グリッドに位置している。基本層序第ＢⅢａ層中で確認した。

【重複】認められない。

【形態・規模】平面形は小判形を呈している。長軸92㎝、短軸60㎝、深さは16㎝を測る。

【壁・底面】基本層序第ＢⅢａ層を壁・底面としている。壁は底面から緩やかに立ち上がっている。底面は平坦である。断面の形状は箱状である。

【堆積土】１層の単層である。自然堆積の様相を呈している。

【出土遺物】遺物は出土していない。

【小結】詳細については不明である。

（笹森）

第４号土坑（ＣＳＫ－４）（図70）

【位置・確認】ＩＧ－35グリッドに位置している。基本層序第ＢⅢａ層中で確認した。

【重複】認められない。

【形態・規模】平面形は楕円形を呈している。長径84㎝、短径50㎝、深さは22㎝を測る。

【壁・底面】基本層序第ＢⅢａ層を壁・底面としている。壁は底面から緩やかに立ち上がっている。底面は平坦である。断面の形状は箱状である。

【堆積土】３層に分層できた。自然堆積の様相を呈している。

【出土遺物】土師器の細片や礫が出土している。図示できるものではない。

【小結】詳細については不明であるが、平安時代の土坑の可能性が高い。

（笹森）

第５号土坑（ＣＳＫ－５）（図70）

【位置・確認】ＩＧ－35グリッド他に位置している。遺構堆積土中で確認した。

【重複】第１号竪穴住居跡、第５・13号溝跡、第26・29号ピットと重複している。本遺構がピットより古く、他の遺構よりは新しいことが堆積土の状況から確認できた。

【形態・規模】平面形は隅丸の長方形を呈している。長軸240㎝、短軸80㎝、深さは18㎝を測る。

【壁・底面】第５・13号溝跡の堆積土を壁・底面としている。壁は底面から緩やかに立ち上がっている。底面は平坦である。断面の形状は箱状である。

【堆積土】４層に分層できた。人為堆積の様相を呈している。

【出土遺物】３層より土師器の細片が出土している。

【小結】出土遺物より平安時代の土坑と考えられる。詳細については不明である。

（笹森）

第６号土坑（ＣＳＫ－６）（図70）

【位置・確認】ＩＦ・ＩＧ－35グリッドに位置している。基本層序第ＢⅢａ層中で確認した。

【重複】認められない。

【形態・規模】やや不整な円形を呈している。長径54㎝、短径46㎝、深さは42㎝を測る。

【壁・底面】基本層序第ＢⅢａ層を壁・底面としている。壁は底面から緩やかに立ち上がっている。底面は平坦である。断面の形状は箱状である。

【堆積土】５層に分層できた。自然堆積の様相を呈している。

【出土遺物】２層から土師器坏口縁部破片、土師器甕胴部破片が出土している。

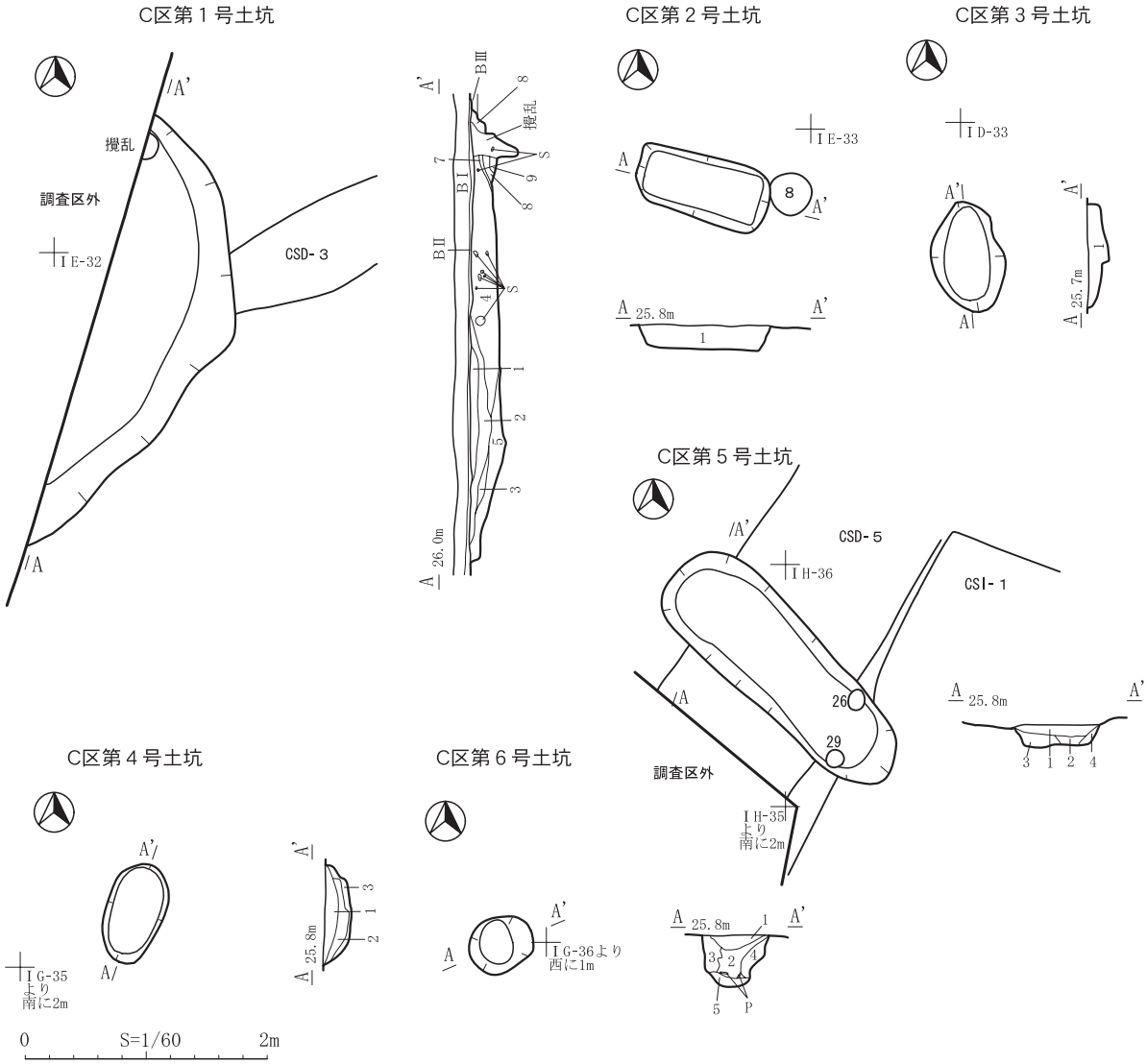
【小結】出土遺物より平安時代の土坑と考えられる。詳細については不明である。

（笹森）

第７号土坑（ＣＳＫ－７）（図71）

【位置・確認】ＩＦ－37グリッドに位置している。他遺構検出面確認した。

【重複】第５号溝跡と重複している。本遺構が新しいことが確認面で確認できた。



C区第１号土坑

1層	2.5Y5/2	暗灰黄色土	10YR3/4暗褐色土多量、浮石(φ1～5mm)微量、粘性弱、しまり強
2層	10YR4/2	灰黄褐色粘土	10YR3/4暗褐色土粒(φ1～30mm)多量、浮石(φ1～10mm)微量、粘性なし、しまり強
3層	10YR4/2	灰黄褐色粘土	10YR3/4暗褐色土(φ1～3mm)中量、浮石(φ1～3mm)極微量、粘性弱、しまり強
4層	10YR4/4	褐色土	2.5Y5/1黄灰色砂多量、浮石(φ1～20mm)少量、小礫混入、粘性なし、しまり弱
5層	2.5Y4/1	黄灰粘土	10YR3/4暗褐色土粒(φ1～20mm)中量、浮石(φ1～10mm)少量、粘性弱、しまり強
6層	10YR3/3	暗褐色土	粘性なし、しまり強
7層	7.5YR3/4	暗褐色土	10YR4/2灰黄褐色土多量、粘性なし、しまり強
8層	10YR4/2	灰黄褐色土	浮石(φ1～3mm)微量、粘性弱、しまり強
9層	10YR3/4	暗褐色土	浮石(φ1～3mm)微量、粘性なし、しまり強

C区第２号土坑

1層	10YR4/2	灰黄褐色土	10YR4/6褐色土多量、浮石(φ1～20mm)少量、地山との混合土、粘性なし、しまり強

C区第３号土坑

1層	10YR4/4	褐色土	10YR5/3にぶい黄褐色土多量、粘性強、しまり強

C区第４号土坑

1層	10YR4/3	にぶい黄褐色土	浮石(φ1～2mm)微量、炭化物(φ1～1.5mm)極微量、粘性強、しまり強
2層	10YR4/2	灰黄褐色土	浮石(φ1～2mm)極微量、遺物混入、粘性強、しまり強
3層	10YR4/4	褐色土	炭化物(φ1～2mm)極微量、粘性強、しまり強

C区第５号土坑

1層	10YR3/4	暗褐色土	浮石(φ1～5mm)微量、炭化物(φ1～3mm)極微量、粘性弱、しまりやや強
2層	10YR4/3	にぶい黄褐色土	浮石(φ1～10mm)微量、焼土(φ1～15mm)極微量　地山混入、粘性弱、しまり強
3層	10YR4/4	褐色土	浮石(φ1～20mm)微量、焼粘土ブロック極微量混入　炭化物(φ1～3mm)極微量　地山崩落層？、粘性弱、しまり強
4層	10YR4/4	褐色土	BⅢ層に相当

C区第６号土坑

1層	10YR4/4	褐色土	浮石(φ1～10mm)少量、炭化物粒(φ1～5mm)極微量、粘性やや強、しまり強
2層	10YR2/1	黒色土	浮石(φ1～5mm)微量、焼土粒(φ1～5mm)微量　炭化物の層、粘性中、しまり弱
3層	10YR4/4	褐色土	浮石(φ1～10mm)微量、炭化物粒(φ1～3mm)極微量、粘性中、しまりやや強
4層	10YR5/4	にぶい黄褐色土	浮石(φ1～3mm)微量、粘性なし、しまり中
5層	2.5Y5/3	黄褐色土	砂と小石が多量混入、粘性中、しまり中

図70　C区土坑（２）

【形態・規模】隅丸の長方形を呈している。長軸54㎝、短軸38㎝、深さは６㎝を測る。
【壁・底面】第５号溝跡堆積土を壁・底面としている。壁は底面からやや急に立ち上がっている。底面は平坦である。断面の形状は箱状である。
【堆積土】１層である。自然堆積の様相を呈している。
【出土遺物】図示できるような遺物は出土していない。
【小結】詳細については不明であるが遺構の重複関係等から、中世以降の可能性が高い。

（笹森）

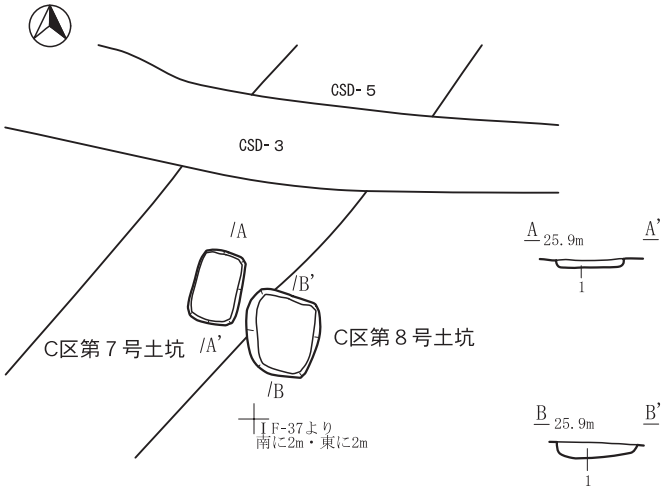
第８号土坑（ＣＳＫ－８）（図71）
【位置・確認】ＩＦ－37グリッドに位置している。第５号溝跡検出面及び基本層序第ＢⅢａ層中で確認した。
【重複】第５号溝跡と重複している。本遺構が新しいことが検出面で確認できた。
【形態・規模】隅丸の方形を呈している。長軸64㎝、短軸50㎝、深さは10㎝を測る。
【壁・底面】遺構堆積土を壁・底面としている。壁は底面からやや急に立ち上がっている。底面は平坦である。断面の形状は箱状である。
【堆積土】１層の単層である。自然堆積の様相を呈している。
【出土遺物】遺物は出土していない。
【小結】詳細については不明であるが遺構の重複関係等から、中世以降の可能性が高い。

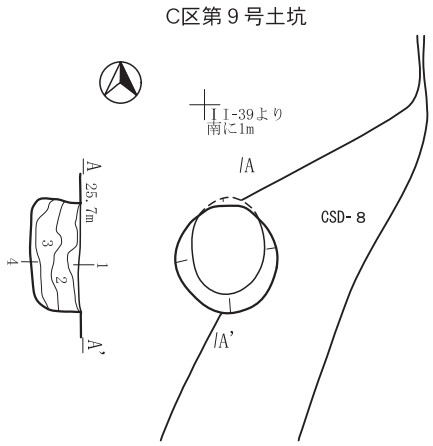
（笹森）

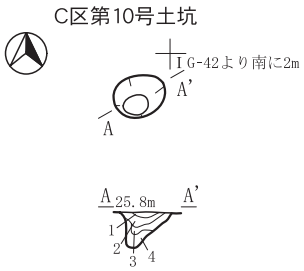
第９号土坑（ＣＳＫ－９）（図71）
【位置・確認】ＩＩ－38・39グリッドに位置している。基本層序第ＢⅢａ層及び第８号溝跡検出面で確認した。
【重複】第８号溝跡と一部重複している。新旧関係は本遺構が新しい。
【形態・規模】円形を呈している。長径90㎝、短径80㎝、深さは40㎝を測る。
【壁・底面】基本層序第ＢⅢａ層及び遺構堆積土を壁・底面としている。壁は底面からほぼ垂直に立ち上がっている。底面は平坦である。断面の形状は箱状である。
【堆積土】４層に分層できた。自然堆積の様相を呈している。
【出土遺物】１層より、内外面にミガキ調整を施した土師器坏の底部破片が出土している。
【小結】詳細については不明であるが出土遺物から、平安時代の可能性が高い。

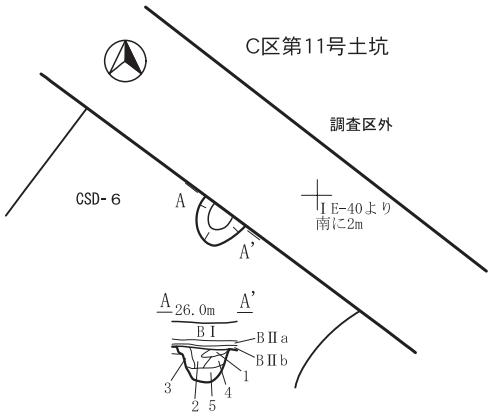
（笹森）

第10号土坑（ＣＳＫ－10）（図71）
【位置・確認】ＩＧ－41グリッドに位置している。微高地部分の基本層序第C1Ｘ層中で確認した。
【重複】認められない。
【形態・規模】円形を呈している。長径42㎝、短径32㎝、深さは30㎝を測る。
【壁・底面】微高地部分の基本層序第C1Ｘ層を壁・底面としている。壁は底面からほぼ垂直に立ち上が









0 S=1/60 2m

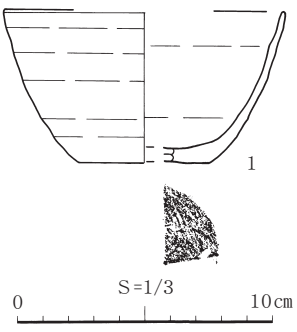
C区第７号土坑
1層 10YR4/2 灰黄褐色土 浮石(φ1～10㎜)少量、鉄分少量混入、炭化物粒(φ1～5㎜)微量、粘性弱、しまり強

C区第８号土坑
1層 10YR4/2 灰黄褐色土 浮石(φ1～5㎜)少量、鉄分少量混入、小礫(φ20㎜)微量混入、粘性弱、しまり強

C区第９号土坑
1層 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト質土 10YR4/6褐色土(φ1～15㎜)中量、浮石(φ1～5㎜)極微量、粘性弱、しまり強
2層 10YR4/3 にぶい黄褐色土 7.5YR4/6褐色土(φ1～20㎜)中量、粘性中、しまり強
3層 10YR4/2 灰黄褐色粘土 7.5YR4/6褐色土(φ1～25㎜)中量、浮石(φ1～15㎜)極微量、粘性強、しまり強
4層 10YR4/3 にぶい黄褐色土 7.5YR4/6褐色土(φ1～30㎜)中量、浮石(φ1～10㎜)極微量、粘性強、しまり強

C区第10号土坑
1層 10YR4/2 灰黄褐色土 浮石(φ1～3㎜)極微量、粘性中、しまり中
2層 10YR2/2 黒褐色土 浮石(φ1～5㎜)微量、炭化物(φ1～10㎜)微量、粘性やや強、しまり中
3層 10YR3/2 黒褐色土 浮石(φ1～3㎜)微量、炭化物(φ1～10㎜)微量、地山微量混入、粘性やや強、しまりやや中
4層 10YR3/2 黒褐色土 浮石(φ1～5㎜)極微量、炭化物(φ1～10㎜)微量、地山ブロック少量混入、粘性強、しまり弱

CSK-9



S=1/3
0 10cm

C区第11号土坑
1層 10YR3/4 暗褐色土 浮石(φ1～10㎜)極微量、第BⅡaの土少量混入、粘性弱、しまりやや強
2層 10YR3/3 暗褐色土 10YR2/3黒褐色土多量、浮石(φ1～3㎜)微量、シラス微量混入、炭化物(φ1～5㎜)極微量、少々砂混じり、粘性弱、しまり弱
3層 10YR4/3 にぶい黄褐色土 浮石(φ1～15㎜)微量、焼土粒 (φ1～10㎜)極微量、砂混じり、粘性弱、しまり強
4層 10YR4/4 褐色土 浮石(φ1～5㎜)極微量、白頭山火山灰極微量混入、粘性弱、しまりやや強
5層 10YR4/6 褐色土 シラス微量混入、浮石(φ1～3㎜)極微量、粘性弱、しまりやや強

図71 C区土坑（3）・土坑出土遺物

っている。底面は平坦である。断面の形状は箱状である。
【堆積土】４層に分層できた。自然堆積の様相を呈している。
【出土遺物】遺物は出土していない。
【小結】詳細については不明である。

（笹森）

第11号土坑（ＣＳＫ－11）（図71）
【位置・確認】ＩＥ－39グリッドに位置している。第６号溝跡堆積土中で確認した。
【重複】第６号溝跡と重複している。本遺構が新しい。
【形態・規模】北東部が調査区外に延びているため全容を伺い知ることはできないが、平面形は円形を呈するものと思われる。推定径40㎝、深さは25㎝を測る。
【壁・底面】遺構堆積土を壁・底面としている。壁は底面からほぼ垂直に立ち上がっている。底面は平坦である。断面の形状は箱状を呈している。
【堆積土】５層に分層できた。自然堆積の様相を呈している。
【出土遺物】遺物は出土していない。
【小結】詳細については不明である。

（笹森）

第12号土坑（ＣＳＫ－12）（図72）
【位置・確認】ＩＪ－38グリッドに位置している。基本層序第ＢⅢａ層中で確認した。
【重複】認められない。
【形態・規模】北東部が調査区外に延びているため全容を伺い知ることはできないが、円形を呈するものと思われる。径94㎝、深さは41㎝を測る。
【壁・底面】基本層序第ＢⅢａ層を壁・底面としている。壁は底面からほぼ垂直に立ち上がっている。底面は平坦である。断面の形状は箱状を呈している。
【堆積土】５層に分層できた。自然堆積の様相を呈している。
【出土遺物】木製品が１点出土しているが脆弱で図示することはできなかった。
【小結】詳細については不明である。

（笹森）

第13号土坑（ＣＳＫ－13）（図72）
【位置・確認】ＩＨ－42グリッドに位置している。第８号溝跡堆積土中で確認した。
【重複】第８号溝跡と重複している。本遺構が新しい。
【形態・規模】平面形は円形を呈する。長径68㎝、短径62㎝、深さは14㎝を測る。
【壁・底面】遺構堆積土を壁・底面としている。壁は底面から緩やかに立ち上がっている。底面は平坦である。断面の形状は箱状である。
【堆積土】１層の単層である。自然堆積の様相を呈している。

【出土遺物】堆積土中より土師器の細片が出土しているが図示できるような遺物ではない。
【小結】出土遺物から平安時代の所産の可能性があるが詳細については不明である。

（笹森）

第14号土坑（ＣＳＫ－14）（図72）
【位置・確認】ＩＨ－39･40グリッドに位置している。遺構堆積土中で確認した。
【重複】第８号溝跡と重複している。本遺構が新しい。
【形態・規模】平面形はやや不整な円形を呈する。長径130㎝、短径94㎝、深さは26㎝を測る。
【壁・底面】遺構堆積土を壁・底面としている。壁は底面から緩やかに立ち上がっている。底面は平坦である。断面の形状は箱状である。
【堆積土】６層に分層できた。自然堆積の様相を呈している。
【出土遺物】遺物は出土していない。
【小結】詳細については不明であるが周辺の状況から、平安時代の可能性も考えられる。

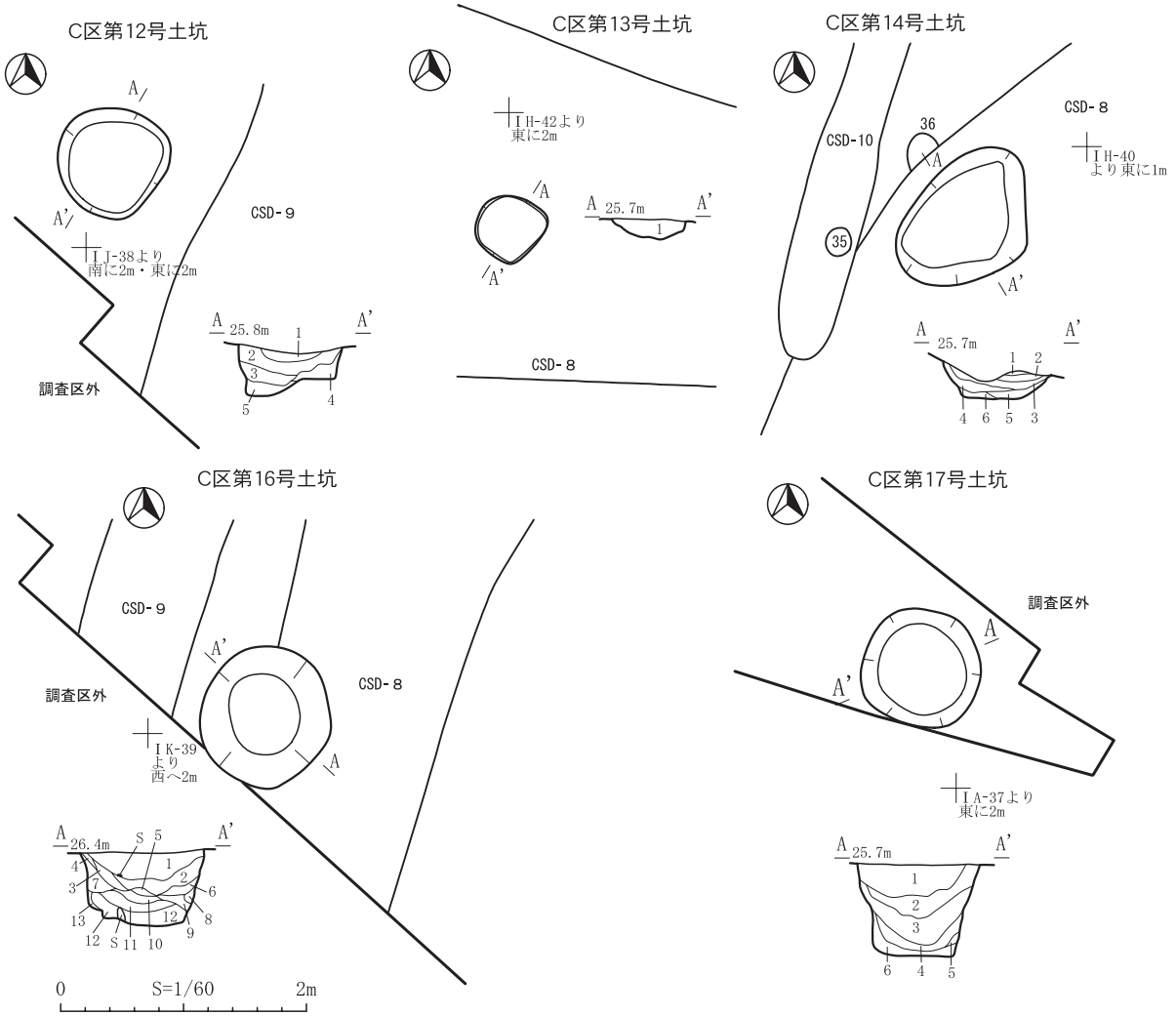
（笹森）

第15号土坑　欠番とした。

第16号土坑（ＣＳＫ－16）（図72）
【位置・確認】ＩＪ・ＩＫ－38・39グリッドに位置している。微高地部分の基本層序第C1Ｘ層、及び遺構堆積土中で確認した。
【重複】第８号溝跡と重複している。新旧関係は本遺構が新しい。
【形態・規模】平面形は円形を呈する。長径110㎝、短径106㎝、深さは58㎝を測る。
【堆積土】13層に分層できた。自然堆積の様相を呈している。
【壁・底面】基本層序第C1X・C1XI層を壁・底面としている。壁は底面からほぼ垂直に立ち上がっている。底面は平坦である。断面の形状は箱状である。底面には湧水が見られた。
【出土遺物】図示できるような遺物は出土していない。
【小結】湧水することから井戸跡の可能性も考えられる。詳細については不明である。

（笹森）

第17号土坑（ＣＳＫ－17）（図72）
【位置・確認】Ｙ－37グリッドに位置している。基本層序第ＢⅢａ層中で確認した。
【重複】認められない。
【形態・規模】平面形は円形を呈する。直径98㎝、深さは73㎝を測る。
【壁・底面】基本層序第ＢⅢ～ＢⅤ層を壁・底面としている。壁は底面からほぼ垂直に立ち上がっている。底面は平坦である。断面の形状は箱状である。底面からは常に湧水が見られた。
【堆積土】６層に分層できた。自然堆積の様相を呈している。
【出土遺物】１層より土師器の細片が出土しているが図示できるような遺物ではない。



C区第12号土坑

1層	10YR4/3	にぶい黄褐色土	10YR4/3にぶい黄褐色砂多量、黒色土粒(φ1～10mm)微量、浮石(φ1～10mm)極微量、粘性中、しまり強
2層	10YR4/3	にぶい黄褐色粘土	黒色土粒(φ5～20mm)微量、浮石(φ1～5mm)極微量、粘性強、しまり強
3層	10YR4/3	にぶい黄褐色土	浮石(φ1～5mm)微量、粘性強、しまり強
4層	2.5Y5/2	暗灰黄色シルト	7.5YR4/6褐色土多量、浮石(φ1～5mm)微量、地山混じり、粘性なし、しまり強
5層	10YR4/4	褐色土	浮石(φ1～10mm)微量、炭化物粒(φ1～2mm)微量、粘性やや強、しまり強

C区第13号土坑

1層	10YR4/2	灰黄褐色土	浮石(φ1～10mm)微量、炭化物(φ1～15mm)微量、粘性弱、しまり強

C区第14号土坑

1層	10YR4/4	褐色土	全体に酸化鉄が10%混じっている、粘性なし、しまり中
2層	10YR3/2	黒褐色土	炭化物との混合土、粘性弱、しまり中
3層	10YR4/2	灰黄褐色土	浮石(φ2mm～6mm)10%程含む、粘性弱、しまり中
4層	10YR4/2	灰黄褐色土	10YR5/3にぶい黄褐色土・10YR2/2黒褐色土多量、粘性弱、しまり弱
5層	10YR5/3	にぶい黄褐色土	粘性弱、しまり弱
6層	10YR2/2	黒褐色土	粘性強、しまり強

C区第16号土坑

1層	10YR3/2	黒褐色粘土	10YR3/4暗褐色土多量、浮石(φ1～20mm)微量、炭化物粒(φ1～5mm)極微量、粘性強、しまり強
2層	10YR4/2	灰黄褐色土	7.5YR4/4褐色土多量、炭化物粒(φ1～5mm)極微量、粘性強、しまりやや強
3層	10YR4/3	にぶい黄褐色粘土	10YR4/6褐色土多量、浮石(φ1～5mm)極微量、粘性強、しまりやや強
4層	10YR3/3	暗褐色粘質土	浮石(φ1～3mm)極微量、粘性強、しまりやや強
5層	10YR3/1	黒褐色粘土	炭化物粒(φ1～5mm)極微量、粘性強、しまり中
6層	10YR4/2	灰黄褐色粘土質土	10YR4/6褐色土多量、浮石(φ1～5mm)極微量、粘性強、しまりやや強
7層	10YR3/2	黒褐色粘質土	10YR4/6褐色土多量、浮石(φ1～10mm)極微量、粘性強、しまりやや強
8層	10YR3/1	黒褐色粘土	粘性強、しまり中
9層	10YR4/4	褐色土	7.5YR4/4褐色土多量、浮石(φ1～10mm)極微量、粘性強、しまりやや強
10層	2.5Y4/1	黄灰色粘土	鉄分(φ1～20mm)極微量、粘性強、しまり弱
11層	10YR4/1	褐灰粘土	鉄分(φ1～20mm)極微量、粘性強、しまり弱
12層	10YR3/1	黒褐色粘土	鉄分(φ1～20mm)微量、粘性強、しまり中
13層	2.5Y4/2	暗灰黄色粘質土	粘性中、しまりやや強

C区第17号土坑

1層	10YR5/6	黄褐色土	浮石(φ1～20mm)少量、炭化物(φ1～10mm)極微量、黒色土混入、粘性弱、しまり強
2層	10YR3/4	暗褐色土	浮石(φ1～10mm)微量、白頭山火山灰微量混入、粘性弱、しまり中
3層	10YR4/6	褐色土	10YR2/3黒褐色土多量、浮石(φ1～20mm)微量、炭化物(φ1～10mm)微量、粘性中、しまり弱
4層	10YR4/4	褐色土	浮石(φ1～15mm)微量、小礫含む、粘性弱、しまり中
5層	10YR5/3	にぶい黄褐色土	浮石(φ1～5mm)微量、シラス混入、粘性弱、しまり強
6層	10YR4/6	褐色土	浮石(φ1～5mm)極微量、少々砂混じり、粘性弱、しまりやや強

図72　Ｃ区土坑（４）

【小結】かなり湧水することから井戸跡の可能性も考えられる。出土遺物から、平安時代の可能性が高い。

（笹森）

第18号土坑（ＣＳＫ－18）（図73）

【位置・確認】Ｙ－37グリッドに位置している。基本層序第ＢⅢａ層中で確認した。

【重複】認められない。

【形態・規模】北東部が調査区外に延びているため全容を伺い知ることはできない。平面形は円形を呈するものと思われる。確認できる長径は64㎝、深さは65㎝を測る。

【壁・底面】基本層序第ＢⅢａ～ＢⅤ層を壁・底面としている。壁は底面からほぼ垂直に立ち上がっている。底面はほぼ平坦であるが南東方向に段を有する。断面の形状は箱状である。底面からは常に湧水していた。

【堆積土】５層に分層できた。自然堆積の様相を呈している。

【出土遺物】図示できるような遺物は出土していない。

【小結】かなり湧水することから井戸跡の可能性も考えられる。

（笹森）

第19号土坑（ＣＳＫ－19）（図73）

【位置・確認】Ｙ－36グリッドに位置している。基本層序第ＢⅢａ層中で確認した。

【重複】認められない。

【形態・規模】南部が調査区外に延びているため全容を伺い知ることはできない。平面形は円形を呈するものと思われる。確認できる長径220㎝、深さは16㎝を測る。

【壁・底面】基本層序第ＢⅢａ層を壁・底面としている。壁は底面から緩やかに立ち上がっている。底面は緩やかな傾斜を持つ。断面の形状は擂り鉢状である。

【堆積土】２層に分層できた。自然堆積の様相を呈している。

【出土遺物】図示できるような遺物は出土していない。

【小結】詳細については不明である。

（笹森）

第20号土坑（ＣＳＫ－20）（図73）

【位置・確認】Ｘ－34・35グリッドに位置している。基本層序第ＢⅢａ層中で確認した。

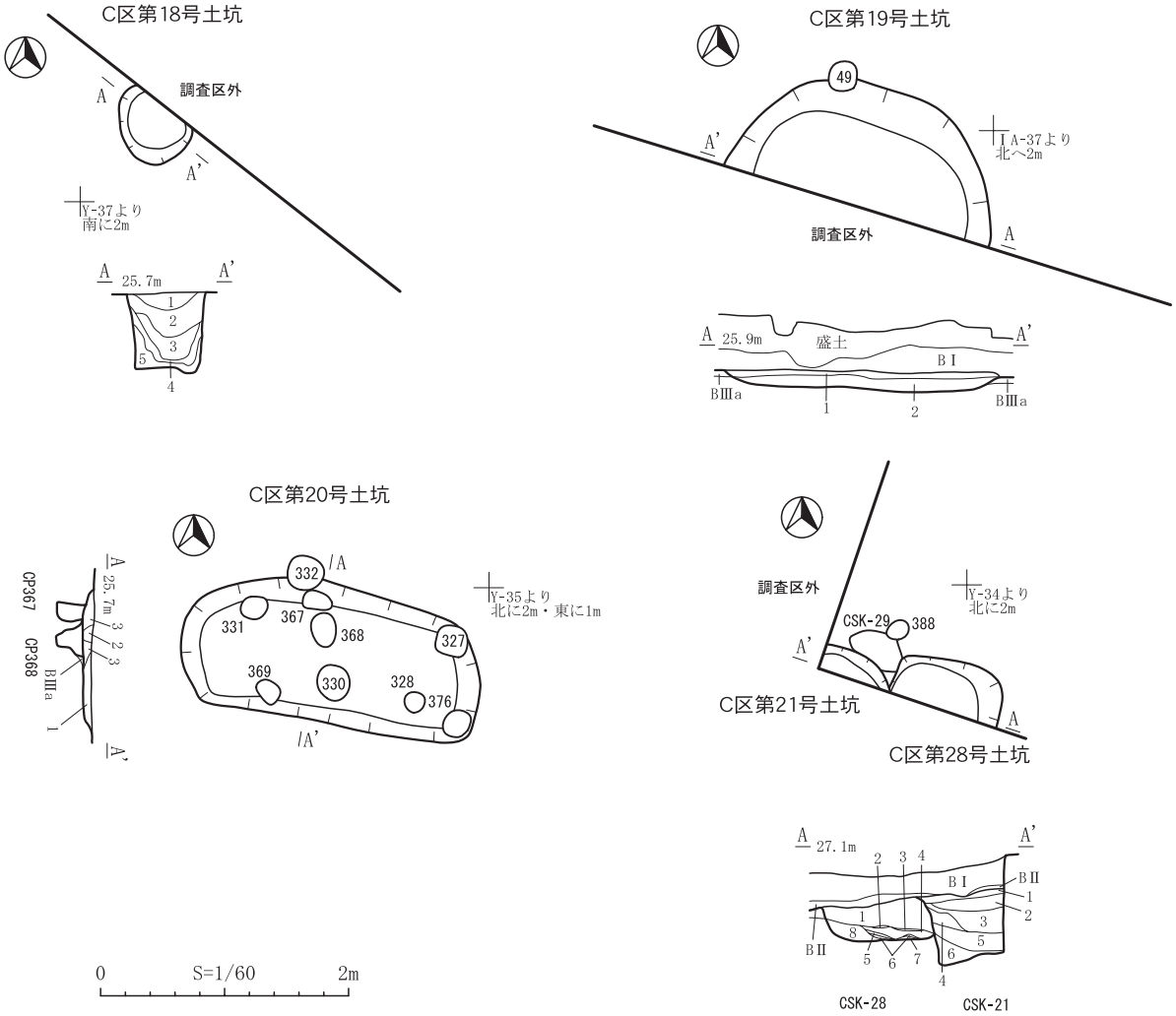
【重複】ピット数基と重複している。ピット367・368よりは本遺構が新しいことが分かる。

【形態・規模】平面形は隅丸の長方形を呈する。長軸242㎝、短軸108㎝、深さは８㎝を測る。

【壁・底面】基本層序第ＢⅢａ層を壁・底面としている。壁は底面から緩やかに立ち上がっている。底面は緩やかな傾斜を持つ。断面の形状は堝状を呈する。

【堆積土】３層に分層できた。自然堆積の様相を呈している。

【出土遺物】２層より土師器の細片が出土しているが図示できる遺物ではない。



C区第18号土坑

1層	10YR2/3	黒褐色土	7.5YR4/4褐色土多量、浮石(φ1～15mm)少量、炭化物(φ1～10mm)微量、粘性弱、しまり強
2層	10YR2/3	黒褐色土	浮石(φ1～10mm)微量、7.5YR4/4褐色土との混合土、粘性弱、しまり中
3層	10YR3/3	暗褐色土	浮石(φ1～10mm)極微量、7.5YR4/4褐色土の混合土、粘性弱、しまり中
4層	7.5YR3/4	暗褐色土	浮石(φ1～10mm)極微量、粘性やや中、しまり中
5層	10YR5/3	にぶい黄褐色土	浮石(φ1～5mm)極微量、炭化物(φ1～10mm)極微量、シラス混じり、粘性中、しまり弱

C区第19号土坑

1層	10YR3/3	暗褐色土	浮石(φ1～15mm)微量、粘性弱、しまり強、水田の土?SKの覆土ではない?
2層	10YR3/4	暗褐色土	浮石(φ1～20mm)少量、地山少量混入、炭化物(φ1～15mm)微量、粘性弱、しまり強

C区第20号土坑

1層	10YR4/4	褐色土	浮石(φ1～15mm)微量、炭化物(φ1～10mm)極微量、粘性弱、しまり強
2層	10YR2/3	黒褐色土	浮石(φ1～20mm)微量、炭化物(φ1～10mm)極微量、粘性弱、しまり強
3層	10YR3/4	暗褐色土	浮石(φ1～20mm)少量、炭化物(φ1～10mm)微量、粘性弱、しまり強

C区第21号土坑

1層	10YR3/3	暗褐色土	7.5YR3/4暗褐色土多量、浮石(φ1～5mm)極微量、粘性中、しまり強
2層	10YR3/4	暗褐色土	浮石(φ1～10mm)微量、粘性中、しまり強
3層	10YR3/3	暗褐色土	10YR5/4にぶい黄褐色シルト質土ブロック(φ20～70mm)中量、炭化物(φ1～10mm)微量、浮石(φ1～3mm)極微量、粘性やや強、しまり強
4層	10YR3/3	暗褐色土	10YR6/4にぶい黄橙色粘土粒(φ10～15mm)微量、浮石(φ1～10mm)極微量、炭化物(φ1～5mm)極微量、粘性強、しまりやや強
5層	10YR4/3	にぶい黄褐色粘質土	10YR5/4にぶい黄褐色粘土ブロック(φ10～50mm)中量、炭化物(φ1～20mm)微量、浮石(φ1～5mm)極微量、粘性強、しまりやや強
6層	10YR4/4	褐色土	浮石(φ1～3mm)極微量、粘性中、しまりやや強

C区第28号土坑

1層	10YR4/4	褐色粘質土	10YR5/3にぶい黄褐色シルト質土多量、浮石(φ1～5mm)微量、炭化物(φ1～3mm)微量、小礫(φ25mm)極微量、粘性やや強、しまり強
2層	10YR3/3	暗褐色粘土	炭化物(φ1～3mm)極微量、粘性強、しまり強
3層	10YR2/1	黒色土	炭化物多量混入、粘性強、しまり強
4層	10YR4/4	褐色土	浮石(φ1～5m)微量、粘性中、しまり強
5層	10YR3/2	黒褐色粘土	2.5Y6/2灰黄色粘土ブロック(φ5～30mm)中量、7.5YR4/6褐色焼土ブロック(φ5～35mm)少量、炭化物(φ1～10mm)少量、粘性強しまり強
6層	10YR2/1	黒色土	炭化物少量混入、浮石(φ1～3mm)極微量、粘性強、しまり強
7層	2.5Y5/3	黄褐色シルト質土	浮石(φ1～3mm)微量、粘性強、しまり強
8層	10YR4/4	褐色粘質土	浮石(φ1～10mm)微量、焼土(φ10mm)微量、粘性強、しまり強

図73　Ｃ区土坑（５）

【小結】平安時代の所産の可能性があるが、詳細については不明である。

（笹森）

第21号土坑（ＣＳＫ－21）（図73）

【位置・確認】Ｘ－33グリッドに位置している。基本層序第ＢⅢａ層中で確認した。

【重複】第28・29号土坑と重複している。両遺構より新しい。

【形態・規模】大半が調査区外に存在するため全容を伺い知ることはできない。深さは52㎝を測る。

【壁・底面】基本層序第ＢⅢａ～ＢⅤ層を壁・底面としている。壁は底面から緩やかに立ち上がっている。底面は緩やかな傾斜を持つ。断面の形状は塝状を呈する。

【堆積土】６層に分層できた。自然堆積の様相を呈している。

【出土遺物】図示できるような遺物は出土していない。

【小結】出土遺物から平安時代の所産の可能性があるが、詳細については不明である。

（笹森）

第22号土坑　欠番とした。

第23号土坑（ＣＳＫ－23）（図74）

【位置・確認】Ｘ－34グリッドに位置している。基本層序第ＢⅢａ層中で確認した。

【重複】認められない。

【形態・規模】平面形は円形を呈している。径60㎝、深さは10㎝を測る。

【壁・底面】基本層序第ＢⅢａ層を壁・底面としている。壁は底面から緩やかに立ち上がっている。底面凹凸が著しい。断面の形状は塝状を呈する。

【堆積土】３層に分層できた。自然堆積の様相を呈している。

【出土遺物】１層より土師器の細片が出土しているが図示できるような遺物ではない。

【小結】出土遺物から平安時代の所産の可能性があるが、詳細については不明である。

（笹森）

第24号土坑（ＣＳＫ－24）（図74）

【位置・確認】Ｗ－34グリッドに位置している。基本層序第ＢⅢａ層中で確認した。

【重複】第25号土坑、第７号竪穴住居跡と重複している。本遺構がいずれの遺構よりも新しい。

【形態・規模】平面形は円形を呈している。径45㎝、深さは10㎝を測る。

【壁・底面】基本層序第ＢⅢａ層を壁・底面としている。壁は底面から緩やかに立ち上がっている。底面はほぼ平坦である。断面の形状は塝状を呈する。

【堆積土】２層に分層できた。自然堆積の様相を呈している。

【出土遺物】遺物は出土していない。

【小結】遺構の重複関係から、古代以降可能性が高い。

（笹森）

第25号土坑（ＣＳＫ－25）（図74）

【位置・確認】Ｗ－34グリッドに位置している。基本層序第ＢⅢａ層中で確認した。

【重複】第７号竪穴住居跡、第24号土坑と重複している。第24号土坑より古く第７号竪穴住居跡よりは新しい。

【形態・規模】平面形は円形を呈している。径60㎝、深さは52㎝を測る。

【壁・底面】基本層序第ＢⅢａ層を壁・底面としている。壁は底面から緩やかに立ち上がっている。底面はほぼ平坦である。断面の形状は塝状を呈する。

【堆積土】５層に分層できた。自然堆積の様相を呈している。

【出土遺物】図示できるような遺物は出土していない。

【小結】遺構の重複関係から古代以降の可能性が高い。

（笹森）

第26号土坑（ＣＳＫ－26）（図74）

【位置・確認】Ｗ－34グリッドに位置している。基本層序第ＢⅢａ層中で確認した。

【重複】第378号ピットと重複している。本遺構が古い。

【形態・規模】北側が調査区外に延びているため、全容を伺い知ることはできない。平面形は楕円形を呈するものと思われる。推定長径80㎝、深さは10㎝を測る。

【壁・底面】基本層序第ＢⅢａ層を壁・底面としている。壁は底面から緩やかに立ち上がっている。底面はほぼ平坦である。断面の形状は塝状を呈する。

【堆積土】３層に分層できた。自然堆積の様相を呈している。鉄分がかなり混入しており上層の水田の影響が考えられる。

【出土遺物】遺物は出土していない。

【小結】詳細については不明であるが重複関係から、中世以前の可能性が高い。

（笹森）

第27号土坑（ＣＳＫ－27）（図74）

【位置・確認】Ｗ－34グリッドに位置している。基本層序第ＢⅢａ層中で確認した。

【重複】第372・373・404号ピットと重複している。いずれのピットよりも本遺構が古い。

【形態・規模】平面形は円形を呈する。長径70㎝、短径60㎝、深さは18㎝を測る。

【壁・底面】基本層序第ＢⅢａ層を壁・底面としている。壁は底面から緩やかに立ち上がっている。底面はほぼ平坦である。断面の形状は塝状を呈する。

【堆積土】３層に分層できた。自然堆積の様相を呈している。

【出土遺物】図示できるような遺物は出土していない。

【小結】詳細については不明である。（笹森）

第28号土坑（ＣＳＫ－28）（図73）

【位置・確認】Ｘ－33・34グリッドに位置している。基本層序第ＢⅢａ層中で確認した。

【重複】第21・29号土坑と重複している。本遺構が第21号土坑より古く、第29号土坑との明確な関係は不明である。
【形態・規模】南側が調査区外に存在するため全容を伺い知ることはできない。平面形は隅丸の長方形を呈するものと思われる。推定長軸96㎝、深さは32㎝を測る。
【壁・底面】基本層序第ＢⅢａ層を壁・底面としている。壁は底面から緩やかに立ち上がっている。底面はほぼ平坦である。断面の形状は塝状を呈する。
【堆積土】８層に分層できた。自然堆積の様相を呈している。水の影響があった可能性が高い。
【出土遺物】３・４・８層より土師器の細片が出土しているが図示できるような遺物ではない。
【小結】出土遺物や遺構の重複関係から、平安時代の所産の可能性が高い。

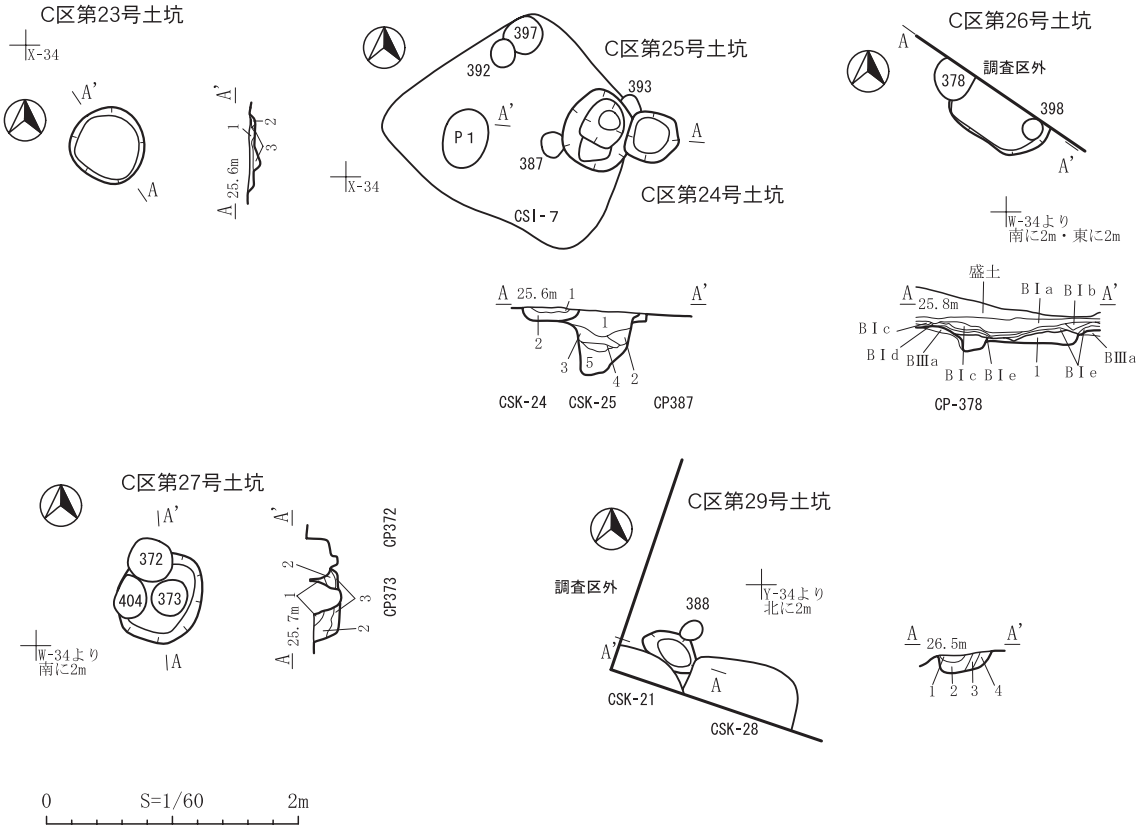
（笹森）

第29号土坑（ＣＳＫ－29）（図74）
【位置・確認】Ｘ－33グリッドに位置している。基本層序第ＢⅢａ層中で確認した。
【重複】第21・28号土坑、第388ピットと重複している。本遺構が第21号土坑、第288号ピットより古い。第28号土坑との関係は不明である。
【形態・規模】平面形は楕円形を呈する。長径50㎝、短径28㎝、深さは16㎝を測る。
【壁・底面】基本層序第ＢⅢａ層を壁・底面としている。壁は底面から緩やかに立ち上がっている。底面はほぼ平坦である。断面の形状は塝状を呈する。
【堆積土】４層に分層できた。自然堆積の様相を呈している。
【出土遺物】１層より土師器の細片が出土している。
【小結】平安時代の所産の可能性があるが詳細については不明である。

（笹森）

第30号土坑（ＣＳＫ－30））（図64）
【位置・確認】Ｘ－34グリッドに位置している。基本層序第ＢⅢａ層中で確認した。
【重複】第５号竪穴遺構と一部重複している。堆積土の観察から本遺構が古い。確認面では第28号土坑とも一部重複しているが、明確な新旧関係は不明である。
【形態・規模】大部分が調査区外に存在するため全容を伺い知ることはできない。平面形も不明である。確認できた長さは50㎝、深さは32㎝を測る。
【壁・底面】基本層序第ＢⅢａ層を壁・底面としている。壁は底面から緩やかに立ち上がっている。底面はほぼ平坦である。
【堆積土】６層に分層できた。自然堆積の様相を呈している。
【出土遺物】遺物は出土していない。
【小結】遺構の重複関係から、平安時代の可能性が高い。竪穴遺構の可能性も考えられる。

（笹森）



C区第23号土坑

1層	10YR4/4	褐色土	浮石(φ1～15mm)少量、炭化物(φ1～3mm)極微量、粘性弱、しまり強
2層	10YR6/4	にぶい黄橙色土	浮石(φ1～10mm)微量、ほぼシラス層、粘性弱、しまり強
3層	10YR3/3	暗褐色土	シラスとの混合土、粘性弱、しまりやや強

C区第24号土坑

1層	10YR4/4	褐色土	浮石(φ1～10mm)微量、炭化物(φ1～10mm)微量、鉄分含む、粘性弱、しまり強
2層	10YR3/4	暗褐色土	浮石(φ1～15mm)少量、炭化物(φ1～15mm)微量、粘性弱、しまりやや強

C区第25号土坑

1層	10YR4/6	褐色土	浮石(φ1～15mm)微量、シラス少量混入、炭化物(φ1～15mm)微量、鉄分含む、粘性弱、しまりやや強
2層	10YR4/4	褐色土	浮石(φ1～10mm)極微量、シラス微量混入、粘性やや中、しまり中
3層	10YR4/3	にぶい黄褐色土	浮石(φ1～15mm)微量、シラス少量混入、黒土点々と混入、粘性弱、しまり中
4層	10YR3/3	暗褐色土	浮石(φ1～5mm)極微量、炭化物(φ1～10mm)微量、粘性弱、しまり中
5層	10YR5/4	にぶい黄褐色土	浮石(φ1～10mm)微量、シラスやや中量混入、粘性弱、しまりやや強

C区第26号土坑

1層	10YR3/4	暗褐色土	浮石(φ1～10mm)微量、シラス少量混入、粘性弱、しまり強

C区第27号土坑

1層	10YR4/4	褐色土	浮石(φ1～10mm)微量、炭化物(φ1～25mm)少量、粘性弱、しまりやや強
2層	10YR3/4	暗褐色土	浮石(φ1～5mm)微量、炭化物(φ1～15mm)微量、粘性弱、しまり強
3層	10YR5/6	黄褐色土	浮石(φ1～3mm)極微量、シラス少量混入、粘性弱、しまり強

C区第29号土坑

1層	10YR5/4	にぶい黄褐色土	浮石(φ1～3mm)極微量、粘性中、しまり強
2層	10YR5/4	にぶい黄褐色土	2.5Y6/3にぶい黄色シルト多量、浮石(φ1～5mm)極微量、粘性弱、しまり強
3層	10YR4/4	褐色土	7.5YR4/4褐色土(φ1～5mm)微量、浮石(φ1～3mm)極微量、粘性中、しまり強
4層	10YR6/3	にぶい黄橙色シルト	7.5YR4/4褐色土(φ5～10mm)微量、粘性弱、しまり強

図74　Ｃ区土坑（６）

第５節　井戸跡

第１号井戸跡（ＣＳＥ－1）（図75・76）

【位置・確認】Ｘ－35・36グリッドに位置している。基本層序第ＢⅢａ層上面で確認した。

【重複】開口部で端部が第88号ピットと重複する。新旧関係は本遺構が古い。

【形態・規模】南側が調査区外にかかるため全容を伺い知ることはできないが、平面形は円形を呈するものと思われる。上面径160㎝、底面径145㎝、深さは156㎝を測る。

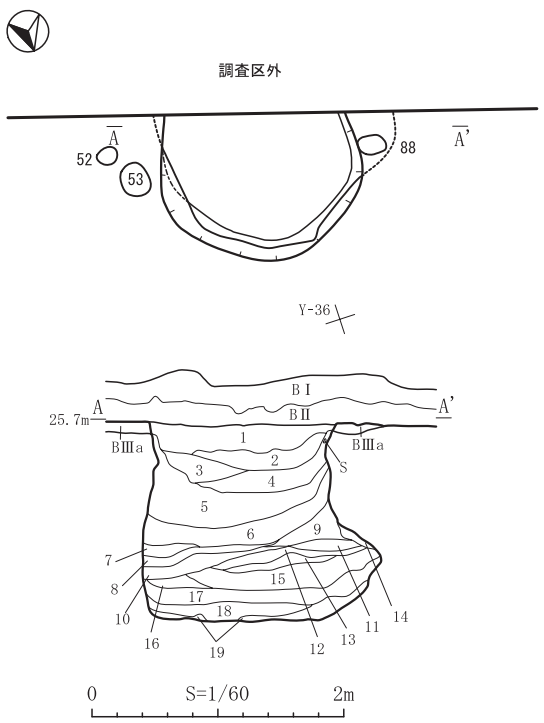
【壁・底面】基本層序第ＢⅢａ～ＢⅥ層を壁や底面としている。壁は底面からやや内傾しながら急に立ち上がっている。また、西側では袋状に壁が広がっており壁が崩落した可能性も考えられる。底面はほぼ平坦に造られている。

【堆積土】19層に分層できた。下部では自然堆積、上部では人為堆積の様相を呈している。堆積土は常に湿性に富んでいた。

【出土遺物】堆積土中から土師器片や木製品が出土している。

【小結】形態や出土遺物より、平安時代の井戸跡と考えられる。詳細な時期や井戸枠の存在等については不明である。

（笹森）



C区第１号井戸跡

1層	10YR3/3	暗褐色土	10YR5/6黄褐色土粒(φ5～40mm)中量、浮石(φ1～15mm)少量 炭化物(φ1～15mm)少量、焼土(φ2～10mm)微量、粘性弱 しまり強
2層	10YR4/4	褐色土	2.5Y5/3黄褐色粘土粒(φ1～25mm)少量、浮石(φ1～10mm)微量、炭化物(φ1～5mm)微量、焼土(φ1～5mm)極微量、粘性弱、しまり強
3層	10YR3/3	暗褐色土	2.5Y5/3黄褐色粘土ブロック多量、炭化物(φ1～10mm)微量、浮石(φ1～10mm)微量、焼土(φ1～5mm)極微量、粘性弱、しまり強
4層	10YR4/4	褐色土	2.5Y5/3黄褐色粘土ブロック多量、浮石(φ1～10mm)微量、7.5YR4/6褐色土(φ1～10mm)極微量、粘性弱、しまり強
5層	10YR4/3	にぶい黄褐色土	2.5Y5/3黄褐色粘土ブロック多量、浮石(φ1～15mm)微量、小礫(φ25～30mm)微量、粘性弱、しまり強
6層	10YR3/3	暗褐色土	炭化物(φ5～10mm)少量、浮石(φ1～10mm)微量、粘性中、しまり強
7層	10YR3/2	黒褐色土	2.5Y5/3黄褐色砂(φ5～20mm)微量、浮石(φ1～5mm)極微量 炭化物(φ1～5mm)極微量、粘性中、しまりやや強
8層	10YR4/4	褐色土	10YR7/4黄橙土多量、炭化物(φ10～20mm)微量、10YR4/6褐色土(φ5～10mm)微量、浮石(φ1～5mm)極微量、粘性やや強、しまり中
9層	10YR4/4	褐色シルト質土	2.5Y5/3黄褐色シルト質土ブロック(φ10～60mm)少量、7.5YR4/6褐色砂質土(φ5～10mm)極微量、炭化物(φ1～5mm)極微量、浮石(φ1～5mm)極微量、粘性弱、しまり強
10層	10YR5/4	にぶい黄褐色土	10YR4/4褐色シルト質土多量、7.5YR3/4暗褐色粘土質土ブロック(φ70mm)少量、炭化物(φ1～5mm)極微量、浮石(φ1～5mm)極微量、粘性やや強、しまりやや強
11層	10YR4/3	にぶい黄褐色砂質土	10YR5/3にぶい黄褐色シルト粒(φ10～15mm)微量、7.5YR4/6褐色砂質土粒(φ10mm)極微量、粘性弱、しまりやや強
12層	10YR4/4	褐色シルト質土	2.5Y6/3にぶい黄色シルト質土ブロック(φ40mm)微量、5YR4/6赤褐色砂質土粒(φ10～20mm)微量、浮石(φ1～5mm)微量、粘性やや弱、しまりやや強
13層	10YR4/3	にぶい黄褐色シルト質土	10YR4/4褐色土多量、5YR3/6暗赤褐色土粒(φ10～15mm)微量 炭化物(φ10～15mm)微量、浮石(φ1～5mm)極微量、粘性弱、しまり強
14層	10YR4/3	にぶい黄褐色シルト質土	浮石(φ1～5mm)極微量、粘性弱、しまり中
15層	10YR4/4	褐色土	10YR4/2灰黄褐色土多量、2.5Y5/3黄褐色シルトブロック(φ1～10mm)微量、炭化物(φ1～15mm)微量、浮石(φ1～5mm)極微量、粘性中、しまり強
16層	2.5Y5/3	黄褐色土	10YR4/4褐色土多量、浮石(φ1～15mm)微量、粘性中、しまりやや強
17層	10YR3/2	黒褐色土	10YR4/4褐色土多量、10YR5/6黄褐色土粒(φ10～15mm)少量 10YR5/4にぶい黄褐色土ブロック(φ10～40mm)微量、浮石(φ1～10mm)微量、炭化物(φ10mm)極微量、粘性中、しまり強
18層	10YR3/1	黒褐色粘土	5Y5/1灰色土ブロック(φ20～40mm)少量、浮石(φ1～5mm)微量、粘性やや強、しまりやや強
19層	2.5Y5/4	黄褐色土	5Y5/2灰オリーブ色粘土多量、2.5Y5/6明褐色土粒(φ10～20mm)少量、粘性強、しまり強

図75　Ｃ区井戸跡

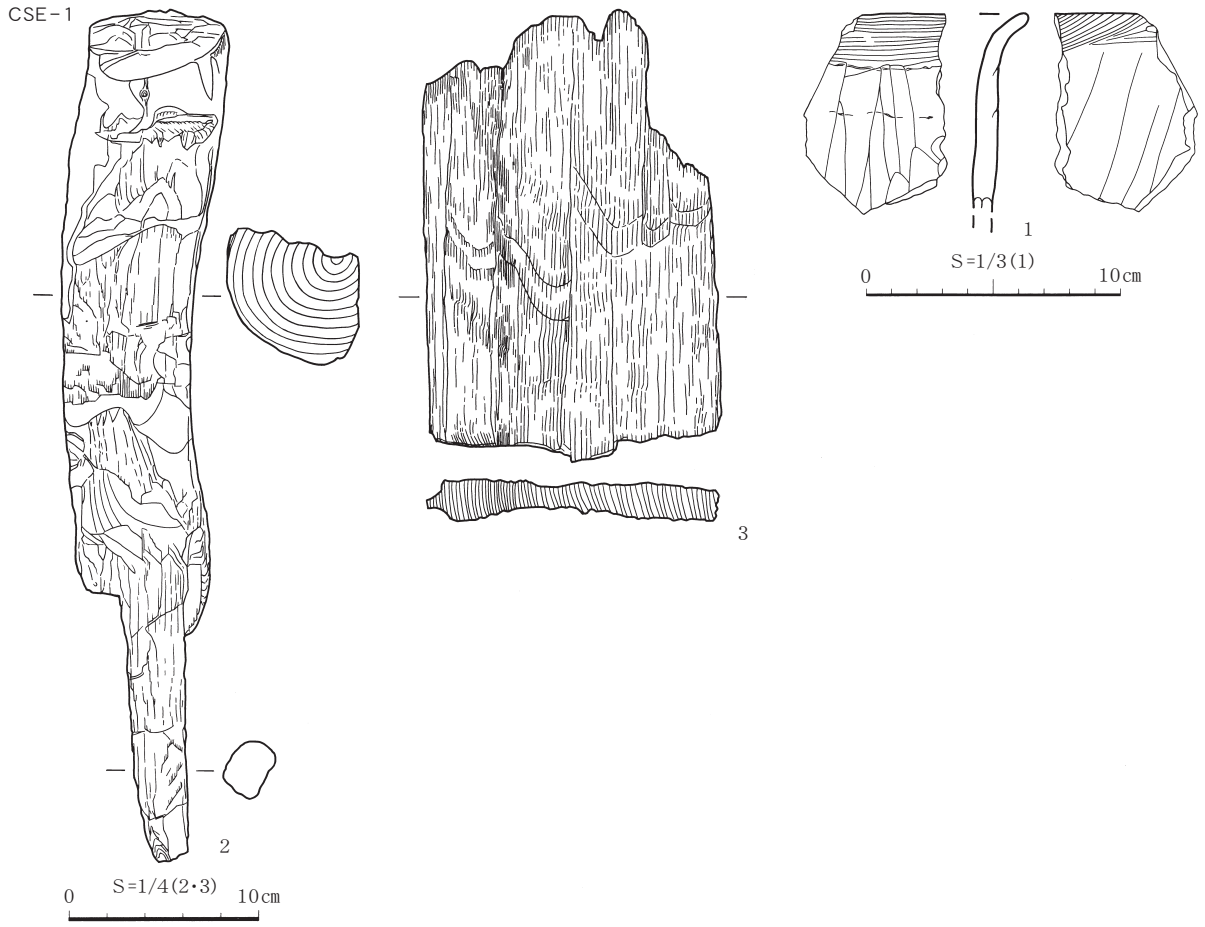


図76　Ｃ区井戸跡出土遺物

第６節　溝跡

第１号溝跡（ＣＳＤ－１）（図77）

【位置・確認】ＩＣ－33グリッド他に位置している。基本層序第ＢⅢａ層上面で確認した。

【重複】認められない。

【形態・規模】北西方向から南東方向にやや弓なりに延びている。全長は約12m、上面幅60～94㎝、底面幅34～46㎝、深さは30㎝前後を測る。一部は基本層序第ＢⅣ層まで掘り込まれている。

【壁・底面】基本層序第ＢⅢａ層を壁・底面としている。壁は底面から緩やかに立ち上がっている。底面は中央に向かい緩やかな傾斜を持っている。断面の形状は概ね逆台形である。

【堆積土】１～３層に分層できた。自然堆積の様相を呈している。

【出土遺物】土師器甕の口縁部破片や鉄滓、礫、土製品が出土している。

【小結】詳細については不明であるが出土遺物から、平安時代の溝跡の可能性が高い。　（笹森）

第２号溝跡（ＣＳＤ－２）（図77）

【位置・確認】ＩＣ－32グリッド他に位置している。基本層序第ＢⅢａ層上面で確認した。

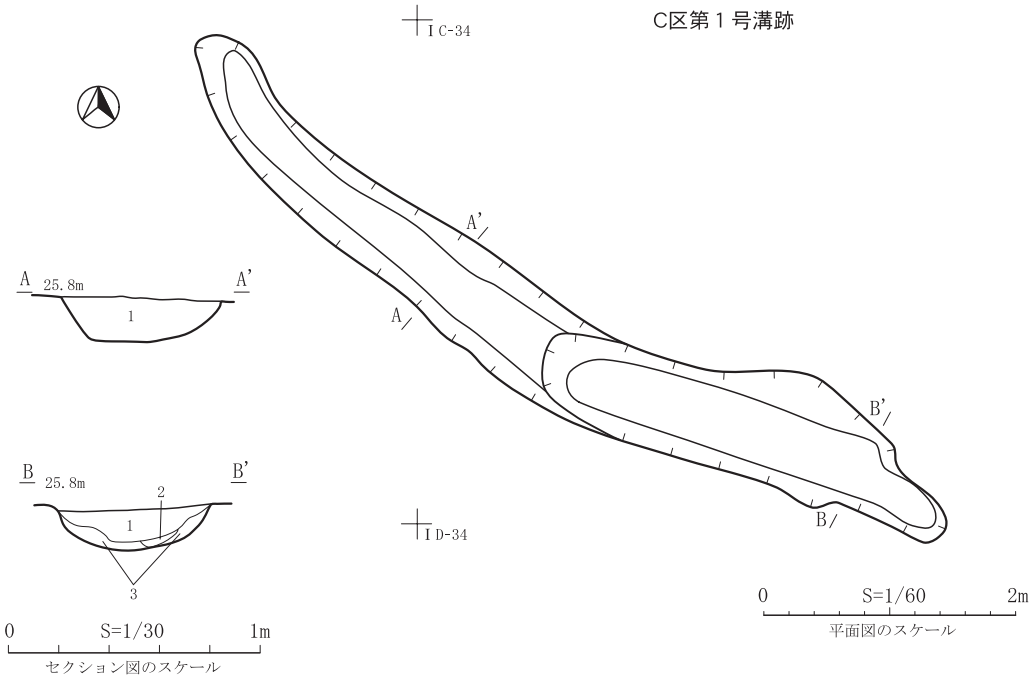
【重複】認められない。

【形態・規模】北西方向から南東方向にやや弓なりに延びている。全長は約11.5m、上面幅16～20㎝、底面幅10～12㎝、深さは６㎝前後を測る。
【壁・底面】基本層序第ＢⅢａ層を壁・底面としている。壁は底面から緩やかに立ち上がっている。断面の形状は概ね逆台形状を呈している。
【堆積土】１層の単層である。自然堆積の様相を呈している。
【出土遺物】礫が数点出土している。
【小結】詳細については不明であるが、第１号溝跡と同じような曲線を描いていることから、平安時代の溝跡の可能性も考えられる。（笹森）

第３号溝跡（ＣＳＤ－３）（図78）
【位置・確認】ＩＣ－32グリッド他に位置している。基本層序第ＢⅢａ層上面で確認した。
【重複】第１号土坑及び第４号溝跡と重複している。本遺構が第４号溝跡より古く、第１号土坑との関係は不明であるが同時存在の可能性も考えられる。
【形態・規模】やや屈曲しながら東西方向に延びている。西側は第１号土坑に接し、東側は調査区外に延びている。確認できた全長は約37m、上面幅40～50㎝、底面幅28～38㎝、深さは16㎝前後を測る。
【壁・底面】基本層序第ＢⅢａ層を壁・底面としている。壁は底面から緩やかに立ち上がっている。断面の形状は概ね逆台形状を呈している。
【堆積土】１～２層に分層できた。自然堆積の様相を呈している。
【出土遺物】土師器の細片や礫が出土しているが図示できるようなものではない。
【小結】詳細については不明であるが堆積土の状況から、中世以降の溝跡の可能性が高い。（笹森）

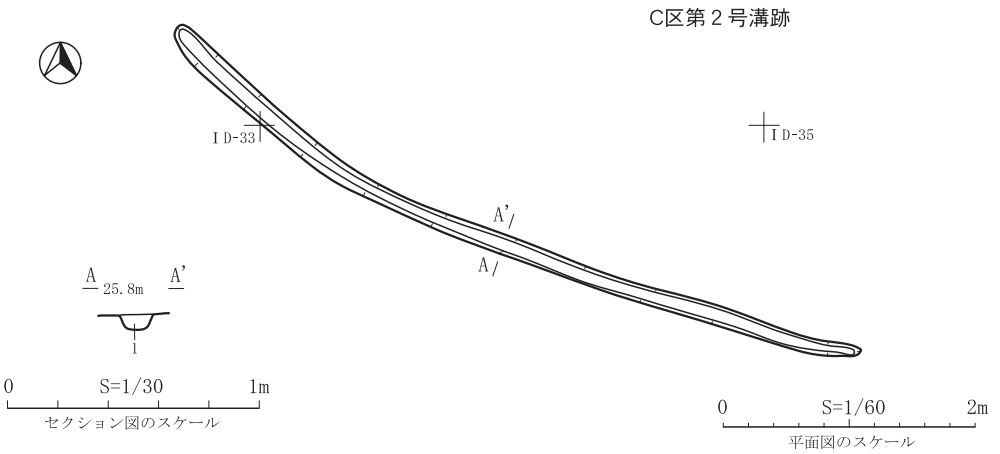
第４号溝跡（ＣＳＤ－４）（図78）
【位置・確認】ＩＣ－32グリッド他に位置している。基本層序第ＢⅢａ層上面で確認した。
【重複】第３号溝跡と重複している。堆積土の観察から、本遺構が新しいことが確認できた。
【形態・規模】東西方向に延びている。東側は調査区外に延びている。第３号溝跡より浅く掘られているため不明瞭な部分が多く、確認できた全長は約36m、上面幅30～56㎝、底面幅20～40㎝、深さは10㎝前後を測る。
【堆積土】１～２層に分層できた。自然堆積の様相を呈している。
【壁・底面】基本層序第ＢⅢａ層を壁・底面としている。壁は底面から緩やかに立ち上がっている。断面の形状は概ね逆台形状を呈している。
【出土遺物】土師器の細片や礫、椀型滓が出土しているが図示できるようなものではない。
【小結】詳細については不明であるが堆積土の状況から、中世以降の溝跡の可能性が高い。（笹森）

第５号溝跡（ＣＳＤ－５）（図79・83）
【位置・確認】ＩＤ－38グリッド他に位置している。基本層序第ＢⅢａ層上面で確認した。
【重複】第５・７・８号土坑及び第13号溝跡と重複している。堆積土の観察等から、本遺構が第13号溝跡より新しく、第５・７・８号土坑よりは古いことが確認できた。



C区第１号溝跡　A-A′ B-B′

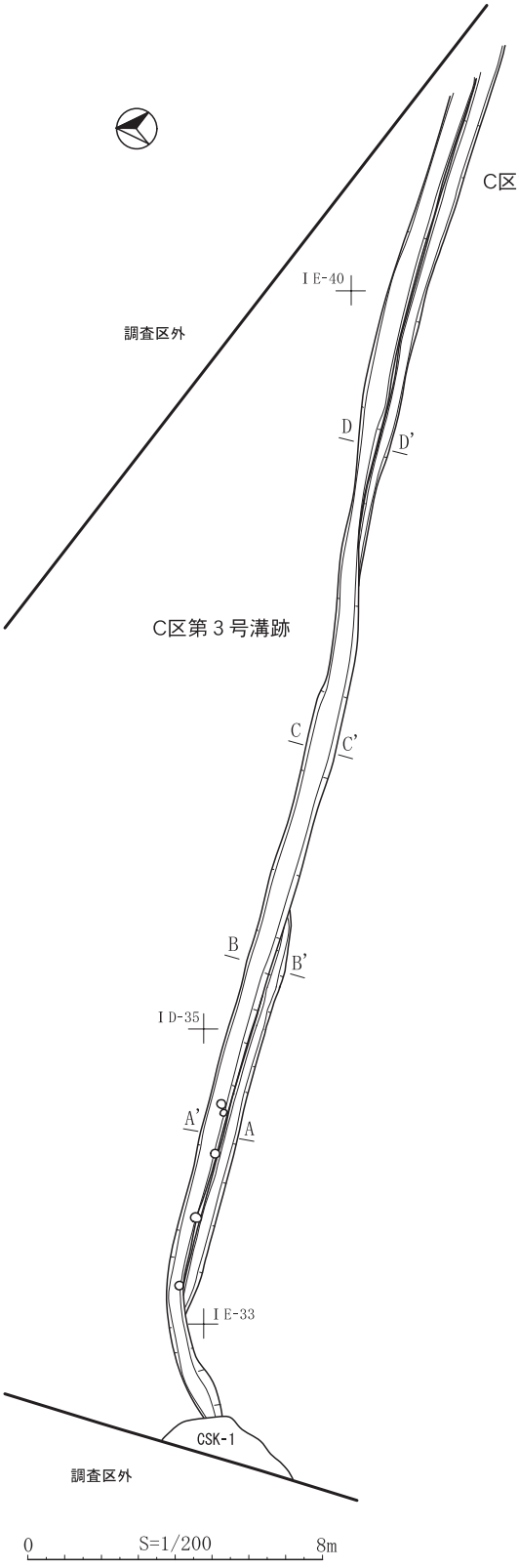
1層　10YR4/4　褐色土　10YR4/6褐色土多量、浮石(φ1～15mm)少量、焼土粒(φ1～10mm)微量、炭化(φ1～10mm)極微量、粘性弱、しまり強
2層　10YR5/6　黄褐色土　粘性やや中、しまり弱、炭化物層
3層　10YR4/4　褐色土　浮石(φ1～10mm)微量、焼土粒(φ1～5mm)極微量、炭化物(φ1～10mm)極微量、地山混じり、粘性弱、しまり中



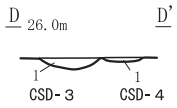
C区第２号溝跡　A-A′

1層　10YR4/4　褐色土　10YR5/4にぶい黄褐色土多量、浮石(φ1～3mm)極微量、粘性弱、しまり強

図77　Ｃ区溝跡（１）

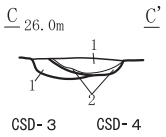


平面図のスケール



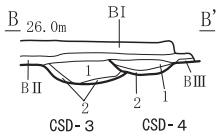
C区第３号溝跡　D-D′
1層　B-B′1層に相当

C区第４号溝跡　D-D′
1層　B-B′1層に相当



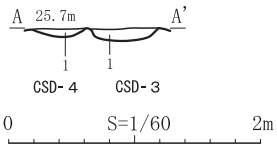
C区第３号溝跡　C-C′
1層　B-B′1層に相当

C区第４号溝跡　C-C′
1層　B-B′1層に相当
2層　10YR3/4　暗褐色土　　浮石(φ1～10mm)極微量、粘性弱、しまり強



C区第３号溝跡　B-B′
1層　10YR4/2　灰黄褐色粘土　10YR3/4暗褐色土多量、浮石(φ1～40mm)少量、炭化物粒(φ1～5mm)少量、焼土粒(φ1～5mm)微量、粘性強、しまり強
2層　10YR4/2　灰黄褐色粘土　10YR4/6褐色土多量、2.5Y6/2灰黄色シルト粒(φ1～10mm)少量、浮石(φ1～5mm)微量、粘性強、しまり強

C区第４号溝跡　B-B′
1層　10YR4/1　褐灰粘土　　10YR3/4暗褐色土多量、浮石(φ1～3mm)微量、粘性強しまり強
2層　10YR3/1　黒褐色粘土　　浮石(φ1～2mm)極微量、粘性強、しまり強



セクション図のスケール

C区第３号溝跡　A-A′
1層　10YR4/2　灰黄褐色土　　浮石(φ1～2mm)極微量、粘性強、しまり強

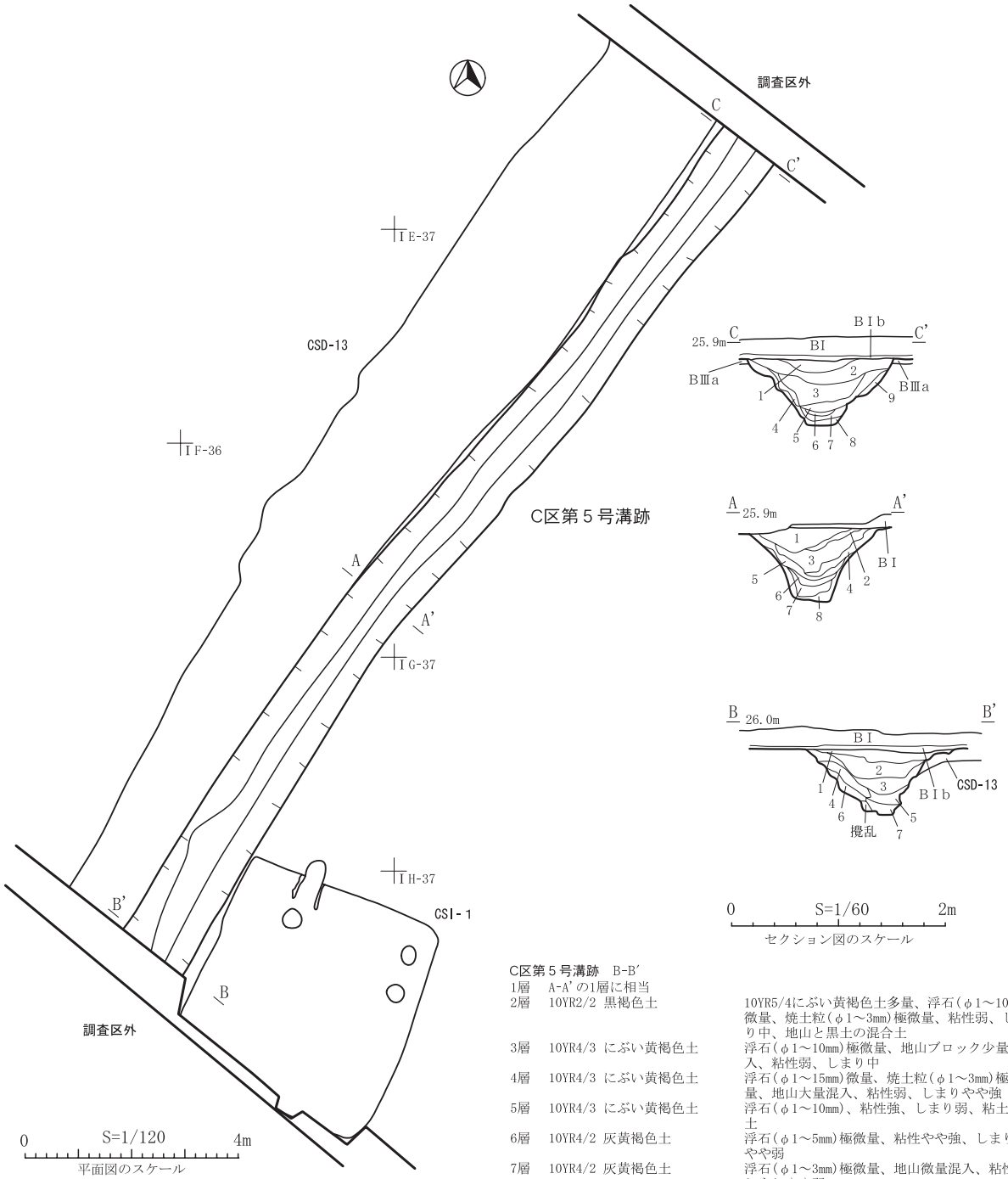
C区第４号溝跡　A-A′
1層　10YR4/3　にぶい黄褐色　　7.5YR4/6褐色多量、浮石(φ1～3mm)少量、粘性強しまり強

図78　C区溝跡（2）

【形態・規模】北東から南西方向に延び、いずれも調査区外に延びている。確認できた全長は約18.7m、上面幅110～130cm、底面幅30～36cm、深さは70cm前後を測る。
【壁・底面】基本層序第ＢⅢａ・ＢⅢｂ及び第ＢⅣ層を壁・底面としている。壁は底面からはやや急に、中位からは緩やかに立ち上がっている。断面の形状は概ね逆台形状を呈している。
【堆積土】７～11層に分層できた。自然堆積の様相を呈している。
【出土遺物】堆積土上層から土師器片が、堆積土中層から角柱状の土製支脚片が出土している。
【小結】出土遺物から平安時代の溝跡と考えられる。区画溝の可能性が高いが詳細については不明である。（笹森）

第６号溝跡（ＣＳＤ－６）（図80）
【位置・確認】ＩＥ－39グリッド他に位置している。基本層序第ＢⅢａ層上面で確認した。
【重複】第11・12号溝跡と重複している。明確な新旧関係は不明である。
【形態・規模】北東から南西方向に延び、いずれも調査区外に延びている。確認できた全長は約18.7m、上面幅160～250cm、底面幅24～70cm、深さは82～170cmを測る。
【壁・底面】壁は底面からやや急に立ち上がり、中位でやや緩やかに開いている。中位にテラスを有する場所もある。底面は概ね平坦である。
【堆積土】６～17層に分層できた。ほぼ自然堆積の様相を呈している。
【出土遺物】堆積土中から土師器片や礫が比較的多く出土し、上・中層から珠洲壺・坏が出土している。堆積土の下位から、なた状工具により打突した痕跡を有する直径約15cm程の自然礫が出土している。片面に炭化物が付着している。掲載はしていない。
【小結】出土遺物から平安時代～中世にかけての溝跡と考えられる。規模の大きい区画溝の可能性も考えられる。（笹森）

第７号溝跡（ＣＳＤ－７）（図81・83）
【位置・確認】ＩＨ－40グリッド他に位置している。基本層序第C1Ⅸ層上面及び遺構堆積土中で確認した。
【重複】第８号溝跡と重複している。堆積土の観察から、本遺構が新しいことが確認できた。
【形態・規模】幅広の溝状を呈し、C1区の微高地部分を取り囲むように巡っている。上面幅1.6～2.0m、底面幅0.6～1.2m、深さは50～70cmを測る。
【壁・底面】基本層序第C1Ⅸ～C1Ⅻ層及び遺構堆積土を壁や底面にしている。壁は緩やかに立ち上がり、底面も中央に向かい緩やかに傾斜している。
【堆積土】４層に分層できた。灰黄褐色土が主体でレンズ状に堆積している。水の影響のためか下層はかなりグライ化が進んでいる。全体的に自然堆積の様相を呈している。
【出土遺物】堆積土中から土師器片や礫、底面付近から刀が出土している。また、堆積土の中位から炭化物が付着している直径約10cm程の礫が出土している。掲載はしていない。
【小結】底面付近から刀が出土していることから、中世～近世の年代が考えられる。この場所は中世寺院の天徳寺があったとされると同時に、大浦為信(後の津軽為信)と田舎館城主千徳政武が対峙した場所



C区第５号溝跡　A-A′

1層	10YR3/3	暗褐色土	10YR4/4褐色土多量、浮石(φ1～15mm)少量、焼土粒(φ1～5mm)極微量、炭化物(φ1～5mm)極微量、粘性なし、しまり強
2層	10YR3/4	暗褐色土	浮石(φ1～10mm)微量、焼土粒(φ1～3mm)極微量、炭化物(φ1～3mm)極微量、粘性弱、しまりやや強
3層	10YR2/3	黒褐色土	10YR4/4褐色土多量、浮石(φ1～15mm)微量、焼土粒(φ1～3mm)極微量、炭化物(φ1～3mm)極微量、地山ブロック状に混入、粘性やや中、しまりやや強
4層	10YR3/3	暗褐色土	浮石(φ1～10mm)微量、炭化物(φ1～5mm)極微量、地山少量混入、粘性やや強、しまり弱
5層	10YR3/2	黒褐色土	浮石(φ1～15mm)微量、焼土粒(φ1～5mm)極微量、炭化物(φ1～5mm)極微量、粘性中、しまり中
6層	10YR4/2	灰黄褐色土	浮石(φ1～20mm)微量、粘土質層、粘性強、しまり弱
7層	10YR3/2	黒褐色土	地山との混合層、浮石(φ1～10mm)微量、炭化物(φ1～10mm)極微量、粘性強、しまり弱
8層	10YR4/6	褐色土	地山層

C区第５号溝跡　B-B′

1層	A-A'の1層に相当	
2層	10YR2/2 黒褐色土	10YR5/4にぶい黄褐色土多量、浮石(φ1～10mm)微量、焼土粒(φ1～3mm)極微量、粘性弱、しまり中、地山と黒土の混合土
3層	10YR4/3 にぶい黄褐色土	浮石(φ1～10mm)極微量、地山ブロック少量混入、粘性弱、しまり中
4層	10YR4/3 にぶい黄褐色土	浮石(φ1～15mm)微量、焼土粒(φ1～3mm)極微量、地山大量混入、粘性弱、しまりやや強
5層	10YR4/3 にぶい黄褐色土	浮石(φ1～10mm)、粘性強、しまり弱、粘土質土
6層	10YR4/2 灰黄褐色土	浮石(φ1～5mm)極微量、粘性やや強、しまりやや弱
7層	10YR4/2 灰黄褐色土	浮石(φ1～3mm)極微量、地山微量混入、粘性中しまりやや弱

C区第５号溝跡　C-C′

1層	10YR4/3 にぶい黄褐色土	7.5YR3/4暗褐色土多量、浮石(φ1～10mm)微量黒色土粒(φ1～5mm)微量、炭化物(φ1～3mm)極微量、粘性やや強、しまり強
2層	10YR4/4 褐色シルト質土	10YR3/4暗褐色土多量、黒色土粒(φ1～20mm)微量、浮石(φ1～10mm)微量、粘性中、しまり強
3層	2.5Y5/2 暗灰黄色土シルト質土	7.5YR3/4暗褐色土多量、浮石(φ1～20mm)少量黒色土粒(φ1～5mm)微量、炭化物(φ1～3mm)極微量、粘性中、しまり強
4層	10YR4/4 褐色土	10YR3/4暗褐色土多量、浮石(φ1～3mm)微量粘性中、しまり強
5層	10YR3/2 黒褐色土	10YR3/2黒褐色砂多量、炭化物(φ1～3mm)微量浮石(φ1～5mm)極微量、粘性中、しまり強
6層	10YR3/2 黒褐色粘土	炭化物(φ1～5mm)極微量、粘性強、しまり強
7層	10YR3/2 黒褐色粘土	小石多量、炭化物(φ1～10mm)微量、粘性やや強、しまり強
8層	10YR3/2 黒褐色粘土	炭化物粒(φ1～2mm)多量、粘性やや強、しまり弱
9層	10YR3/3 暗褐色土	浮石(φ1～10mm)微量、粘性中、しまり強

図79　C区溝跡（3）

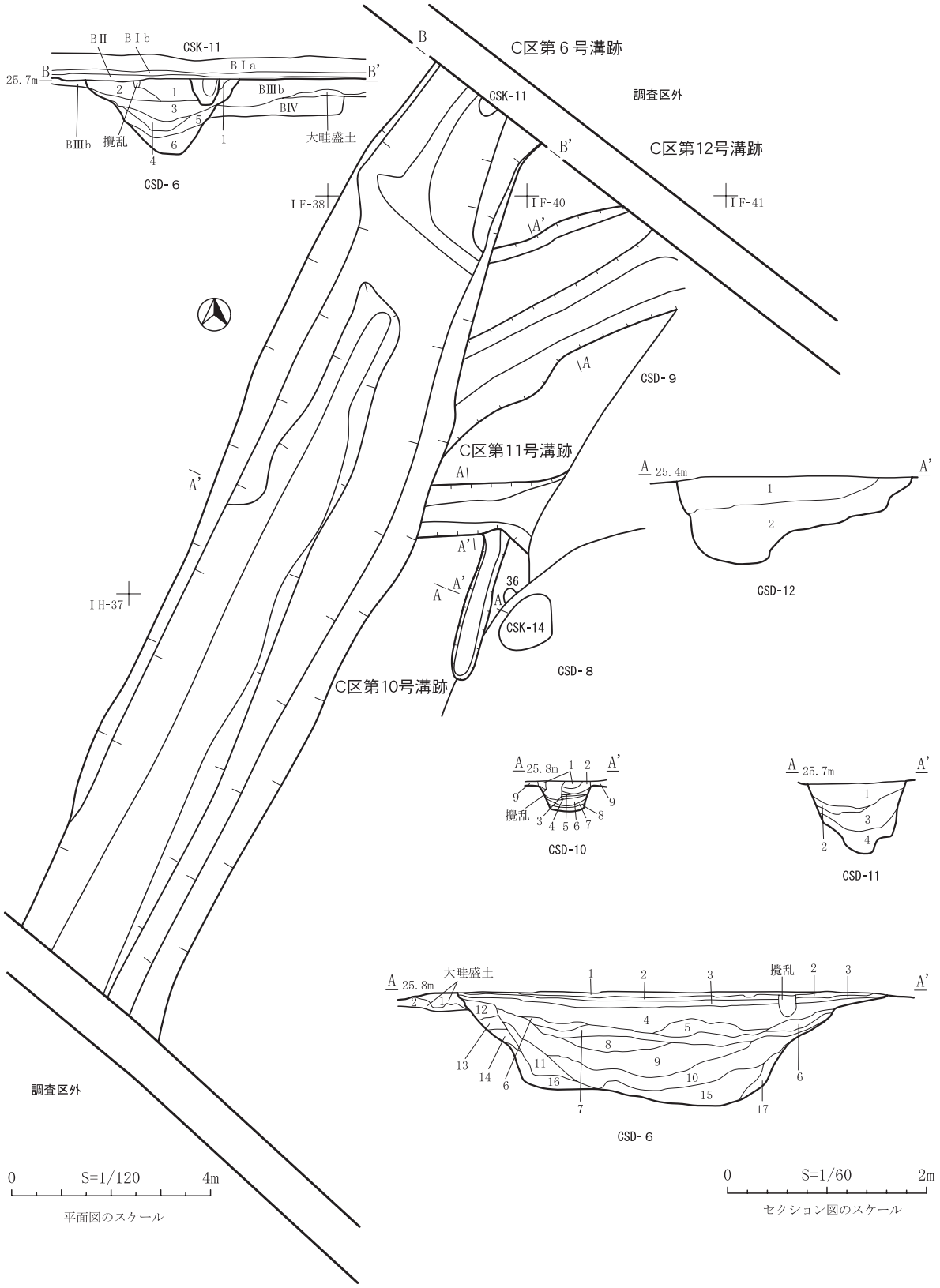

C区第６号溝跡
C区第12号溝跡
C区第11号溝跡
C区第10号溝跡
CSK-11
CSK-14
調査区外
IF-38
IF-40
IF-41
IH-37
CSD-6
CSD-8
CSD-9
CSD-10
CSD-11
CSD-12
BⅡ
BⅠb
BⅠa
BⅢb
BⅣ
撹乱
大畦盛土
25.7m
25.8m
25.4m
0
S=1/120
4m
平面図のスケール
S=1/60
2m
セクション図のスケール

図80　Ｃ区溝跡（４）

C区第６号溝跡　A-A′

1層	10YR4/2	灰黄褐色土	浮石(φ1～10㎜)微量、粘性中、しまり強
2層	10YR4/3	にぶい黄褐色土	7.5YR4/6褐色土多量、浮石(φ1～20㎜)微量、黒色土粒(φ1～5㎜)微量、粘性中、しまり強
3層	10YR2/2	黒褐色土	炭化物粒(φ1～10㎜)少量、浮石(φ1～10㎜)微量、粘性やや強、しまり中
4層	10YR5/3	にぶい黄褐色土	10YR4/4褐色土多量、浮石(φ1～20㎜)少量、炭化物粒(φ1～10㎜)微量、粘性やや強、しまり強
5層	10YR4/4	褐色粘土	2.5Y5/3黄褐色シルト質土多量、浮石(φ1～10㎜)微量、炭化物粒(φ1～5㎜)微量、粘性やや強、しまり強
6層	10YR4/3	にぶい黄褐色土	10YR4/4褐色土多量、浮石(φ1～3㎜)極微量、粘性やや強、しまり強
7層	10YR4/3	にぶい黄褐色粘質土	浮石(φ1～5㎜)微量、粘性強、しまり強
8層	10YR4/4	褐色粘土質土	10YR4/6褐色土多量、浮石(φ1～5㎜)微量、粘性強、しまり強
9層	10YR4/3	にぶい黄褐色粘土	10YR4/4褐色土多量、浮石(φ1～15㎜)微量、炭化物粒(φ1～5㎜)極微量、粘性強、しまりやや強
10層	10YR4/1	褐灰色土	10YR4/4褐色土多量、浮石(φ1～10㎜)微量、粘性強、しまり中
11層	10YR4/3	にぶい黄褐色粘質土	10YR5/2灰黄褐色シルト質粘土多量、浮石(φ1～10㎜)少量、粘性やや強、しまりやや強
12層	2.5Y6/3	にぶい黄色シルト	10YR4/6褐色土多量、浮石(φ1～5㎜)微量、粘性弱、しまり強
13層	2.5Y5/2	暗灰黄色粘土	10YR4/6褐色土多量、粘性やや強、しまりやや強
14層	10YR5/3	にぶい黄褐色粘土	10YR4/6褐色土多量、粘性強、しまりやや強
15層	10YR4/4	褐色粘土	7.5YR4/6褐色土粒ブロック(φ1～40㎜)少量、浮石(φ1～10㎜)微量、炭化物粒(φ1～10㎜)極微量、粘性中、しまり強
16層	10YR5/2	灰黄褐色粘土	7.5YR4/6褐色土粒ブロック(φ1～40㎜)少量、炭化物粒(φ10㎜)極微量、粘性強、しまりやや強
17層	10YR4/4	褐色土	10YR4/6褐色土多量、浮石(φ1～5㎜)微量、炭化物粒(φ1～5㎜)微量、粘性強、しまりやや強
大畦盛土1	10YR4/4	褐色土	10YR4/6褐色土多量、浮石(φ1～10㎜)少量、炭化物粒(φ1～3㎜)極微量、粘性中、しまり強
大畦盛土2	10YR4/3	にぶい黄褐色粘質土	10YR4/6褐色土・2.5Y6/3にぶい黄色シルト質土・10YR4/6褐色土の混合土多量、浮石(φ1～10㎜)極微量、粘性中、しまり強

C区第６号溝跡　B-B′

1層	10YR4/3	にぶい黄褐色粘質土	10YR4/4褐色土多量、浮石(φ1～15㎜)少量、炭化物粒(φ1～5㎜)微量、粘性やや強、しまり強
2層	10YR4/4	褐色土	10YR4/3にぶい黄褐色土多量、浮石(φ1～15㎜)少量、炭化物粒(φ1～5㎜)微量、粘性中、しまり強
3層	10YR4/4	褐色土	10YR4/3にぶい黄褐色土多量、浮石(φ1～15㎜)微量、炭化物粒(φ1～5㎜)微量、粘性中、しまり強
4層	10YR5/3	にぶい黄褐色土	浮石(φ1～10㎜)微量、粘性中、しまりやや強
5層	10YR4/3	にぶい黄褐色土	10YR4/4褐色土多量、浮石(φ1～10㎜)微量、炭化物粒(φ1～5㎜)極微量、粘性やや強、しまりやや強
6層	10YR4/3	にぶい黄褐色粘土	10YR4/4褐色土多量、浮石(φ1～10㎜)微量、粘性中、しまり中
大畦盛土	10YR4/3	にぶい黄褐色土	10YR4/3にぶい黄褐色砂多量、浮石(φ1～30㎜)微量、小石(φ1～15㎜)微量、粘性なし、しまり強

C区第10号溝跡

1層	10YR4/6	褐色粘土	10YR4/4褐色粘土多量、粘性やや強、しまり強
2層	2.5Y5/2	暗灰黄色粘土	10YR3/2黒褐色粘土多量、粘性強、しまり強
3層	10YR4/4	褐色粘土	10YR4/6褐色土多量、粘性強、しまり強
4層	10YR4/4	褐色粘土	2.5Y5/3黄褐色粘土多量、粘性強、しまり強
5層	10YR4/6	褐色土	10YR4/4褐色土多量、粘性強、しまり強
6層	2.5Y5/3	黄褐色粘土	2.5Y5/2暗灰黄色粘土多量、粘性強、しまり強
7層	10YR5/2	灰黄褐色粘土	粘性強、しまり強
8層	10YR1.7/1	黒色粘土	10YR5/3にぶい黄褐色粘土多量、粘性強、しまり強
9層	2.5Y5/3	黄褐色粘土	2.5Y5/2暗灰黄色粘土多量、粘性強、しまり強

C区第11号溝跡

1層	10YR4/4	褐色土	10YR4/2灰黄褐色土多量、浮石(φ1～20㎜)少量、焼土粘土ブロック(φ5～40㎜)少量、焼土粒(φ1～10㎜)微量、粘性弱しまり強
2層	10YR5/3	にぶい黄褐色土	浮石(φ1～10㎜)微量、焼土粘土ブロック(φ30㎜)微量、しらす少量混入、粘性弱、しまりやや強
3層	10YR5/3	にぶい黄褐色土	浮石(φ1～10㎜)微量、炭化物(φ1～10㎜)極微量、焼土粘土ブロック(φ1～50㎜)少量、地山少量混入、粘性中、しまり中、粘土質土
4層	10YR4/2	灰黄褐色土	地山中量混入、炭化物(φ1～15㎜)微量、粘性やや強、しまり弱、粘土質土

C区第12号溝跡

1層	10YR6/2	灰黄褐色土	10YR5/2灰黄褐色土多量、炭化物(φ1～25㎜)極微量、浮石(φ1～30㎜)中量、地山粒状に混入、粘性中、しまり強
2層	10YR4/1	褐灰色土	2.5YR5/1赤灰色土多量、10YR4/1褐灰色土と10YR2/1黒色土(粘性土)ブロック状に混入、炭化物(φ1～10㎜)極微量、浮石(φ1～15㎜)極微量、地山ブロック状に混入、粘性中、しまり強

であるとの伝承もある。　（笹森）

第８号溝跡（ＣＳＤ－８）（図81・83）

【位置・確認】ＩＧ－40グリッド他に位置している。基本層序第C1Ⅸ層上面及び遺構堆積土中で確認した。

【重複】第７・９号溝跡及び第407号ピットと重複している。堆積土の観察から、本遺構が第９号溝跡より新しく、第７号溝跡・第407号ピットより古いことが確認できた。

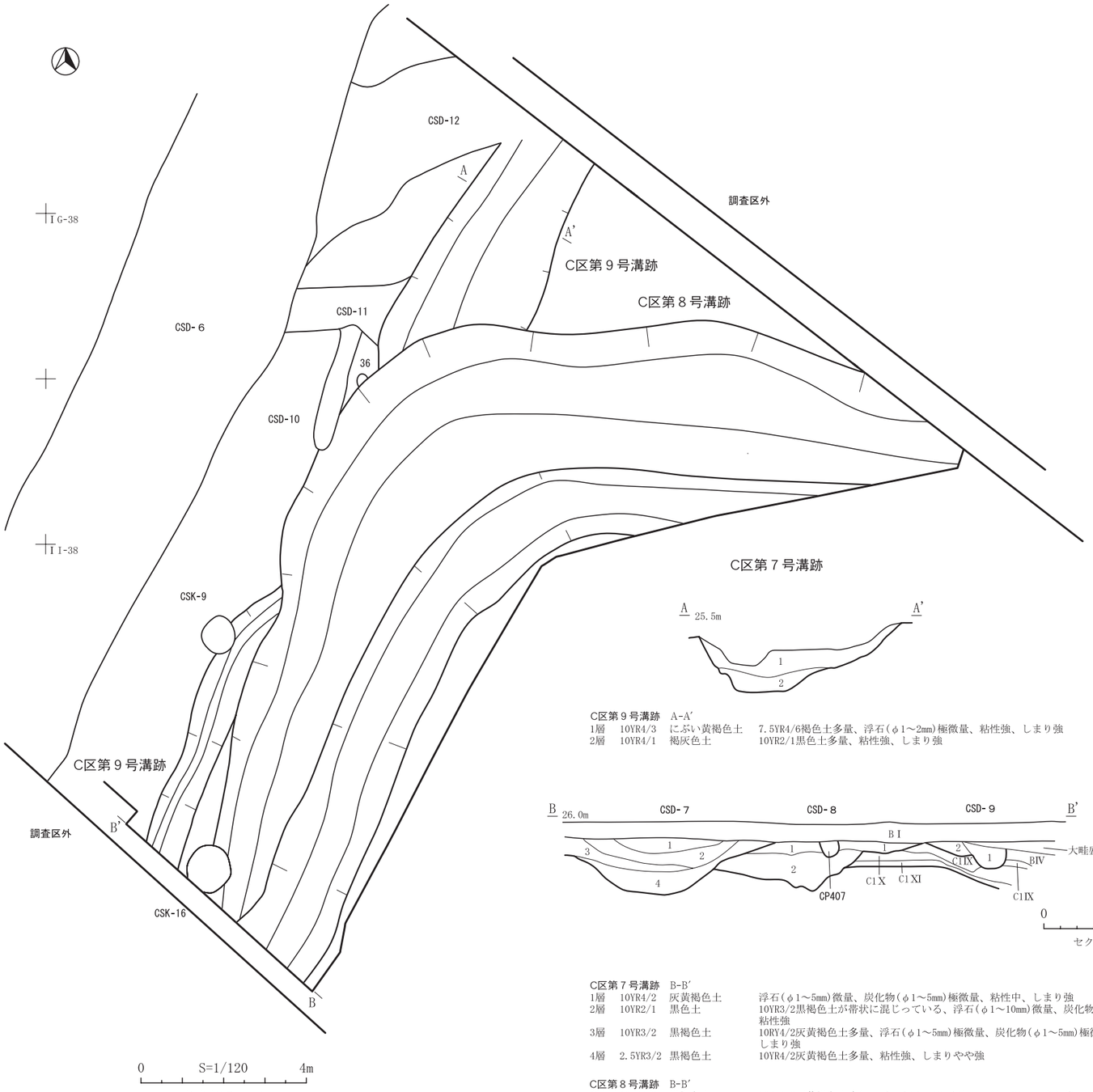
【形態・規模】幅広の溝状を呈し、第７号溝跡の外側でC1区の微高地部分を取り囲むように巡っている。第７号溝跡と重複しているため推定上面幅2.6～3.0m、底面幅0.3～0.8m、深さは60～70㎝を測る。

【壁・底面】基本層序第C1Ⅸ～Ⅻ層及び遺構堆積土を壁や底面にしている。壁は緩やかに立ち上がり、底面も中央に向かい緩やかに傾斜している。

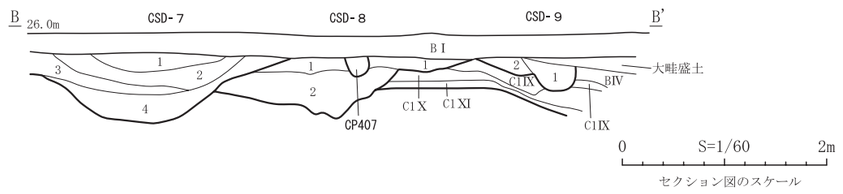
【堆積土】２層に分層できた。黒褐色及び灰黄褐色土が主体で、ほぼ自然堆積の様相を呈している。下層は水の影響によりかなりグライ化が進んでいる。

【出土遺物】堆積土中から弥生土器、土師器、須恵器、擦文土器の細片、礫が、覆土下層からウシ・ウマ類の遊離歯片が出土している。底面から土師器甕の口縁部破片が出土している。

【小結】平安時代の溝跡の可能性が考えられるが、詳細については不明である。　（笹森）



C区第９号溝跡　A-A′
1層　10YR4/3　にぶい黄褐色土　7.5YR4/6褐色土多量、浮石(φ1～2mm)極微量、粘性強、しまり強
2層　10YR4/1　褐灰色土　10YR2/1黒色土多量、粘性強、しまり強



C区第７号溝跡　B-B′
1層　10YR4/2　灰黄褐色土　浮石(φ1～5mm)微量、炭化物(φ1～5mm)極微量、粘性中、しまり強
2層　10YR2/1　黒色土　10YR3/2黒褐色土が帯状に混じっている、浮石(φ1～10mm)微量、炭化物(φ1～15mm)粘性強
3層　10YR3/2　黒褐色土　10RY4/2灰黄褐色土多量、浮石(φ1～5mm)極微量、炭化物(φ1～5mm)極微量、粘性強しまり強
4層　2.5YR3/2　黒褐色土　10YR4/2灰黄褐色土多量、粘性強、しまりやや強

C区第８号溝跡　B-B′
1層　10YR3/2　黒褐色土　10RY4/2灰黄褐色土多量、浮石(φ1～10mm)微量、粘性中、しまり強
2層　10YR5/2　灰黄褐色土　10YR6/2灰黄褐色土と10YR4/2灰黄褐色土がブロック状に混入、粘性強、しまり強

C区第９号溝跡　B-B′
1層　10YR5/2　灰黄褐色土　炭化物(φ1～20mm)微量、粘性弱、しまり強
2層　10YR6/2　灰黄褐色土　10YR5/3にぶい黄褐色土多量、10YR4/2灰黄褐色土がブロック状に混入、炭化物(φ1～5mm)極微量、粘性中、しまり強

図81　Ｃ区溝跡（５）

第９号溝跡（ＣＳＤ－９）（図81）

【位置・確認】ＩＦ－40グリッド他に位置している。基本層序第C1Ⅸ層上面で確認した。

【重複】第８・11・12号溝跡及びＢⅣ層水田大畦と重複している。本遺構が第８号溝跡より古く、他の溝跡との関係は不明である。ＢⅣ層水田大畦より古い可能性もある。

【形態・規模】他の遺構との重複が著しく明確な形態や規模は不明である。確認できる上面幅は最大で154㎝、底面幅は40㎝、深さは63㎝を測る。

【壁・底面】壁は底面から緩やかに立ち上がっている。底面は中央に向かいやや傾斜を有している。

【堆積土】２～４層に分層できた。灰黄褐色土が主体で、ほぼ自然堆積の様相を呈している。

【出土遺物】土師器の細片や礫が出土している。

【小結】出土遺物から、平安時代の溝跡の可能性が高い。詳細については不明である。　（笹森）

第10号溝跡（ＣＳＤ－10）（図80）

【位置・確認】ＩＧ－39グリッド他に位置している。基本層序第C1Ⅹ層上面で確認した。

【重複】第８・11号溝跡、第30・35号ピットと重複している。第８号溝跡より新しく、両ピットよりは古い。第11号溝跡との関係は不明であるが、同時期の可能性も考えられる。

【形態・規模】細長い溝状を呈し、全長は約３ｍを測る。上面幅43～53㎝、底面幅25～35㎝、深さは26㎝を測る。

【壁・底面】壁は底面からやや急に立ち上がっている。底面は平坦に造られている。

【堆積土】８層に分層できた。ほぼ水平に堆積しており自然堆積の様相を呈している。

【出土遺物】遺物は出土していない。

【小結】詳細については不明であるが、周辺の状況から、平安時代の溝跡の可能性が高い。　（笹森）

第11号溝跡（ＣＳＤ－11）（図80）

【位置・確認】ＩＧ－39グリッド他に位置している。基本層序第C1Ⅹ層上面で確認した。

【重複】第６・９・10号溝跡、第30号ピットと重複している。本遺構が第30号ピットより古く、他の溝跡との明確な関係は不明である。同時期の可能性も考えられる。

【形態・規模】やや幅広の溝状を呈し、全長は280㎝を測る。上面幅は第９号溝跡との接合面で185㎝と広くなり、その他は93～105㎝を測る。底面幅も同じく第９号溝跡との接合面で１ｍ46㎝と広くなり、その他は32～44㎝を測る。深さは70～80㎝を測る。

【壁・底面】壁は底面から緩やかに立ち上がっている。底面はほぼ平坦に造られている。

【堆積土】４層に分層できた。ほぼ自然堆積の様相を呈している。

【出土遺物】堆積土中より土師器の細片や礫が出土している。

【小結】出土遺物より、平安時代の溝跡と考えられる。詳細については不明である。　（笹森）

第12号溝跡（ＣＳＤ－12）（図80・83）

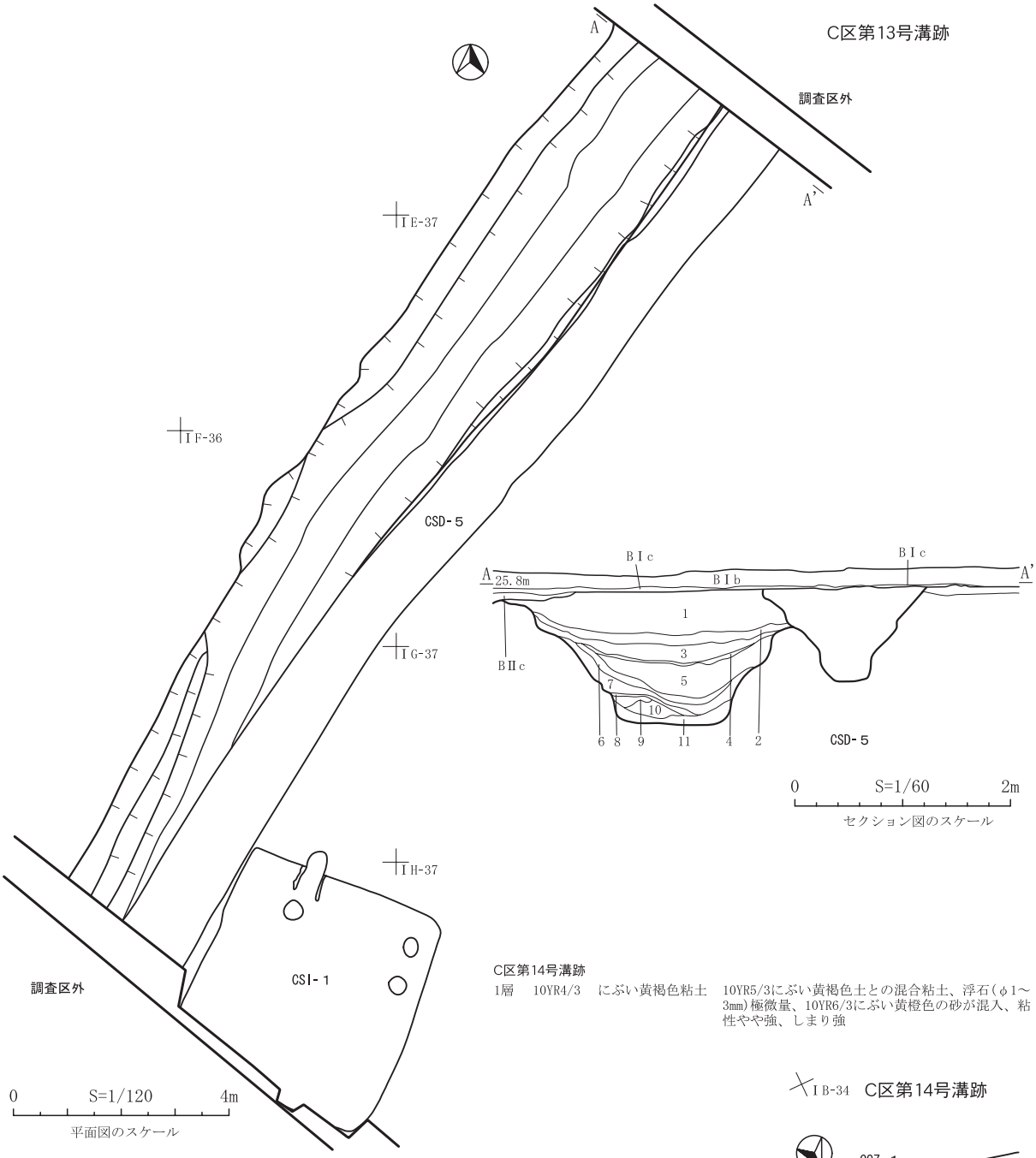
【位置・確認】ＩＦ－40グリッド他に位置している。基本層序第C1Ⅸ層上面で確認した。

【重複】第６・９号溝跡と重複している。両溝跡との明確な関係は不明である。

【形態・規模】幅広の溝状を呈し、全長は5.2ｍを測る。上面幅は230～270㎝、底面幅は50～60㎝、深さは76㎝を測る。
【壁・底面】壁は底面から南東側でやや急に立ち上がっている。北西側はやや急に立ち上がり中位でテラスを有しながら緩やかに立ち上がっている。底面はやや中央に向かいやや傾斜を持って造られている。
【堆積土】２層に分層できた。自然堆積の様相を呈している。
【出土遺物】堆積土中より土師器甕の底部や礫が出土している。
【小結】出土遺物より、平安時代の溝跡と考えられる。詳細については不明である。　（笹森）

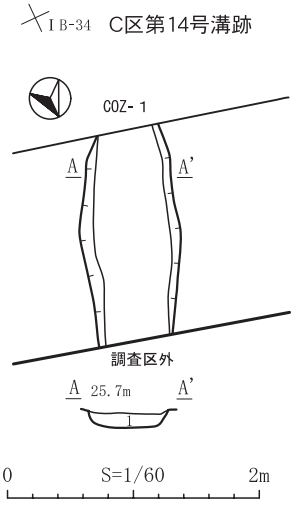
第13号溝跡（ＣＳＤ－13）（図82・83）
【位置・確認】ＩＤ－38グリッド他に位置している。基本層序第ＢⅢａ層上面で確認した。
【重複】第３号竪穴住居跡、第５号土坑、第５号溝跡及びＢⅣ層水田跡と重複している。堆積土の観察等から、本遺構がＢⅣ層水田跡より新しく、その他の全ての遺構より古いことが確認できた。
【形態・規模】北東から南西方向に延び、いずれも調査区外に延びている。確認できた全長は約18.7m、上面幅110～130㎝、底面幅30～36㎝、深さは70㎝前後を測る。
【壁・底面】基本層序第ＢⅢａ・ＢⅢｂ層及び第ＢⅣ・ＢⅤ層を壁・底面としている。壁は底面から途中に屈曲を持ちながら緩やかに立ち上がっている。底面はほぼ平坦に造られている。断面の形状は概ね逆台形状を呈している。
【堆積土】11層に分層できた。自然堆積の様相を呈している。
【出土遺物】堆積土中から土師器・須恵器片、土製品が出土しているが出土量はそれ程多くはない。
【小結】出土遺物から、平安時代の溝跡と考えられる。比較的規模の大きな区画溝であった可能性が高い。　（笹森）

第14号溝跡（ＣＳＤ－14）（図82）
【位置・確認】ＩＡ－33・34グリッドに位置する。基本層序第ＢⅠ層直下、第ＢⅢａ層上面で検出した。
【重複】第１号道路跡の北側側溝と重複しており、これよりも古い。
【形態・規模】軸方位は北東から南西方向で、北側は調査区外に延びる。検出面における最大上面幅は80㎝、底面幅は60㎝、深さは12㎝を測る。全体形状は不明である。
【壁・底面】基本層序第ＢⅢa層を壁底面としている。隣接する現在の水路の影響により遺構の層理面には褐鉄鉱が多く沈着している。
【堆積土】堆積土下部では第ＢⅢ層に由来する軽石を比較的多く含む砂質土が堆積する。
【出土遺物】遺物は出土していない。
【小結】検出層位ならびに遺構の重複関係から10世紀後葉以降、平安時代後期に帰属するものと考えられる。　（斉藤）



C区第14号溝跡

1層	10YR4/3	にぶい黄褐色粘土	10YR5/3にぶい黄褐色土との混合粘土、浮石(φ1～3mm)極微量、10YR6/3にぶい黄橙色の砂が混入、粘性やや強、しまり強



C区第13号溝跡

1層	10YR5/4	にぶい黄褐色土	7.5YR4/4褐色土との混合土、浮石(φ1～25mm)極微量、炭化物(φ1～5mm)極微量 粘性やや弱、しまり強
2層	10YR5/4	にぶい黄褐色土	7.5YR4/4褐色土との混合土、浮石(φ1～10mm)少量、第BⅢ層ブロック状に微量混入 粘性やや中、しまり強
3層	10YR4/4	褐色土	10YR4/3にぶい黄褐色土と10YR5/3にぶい黄褐色土との混合土、浮石(φ1～20mm)少量 炭化物(φ1～10mm)極微量、第BⅢ層ブロック状に中量混入、10YR5/2灰黄褐色粘性土ブロック状に極微量混入、粘性やや中、しまりやや強
4層	10YR4/3	にぶい黄褐色土	10YR3/3暗褐色土との混合土、浮石(φ1～10mm)極微量、第BⅢ層ブロック状に微量混入、中層に10YR1.7/1黒色土帯状に混入、粘性中、しまりやや弱
5層	10YR4/4	褐色土	10YR5/3にぶい黄褐色土との混合土、浮石(φ1～20mm)少量炭化物(φ1～10mm)極微量、下層に第BⅢ層ブロック状に推積、粘性中、しまり中
6層	10YR4/2	灰黄褐色	10YR4/4褐色土と7.5YR3/4暗褐色土との混合土、浮石(φ1～20mm)微量、炭化物(φ1～15mm)極微量、粘性中、しまり中
7層	10YR5/3	にぶい黄褐色土	10YR4/4褐色土との混合土、浮石(φ1～25mm)微量、層上部にBⅢ層ブロック状に推積 粘性強、しまりやや強、層中部に7.5YR3/3暗褐色土帯状に混入
8層	10YR2/3	黒褐色砂	10YR3/3暗褐色砂との混合砂、粘性弱、しまり中、砂層
9層	10YR5/3	にぶい黄褐色粘性土	10YR4/4褐色土との混合土、浮石φ(1～15mm)極微量、粘性中、しまり中
10層	10YR3/3	暗褐色砂	10YR3/4暗褐色砂との混合砂、10YR5/3にぶい黄褐色土ブロック状に微量混入、粘性弱、しまり中、砂層
11層	10YR4/4	褐色土	第BⅢ層(10YR5/3にぶい黄褐色土と7.5YR4/6褐色土との混合シラス土)崩落土推積、粘性中、しまり中

図82　Ｃ区溝跡（６）

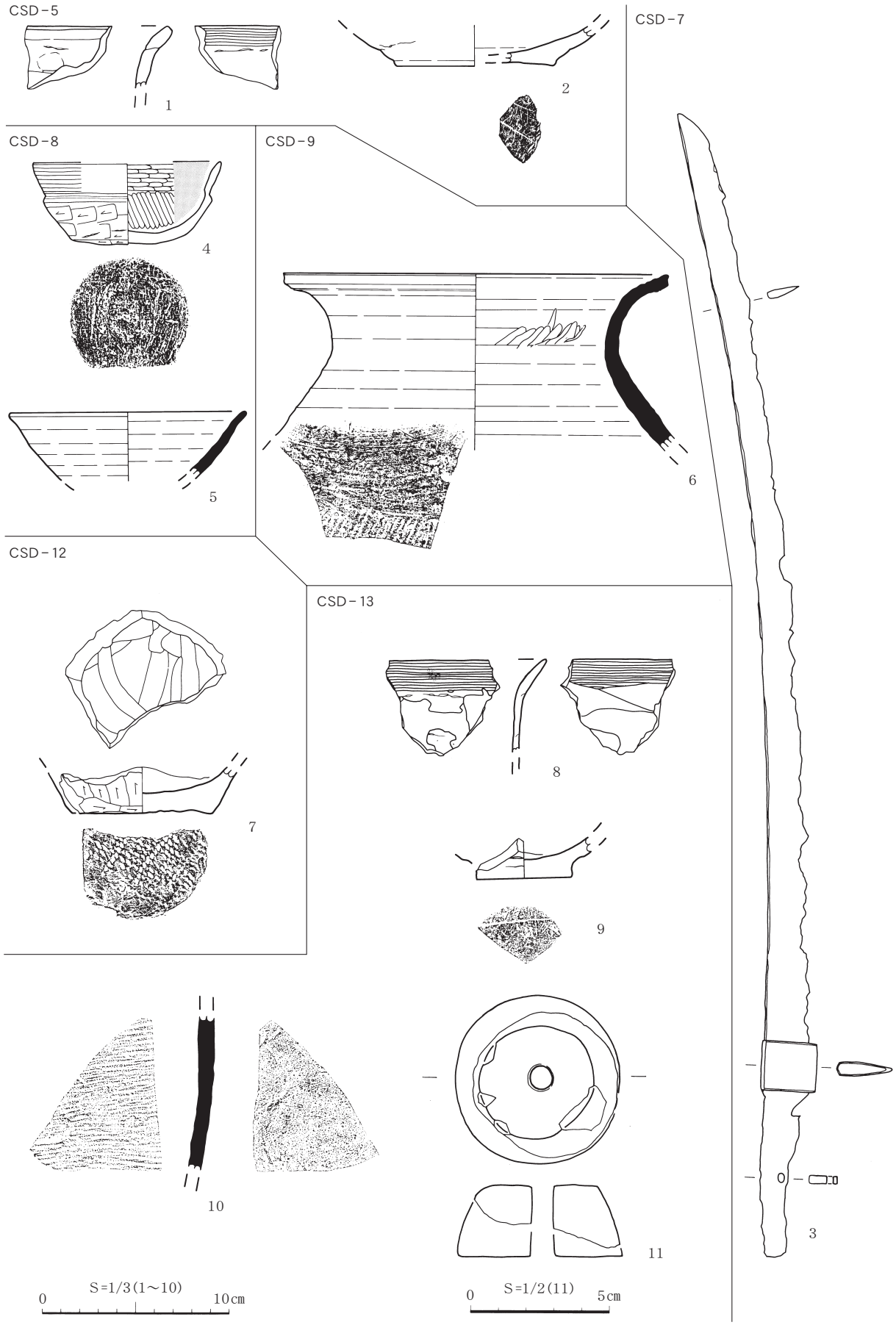


図83　C区溝跡出土遺物

第７節　道路跡

第１号道路跡（ＣＯＺ－1）（図84・85）

【位置・確認】ＩＡ－33グリッド他に位置している。圃場整備後の水田の不透水層（酸化鉄集積層）除去後にＢⅣ層水田跡を被覆している堆積土、基本層序第ＢⅢａ層上面で確認した。現在の村道畑中９号線の南側で、村道にほぼ沿うように東西方向に延びる幅広の溝状に検出された。東側は調査区外に、西側は村道畑中３号線の下部に延びている。

【重複】第14号溝跡と重複している。検出状況や堆積土の状況から本遺構が新しいことが確認できた。また、側溝部分はＢⅣ層水田跡とも重複しており、同様に本遺構が新しいことが確認できた。

【平面形・規模】検出面では路面・側溝を含め幅約５ｍ程の溝状を呈しており、精査途中で道路跡と確認できた。路面の両端(南北側)に側溝を有する形態である。本遺構は２回拡幅されている。拡幅は南側の側溝及び路面が南側へ移動する形で行われている。初期段階から順にＡ・Ｂ・Ｃと呼称する。道路跡Ａの路面幅は180～200㎝、道路跡Ｂの路面幅は220～240㎝、道路跡Ｃの路面幅は300～320㎝を測る。北側側溝の規模は上面幅90～120㎝、底面幅20～40㎝、深さは路面から20～30㎝を測る。南側側溝は拡幅により全容を伺い知ることはできないが、最終段階である道路跡Ｃでの推定上面幅42～58㎝、底面幅22～30㎝、深さは20～32㎝を測る。

【路面】轍状の溝や明確な硬化面は検出することはできなかったが、かなり凹凸が見られる。一部で路面に並行、或いは斜行する溝状の落ち込みが確認できる。路面の断面形状は上底幅の広い台形状を呈している。断面の観察から、路面は側溝の外側より一段低く造られている様子が伺える。路面の基盤となっているのは基本層序第ＢⅢａ層である。

【側溝堆積土】５～７層に分層できた。一部で人為堆積の様相を呈している。

【側溝壁・底面】側溝壁は底面からやや急に立ち上がっている。底面はほぼ平坦に造られている。断面の形状は逆台形状を呈している。側溝部分は基本層序第ＢⅣ層を掘り込んでいる。

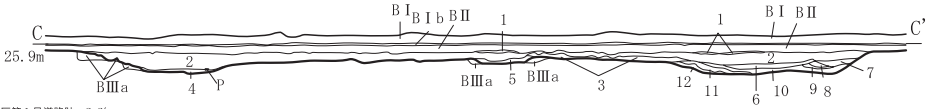
【ピット】路面や側溝底面からも検出されなかった。

【その他の施設】前述したように路面上に溝状の落ち込みが２条見られた。性格等については不明である。

【出土遺物】側溝堆積土中や路面を覆っている土中から土師器・須恵器の破片、棒状石製品、動物歯骨、流動滓が出土している。棒状石製品の石質は片磨岩であり、掲載はしていない。

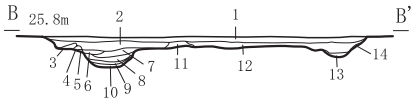
【小結】側溝堆積土の状況や動物歯骨等の出土状況から、Ｂ区で検出された矩形区画の濠跡と同時期、中世段階の道路跡の可能性が高い。Ｂ区からは延長部分と考えられる遺構(側溝や路面)が検出されていないことから矩形区画に通じる道路、或いは矩形区画に直交し、そこから両側(南北方向)に延びていた道路跡の可能性も考えられる。周辺住民の話によると、矩形区画前を南北方向に延びている現在の村道畑中３号線は古くからの道として知られており、以前は畑中集落から南西隣りの新山集落へ通じる道路であったとされている。側溝堆積土中から出土した炭化材から得られた炭素年代測定値は850±30yrBPである。詳細は第９章第１節に掲載している。

（笹森）



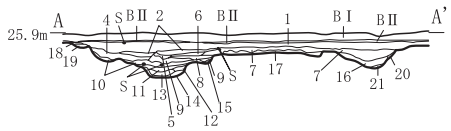
C区第1号道路跡　C-C'

1層	10YR4/3	にぶい黄褐色土	7.5YR3/4暗褐色土多量、浮石(φ1～15mm)微量、粘性中、しまり強
2層	10YR4/3	にぶい黄褐色土	10YR4/4褐色土・7.5YR4/6褐色土粒(φ1～3mm)・炭化物粒(φ1～20mm)多量、浮石(φ1～30mm)少量、土器混入、粘性強、しまり強
3層	10YR4/2	灰黄褐色土	Ⅳ層地山多量、浮石(φ1～10mm)少量、炭化物粒(φ1～5mm)極微量、粘性中、しまり強
4層	10YR4/4	褐色土	7.5YR4/6褐色土多量、浮石(φ1～5mm)微量、炭化物粒(φ1～5mm)極微量、粘性強、しまりやや強
5層	10YR4/3	にぶい黄褐色土	10YR6/4にぶい黄橙色シルト多量、浮石(φ1～20mm)少量、黒色土粒(φ1～20mm)少量、炭化物粒(φ1～5mm)極微量、焼土粒(φ1～5mm)極微量、粘性強、しまり強
6層	10YR4/2	灰黄褐色土	7.5YR4/4褐色土多量、2.5Y5/2暗灰黄色シルト質粘土ブロック(φ5～25mm)少量、浮石(φ1～10mm)少量、炭化物粒(φ1～10mm)極微量、焼土粒(φ1～5mm)極微量、粘性強、しまり強
7層	10YR4/4	褐色土	7.5YR4/4褐色土多量、浮石(φ1～10mm)微量、炭化物粒(φ1～2mm)極微量、粘性強、しまり強
8層	10YR4/3	にぶい黄褐色土	7.5YR4/6褐色土多量、浮石(φ1～5mm)微量、炭化物粒(φ1～2mm)極微量、粘性中、しまり強
9層	10YR4/3	にぶい黄褐色土	7.5YR3/4暗褐色土多量、浮石(φ1～30mm)微量、炭化物粒(φ1～2mm)極微量、焼土粒(φ1～2mm)極微量、粘性強、しまり強
10層	10YR4/3	にぶい黄褐色土	7.5YR4/6褐色土多量、浮石(φ1～10mm)微量、炭化物粒(φ1～5mm)極微量、焼土粒(φ1～2mm)極微量、粘性強、しまり強
11層	10YR4/2	灰黄褐色土	浮石(φ1～5mm)微量、炭化物粒(φ1～2mm)極微量、焼土粒(φ1～2mm)極微量、粘性強、しまりやや強
12層	10YR5/3	にぶい黄褐色土	7.5YR4/6褐色土多量、浮石(φ1～2mm)極微量、粘性強、しまり強



C区第1号道路跡　B-B'

1層	10YR3/4	暗褐色土	浮石(φ1～4mm)多量、炭化物粒(φ1～10mm)微量、粘性中、しまり強
2層	10YR3/4	暗褐色粘土	7.5YR4/6褐色土多量、浮石(φ1～2mm)少量、粘性強、しまり強
3層	10YR4/4	褐色粘土	浮石(φ1～3mm)極微量、粘性強、しまり強
4層	10YR4/3	にぶい黄褐色粘土	粘性中、しまり強
5層	10YR4/4	褐色土	粘性中、しまり強
6層	10YR4/3	にぶい黄褐色粘土	浮石(φ1～2mm)微量、10YR5/4にぶい黄褐色粘土(φ1～2mm)極微量、粘性強、しまり強
7層	10YR5/3	にぶい黄褐色粘土	10YR4/4褐色土・浮石(φ1～2mm)多量、炭化物粒(φ1～2mm)少量、粘性中、しまり中
8層	10YR3/3	暗褐色シルト	2.5Y6/3にぶい黄色シルト・浮石(φ1～5mm)多量、炭化物粒(φ1～2mm)微量、層右側に2.5Y6/3にぶい黄色粘土と10YR4/3にぶい黄褐色土が混入、層中央下部に小石(φ2～3mm)の層あり、粘性中、しまり強
9層	10YR3/1	黒褐色粘土	浮石(φ1～3mm)微量、炭化物粒(φ1～2mm)極微量、粘性強、しまり中
10層	10YR4/3	にぶい黄褐色粘土	10YR7/4にぶい黄橙色粘土ブロック(φ5～20mm)少量、浮石(φ1～3mm)多量、炭化物粒(φ1～2mm)微量、粘性強、しまり中
11層	2.5Y6/3	にぶい黄色土	浮石(φ1～2mm)微量、粘性弱、しまり強
12層	10YR4/4	褐色粘土質シルト	浮石(φ1～2mm)少量、炭化物粒(φ1～2mm)中量、粘性強、しまり強
13層	10YR4/3	にぶい黄褐色土	浮石(φ1～2mm)微量、炭化物粒(φ1～2mm)極微量、粘性強、しまり強
14層	10YR4/3	にぶい黄褐色土	浮石(φ1～20mm)微量、粘性強、しまり強



C区第1号道路跡　A-A'

1層	7.5YR3/4	暗褐色土	10YR4/2灰黄褐色土多量、浮石(φ1～20mm)中量、炭化物粒(φ1～3mm)微量、粘性中しまり強
2層	2.5Y5/2	暗灰黄色シルト質土	10YR4/2灰黄褐色土多量、浮石(φ1～10mm)少量、炭化物粒(φ20mm)微量、粘性中、しまり強
3層	10YR4/2	灰黄褐色粘質土	10YR4/4褐色砂質土多量、浮石(φ1～5mm)微量、炭化物粒(φ1～3mm)極微量、粘性中しまり強
4層	10YR4/3	にぶい黄褐色土	10YR4/2灰黄褐色粘土多量、浮石(φ1～20mm)微量、焼土粒(φ1～5mm)極微量、層右側に2.5Y6/3にぶい黄色シルトブロック混入、粘性強、しまり強
5層	10YR4/2	灰黄褐色粘土	2.5Y6/2灰黄色シルト質土多量、浮石(φ1～5mm)極微量、粘性強、しまり強
6層	10YR3/3	暗褐色土	10YR3/2黒褐色粘土多量、浮石(φ1～5mm)微量、粘性強、しまり強
7層	10YR4/2	灰黄褐色粘土	10YR3/4暗褐色土多量、浮石(φ1～20mm)少量、炭化物粒(φ5～20mm)微量、小礫混入右側に2.5Y5/2暗灰黄色シルトブロック混入、10YR5/4にぶい黄褐色粘土ブロック下部に混入、粘性中、しまり強
8層	10YR3/3	暗褐色粘土	2.5Y5/3黄褐色粘土質シルト多量、炭化物粒(φ1～10mm)微量、浮石(φ1～5mm)微量粘性中、しまり強
9層	10YR4/2	灰黄褐色粘土	浮石(φ1～3mm)少量、粘性強、しまり中
10層	10YR4/3	にぶい黄褐色土	10YR4/1褐灰色粘土多量、浮石(φ1～10mm)微量、層中央に2.5Y6/3にぶい黄色シルトブロック混入、小礫混入、層右側上部(9層下)に炭化物が扇状に混入、粘性強、しまり強
11層	10YR3/2	黒褐色粘土	浮石(φ1～10mm)微量、層状部に10YR3/3暗褐色砂と10YR4/2灰黄褐色砂が帯状に混入粘性強、しまり強
12層	10YR3/2	黒褐色粘土	2.5Y5/3黄褐色粘土粒(φ5～10mm)少量、浮石(φ1～5mm)微量、粘性強、しまり強
13層	10YR4/2	灰黄褐色粘土	2.5Y5/2暗灰黄色シルト多量、10YR4/6褐色土粒(φ1～10mm)中量、浮石(φ1～5mm)微量粘性強、しまり強
14層	10YR4/2	灰黄褐色粘土	7.5YR4/6褐色土多量、浮石(φ1～10mm)微量、粘性強、しまり強
15層	10YR4/3	にぶい黄褐色土	浮石(φ1～5mm)極微量、粘性強、しまり強
16層	10YR4/3	にぶい黄褐色粘質土	浮石(φ1～5mm)微量、層右側に2.5Y6/2灰黄色シルトブロック混入、粘性強、しまり強
17層	2.5Y5/2	暗灰黄色シルト	10YR4/2灰黄褐色粘土多量、浮石(φ1～5mm)極微量、粘性強、しまり強
18層	10YR4/4	褐色土	7.5YR3/4暗褐色土多量、浮石(φ1～5mm)微量、粘性強、しまり強
19層	10YR4/3	にぶい黄褐色土	7.5YR4/6褐色土多量、浮石(φ1～10mm)微量、炭化物粒(φ5mm)極微量、粘性中しまり強
20層	10YR4/3	にぶい黄褐色粘質土	10YR4/6褐色土多量
21層	10YR4/1	褐灰色粘土	2.5Y5/2暗灰黄色粘土多量、浮石(φ1～5mm)極微量、粘性強、しまり強

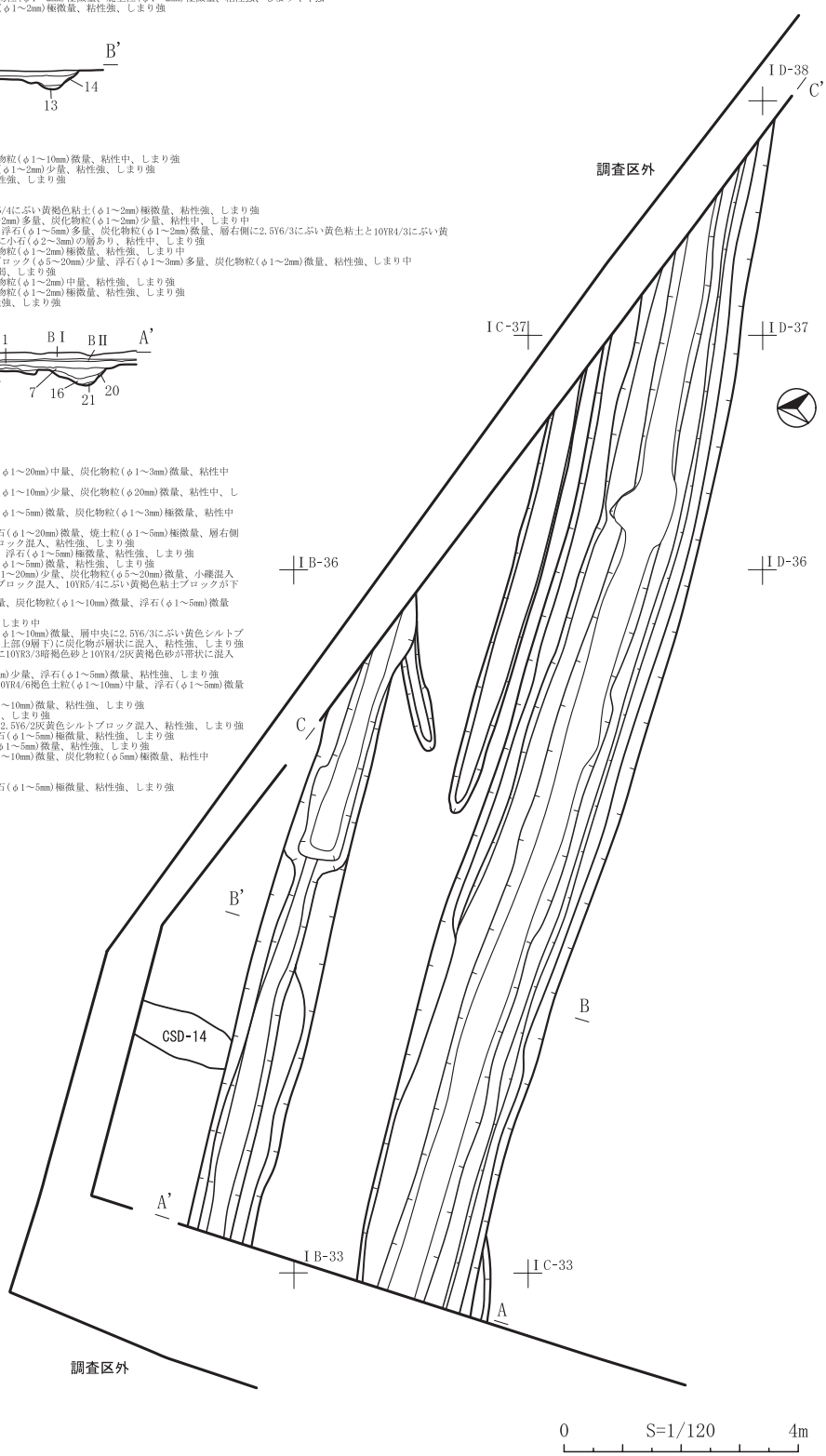


図84　C区道路跡

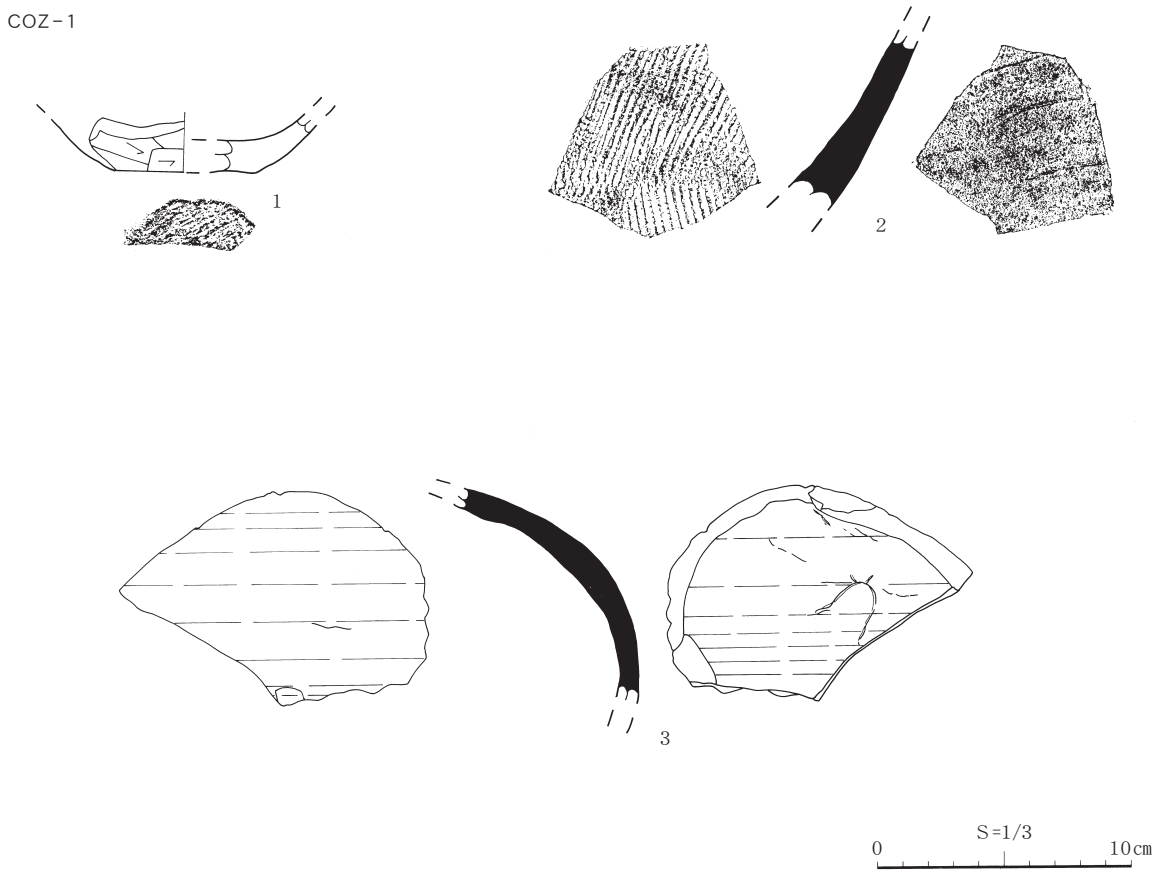


図85　Ｃ区道路跡出土遺物

第８節　遺構外出土遺物

Ｃ区の遺構外からは、土師器・須恵器・陶磁器・石製品・金属製品が出土している。Ｃ区における調査前の土地利用状況は田地で、圃場整備等の土地改変による攪乱が基本層序第ＢⅢ層上面まで及んでいる箇所が大半であり、遺構外出土遺物は基本層序第Ⅰ層や攪乱層からの出土が多くを占める。

１　古代の土器

土師器甕（図86－１・３）、擦文土器の可能性がある甕（図86－２）、須恵器坏（図86－４・５）が出土している。

図86－１は土師器甕の口縁部片。口縁部は比較的きつく外反している。図86－３は土師器甕の底部片。底部には砂の圧痕が一部で見られる。内面はかなり剥落していると共に、圃場整備後の水田土壌の影響による鉄分の付着が著しい。図86－２は土師器、或いは擦文土器の胴部片。外面は縦位方向、内面には斜位方向の刷毛目調整が顕著に見られる。器厚は３～４㎜と比較的薄い。図86－４・５は須恵器坏の口縁～体部片。図86－４の底部付近にはヘラ状工具によるケズリ調整が施されている。２点は別個体の可能性が高いが、共に器高が比較的低く、底径は比較的大きい製品であった可能性が高い。

（笹森）

２　中世以降の陶磁器

遺構外から出土した中世陶磁器は５点、近世の可能性がある陶磁器は12点、近現代の陶磁器は10点出土しており、中世陶磁器の青磁碗（図86－６）、白磁碗（図86－７）、白磁花瓶（図86－８）、珠洲擂鉢（図86－９）、壺（図86－10）を図示した。

青磁碗は胎土や釉調から龍泉窯系と思われるもので、内面には劃花文の一部が陰刻されており、外面は無文のものである。白磁碗は口縁形状が玉縁状を呈し、灰色を帯びた白色釉を施釉するもので、体部外面下半部は露胎するものである。白磁花瓶は口縁部破片であり、緩やかに外反した口縁端部をわずかに直立させたもので、灰色を帯びた白色釉を内外面に全面施釉するものである。白磁碗や花瓶とも、12世紀後半から13世紀初頭頃におさまるものと思われる。珠洲擂鉢は口縁端部の外側に面を取るもので、胎土は硬質であり内面には卸目はない。13世紀初頭から半ばにかけてのものと思われる。珠洲壺は口縁部を欠失し確証に欠けるが体部外面の叩目の条が細かく密であることや、胎土が硬質であることから13世紀初頭から半ばにかけてのものと思われる。

近世の可能性がある陶磁器のうち陶器は悪戸焼の瓶類と思われるものが１点出土しており、量的に少ない。磁器では碗皿類、香炉、瓶類が出土しており肥前碗皿類が比較的多く出土している。

（工藤）

３　石製品

石製品では凹石（図86－11）が出土している。凹石の石材は比較的軟質な流紋岩質凝灰岩の円礫であり、敲打部は表裏２面に認められる。敲打部の凹みは５～８㎜を測り、表裏とも中央部が最も深い。

（工藤）

４　金属製品

遺構外から出土した金属製品で図示できたものは１点(図86－12)である。図86－12は刀子。先端部と基部を欠損している。現存長は17.7㎝で、その内基部の長さは9.1㎝を測る。全体的に錆の付着が著しい。

（笹森）

５　まとめ

Ｃ区の遺構外では、古代の土師器・須恵器・擦文土器、中世の遺物が出土している。基本層序第ＢⅢ層上位から出土しており十和田a火山灰以後の年代が与えられる。古代の遺物は10世紀後半（白頭山苫小牧火山灰以後）の資料が主体となる。中世の遺物は時期的には12世紀後半から13世紀代にまとまって出土しており、用途別の傾向は特に認められない。また近世陶磁器は小破片が多く、調査前の耕作の影響と考えられる。

（担当者一同）

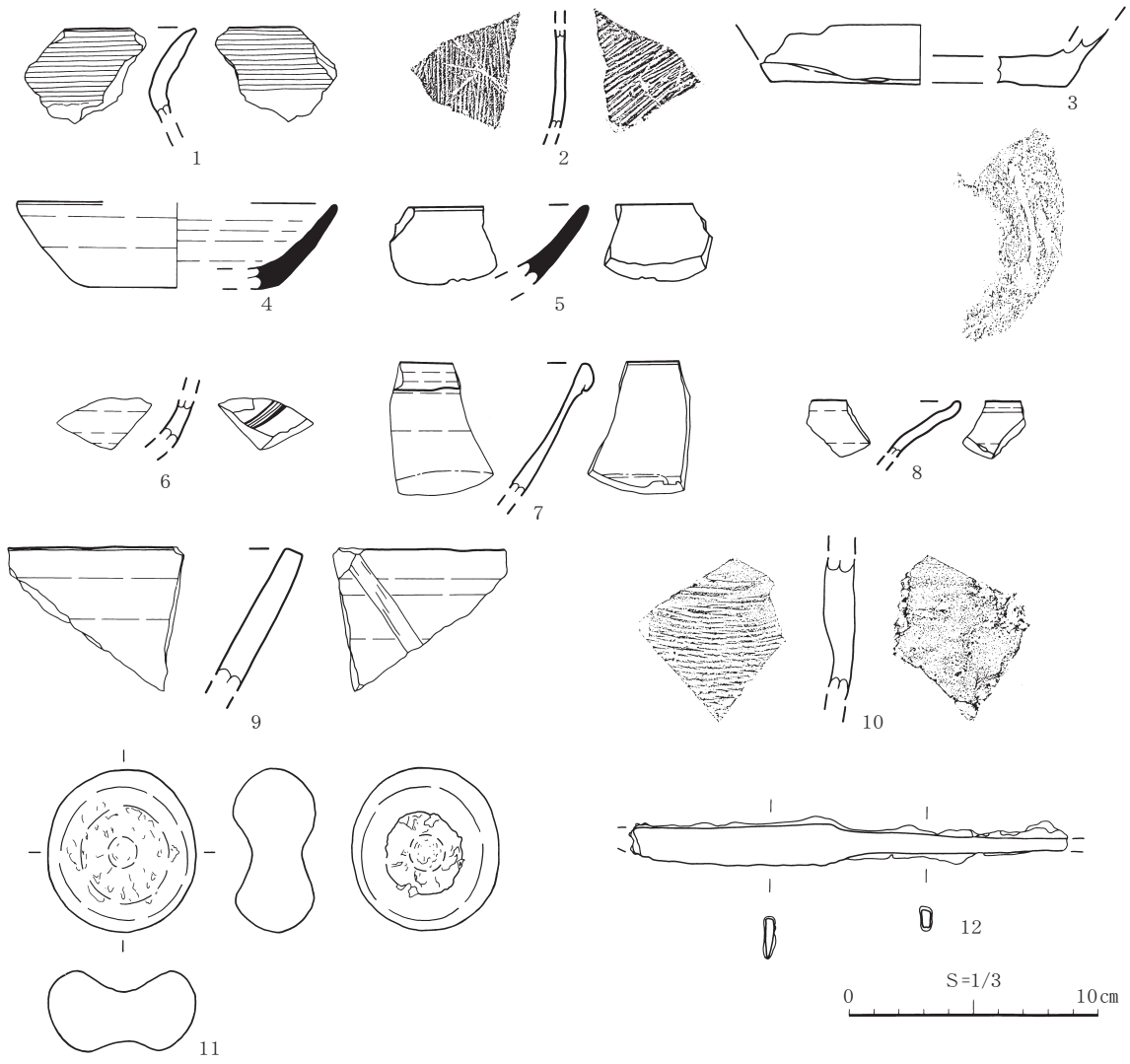


図86　Ｃ区遺構外出土遺物

第６章　C1区の検出遺構と出土遺物

第１節　C1区の概要

前川遺跡C1区は調査区の中央やや東寄りに位置している。現況は畑地で、周辺の水田部より１m程高い場所に立地し標高は26.8m前後を測る。圃場整備後の水田の用水路を介し東側はＤ区、西側はＣ区と接している。村道畑中９号線から分かれた農道の先に形成された微高地部分で、中世寺院の天徳寺があった場所との、また、大浦為信(津軽為信)と田舎館城主千徳政武が対峙した場所との伝承もある。農道の延長部は現在も農作業車両の転回や作物の集積場所として頻繁に利用されており、調査区を東西に分断しての調査となった。

今回の調査では、基本層序C1Ⅱ～Ⅲ層中から古代及び中世の遺構や遺物が多数見つかっている。検出された遺構は竪穴住居跡15軒、竪穴遺構13基、掘立柱建物跡２棟、土坑47基、井戸跡３基、溝跡６条、焼土遺構１基、性格不明遺構２基、ピットが多数である。遺物は遺構内外から土師器を中心に須恵器、かわらけ、土製品、金属製品、木製品等が出土している。また、農道の下からはＩ層水田跡が、基本層序第C1Ⅶ層からは弥生時代の水田遺構が検出されている。

第２節　竪穴住居跡・竪穴遺構

第100号竪穴住居跡（C1ＳＩ－100）（図87・107）

【位置・確認】ＩＬ・ＩＭ－40・41グリッドに位置する。基本層序第C1Ⅱ層で検出した。

【重複】第100・101・174・175・176・177・180・181・182・183・184・185・186・187・188・189・578と重複し、本遺構が第177・180・181・182・183・184・185・186・187・188・189号ピットより新しく、第100・101・174・175・176より古い。第578号ピットは新旧関係が確認できなかった。

【平面形・規模】南側が調査区外に延びるため、全容は不明であるが長軸3.8m、短軸3.1mの隅丸長方形を呈する。確認できた深さは16㎝を測る。

【壁・床面】壁は底面から急に立ち上がる。床面は平坦であり、周溝や、明確な硬化面は認められなかった。

【カマド】南東壁の南よりに１基検出された。遺存状態は煙道部が人為的な破壊により壊された状態で検出された。軸方向はＮ－68.8°－Ｗを測る。構造は半地下式であり、焚き口付近にはピットが１基造られていた。燃焼部には火焼面が形成されておらず、堆積土には焼土の小・中塊が斑状に堆積していた。前庭部のピットには灰が堆積していた。

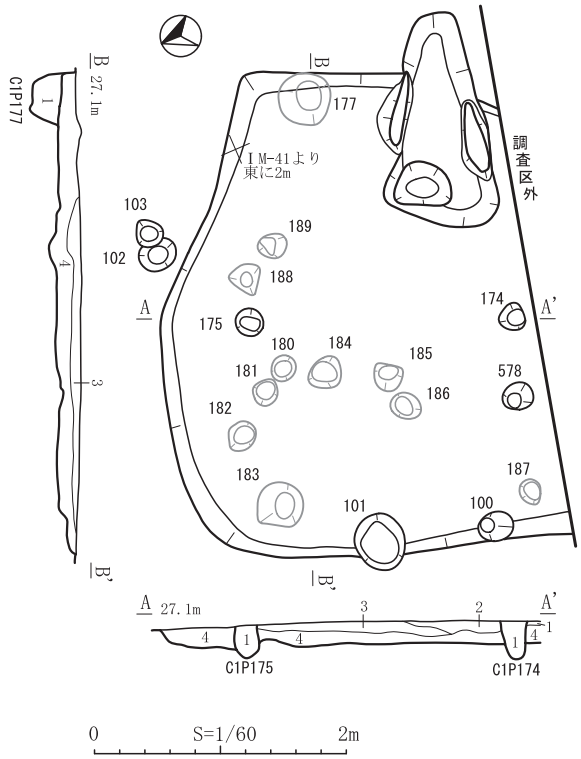
【壁溝】検出されなかった。

【柱穴】本遺構との関連が予想される16基が確認された。明確に主柱穴と判断できるピットは確認できなかったが、第117・183号ピットは規模や検出位置から主柱穴の可能性がある。

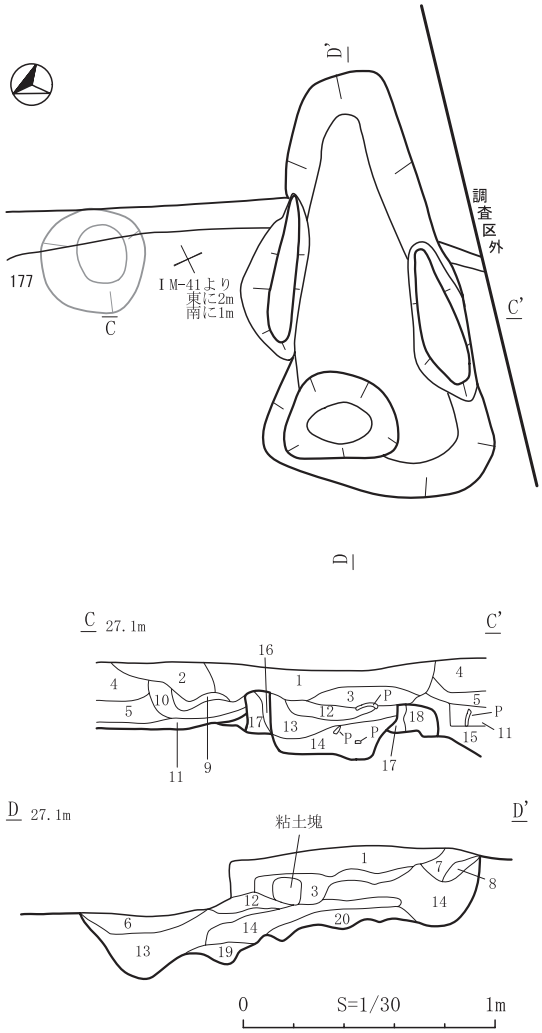
【その他の施設】検出されなかった。

【堆積土】にぶい黄褐色土や褐色土を主体とし、炭化物粒を含む。

C1区第100号竪穴住居跡



C1区第100号竪穴住居跡カマド



C1区第100号竪穴住居跡　A-A′B-B′

1層	10YR4/4	褐色土	粘性強、しまり強
2層	10YR5/4	にぶい黄褐色土砂質土	炭化物(φ1～2㎜)極微量、粘性中、しまり中
3層	10YR5/4	にぶい黄褐色土	炭化物(φ1～5㎜)微量、粘性やや強、しまり強
4層	10YR4/4	褐色土	7.5YR4/4褐色土多量、炭化物(φ1～10㎜)微量、粘性強、しまり強

C1P175

1層	10YR4/4	褐色土	粘性強、しまり強

C1P174

1層	10YR4/4	褐色土	10YR6/4褐色粘土、粘性強、しまり強

C1P177

1層	10YR5/4	にぶい黄褐色土	10YR3/4暗褐色土多量、粘性強、しまり強

C1区第100号竪穴住居跡カマド　C-C′D-D′

1層	10YR4/4	褐色土	10YR5/4にぶい黄褐色土多量、焼土ブロック(φ1～2㎜)極微量、粘性弱、しまり強
2層	10YR4/4	褐色土	10YR4/2灰黄褐色土多量、焼土ブロック(φ1～3㎜)極微量、粘性弱、しまり強
3層	10YR4/4	褐色土	10YR3/3暗褐色土多量、粘性弱、しまり強
4層	10YR4/4	褐色土	粘性弱、しまり強
5層	10YR4/4	褐色土	焼土ブロック(φ1～2㎜)極微量、粘性弱、しまり強
6層	10YR4/4	褐色土	10YR3/4暗褐色土多量、粘性弱、しまり強
7層	10YR3/3	暗褐色土	粘性弱、しまり強
8層	10YR4/3	にぶい黄褐色土	粘性弱、しまり強
9層	10YR5/4	にぶい黄褐色土	7.5YR4/6褐色土多量、焼土ブロック(φ1～3㎜)極微量、粘性弱、しまり中
10層	7.5YR4/6	褐色土	10YR4/6褐色土多量、焼土ブロック(φ1～2㎜)極微量、粘性弱、しまり強
11層	10YR5/4	にぶい黄褐色土	粘性弱、しまり強
12層	5YR4/8	赤褐色土	粘性強、しまり強
13層	10YR4/2	灰黄褐色土	炭化物(φ1～4㎜)微量、焼土粒（φ1～2㎜)極微量、粘性弱、しまりやや中
14層	10YR3/3	暗褐色土	焼土粒(φ1～2㎜)極微量、粘性弱、しまりやや中
15層	10YR4/4	褐色土	炭化物(φ1～10㎜)極微量、粘性弱、しまり強
16層	7.5YR4/4	褐色土	粘性弱、しまり強、赤化
17層	10YR5/4	にぶい黄褐色土	10YR4/2灰黄褐色土多量、焼土粒(φ1～5㎜)微量、粘性中、しまり強
18層	10YR5/3	にぶい黄褐色土	粘性弱、しまり強
19層	10YR4/4	褐色土	炭化物（φ1～5㎜)極微量、焼土ブロック(φ1～20㎜)微量、粘性弱、しまり強
20層	10YR4/4	褐色土	10YR4/3にぶい黄褐色土多量、炭化物(φ1～20㎜)極微量、粘性やや中、しまり強

図87　C1区竪穴住居跡（１）

【出土遺物】土師器坏、甕が出土している。土師器坏は内面内黒処理を行うものと、体部外面に輪積痕が明瞭に残る未調整のもの（図107－１）が出土している。甕は大型と小型甕（図107－３・４）があり、小型のものには内面に内面黒色処理を施すものも出土している。
【小結】本住居跡の帰属年代は、検出層位、遺構の形態、出土遺物の内容から10世紀後半頃と思われる。

（工藤）

第101号竪穴住居跡（C1ＳＩ－101）

精査の結果、遺構と判断しなかったため、欠番とした。

第102号竪穴住居跡（C1ＳＩ－102）

精査の結果、遺構と判断しなかったため、欠番とした。

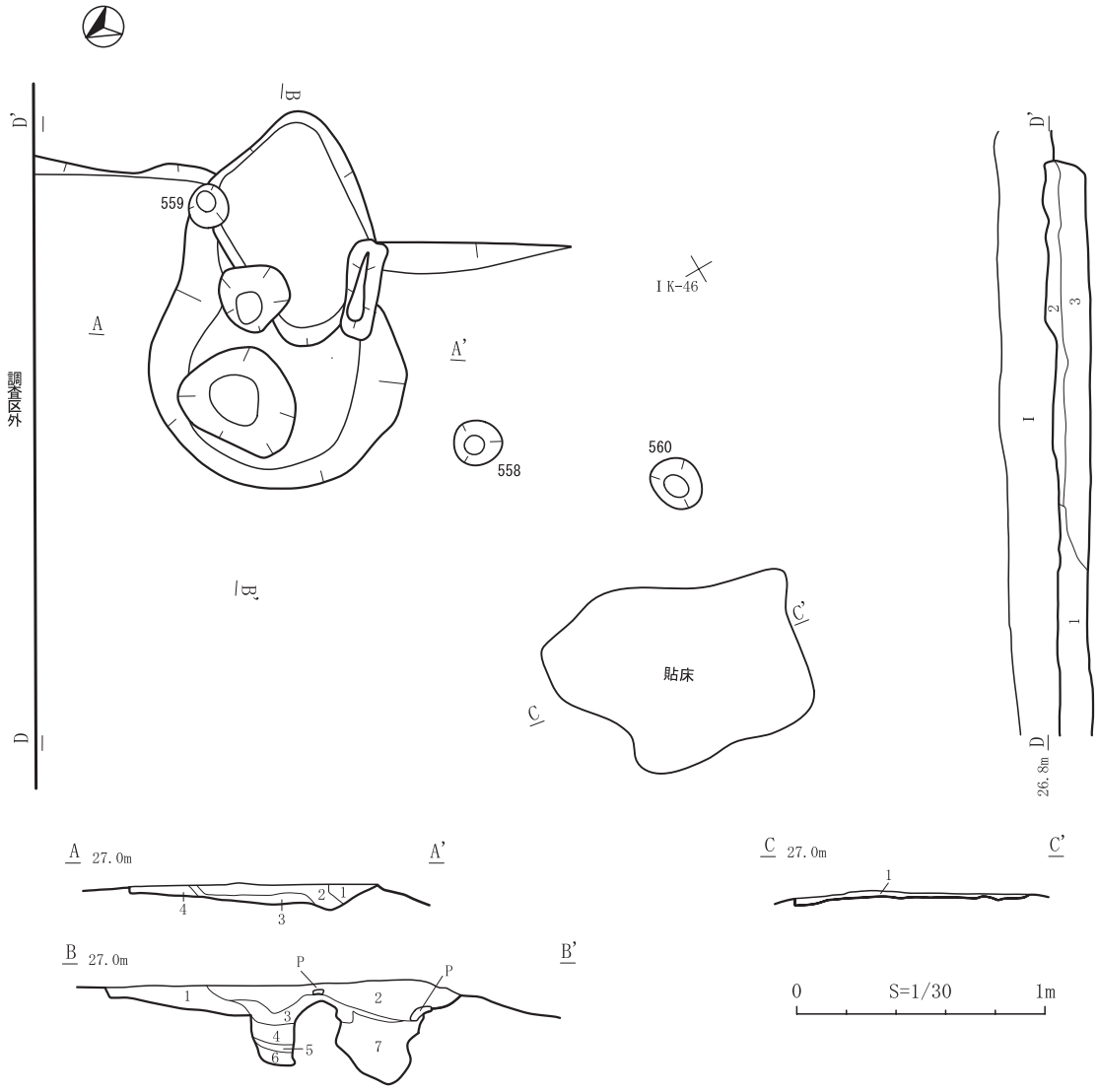
第103号竪穴住居跡（C1ＳＩ－103）

精査の結果、遺構と判断しなかったため、欠番とした。

第104号竪穴住居跡（C1ＳＩ－104）

精査の結果、遺構と判断しなかったため、欠番とした。

第105号竪穴住居跡（C1ＳＩ－105）（図88・107）
【位置・確認】ＩＪ－45・46グリッドに位置する。基本層序第C1Ⅱ層で検出した。
【重複】第558・559・560号ピットと重複する。新旧関係は本遺構が新しい。
【平面形・規模】本遺構の周囲は攪乱が激しく、カマド付近のみ残存していた。カマド西方で検出された硬化面を本遺構に属するものとすると、規模は長軸3.2m、短軸2.7m以上を測るものと思われる。確認できた深さは11.4㎝を測る。
【壁・床面】壁は底面や床面から急に立ち上がる。堆積土２層は床面に相当する土層であり、硬化度は全般に弱いがカマドから西部に１m程度離れた箇所に硬化面の一部が認められた。
【カマド】南東壁に１基検出された。上部は耕作により破壊を受けており、遺存状態は不良である。構造は半地下式と思われるが煙道部は耕作により欠失している。煙道部底面と燃焼部付近にはピットがあり、後者のピットには黒褐色土が堆積している。軸方向はＮ－49.3°－Ｗを測る。
【壁溝】検出されなかった。
【柱穴】本住居跡に所属すると思われるピットは第558・560号であり、位置や規模から主柱穴の可能性は薄いものと思われる。
【その他の施設】検出されなかった。
【堆積土】褐色土を主体とし、堀方に相当する３層には焼土小塊が少量混入している。
【出土遺物】堆積土中及び床面から土師器坏、甕、皿が出土している。坏は少数の出土で口縁部のみに調整を施したもの（図107－５）、内面黒色処理を施した小破片のものが堀方から出土している。甕は



C1区第105号竪穴住居跡カマド　A-A′B-B′
1層　10YR4/4　褐色土　10YR3/3暗褐色土多量、浮石(φ1～2㎜)極微量、粘性弱、しまり強
2層　10YR4/4　褐色土　10YR5/4にぶい黄褐色土多量、焼土ブロック(φ1～50㎜)少量、炭化物(φ1～5㎜)微量、粘性弱、しまり強
3層　10YR5/4　にぶい黄褐色土　炭化物(φ1～10㎜)少量、粘性やや強、しまり強
4層　10YR5/4　にぶい黄褐色土　焼土ブロック(φ1～2㎜)極微量、粘性弱、しまり強
5層　10YR4/4　褐色土　10YR5/4にぶい黄褐色土多量、粘性弱、しまり強
6層　10YR5/4　にぶい黄褐色土　焼土粒(φ1～2㎜)極微量、粘性弱、しまり強
7層　10YR2/2　黒褐色土　10YR4/4褐色土多量、粘性弱、しまり強

C1区第105号竪穴住居跡　C-C′
1層　10YR7/4　にぶい黄橙色土　炭化物(φ1～3㎜)3%混入、浅黄橙色粘土微量混入、粘性弱、しまり強

C1区第105号竪穴住居跡　D-D′
1層　10YR4/3　にぶい黄褐色土　浮石(φ1～2㎜)極微量、炭化物(φ1～2㎜)極微量、焼土粒(φ1～10㎜)極微量、10YR5/3にぶい黄褐色土火山灰ブロック状に混入、粘性弱、しまり強
2層　10YR4/4　褐色土　炭化物(φ1～3㎜)極微量、焼土粒(φ1～2㎜)極微量、粘性弱、しまり強
3層　10YR7/4　にぶい黄橙色土　炭化物(φ1～3㎜)3%混入、浅黄橙色粘土微量混入、粘性弱、しまり強

図88　C1区竪穴住居跡（2）

中・小型のものであり（図107－６）、大型の個体はみられない。口縁部や体部破片は一定量出土している。皿は口縁部から口唇部にかけて天目茶碗状に屈曲するものがみられるが少数である。須恵器は堀方から坏または壺の口縁部と思われる小破片が１点出土している。掲載はしていない。

【小結】本住居跡の帰属年代は、検出層位、遺構の形態、出土遺物の内容から10世紀後半頃と思われる。

（工藤）

第106号竪穴遺構（C1ＳＩ－106）（図89）

【位置・確認】ＩＬ－47グリッドに位置する。基本層序第C1Ⅱ層で検出した。

【重複】なし。

【平面形・規模】本遺構の周囲は攪乱が激しく、南東壁のみ残存していた。長軸2.7m、短軸0.4m以上を測るものと思われる。確認できた深さは25.5㎝を測る。

【壁・床面】壁は底面からほぼ垂直に立ち上がる。底面は平坦であり、硬化箇所などは検出されなかった。

【カマド】検出されなかった。

【壁溝】検出されなかった。

【柱穴】検出されなかった。

【その他の施設】検出されなかった。

【堆積土】褐色土とにぶい黄褐色土を主体とし、焼土と炭化物を微量含む。

【出土遺物】遺物は出土していない。

【小結】本住居跡の帰属年代は検出層位、遺構の形態から平安時代と思われる。直線的な遺構壁面と、底面状況、周辺の遺構配置状況から本遺構を竪穴住居跡に比定したが、遺構形態から溝跡の可能性も考えられる。

（工藤）

第107号竪穴住居跡（C1ＳＩ－107）（図89・107）

【位置・確認】ＩＫ・ＩＬ－47グリッドに位置する。基本層序第C1Ⅱ層で検出した。

【重複】なし。

【平面形・規模】本遺構の周囲は攪乱が激しく、カマド周辺部のみ残存していた。長軸1.6m、短軸0.8m以上を測るものと思われる。確認できた深さは13.3㎝を測る。

【壁・床面】攪乱のため確認できなかった。

【カマド】南東壁に位置するものと思われ、攪乱及び耕作により破壊を受けており、遺存状態は不良である。検出状況から、残存箇所は煙道部のみと思われる。構造は半地下式と思われる。

【壁溝】検出されなかった。

【柱穴】検出されなかった。本遺構周辺の攪乱が深いことに起因するものと思われる。

【その他の施設】検出されなかった。

【堆積土】カマドの堆積土はにぶい黄褐色土を主体とし、焼土小塊と炭化物を微量含む。

【出土遺物】煙道部から土師器坏や甕が出土している。坏は破片が１点のみ出土している。甕は中型のものが出土しており（図107－７）、出土状況から、カマドで使用されていたものと思われる。
【小結】本住居跡の帰属年代は検出層位、遺構の形態、出土遺物の内容から10世紀後半頃と思われる。

（工藤）

第108号竪穴遺構（C1ＳＩ－108）（図89・107）

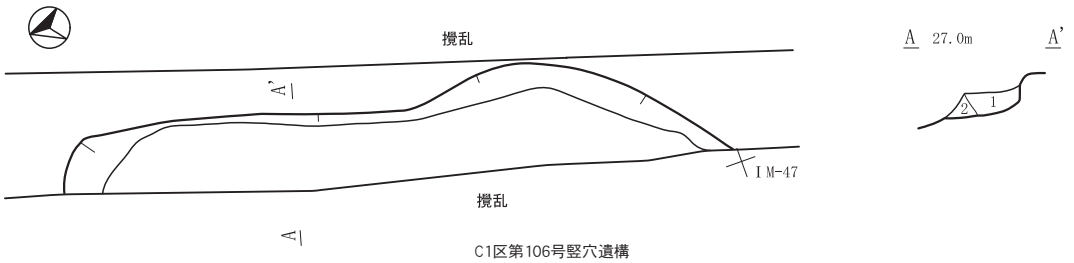
【位置・確認】ＩＲ・ＩＳ－48・49グリッドに位置する。基本層序第C1Ⅱ層で検出した。
【重複】第109号竪穴住居跡、第118号竪穴遺構、第138号土坑、第104号溝跡、第546・547・548・552・551号ピットと重複する。新旧関係は本遺構が新しい。
【平面形・規模】本遺構の南西隅部分が調査区外にあるため全容は不明であるが、一辺3.5m四方の隅丸方形を呈するものと思われる。確認できた深さは18㎝を測る。
【壁・床面】壁は底面から急に立ち上がる。底面には粘質土の貼り付けによる床面が造られており（貼床）、周溝の堆積土上面にも一部観察される。特に第104号溝跡の堆積土上には意図的に厚く貼り付けている。
【壁溝】壁の内側４面に約18～37㎝幅で周回し、西側で浅くなる。
【柱穴】床面から10基のピットを検出した。このうち６基は、掘り込みが深く、周溝のやや内側にほぼ等間隔に位置しており、一辺につき３基、遺構中心部に１基配列している。
【その他の施設】検出されなかった。
【堆積土】褐色土を主体とし、暗褐色土を多量に含む。自然堆積の様相を呈する。
【出土遺物】堆積土から土師器坏、甕、擦文土器甕破片が出土している。土師器坏は口縁のみを調整し体部は無調整のもので（図107－８）、２層から出土している。甕は中・小型と思われるもの（図107－９）が出土するが、いずれも堆積時に混入した遺物と思われる。擦文土器甕は２層から出土するもので、頸部からやや口縁部よりの体部破片であり、外面に、横位に二条の沈線を施した上位に鋸歯文を施すものである。細片であるため、掲載はしていない。
【小結】本遺構の帰属年代は、遺構の新旧関係、形態、出土遺物の内容から、中世以降と考えられる。

（工藤）

第109号竪穴遺構（C1ＳＩ－109）（図89）

【位置・確認】ＩＲ・ＩＳ－49グリッドに位置する。基本層序第C1Ⅱ層で検出した。
【重複】第108号竪穴住居跡、第104号井戸跡、第138号土坑と重複する。第138号土坑との新旧関係は判断できなかった。第108号竪穴住居跡、第104号井戸跡よりも古い。
【平面形・規模】本遺構の西部が第108号竪穴遺構に破壊されるため全容は不明であるが、長軸3.4m、短軸2.1mの楕円形を呈する。確認できた深さは36㎝を測る。
【壁・床面】壁は底面から緩やかに立ち上がる。土層や底面には硬化した部分が観察されなかった。
【壁溝】検出されなかった。
【柱穴】検出されなかった。
【その他の施設】検出されなかった。

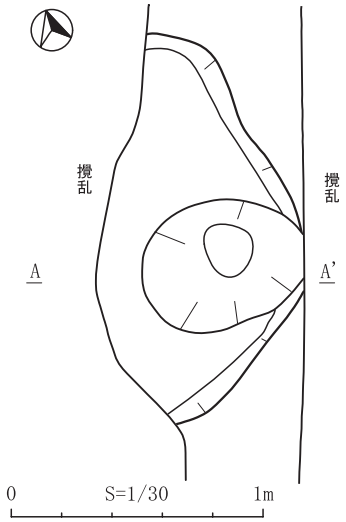
C1区第106号竪穴遺構

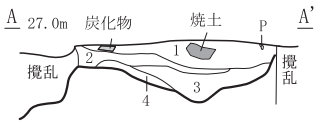


C1区第106号竪穴遺構

1層	10YR4/4	褐色土	焼土(φ1～2㎜)極微量、炭化物(φ1～7㎜)微量、粘性なし、しまりなし
2層	10YR4/3	にぶい黄褐色土	炭化物(φ1～2㎜)極微量、粘性なし、しまりなし、粒子が細かい

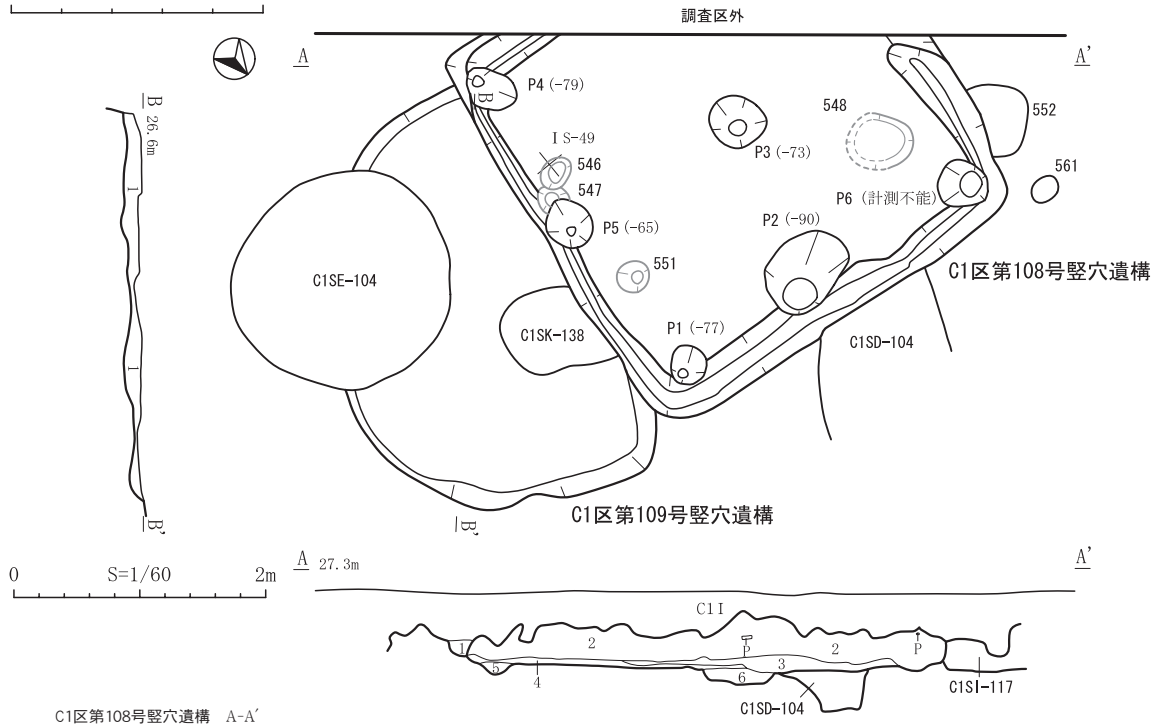
C1区第107号竪穴住居跡





C1区第107号竪穴住居跡カマド

1層	10YR5/4	にぶい黄褐色土	5YR5/6明褐色焼土(φ3～50㎜)と10YR7/4にぶい黄橙色粘土(φ2～20㎜)を多量に含む、炭化物(φ1～5㎜)微量に含む、粘性弱、しまり強
2層	10YR4/6	褐色土	5YR5/6明褐色焼土(φ1～2㎜)と炭化物(φ1～2㎜)ともに極微量含む、粘性強、しまり強
3層	10YR5/4	にぶい黄褐色土	炭化物(φ1～10㎜)極微量、焼土(φ1～20㎜)極微量、粘性弱、しまり強
4層	10YR5/4	にぶい黄褐色土	炭化物(φ1～2㎜)極微量、粘性弱、しまり中



C1区第108号竪穴遺構　A-A′

1層	10YR3/3	暗褐色土	10YR4/4褐色土ブロック状に混入、粘性弱、しまり弱
2層	10YR4/4	褐色土	10YR3/3暗褐色土多量、炭化物(φ1～5㎜)極微量、焼土粒(φ1～3㎜)極微量、粘性やや中、しまり弱
3層	10YR4/2	灰黄褐色土	10YR6/4にぶい黄橙色粘性土、10YR5/3にぶい黄褐色土多量、
4層	10YR4/4	褐色土	炭化物(φ1～3㎜)極微量、粘性やや強、しまり強
5層	10YR4/4	褐色土	粘性強、しまり中
6層	10YR4/4	褐色土	粘性中、しまり強

C1区第109号竪穴遺構　B-B′

1層	10YR4/4	褐色土	炭化物(φ1～10㎜)極微量、粘性弱、しまり強

図89　C1区竪穴住居跡（3）・竪穴遺構（1）

【堆積土】褐色土を主体とする。人為堆積の可能性がある。
【出土遺物】土師器坏、甕が出土しているが、いずれも破片であり一個体を構成するものではない。おもに堆積土の上層から出土しており、坏は体部無調整で製作時の粘土輪積み痕が残るものがある。図版掲載はしていない。
【小結】本遺構は耕作による攪乱により上部の大半が削平されているため、遺存状況は不良である。本遺構の帰属年代は、遺構の新旧関係と堆積土の状況、出土遺物から、10世紀後半頃と思われる。

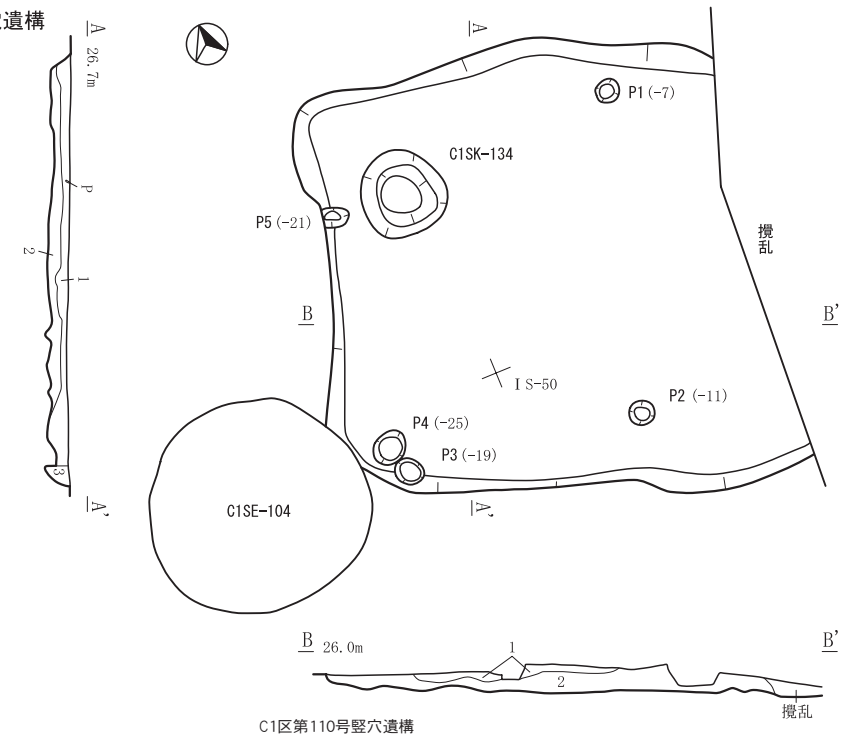
（工藤）

第110号竪穴遺構（C1ＳＩ－110）（図90・108）
【位置・確認】ＩＲ・ＩＳ－49・50グリッドに位置する。
【重複】第104号井戸跡、第134号土坑、第259号ピットと重複し、本遺構が第104号井戸跡、第259号ピットよりも古い。第134号土坑との新旧関係は、判断できなかった。第259号ピットは図示していない。
【平面形・規模】東側が攪乱により破壊されているため、全容は不明であるが、一辺3.8m前後の隅丸長方形を呈するものと思われる。確認できた深さは約36㎝を測る。
【壁・床面】壁は底面からほぼ垂直に立ち上り、底面は平坦である。硬化箇所は特に認められず、耕作により破壊された可能性がある。
【カマド】検出されなかった。攪乱に破壊された可能性がある。
【壁溝】検出されなかった。
【柱穴】遺構内から５基のピットが検出されている。Ｐ３とＰ４は本遺構の隅付近に位置している。
【その他の施設】東壁寄りに第134号土坑が位置しており、本遺構に伴う遺構の可能性がある。
【堆積土】褐色粘質土を主体とし、１層には暗褐色土が一部混入している。人為堆積の様相を呈する。
【出土遺物】堆積土から土師器坏・壺・甕、須恵器壺・甕、獣骨の小破片が出土し、土師器の出土量が多い。土師器坏は内面黒色処理の個体であり１層からの出土である。甕は体部が屈曲し頸部で明確に外反し口縁部が開くもの（図108－１）と体部が直線的なもの（図108－２・３）、両者に属さないもの（図108－４)がある。図示したもののほかに、外面に刷毛目が観察される破片もある。須恵器は出土点数が少なく、表採資料と接合するものもあり、混入の可能性もある。
【小結】本遺構は掘り込みが浅く、耕作による攪乱により上部の大半が削平されているため、遺存状況は不良である。本遺構の帰属年代は、出土遺物の内容や遺構の形態、堆積土の状況から、10世紀後半頃と思われる。

（工藤）

第111号竪穴住居跡（C1ＳＩ－111）（図90・109）
【位置・確認】ＩＱ・ＩＲ－49・50グリッドに位置する。
【重複】第109号土坑、第129号土坑、第178・219・221・223・253号ピットと重複する。新旧関係は本遺構が第109号土坑、第219号ピットより新しく、第221・253号ピットよりも古い。第129号土坑、第178・223号ピットとの新旧関係は判断できなかった。

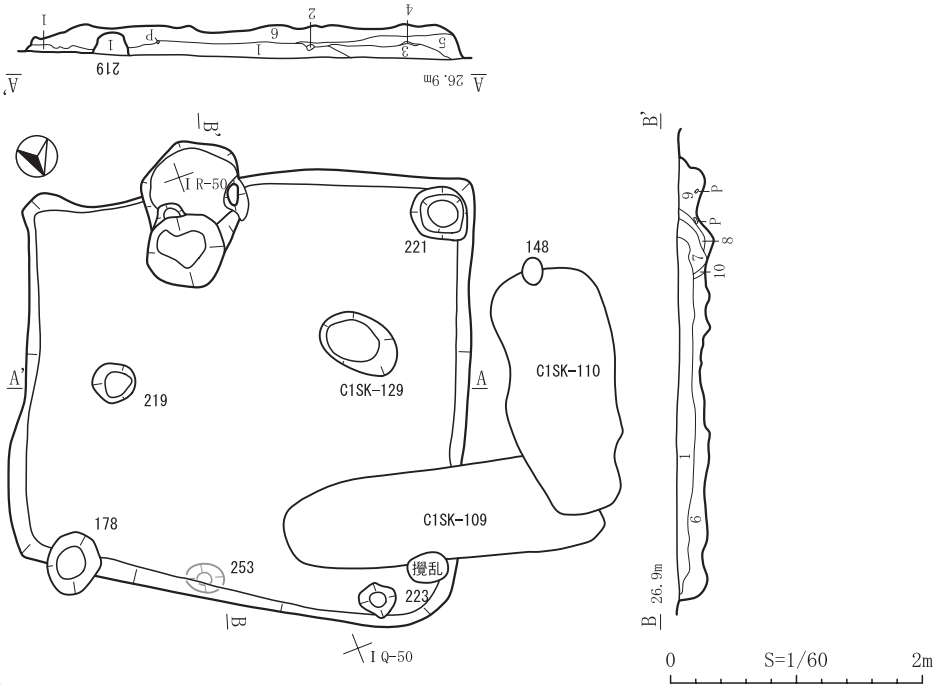
C1区第110号竪穴遺構



C1区第110号竪穴遺構

1層	10YR4/4	褐色土	10YR3/4暗褐色土多量、遺物混入、粘性やや強、しまり強
2層	10YR4/6	褐色粘土	粘性強、しまり強
3層	10YR4/4	褐色土	粘性強、しまり強

C1区第111号竪穴住居跡



C1区第111号竪穴住居跡　A-A′ B-B′

1層	10YR5/4	にぶい黄褐色土	10YR6/4にぶい黄橙色土ブロック状に混入、焼土粒(φ1～25㎜)微量、粘性弱、しまり強
2層	10YR6/4	にぶい黄橙色土	粘性弱、しまり強
3層	10YR5/4	にぶい黄褐色土	焼土粒(φ1～3㎜)極微量、炭化物、灰層、粘性弱、しまり強
4層	10YR4/3	にぶい黄褐色土	粘性中、しまり強
5層	10YR4/4	褐色土	10YR5/4にぶい黄褐色土多量、炭化物(φ1～3㎜)極微量、粘性中、しまり強
6層	10YR4/4	褐色土	炭化物(φ1～10㎜)極微量、粘性やや中、しまり中
7層	10YR3/4	暗褐色土	層全体まばらに灰混入、粘性弱、しまり中
8層	10YR4/3	にぶい黄褐色土	炭化物(φ1～5㎜) 極微量、焼土粒(φ1～20㎜)微量、粘性弱、しまり強
9層	10YR4/3	にぶい黄褐色土	10YR5/4にぶい黄褐色土多量、炭化物(φ1～30㎜) 中量、焼土粒(φ1～50㎜)中量、焼土ブロックを含む、粘性弱、しまり強
10層	10YR5/4	にぶい黄褐色土	下層に灰層混入、粘性弱、しまり中

C1P219　A-A′

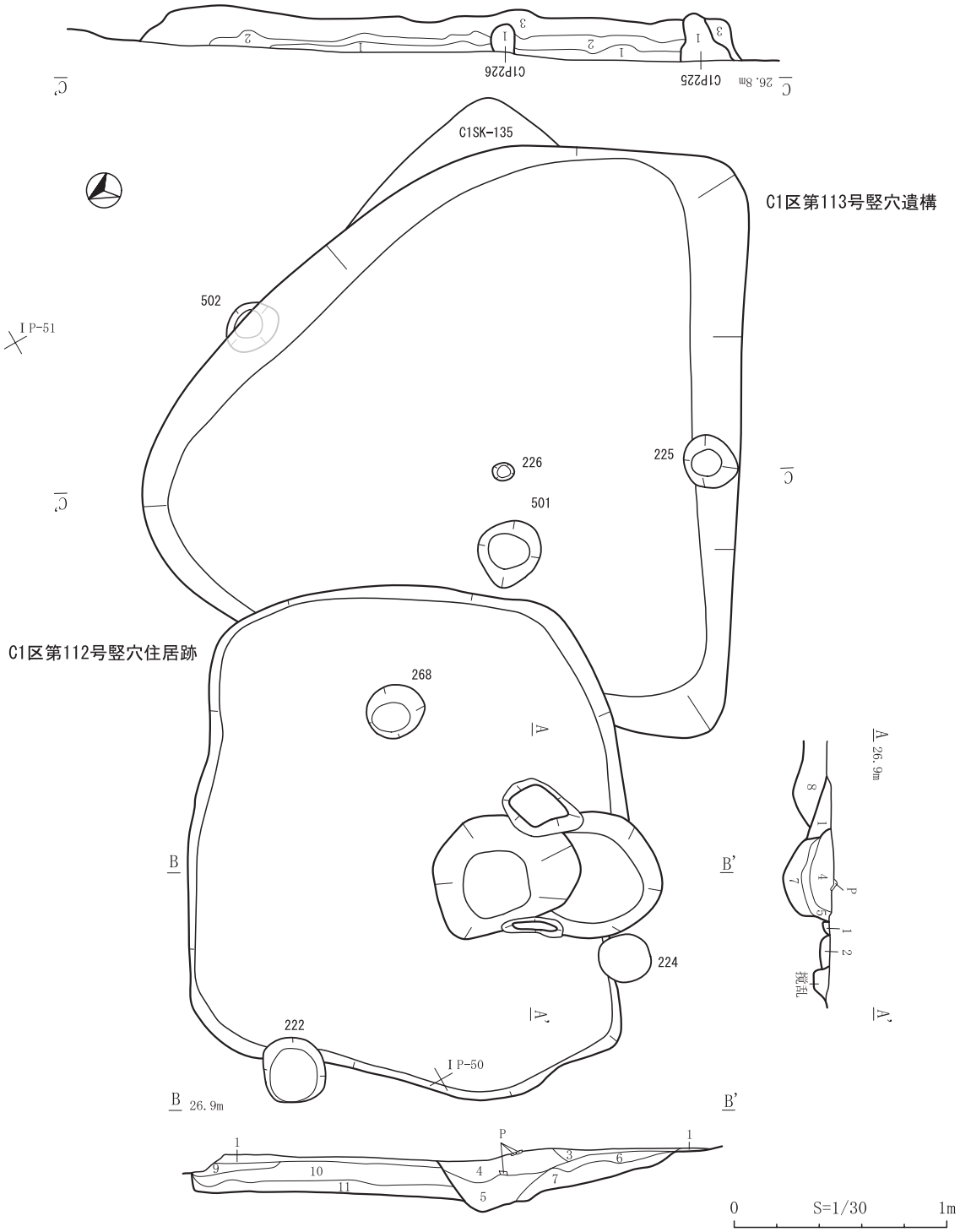
1層	10YR4/3	にぶい黄褐色土	粘性弱、しまり強 炭化物(φ1～5㎜)極微量、粘性弱、しまり強

図90　C1区竪穴住居跡（4）・竪穴遺構（2）

【平面形・規模】一辺最大3.6ｍの隅丸方形を呈するものと思われる。深さは14㎝で、カマドを含めた床面積は約10.5㎡を測る。
【壁・床面】壁は底面からほぼ垂直に立ち上がる。床面は層相から５層と６層上面と思われ、５層のしまりが比較的強い。
【カマド】南西壁の南よりに１基検出された。遺存状態は耕作による攪乱により不良であり、かつ人為的に破壊されていた。構造は半地下式であり、焚き口付近にはピットが造られ、灰が堆積していた。
【壁溝】検出されなかった。軸方向はＮ－29.3°－Ｅである。
【柱穴】遺構内からピットが５基検出されている。壁際に位置するピットは４基であり、第221・223号ピットは隅部に位置する。
【その他の施設】北西壁寄りに第129号土坑が位置しており、本遺構に伴う可能性がある。
【堆積土】にぶい黄褐色土を主体とし、焼土粒・炭化物小塊・灰を含む。人為堆積の様相を呈する。
【出土遺物】堆積土から土師器坏・甕・壺・皿、金属製品が出土している。土師器坏は量的に少なく、甕は比較的多い。坏は体部外面が無調整のもの、内面黒色処理を施すものが出土しており、ロクロ成形の直後に黒色処理を行うものである。図示はしていない。甕は体部から口縁部に向かって内傾し、端部がわずかに外反するもの（図109－１）と、体部が直線的なものがある。図版掲載はしていないが、壺甕に類するものには内面黒色処理を施すものがあり、皿は点数は少ないが底部破片が出土している。
【小結】帰属年代は、遺構の形態、出土遺物の内容から、10世紀後半頃と考えられる。

（工藤）

第112号竪穴住居跡（C1ＳＩ－112）（図91・109）
【位置・確認】ＩＯ・ＩＰ－49・50グリッドに位置する。
【重複】第113号竪穴遺構、第222・224・268号ピットと重複する。新旧関係は第113号竪穴遺構より新しく、第222・224・268号ピットよりも古い。
【平面形・規模】長軸2.4m、短軸2.0ｍの隅丸長方形を呈する。確認できた深さは16㎝で、カマドを含めた床面積は約4.0㎡を測る。
【壁・床面】壁は底面からほぼ垂直に立ち上がる。床面はカマドの土層堆積状況を根拠とすると、堆積土１層に相当するか、遺構検出時には既に失われていたものと思われる。
【カマド】南西壁のやや西よりに１基検出された。人為的に破壊されており、遺存状態は不良であるが、検出時は焚き口付近に土師器の破片が集中して出土した。構造は半地下式であり、焚き口付近にはピットが造られ、暗褐色土を主体とする土層が堆積していた。煙道部底面は褐色土主体の土を貼り構築しており（カマド７層）、底面には凹凸を有する。軸方向はＮ－31.1°－Ｅを測る。
【壁溝】検出されなかった。
【柱穴】本遺構内からピットが３基検出されている。第224号ピットはカマドに隣接し、第222号ピットは北東壁と切り合っている。壁の立ち上がりの状況から、第224号ピットは本遺構に伴わない可能性が強い。
【その他の施設】検出されなかった。



C1区第112号竪穴住居跡

1層	10YR5/4	にぶい黄褐色土	10YR5/4にぶい黄褐色土多量、粘性弱、しまり強
2層	10YR4/4	褐色土	粘性弱、しまり強
3層	10YR3/4	暗褐色土	10YR4/4褐色土多量、炭化物(φ1～3mm)極微量、粘性強、しまりやや中
4層	10YR4/4	褐色土	10YR3/4暗褐色土多量、焼土ブロック(φ1～3mm)微量、粘性強、しまり強
5層	10YR3/2	黒褐色土	10YR10YR5/3にぶい黄褐色土多量、焼土粒(φ1～2mm)極微量、粘性弱、しまり中
6層	10YR5/4	にぶい黄褐色土	10YR2/3黒褐色土多量、焼土ブロック(φ1～5mm)微量、粘性弱、しまり中
7層	10YR4/4	褐色土	10YR5/4にぶい黄褐色土多量、炭化物(φ1～10mm) 微量、粘性やや強、しまり強
8層	10YR4/4	褐色土	粘性やや強、しまり強
9層	10YR4/4	褐色土	粘性弱、しまり強
10層	10YR4/4	褐色土	粘性強、しまり中
11層	10YR4/4	褐色土	粘性強、しまり弱

C1区第113号竪穴遺構

1層	10YR4/4	褐色土	炭化物(φ1～5mm)極微量、焼土粒(φ1～5mm)極微量、粘性弱、しまり強
2層	10YR4/4	褐色土	焼土粒(φ1～3mm)極微量、粘性弱、しまり強
3層	10YR4/4	褐色土	粘性強、しまりやや中

C1P225

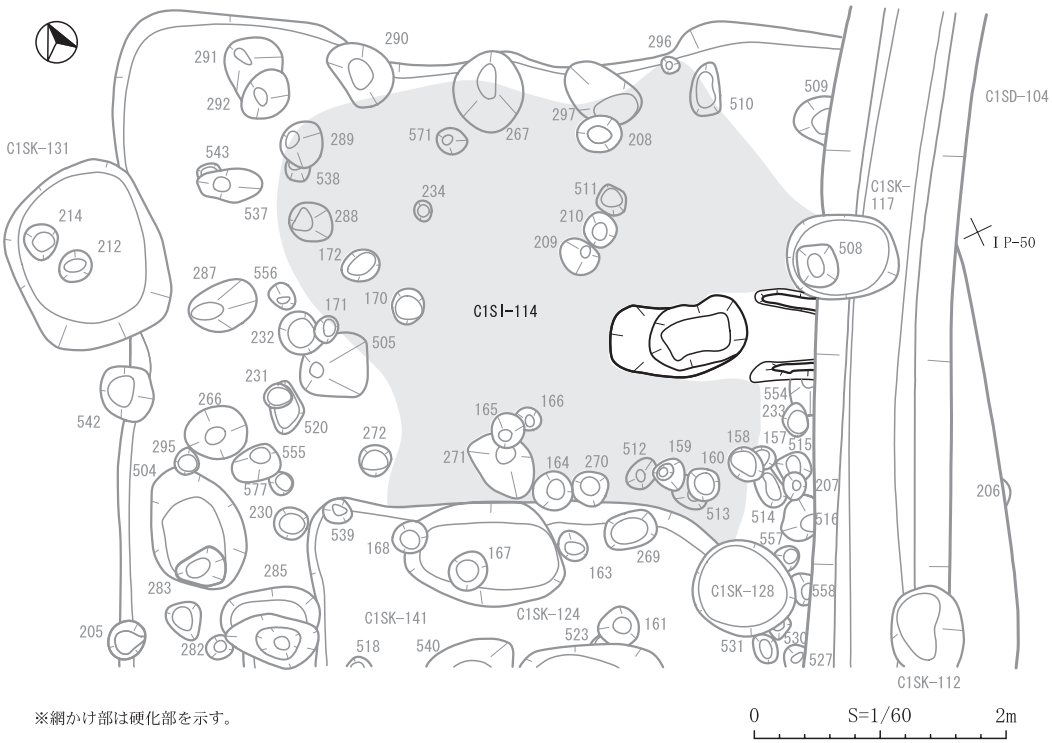
1層	10YR4/3	にぶい黄褐色土	粘性弱、しまり強

C1P226

1層	10YR4/4	褐色土	炭化物(φ1～5mm)極微量、粘性やや中、しまり強

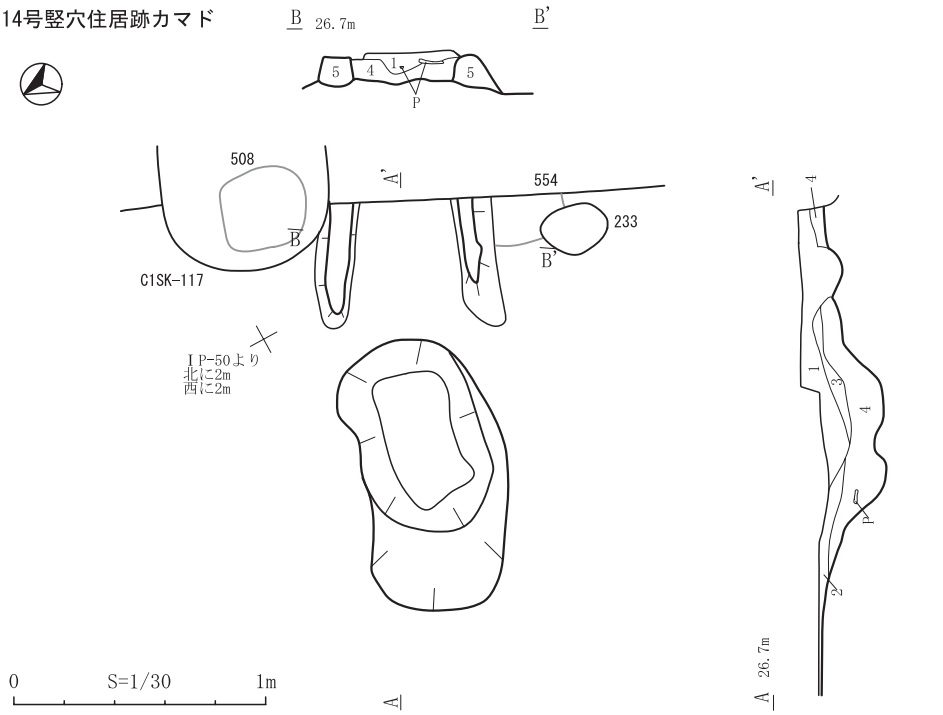
図91　C1区竪穴住居跡（5）・竪穴遺構（3）

C1区114号竪穴住居跡



※網かけ部は硬化部を示す。

C1区114号竪穴住居跡カマド



C1区第114号竪穴住居跡カマド

1層	10YR4/4	褐色土	焼土粒(φ1～3㎜)極微量、粘性弱、しまり強
2層	10YR4/6	褐色土	10YR2/3黒褐色土多量、粘性やや中、しまり強
3層	7.5YR4/4	褐色土	10YR5/8明褐色土多量、炭化物(φ1～2㎜)極微量、粘性強、しまり強
4層	10YR3/2	黒褐色土	10YR2/3黒褐色土多量、灰が多量に混入、焼土粒(φ1～2㎜)極微量、粘性弱、しまりやや中
5層	10YR5/4	にぶい黄褐色土	粘性弱、しまり強

図92　C1区竪穴住居跡（６）

【堆積土】褐色土を主体とし、ほぼ水平に堆積している。カマド付属のピットとの新旧関係から、本遺構内堆積土は住居跡床下の堀方土と思われる。
【出土遺物】住居跡堆積土やカマド付属ピットの堆積土から、土師器坏・壺甕類、須恵器甕の破片が出土している。土師器坏は体部外面無調整のものや（図109－４）内面黒色処理したものがみられるが少数である。壺甕類は小～中型のものがほとんどで、体部が直線的で、口縁部がわずかに外反するものが出土している（図109－５）。須恵器甕は灰白色の胎土で軟質のもので、内面に魚子・格子状の当て具痕、外面に叩き目が観察されるものである。
【小結】帰属年代は、遺構の形態、出土遺物の内容から、10世紀後半頃と思われる。

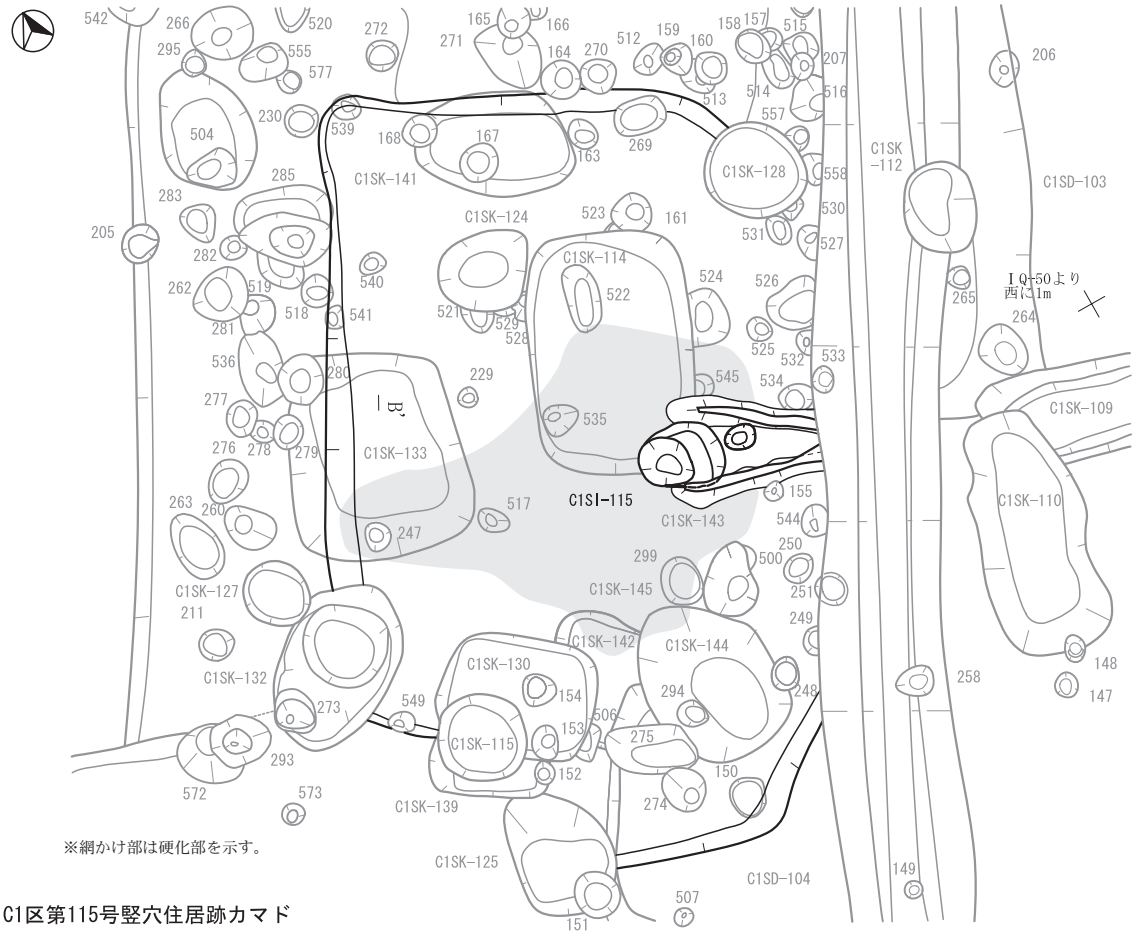
（工藤）

第113号竪穴遺構（C1ＳＩ－113）（図91・110）
【位置・確認】ＩＰ－50グリッドに位置する。
【重複】第112号竪穴住居跡、第135号土坑、第225・226・501・502号ピットと重複する。新旧関係は本遺構が第135号土坑、第501・502号ピットより新しく、第112号竪穴住居跡、第225・226号ピットより古い。
【平面形・規模】平面形は三角形に近い不定形を呈し、一辺が最大2.8m、深さは21㎝を測る。
【壁・床面】南西壁は床面からほぼ垂直に、北から北東壁は底面からなだらかに立ち上がる。層相やピットの深さから、地床と思われる。
【壁溝】検出されなかった。
【柱穴】第501・502号ピットは本遺構に伴う可能性がある。
【その他の施設】検出されなかった。
【堆積土】褐色土を主体とする。
【出土遺物】堆積土から、土師器坏・甕が出土しているが極めて少数である。坏は体部外面無調整のもの（図110－１）と内面黒色処理を施したものが出土している。甕は復元可能なもの（図110－２）を図示した。
【小結】本遺構は掘り込みが浅いため、本来方形であった平面形が三角形に近い不定形に検出されたものと思われる。帰属年代は、遺構の新旧関係や出土遺物の内容から、平安時代と思われる。

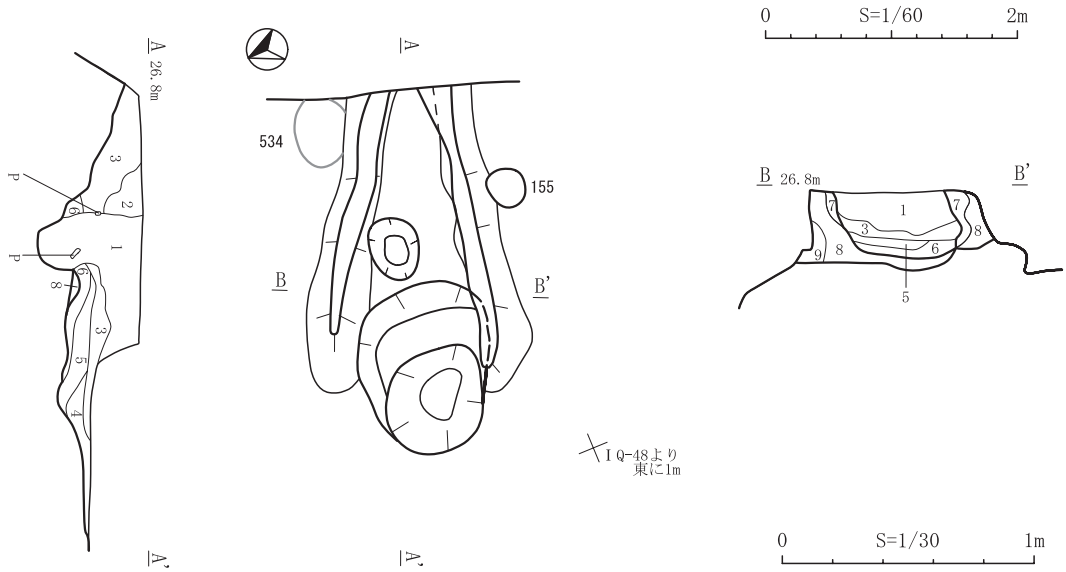
（工藤）

第114号竪穴住居跡（C1ＳＩ－114）（図92・110）
【位置・確認】ＩＯ・ＩＰ－47～49グリッドに位置する。
【重複】第115・116号竪穴住居跡、第20号掘立柱建物跡、第117・128号土坑、第104号溝跡、第157・158・159・160・164・165・166・170・171・172・208・209・210・234・267・270・271・288・289・290・296・297・505・510・511・512・513・538・554・571号ピットと重複する。新旧関係は本遺構が第116号竪穴住居跡、第234・267・288・289・290・297・505・510・511・512・513・538・554・571号ピットより新しく、第115号竪穴住居跡、第117・128号土坑、第104号溝跡、第157・158・159・160・164・165・166・170・171・208号ピットよりも古い。

C1区第115号竪穴住居跡



C1区第115号竪穴住居跡カマド

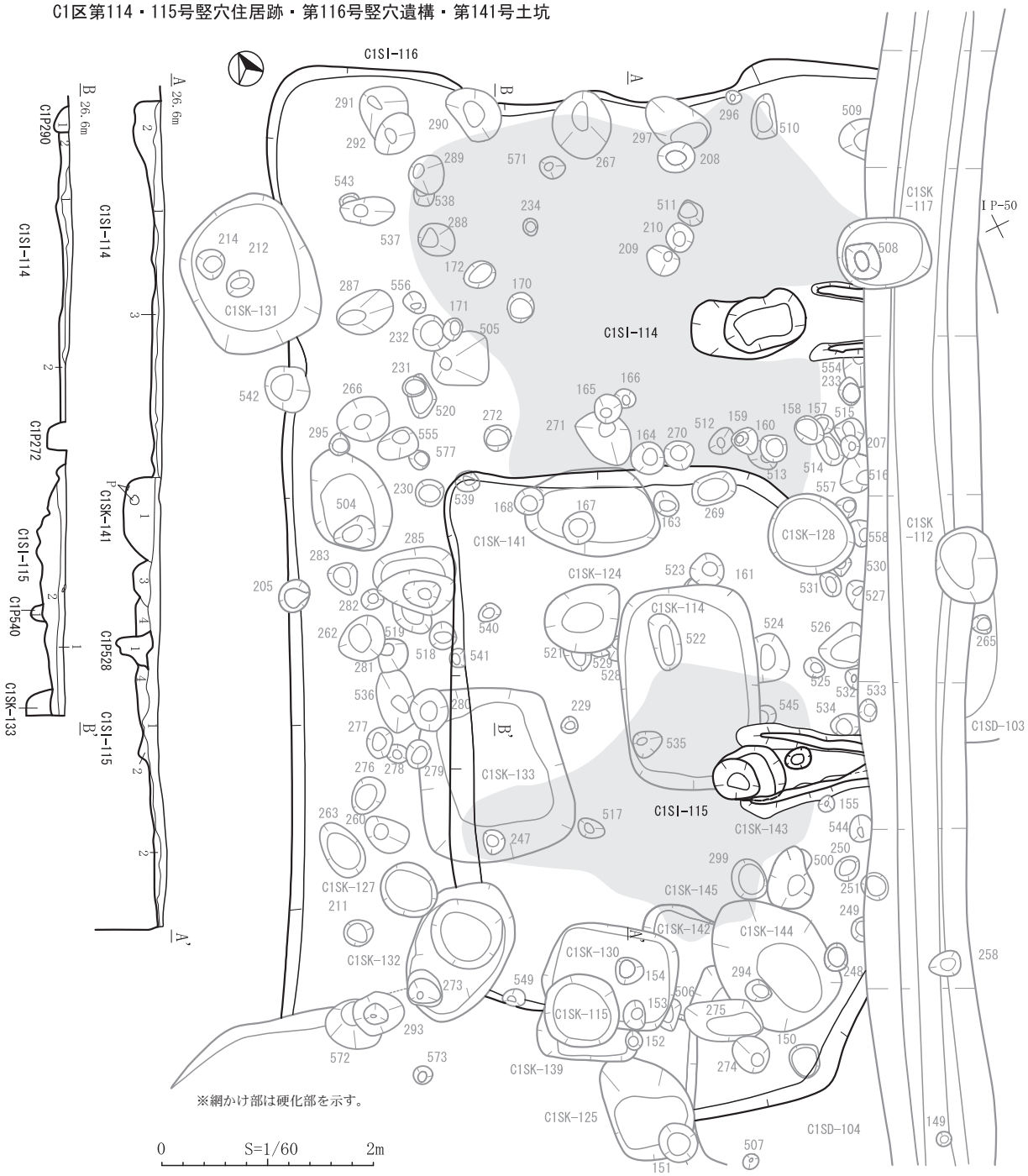


C1区第115号竪穴住居跡カマド　A-A′B-B′

1層	10YR4/3	にぶい黄褐色土	炭化物(φ1～10㎜)微量　焼土粒(φ1～3㎜)極微量、10YR4/4褐色土ブロック状に混入、粘性弱、しまり強
2層	10YR4/4	褐色土	焼土ブロック(φ1～45㎜)多量、粘性弱、しまり強
3層	10YR3/2	黒褐色土	10YR4/4褐色土多量、焼土ブロック(φ1～30㎜)中量、炭化物(φ1～10㎜)極微量、粘性弱、しまりやや弱
4層	10YR4/2	灰黄褐色土	炭化物(φ1～20㎜)微量、焼土粒(φ1～3㎜)極微量、粘性弱、しまり中
5層	10YR5/3	にぶい黄褐色土	10YR6/3にぶい黄橙色土多量、焼土ブロック(φ1～50㎜)中量、炭化物(φ1～20㎜)極微量、粘性弱、しまり中
6層	7.5YR3/4	暗褐色土	7.5YR4/4褐色土、7.5YR2/2黒褐色土多量、粘性弱、しまりやや強
7層	7.5YR4/4	褐色土	焼土ブロック(φ1～30㎜)中量、粘性弱、しまり強
8層	10YR4/4	褐色土	炭化物(φ1～10㎜)極微量、焼土粒(φ1～10㎜)極微量、粘性弱、しまり強
9層	10YR4/4	褐色土	炭化物(φ1～2㎜)極微量、粘性弱、しまり強

図93　C1区竪穴住居跡（７）

C1区第114・115号竪穴住居跡・第116号竪穴遺構・第141号土坑



C1区第114号竪穴住居跡
1層　10YR5/4　にぶい黄褐色土　炭化物(φ1～10㎜)極微量、焼土粒(φ1～5㎜)極微量、地山(10YR6/3にぶい黄橙色粘質)ブロック状に混入、粘性弱、しまり強
2層　10YR4/4　褐色土　粘性弱、しまり強
3層　10YR4/4　褐色土　炭化物（φ1～2㎜)極微量、粘性中、しまり強
C1区第115号竪穴住居跡
1層　10YR4/4　褐色土　10YR5/3にぶい黄褐色土多量、炭化物(φ1～25㎜)微量、粘性弱、しまり強
2層　10YR5/4　にぶい黄褐色土　炭化物(φ1～10㎜)極微量、粘性やや中、しまり強
3層　10YR5/4　にぶい黄褐色土　炭化物(φ1～15㎜)極微量、粘性弱、しまり強
4層　10YR5/4　にぶい黄褐色土　炭化物(φ1～15㎜)極微量、粘性弱、しまり強
C1区第141号土坑
1層　10YR4/3　にぶい黄褐色土　炭化物(φ1～10㎜)微量、焼土(φ1～10㎜)極微量、粘性弱、しまり強
C1P528
1層　10YR4/4　褐色土　炭化物(φ1～15㎜)極微量、粘性弱、しまり強
C1P290
1層　10YR4/4　褐色土　粘性弱、しまり強
C1P540
1層　10YR4/4　褐色土　粘性弱、しまり強

図94　C1区竪穴住居跡（8）

第20号掘立柱建物跡、第172・209・210・270・271・296号ピットは新旧関係が判断できなかった。
【平面形・規模】第16号竪穴住居跡堆積土の上面でカマドと硬化面を検出したが、明確な遺構の外形を判断することができなかったため、平面形は不明である。硬化面の範囲から、長軸8.7m以上、短軸5.6m以上の規模が推定される。深さは明確に判断できなかった。
【壁・床面】壁は確認できなかった。床面はにぶい黄褐色土を主体とし、遺構検出時に確認した。
【カマド】煙道部から煙出部分は第104号溝跡に破壊され、不明である。焚き口付近にピットが造られ、灰を多量に含む黒褐色土が堆積していた。火焼面は検出されなかった。軸方向はＮ－66°－Ｗを測る。
【壁溝】検出されなかった。
【柱穴】床面と思われる硬化面と重複するピットや硬化面周辺部から検出したピットに本遺構に伴う柱穴が存在すると考えられるが、明確に本遺構に伴うピットは特定できなかった。
【その他の施設】検出できなかった。
【堆積土】にぶい黄褐色土や褐色土を主体とし、１層は比較的しまりがあり硬化している。炭化物粒や焼土粒を微量含む。
【出土遺物】本遺構は他遺構との重複が激しく、出土遺物の帰属の特定が困難であったが、本遺構に伴うものと思われる遺物は土師器坏・壺・甕、焼成粘土塊、石製品、鉄滓である。土師器坏は少数である。内面黒色処理を施すものでは、体部外面中途に沈線状の段を持つ個体と持たない個体のものがある。壺や甕は小～中型品が多く、口縁形態では、大きく、強く外反するものと短く外反するものがある。焼成粘土塊はカマド１層と硬化層下の土層から出土している。掲載はしていない。
石製品は片面使用の凹石である。石質は凝灰岩であり、硬化面から出土している。掲載はしていない。
【小結】帰属年代は、出土遺物の内容や遺構の新旧関係から、平安時代以降と思われる。

（工藤）

第115号竪穴住居跡（C1ＳＩ－115）（図93・110）
【位置・確認】ＩＰ・ＩＱ－49・48グリッドに位置する。
【重複】第114・116・117号竪穴住居跡、第20号掘立柱建物跡、第114・115・124・125・128・130・132・133・139・141・142・143・144・145号土坑、第104号溝跡、第114・141・142・143・144・145・150・152・153・154・155・161・163・164・167・168・229・247・248・249・250・251・269・270・274・275・280・285・299・500・506・517・518・521・522・523・524・525・526・527・528・529・530・531・532・534・535・539・540・541・544・545・549号ピットと重複する。
新旧関係は本遺構が第114・116号竪穴住居跡、第20号掘立柱建物跡、第114・133・141・142・143・144・145号土坑、第114・141・142・143・144・145・150・248・249・250・251・274・285・299・500・517・518・521・522・523・524・525・526・527・529・530・531・532・534・535・539・540・541・545号ピットより新しく、第115・124・125・128・130・132号土坑、第104号溝跡、第153・155・163・164・167・168・247号ピットよりも古い。
第117号竪穴住居跡、第139号土坑、第152・154・161・229・269・270・275・280・506・528・544・549号ピットとの新旧関係は判断できなかった。

【平面形・規模】第107号竪穴遺構と第104号溝跡と重複するために全容は不明であるが、長軸6.2m以上、短軸4.0m以上の隅丸長方形を呈するものと思われる。確認できた深さは13㎝を測る。
【壁・床面】壁は底面からほぼ垂直に立ち上がる。床面は褐色土を主体とし、遺構検出時に確認した。
【カマド】煙出部分は第104号溝跡に破壊され、不明である。煙道部中央と焚き口付近にピットがあり、煙道部中央のものは後世の柱穴の可能性もある。焚き口付近のピットの堆積土は灰黄褐色土とにぶい黄褐色土を主体として焼土や炭化物小塊を含む。軸方向はＮ－70.8°－Ｗを測る。
【壁溝】検出されなかった。
【柱穴】遺構範囲内から検出されたピットは53基あり、硬化面周辺部から検出したピットに本遺構に伴う柱穴が存在すると考えられるが、明確に本遺構に伴うピットは特定できなかった。
【その他の施設】本遺構区域内に位置する土坑のうち、明確に本遺構に伴う土坑は特定できなかった。
【堆積土】褐色土を主体とし、にぶい黄褐色土を多量に含む。
【出土遺物】本遺構は他遺構との重複が激しく、出土遺物の帰属の特定が困難であったが、本遺構に伴うものと思われる遺物は土師器坏・甕、須恵器坏、獣骨である。土師器坏は内面黒色処理を施す破片もあるが全体に数量的に少ない（図110－７・８）。カマドの堆積土から、体部外面が無調整の坏が出土しているが、客体の可能性がある。甕は体部が直線的で口縁部が外反するもの（図110－10）や内面黒色処理のものも若干みられる。須恵器坏は細片であり、堀方から出土している（図110－11・12)。また、体部外面に刷毛目を持つ破片も少数出土している。獣骨（？）片は床下堆積土（２層）からの出土である。叩石は硬化面から出土しており、礫両極に打撃痕を有し、一部に炭化物が付着するものである。石質は凝灰岩である。掲載はしていない。
【小結】帰属年代は、遺構の新旧関係および出土遺物の内容から、10世紀後半頃と考えられる。

（工藤）

第116号竪穴遺構（C1ＳＩ－116）（図94）
【位置・確認】ＩＯ・ＩＱ－47～49グリッドに位置する。
【重複】第114・115・117号竪穴住居跡、第20号掘立柱建物跡、第114・115・117・124・125・127・128・130・131・132・133・139・141・142・143・144・145号土坑、第104号溝跡、第152・153・154・155・157・158・159・160・161・163・164・165・166・167・168・170・171・172・205・208・209・210・211・229・230・231・232・233・234・247・248・249・250・251・260・262・263・266・267・270・271・273・274・275・276・277・278・279・280・281・282・283・285・287・288・289・290・291・292・293・295・296・297・299・500・504・505・506・509・510・511・512・513・517・518・520・521・522・523・524・525・526・527・528・529・530・531・532・534・535・540・541・542・543・544・536・537・538・539・545・549・554・555・556・571・572号ピットと重複する。
新旧関係は本遺構が第114・115・117号竪穴住居跡、第127号土坑、第104号溝跡、第153・155・158・159・160・161・164・165・167・168・170・171・208・247・296・511・518・522・523・534・535・540・541号ピットより古い。第20号掘立柱建物跡、第114・115・117・124・125・128・130・131・132・133・139・141・142・143・144・145号土坑、第152・

154・157・163・166・172・205・209・210・211・229・230・231・232・233・234・248・249・250・251・260・262・263・266・267・270・271・273・274・275・276・277・278・279・280・281・282・283・285・287・288・289・290・291・292・293・295・297・299・500・504・505・506・509・510・512・513・517・520・521・524・525・526・527・528・529・530・531・532・542・543・544・536・537・538・539・545・549・554・555・556・571・572号ピットとの新旧関係は判断できなかった。

【平面形・規模】南西部を第118号竪穴住居跡、南東部を第104号溝跡に破壊されるため全容は不明であるが、長軸8.9m以上、短軸2.2m以上の隅丸長方形を呈すと思われる。確認できた深さは10～20㎝を測る。

【壁・床面】壁は底面からほぼ垂直に立ち上がる。床面や底面は大半が第114・115竪穴住居跡に破壊されているものと考えられる。

【カマド】検出されなかった。

【壁溝】検出されなかった。

【柱穴】壁際に約90㎝から100㎝間隔でピットが並んで検出されている。

【その他の施設】明確に本遺構に伴う土坑は特定できなかった。

【堆積土】褐色土を主体とする。

【出土遺物】堆積土中から土師器甕破片が出土しており、内面黒色処理を施した甕破片も出土している。掲載は作成していない。

【小結】帰属年代は出土遺物の内容や新旧関係から、平安時代と考えられる。

（工藤）

第117号竪穴住居跡（C1ＳＩ－117）（図95・111・112・113・114）

【位置・確認】ＩＲ－48グリッド他に位置する。

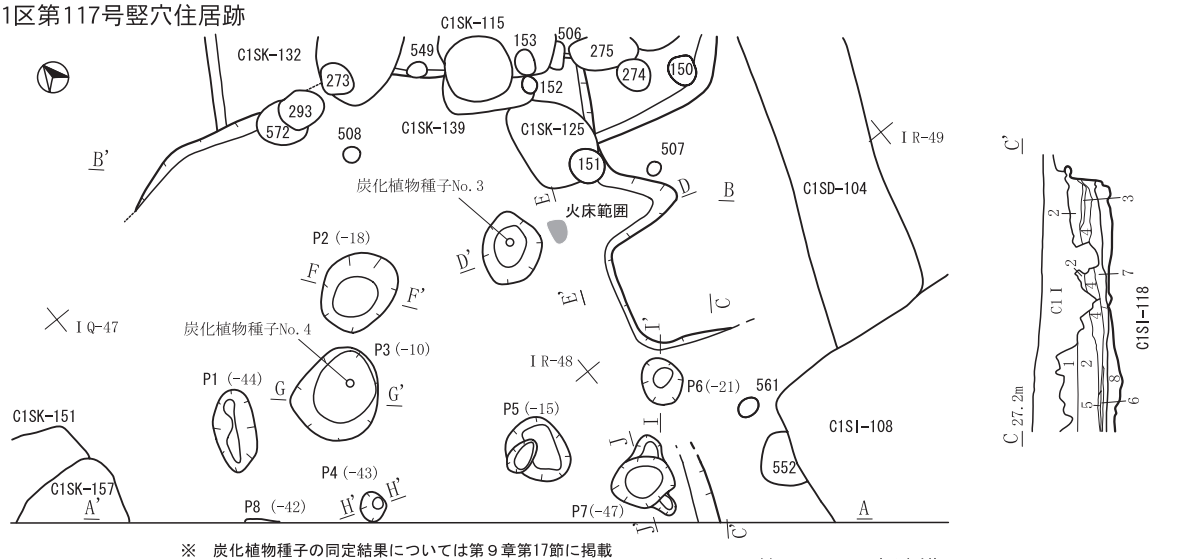
【重複】第115号竪穴住居跡、第116・118号竪穴遺構、第115・125・130・132・142・139・148・150・157号土坑、第106号溝跡、第151・152・153・273・275・293・506・549・572・573号ピットと重複する。これらの中で本遺構は第116・118号竪穴遺構よりも新しく、第115・125・130・132・148・150・157号土坑、第106号溝跡、第151・153・572号ピットよりも古い。第115号竪穴住居跡、第139・142号土坑、第152・273・275・293・506・549・573号ピットとの新旧関係は判断できなかった。

【平面形・規模】長軸4.2m、短軸3.5m以上の隅丸長方形を呈する。南側の一部が調査区外に入るため全体形状は不明であるが、東側にカマドを有する竪穴住居跡と考えられる。確認できた箇所の深さは約54㎝、床面積は約25.8㎡を測る。

【壁・床面】壁は底面からなだらかに立ち上がる。床面の直上には黒色土と灰状のシルト層が薄く堆積しており、直下に硬化面が現れる。硬化の程度は弱い。

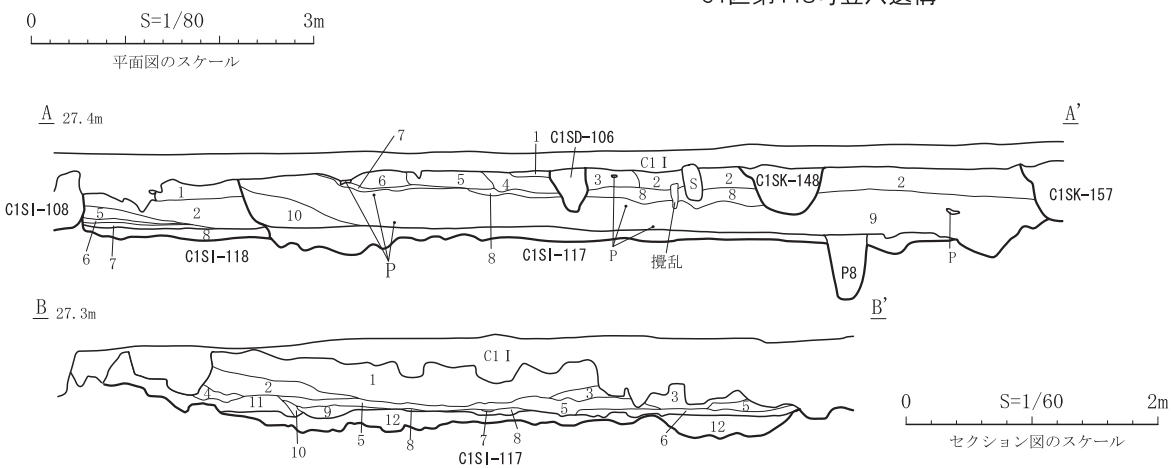
【カマド】東壁北寄りに軸方位Ｎ－68°－Ｗのカマド１基が検出されている。カマド周辺には粘土塊と火床面が残るのみで遺存状態は不良である。煙道部は半地下式と考えられるが、上部が現代の耕作による攪乱を受けているため、詳細は不明である。

C1区第117号竪穴住居跡



※　炭化植物種子の同定結果については第９章第17節に掲載

C1区第118号竪穴遺構



0　S=1/80　3m
平面図のスケール

0　S=1/60　2m
セクション図のスケール

C1区第117号竪穴住居跡　A-A′

1層	2.5Y5/3 黄褐色土	浅黄橙色土微量混入、粘性弱、しまり強
2層	10YR5/2 灰黄褐色土	浮石（φ1～3mm）微量、にぶい黄橙色土微量混入、粘性弱、しまり強
3層	7.5YR5/1 褐灰色土	橙色土5%混入、浅黄橙色粘土微量混入、明黄褐色土5%混入、粘性弱、しまり強
4層	10YR5/3 にぶい黄褐色土	黒色土7%混入、浅黄橙色粘土微量混入、粘性弱、しまり中
5層	10YR6/4 にぶい黄橙色土	明赤褐色土微量混入、にぶい黄橙色土3%混入、黒色土微量混入、粘性弱、しまり強
6層	10YR5/2 灰黄褐色土	明赤褐色土微量混入、にぶい黄橙色土3%混入、粘性弱、しまり中
7層	10YR5/3 にぶい黄褐色土	炭化物（φ1～10mm）5%、粘性弱、しまり中
8層	2.5Y4/4 オリーブ褐色土	黄橙色土微量混入、浅黄橙色粘土微量混入、粘性弱、しまり強
9層	10YR5/3 にぶい黄褐色土	浅黄橙色粘土3%混入、黒色土微量混入、粘性弱、しまり強
10層	10YR6/3 にぶい黄橙色土	褐灰色土微量混入、粘性中、しまり中

C1区第118号竪穴遺構　A-A′ C-C′

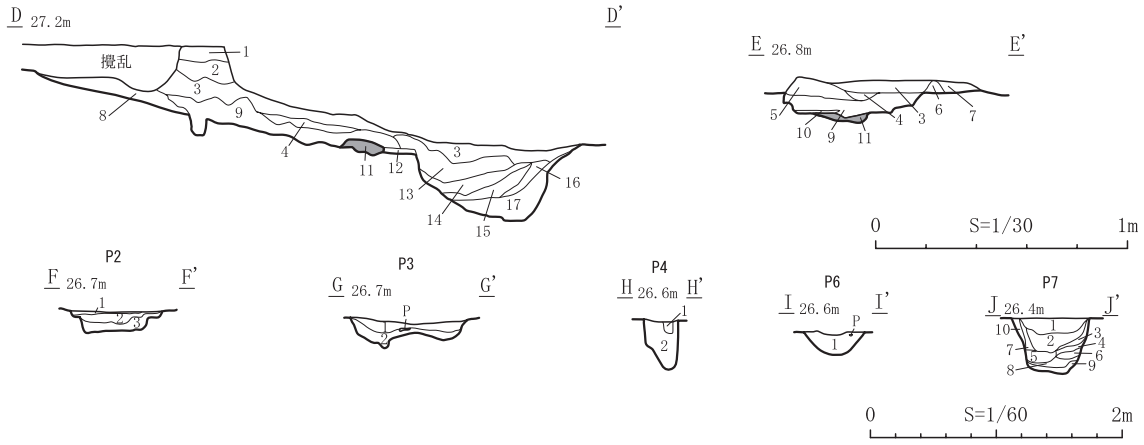
1層	10YR4/4 褐色土	浮石(φ1～3mm)微量、炭化物(φ1～2mm)微量、粘性弱、しまり強
2層	10YR4/4 褐色土	炭化物(φ1～6mm)微量、粘性弱、しまり強
3層	10YR5/6 黄褐色土	粘性弱、しまり強
4層	10YR4/4 褐色土	炭化物(φ1～2mm)微量、粘性弱、しまり強
5層	10YR4/6 褐色土	炭化物(φ1～2mm)微量、粘性弱、しまり強
6層	10YR4/4 褐色土	炭化物(φ1～3mm)微量、粘性中、しまり強
7層	10YR4/4 褐色土	炭化物(φ1～2mm)微量、上層に締りの強い土が狭在、粘性中、しまり強
8層	10YR4/6 褐色土	10YR5/4にぶい黄褐色土との混合土、炭化物(φ1～2mm)微量、粘性中、しまり強

C1区第117号竪穴住居跡　B-B′

1層	10YR4/3 にぶい黄褐色土	浮石(φ1～10mm)極微量、炭化物(φ1～10mm)極微量、焼土粒(φ1～20mm)極微量、粘性弱、しまり強
2層	10YR4/3 にぶい黄褐色土	10YR4/4褐色土との混合土、10YR2/1黒色土、焼土粒(φ1～20mm)極微量、粘性弱、しまり強
3層	10YR4/4 褐色土	10YR5/3にぶい黄褐色土ブロック状に混入、炭化物(φ1～5mm)極微量、焼土粒(φ1～5mm) 極微量、粘性弱、しまりやや強
4層	10YR4/3 にぶい黄褐色土	10YR2/1黒色土、焼土ブロック(φ1～80mm)多量、粘性弱、しまり強
5層	10YR4/4 褐色土	10YR2/1黒色土、10YR5/3にぶい黄褐色粘性土ブロック状に混入、粘性中、しまりやや強
6層	10YR4/4 褐色土	10YR5/3にぶい黄褐色粘性土と10YR5/6黄褐色粘性土ブロック状に混入、粘性中、しまり強
7層	10YR4/3 にぶい黄褐色土	10YR5/2黒褐色土との混合土、粘性弱、しまり強
8層	10YR4/4 褐色土	炭化物(φ1～5mm)極微量、10YR2/1黒色土、粘性やや強、しまり強
9層	10YR1.7/1黒色土	10YR4/4褐色土ブロック状に混入、焼土粒(φ1～20mm)極微量、7.5YR3/3暗褐色土、粘性弱、しまりやや強
10層	10YR4/4 褐色土	上層に10YR2/1黒色土と10YR4/4褐色土混入、粘性中、しまり中
11層	10YR4/3 にぶい黄褐色土	10YR4/4褐色土との混合土、10YR2/1黒色土、焼土粒(φ1～5mm)極微量、7.5YR4/4褐色土、粘性弱、しまり中
12層	10YR4/4 褐色土	10YR2/1黒色土、焼土粒(φ1～20mm)極微量、粘性弱、しまり中

図95　C1区竪穴住居跡（９）・竪穴遺構（４）

C1区第117号竪穴住居跡カマド



C1区第117号竪穴住居跡カマド　D-D′E-E′

1層	10YR4/3	にぶい黄褐色土	10YR6/6明黄褐色土ブロック状(φ0.5～2cm)30%混入
2層	10YR4/3	にぶい黄褐色土	10YR6/6明黄褐色土ブロック状(φ0.5cm程度)10%混入
3層	10YR5/4	にぶい黄褐色土	焼土ブロック(φ0.1～2cm)下部に5%、炭化物(φ1～3cm程度)3%、10YR4/4褐色土20%、灰10%混入、崩落土
4層	10YR4/4	褐色土	焼土ブロック(φ1cm程度)下部に2%、炭化物(φ0.1cm程度)3%混入、崩落土？
5層	10YR5/4	にぶい黄褐色土	10YR4/4褐色土との混合土、焼土ブロック(φ0.5～1cm)3%、炭化物(φ0.5cm程度)1%混入、崩落土
6層	10YR4/6	褐色土	焼土ブロック(φ0.5～1cm)3%、炭化物(φ0.5cm程度)7%混入
7層	10YR5/6	黄褐色土	10YR4/3にぶい黄褐色土40%、10YR7/3にぶい黄橙色土30%、10YR4/6褐色土20%、粘土粒(φ0.5～1cm)30%混入
8層	10YR3/3	暗褐色土	炭40%、灰30%、10YR4/4褐色土10%の混入
9層	10YR4/4	褐色土	10YR3/3暗褐色土20%、焼土20%、炭10%、灰25%混入
10層	10YR3/3	暗褐色土	炭80%混入
11層	10YR4/4	褐色土	
12層	10YR1.7/1	黒色土	10YR3/3暗褐色土ブロック(φ1～2cm)10%、10YR4/4褐色土ブロック(φ1cm程度)10%、焼土粒(φ0.5cm程度)3%混入
13層	10YR2/1	黒色土	10YR4/4褐色土ブロック(φ1～2cm)15%、焼土粒(φ0.5～2cm)5%、灰が全体に20%、炭化物(φ0.5cm程度)5%混入
14層	10YR1.7/1	黒色土	10YR4/4褐色土ブロック(φ0.5～1cm)5%、焼土粒(φ1cm程度)1%、13層ほどではないが全体的に灰混じる
15層	10YR1.7/1	黒色土	10YR4/4褐色土ブロック(φ0.5～3cm)25%混入(16層由来)、全体的に灰混じる
16層	10YR4/4	褐色土	10YR1.7BL10%混入、13層ほどではないが全体的に灰混じる
17層	10YR1.7/1	黒色土	10YR3/3暗褐色土ブロック3%、焼土粒(φ0.5cm程度)1%、炭化物(φ0.5cm程度)3%混入、13層ほどではないが全体に灰混じる

C1区第117号竪穴住居跡　P2　F-F′

1層	10YR4/2	灰黄褐色土	炭化物(φ1～3mm)3%、焼土(φ1～3mm)極微量、粘性中、しまり強
2層	10YR6/2	にぶい黄橙色土	炭化物(φ1～3mm)極微量、黒色土微量混入、粘性なし、しまり強
3層	10YR7/4	にぶい黄橙色土	黒色土微量混入、粘性なし、しまり強

C1区第117号竪穴住居跡　P3　G-G′

1層	10YR4/1	褐灰色土	浮石塊(φ1.5mm)極微量、炭化物(φ1～5mm)3%、焼土(φ1～5mm)極微量、粘性中、しまり強
2層	5B7/1	明青灰色粘土	粘性強、しまり強

C1区第117号竪穴住居跡　P4　H-H′

柱痕(1層)	10YR4/3	にぶい黄褐色土	炭化物(φ1～5mm)極微量、粘性中、しまり中
埋土(2層)	10YR6/4	にぶい黄橙色土	黒褐色土微量混入、粘性中、しまり強

C1区第117号竪穴住居跡　P6　I-I′

1層	10YR4/3	にぶい黄褐色土	10YR4/2灰黄褐色土との混合土、炭化物(φ1～5mm)極微量、粘性中、しまり強

C1区第118号竪穴住居跡　P7　J-J′

1層	10YR4/4	褐色土	10YR2/1黒色中塊（φ2～3cm）少量、10YR6/3にぶい黄橙色小塊（φ3～7mm）微量、7.5YR5/8明褐色小塊（φ1～2mm）微量、粘性中、しまり弱
2層	10YR1.7/1	黒色土	灰混入、10YR4/4褐色小塊（φ5～7mm）少量、粘性弱、しまり弱
3層	10YR4/3	にぶい黄褐色土	10YR3/1黒褐色小粒（φ5～7mm）中量、焼土粒（φ1.5cm程度）含む、粘性中、しまり弱
4層	10YR2/1	黒色土	10YR4/4褐色土との混合土、粘性弱、しまり弱
5層	10YR3/1	黒褐色土	10YR4/3にぶい黄褐色大塊（φ10cm）、焼土粒（φ1cm）程度を含む、粘性弱、しまり弱
6層	10YR4/3	にぶい黄褐色土	10YR3/1黒褐色中粒（φ2～3cm）中量、焼土粒（φ5mm程度）含む、粘性中、しまり弱
7層	10YR4/3	にぶい黄褐色土	10YR3/1黒褐色小粒（φ5～7mm）中量、7.5YR5/6明褐色小塊（φ7～10mm）少量、粘性中、しまり中
8層	10YR2/1	黒色土	灰混入、10YR5/3にぶい黄褐色小塊（φ2～3mm）少量、粘性弱、しまり弱
9層	2.5YR6/2	灰黄褐色土	10YR5/6明褐色小塊（φ3～5mm）少量、7.5YR6/8橙色小塊（φ1～2mm）極微量、粘性中、しまり強
10層	10YR5/6	明褐色土	10YR4/4褐色土との混合土、7.5YR4/6褐色小粒（φ1～3mm）極微量、粘性中、しまり中

図96　C1区竪穴住居跡（10）

【壁溝】検出されなかった。
【柱穴】壁より内側でピットが８基検出されている。これらのうち、Ｐ７については主柱穴となる可能性がある。
【その他の施設】カマド火床面の西側には直径65㎝、深さ27㎝程度のピットが検出されている。堆積土中には、袖の崩落土と考えられる白色粘土塊が層状に堆積しており、土壌化した炭化物が確認される。堆積土中から、土師器甕の破片が出土している。
【堆積土】堆積土上部には黒色土と焼土を含む層が堆積しており、土師器細片が多く含まれる。
【出土遺物】堆積土中から多量の土師器、須恵器の細片、鉄滓・椀型滓の破片が数点出土している。１層から出土した磁器は肥前の染付（18～19世紀末）で、掲載はしていない。堆積土上層から出土した遺物の中には８世紀代に遡るとみられる土師器坏（図111－１～６）も含まれるが、破片が散在した状態で出土しており、まとまりに乏しい。ロクロ成形（図111－10）や手捏ね成形の粗雑な坏（図111－８～17）の細片も混在することから、これらを遺構の時期指標とみなすことは不適当と考える。また、カマド付近床面から底部に筵編圧痕を有する土師器小型甕（図114－６）が出土している。図113－11は帯状に貼付した粘土隆帯に対して、列点状の押圧施文を施したものである。器形等不明な点が多いものの胎土、焼成の特徴は土師器に近似する。カマド前面にある小ピット、Ｐ３の堆積土より採取した土壌サンプル（154g、81g）からは炭化種子（イネ、オオムギ、ヒエ属他）が検出されている（第９章第17節）。
【小結】本住居跡の帰属年代は検出層位、遺構の形態、出土遺物の内容から平安時代（10世紀後半～11世紀末）と考えられる。

（斉藤）

第118号竪穴遺構（C1ＳＩ－118）（図95）
【位置・確認】ＩＲ－48グリッドに位置する。基本層序第C1Ⅰ層直下、第C1Ⅱ層直上で検出した。
【重複】第108・117号竪穴住居跡、第552・561号ピットと重複する。本住居跡は第108号竪穴住居跡、第117号竪穴住居跡、第552・561号ピットよりも古い。
【平面形・規模】北壁の一部を確認したのみであり、全体形状は不明である。深さは48㎝を測る。
【壁・床面】壁は床面からほぼ垂直に立ち上がる。床面は貼床によってほぼ平坦に整えられており、調査区南壁際で硬化が顕著である。確認された範囲における床面積は約3.2㎡である。
【カマド】検出されなかった。
【壁溝】検出されなかった。
【柱穴】検出されなかった。
【その他の施設】検出されなかった。
【堆積土】基本層序第C1Ⅱ層に由来する火山灰質土が堆積土の主体をなす。床面からの堆積状況は層界がレンズ状をなし、自然堆積的様相を呈する。
【出土遺物】堆積土中及び床面から土師器の細片が出土している。
【小結】遺構の形態、重複関係、検出層位から、本住居跡の年代は平安時代（10世紀後半～11世紀末）と考えられる。

（斉藤）

第119号竪穴遺構（C1ＳＩ－119）

遺構確認時に遺構と認識したが調査段階で遺構と判断しなかったため、欠番とした。

第120号竪穴遺構（C1ＳＩ－120）（図97・114）

【位置・確認】ＩＮ－43グリッド他に位置する。基本層序第C1Ⅰ層直下、第C1Ⅱ層直上で検出した。

【重複】第156号土坑と重複しており、これよりも古い。

【平面形・規模】遺構の大部分は調査区外に含まれるため、全体形状は不明である。北西－南東に延びる北壁の長さは3.1ｍで、平面形は隅丸方形を呈するものと推定される。検出面から床面までの深さは約20㎝で、調査区内の床面積は約0.8㎡を測る。

【壁・床面】壁は床面からなだらかに立ち上がっており、底面には粘土を混ぜた貼床が施されている。

【カマド】検出されなかった。

【壁溝】検出されなかった。

【柱穴】検出されなかった。

【その他の施設】検出されなかった。

【堆積土】上層には、基本層序第C1Ⅱ層に由来する砂質土がレンズ状に堆積しており、自然堆積的様相を呈する。

【出土遺物】堆積土中及び床面から土師器坏・甕の細片（図114－11・12）が出土している。

【小結】本遺構の帰属年代は、中世とされる第156号土坑よりも古いことから中世以前と考えられる。また、軸方位が平安時代と考えられる第125・126・130号竪穴住居跡と揃い、検出面からの深さも近似するため、平安時代の竪穴住居跡である可能性が高い。

（斉藤）

第121号竪穴住居跡（C1ＳＩ－121）（図97）

【位置・確認】ＩＮ－43グリッド他に位置する。基本層序第C1Ⅰ層直下、第C1Ⅱ層直上で検出した。

【重複】なし。

【平面形・規模】南側の大部分が調査区域外に入るため、全体形状は不明である。東西壁の長さは2.7ｍを測り、平面形は隅丸方形を呈するものと予想される。確認面から床面までの深さは約36㎝で、調査区内の床面積は約3.3㎡である。

【壁・床面】壁は床面からほぼ垂直に立ち上がる。基本層序第C1Ⅲ層上面を床面としており、黒色土と灰状のシルト層が薄く堆積している。明確な貼床は確認されなかった。

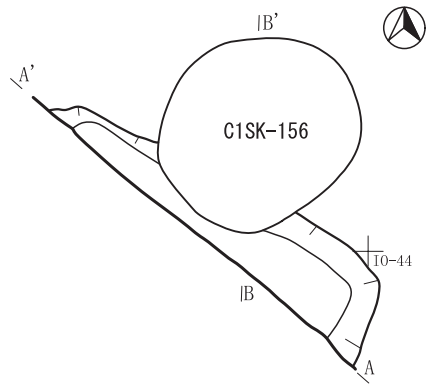
【カマド】東壁に軸方位Ｎ－79°－Ｗのカマド１基が検出された。火床面周辺からは土師器甕の細片が出土しており、北側の袖からは、芯材として用いられた角礫が破損した状態で出土している。煙道は半地下式構造をなし、壁面は被熱によって赤褐色に変色している。遺存状態は悪い。

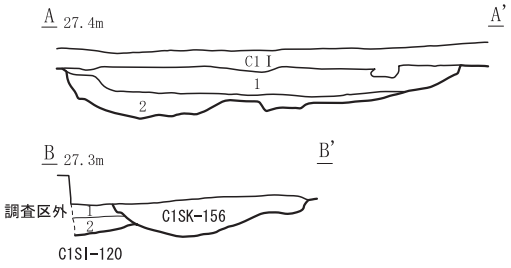
【壁溝】検出されなかった。

【柱穴】直径16～18㎝、深さ４～14㎝のピット４基が確認されている。

【その他の施設】カマド火床面の下部に直径34㎝、深さ24㎝のピットが検出されている。堆積土は土壌化した炭化物からなり、土層断面からカマドより掻き出された灰が溜められたような状態が確認で

C1区第120号竪穴遺構

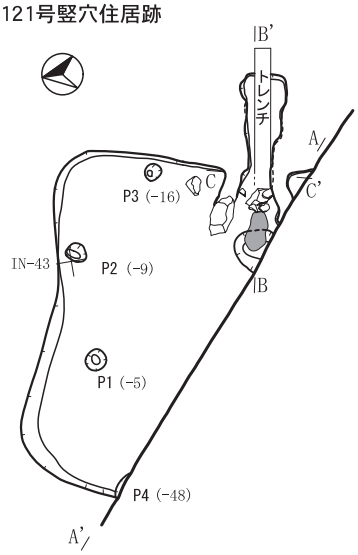


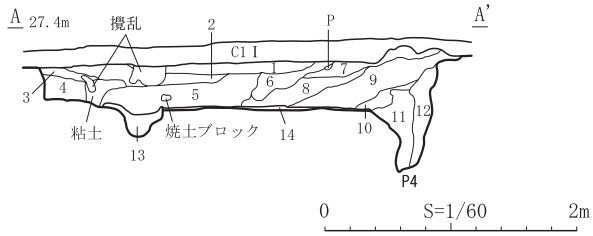


C1区第120号竪穴住居跡　A-A′B-B′

1層	10YR3/4 暗褐色土	10YR4/4褐色土との混合土、浮石(φ1～3mm)極微量、炭化物(φ1～2mm)極微量、粘性弱、しまりやや弱
2層	10YR4/4 褐色土	10YR3/4暗褐色土がブロック状(φ3～5mm)混入、炭化物(φ3～5mm)極微量、粘性弱、しまりやや弱

C1区第121号竪穴住居跡

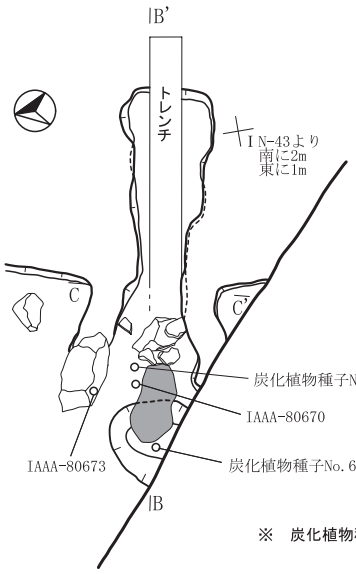


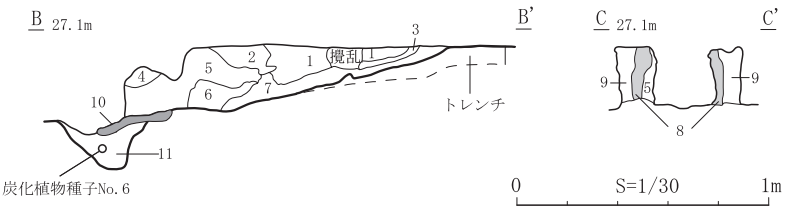


C1区第121号竪穴住居跡　A-A′

1層	10YR5/3 にぶい黄褐色土	浮石(φ1～3mm)極微量、炭化物(φ1～3mm)極微量、粘性弱、しまり中
2層	10YR4/3 にぶい黄褐色土	炭化物(φ1～3mm)極微量、粘性弱、しまり中
3層	10YR5/4 にぶい黄褐色土	炭化物(φ1～3mm)極微量、粘性弱、しまり中
4層	10YR4/4 褐色土	炭化物(φ1～3mm)極微量、粘性弱、しまり弱
5層	10YR4/2 灰黄褐色土	浮石(φ1～3mm)極微量、炭化物(φ1～15mm)微量、焼土(φ1～70mm)混入、粘性弱、しまり中
6層	10YR5/2 灰黄褐色土	炭化物(φ1～5mm)極微量、焼土(φ3mm)微量、粘性弱、しまり弱
7層	10YR6/4 にぶい黄橙褐色土	炭化物(φ1～10mm)極微量、焼土(φ3mm)極微量、粘性弱、しまり弱
8層	2.5YR5/4 黄褐色土	浮石(φ1～5mm)極微量、炭化物(φ1～5mm)極微量、粘性弱、しまり中
9層	2.5YR5/3 黄褐色土	浮石(φ1～20mm)極微量、炭化物(φ1～3mm)極微量、粘性弱、しまり中
10層	2.5YR4/3 オリーブ褐色土	炭化物(φ5mm)極微量、粘性弱、しまり中
11層	2.5YR4/6 オリーブ褐色土	炭化物(φ1～3mm)極微量、粘性弱、しまり中
12層	2.5YR4/4 オリーブ褐色土	粘性弱、しまり中
13層	10YR1.7/1 黒色土	粘性中、しまり中
P1	10YR4/3 にぶい黄褐色土	粘性弱、しまり強、焼土（φ1～3mm）極微量
P2	10YR4/4 褐色土	炭化物（φ1～10mm）極微量、粘性中、しまり強
P3	10YR3/4 暗褐色土	炭化物（φ1～3mm）極微量、粘性中、しまり中

C1区第121号竪穴住居跡カマド





C1区第121号竪穴住居跡カマド

1層	10YR7/4 にぶい黄橙色土	炭化物（φ3mm）極微量、粘性弱、しまり強
2層	10YR5/4 にぶい黄褐色土	浮石（φ1～3mm）極微量、焼土（φ1～80mm）混入、炭化物（φ1～3mm）極微量、粘性中、しまり中
3層	10YR4/6 褐色土	炭化物（φ1～3mm）極微量、粘性弱、しまり強
4層	10YR6/6 明黄褐色土	炭化物（φ1～3mm）極微量、焼土（φ1～3mm）極微量、粘性中、しまり中
5層	10YR4/2 灰黄褐色土	炭化物（φ1～5mm）極微量、焼土（φ10mm）5%、粘性中、しまり中
6層	10YR4/4 褐色土	炭化物（φ1～5mm）極微量、粘性弱、しまり中
7層	10YR2/1 黒色土	炭化物（φ1～5mm）極微量、焼土（φ1～8mm）極微量、粘性中、しまり中
8層	10YR5/6 黄褐色土	炭化物（φ1～3mm）極微量、粘性なし、しまり強
9層	10YR7/3 にぶい黄橙色土	浅黄色土混入、粘性弱、しまり強
11層	10YR1.7/1 黒色土	粘性中、しまり中

※　炭化植物種子の同定結果については第９章第17節に掲載

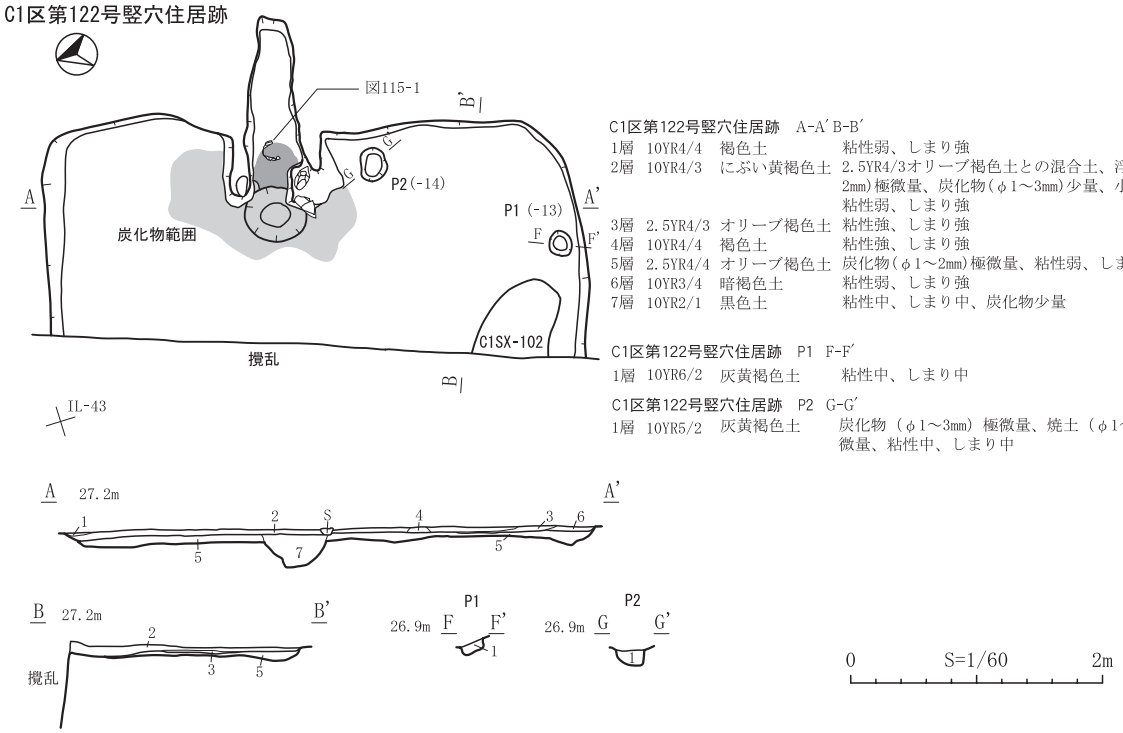
図97　C1区竪穴住居跡（11）・竪穴遺構（５）

きた。
【堆積土】上層は基本層序第C1Ⅲ層に由来する粘質土や焼土を含んだ人為堆積土であり、下層は、基本層序第C1Ⅱ層からなる壁面の崩壊土と考えられる。
【出土遺物】堆積土中及び床面から土師器の細片が出土しており、カマド近くには礫がまとまって出土している。カマド周辺で採取した土壌サンプル（330g）より、イネ、ホタルイ属等が検出されている。また、火床面の下部にある小ピットの堆積土（15g）、竪穴堆積土（45g）より、イネ、ダイズを主体とする植物遺体が検出されている（第９章第17節）。
【小結】本住居跡の年代は検出層位、遺構の形態、堆積土中より出土した遺物から平安時代（10世紀後半～11世紀末）に帰属するものと考えられる。袖石の付着炭化物およびカマド堆積土から得られた炭化物の炭素年代測定値はそれぞれ、910±30yrBP（IAAA-80673）、950±30yrBP（IAAA-80670）である（第９章第３節）。

（斉藤）

第122号竪穴住居跡（C1ＳⅠ－122）（図98・114・115）
【位置・確認】ⅠＬ－43グリッド他に位置する。基本層序第C1Ⅰ層直下、第C1Ⅱ層直上で検出した。
【重複】第132号竪穴遺構、第２号性格不明遺構と重複し、これらよりも新しい。
【平面形・規模】撹乱によって西側半分が削平されており、全体形状については不明であるが、平面形は幅4.2m程度の隅丸方形を呈するものと考えられる。検出面から床面までの深さは６㎝で、残存部の床面積は約6.6㎡を測る。
【壁・床面】壁は床面から緩やかに外傾しながら立ち上がる。床面は平坦で、カマド周辺では黒色土と灰状物質の薄層が顕著に認められる。
【カマド】東壁のやや北寄りで軸方位Ｎ－73°－Ｗのカマド１基が検出された。上部が削平を受け、遺存状態は不良であった。また、火床面の直上に土師器甕の口縁部が倒立した状態で確認されており、支脚と考えられる。煙道部は半地下式構造である。
【壁溝】検出されなかった。
【柱穴】床面で２基のピットが確認されている。上端幅の直径は18～21㎝で、深さは５～６㎝である。
【その他の施設】カマド火床面の前面に長軸48㎝、短軸42㎝、深さ21㎝のピットがみられる。ピットの上端を火床面が被覆していることから焚きつけはピットに覆土がある状態で行われていたものとみられる。
【堆積土】基本層序第C1Ⅱ層に由来する砂質土が主体をなす。
【出土遺物】床面から須恵器大甕の破片が集中して出土している。また、カマド火床面直上に土師器長胴甕の口縁部（図115－１）が接地した状態で出土しており、支脚として用いられたものとみられる。土師器坏はいずれもロクロ成形によるもので、図114－14には内面黒色処理がみられる。カマド周辺、火床面直上で採取した土壌サンプル（148g、34g）より、イネ、コムギ、アカザ属等が出土している。また、火床面下部で採取した土壌サンプルより、コムギ、タデ科を主体とする植物遺体が検出されている（第９章第17節）。
【小結】検出層位、遺構の形態、出土遺物の内容から、本住居跡の年代は平安時代（10世紀後半～11

C1区第122号竪穴住居跡



C1区第122号竪穴住居跡　A-A′B-B′

1層	10YR4/4	褐色土	粘性弱、しまり強
2層	10YR4/3	にぶい黄褐色土	2.5YR4/3オリーブ褐色土との混合土、浮石(φ1～2mm)極微量、炭化物(φ1～3mm)少量、小石混入、粘性弱、しまり強
3層	2.5YR4/3	オリーブ褐色土	粘性強、しまり強
4層	10YR4/4	褐色土	粘性強、しまり強
5層	2.5YR4/4	オリーブ褐色土	炭化物(φ1～2mm)極微量、粘性弱、しまり強
6層	10YR3/4	暗褐色土	粘性弱、しまり強
7層	10YR2/1	黒色土	粘性中、しまり中、炭化物少量

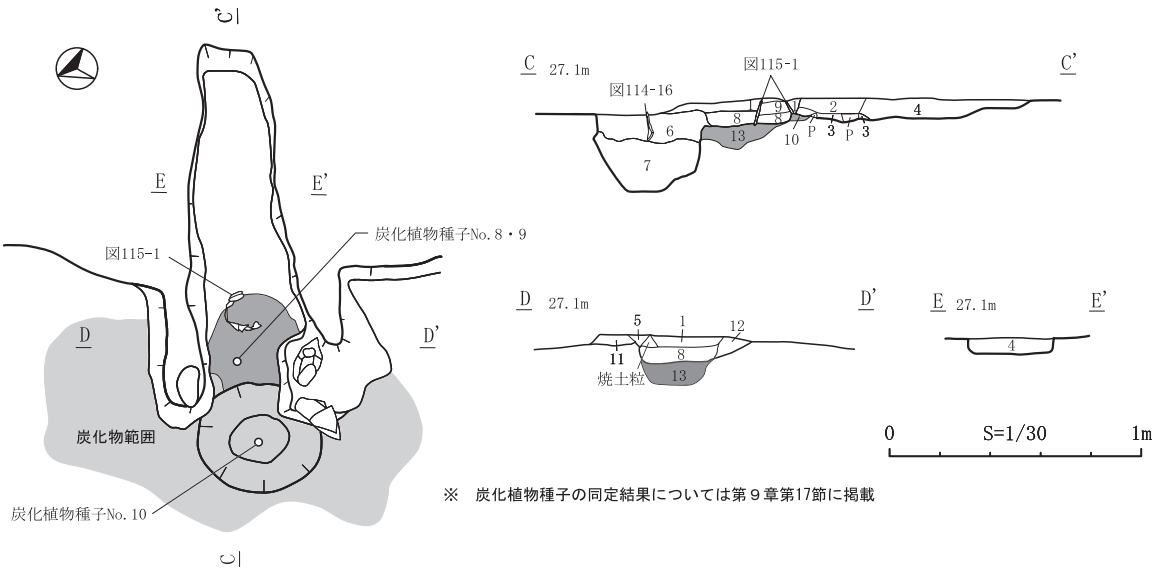
C1区第122号竪穴住居跡　P1　F-F′

1層	10YR6/2	灰黄褐色土	粘性中、しまり中

C1区第122号竪穴住居跡　P2　G-G′

1層	10YR5/2	灰黄褐色土	炭化物（φ1～3mm）極微量、焼土（φ1～3mm）極微量、粘性中、しまり中

C1区第122号竪穴住居跡カマド

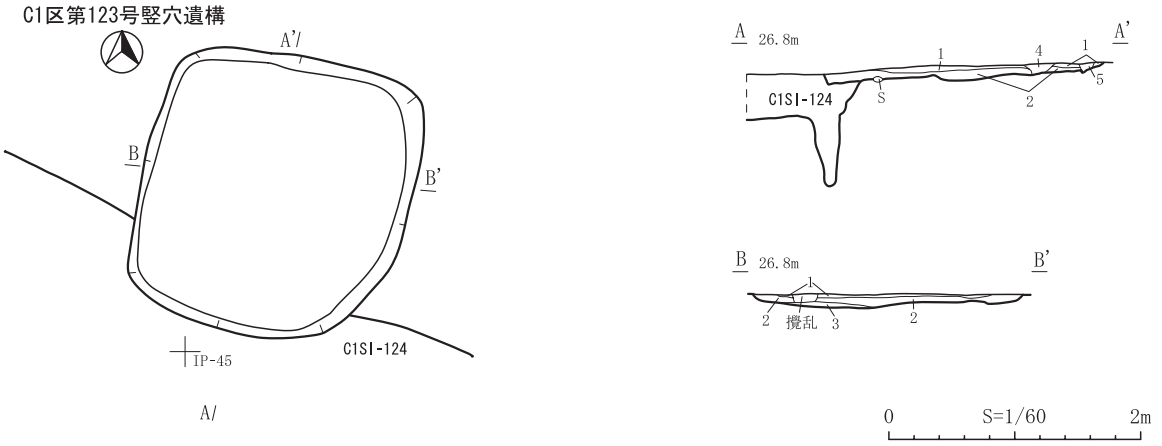


※　炭化植物種子の同定結果については第９章第17節に掲載

C1区第122号竪穴住居跡カマド　C-C′D-D′E-E′

1層	10YR3/4	暗褐色土	炭化物（φ1～2cm）微量、焼土粒（φ1～2mm）極微量、粘性弱、しまり強
2層	10YR3/3	暗褐色土	10YR4/4褐色土と10YR4/6褐色土との混合土、10YR2/3黒褐色土が少量混入、粘性弱、しまり中
3層	10YR2/3	黒褐色土	7.5YR4/4褐色土がブロック状に混入、粘性弱、しまり中
4層	10YR3/4	暗褐色土	10YR4/4褐色土との混合土、浮石（φ1～2cm）微量混入、粘性弱、しまり中
5層	10YR4/4	褐色土	粘性弱、しまり強
6層	10YR6/4	にぶい黄橙色土	炭化物（φ1～5mm）極微量、浮石（φ1～5mm）極微量、焼土（φ1～7mm）極微量、粘性弱、しまり強
7層	10YR2/1	黒色土	明黄褐色土混入、粘性中、しまり強
8層	10YR4/3	にぶい黄褐色土	焼土（φ1～10mm）極微量、土壌化した焼土層
9層	5YR4/3	にぶい赤褐色土	粘性弱、しまり中
10層（火床面）	5YR3/2	暗褐色土	粘性弱、しまり中
11層	10YR5/4	にぶい黄褐色土	10YR5/3にぶい黄褐色土ブロック多量に含む
12層	10YR2/3	黒褐色土	赤変した礫含む、粘性弱、しまり中
13層（火床面）	10YR3/2	暗褐色土	10YR4/4褐色土との混合土、10YR3/1黒褐色土が上層に混入、7.5YR明褐色土が粒状に（φ2mm）微量混入、粘性弱、しまり強

図98　C1区竪穴住居跡（12）



C1区第123号竪穴遺構　A-A′B-B′

1層	10YR3/4	暗褐色土	10YR4/3にぶい黄褐色土との混合土、10YR5/3にぶい黄褐色土混入、浮石(φ1～2mm)極微量、炭化物(φ1～2mm)極微量、焼土粒(φ1～2mm)極微量、粘性弱、しまり強
2層	10YR4/3	にぶい黄褐色土	10YR5/4にぶい黄褐色土と10YR5/6黄褐色土との混合土、炭化物（φ1～2mm)極微量、粘性弱、しまり強
3層	10YR4/4	褐色土	粘性弱、しまり強
4層	10YR4/3	にぶい黄褐色土	10YR4/4褐色土との混合土、炭化物(φ1～2cm)極微量、粘性弱、しまり中
5層	10YR4/4	褐色土	粘性弱、しまり強

図99　C1区竪穴遺構（６）

世紀末）と考えられる。

（斉藤）

第123号竪穴遺構（C1ＳＩ－123）（図99）

【位置・確認】ＩＯ－44・45グリッドに位置する。基本層序第C1Ⅰ層下部、第C1Ⅱ層中で検出した。

【重複】第565号ピット、第124号竪穴遺構と重複する。本遺構はこれらより新しい。

【平面形・規模】東西壁、南北壁ともに約1.9m、床面積は約3.6㎡を測る。平面形は隅丸方形である。検出面からの深さは12㎝であり、断面形は皿状を呈する。

【壁・床面】壁は床面からなだらかに立ち上がり、床面は平坦である。硬化の程度は弱い。

【カマド】なし。

【壁溝】なし。

【柱穴】なし。

【その他の施設】なし。

【堆積土】堆積土下部には基本層序第C1Ⅴ層に由来する白色粘土ブロックを多く含み、人為堆積的様相を呈する。

【出土遺物】土師器片が少量と棒状の金属製品が１点出土している。

【小結】遺構の重複関係、堆積土の特徴から、中世以降に帰属するものと考えられる。

（斉藤）

第124号竪穴遺構（C1ＳＩ－124）（図100・115）

【位置・確認】ＩＯ－44、ＩＰ－45グリッド他に位置する。基本層序第C1Ⅰ層直下、第C1Ⅱ層中で検出した。

【重複】第123号竪穴遺構と重複しており、これよりも古い。

【平面形・規模】南西側が調査区外に入るため、遺構の全体形状は不明である。確認された東西壁の長さは約10m、南北壁約2.5mで平面形は北西－南東に軸をもつ長方形を呈する。検出面から床面までの深さは78cmを測る。調査区内の床面積は約7.1㎡である。
【壁・床面】壁は床面からなだらかに立ち上がる。基本層序第C1Ⅵ層を床面としており、硬化が顕著である。
【カマド】なし。
【壁溝】北側東西壁際に最大幅24cmの周溝が確認されている。側縁が床面よりも若干高まりをもち、底面からの深さは約10cmである。また、南東部分にある張り出し状の高まりにも数条の短い溝が付随している。
【柱穴】東西壁際周溝の内側を中心として８基が連なって認められた。その他、東側張り出し端部や周溝内部にも３基が検出されている。いずれも、柱痕が明瞭に残り、掘方底面近くでは空洞となって現れるものもみられた。ピット上端の直径は30～36cm、深さは浅いもので約20cm、深いもので54～90cmを測る
【その他の施設】東壁部分には、出入り口状の施設がみられる。西側にある本体床面からの比高差は約18cmで、平面形状は方形を呈する。東壁際の周溝内にはピットがあり、これと関連するものとみられる。
【堆積土】堆積土上部は、褐色土が主体をなし、炭化物を含んだ黒色土が層状に介在している。堆積土下部では、粘土塊を多量に含む人為堆積層がブロック状に含まれており、複雑な堆積状況を呈する。下層では特に層界が明瞭である。
【出土遺物】堆積土上部では、土師器・須恵器の細片が多く出土しているが、下部の堆積層では、遺物出土量が少ない。堆積土中から土師器の坏（図115－６）・甕（図115－７）、須恵器の坏（図115－８）・長頸壺（図115－９）、磁器（図115－10）、金属製品（図115－11）が出土している。須恵器長頸壺（図115－９）は頸部基部側に細い突帯が巡る。胎土分析から山形県山海窯跡群の製品である可能性が指摘されている（第９章第20節）。磁器（図115－10）は体部外面に粗略な蓮弁文を施す龍泉窯系青磁碗で、15世紀前半のものである。金属製品（図115－11）は小札と考えられる欠損品である。いずれも堆積土下部の粘土層（10層）から出土している。
【小結】遺構上部は耕作土によって削られ、大半が調査区域外に入っているものの、柱穴配置等の床面構造、堆積土下部から出土した遺物の内容から15世紀頃に帰属する竪穴遺構とみられる。尚、本遺構の堆積土下部粘土層（10層）から出土した炭化材の炭素年代測定値は340±30yrBP（IAAA-80671）である（第９章第３節）。

（斉藤）

第125号竪穴住居跡（C1ＳＩ－125）（図101・116・117）

【位置・確認】ＩＭ－43グリッド他に位置する。基本層序第C1Ⅰ層直下、第C1Ⅱ層上面で検出した。
【重複】なし。
【平面形・規模】東西壁の長さ3.1m、南北壁の長さ3.5mの隅丸正方形を呈する。検出面から床面までの深さは約12cm、床面積は約9.4㎡を測る。
【壁・床面】壁は床面からほぼ垂直に立ち上がる。床面は平坦で硬化面はカマド南側を除き、あまり発

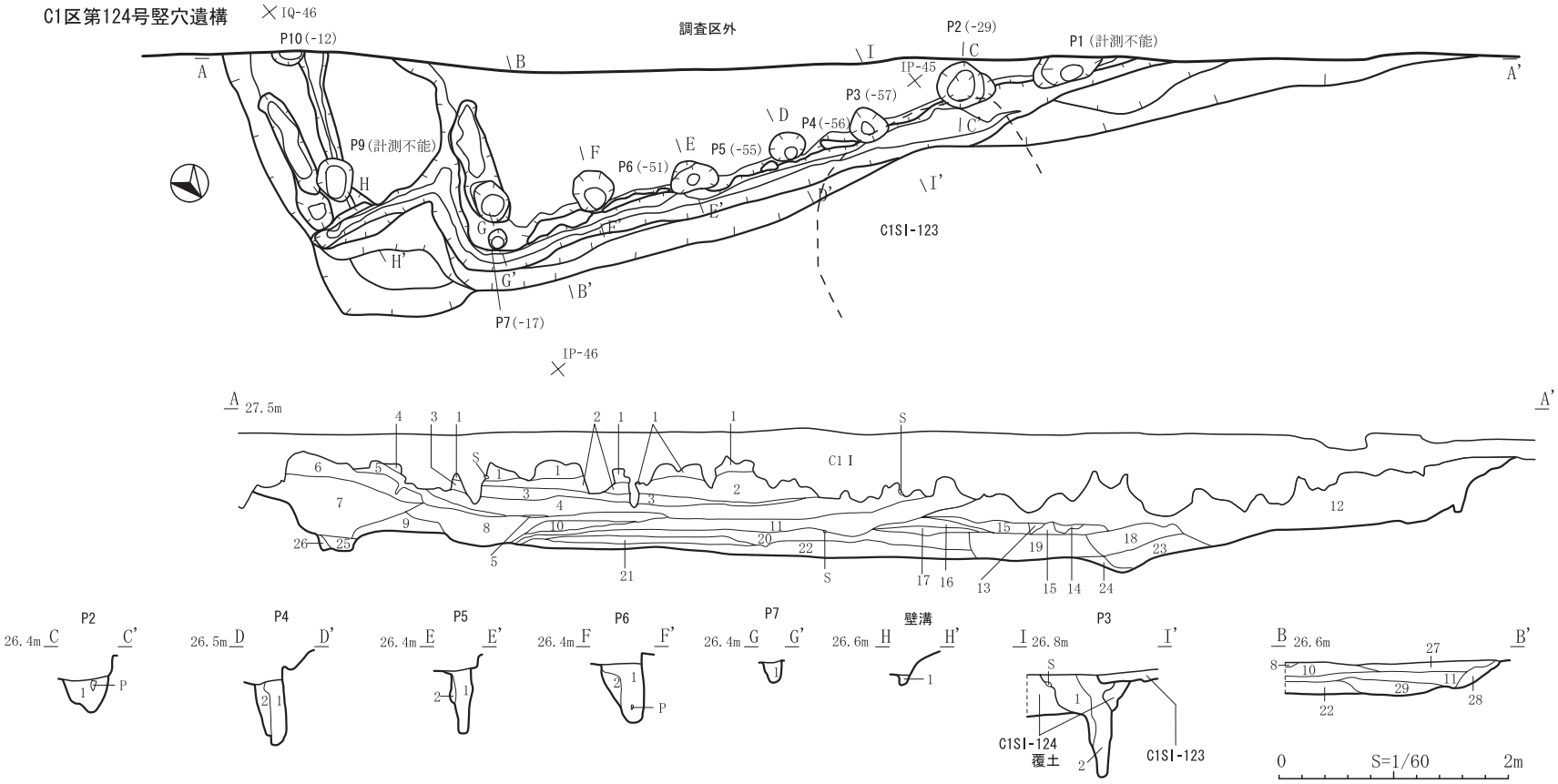


図100　C1区竪穴遺構（7）

C1区第124号竪穴遺構　P2　C-C′

1層　10YR3/4　暗褐色土　10YR5/4にぶい黄褐色粘土がブロック状に混入、粘性強、しまり強、土器混入

C1区第124号竪穴遺構　P3　I-I′

1層　10YR4/4　褐色土　10YR6/4にぶい黄橙色粘土と10YR5/6黄褐色粘土が中～上層にブロック状(φ5～10cm)混入、粘性弱、しまり強
2層　10YR4/3　にぶい黄褐色土　10YR5/4にぶい黄褐色粘土ブロック状に下部に混入、粘性弱、しまり強

C1区第124号竪穴遺構　P4　D-D′

1層　10YR4/4　褐色土　粘性中、しまり強
2層　10YR4/3　にぶい黄褐色土　粘性中、しまり強

C1区第124号竪穴遺構　P5　E-E′

1層　10YR3/4　暗褐色粘土　粘性中、しまり強
2層　10YR4/4　褐色粘土　10YR3/3暗褐色粘土との混合土、粘性中、しまり強

C1区第124号竪穴遺構　P6　F-F′

1層　10YR4/3　にぶい黄褐色土　粘性中、しまり強
2層　10YR4/3　にぶい黄褐色土　10YR4/4褐色土との混合土、粘性中、しまり強

C1区第124号竪穴遺構　P7　G-G′

1層　10YR4/4　褐色土　粘性中、しまり強

C1区第124号竪穴遺構　壁溝2　H-H′

1層　10YR4/3　にぶい黄褐色土　粘性中、しまり強

C1区第124号竪穴遺構　A-A′B-B′

1層	10YR3/3	暗褐色土	炭化物（φ1～2mm）極微量、粘性中、しまり中
2層	10YR4/3	にぶい黄褐色土	炭化物（φ1～2mm）極微量、粘性中、しまりやや強
3層	10YR3/4	暗褐色土	10YR2/1黒色砂と上層で混合、炭化物（φ3～5mm）極微量、浮石（φ1～2mm）、焼土粒（φ1～2mm）極微量、粘性弱、しまり中
4層	10YR3/4	暗褐色土	10YR4/3にぶい黄褐色土との混合土、炭化物（φ1～2mm）、浮石（φ1～2mm）極微量、10YR2/1黒褐色砂が少量混入、粘性弱、しまり強
5層	10YR3/3	暗褐色土	10YR2/2黒褐色砂、10YR5/6褐色土が混入、炭化物（φ1～3mm）極微量、焼土粒（φ1～2mm）極微量、粘性弱、しまり中
6層	10YR3/4	暗褐色土	10YR2/3黒褐色土との混合土、焼土粒（φ1～3mm）、炭化物（φ1～2mm）極微量、粘性中、しまり中
7層	10YR3/4	暗褐色土	炭化物（φ1～2mm）極微量、小石（φ2cm）混入、10YR5/4にぶい黄褐色粘土がブロック状（φ1～3mm）に混入、粘性やや弱、しまりやや強
8層	10YR3/3	暗褐色土	10YR4/4暗褐色土との混合土、炭化物（φ1～2mm）極微量、、土器混入、粘性弱、しまり強
9層	10YR4/3	にぶい黄褐色土	10YR4/3にぶい黄褐色粘土と10YR4/4褐色粘土がブロック状に混入、粘性やや強、しまり強
10層	10YR4/4	褐色土	10YR5/4にぶい黄褐色粘土と10YR5/3にぶい黄褐色粘土がブロック状に少量混入、10YR3/1黒褐色砂が少量混入、炭化物（φ1～2mm）極微量、粘性やや強、しまり強
11層	10YR3/4	暗褐色土	10YR5/4にぶい黄褐色土との混合土、炭化物（φ1～3mm）微量、浮石（φ1～3mm）微量、粘性やや弱、しまり強
12層	10YR4/3	にぶい黄褐色土	10YR4/4褐色土との混合土、2.5YR6/4にぶい黄色粘土がブロック状（φ3～5mm）に微量混入、浮石（φ1～5mm）微量、、炭化物（φ1～2mm）極微量、焼土粒（φ1～3mm）極微量混入、粘性やや弱、しまり強
13層	10YR4/3	にぶい黄褐色土	7.5YR5/3黄褐色粘土がブロック状に混入、粘性弱、しまりやや強
14層	10YR3/4	暗褐色土	10YR4/4褐色土との混合土、粘性中、しまり強
15層	10YR4/4	褐色粘土	10YR5/3にぶい黄褐色粘土がブロック状に混入、炭化物（φ1～2mm）極微量、粘性強、しまり強
16層	10YR3/4	暗褐色土	炭化物（φ1～2mm）極微量、粘性中、しまりやや弱
17層	10YR3/4	暗褐色土	10YR4/4褐色粘土との混合土、炭化物（φ1～2mm）極微量、粘性中、しまりやや強
18層	10YR3/4	暗褐色土	10YR5/4にぶい黄褐色粘土がブロック状（φ10～20mm）に全体（10%程度）に混入、粘性強、しまり中
19層	10YR3/3	暗褐色土	10YR6/4にぶい黄橙色粘土と10YR5/4にぶい黄褐色粘土との混合土、粘性やや強、しまりやや強
20層	10YR4/4	褐色土	10YR3/4暗褐色土との混合土、上層に10YR3/2黒褐色土が混入、粘性強、しまり強
21層	10YR3/4	暗褐色土	10YR3/3暗褐色土と10YR4/6褐色粘土との混合土、炭化物（φ1～2mm）極微量、粘性強、しまり強
22層	10YR3/3	暗褐色土	10YR5/4にぶい黄褐色粘土との混合土、10YR4/6褐色粘土がブロック状に混入、炭化物（φ1～2mm）極微量、粘性やや弱、しまり強
23層	10YR4/4	褐色土	10YR5/4にぶい黄褐色粘土がブロック状（φ10～15mm）全体的に少量混入、粘性中、しまり中
24層	10YR3/3	暗褐色土	小礫（φ1～2cm）混入、粘性弱、しまり中
25層	10YR4/4	褐色土	2.5YR5/3黄褐色粘土と10YR6/6明黄褐色粘土との混合土、下層に10YR3/3暗褐色土が混入、粘性やや強、しまり強
26層	2.5Y6/6	明黄褐色土	浅黄橙色粘土極微量、粘性弱、しまり強
27層	10YR4/3	にぶい黄褐色土	炭化物（φ1～2mm）極微量、粘性弱、しまり強
28層	10YR4/3	にぶい黄褐色土	粘性弱、しまり強
29層	10YR4/4	褐色土	10YR4/3にぶい黄褐色土との混合土、10YR5/3にぶい黄褐色粘土がブロック状に混入、炭化物（φ1～2mm）極微量、粘性弱、しまり強

達していない。カマドの火床面付近には黒色土の薄層が確認できる。

【カマド】東壁のやや北よりで確認された。軸方位はＮ－70°－Ｗである。上部が削平されているため、遺存状態は不良であったが、火床面直上と煙道部中ほどに倒立させた土師器甕が２点出土している。煙道の構造は半地下式と考えられるが、判然としない。

【壁溝】なし。

【柱穴】２基のピットが検出されている。Ｐ１は上端の直径16㎝、深さ12㎝で、Ｐ２は、上端の直径30㎝、深さ18㎝である。

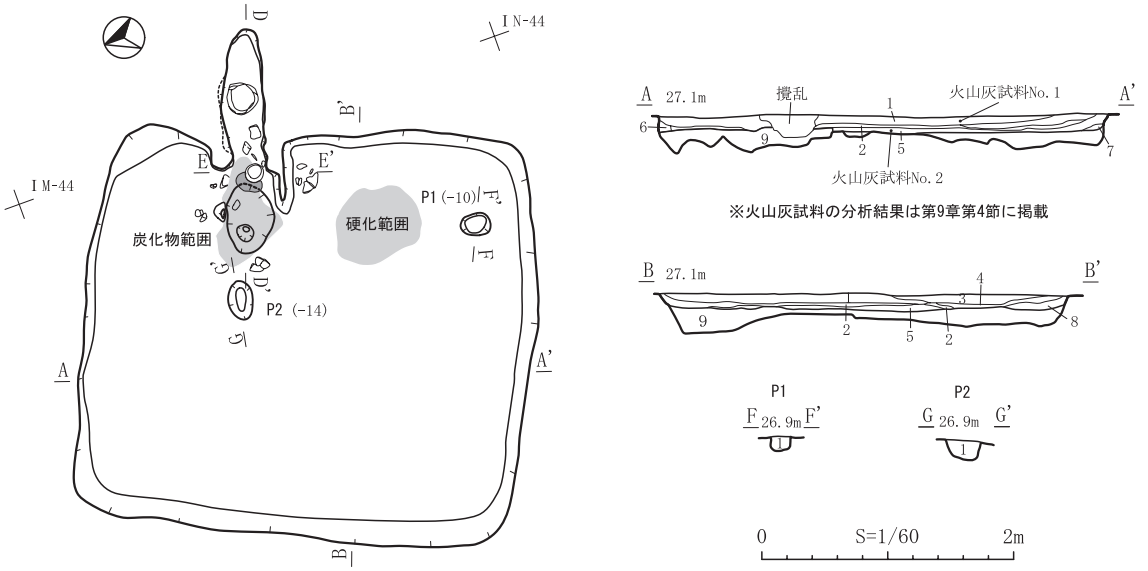
【その他の施設】カマドの火床面の下位に土壌化した炭化物を多量に含む小ピットが検出されている。

【堆積土】基本層序第C1Ⅱ層に由来する砂質土が堆積する。堆積土は火山灰質であるが、時期指標となる降下テフラは確認されなかった（第９章第４節）。

【出土遺物】堆積土中および、床面から土師器坏（図116－１～７）・甕（図116－８～13，図117－１～６）・把手付土器（図117－７）、須恵器坏（図117－８）が出土している。カマド周辺で土師器甕の破片が多量に出土し、堆積土中では、被熱した粘土塊が北側に集中して出土した。胴部と口縁部の間に段を有する坏（図116－１～５）が床面近くから出土している。いずれも、口唇部付近の内外面に横方向の顕著なミガキ調整が施され、胴部には、比較的幅広の単位でケズリが加えられている。これらは、全て内面黒色処理が特徴としてみられ、８世紀代に遡るものと考えられる。また、堆積土中より、ロクロ成形で内面に横方向のミガキと黒色処理を施したもの（図116－７）、外面には粘土紐の接合部を残しながら、手捏ねで成形し口縁部をヨコナデによって整えただけの粗雑なもの（図116－６）等が出土している。カマド周辺、カマド堆積土５層から採取した土壌サンプル（50g、98g）より、アカザ属、タデ科等を含む植物遺体が検出された（第９章第17節）。

【小結】本遺構に明確に伴う資料は小型甕（図116－８）と長胴甕（図116－９）になるが、胴部には縦方向の顕著なケズリ調整がみられ、９世紀後半以降の特徴として捉えられる。また、堆積土から出土した把手付土器が10世紀中葉以降であることを考慮に入れれば本遺構の下限年代もこれと同一ない

C1区第125号竪穴住居跡



C1区第125号竪穴住居跡　A-A′ B-B′

1層	10YR4/4	褐色砂質土	炭化物粒（φ2～3mm）微量、白色浮石粒（φ5mm程度）微量含む、粘性弱、しまり中
2層	10YR3/4	暗褐色砂質土	炭化物粒（φ2～3mm）微量、粘性弱、しまり中
3層	10YR3/4	暗褐色砂質土	黒色土ブロック（φ15～30mm程度）層の下部に中量含む、粘性弱、しまり中
4層	10YR4/4	褐色砂質土	粘性弱、しまり中
5層	10YR3/4	暗褐色砂質土	炭化物粒（φ2～5mm程度）微量、粘性弱、しまり強
6層	10YR4/4	褐色砂質土	黒色土粒（φ2mm程度）微量、粘性弱、しまり中
7層	10YR3/4	暗褐色砂質土	酸化鉄粒（φ2mm程度）微量、粘性弱、しまり中
8層	10YR3/4	暗褐色土	白色粘土粒（φ10mm程度）微量、炭化物粒（φ5～10mm）少量含む、粘性中、しまり強
9層	10YR4/4	褐色砂質土	炭化物（φ3～20mm程度）少量、焼土粒（φ5mm程度）微量、粘性弱、しまり中

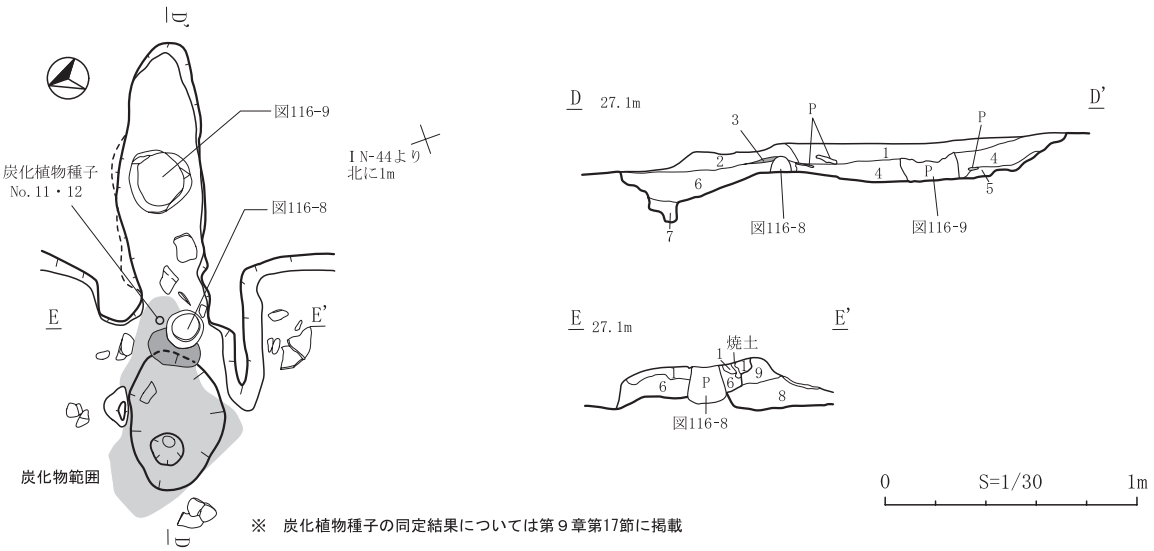
C1区第125号竪穴住居跡　P1　F-F′

1層	10YR6/4	にぶい黄橙色土	炭化物（φ1～3mm）極微量、粘性中、しまり中

C1区第125号竪穴住居跡　P2　G-G′

1層	10YR5/4	にぶい黄褐色土	炭化物（φ1～3mm）極微量、粘性中、しまり中

C1区第125号竪穴住居跡カマド



※　炭化植物種子の同定結果については第９章第17節に掲載

C1区第125号竪穴住居跡カマド　A-A′ B-B′

1層	10YR7/4	にぶい黄橙色土	炭化物（φ1～3mm）極微量、粘性なし、しまり強
2層	10YR6/4	にぶい黄橙色土	炭化物（φ1～10mm）5%、焼土（φ1～10mm）極微量、粘性なし、しまり強
3層	2.5YR5/8	明赤褐色土	粘性弱、しまり強
4層	10YR6/3	にぶい黄橙色土	炭化物（φ1～3mm）極微量
5層	10YR4/6	褐色土	粘性なし、しまり強
6層	10YR1.7/1	黒色土	焼土（φ1～5mm）3%混入、（炭化物層）
7層	10YR4/2	灰黄褐色土	炭化物（φ1～3mm）極微量、粘性中、しまり強
8層	10YR6/3	にぶい黄橙色土	粘性弱、しまり強
9層	10YR6/2	にぶい黄橙色土	粘性中、しまり強

図101　C1区竪穴住居跡（13）

し、これ以降に降るものとみられる。尚、カマド５層から出土した甕（図116－８）に付着した炭化物の炭素年代測定値は910±30yrBP（IAAA-80674）である（第９章第３節）。

（斉藤）

第126号竪穴住居跡（C1ＳⅠ－126）（図102・117・118）

【位置・確認】ＩＭ－44グリッド他に位置する。基本層序第C1Ⅰ層直下、第C1Ⅱ層上面で検出した。

【重複】第130・131・132号竪穴住居跡と重複する。本遺構はこれらよりも新しい。

【平面形・規模】東西壁の長さ2.7m、南北壁の長さ2.8mを測り、平面形は隅丸正方形を呈する。検出面から床面までの深さは21㎝、床面積は約6.4㎡を測る。

【壁・床面】壁は床面からなだらかに立ち上がる。床面の直上、カマド周辺には、灰と炭化物の薄層がみられる。

【カマド】西壁の北寄りで検出された。軸方位はＮ－65°－Ｗである。袖は火床に近接する範囲が被熱によって硬化しており、遺存状態は不良である。火床面周辺には、礫が散在しており、土師器甕の破片が多く出土した。煙道の構造は半地下式である。

【壁溝】なし。

【柱穴】３基が検出されているが、いずれも、掘り込みが浅く、主柱穴は判然としない。

【その他の施設】カマドの前面に土壌化した炭化物を多く含む小ピットが検出されている。ピット上端の直径は27㎝で、深さは15㎝である。

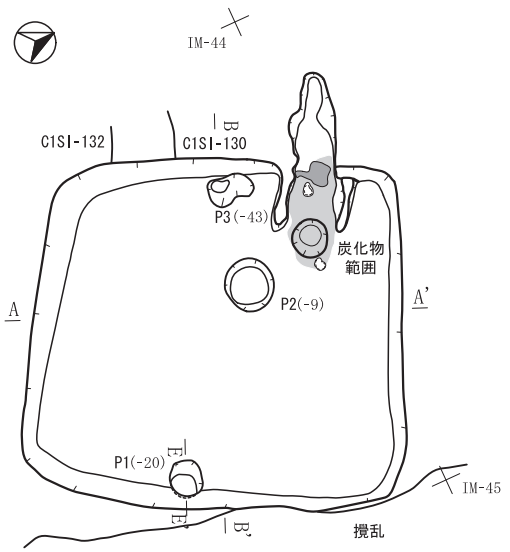
【堆積土】南北壁際の初期堆積土（７・８層）を除き、大半は、焼土と炭化物を多量に含む人為的な廃棄層によって構成される。堆積土上部に確認された焼土ブロックからは、個体復元可能な土師器甕がまとまって出土している。火山灰質であるが、年代指標となる降下テフラの一次堆積物は含まれていない（第９章第４節）。

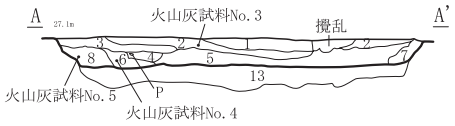
【出土遺物】土師器坏（図117－９～14）・甕（図118－１～10）、須恵器坏（図118－11）、砥石（図118－12）が出土している。土師器坏には内外面のミガキ調整が顕著で段を有するもの（図117－9,13）、輪積み痕を外面に残し、口縁部をヨコナデによって整えているもの（図117－10,11,12）、ロクロ成形後に回転糸切りによって外されたもの（図117－14）の３種が含まれる。甕には、口縁部をヨコナデによる整形を施した後に、胴部に縦方向のケズリないしはヘラナデを加えているものが大半を占める。頸部の屈曲が顕著で薄手のもの（図118－３,５）と屈曲が弱く、厚手のもの（図118－６・７）の二種がみられ、底部圧痕には網代圧痕（図118－８,９）と木葉痕（図118－10）がある。図118－７については、本遺構１・２層出土破片が第122号竪穴住居跡床面出土の細片１点と接合している。また、カマド周辺、カマド堆積土４層で採取した土壌サンプル（259g、74g）より、アカザ属、ヒエを含む植物遺体が検出されている（第９章第17節）。

【小結】カマドの軸方位、遺構の重複関係から、C1区の古代の住居跡の中でも、最も新しい段階に位置づけられる。帰属年代については、出土遺物、遺構の形状から平安時代（10世紀後半～11世紀末）と考えられる。尚、堆積土１層より出土した炭化物の炭素年代測定値は1110±30yrBP（IAAA-71832）である（第９章第３節）。

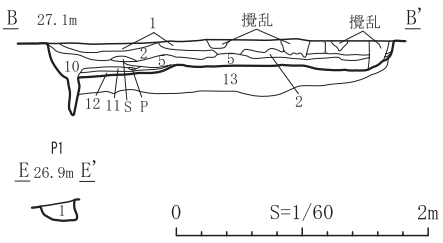
（斉藤）

C1区第126号竪穴住居跡





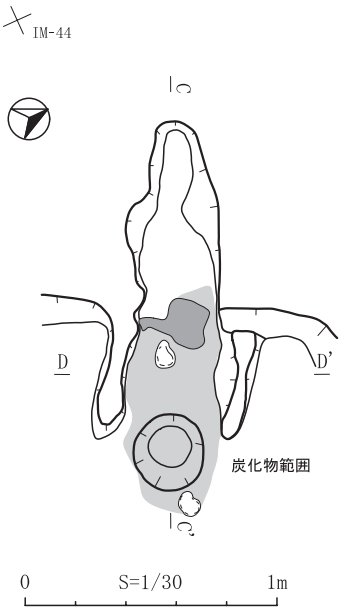
※火山灰試料の分析結果は第9章第4節に掲載

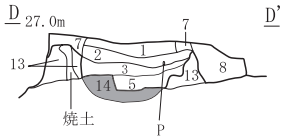


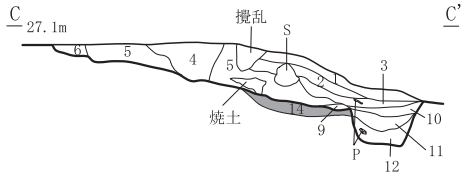
C1区第126号竪穴住居跡　A-A′ B-B′

1層	10YR3/3	暗褐色土	10YR4/3にぶい黄褐色土との混合土、10R4/4褐色中塊（φ0.5～1cm）中量、10YR3/4黒褐色小塊（φ0.3～1cm）少量、炭化物（φ0.2～0.5cm）少量、7.5YR4/6褐色小塊（φ0.2～0.3cm）微量、粘性弱、しまり強
2層	10YR4/4	褐色土	10YR5/4にぶい黄褐色大塊（φ0.5～6cm）中量、10YR4/1褐灰色小塊（φ0.3～1cm）小量、7.5YR5/6明褐色小塊（φ0.3～0.5cm）少量、粘性弱、しまり強
3層	10YR4/3	にぶい黄褐色土	10YR4/2灰黄褐色板状薄層（厚さ1～10mm）、10YR4/2灰黄褐色小塊（φ0.2～0.7cm）中量、10YR6/6明黄褐色小塊（φ0.1～0.5cm）小量、炭化物（φ0.2～1.0cm）少量、7.5YR6/6橙色小塊（0.2～1.0cm）微量、5YR3/6暗赤褐色小塊（φ0.1～0.2cm）極微量、浮石（φ0.2～0.3cm）極微量、粘性強、しまり弱
4層	10YR4/4	褐色土	10YR4/3にぶい黄褐色土との混合土、炭化物（φ0.1～1.5cm）中量、10YR2/1黒色小塊（φ0.2～0.8cm）中量（焼土粒）、7.5YR5/6明褐色中塊（φ0.2～1.0cm）少量、10YR6/4にぶい黄橙色小塊（φ0.2～0.3cm）極微量、粘性弱、しまり強
5層	10YR4/4	褐色土	10YR4/3にぶい黄褐色土との混合土、10YR5/4にぶい黄褐色中塊（φ0.5～2cm）中量、10YR4/2灰黄褐色中塊（φ0.5～1.5cm）中量、炭化物（φ3～15mm）少量、浮石（φ0.3～2cm）小量、10YR3/2黒褐色小塊少量、5YR4/8赤褐色小塊（φ0.2～0.5cm）微量、粘性弱、しまり強
6層	10YR4/3	にぶい黄褐色土	10YR4/4褐色土との混合層、10YR2/1黒色小粒（焼土粒）微量、浮石（φ2～3mm）極微量、粘性弱、しまり強
7層	10YR4/3	にぶい黄褐色土	10YR5/4にぶい黄褐色中塊（φ0.5～1.5cm）中量、5YR4/6赤褐色小塊（φ0.2～0.3cm）微量、10YR4/1褐灰色小塊（φ0.1～0.2cm）微量、粘性弱、しまり強
8層	10YR4/3	にぶい黄褐色土	10YR5/4にぶい黄褐色小塊（φ0.2～0.5cm）中量、10YR5/3にぶい黄褐色小塊（φ0.1～0.3cm）少量、10YR4/1褐灰色小塊（φ0.1～0.2cm）微量、浮石（φ2.5cm）含む、炭化物（φ2～5mm）微量、7.5YR5/8明褐色小塊（φ0.2～0.3cm）極微量、粘性弱、しまり強
9層	10YR4/3	にぶい黄褐色土	10YR5/4にぶい黄褐色中塊（φ0.5～2cm）中量、10YR4/4褐色小塊（φ0.2～0.5cm）少量、10YR3/2黒褐色小塊（φ0.3～0.5cm）微量、10YR6/4にぶい黄橙色小塊（φ0.2～0.5cm）微量、7.5YR5/6明褐色小塊（φ0.1～0.2cm）極微量、粘性弱、しまり強
10層	10YR4/3	にぶい黄褐色土	10YR4/4褐色土との混合土、10YR5/4にぶい黄褐色中塊（φ0.5～2cm）中量、10YR6/4にぶい黄橙色中塊（φ1～2cm）少量、10YR3/1黒褐色小粒（φ0.2～0.5cm）少量（焼土粒）、炭化物（φ1.3cm）を含む、7.5YR7/6橙色小塊極微量、粘性弱、しまり強
11層	10YR3/1	黒褐色土	10YR4/3にぶい黄褐色土と10YR2/1黒色土との混合土、10YR4/4褐色小塊（φ0.3～0.5cm）小量、7.5YR5/6明褐色小塊（φ0.3～0.5cm）少量、粘性弱、しまり強
12層	10YR4/3	にぶい黄褐色土	10YR4/4褐色土との混合層、10YR3/1黒褐色中塊（φ0.5～2cm）少量、10YR8/2灰白色浮石（φ1cm）含む、炭化物（φ0.5～2cm）微量
13層	10YR4/4	褐色土	10YR3/3暗褐色土との混合土、炭化物（φ0.2～0.3cm）少量、7.5YR5/8明褐色小塊微量

C1区第126号竪穴住居跡カマド







C1区第126号竪穴住居跡カマド　C-C′ D-D′

1層	10YR4/3	にぶい黄褐色土	10YR4/4褐色土との混合土、10YR6/3にぶい黄橙色中塊（φ3～5cm）中量、10YR2/1黒色小粒（φ0.2～0.3cm）少量、5YR6/8橙色小塊（φ0.1～0.3cm）微量、浮石10YR7/2にぶい黄橙色（φ0.2～0.3cm）極微量、粘性弱、しまり強
2層	10YR3/3	暗褐色土	10YR4/4褐色小塊（φ0.5～0.7cm）多量、10YR4/3にぶい黄褐色小塊（φ0.2～0.5cm）中量、10YR3/2黒褐色小塊（φ0.5～0.7cm）少量、10YR2/1黒色中塊（φ2cm程度）を含む、7.5YR3/4褐色小粒（φ0.3～0.5cm）微量、粘性弱、しまり強
3層	10YR6/4	にぶい黄橙色土	焼土（φ1～5mm）極微量、粘性弱、しまり強
4層	10YR1.7/1	黒色土	炭化物混入（焼土ブロック2.5YR5/8明赤褐色土混入）、粘性弱、しまり強
5層	10YR4/3	にぶい黄褐色土	10YR2/2黒褐色土との混合土、10YR6/6明黄褐色中塊（φ2～3cm）中量、10YR4/2灰白色中塊（φ1～1.5cm）少量、5YR3/4暗赤褐色小塊（φ0.2～0.3cm）微量、粘性中、しまり強
6層	10YR4/4	褐色土	10YR2/2黒褐色小粒少量、浮石10YR7/3にぶい黄橙色（φ1～3mm）微量、7.5YR5/6明褐色小塊（φ0.1～0.2mm）極微量、粘性弱、しまり強
7層	10YR5/4	にぶい黄褐色土	10YR4/4褐色土との混合土、5YR6/6橙色大塊（φ1～3cm）中量（焼土）、10YR6/4にぶい黄橙色小塊（φ0.4～1cm）少量、浮石10YR8/2灰白色（φ1mm程度）極微量、粘性中、しまり強
8層	10YR5/2	灰黄褐色土	炭化物（φ1～3mm）5%混入、粘性弱、しまり中
9層	2.5Y6/4	にぶい黄色土	粘土ブロック（φ10cm）混入、粘性弱、しまり強
10層	10YR4/2	灰黄褐色土	焼土（φ1～15mm）極微量、炭化物（φ1～3mm）極微量、粘性弱、しまり強
11層	10YR3/1	黒褐色土	焼土（φ1～5mm）極微量、炭化物（1～3mm）極微量、粘性弱、しまり中
12層	2.5Y4/2	暗灰黄色土	炭化物（φ1～3mm）極微量、粘性弱、しまり中
13層	10YR6/2	にぶい黄橙色土	炭化物（φ1～3mm）極微量、粘性弱、しまり強
14層	2.5YR6/6	明黄褐色土	炭化物（φ1～3mm）、粘性弱、しまり強

図102　C1区竪穴住居跡（14）

第127号竪穴遺構（C1ＳⅠ－127）（図103・119）

【位置・確認】ＩＫ－43グリッド他に位置する。基本層序第C1Ⅰ層直下、第C1Ⅱ層中で検出した。

【重複】第128号竪穴住居跡と重複する。明確な新旧関係は不明である。また、第153号土坑と重複しており、本遺構が新しい。

【平面形・規模】コーナーと思われる掘り込みと柱穴と考えられるピットのみの検出のため全体形状等は不明である。

【壁・床面】極一部の掘方のみのため、壁・床面ともに不明である。

【カマド】検出されていない。

【壁溝】検出されていない。

【柱穴】柱穴と思われるピットは５基認められる。径22～39㎝、深さは14～31㎝を測る。

【その他の施設】検出されなかった。

【堆積土】不明である。

【出土遺物】ピット堆積土中及び検出面から土師器、須恵器、焼成粘土塊、金属製品が出土している。土師器甕(図119－１)は、口縁部をヨコナデ、胴部にヘラナデ調整を加えて仕上げている。須恵器坏底部の小片(図119－２)には回転ヘラ切り痕がみられる。

【小結】詳細については不明であるが、出土遺物から、平安時代の竪穴住居跡の可能性が高い。

（笹森）

第128号竪穴住居跡（C1ＳⅠ－128）（図103・119）

【位置・確認】ＩＪ－44グリッド他に位置する。基本層序第C1Ⅰ層直下、第C1Ⅱ層中で検出した。

【重複】第127号竪穴遺構・第152号土坑・第101号焼土遺構と重複する。明確な新旧関係は不明である。

【平面形・規模】上面はかなり削平を受けており、全体形状等は不明である。

【壁・床面】東壁の一部が検出されているが、掘方下部ため、壁・床面ともに不明である。

【カマド】東壁部分の内側にカマドに付随していたと思われる擂り鉢状の落ち込みが１基検出された。平面形は不整な円形を呈し、径50～52㎝、深さは最大23㎝を測る。

【壁溝】検出されなかった。

【柱穴】ピットは４基認められたが、本遺構に伴うものかは不明である。径10～25㎝、深さ10～29㎝を測る。

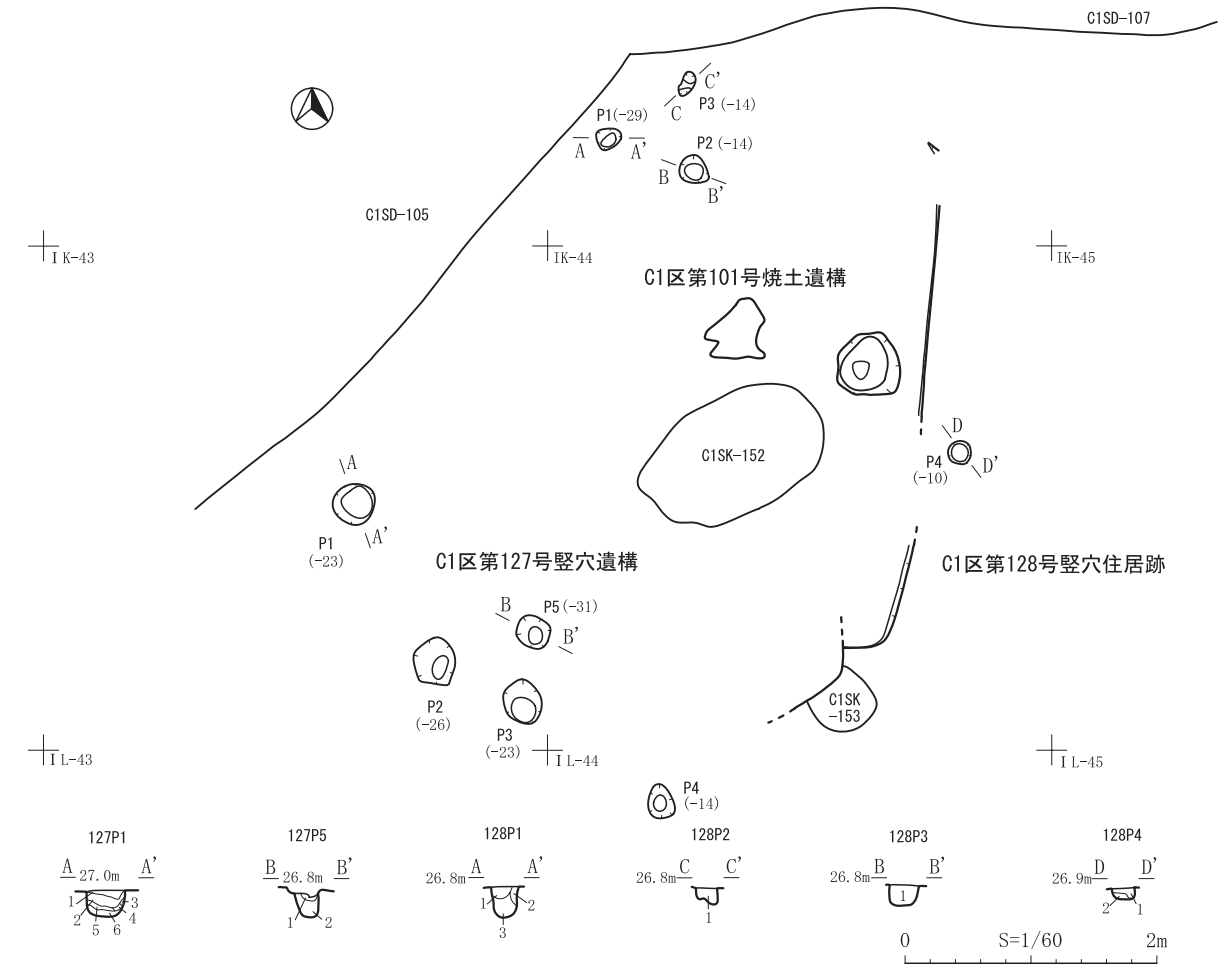
【その他の施設】検出されなかった。

【堆積土】不明である。

【出土遺物】検出面から土師器、須恵器が出土している。土師器坏はいずれも、ロクロ成形によるもので、底部には回転糸切り痕がみられる。図119－３は内面に顕著なミガキ調整がみられ、黒色処理が施されている。また、カマド周辺で採取した土壌サンプル（184g）より、イネを主体とする植物遺体が検出されている（第９章第17節）。

【小結】形状や出土遺物から、平安時代の竪穴住居跡と考えられる。

（笹森）



C1区第127号焼土住居跡　P1

1層	10YR4/3	にぶい黄褐色土　10YR4/4褐色土との混合土、10YR5/3にぶい黄褐色中塊（φ1～1.5cm）中量、10YR5/6明褐色小塊（φ0.2～0.5cm）微量、10YR4/2灰黄褐色小塊（φ0.2～0.3cm）微量、粘性弱、しまり弱
2層	10YR4/3	にぶい黄褐色土　10YR4/4褐色土との混合土、10YR4/2灰黄褐色小塊（φ0.3～1.0cm）少量、10YR4/6褐色中塊（1.0～1.5cm）微量、粘性弱、しまり弱
3層	10YR4/4	褐色土　10YR4/6褐色小塊（φ0.7～1.0cm）少量、炭化物（φ2mm程度）微量、粘性弱、しまり弱
4層	10YR4/4	褐色土　10YR5/4にぶい黄褐色小粒（φ0.3～0.7cm）多量、10YR4/6褐色小塊（φ0.7～1.0cm）少量、粘性弱、しまり弱
5層	10YR4/4	褐色土　10YR5/6明褐色土との混合土、10YR4/6褐色小塊（φ0.5～0.7cm）少量、粘性弱、しまり弱
6層	10YR4/4	褐色土　10YR5/6明褐色土との混合土、2.5Y7/4浅黄色小塊（φ0.2～0.5cm）少量、炭化物（φ2～5mm）微量、粘性弱、しまり中

C1区第127号焼土住居跡　P5

1層	10YR4/2	灰黄褐色土　10YR5/4にぶい黄褐色土との混合土、10YR6/4にぶい黄橙色小塊（φ0.5～0.7cm）少量、粘性中、しまり弱
2層	10YR5/3	にぶい黄褐色土　10YR3/3褐色土との混合土、10YR6/3にぶい黄橙色小塊（φ0.2～0.5cm）少量、10YR3/1黒褐色小塊（φ0.3～0.7cm）少量、粘性中、しまり中

C1区第128号焼土住居跡　P1

1層	10YR5/4	にぶい黄褐色土　浅黄橙色粘土微量、粘性中、しまり強
2層	10YR4/2	灰黄褐色土　粘性中、しまり強
3層	10YR4/3	にぶい黄褐色粘土　粘性中、しまり強

C1区第128号焼土住居跡　P2

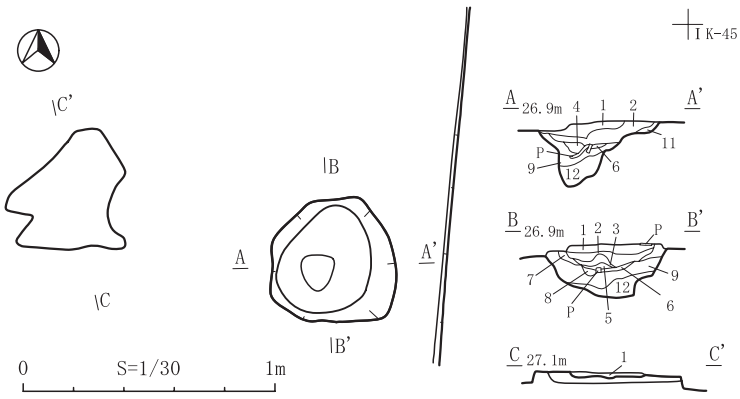
1層	10YR5/4	にぶい黄褐色土　黒色土微量混入、粘性中、しまり強

C1区第128号焼土住居跡　P3

1層	10YR5/4	にぶい黄褐色土　炭化物(φ1～3mm)微量混入、粘性弱、しまり強

C1区第128号焼土住居跡　P4

1層	10YR6/4	にぶい黄橙色土　炭化物(φ1～3mm)微量、粘性弱、しまり強
2層	10YR5/4	にぶい黄褐色土　粘性弱、しまり強



C1区第128号竪穴住居跡カマド

1層	10YR4/3	にぶい黄褐色土　10YR3/3暗褐色土との混合土、焼土5YR5/6明赤褐色中塊（φ1～1.5cm）少量、10YR4/4褐色小塊（φ0.2～0.3cm）少量、炭化物（φ2～3mm）微量、粘性弱、しまり強
2層	10YR4/4	褐色土　10YR2/2黒褐色小粒(焼土粒)（φ5～10mm）中量、10YR4/3にぶい黄褐色小塊（φ0.3～0.5mm）少量、5YR4/8赤褐色小塊（φ0.2～0.3mm）微量、粘性弱、しまり強
3層	10YR4/4	褐色土　10YR3/4暗褐色小塊（φ0.3～0.5cm）少量、7.5YR5/8明褐色小塊（φ0.1～0.3cm）微量、粘性弱、しまり強
4層	10YR4/4	褐色土　7.5YR4/6褐色大塊（φ2～5cm）多量、粘性弱、しまり強
5層	10YR3/2	黒褐色土　10YR3/3暗褐色土との混合土、5YR5/8明赤褐色中塊(焼土)（φ0.2～2cm）多量、粘性弱、しまり強
6層	10YR4/3	褐色土　10YR2/1黒色小塊（φ0.3～0.7cm）少量、7.5YR4/6褐色小塊(焼土)（φ0.5～1cm）少量、7.5YR8/2灰白色小塊（φ0.3～0.5cm）少量、粘性弱、しまり強
7層	10YR4/3	にぶい黄褐色土　5YR5/8明赤褐色中塊(焼土)（φ0.3～1.5cm）中量、10YR3/1黒褐色小粒（φ0.2～0.5cm）少量、浮石10YR8/1灰白色（φ0.1cm以下）極微量、粘性弱、しまり強
8層	10YR4/2	灰黄褐色土　10YR8/1灰白色中粒（φ0.5～1.5mm）少量、10YR2/1黒褐色小粒（φ0.2～0.5mm）少量、粘性弱、しまり強
9層	10YR4/4	褐色土　10YR3/4暗褐色土との混合土、10YR2/1黒色中粒（φ0.3～1cm）中量、10YR5/3にぶい黄褐色中塊（φ1～2cm）少量、10YR2/2黒褐色大塊（φ3cm）を含む、粘性弱、しまり強
10層	10YR4/4	褐色土　10YR3/1黒褐色中粒（φ0.5～1.0cm）中量、10YR4/2灰黄褐色小粒（φ0.2～0.3cm）少量、10YR5/4にぶい黄褐色小塊（φ0.2～0.3cm）微量、5YR4/6赤褐色小塊(焼土)（φ0.2～0.3cm）微量粘性弱、しまり強
11層	10YR4/4	褐色土　10YR3/2黒褐色中粒（φ0.5～1.0cm）少量、粘性弱、しまり強
12層	10YR2/1	黒色土　10YR5/4にぶい黄褐色土との混合土、10YR5/6黄褐色中塊（φ0.5～1.0cm）少量、5YR6/8橙色小塊（φ0.2～0.3cm）微量、粘性弱、しまり強

C1区第101号焼土遺構

1層	10YR3/3	暗褐色土　10YR3/2黒褐色中魂（φ0.5～1cm）多量、5YR6/8橙色中魂（φ0.3～1cm）中量、2.5YR5/8明晰褐色小魂（φ0.2～0.5cm）少量焼土10YR5/3にぶい黄褐色小魂（φ0.2～0.5cm）微量、粘性弱しまり強

図103　C1区竪穴住居跡（15）・竪穴遺構（８）・焼土遺構

第129号竪穴住居跡（C1ＳＩ－129）（図104・119）

【位置・確認】ＩＪ・ＩＫ－44・45グリッドに位置する。基本層序第C1Ⅰ層直下、第C1Ⅱ層中で検出した。

【重複】第105号竪穴住居跡と重複する。明確な新旧関係は不明である。

【平面形・規模】上面はかなり削平を受けているため、全体形状等は不明である。カマドの位置と確認できる壁の長さから推定すると、１辺が５m程の方形を呈するものと思われる。

【壁・床面】掘り方のみの検出のため、壁や床面についても不明である。

【カマド】西壁の中央と思われる位置に１基検出された。上面はほとんど削平されている。煙道部は半地下式と思われる。明確な火床面は検出されなかった。前面には灰溜まりピットと思われる落ち込みが検出されている。径50～52㎝、深さは23㎝を測る。

【壁溝】検出されなかった。

【柱穴】ピットは壁より内側に７基認められる。径16～55㎝、深さ５～27㎝を測る。

【その他の施設】床面から土坑が２基検出されている。土坑１は隅丸の方形、土坑２はほぼ円形を呈している。

【堆積土】掘方は３層に分層できた。人為堆積の様相を呈する。

【出土遺物】掘方堆積土中及び土坑内から土師器が出土している。カマド周辺で採取した土壌サンプル（506g）より、イネ、オオムギ、コムギ、ヒエ等が検出されている（第９章第17節）。

【小結】詳細については不明であるが、形状や出土遺物から、平安時代の竪穴住居跡と考えられる。

（笹森）

第130号竪穴住居跡（C1ＳＩ－130）（図106・119）

【位置・確認】ＩＬ－44グリッドに位置する。基本層序第C1Ⅰ層直下、第C1Ⅱ層直上で検出した。

【重複】第126号竪穴住居跡、第132号竪穴遺構と重複する。前者よりも古く、後者より新しい。

【平面形・規模】東西壁長3.7m、南北壁長3.9mを測る。東壁および南壁が重複ならびに撹乱によって未確認であるが、平面形は隅丸正方形を呈するものとみられる。推定床面積は約13㎡で、確認面からの床面までの深さは12㎝である。

【壁・床面】壁は床面からほぼ垂直に立ち上がる。床面は概ね平坦に構築されており、掘方は西側で深い。

【カマド】袖、火床面ともに検出されていない。東壁前面に炭化物が集中する箇所があり、本遺跡のカマド前面で特徴的にみられる小ピットが確認されている。周囲の堆積土中からは、被熱によって赤く変色した粘土塊が伴出していることから、付近にカマドが存在していた可能性が高い。

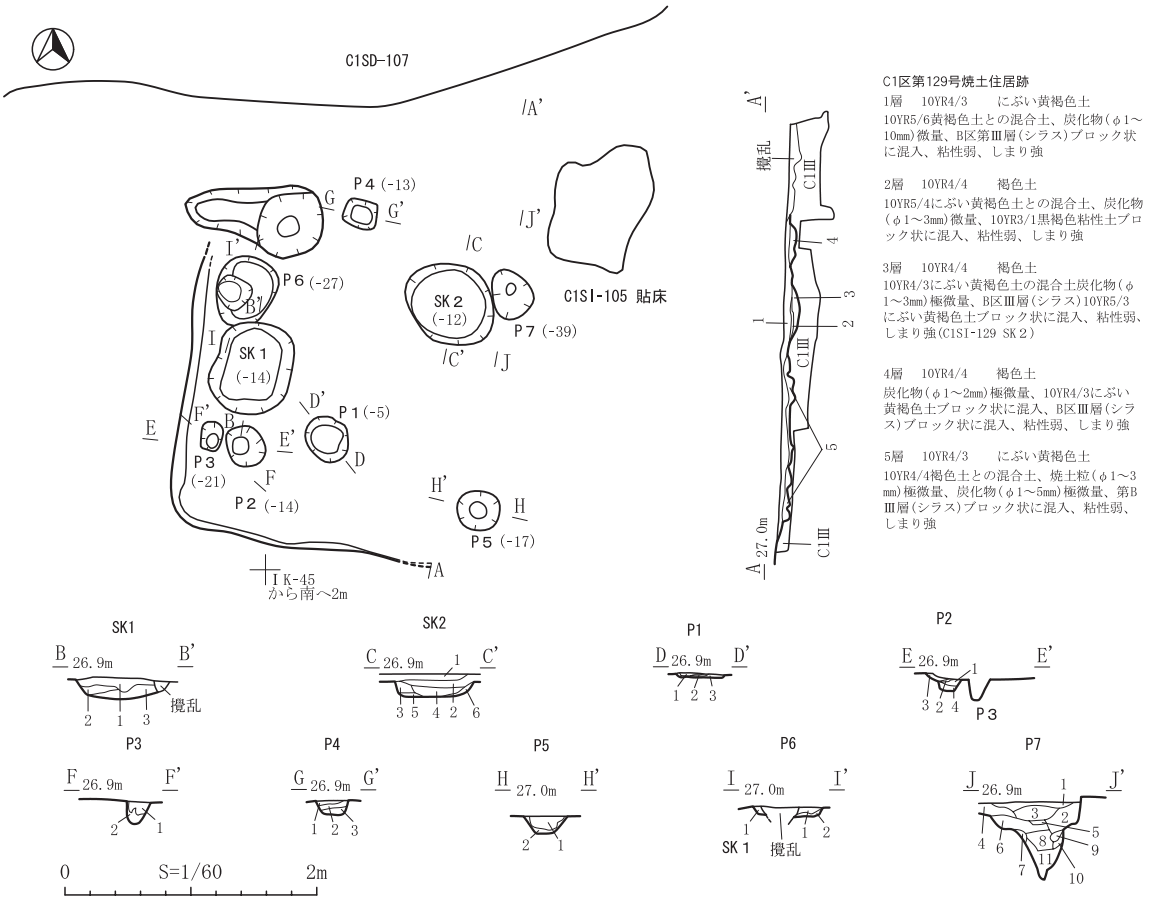
【壁溝】なし。

【柱穴】２基検出されている。Ｐ１は上端の直径が36㎝、床面からの深さは24㎝を測る。Ｐ２は上端の長軸60㎝、短軸48㎝、床面からの深さは24㎝を測る。柱穴配置は不規則で、主柱穴は判然としない。

【その他の施設】カマド前面で炭化物を堆積土に含んだ小ピットが検出されている。

【堆積土】火山灰質の黄褐色土層を主体とする。

【出土遺物】堆積土中及び床面から土師器、須恵器の細片、金属製品が出土している。遺物量はC1区に



C1区第129号焼土住居跡　SK1

1層	10YR4/2	灰黄褐色土	10YR4/3にぶい黄褐色小粒(φ0.3～0.7cm)中量、10YR5/4にぶい黄褐色小塊(φ0.2～0.5cm)少量、炭化物(φ0.3～0.5cm)微量、浮石10YR7/2にぶい黄橙色(φ0.3cm程度)極微量、粘性弱、しまり弱
2層	10YR4/2	灰黄褐色土	10YR4/3にぶい黄褐色中粒(φ1～1.5cm)中量、5YR5/6明赤褐色中塊(φ1.0～1.2cm)少量、粘性中、しまり弱
3層	10YR5/3	にぶい黄褐色土	10YR5/4にぶい黄褐色小塊(φ0.5～0.7cm)少量、10YR4/2灰黄褐色小塊(φ0.5～0.7cm)少量、粘性弱、しまり中

C1区第129号焼土住居跡　SK2

1層	10YR3/4	暗褐色土	10YR4/4褐色土との混合土、炭化物(φ1～2mm)微量、粘性弱、しまり強
2層	10YR4/4	褐色土	10YR5/6黄褐色土が(φ1cm)ブロック状に微量混入、粘性弱、しまり強
3層	10YR4/4	褐色土	10YR5/4にぶい黄褐色土が粒状(φ1～6mm)微量混入、炭化物(φ1mm)微量、粘性弱、しまり強
4層	10YR4/4	褐色土	10YR5/4にぶい黄褐色土が粒状(φ1～mm)微量混入、粘性やや弱、しまり強
5層	10YR4/4	褐色土	10YR5/4にぶい黄褐色土との混合土、粘性弱、しまりやや強
6層	10YR4/6	褐色土	10YR4/4褐色土との混合土、粘性中、しまり強

C1区第129号焼土住居跡　P1

1層	10YR4/4	褐色土	10YR4/5にぶい黄褐色土との混合土、炭化物少量混入、粘性弱、しまり強
2層	10YR2/1	黒色土	10YR4/4褐色土が微量混入、粘性弱、しまり強
3層	10YR4/4	褐色土	10YR4/6褐色土との混合土、炭化物微量混入、10YR5/1褐灰色土(φ3cm)が混入、粘性弱、しまり強

C1区第129号焼土住居跡　P2

1層	10YR4/4	褐色土	10YR5/4にぶい黄褐色土との混合土、炭化物(φ1mm)微量、粘性弱、しまり強
2層	10YR3/4	暗褐色土	粘性弱、しまり強
3層	10YR5/6	黄褐色土	10YR4/4褐色土との混合土、炭化物(φ1mm)微量、10YR3/4暗褐色土が粒状に(φ1～2mm)微量混入、粘性やや弱、しまり強
4層	10YR4/4	褐色土	10YR3/4暗褐色土が粒状に(φ2mm)微量混入、粘性中、しまりやや強

C1区第129号焼土住居跡　P3

1層	10YR2/1	黒色土	10YR5/4にぶい黄褐色土が少量混入、7.5YR5/8明褐色土が粒状に(φ1mm)微量混入、粘性弱、しまり強
2層	10YR4/4	褐色土	10YR3/1黒褐色土が粒状(φ1～2mm)微量混入、粘性弱、しまり強

C1区第129号焼土住居跡　P4

1層	10YR3/4	暗褐色土	10YR7/4にぶい黄橙色中塊(φ0.5～1.5cm)少量、10YR4/2灰黄褐色小塊(φ0.3～0.5cm)少量、炭化物(φ2～3mm)微量、粘性弱、しまり弱
2層	10YR4/3	にぶい黄褐色土	10YR4/4褐色土との混合土、粘性弱、しまり中
3層	10YR4/3	にぶい黄褐色土	浮石(φ2～3mm)10YR7/3にぶい黄橙色極微量、粘性中、しまり中

C1区第129号焼土住居跡　P5

1層	10YR3/4	暗褐色土	10YR4/4褐色土が粒状(φ1～2mm)微量混入、粘性弱、しまり強
2層	10YR5/6	黄褐色土	10YR3/4暗褐色土と10YR4/4褐色土との混合土、粘性中、しまり中

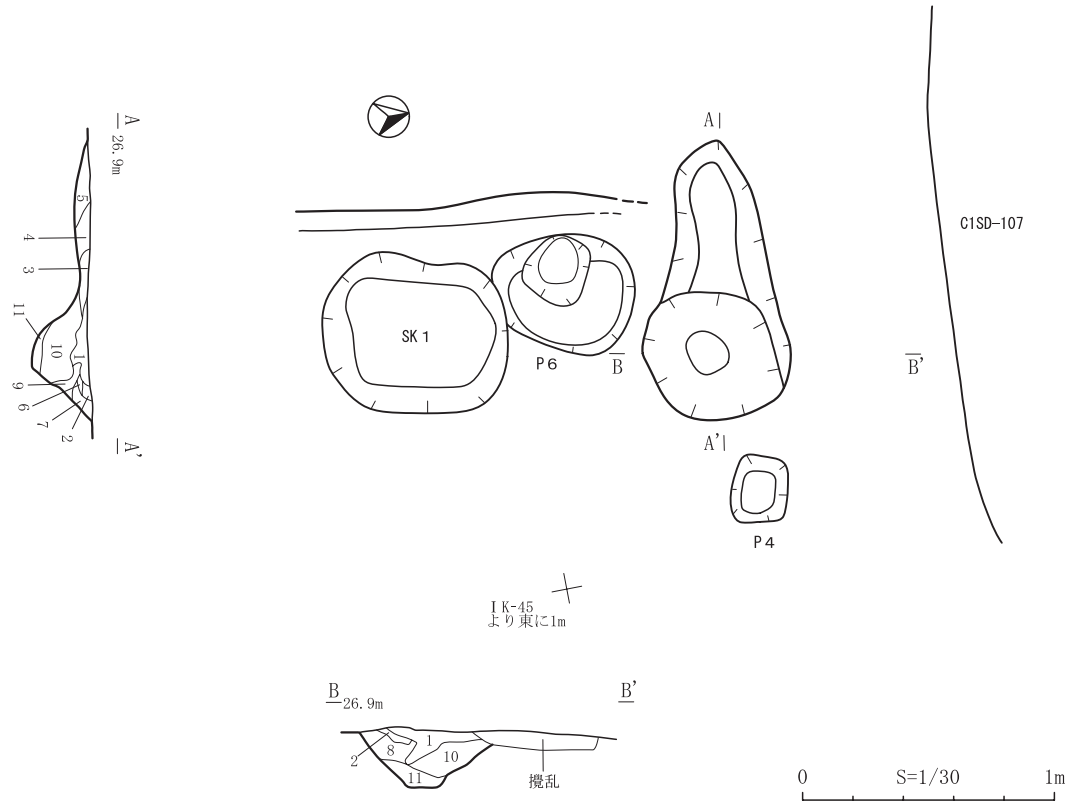
C1区第129号焼土住居跡　P6

撹乱層	10YR3/3	暗褐色土	10YR2/1黒色土が(φ5mm)粒状に微量混入、炭化物(φ1mm)微量、粘性弱、しまり強
1層	10YR4/6	褐色土	10YR3/4暗褐色土との混合土、炭化物(φ1～2mm)微量、粘性やや弱、しまり強
2層	10YR4/6	褐色土	10YR4/4褐色土との混合土、10YR3/4暗褐色土が微量混入、粘性中、しまり強

C1区第129号焼土住居跡　P7

1層	10YR4/4	褐色土	10YR4/6褐色土との混合土、炭化物(φ1～2mm)微量、粘性弱、しまり強
2層	10YR4/4	褐色土	10YR4/6褐色土との混合土、炭化物(φ1～2mm)微量、粘性やや弱、しまり強
3層	10YR4/6	褐色土	10YR4/4褐色土との混合土、炭化物(φ1～3mm)少量、浮石(φ2mm)極微量、粘性弱、しまり強
4層	10YR4/4	褐色土	10YR3/4暗褐色土との混合土、7.5YR明褐色土が粒状(φ1mm)微量混入、炭化物(φ1～2mm)少量、粘性弱、しまり強
5層	10YR4/4	褐色土	炭化物(φ1mm)微量、粘性弱、しまり強
6層	10YR4/4	褐色土	炭化物(φ1～2mm)微量、10YR5/6黄褐色土が少量混入、粘性弱、しまり強
7層	10YR4/4	褐色土	粘性中、しまりやや強
8層	10YR4/4	褐色土	10YR5/6黄褐色土が微量混入、7.5YR明褐色土が粒状に(φ1～2mm)微量混入、粘性弱、しまり強
9層	10YR4/4	褐色土	粘性弱、しまり強
10層	10YR4/4	褐色土	粘性中、しまり中
11層	10YR4/4	褐色土	10YR3/4暗褐色土との混合土、粘性弱、しまり弱

図104　C1区竪穴住居跡（16）



C1区第129号竪穴住居跡カマド

1層	10YR3/4	暗褐色土	10YR4/4褐色土との混合土、浮石(φ1～9mm)少量、炭化物少量混入、粘性弱、しまり強
2層	10YR2/1	黒色土	炭が全体の90%混入している、10YR4/6が粒状(φ1～3mm)極微量混入、浮石(φ1～2mm)極微量、粘性弱、しまり強
3層	10YR4/4	褐色土	10YR4/6褐色土との混合土、浮石(φ1mm)極微量、10YR3/3にぶい黄褐色土が粒状に混入(φ1～4mm)微量、炭化物(φ1～2mm)微量、粘性弱、しまり強
4層	10YR4/4	褐色土	10YR4/3のにぶい黄褐色土と10YR5/6黄褐色土との混合土、炭化物(φ1mm)極微量、粘性弱、しまり強
5層	10YR4/4	褐色土	10YR2/3の黒色土と10YR5/6黄褐色土との混合土、炭化物(φ1～7mm)微量、粘性弱、しまり強
6層	10YR2/1	黒色土	全体の100%が炭、粘性弱、しまり強
7層	10YR2/1	黒色土	10YR5/4にぶい黄褐色土が20%混入、粘性弱、しまり強、(黒色土＝炭)
8層	10YR2/1	黒色土	10YR4/3にぶい黄褐色土が微量混入、5YR5/8明赤褐色土が粒状(φ1～5mm)微量混入、炭化物(φ1～5mm)少量混入、粘性弱、しまり強
9層	10YR5/4	にぶい黄褐色土	10YR2/1黒色土との混合土、浮石(φ1mm)極微量、粘性弱、しまり強
10層	10YR2/1	黒色土	10YR4/4褐色土が少量混入、A-A'の1層と10層の間に炭の固まり(φ3cm)が混入、粘性弱、しまり強
11層	10YR2/1	黒色土	10YR4/6褐色土が粒状に微量混入、粘性弱、しまり強

図105　C1区竪穴住居跡（17）

ある他の住居跡と比べて極端に少ない。土師器坏（図119－２）はロクロ成形によるもので内面には横方向のミガキと黒色処理が施されている。掘方堆積土を採取した土壌サンプル（40g）より、イネ、アワ、ヒエ属が検出されている（第９章第17節）。金属製品（図119－14）は欠損が著しいが、中央部に摘みが付随することから蓋と考えられる。

【小結】本住居跡は検出層位、遺構の重複関係から、10世紀後半～11世紀末に帰属するものと考えられる。

（斉藤）

第131号竪穴遺構（C1ＳⅠ－131）（図106・119）

【位置・確認】ＩＭ－44グリッド他に位置する。基本層序第C1Ⅰ層直下、第C1Ⅱ層直上で検出した。

【重複】第126号竪穴住居跡と重複し、これよりも古い。

【平面形・規模】北側および東側が遺構の重複、攪乱によって失われているため、全体形状は不明であるが、北東－南西に軸を有する隅丸正方形を呈するものとみられる。深さは約18㎝で、確認し得た範囲における床面積は約1.3㎡である。

【壁・床面】壁は床面からなだらかに立ち上がる。西壁付近の床面には凹凸があり、貼床の痕跡も稀薄

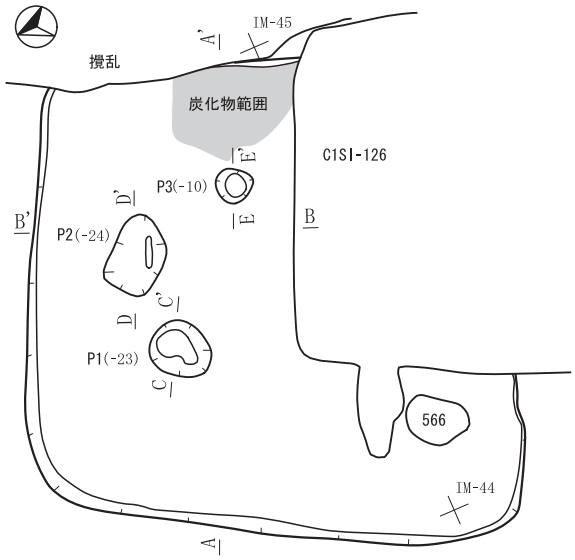
である。
【カマド】未検出である。
【壁溝】なし。
【柱穴】なし。
【その他の施設】なし。
【堆積土】火山灰質の黄褐色土が主体をなす。焼土粒、炭化物を含み、人為堆積的様相が顕著である。
【出土遺物】土師器、須恵器の細片が出土している。図119－15・16は手づくね成形による土師器坏であり、10世紀後半以降、12世紀以前の年代が与えられる。
【小結】検出層位、遺構の重複関係から、平安時代（10世紀後半～11世紀末）に帰属するものとみられる。

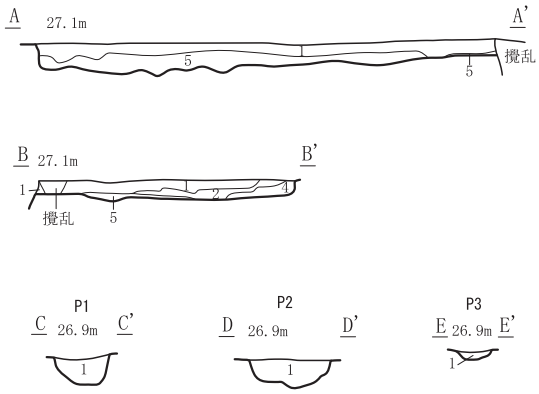
（斉藤）

第132号竪穴遺構（C1ＳⅠ－132）（図106）
【位置・確認】ＩＬ－43グリッド他に位置する。基本層序第C1Ⅰ層直下、第C1Ⅱ層直上で検出した。
【重複】第122・125・126・130号竪穴住居跡と重複しており、これらよりも古い。
【平面形・規模】残存長で東西壁2.1m以上、南北1.9m以上、確認面からの深さは18cmを測る。遺構の重複により全体形状は不明であるが、平面形は隅丸正方形を呈するものとみられる。確認し得た範囲における床面積は約４㎡である。
【壁・床面】壁は床面からほぼ垂直に立ち上がる。床面は概ね平坦である。
【カマド】なし。
【壁溝】なし。
【柱穴】なし。
【その他の施設】なし。
【堆積土】火山灰質の褐色土が主体をなす。混入物は軽石のみで炭化物は含まれていない。
【出土遺物】堆積土中から土師器の細片が少量出土している。
【小結】遺構の構成要素をなすカマド、柱穴がみられないため、不明な点が多いが、検出層位、重複関係から、平安時代（10世紀後半～11世紀末）に帰属するものとみられる。

（斉藤）

C1区第130号竪穴住居跡





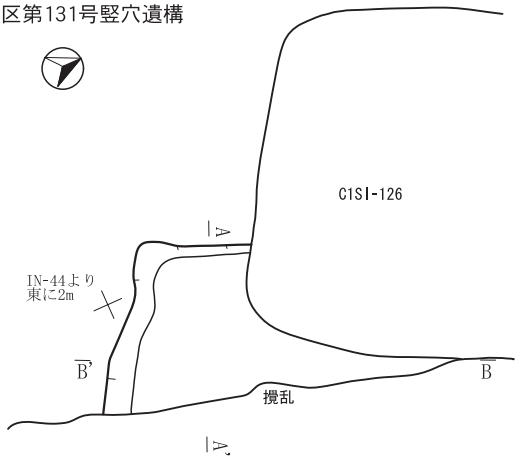
C1区第130号竪穴住居跡　A-A′ B-B′
1層　10YR5/3　にぶい黄褐色土　炭化物（φ1～3mm）極微量、粘性弱、しまり強
2層　10YR6/4　にぶい黄橙色土　浮石（φ1～3mm）極微量、粘性弱、しまり強
3層　10YR5/2　灰黄褐色土　炭化物（φ1～3mm）極微量、粘性弱、しまり強
4層　10YR6/6　明黄褐色土　粘性中、しまり強

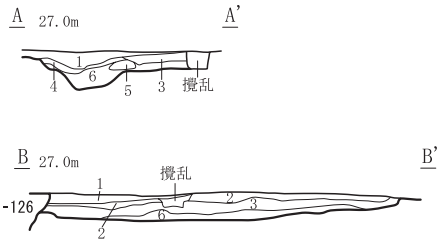
C1区第130号竪穴住居跡　P1　C-C′
1層　10YR4/3　にぶい黄褐色土　炭化物（φ1～2mm）微量、粘性弱、しまり弱

C1区第130号竪穴住居跡　P2　D-D′
1層　10YR4/3　にぶい黄褐色土　10YR4/4褐色土との混合層、炭化物（φ3～5mm）少量、浮石（φ0.1～0.5cm）10YR8/1灰白色極微量、粘性弱、しまり強

C1区第130号竪穴住居跡　P3　E-E′
1層　10YR3/1　黒色土　10YR3/2黒褐色土との混合土、炭化物（φ5～20mm）中量、7.5YR4/6褐色中塊（φ1～1.5cm）少量、7.5YR3/3暗褐色中塊（φ1～1.3cm）少量、粘性弱、しまり弱

C1区第131号竪穴遺構

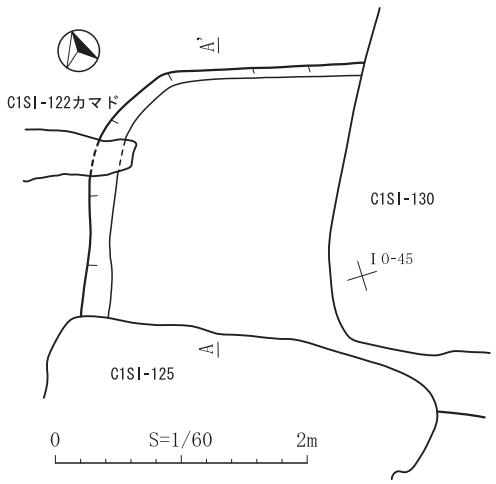


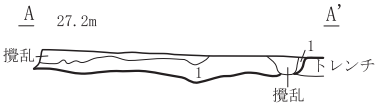


C1区第131号竪穴住居跡　A-A′ B-B′

1層	10YR4/4	褐色土	10YR4/3にぶい黄褐色土との混合土、炭化物（φ1～20mm）中量、焼土粒（φ1～30mm）中量、粘性弱、しまり強
2層	10YR4/4	褐色土	10YR4/3にぶい黄褐色土と10YR3/3暗褐色土との混合土、炭化物（φ1～10mm）極微量、焼土粒（φ1～5mm）極微量、粘性弱、しまり強、浮石（φ1～20mm）極微量
3層	10YR4/4	褐色土	10YR5/4にぶい黄褐色土との混合土、炭化物（φ1～5mm）極微量、焼土粒（φ1～5mm）極微量、10YR5/2灰黄褐色粘性土、10YR5/4にぶい黄褐色粘性土と7.5YR5/8明褐色粘性土の混合土がブロック状に混入、粘性弱、しまり強
4層	10YR3/4	暗褐色土	10YR4/3にぶい黄褐色土との混合土、炭化物（φ1～15mm）微量、浮石（φ1～25mm）極微量、粘性弱、しまり強
5層	10YR4/4	褐色土	10YR5/4にぶい黄褐色土との混合土、炭化物（φ1～3m）極微量、粘性弱、しまり強
6層	10YR4/4	褐色土	10YR4/3にぶい黄褐色土との混合土、浮石（φ1～10mm）極微量、炭化物（φ1～20mm）極微量、10YR3/3暗褐色土（φ10～20mm）粒状に混入、粘性やや中、しまり強

C1区第132号竪穴遺構





C1区第131号竪穴住居跡　A-A′
1層　10YR4/4　褐色土　10YR4/3にぶい黄褐色土と10YR3/3暗褐色土との混合土、炭化物（φ3～5mm）微量、10YR5/6明褐色土中塊（φ1～1.5cm）微量、浮石10YR7/3にぶい黄橙色（φ1～2mm）極微量、粘性弱、しまり強

図106　C1区竪穴住居跡（18）・竪穴遺構（9）

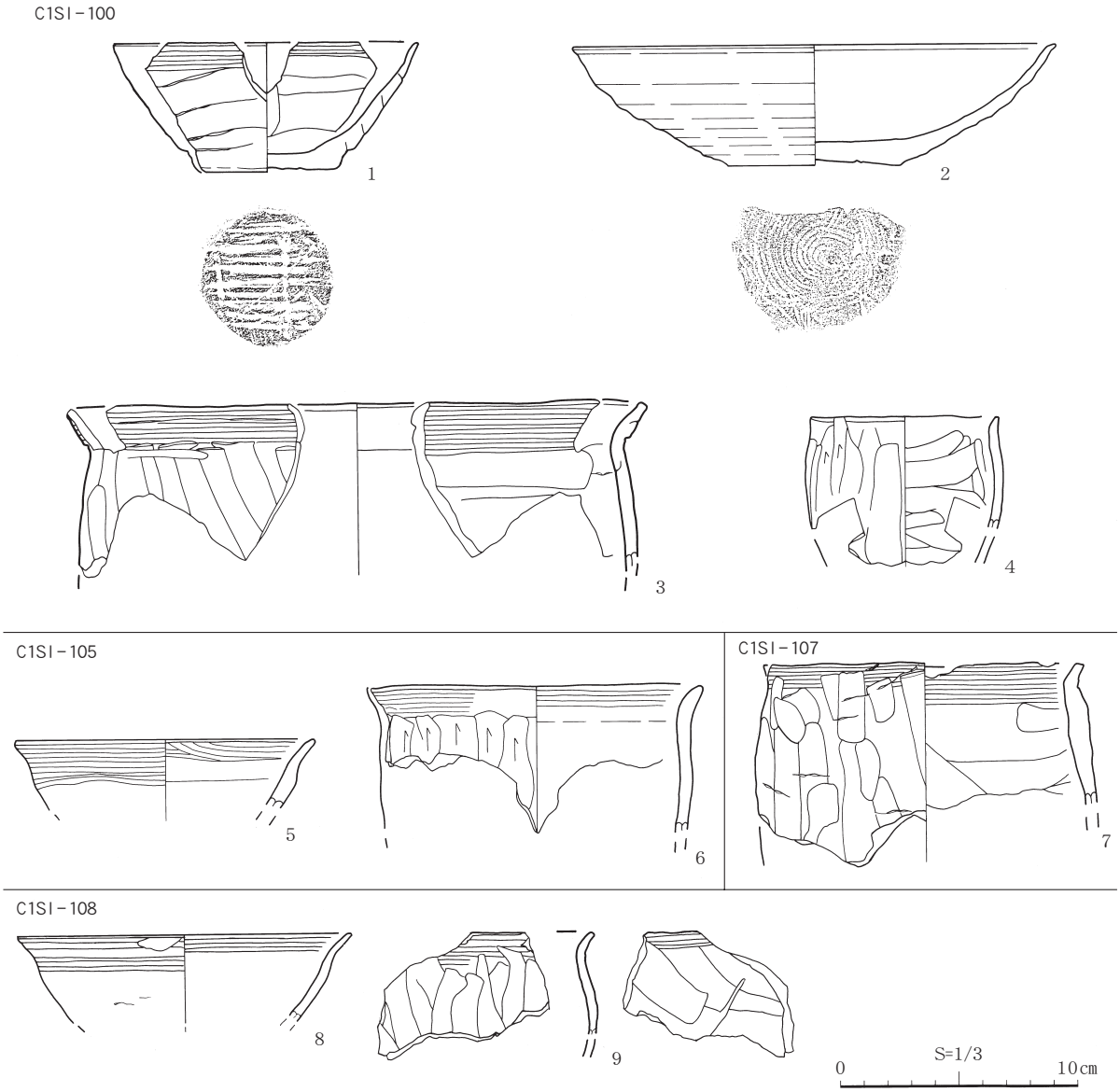


図107　C1区竪穴住居跡出土遺物（1）・竪穴遺構出土遺物（1）

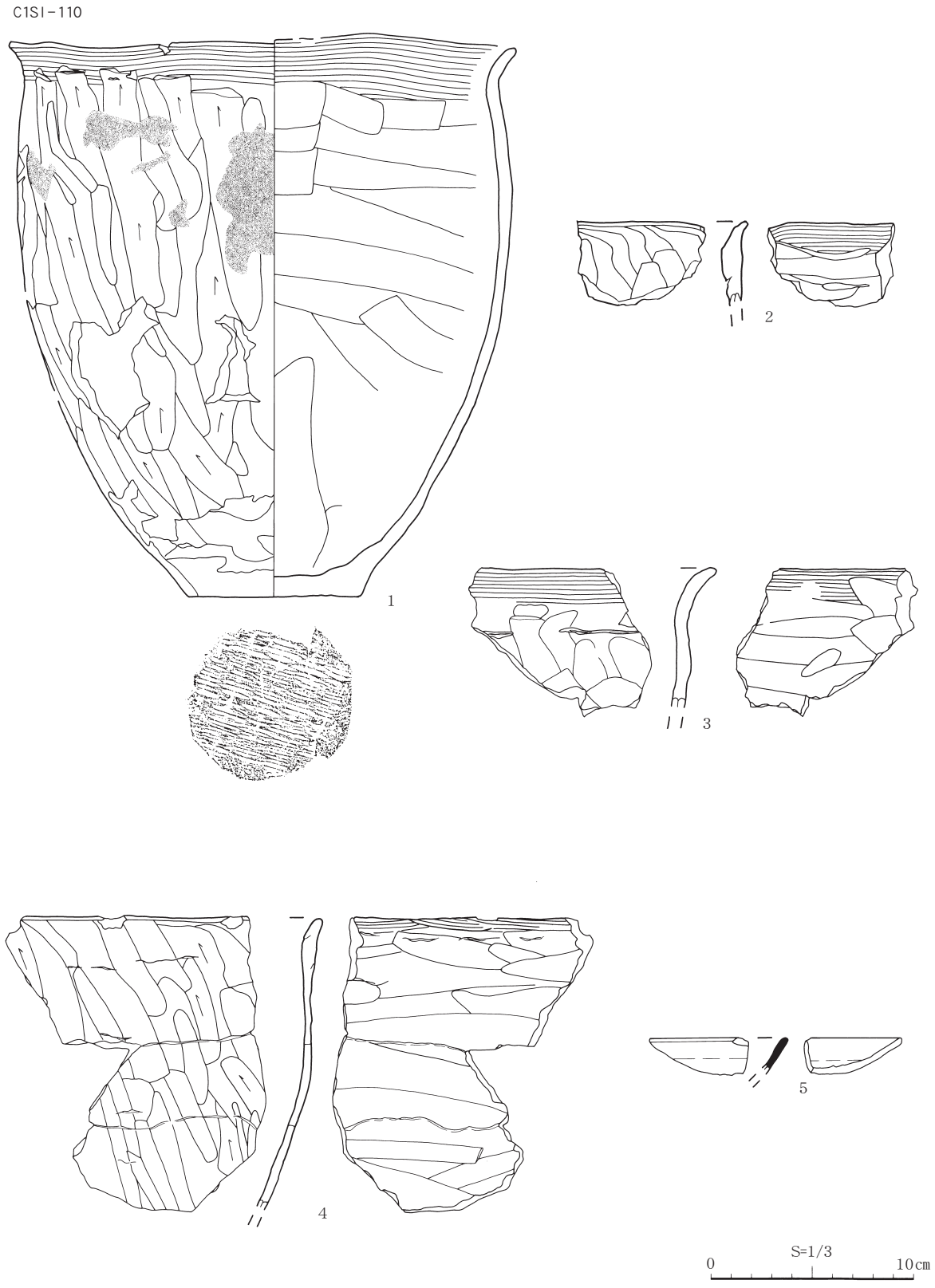
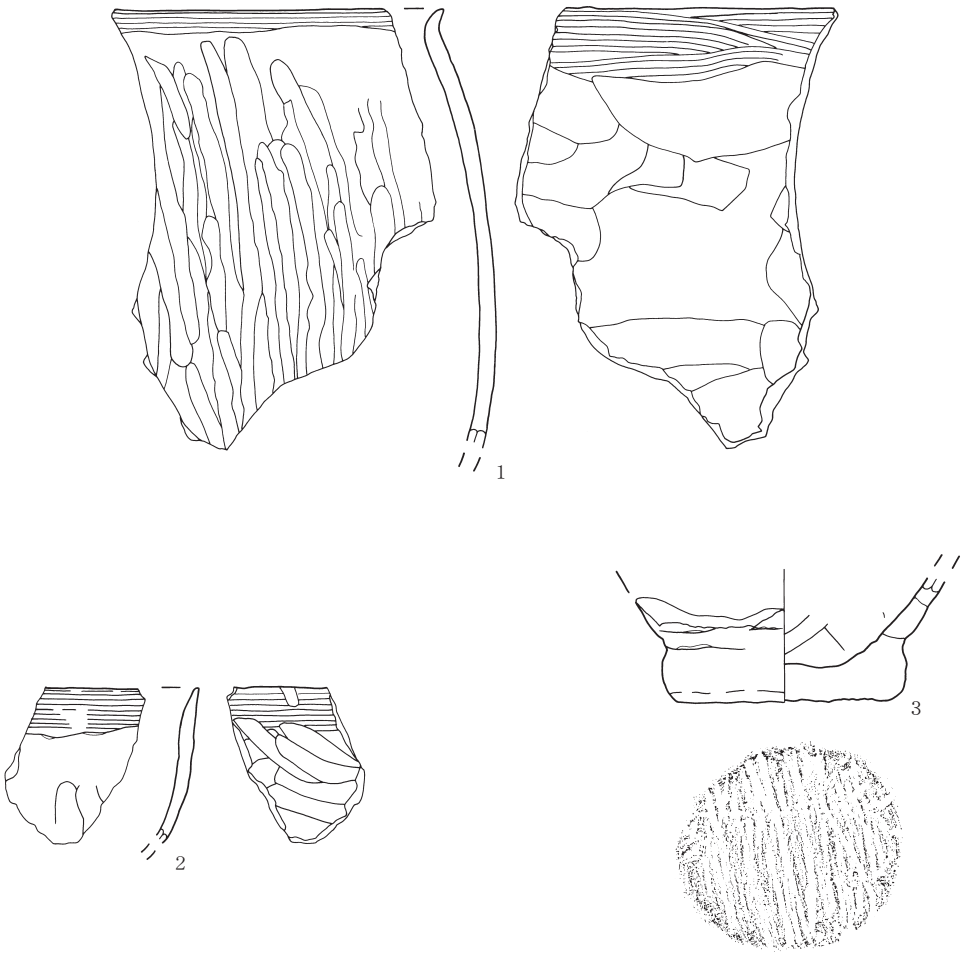


図108　C1区竪穴遺構出土遺物（２）

C1SI－111



C1SI－112

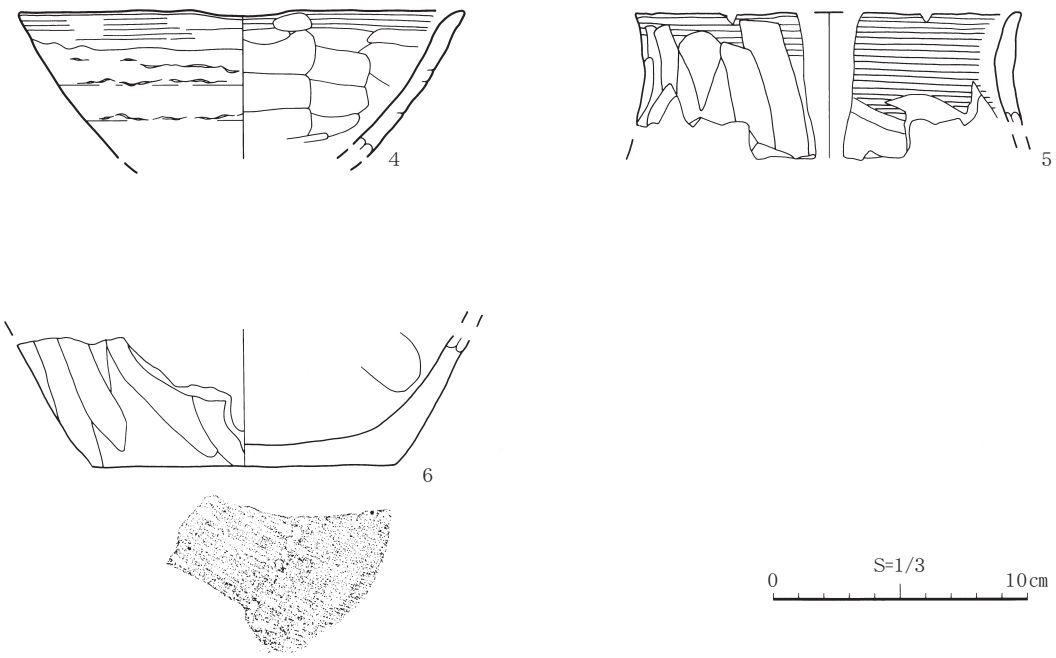
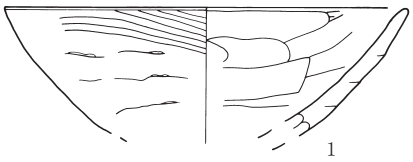
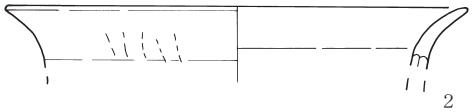


図109　C1区竪穴住居跡出土遺物（2）

C1SI－113

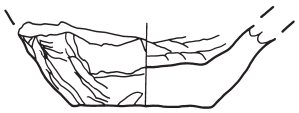


1

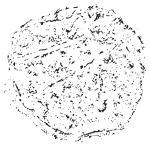


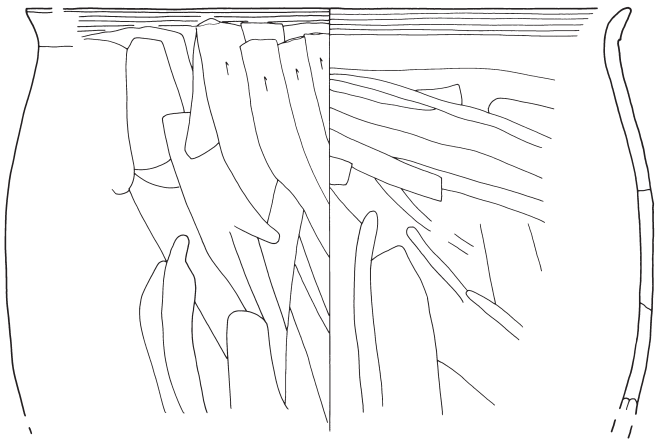
2

C1SI－114

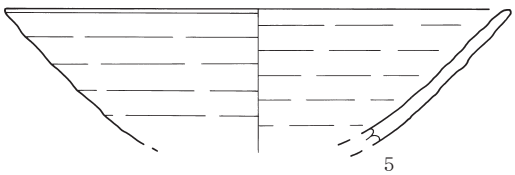


3





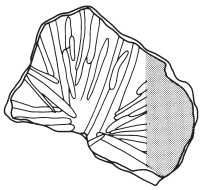
4



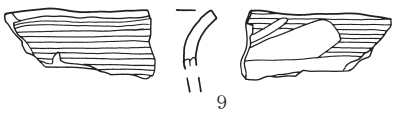
5

6

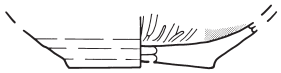
C1SI－115



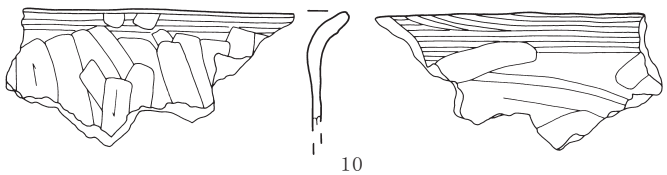
8



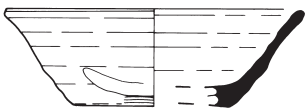
9



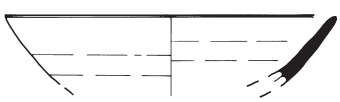
7



10



11



12

S=1/3

0　10cm

図110　C1区竪穴住居跡出土遺物（3）・竪穴遺構出土遺物（3）

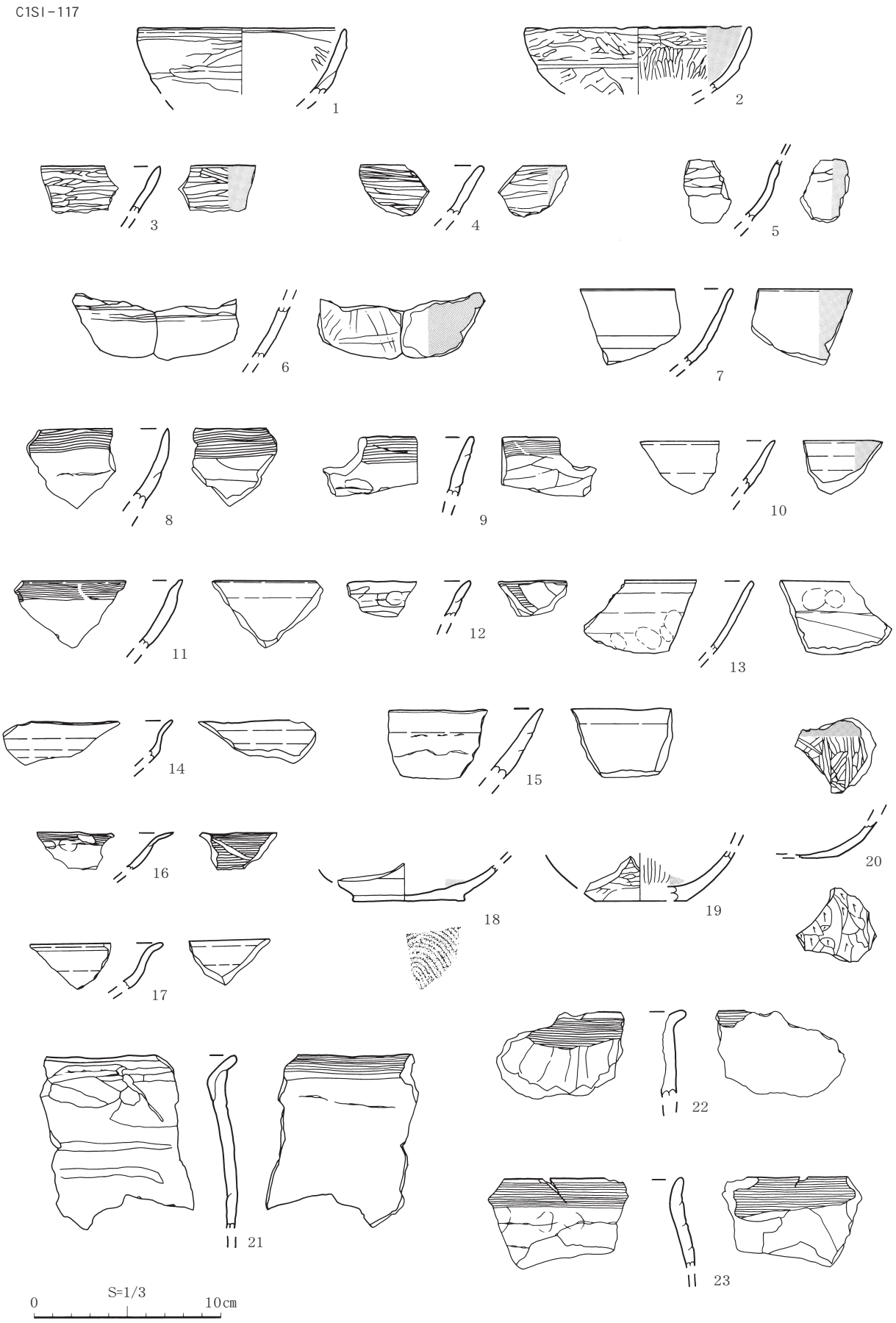


図111　C1区竪穴住居跡出土遺物（4）

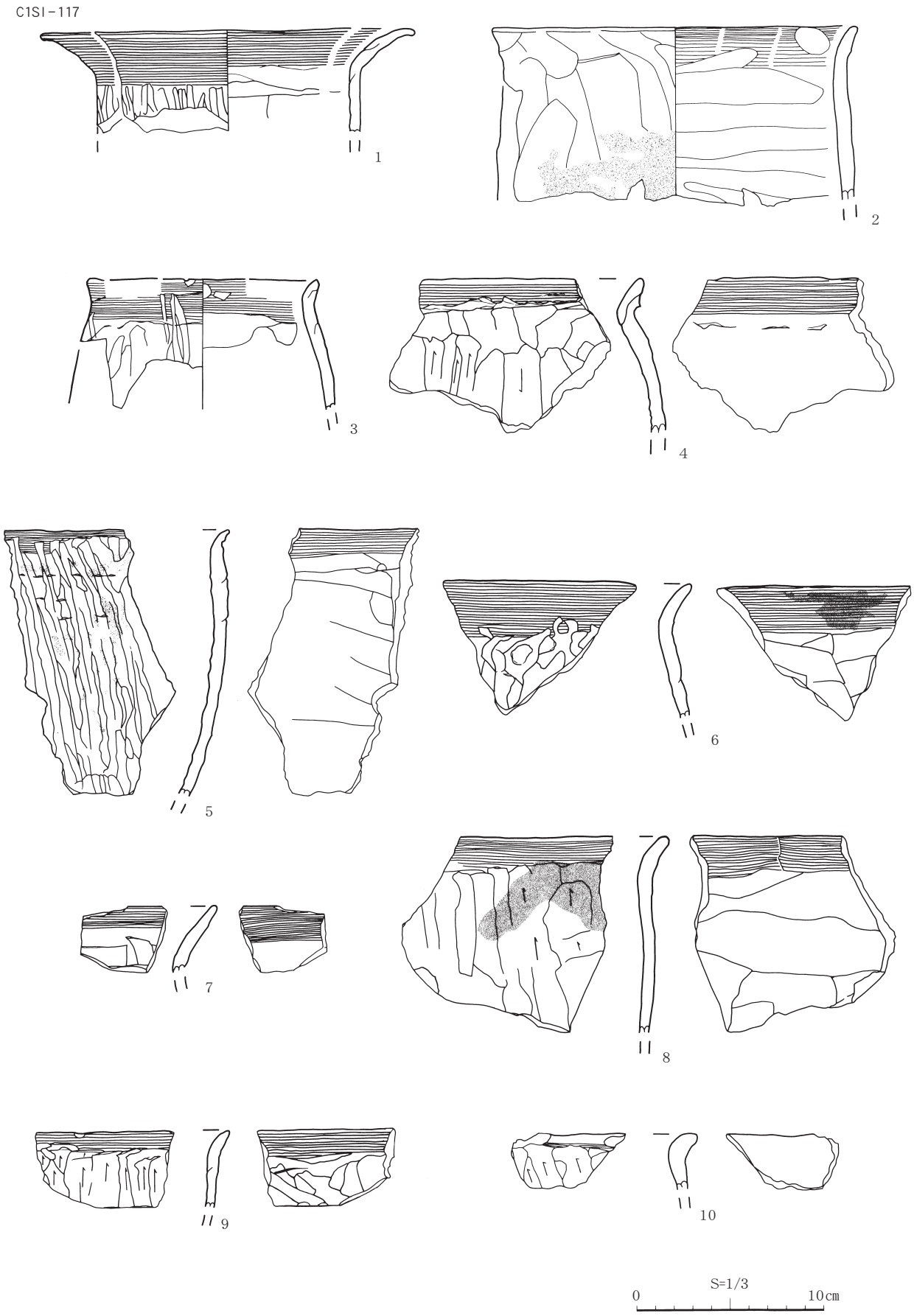


図112　C1区竪穴住居跡出土遺物（5）

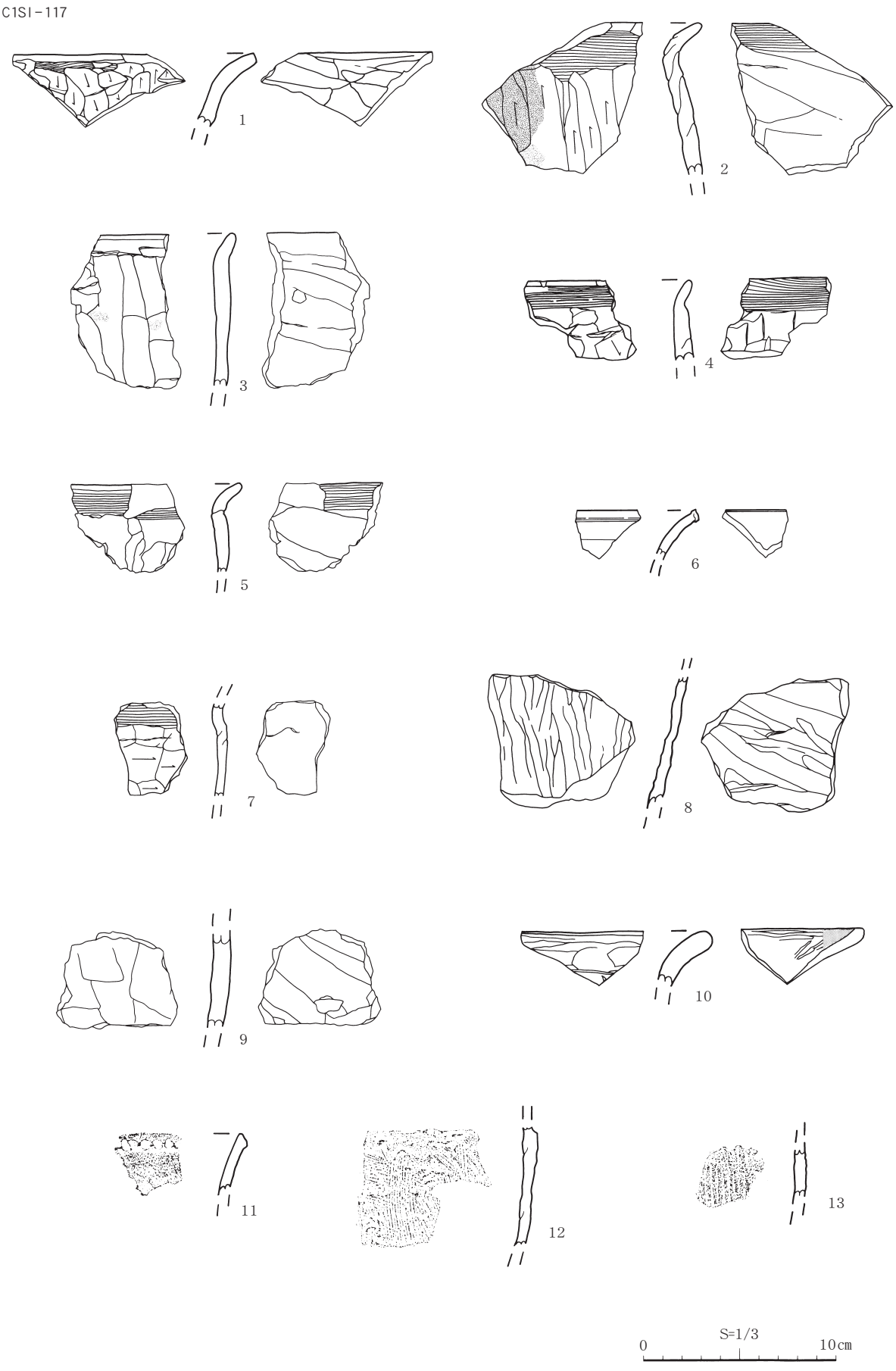


図113　C1区竪穴住居跡出土遺物（６）

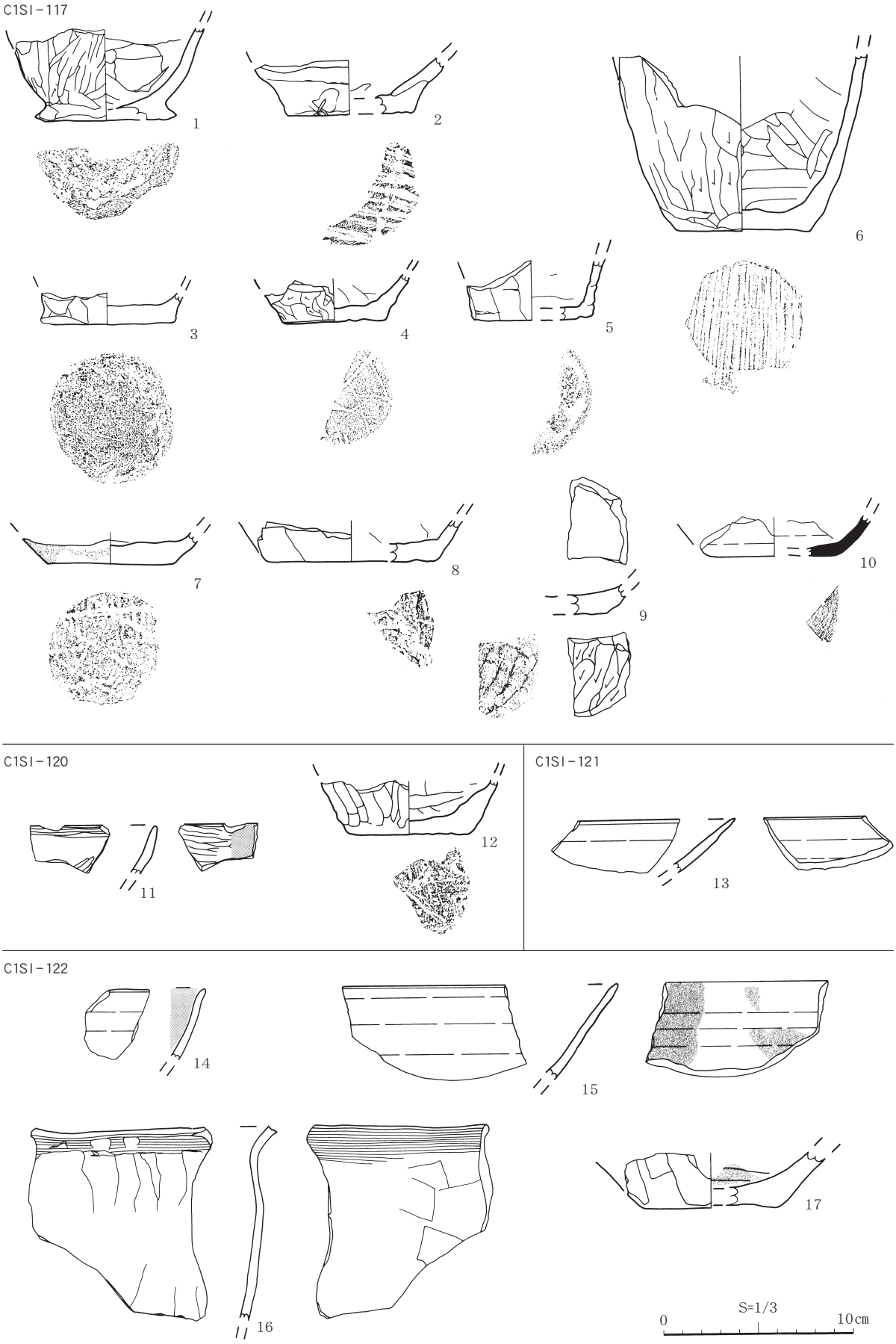


図114　C1区竪穴住居跡出土遺物（7）・竪穴遺構出土遺物（4）

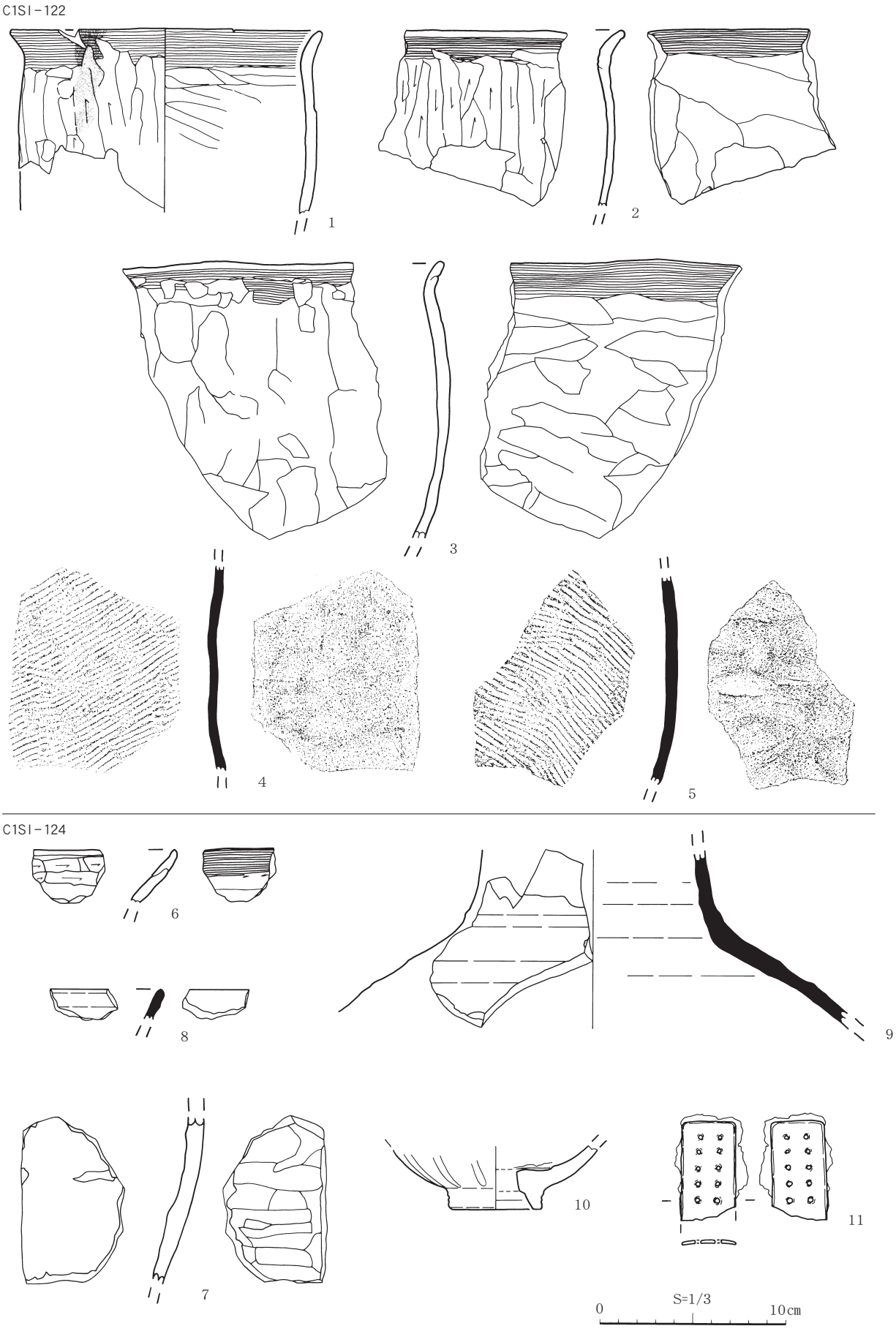


図115　C1区竪穴住居跡出土遺物（8）・竪穴遺構出土遺物（5）

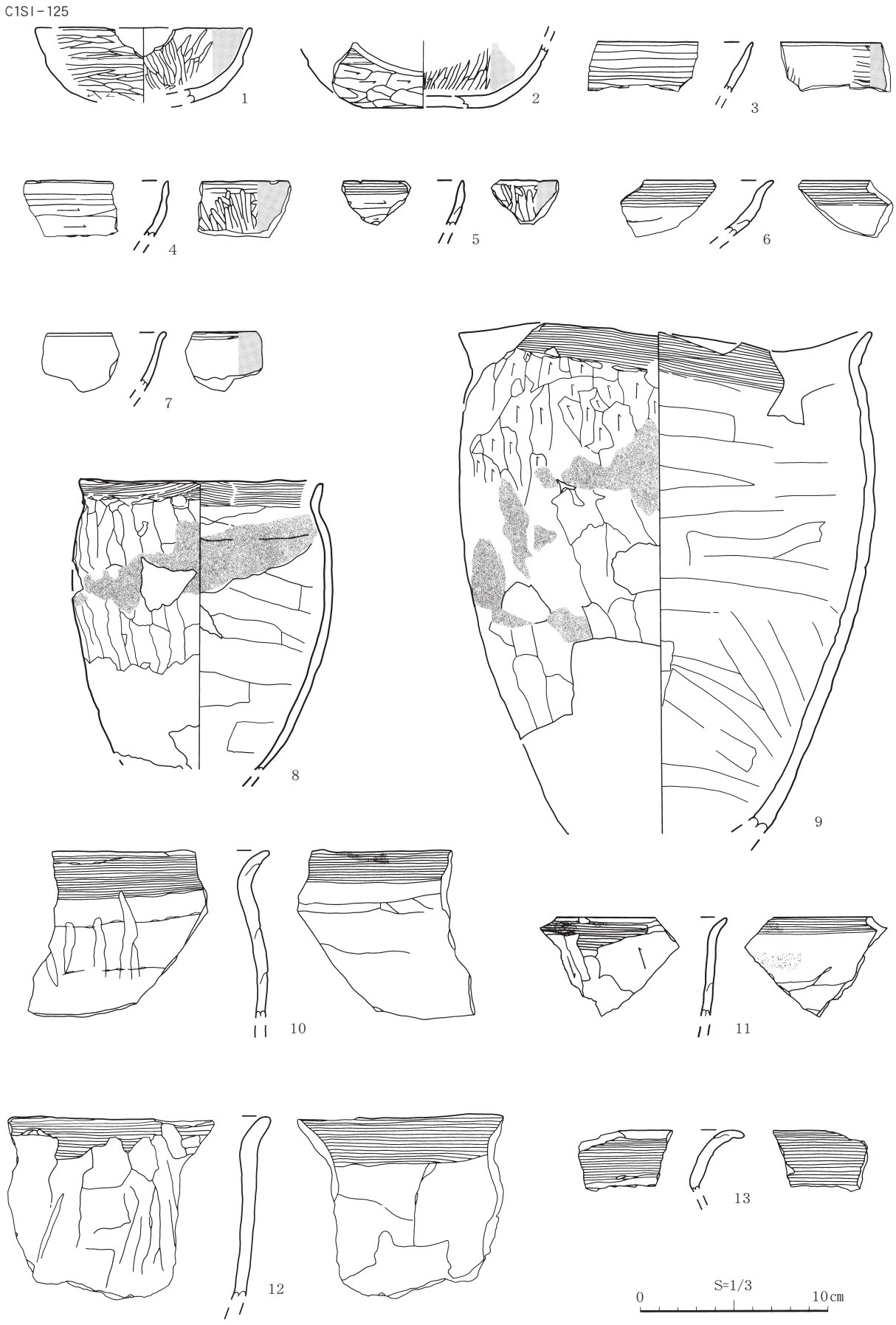
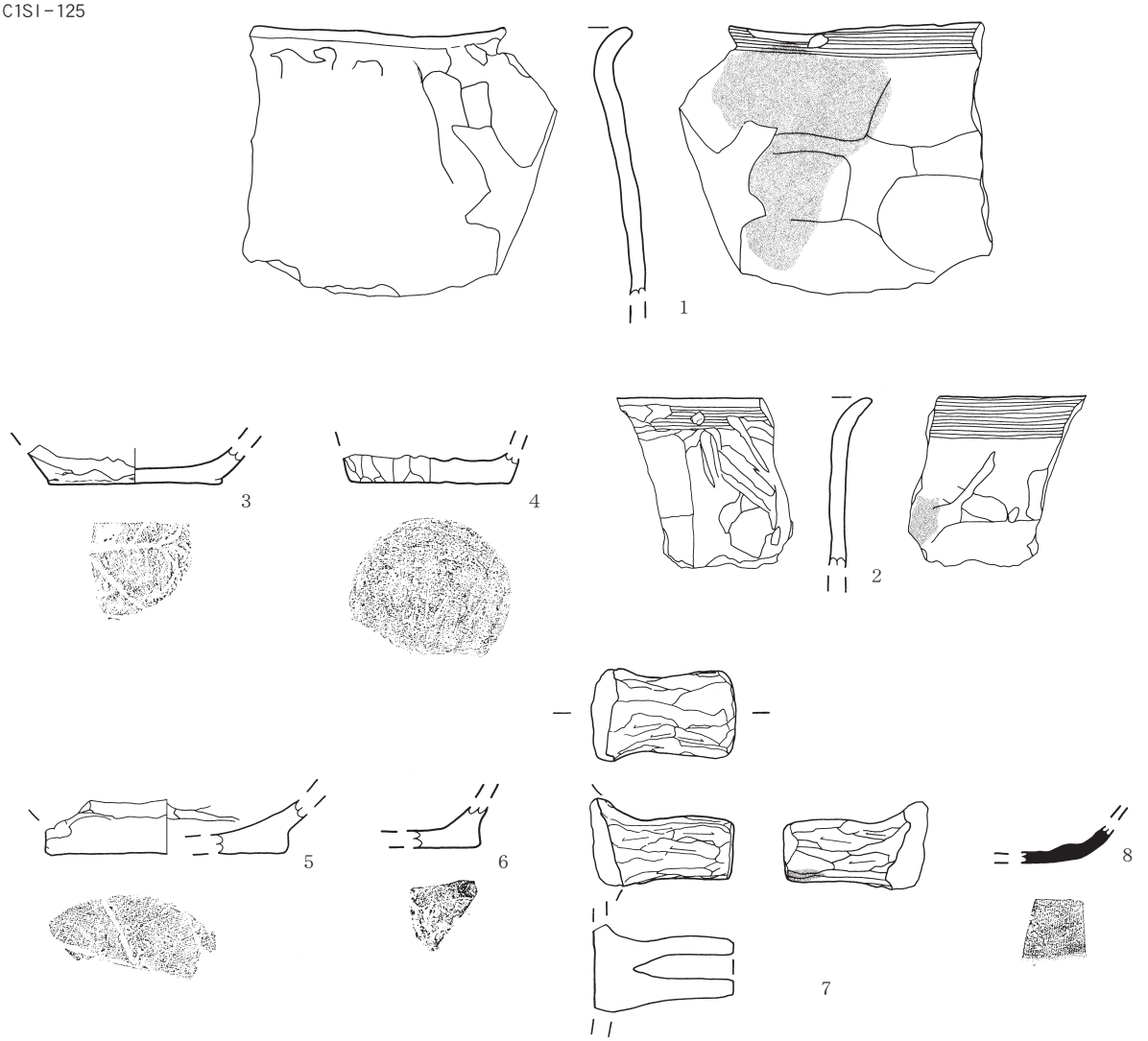


図116　C1区竪穴住居跡出土遺物（9）

C1SI－125



C1SI－126

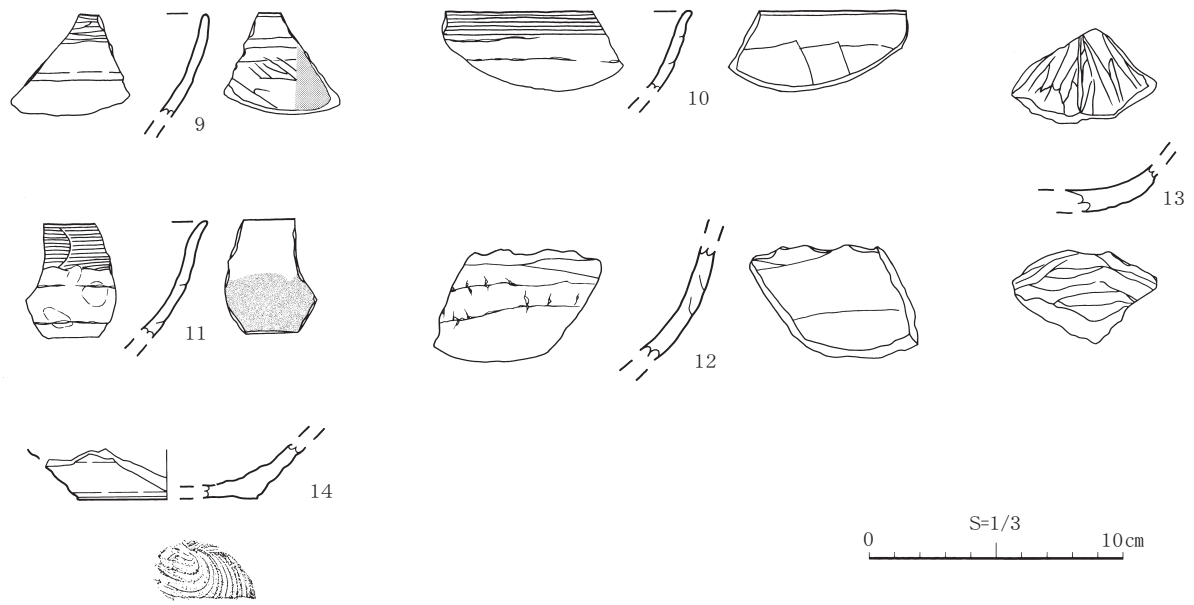


図117　C1区竪穴住居跡出土遺物（10）

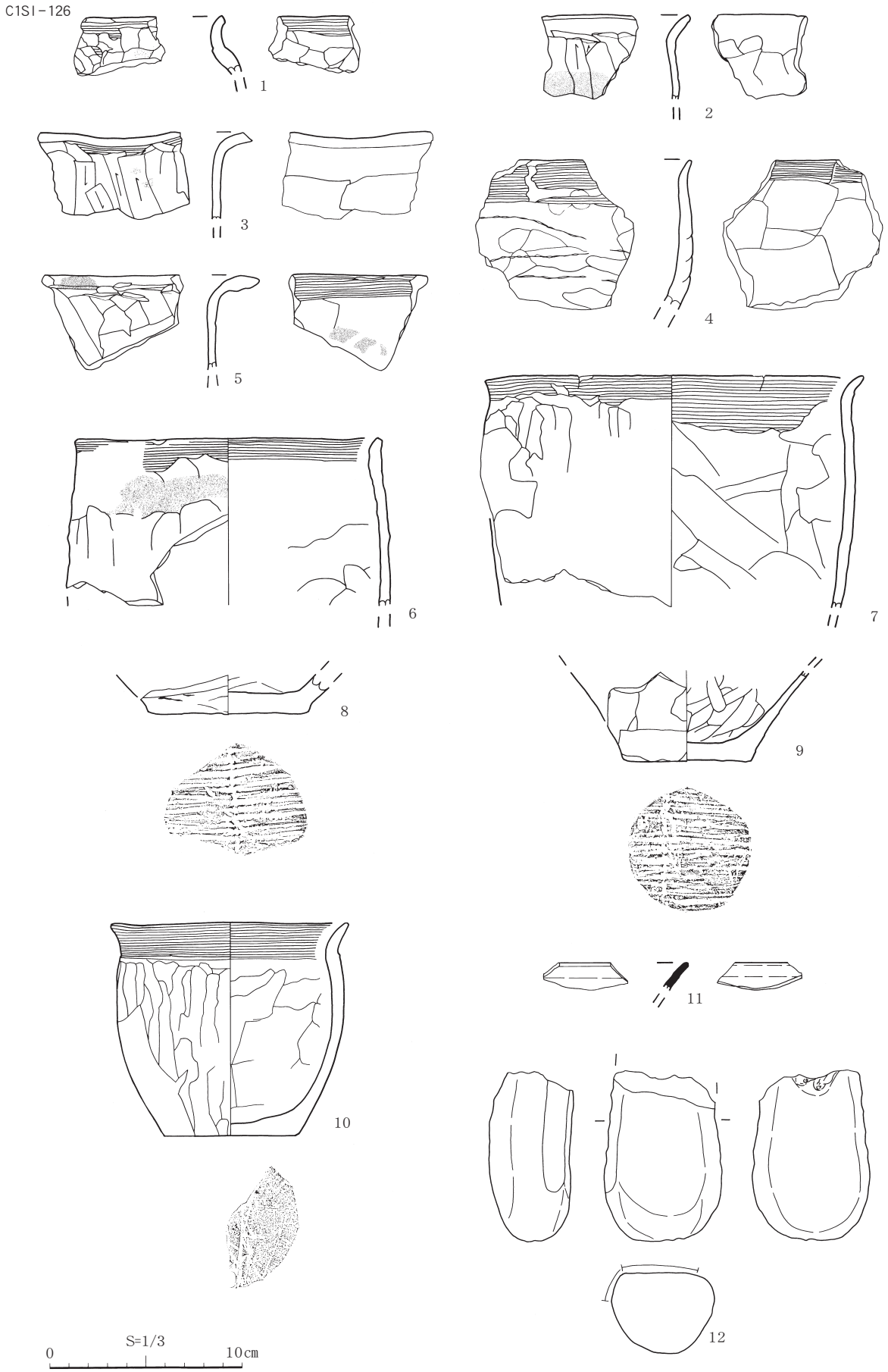


図118　C1区竪穴住居跡出土遺物（11）

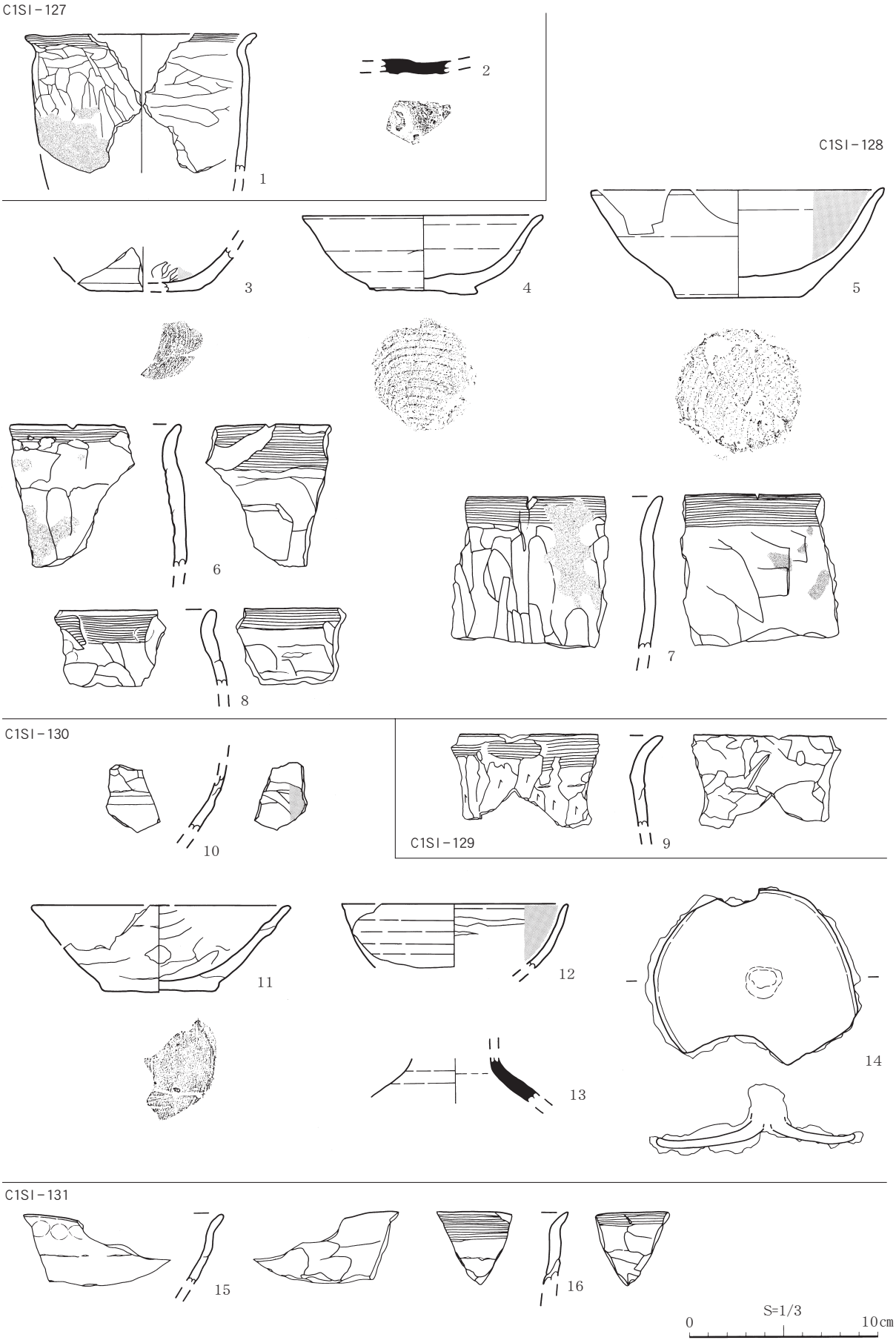


図119　C1区竪穴住居跡出土遺物（12）・竪穴遺構出土遺物（６）

第３節　掘立柱建物跡・ピット

C1区で確認した掘立柱建物跡は、第19号掘立柱建物跡から第20号掘立柱建物跡までの２棟を検出した。以下詳細を報告する。

１．掘立柱建物跡

第19号掘立柱建物跡（C1ＳＢ－19）（図120）

【位置】ＩＪ～ＩＬ－41・42グリッドに位置する。

【重複】第100号土坑と重複し、本遺構が新しい。

【構造・規模】構造は桁行３間（6,606㎜）、梁間１間（1,914㎜）を測る建物跡である。総計６基の柱穴を検出した。主軸方位はＮ－4.9°－Ｅである。

【柱穴】柱穴の規模は長径34～20㎝、短径32～19㎝、深さは10～41㎝を測る。

【柱間寸法】桁行2,108㎜～2,364㎜、梁行1,914㎜を測る。

【出土遺物】CP109・192号ピットの堆積土から、土師器甕の破片が出土している。

【小結】検出層序と出土遺物から、廃絶年代は平安時代以降の可能性がある。

（工藤）

第20号掘立柱建物跡（C1ＳＢ－20）（図120）

【位置】ＩＯ～ＩＱ－48・49グリッドに位置する。

【重複】第114・115号竪穴住居跡、第116号竪穴遺構、第130・141号土坑、第104号溝跡と重複し、第130・141号土坑よりも新しく、第115号竪穴住居跡、第104号溝跡よりも古い。第114号竪穴住居跡、第116号竪穴遺構との新旧関係は判断できなかった。

【構造・規模】構造は桁行３間（6,722㎜）、梁間１間（2,289㎜）を測る建物跡である。総計８基の柱穴を検出した。主軸方位はＮ－15°－Ｅである。

【柱穴】柱穴の規模は長径31～16.8㎝、短径27～16.8㎝、深さは10～35㎝を測る。

【柱間寸法】桁行2,126㎜～2,377㎜、梁間2,289㎜を測る。

【出土遺物】遺物は出土しなかった。

【小結】新旧関係から、廃絶年代は平安時代の可能性が高い。

（工藤）

２．ピット

C1区におけるピットは、掘立柱建物跡に使用されたものも含めて合計247基を検出した。掘立柱建物跡を構成するもののほかにも、柱穴または柵跡と考えられるピットが検出されている。

【位置・確認】ＩＪ～ＩＳ－39～51グリッドの範囲内の基本層序第C1Ⅱ・Ⅲ層で検出した。特にＩＪ～ＩＬ－41・42グリッドとＩＮ～ＩＳ－47～50グリッド付近には多数検出された。一方、ＩＩ～ＩＱ－42～50グリッドの付近では、現代の畑作に伴う深耕のため破壊され、分布が希薄である。

【形態・規模】平面形は円形や楕円形が多く、不定形のものも散見される。規模は長径11.4～104㎝、

短径9.2～64㎝、深さは4.9～102㎝を測り、長径は20～30㎝で深さが10～30㎝のものが多く、深さが40～50㎝と深いものも一定量存在する。

【堆積土】堆積土中に柱痕が確認できるものでは、堀方堆積土は褐色土が多く、柱痕堆積土は黒褐色土やオリーブ褐色土など、種類に富む。柱痕が確認できなかったピットの堆積土はにぶい黄褐色土のである傾向がある。

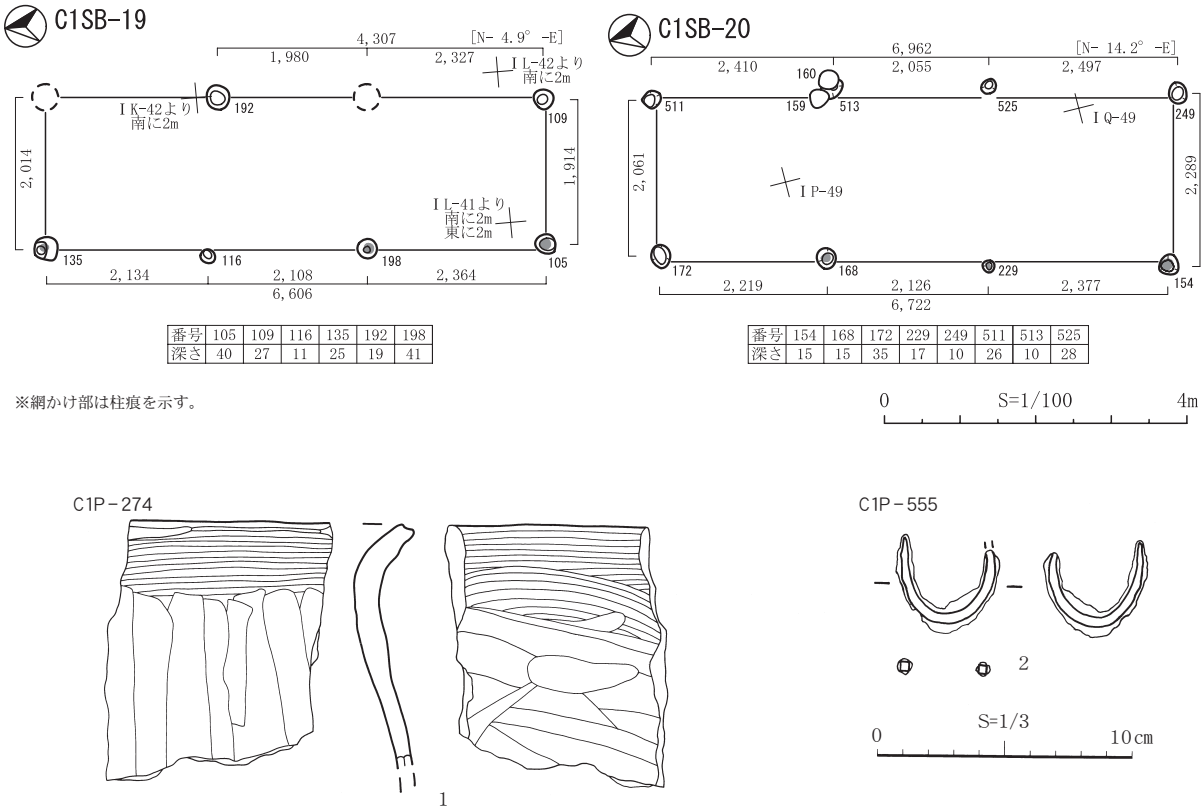
【出土遺物】堆積土からは土師器、須恵器破片、石製品が出土している。土師器は甕が多く、坏も少量出土している。須恵器は坏の破片が第212・266号ピットより出土している。第192号ピットの堆積土からは、砥石が出土している。砥石は砥面を４面有するものであり、石質は凝灰岩で仕上げ砥と思われる。掲載はしていない。

【小結】C1区のピットは分布範囲がＩＪ～ＩＬ－41・42グリッドとＩＮ～ＩＳ－47～50グリッド付近に大別される。ＩＪ～ＩＬ－41・42グリッド付近は、規模が小さいピットが集中する。ピット堆積土からは土師器甕の破片が出土しており、周辺では土坑や平安時代の竪穴住居跡も検出されていることから、ＩＪ～ＩＬ－41・42グリッド付近のピット群は、竪穴住居跡の痕跡の可能性がある。

ＩＮ～ＩＳ－47～50グリッド付近には第114・115・116号竪穴住居跡が位置しており、多数のピットはは各住居跡に付随するものと考えられる。しかしながら、第114・115・116号竪穴住居跡を破壊するピットも検出されている。

本地区のピットの年代は、出土遺物や周辺遺構との新旧関係から平安時代以降と考えられ、平安時代と中世の２時期に構築された可能性が高いものと思われる。

（工藤）



番号	105	109	116	135	192	198
深さ	40	27	11	25	19	41

番号	154	168	172	229	249	511	513	525
深さ	15	15	35	17	10	26	10	28

図120　C1区掘立柱建物跡・ピット出土遺物

第４節　土坑

第100号土坑（C1ＳＫ－100）（図121）

【位置・確認】IL－41グリッドに位置する。基本層序第C1Ⅱ層から検出した。

【重複】第109号ピットと重複し、本遺構が古い。

【形態・規模】長軸98㎝、現存短軸63㎝の楕円形を呈し、深さは32㎝を測る。

【壁・底面】壁は底面から緩やかに立ち上がる。底面は平坦である。

【堆積土】褐色土やにぶい黄褐色土を主体とする。

【出土遺物】遺物は出土しなかった。

【小結】堆積土にピット状の落ち込みがみられることから、柱穴の可能性がある。検出層位や堆積土の状況から、平安時代以降に埋没したと思われる。（工藤）

第101号土坑（C1ＳＫ－101）

遺構確認時に土坑と認識したが調査段階で遺構と判断しなかったため、欠番とした。

第102号土坑（C1ＳＫ－102）（図121・127）

【位置・確認】IK－41・42グリッドに位置する。基本層序第C1Ⅱ層から検出した。

【重複】第127・190号ピットと重複し、本遺構が第127号ピットよりも古い。第190号ピットとの新旧関係は判断できなかった。

【形態・規模】長軸77㎝、短軸64㎝の不定形を呈し、深さは11㎝を測る。

【壁・底面】壁は底面から緩やかに立ち上がる。底面は鍋底型である。

【堆積土】１層は焼土塊を含む炭化物集積層である。人為堆積の様相を呈する。

【出土遺物】１層から、体部外面無調整の土師器坏（図127－１）や甕胴部破片が出土している。

【小結】検出層序や出土遺物から、10世紀後半以降に埋没したと思われる。

（工藤）

第103号土坑（C1ＳＫ－103）（図121・127）

【位置・確認】IK－42グリッドに位置する。基本層序第C1Ⅱ層から検出した。

【重複】第123号土坑と重複し、本遺構が新しい。

【形態・規模】長軸62㎝、短軸44㎝の楕円形を呈し、深さは18㎝を測る。

【壁・底面】壁は底面から緩やかに立ち上がる。底面は鍋底型である。

【堆積土】褐色土を主体とし、炭化物や焼土粒を少量含む。人為堆積の様相を呈する。

【出土遺物】土師器坏・甕破片（図127－２・３）が出土している。坏は２層から体部外面が無調整で底面に木葉痕が残存するものであり、甕は図示したもののほかに、内面黒色処理を施すものもみられるが、数量的に少なく、客体的なものである。

【小結】出土遺物や検出層序および堆積土の状況から、10世紀後半以降に埋没したと思われる。

（工藤）

第104号土坑（C1ＳＫ－104）

遺構確認時に遺構と認識したが調査段階で遺構と判断しなかったため、欠番とした。

第105号土坑（C1ＳＫ－105）（図121）

【位置・確認】IK－42グリッドに位置する。基本層序第C1Ⅱ層から検出した。

【重複】第123号ピットより新しい。

【形態・規模】長軸58㎝、短軸54㎝の円形を呈し、深さは16㎝を測る。

【壁・底面】壁は底面から緩やかに立ち上がる。底面は鍋底型であるが一部に攪乱による凹凸がある。

【堆積土】暗褐色土を主体とする。焼土や炭化物を含み、人為堆積の様相を呈する。

【出土遺物】土師器甕の胴部破片が少量出土している。掲載はしていない。

【小結】出土遺物や堆積土の状況および検出層序から、平安時代以降に埋没したと思われる。

（工藤）

第106号土坑（C1ＳＫ－106）（図121）

【位置・確認】IK－42グリッドに位置する。基本層序第C1Ⅱ層から検出した。

【重複】第102号溝跡、第139号ピットと重複し、本遺構が第139号ピットよりも古い。第102号溝跡との新旧関係は判断できなかった。

【形態・規模】長軸70㎝、短軸55㎝の円形を呈し、深さは29㎝を測る。

【壁・底面】壁は底面から緩やかに立ち上がる。底面は鍋底型である。

【堆積土】２層の黒褐色土を１層の焼土を含む褐色土が被覆する。人為堆積の様相を呈する。

【出土遺物】土師器甕の胴部破片が少量出土している。掲載はしていない。

【小結】底面の形状から、柱穴の可能性がある。出土遺物や堆積土の状況および検出層序から、平安時代以降に埋没したと思われる。

（工藤）

第107号土坑（C1ＳＫ－107）（図121）

【位置・確認】ＩＪ－41・42グリッドに位置する。基本層序第C1Ⅱ層から検出した。

【重複】第142号ピットと重複し、本遺構が古い。

【形態・規模】北部が攪乱に破壊される。長軸119㎝、短軸86㎝の楕円形を呈し、深さは27㎝を測る。

【壁・底面】壁は底面から緩やかに立ち上がり、一部に段を有する。底面は鍋底型でなだらかである。

【堆積土】褐色土や黄褐色土を主体とし、焼土小塊を少量含む。人為堆積の様相を呈する。

【出土遺物】土師器坏・甕破片が少量出土している。坏は体部破片で内面黒色処理を施し体部外面が無調整のものである。甕は胴部が直線的で口縁部がわずかに外反するものである。いずれも図版掲載はしていない。

【小結】出土遺物や堆積土の状況および検出層序から、10世紀後半以降に埋没したと思われる。

（工藤）

第108号土坑（C1ＳＫ－108）

遺構確認時に遺構と認識したが調査段階で遺構と判断しなかったため、欠番とした。

第109号土坑（C1ＳＫ－109）（図121）

【位置・確認】IQ－49・50グリッドに位置する。基本層序第C1Ⅲ層から検出した。

【重複】第111号竪穴住居跡、第110号土坑、第103号溝跡と重複し、本遺構が第111号竪穴住居跡、第103号溝跡よりも新しく、第110号土坑よりも古い。

【形態・規模】西部を第110号土坑に破壊されるため、全容は不明であるが長軸249㎝、短軸72㎝の楕円形を呈し、深さは45㎝を測る。

【壁・底面】壁は底面から緩やかに立ち上がる。底面はなだらかである。

【堆積土】褐色土を主体とし、白色粘土塊を含む。人為堆積の様相を呈する。

【出土遺物】土師器坏や甕の破片が少量出土している。坏は内面黒色処理と未処理の２種みられ、未処理には体部無調整のものがある。甕は口縁部が短く外反するものである。いずれも図版掲載はしていない。

【小結】検出層序や重複関係、出土遺物から、廃絶年代は平安時代以降と思われる。

（工藤）

第110号土坑（C1ＳＫ－110）（図121）

【位置・確認】IQ－49グリッドに位置する。基本層序第C1Ⅲ層から検出した。

【重複】第109号土坑、第148号ピットと重複する。本遺構が第109号土坑よりも新しく、第148号ピットよりも古い。

【形態・規模】長軸196㎝、短軸87㎝の楕円形を呈し、深さは28㎝を測る。

【壁・底面】壁は底面から緩やかに立ち上がる。底面は平坦である。

【堆積土】１・２層は炭化物や焼土が多量に混入し、４～６層は暗褐色土を主体とする層で比較的平らに堆積する。人為堆積の様相を呈する。

【出土遺物】土師器坏・甕、須恵器坏が少量出土している。土師器では坏は内面黒色処理されたもので、体部外面に段を持つものであるが細片である。甕は底面に木葉痕を持つものが出土している。須恵器坏は１点のみの出土で、胎土が明るい灰色を呈するものである。いずれも図版掲載はしていない。

【小結】堆積土の状況や出土遺物および検出層序から、平安時代以降に埋没したと思われる。

（工藤）

第111号土坑（C1ＳＫ－111）

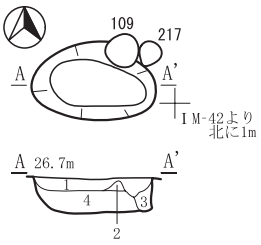
遺構確認時に土坑と認識したが調査段階で遺構と判断しなかったため、欠番とした。

第112号土坑（C1ＳＫ－112）（図122）

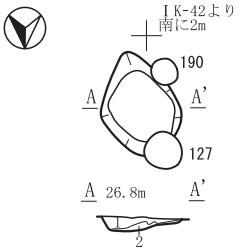
【位置・確認】IＰ－49グリッドに位置する。基本層序第C1Ⅲ層から検出した。

【重複】第103・ 104号溝跡と重複し、本遺構が新しい。

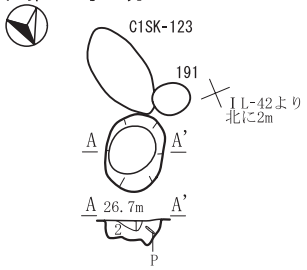
C1区第100号土坑



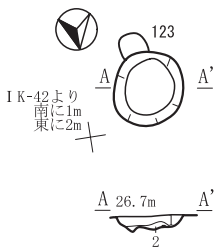
C1区第102号土坑



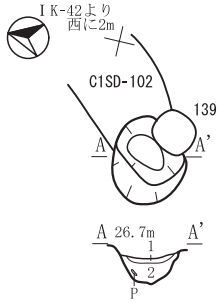
C1区第103号土坑



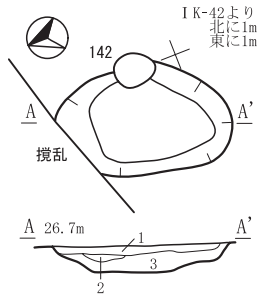
C1区第105号土坑



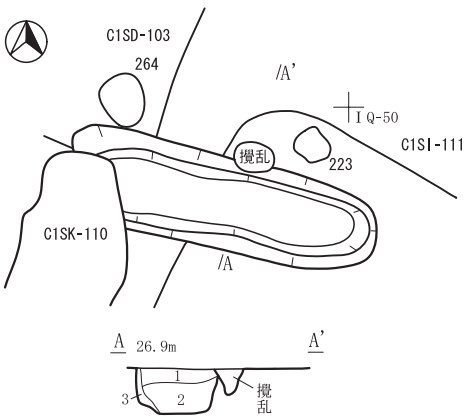
C1区第106号土坑



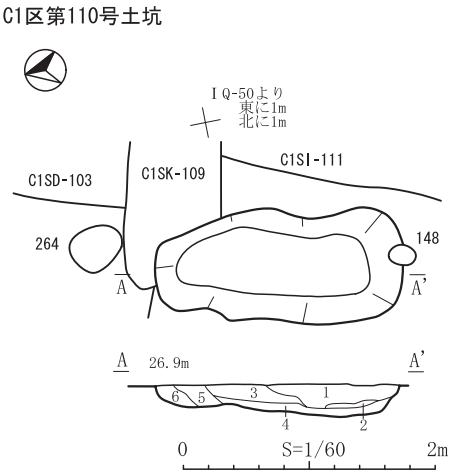
C1区第107号土坑



C1区第109号土坑



C1区第110号土坑



C1区第100号土坑
1層　10YR4/3　にぶい黄褐色土　炭化物(φ1～10㎜)極微量、焼土(φ1～5㎜)極微量、粘性弱、しまり強
2層　10YR5/4　にぶい黄褐色土　粘性中、しまり強
3層　10YR3/4　暗褐色土　粘性中、しまり強
4層　10YR4/4　褐色土　炭化物(φ1～5㎜)極微量、粘性強、しまり弱

C1区第102号土坑
1層　炭化物層　焼土ブロック(φ1～60㎜)微量、粘性なし、しまりなし
2層　10YR4/4　褐色土　浮石(φ1～15㎜)極微量、炭化物(φ1～5㎜)極微量、焼土粒(φ1～5㎜)極微量、粘性強、しまり強

C1区第103号土坑
1層　10YR4/4　褐色土　炭化物(φ1～5㎜)極微量、粘性中、しまり強
2層　10YR4/4　褐色土　焼土ブロック(φ1～25㎜)微量、層全体に炭化物がブロック状に混入、粘性強、しまり強

C1区第105号土坑
1層　10YR3/4　暗褐色土　炭化物(φ1～40㎜)少量、粘性やや中、しまりやや中
2層　10YR3/4　暗褐色土　炭化物(φ1～10㎜)極微量、粘性やや中、しまり弱

C1区第106号土坑
1層　10YR4/4　褐色土　5YR5/6明赤褐色焼土(φ20～30㎜)、炭化物(φ1～3㎜)微量、粘性弱、しまり弱
2層　10YR2/2　黒褐色土　5YR5/6明赤褐色焼土(φ10～20㎜)微量含む、粘性なし、しまりなし

C1区第107号土坑
1層　10YR4/4　褐色土　10YR6/4にぶい黄橙色粘土(φ5～10㎜)3%　炭化物(φ3～5㎜)微量、粘性弱、しまり弱
2層　10YR5/4　にぶい黄褐色土　5YR5/6明赤褐色焼土(φ3～5㎜)2%　炭化物(φ1～3㎜) 薄い板状に含む、粘性中、しまり中
3層　10YR5/6　黄褐色土　7.5YR4/6褐色砂質土(φ2～4㎜)3%　粘性中、しまり中

C1区第109号土坑
1層　10YR4/3　にぶい黄褐色土　粘性弱、しまり強
2層　10YR4/4　褐色土　10YR4/3にぶい黄褐色土多量、炭化物(φ1～10㎜)極微量、粘性弱、しまり強
3層　10YR4/4　褐色土　粘性やや中、しまり強

C1区第110号土坑
1層　10YR3/3　暗褐色土　炭化物層、焼土ブロック(φ1～200㎜)層上層に混入、粘性弱、しまり強
2層　7.5YR4/4　褐色土　炭化物(φ1～20㎜)微量、粘性弱、しまり中
3層　10YR4/4　褐色土　10YR3/3暗褐色土多量、炭化物(φ1～10㎜)極微量、粘性弱、しまり強
4層　10YR3/4　暗褐色土　10YR3/3暗褐色土多量、炭化物(φ1～5㎜)極微量、粘性弱、しまりやや中
5層　10YR4/4　褐色土　10YR3/4暗褐色土多量、粘性弱、しまり強
6層　10YR3/4　暗褐色土　粘性弱、しまり強

図121　C1区土坑（１）

【形態・規模】長軸73㎝、短軸58㎝の楕円形を呈し、深さは21㎝を測る。
【壁・底面】壁は底面から緩やかに立ち上がる。底面は鍋底型である。
【堆積土】暗褐色土を主体とする。人為堆積の様相を呈する。
【出土遺物】遺物は出土しなかった。
【小結】遺構の新旧関係や堆積土の状況および検出層序から、中世以降に埋没したと思われる。

（工藤）

第113号土坑（C1ＳＫ－113）

遺構確認時に遺構と認識したが調査段階で遺構と判断しなかったため、欠番とした。

第114号土坑（C1ＳＫ－114）（図122・127）
【位置・確認】IＰ－48・49グリッドに位置する。第115号竪穴住居跡の完掘後の基本層序第C1Ⅲ層から検出した。
【重複】第115号竪穴住居跡、第116号竪穴遺構、第523・524・528・535・545・552号ピットと重複し、第523・524・528・545号ピットよりも新しく、第115号竪穴住居跡よりも古い。第116号竪穴遺構との新旧関係は判断できなかった。
【形態・規模】長軸192㎝、短軸130㎝の隅丸方形を呈し、深さは24㎝を測る。
【壁・底面】壁は底面から緩やかに立ち上がる。底面は平坦である。
【堆積土】にぶい黄褐色土を主体とし、焼土塊や炭化物が含まれる。２層の堆積状況は平坦である。
【出土遺物】土師器坏・甕が少量出土している。坏は体部外面に段を持つ内面黒色処理のものと（図127－４）、体部外面が無調整のものがある。後者は掲載していない。甕は体部の小破片である。
【小結】遺構の新旧関係や出土遺物および堆積土の状況から、10世紀後半以降に埋没したと思われる。

（工藤）

第115号土坑（C1ＳＫ－115）（図122）
【位置・確認】IＱ－48グリッドに位置する。第130・139号土坑の堆積土から検出した。
【重複】第115号竪穴住居跡、第116号竪穴遺構、第130・139号土坑と重複し、本遺構が第115号竪穴住居跡、第116竪穴遺構、第130・139号土坑よりも新しい。
【形態・規模】長軸71㎝、短軸68㎝の円形を呈し、深さは16㎝を測る。
【壁・底面】壁は底面から緩やかに立ち上がる。底面は鍋底型である。
【堆積土】暗褐色土を主体とする。２層に炭化物が帯状に含まれる。人為堆積の様相を呈する。
【出土遺物】土師器甕破片が出土しているが、１点のみの出土である。掲載はしていない。
【小結】遺構の新旧関係や出土遺物および堆積土の状況から、10世紀後半以降に埋没したと思われる。

第116号土坑（C1ＳＫ－116）（図122・127）
【位置・確認】IＬ・IＭ－39・40グリッドに位置する。基本層序第C1Ⅱ層から検出した。
【重複】なし。

【形態・規模】西側が調査区外に延びるため全容は不明である。長軸254㎝、短軸130㎝の楕円形を呈し、深さは85㎝を測る。
【壁・底面】壁は底面から緩やかに立ち上がる。底面は鍋底型であり西側が深い。
【堆積土】褐色土と黄褐色土を主体とする。にぶい黄褐色粘質土の中塊を多量に含む。人為堆積の様相を呈する。
【出土遺物】土師器坏・壺甕類破片（図127－５）、棒状の鉄製品が出土している。坏は小破片であり内外面ロクロナデ調整を施すものである。壺甕類は内面黒色処理を施すものと、未処理のものが出土している。掲載はしていない。
【小結】本遺構の平面形状から土坑として報告したが、溝跡の可能性も考えられる。検出層序や堆積土の状況及び出土遺物から、平安時代以降に埋没したと思われる。

（工藤）

第117号土坑（C1ＳＫ－117）（図122）
【位置・確認】IO・ＩＰ－49グリッドに位置する。第114号竪穴住居跡・第104号溝跡堆積土から検出した。
【重複】第114号竪穴住居跡、第116号竪穴遺構、第104号溝跡、第508号ピットと重複し、本遺構が新しい。
【形態・規模】長軸89㎝、短軸66㎝の楕円形を呈し、深さは20㎝を測る。
【壁・底面】壁は底面から急に立ち上がる。底面は平坦である。
【堆積土】黒・暗褐色・黄褐色土の層が堆積し、焼土粒が少量含まれる。人為堆積の様相を呈する。
【出土遺物】遺物は出土しなかった。
【小結】遺構の新旧関係、堆積土の状況および検出層序から、中世以降に埋没したと思われる。

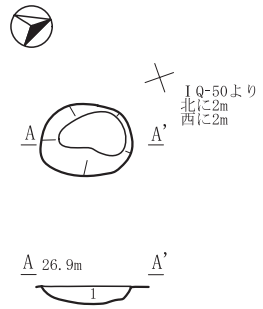
（工藤）

第118号土坑（C1ＳＫ－118）
遺構確認時に遺構と認識したが調査段階で遺構と判断しなかったため、欠番とした。

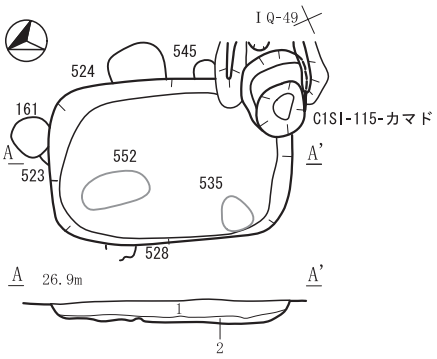
第119号土坑（C1ＳＫ－119）（図122・127）
【位置・確認】ＩＪ・ＩＫ－42グリッドに位置する。基本層序第C1Ⅱ層から検出した。
【重複】第102号溝跡と重複するが、新旧関係は判断できなかった。
【形態・規模】長軸65㎝、短軸62㎝の楕円形を呈し、深さは24㎝を測る。
【壁・底面】壁は底面から緩やかに立ち上がる。底面は鍋底型である。
【堆積土】暗褐色土を主体とし、炭化物と焼土小塊を含む。人為堆積と思われる。
【出土遺物】土師器坏・甕の破片が少量出土している。坏は体部外面が無調整のもの、甕は胴部が直線的で口縁部が短く外反するもの（図127－６）である。
【小結】出土遺物や検出層序および堆積土の状況から、10世紀後半以降に埋没したと思われる。

（工藤）

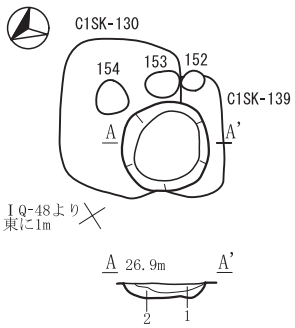
C1区第112号土坑



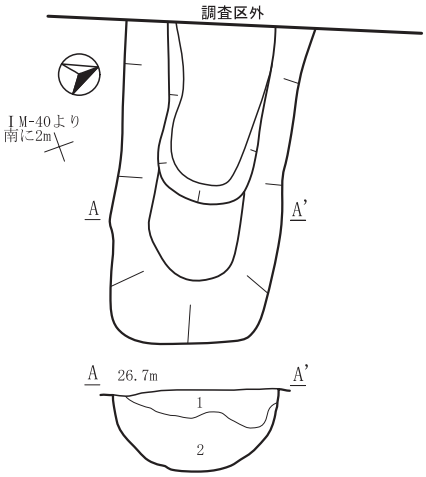
C1区第114号土坑



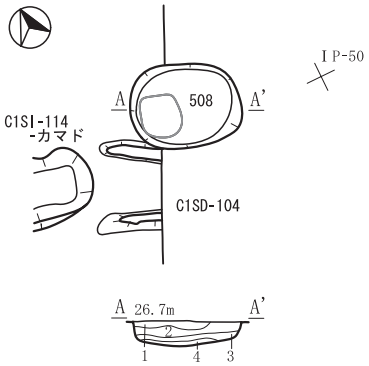
C1区第115号土坑



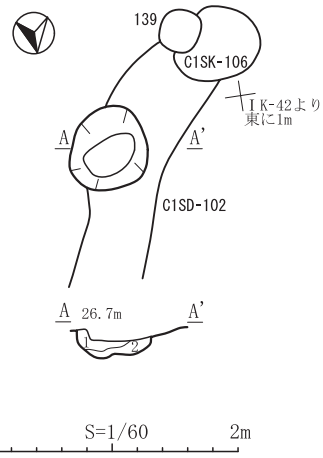
C1区第116号土坑



C1区第117号土坑



C1区第119号土坑



C1区第112号土坑
1層　10YR3/3　暗褐色土　　粘性中、しまり強

C1区第114号土坑
1層　10YR5/4　にぶい黄褐色土　焼土ブロック(φ1～2㎜)極微量、炭化物(φ1～2㎜)極微量、粘性弱、しまり強
2層　10YR4/4　褐色土　　炭化物(φ1～2㎜)極微量、粘性中、しまり強

C1区第115号土坑
1層　10YR3/4　暗褐色土　　炭化物(φ1～10㎜)極微量、粘性弱、しまり強
2層　10YR3/3　暗褐色土　　層全体に炭化物(φ1～40㎜)帯状に混入、粘性中、しまり弱

C1区第116号土坑
1層　10YR4/4　褐色土　　10YR2/2黒褐色粘質土、10YR5/3にぶい黄褐色粘質土多量、粘性強、しまり強
2層　10YR5/6　黄褐色土　　10YR2/2黒褐色粘質土、10YR5/3にぶい黄褐色質土多量、粘性中、しまり中

C1区第117号土坑
1層　10YR3/2　黒褐色土　　炭化物(φ1～5㎜)極微量、焼土粒(φ1～3㎜)極微量、粘性やや中、しまり弱
2層　10YR3/3　暗褐色土　　炭化物(φ1～10㎜)極微量、粘性弱、しまり弱
3層　10YR4/2　灰黄褐色土　　粘性やや中、しまり弱
4層　10YR4/3　にぶい黄褐色土　粘性弱、しまりやや中

C1区第119号土坑
1層　10YR3/4　暗褐色土　　粘性弱、しまり強
2層　10YR3/4　暗褐色土　　炭化物(φ1～10㎜)極微量、焼土粒(φ1～20㎜)微量、粘性弱、しまりやや強

図122　C1区土坑（2）

第120号土坑（C1ＳＫ－120）（図123）

【位置・確認】ＩＫ－41・42グリッドに位置する。基本層序第C1Ⅱ層から検出した。

【重複】第118・119・195号ピットと重複する。第195号ピットより新しく、第118・119号ピットよりも古い。

【形態・規模】長軸135㎝、短軸59㎝の隅丸方形を呈し、深さは41㎝を測る。

【壁・底面】壁東側は緩やかに、西側は急に立ち上がる。東側の底面は鍋底型で、西側は平坦である。

【堆積土】１層は炭化物層であり、焼土塊も混入する。人為堆積の様相を呈する。

【出土遺物】土師器坏・甕の細片が少量と、板状の不明鉄製品が出土している。土師器坏は、風化による器体外面の剥落が著しい。掲載はしていない。

【小結】底面の東側を掘り込み、底面を平坦に造り出した後に炭化物や焼土を含む土を人為的に埋めた可能性がある。検出層序や堆積土の状況および出土遺物から、平安時代以降に埋没したと思われる。

（工藤）

第121号土坑（C1ＳＫ－121）（図123）

【位置・確認】ＩＫ－41グリッドに位置する。基本層序第C1Ⅱ層から検出した。

【重複】なし。

【形態・規模】長軸52㎝、短軸44㎝の楕円形を呈し、深さは25㎝を測る。

【壁・底面】壁は底面から緩やかに立ち上がる。底面は鍋底型である。

【堆積土】にぶい黄褐色土を主体とする。人為堆積の様相を呈する。

【出土遺物】遺物は出土しなかった。

【小結】平面規模が小さく、また底面形状から、柱穴の可能性もある。検出層序や堆積土の状況から、平安時代以降に埋没したと思われる。

（工藤）

第122号土坑（C1ＳＫ－122）（図123・127）

【位置・確認】ＩＫ・ＩＬ－42グリッドに位置する。基本層序第C1Ⅱ層から検出した。

【重複】なし。

【形態・規模】東側が調査時の試掘溝に破壊されている。現存長軸62㎝、短軸55㎝の円形を呈し、深さは22㎝を測る。

【壁・底面】壁は底面から緩やかに立ち上がる。底面は鍋底型である。

【堆積土】２層には焼土が混入する。人為堆積の様相を呈する。

【出土遺物】１・２層から、土師器坏・甕破片が少数出土している。坏は体部外面が無調整のものであり、甕は胴部が直線的で口縁部が短く外反するものや、網代痕が底面に残る底部破片がある。掲載はしていない。

【小結】検出層序や堆積土の状況および出土遺物から、10世紀後半以降に埋没したと思われる。

（工藤）

第123号土坑（C1ＳＫ－123）（図123・127）

【位置・確認】ＩＫ－42グリッドに位置する。基本層序第C1Ⅱ層から検出した。

【重複】第103号土坑、第191号ピットと重複し、本遺構が古い。

【形態・規模】長軸75㎝、短軸40㎝の楕円形を呈し、深さは10㎝を測る。

【壁・底面】壁は底面から緩やかに立ち上がる。底面は凹凸がある。

【堆積土】焼土粒が混入する褐色土を主体とする。人為堆積の様相を呈する。

【出土遺物】１層や底面から土師器甕破片が出土しており、口縁部の外反が短く弱いもの（図127－８）が出土している。

【小結】検出層序や堆積土の状況および出土遺物から、平安時代後半以降に埋没したと思われる。

（工藤）

第124号土坑（C1ＳＫ－124）（図123）

【位置・確認】ＩＰ－48グリッドに位置する。第115号竪穴住居跡堆積土から検出した。

【重複】第115号竪穴住居跡、第116号竪穴遺構、第521・528・529号ピットと重複し、本遺構が第115号竪穴住居跡、第521・528・529号ピットよりも新しい。第116号竪穴遺構との新旧関係は判断できなかった。

【形態・規模】長軸69㎝、短軸63㎝の楕円形を呈し、深さは20㎝を測る。

【壁・底面】壁は底面から緩やかに立ち上がる。底面は鍋底型である。

【堆積土】暗褐色土を主体とし、炭化物や焼土粒を含む。

【出土遺物】１・２層から土師器坏・甕破片が少量出土している。坏は内面黒色処理と未処理のものがあり、黒色処理のものの底面はナデによる再調整を行うものである。未処理のものは体部外面が未調整のものである。甕はすべて胴部細片であり、外面に刷毛目による調整を施すものもわずかにみられる。掲載はしていない。

【小結】検出層序や新旧関係、出土遺物から、10世紀後半以降に埋没したと思われる。

（工藤）

第125号土坑（C1ＳＫ－125）（図123）

【位置・確認】ＩＱ－48グリッドに位置する。第115・117号竪穴住居跡堆積土から検出した。

【重複】第115・117号竪穴住居跡、第139号土坑、第151号ピットと重複し、第115・117号竪穴住居跡よりも新しく、第151号ピットよりも古い。第116号竪穴遺構、第139号土坑との新旧関係は判断できなかった。

【形態・規模】長軸102㎝、短軸75㎝の楕円形を呈し、深さは32㎝を測る。

【壁・底面】壁は底面から緩やかに立ち上がる。底面は鍋底型である。

【堆積土】にぶい黄褐色土を主体とし、焼土・炭化物粒を全体に含む。人為堆積の様相を呈する。

【出土遺物】３・５・７層から土師器坏・甕、２層から須恵器壺破片が出土している。土師器坏は細片で少数であり、内外面にロクロナデを施したものが出土している。甕は口縁部がわずかに外反するものがみられる。須恵器壺は内面に黒色物質が付着するものである。図版掲載はしていない。

【小結】出土遺物、新旧関係および堆積土の状況から、10世紀後半以降の埋没と思われる。

（工藤）

第126号土坑（C1ＳＫ－126）（図123）

【位置・確認】ＩＯ－48グリッドに位置する。基本層序第C1Ⅲ層から検出した。

【重複】第235・236号ピットと重複し、本遺構が古い。

【形態・規模】現存長軸75㎝、短軸48㎝の楕円形を呈し、深さは10㎝を測る。

【壁・底面】壁は底面から緩やかに立ち上がる。底面は平坦である。

【堆積土】にぶい黄褐色土を主体とする。人為堆積の様相を呈する。

【出土遺物】遺物は出土しなかった。

【小結】検出層序や堆積土の状況から、古代以降に埋没したと思われる。

（工藤）

第127号土坑（C1ＳＫ－127）（図123）

【位置・確認】ＩＰ－47・48グリッドに位置する。基本層序第C1Ⅲ層から検出した。

【重複】第116号竪穴遺構、第132号土坑と重複し、本遺構が新しい。

【形態・規模】長軸55㎝、短軸50㎝の円形を呈し、深さは21㎝を測る。

【壁・底面】壁は底面から緩やかに立ち上がる。底面は平坦である。

【堆積土】褐色土を主体とし、炭化物を含む。

【出土遺物】遺物は出土しなかった。

【小結】検出層序や堆積土の状況から、10世紀後半以降に埋没したと思われる。

（工藤）

第128号土坑（C1ＳＫ－128）（図123）

【位置・確認】ＩＰ－49グリッドに位置する。基本層序第C1Ⅲ層から検出した。

【重複】第114・115号竪穴住居跡、第116号竪穴遺構、第530・557・558号ピットと重複し、第114・115号竪穴住居跡、第530・557・558号ピットよりも新しい。第116号竪穴遺構との新旧関係は判断できなかった。

【形態・規模】長軸79㎝、短軸73㎝の円形を呈し、深さは９㎝を測る。

【壁・底面】壁は底面から緩やかに立ち上がる。底面には凹凸がある。

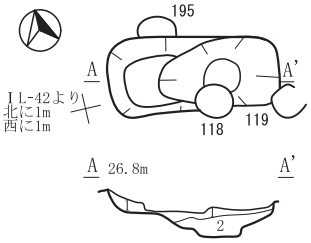
【堆積土】褐色土を主体とし、にぶい黄褐色粘土小・中塊を多量に含む。炭化物小塊を微量に含み、人為堆積の様相を呈する。

【出土遺物】堆積土から、土師器甕破片が少量出土している。甕は底部と胴部破片であり、底面に網代痕が残存するものである。掲載はしていない。

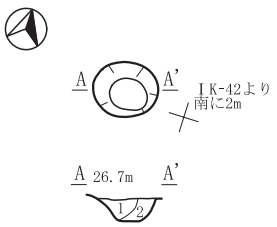
【小結】遺構の新旧関係や出土遺物および検出層序から、10世紀後半以降に埋没したと思われる。

（工藤）

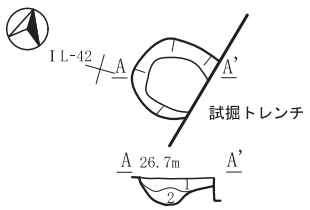
C1区第120号土坑



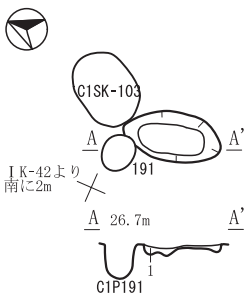
C1区第121号土坑



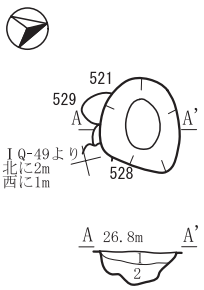
C1区第122号土坑



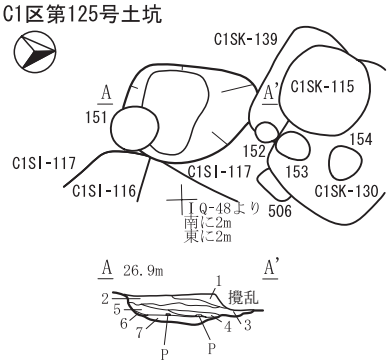
C1区第123号土坑



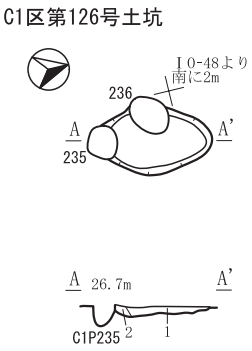
C1区第124号土坑



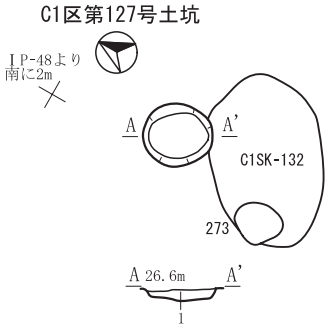
C1区第125号土坑



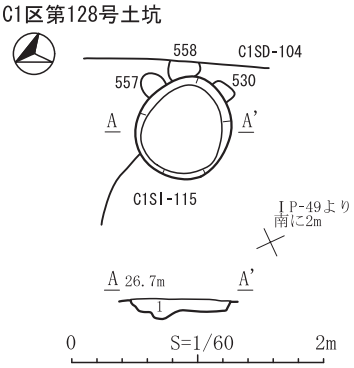
C1区第126号土坑



C1区第127号土坑



C1区第128号土坑



C1区第120号土坑
1層　　炭化物層
2層　10YR5/4　にぶい黄褐色土　10YR4/4褐色土多量、炭化物(φ1～5㎜)極微量、粘性やや強、しまり強

C1区第121号土坑
1層　10YR5/4　にぶい黄褐色土　10YR5/6黄褐色粘土多量、炭化物極微量、粘性強、しまり強
2層　10YR4/4　褐色土　10YR5/6黄褐色粘土多量、粘性強、しまり強

C1区第122号土坑
1層　10YR4/4　褐色土　炭化物(φ1～10㎜)微量、焼土(φ1～3㎜)極微量、粘性弱、しまり強
2層　10YR2/1　黒色土　層全体に炭化物、焼土(φ1～50㎜)微量、粘性弱、しまり弱

C1区第123号土坑
1層　10YR4/4　褐色土　炭化物(φ1～10㎜)極微量、焼土粒(φ1～5㎜)極微量、粘性弱、しまり強

C1区第124号土坑
1層　10YR4/4　褐色土　炭化物(φ1～30㎜)微量、焼土粒(φ1～2㎜)極微量、粘性弱、しまり強
2層　10YR3/4　暗褐色土　炭化物(φ1～3㎜)極微量、焼土粒(φ1～2㎜)極微量、粘性弱、しまり強

C1区第125号土坑
1層　10YR4/4　褐色土　炭化物(φ1～3㎜)極微量、粘性弱、しまり強
2層　10YR4/4　褐色土　10YR4/3にぶい黄褐色土多量、炭化物(φ1～3㎜)極微量、粘性やや中、しまり強
3層　10YR4/4　褐色土　粘性弱、しまり強
4層　10YR4/3　にぶい黄褐色土　焼土粒(φ1～3㎜)極微量、粘性弱、しまり強
5層　10YR4/3　にぶい黄褐色土　灰、炭化層、粘性弱、しまり強
6層　10YR5/4　にぶい黄褐色土　粘性やや中、しまり強
7層　10YR4/3　にぶい黄褐色土　炭化物(φ1～10㎜)微量、粘性弱、しまり強

C1区第126号土坑
1層　10YR4/3　にぶい黄褐色土　10YR5/4にぶい黄褐色土多量、炭化物(φ1～5㎜)微量、粘性弱、しまりやや強
2層　10YR5/4　にぶい黄褐色土　粘性弱、しまり強

C1区第127号土坑
1層　10YR4/4　褐色土　炭化物(φ1～5㎜)極微量、粘性弱、しまりやや強

C1区第128号土坑
1層　10YR4/4　褐色土　10YR5/3にぶい黄褐色粘土多量、炭化物(φ1～2㎜)極微量、粘性やや強、しまり強

図123　C1区土坑（3）

第129号土坑（C1ＳＫ－129）（図124）

【位置・確認】ＩＱ－49グリッドに位置する。基本層序第C1Ⅲ層から検出した。

【重複】第111号竪穴住居跡と重複し、新旧関係は判断できなかった。

【形態・規模】長軸65㎝、短軸42㎝の楕円形を呈し、深さは11㎝を測る。

【壁・底面】壁は底面から緩やかに立ち上がる。底面は平坦である。

【堆積土】褐色土を主体とし、暗褐色土が多量に混入する。

【出土遺物】土師器坏・甕破片が出土している。土師器坏は体部外面が無調整のものであり、甕には外面に縦方向の刷毛目を施すものもあるが細片である。

【小結】本遺構は第111号竪穴住居跡の中央からやや南西部で検出されており、位置的に第111号竪穴住居跡の付属施設の可能性があるものであるが確認できなかった。検出層序や新旧関係、出土遺物から、10世紀後半以降に埋没したと思われる。

（工藤）

第130号土坑（C1ＳＫ－130）（図124）

【位置・確認】ＩＱ－48グリッドに位置する。基本層序第C1Ⅲ層から検出した。第115・117号竪穴住居跡、第146号土坑、第506号ピット堆積土より検出した。

【重複】第115・117号竪穴住居跡、第116号竪穴遺構、第115・139・145号土坑、第153・154・506号ピットと重複し、第115・117号竪穴住居跡、第139・145号土坑、第506号ピットよりも新しく、第115号土坑、第153・154号ピットよりも古い。第116号竪穴遺構との新旧関係は判断できなかった。

【形態・規模】長軸123㎝、短軸96㎝の隅丸方形を呈し、深さは68㎝を測る。

【壁・底面】壁は底面からほぼ垂直に立ち上がる。底面は平坦である。

【堆積土】にぶい黄褐色粘土が底層から中層にかけて厚く堆積し、その上層に最大約10㎝の層厚を持つ灰層が堆積し、最上層はにぶい黄褐色土が堆積する。人為堆積の様相を呈する。

【出土遺物】土師器、石製品、焼成粘土塊が出土している。土師器は甕の破片で、底面に木葉痕が残存する底部破片と胴部が少数である。石製品は砥石である。２層から出土し、砥面を４面有するものであり、仕上げ砥と思われるものである。石質は凝灰岩である。焼成粘土塊は直径2.5～３㎝を測るものである。掲載はしていない。

【小結】平面形態および規模から土坑としたが、竪穴遺構の可能性も考えられる。遺構の新旧関係や出土遺物および堆積土の状況から、10世紀後半以降に埋没したと思われる。

（工藤）

第131号土坑（C1ＳＫ－131）（図124）

【位置・確認】ＩＯ－48グリッドに位置する。基本層序第C1Ⅲ層から検出した。

【重複】第116号竪穴遺構、第212・214号ピットと重複し、第212・214号ピットより古い。第116号竪穴遺構との新旧関係は判断できなかった。

【形態・規模】長軸141㎝、短軸120㎝の楕円形を呈し、深さは32㎝を測る。

【壁・底面】壁は底面からほぼ垂直に立ち上がる。底面は全体に凹凸が激しい。
【堆積土】にぶい黄褐色土や褐色土を主体とする。下層にはにぶい黄橙色粘土を多量に含み、人為堆積の様相を呈する。
【出土遺物】土師器は坏・甕が出土している。土師器坏は体部外面が無調整のもの、甕は胴部が直線的で口縁部が短く外反するものがある。また、胴部外面に縦方向の刷毛目を施すものも少数みられるが細片である。
【小結】出土遺物や遺構の新旧関係および検出層序から、10世紀後半以降に埋没したと思われる。

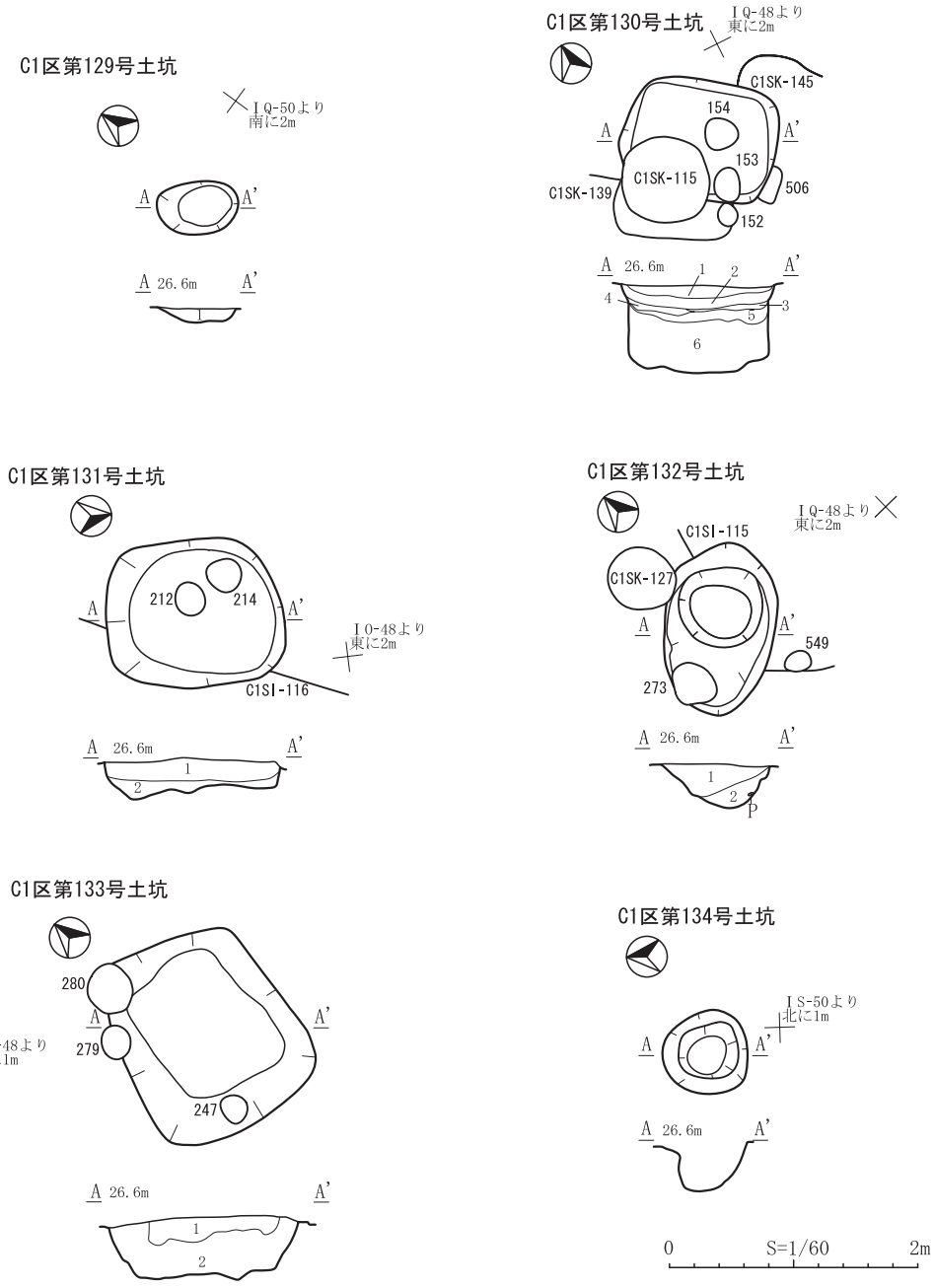
（工藤）

第132号土坑（C1ＳＫ－132）（図124）
【位置・確認】ＩＰ・ＩＱ－47・48グリッドに位置する。第115・117号竪穴住居跡、第116号竪穴遺構の堆積土から検出した。
【重複】第115・117号竪穴住居跡、第116号竪穴遺構、第127号土坑、第273号ピットと重複し、第115・117号竪穴住居跡よりも新しく、第127号土坑、第273号ピットよりも古い。第116号竪穴遺構との新旧関係は判断できなかった。
【形態・規模】長軸139㎝、短軸82㎝の楕円形を呈し、深さは35㎝を測る。
【壁・底面】壁は底面から緩やかに立ち上がる。底面は鍋底型である。
【堆積土】褐色土やにぶい黄褐色土を主体とする。２層中には、にぶい黄橙色粘質土が多量に混入する。
【出土遺物】土師器坏・甕破片が少量出土している。土師器坏は、形状が皿に近い扁平なもので、口縁部が短く水平に屈曲するものである。甕は胴部破片である。掲載はしていない。
【小結】新旧関係や出土遺物から、10世紀後半以降に埋没したと思われる。

（工藤）

第133号土坑（C1ＳＫ－133）（図124・127）
【位置・確認】IP－48グリッドに位置する。第115号竪穴住居跡、第116号竪穴遺構の堆積土から検出した。
【重複】第115号竪穴住居跡、第116号竪穴遺構、第247・279・280号ピットと重複し、第115号竪穴住居跡、第247・279・280号ピットよりも古い。第116号竪穴遺構との新旧関係は判断できなかった。
【形態・規模】長軸163㎝、短軸136㎝の方形を呈し、深さは50㎝を測る。
【壁・底面】壁は底面から急に立ち上がる。底面は凹凸があり北側が最も深い。
【堆積土】褐色土を主体とし、にぶい黄橙色粘土や明褐色粘土の小～中塊を多量に含む。人為堆積の様相を呈する。
【出土遺物】土師器坏・甕、須恵器壺、ウマの左側上顎骨が出土している。土師器坏は内外面ロクロ成形のものである。甕は口縁部と胴部破片があり、台付甕の台部と思われるもの（図127－９）であり、須恵器は底部破片（図127－10）で、２層から出土した。ウマは１層から出土している。
【小結】新旧関係や出土遺物から、平安時代以降に埋没したと思われる。

（工藤）



C1区第129号土坑

1層	10YR4/4	褐色土	10YR3/3暗褐色土多量、粘性やや強、しまり強

C1区第130号土坑

1層	10YR4/3	にぶい黄褐色土	炭化物(φ1～5㎜)極微量、粘性弱、しまり強
2層	10YR4/3	にぶい黄褐色土	炭化物(φ1～3㎜)極微量、焼土(φ1～15㎜)極微量、粘性弱、しまり強
3層		灰層	10YR4/3にぶい黄褐色土ブロック状に混入、炭化物(φ1～25㎜)微量、焼土粒(φ1～15㎜)少量、粘性弱、しまり弱
4層	10YR4/4	褐色土	炭化物(φ1～5㎜)微量、焼土ブロック(φ1～50㎜)中量、粘性中、しまり弱
5層		灰層	炭化物(φ1～10㎜)極微量、焼土(φ1～10㎜)微量、第C1Ⅱ層がブロック状に混入、粘性弱、しまり弱
6層	10YR5/4	にぶい黄褐色粘土	10YR3/3暗褐色粘土多量、粘性強、しまり強

C1区第131号土坑

1層	10YR4/3	にぶい黄褐色土	10YR4/4褐色土多量、炭化物(φ1～15㎜)微量、焼土粒(φ1～10㎜)極微量、粘性やや中、しまり強
2層	10YR4/4	褐色土	10YR4/3にぶい黄褐色土多量、炭化物(φ1～5㎜)極微量、焼土粒(φ1～5㎜)極微量、粘性やや中、しまり強

C1区第132号土坑

1層	10YR4/4	褐色土	粘性中、しまり強
2層	10YR4/3	にぶい黄褐色土	10YR6/4にぶい黄橙色粘土多量、粘性中、しまり強

C1区第133号土坑

1層	10YR4/3	にぶい黄褐色土	10YR5/4にぶい黄褐色粘土多量、粘性中、しまりやや強
2層	10YR4/4	褐色土	10YR6/4にぶい黄橙色粘土、7.5YR5/6明褐色粘土多量、粘性強、しまり強

図124　C1区土坑（４）

第134号土坑（C1ＳＫ－134）（図124）

【位置・確認】IR－49・50グリッドに位置する。基本層序第C1Ⅲ層から検出した。

【重複】第110号竪穴遺構と重複するが、新旧関係は判断できなかった。

【形態・規模】長軸68㎝、短軸66㎝の円形を呈し、深さは41㎝を測る。

【壁・底面】壁は底面から急に立ち上がる。底面は鍋底型である。

【堆積土】にぶい黄褐色土を主体とするが、断面図を作成しなかったため詳細は不明である。

【出土遺物】堆積土から、口縁部が短く外反する土師器甕の破片が１点出土している。

【小結】本遺構はその位置や深さから、第110号竪穴遺構に伴う遺構の可能性もある。新旧関係や出土遺物および堆積土の状況から、平安時代以降に埋没したものと思われる。

（工藤）

第135号土坑（C1ＳＫ－135）（図125）

【位置・確認】IP－50グリッドに位置する。第113号竪穴遺構堆積土と基本層序第C1Ⅲ層から検出した。

【重複】第113号竪穴遺構、第502号ピットと重複し、本遺構が古い。

【形態・規模】長軸195㎝、短軸92㎝の不整楕円形を呈し、深さは39㎝を測る。

【壁・底面】東部や西部の壁は底面から急に立ち上り、北部や南西部では緩やかである。底面は比較的平坦である。

【堆積土】にぶい黄褐色土や褐色土を主体とするが、断面図を作成していないため詳細は不明である。

【出土遺物】土師器坏や甕が出土しているが、細片であり量的にも少ない。坏は内面黒色処理を施すものである。

【小結】遺構の新旧関係や出土遺物および堆積土から、平安時代以降に埋没したものと思われる。

（工藤）

第136号土坑（C1ＳＫ－136）

遺構確認時に遺構と認識したが調査段階で遺構と判断しなかったため、欠番とした。

第137号土坑（C1ＳＫ－137）

遺構確認時に遺構と認識したが調査段階で遺構と判断しなかったため、欠番とした。

第138号土坑（C1ＳＫ－138）（図125）

【位置・確認】IR－49グリッドに位置する。基本層序第C1Ⅲ層から検出した。

【重複】第108・109号竪穴遺構と重複し、第108号竪穴遺構よりも古い。第109号竪穴遺構との新旧関係は判断できなかった。

【形態・規模】北西部を第108号竪穴遺構に破壊されるため全容は不明であるが、現存長軸72㎝、短軸64㎝の楕円形を呈し、深さは15㎝を測る。

【壁・底面】壁は底面から緩やかに立ち上がる。底面は全体に凹凸がある。

【堆積土】灰黄褐色土が堆積していた。断面図を作成していないため詳細は不明である。
【出土遺物】堆積土から土師器甕の細片が少量出土している。
【小結】遺構の新旧関係や出土遺物および堆積土の状況から、平安時代以降に埋没したものと思われる。
（工藤）

第139号土坑（C1ＳＫ－139）（図125）
【位置・確認】IQ－48グリッドに位置する。基本層序第C1Ⅲ層から検出した。
【重複】第115・第117号竪穴住居跡、第116号竪穴遺構、第115・125・130号土坑、第152号ピットと重複し、本遺構が第115・130号土坑、第152号ピットよりも古い。第115・第117号竪穴住居跡、第116号竪穴遺構、第125号土坑との新旧関係は判断できなかった。
【形態・規模】第152号ピットや第115・130号土坑に破壊されるため全容は不明であるが、現存長軸92㎝、短軸13㎝の楕円形を呈し、深さは18㎝を測る。
【壁・底面】壁は底面から緩やかに立ち上がる。底面は凹凸がある。
【堆積土】にぶい黄褐色土と褐色土を主体とする。
【出土遺物】遺物は出土しなかった。
【小結】遺構の新旧関係や出土遺物および堆積土の状況から、10世紀後半以降に埋没したと思われる。
（工藤）

第140号土坑（C1ＳＫ－140）
遺構確認時に遺構と認識したが調査段階で遺構と判断しなかったため、欠番とした。

第141号土坑（C1ＳＫ－141）（図94）
【位置・確認】IP－48グリッドに位置する。基本層序第C1Ⅲ層から検出した。
【重複】第115号竪穴住居跡、第116号竪穴遺構、第167・168号ピットと重複し、第115号竪穴住居跡、第167・168号ピットより古い。第116号竪穴遺構との新旧関係は判断できなかった。
【形態・規模】長軸120㎝、短軸83㎝の楕円形を呈し、深さは34㎝を測る。
【壁・底面】壁の立ち上がりは北東が急であり南西が比較的緩やかに立ち上がる。底面は平坦でなだらかである。
【堆積土】にぶい黄褐色土を主体とし、焼土粒を微量に含む。
【出土遺物】堆積土から土師器甕の破片が１点、また被熱し赤化した軽石の大塊が出土している。
【小結】遺構の新旧関係や出土遺物および堆積土の状況から、平安時代以降に埋没したと思われる。
（工藤）

第142号土坑（C1ＳＫ－142）（図125）
【位置・確認】IQ－48グリッドに位置する。基本層序第C1Ⅲ層から検出した。
【重複】第115・117号竪穴住居跡、第144・145号土坑、第275号ピットと重複し、本遺構が第116号

竪穴遺構よりも新しく、第115号竪穴住居跡、第144号土坑よりも古い。第116号竪穴遺構、第117号竪穴住居跡、第145号土坑、第275号ピットとの新旧関係は判断できなかった。
【形態・規模】第144号土坑、第275号ピットに破壊されるため全容は不明であるが、現存長軸36㎝、短軸33㎝の楕円形を呈し、深さは32㎝を測る。
【壁・底面】壁は底面から緩やかに立ち上がる。底面は平坦である。
【堆積土】遺構断面図を作成しなかったため、詳細は不明である。
【出土遺物】遺物は出土しなかった。
【小結】遺構の新旧関係や堆積土の状況および検出層序から、平安時代以降に埋没したと思われる。

（工藤）

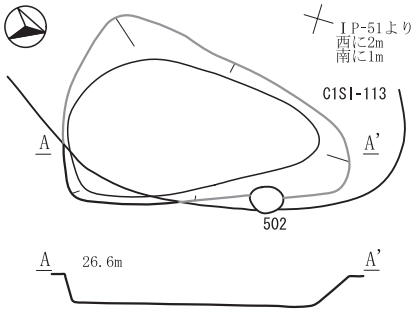
第143号土坑（C1ＳＫ－143）（図125）
【位置・確認】IQ－48グリッドに位置する。基本層序第C1Ⅲ層から検出した。
【重複】第115号竪穴住居跡、第116号竪穴遺構、第144号土坑、第500号ピットと重複し、第500号ピットよりも新しく、第115号竪穴住居跡、第144号土坑よりも古い。第116号竪穴遺構との新旧関係は判断できなかった。
【形態・規模】長軸第57㎝、短軸43㎝の楕円形を呈し、深さは29㎝を測る。
【壁・底面】壁は底面から急に立ち上がる。底面はなだらかでピットに類似する。
【堆積土】黒褐色土の上面に焼土を含む褐色土が堆積しており、人為堆積の様相を呈する。
【出土遺物】土師器甕の細片が１点出土している。掲載はしていない。
【小結】本遺構は平面規模や底面形態から、柱穴の可能性もある。遺構の新旧関係から、平安時代以降に埋没したと思われる。

（工藤）

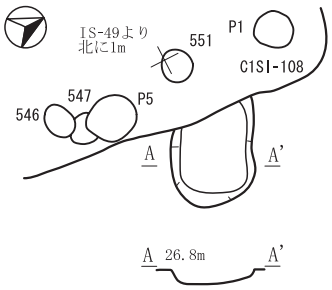
第144号土坑（C1ＳＫ－144）（図125）
【位置・確認】ＩＱ－48グリッドに位置する。基本層序第C1Ⅲ層から検出した。
【重複】第115号竪穴住居跡、第116号竪穴遺構、第142・143・145号土坑、第248・275・294号ピットと重複し、第142・143・145号土坑よりも新しく、第115号竪穴住居跡、第248・275・294号ピットよりも古い。第116号竪穴遺構との新旧関係は判断できなかった。
【形態・規模】長軸137㎝、短軸98㎝の楕円形を呈し、深さは37㎝を測る。
【壁・底面】壁は底面から緩やかに立ち上がる。底面は凹凸が激しい。
【堆積土】炭化物と焼土粒を含む褐色土と黒褐色土を主体とする。人為堆積の様相を呈する。
【出土遺物】堆積土から土師器坏、甕の破片が出土している。土師器坏は体部無調整のものが少数であり、甕は胴部が直線的で口縁部が短く外反するものと強く外反するものがある。また、頸部に横位に沈線を施文し体部外面に刷毛目を施すものも細片が少数みられる。
【小結】出土遺物や堆積土の状況および検出層序から、10世紀後半以降に埋没したものと思われる。

（工藤）

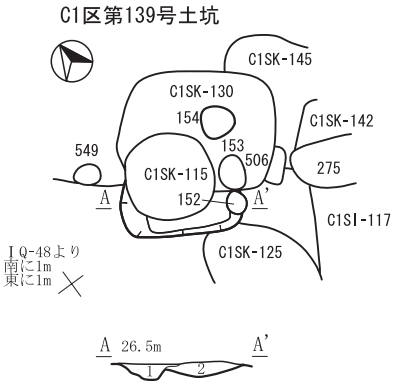
C1区第135号土坑



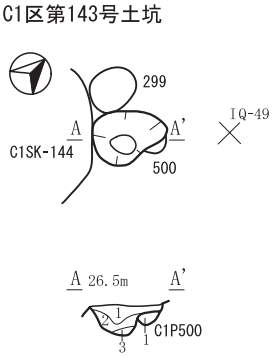
C1区第138号土坑



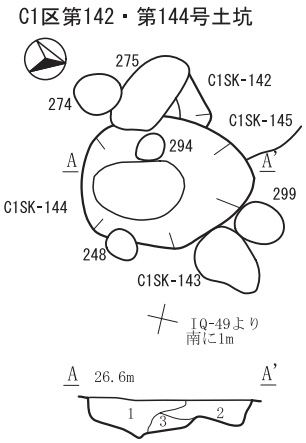
C1区第139号土坑



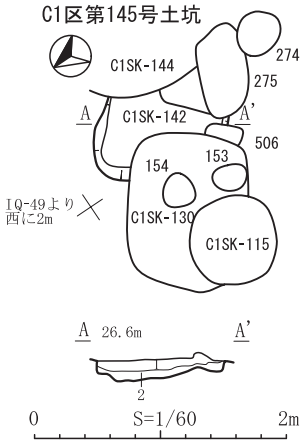
C1区第143号土坑



C1区第142・第144号土坑



C1区第145号土坑



C1区第139号土坑
1層　10YR4/3　にぶい黄褐色土　10YR5/2灰黄褐色土が混入、粘性弱、しまり中
2層　10YR4/4　褐色土　粘性中、しまり中

C1区第143号土坑
1層　10YR4/4　褐色土　炭化物(φ1～15㎜)微量、焼土粒(φ1～10㎜)微量、灰ブロック状に混入、粘性弱、しまり強
2層　10YR3/1　黒褐色土　10YR4/4褐色土ブロック状に混入、粘性弱、しまり弱
3層　10YR5/4　にぶい黄褐色土　粘性強、しまり中
C1P500
1層　10YR5/4　にぶい黄褐色土　粘性強、しまり中

C1区第144号土坑
1層　10YR4/4　褐色土　10YR5/4にぶい黄褐色土多量、炭化物(φ1～15㎜)微量、焼土粒(φ1～15㎜)極微量、粘性弱、しまり強
2層　10YR3/2　黒褐色　10YR4/3にぶい黄褐色土多量、10YR4/4褐色土ブロック状に混入、炭化物(φ1～10㎜)中量、焼土粒(φ1～10㎜)中量、粘性弱、しまりやや強
3層　10YR4/4　褐色土　炭化物(φ1～10㎜)極微量、粘性弱、しまり強

C1区第145号土坑
1層　10YR4/3　にぶい黄褐色土　炭化物(φ1～20㎜)極微量、粘性弱、しまり強
2層　10YR4/4　褐色土　炭化物(φ1～5㎜)極微量、焼土粒(φ1～3㎜)極微量、粘性やや中、しまり強

図125　C1区土坑（５）

第145号土坑（C1ＳＫ－145）（図125）

【位置・確認】ＩＱ－48グリッドに位置する。基本層序第C1Ⅲ層から検出した。

【重複】第115号竪穴住居跡、第116号竪穴遺構、第130・144・142号土坑、第275・506号ピットと重複し、第115号竪穴住居跡、第130・144号土坑、第506号ピットよりも古い。第116号竪穴遺構、第142号土坑、第275号ピットとの新旧関係は判断できなかった。

【形態・規模】第142・144・130号土坑、第275・506号ピットと重複するため全容は不明であるが、現存長軸98㎝、短軸67㎝の不定形を呈するものと思われ、深さは27㎝を測る。

【壁・底面】壁は底面から急に立ち上がる。底面は平坦である。

【堆積土】にぶい黄褐色土や褐色土を主体とし、炭化物や焼土粒を含む。人為堆積の様相を呈する。

【出土遺物】遺物は出土しなかった。

【小結】遺構の新旧関係や堆積土の状況および検出層序から、平安時代以降に埋没したと思われる。

（工藤）

第146号土坑（C1ＳＫ－146）（図126・127）

【位置・確認】ＩＮ－50グリッドに位置する。耕作土直下基本層序第C1Ⅳ層で検出した。

【重複】なし。

【形態・規模】長軸120㎝、短軸108㎝の不整円形を呈し、深さは48㎝を測る。

【壁・底面】壁は底面からほぼ垂直に立ち上がる。底面は基本層序第C1Ⅶ層に達し、凹凸が顕著である。

【堆積土】１層は黒色土が主体となり、土器片を多く含む。黒色土が主体となる薄層（３層）が介在するものの、２層と４層は、色調、混入物が共通し、人為堆積的様相を呈する。

【出土遺物】堆積土中より、土師器の小片が出土している。１層から土師器甕（図127－11～13）、４層より欠損品ではあるが鍬・鋤先(図127－14)が出土している。

【小結】本遺構は、上部が攪乱によって大きく削平されており、全体形状については不明な点が多い。本来の掘り込み面が第C1Ⅱ層のレベルとみれば、遺構の深度から井戸跡となる可能性がある。帰属時期については、出土遺物から平安時代と考えられる。

（斉藤）

第147号土坑（C1ＳＫ－147）

第103号井戸跡に名称変更したため欠番とした。

第148号土坑（C1ＳＫ－148）（図126）

【位置・確認】ＩＱ－47グリッドに位置する。基本層序第C1Ⅰ層直下で検出した。

【重複】第117号竪穴住居跡と重複し、これよりも新しい。

【形態・規模】南西側が調査区外に入るため全体形状は不明であるが、短軸69㎝の不定形を呈するものとみられる。深さは39㎝を測る。

【壁・底面】壁は底面から緩やかに立ち上がる。底面は鍋底状である。

【堆積土】下部に暗色の土層が堆積し、上部に褐色土が堆積している。人為堆積的様相を呈する。

【出土遺物】遺物は出土していない。
【小結】検出層位、遺構の重複関係から、10世紀前葉以降に帰属するものと考えられる。

（斉藤）

第149号土坑（C1ＳＫ－149）

精査の結果、遺構と認定できず、欠番とした。

第150号土坑（C1ＳＫ－150）（図126）

【位置・確認】ＩＱ－47グリッドに位置する。基本層序第C1Ⅰ層直下で検出した。
【重複】第117号竪穴住居跡と重複し、これよりも新しい。
【形態・規模】長軸66㎝、短軸60㎝の不整円形を呈し、深さは36㎝を測る。
【壁・底面】壁、底面ともに第117号竪穴住居跡堆積土中に構築されており、壁は北西方向へ袋状に膨らむ。底面は鍋底状で、わずかに凹凸がある。
【堆積土】褐色土が主体をなし、黒色土が斑状に混ざる。人為堆積的様相を呈する。
【出土遺物】堆積土中より土師器の細片が出土している。堆積土を採取した土壌サンプル（50g）から、オオムギ、ホタルイ属等の植物遺体が少量検出されている（第９章第17節）。
【小結】検出層位、遺構の重複関係から、10世紀前葉以降に帰属するものと考えられる。

（斉藤）

第151号土坑（C1ＳＫ－151）（図126・128）

【位置・確認】ＩＱ－46グリッドに位置する。基本層序第C1Ⅰ層直下で検出した。
【重複】第157号土坑、第101号性格不明遺構と重複しており、これらよりも古い。
【形態・規模】南西部分は調査区外に入り、全体形状は不明である。長軸は110㎝以上、短軸102㎝を測り、平面形は長方形である。深さ36㎝程度で断面形状は箱形である。
【壁・底面】壁は底面からほぼ垂直に立ち上がる。底面は平坦である。
【堆積土】灰状の暗オリーブ褐色土を主体とし、黒褐色土が層状に介在する。
【出土遺物】堆積土より少量の土師器片、砥石と不明石製品が出土している。砥石は砥面を４面有するものであり（図128－１）、不明石製品は石皿の可能性がある（図128－２）。
【小結】遺構の形状、堆積土の特徴から、火葬墓の可能性が考えられる。帰属年代については遺構の形状、重複関係、検出層位から中世以降と考えられる。

（斉藤）

第152号土坑（C1ＳＫ－152）（図126・128）

【位置・確認】ＩＫ－44グリッドに位置する。
【重複】直接は認められないが、第128号竪穴住居内に存在する。
【形態・規模】長軸152㎝、短軸92㎝の楕円形を呈し、深さは25㎝を測る。

【壁・底面】壁は底面から緩やかに立ち上がる。底面はほぼ平坦である。
【堆積土】６層に分層された。にぶい黄褐色土や褐色土を主体とした人為堆積と思われる。
【出土遺物】堆積土中より内面黒色処理を施した坏（図128－３）を含む土師器の破片が出土している。
【小結】第128号竪穴住居跡に付随する住居内土坑の可能性が考えられる。

（笹森）

第153号土坑（C1ＳＫ－153）（図126）
【位置・確認】ＩＫ－44グリッドに位置する。
【重複】第127号竪穴住居跡と重複している。明確な新旧関係は不明である。
【形態・規模】推定長軸60cm、短軸50cmの円形を呈するものと思われ、深さは15cmを測る。
【壁・底面】壁は底面から緩やかに立ち上がる。底面はやや起伏を持つ。
【堆積土】５層に分層された。にぶい黄褐色土を主体とした人為堆積と思われる。
【出土遺物】遺物は出土していない。
【小結】詳細については不明であるが堆積土の状況から、古代以降の可能性が高い。

（笹森）

第154号土坑（C1ＳＫ－154）（図126・128）
【位置・確認】ＩＬ－43グリッドに位置する。
【重複】認められない。
【形態・規模】長径54cm、短径46cmの円形を呈し、深さは12cmを測る。
【壁・底面】壁は底面から緩やかに立ち上がる。底面はほぼ平坦である。
【堆積土】３層に分層された。にぶい黄褐色土を主体とした自然堆積と思われる。
【出土遺物】覆土より土師器甕（図128－４～６）が出土している。
【小結】出土遺物より平安時代の土坑と考えられる。詳細な時期や性格については不明である。

（笹森）

第155号土坑（C1ＳＫ－155）
精査の結果、遺構と認定できず、欠番とした。

第156号土坑（C1ＳＫ－156）（図126・128）
【位置・確認】ＩＮ－43グリッドに位置し、基本層序第C1Ⅰ層直下、第C1Ⅱa層上面で検出した。
【重複】第120号竪穴住居跡と重複しており、これよりも新しい。
【形態・規模】直径162cmの正円を呈し、深さは30cmを測る。
【壁・底面】壁は底面から緩やかに立ち上がる。底面は基本層序第C1Ⅱb層上面で、形状は鍋底形である。
【堆積土】１層は暗褐色土を主体とし、炭化物、角礫を含み、人為堆積的様相を呈する。２層は褐色土と暗褐色土の混合土で混入物も少なく、遺物は含まない。

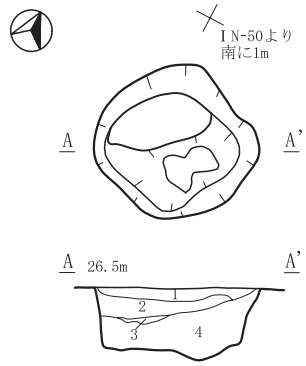
【出土遺物】堆積土中より土師器の細片が出土している。また、１層より珠洲の擂鉢（図128－７）が出土しており、14世紀末から15世紀前半のものの可能性がある。
【小結】本遺構の廃絶年代は堆積土より出土した遺物、遺構の重複関係から、10世紀前葉以降、中世以前に帰属するものと考えられる。

（斉藤）

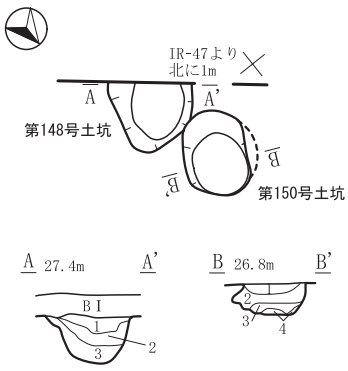
第157号土坑（C1ＳＫ－157）（図126）
【位置・確認】ＩＱ－46グリッドに位置し、基本層序第C1Ｉ層直下で検出した。
【重複】第117号竪穴住居跡、第151号土坑と重複し、これらよりも新しい。
【形態・規模】南西部分が調査区外に入るため、全体形状は不明である。調査区内の最大幅は114㎝で不定形である。確認面からの深さは48㎝である。
【壁・底面】壁は底面から緩やかに立ち上がる。底面は凹凸がある。
【堆積土】第151号土坑の堆積土に由来する灰状の暗オリーブ褐色土を含み、人為堆積的様相を呈する。
【出土遺物】遺物は出土していない。
【小結】掘方の底面が第151号土坑底面と一致し、一部を掘り起こすような状況が確認できる。第151号土坑が墓壙であるとすれば、本遺構の重複関係は改葬行為を示唆するものである。遺構の帰属年代は、検出層序、遺構の重複関係から中世以降と考えられる。

（斉藤）

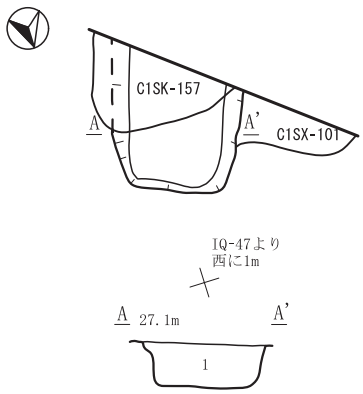
C1区第146号土坑



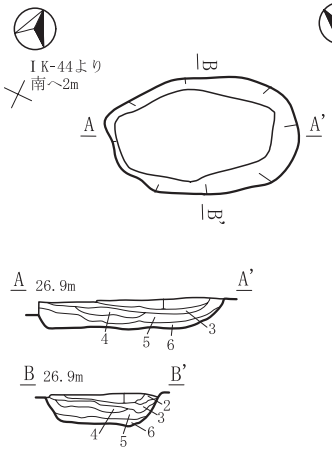
C1区第148・150号土坑



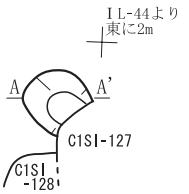
C1区第151号土坑



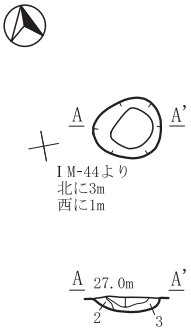
C1区第152号土坑



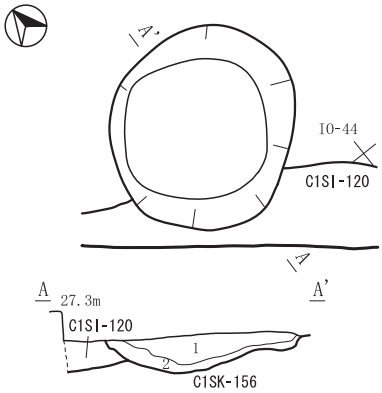
C1区第153号土坑



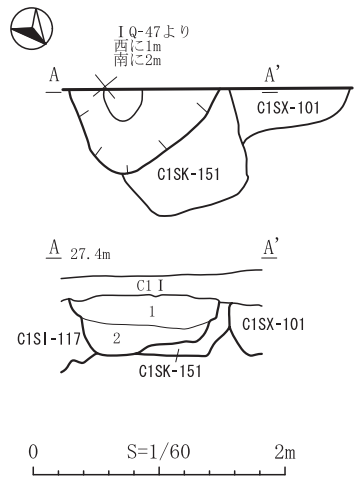
C1区第154号土坑



C1区第156号土坑



C1区第157号土坑



C1区第146号土坑

1層	10YR3/1	黒褐色土	浮石微量、焼土(φ1～2mm)微量、炭化物(φ1～2mm)中量、10YR5/6黄褐色土(粘性弱)が混入、粘性弱、しまり中
2層	10YR7/6	明黄褐色土	浮石微量、土壌化した炭化物が混入、10YR6/1灰褐色土(粘性強)と10YR4/3にぶい黄褐色土(粘性強)が多量混入、10YR7/8黄橙色土(粘性弱)がブロック状混入、粘性弱、しまり強、人為堆積層
3層	10YR3/1	黒褐色土	5YR5/8明赤褐色焼土(φ1～2mm)が微量混入、粘性弱、しまり弱
4層	10YR7/6	明黄褐色土	土壌化した炭化物が微量混入、10YR6/1灰褐色土(粘性強)と10YR4/3にぶい黄褐色土(粘性強)と5YR5/8明赤褐色土(粘性中)が多量混入、10YR7/8黄橙色土がブロック状に多量混入、粘性弱、しまり強

C1区第148号土坑　A-A'

1層	10YR6/4	にぶい黄橙色土	炭化物（φ1～3mm）微量、粘性弱、しまり強
2層	2.5Y6/3	にぶい黄色土	黒色土微量混入、粘性弱、しまり強
3層	2.5Y4/2	暗灰黄色土	炭化物（φ1～5mm）3%、浅黄橙色土微量混入、粘性弱、しまり強

C1区第150号土坑　B-B'

1層	10YR3/4	暗褐色土	10YR2/2黒褐色土との混合土、粘性弱、しまり強
2層	10YR4/3	にぶい黄褐色土	10YR2/2黒褐色土、粘性弱、しまり中
3層	10YR2/2	黒褐色土	炭化物（φ1～2mm）極微量、10YR4/4褐色土混入、土器混入、粘性弱、しまり弱、
4層	10YR4/4	褐色土	粘性弱、しまり強

C1区第151号土坑

1層	2.5Y3/3	暗オリーブ褐色土	10YR4/3にぶい黄褐色土と10YR4/6褐色土との混合土、10YR2/1黒褐色土、粘性弱、しまり中

C1区第152号土坑　A-A' B-B'

1層	10YR4/3	にぶい黄褐色土	10YR5/6黄褐色土との混合土、10YR1.7/1黒色小粒（φ0.2～0.5cm）少量、浮石10YR8/3浅黄橙色（φ2～3mm）微量、2.5YR5/8明赤褐色小粒（φ0.1～0.2cm）極微量、粘性弱、しまり強
2層	10YR6/8	明黄褐色土	10YR4/4褐色土との混合土、炭化物（φ5mm程度）を含む、粘性弱、しまり強
3層	10YR4/3	にぶい黄褐色土	10YR4/4褐色土との混合土、浮石10YR8/2灰白色（φ2～3mm）微量、粘性中、しまり強
4層	10YR4/3	にぶい黄褐色土	10YR4/4褐色中塊（φ2～3cm）中量、10YR5/6黄褐色中塊（φ1～2cm）少量、浮石10YR3/1浅黄橙色（φ2～3mm）微量、5YR6/8橙色小粒（φ0.2～0.3cm）極微量、粘性弱、しまり強
5層	10YR4/4	褐色土	10YR4/3暗褐色土との混合土、2.5YR6/4にぶい黄色中塊（φ2～3cm）少量、10YR6/6明黄褐色中塊（φ1～2cm）少量、10YR3/2黒褐色小粒（φ0.3～0.5cm）微量、浮石10YR7/4にぶい黄橙色（φ2～3mm）、粘性弱、しまり強
6層	10YR4/4	褐色土	10YR5/6黄褐色土と10YR5/4にぶい黄褐色土との混合土、10YR4/3にぶい黄褐色小粒（φ0.5～0.8cm）少量、10YR4/1褐灰色小塊（φ0.5～1cm）少量、10YR3/1黒褐色小塊（φ0.2～0.3cm）極微量、粘性中、しまり強

C1区第153号土坑

1層	10YR6/4	にぶい黄橙色土	炭化物(φ1～3mm)微量、粘性弱、しまり強
2層	10YR5/3	にぶい黄褐色土	炭化物(φ1～3mm)微量、粘性弱、しまり強
3層	10YR5/4	にぶい黄褐色土	粘性弱、しまり強
4層	10YR7/6	明黄褐色土	粘性弱、しまり強
5層	10YR6/3	にぶい黄橙色土	炭化物(φ1～3mm)微量、粘性弱、しまり強

C1区第154号土坑

1層	10YR6/4	にぶい黄橙色土	浅黄橙色粘土微量混入、焼土(φ1～3mm)微量、粘性弱、しまり強
2層	10YR6/3	にぶい黄橙色土	粘性中、しまり強
3層	10YR5/4	にぶい黄褐色土	粘性弱、しまり強

C1区第156号土坑　A-A'

1層	10YR3/3	暗褐色土	10YR5/4にぶい黄褐色土が粒上(φ3～10mm)に少量混入、炭化
2層	10YR4/4	褐色土	物(φ3～5mm)極微量、粘性弱、しまり強 10YR3/4暗褐色土との混合土、粘性弱、しまりやや強

C1区第157号土坑

1層	10YR5/3	にぶい黄褐色土	浮石（φ1～3mm）微量、炭化物（φ1～3mm）3%混入、粘性弱、しまり強
2層	10YR6/3	にぶい黄橙色土	黒色土3%混入、にぶい黄橙色土微量混入、炭化物（φ1～3mm）微量、粘性弱、しまり中

図126　C1区土坑（6）

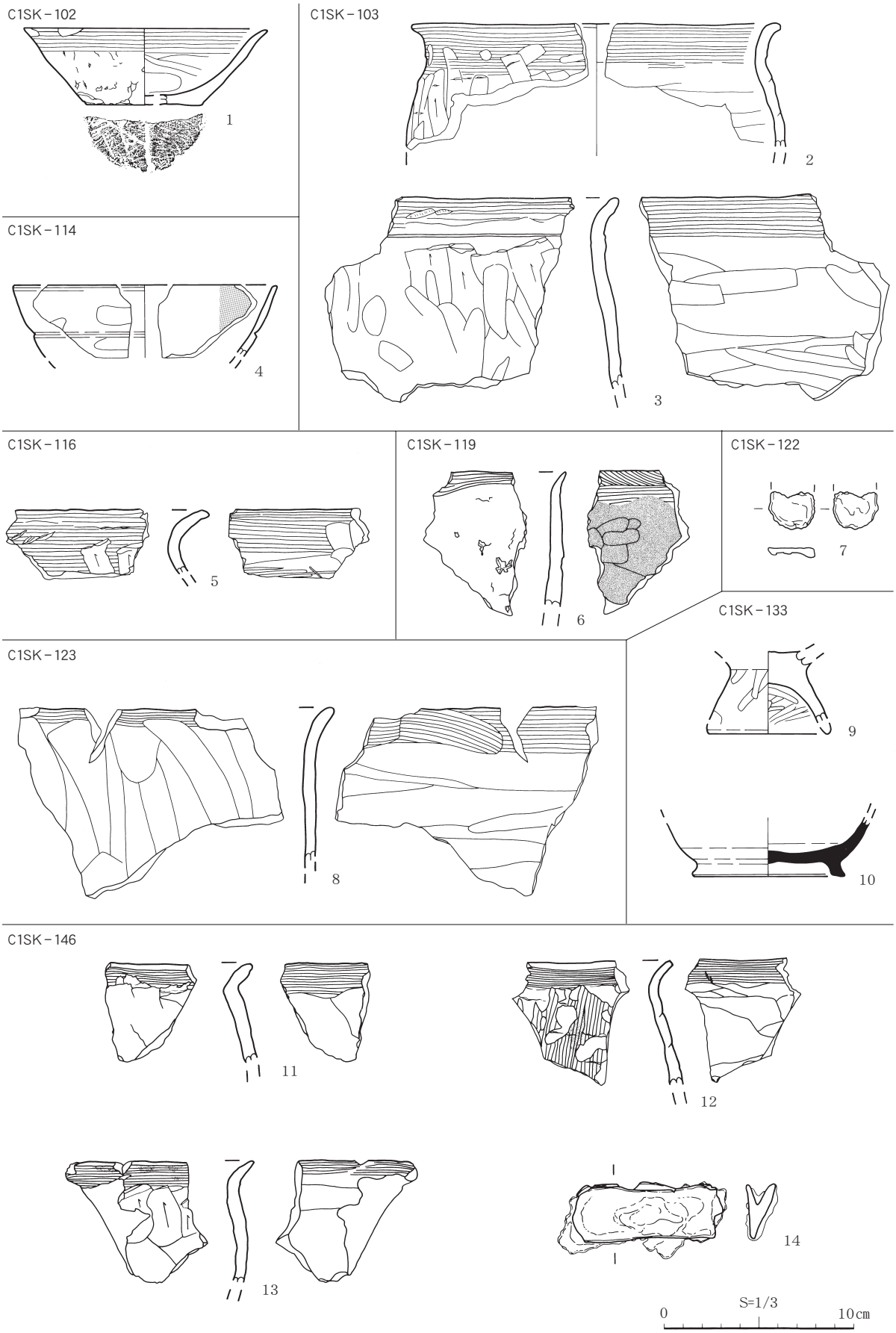


図127　C1区土坑出土遺物（1）

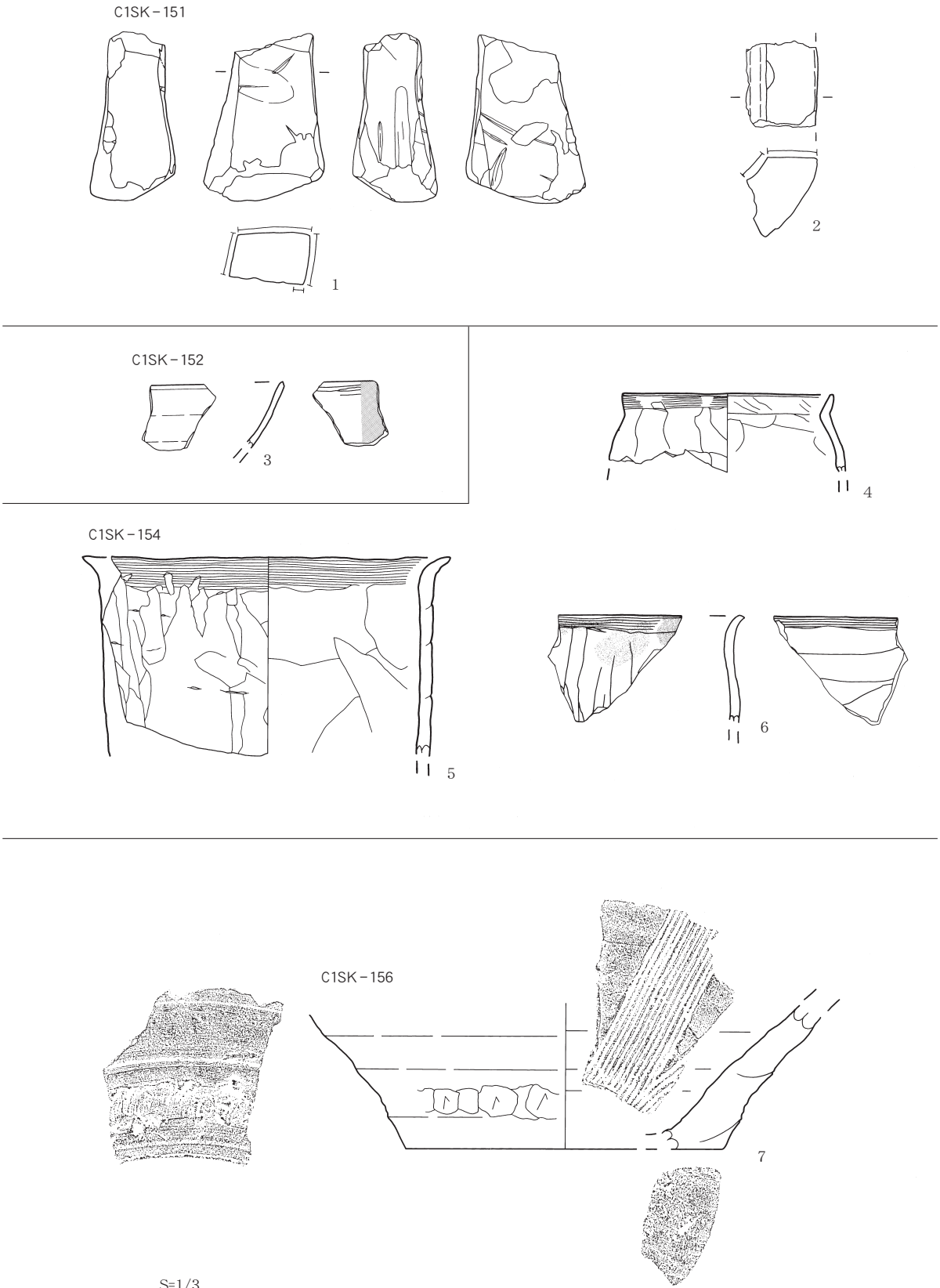


図128　C1区土坑出土遺物（２）

第５節　井戸跡

第101号井戸跡（C1ＳＥ－101）（図129・130）

【位置・確認】ＩＯ－45グリッドに位置する。基本層序第C1Ⅰ層直下、第C1Ⅱ層中で検出した。底面については、壁に第C1Ⅶc層が見えてきた段階で精査を中止しているため、未確認である。

【重複】第123号竪穴遺構と重複しており、これよりも古い。

【形態・規模】上端幅は直径132㎝、検出面からの深さは110㎝以上に達する。平面形はほぼ正円をなし、断面形は下部がやや膨らみをもつ。壁面は凹凸が顕著で、堆積土中に基本土層の粘質土塊が多く含まれることから崩落に伴うものとみられる。

【堆積土】暗褐色土と黄褐色土が互層をなすが、基本土層第C1Ⅲ～Ⅴ層に由来する粘土塊を多く混入しており、人為堆積的様相を呈する。

【出土遺物】堆積土中より土師器坏（図130－１～４）・甕（図130－５～７）、須恵器の細片が出土している。図130－８は横走沈線が３条以上施文されており、擦文土器、ないしは奈良時代の土師器甕とみられる。

【小結】本遺構は、重複関係、出土遺物、堆積土の様相から平安時代に帰属するものとみられる。

（斉藤）

第102号井戸跡（C1ＳＥ－102）

調査段階に第102号井戸跡（C1ＳＥ－102）としたが、第156号土坑（C1ＳＫ－156）に名称変更した。

第103号井戸跡（C1ＳＥ－103）（図129・130）

調査段階では第147号土坑（C1ＳＫ－147）としたが、整理段階で第103号井戸跡（C1ＳＥ－103）に名称変更した。

【位置・確認】ＩＭ－45グリッドに位置する。基本層序第C1Ⅰ層直下、第C1Ⅱ層上面で検出した。

【重複】なし。

【形態・規模】上端幅148㎝、下端幅99㎝を測り、平面形は概ね正円をなす。第C1Ⅸ層のレベル（標高：25.3m）に達した時点で湧水が著しくなり、排水を行いながら精査を行った。底面は第C1ⅩⅢ層の砂礫層で、検出面からの深さは204㎝に達する。

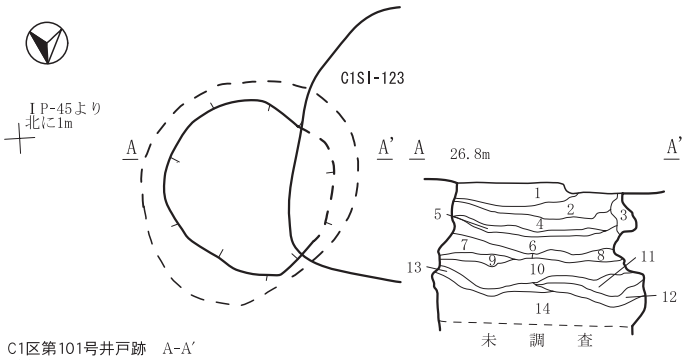
【堆積土】堆積土上層には、籾殻状の植物遺体・炭化物・灰状物質を多量に含み、直径40㎝以上の礫が出土している。これらは埋め戻しの際に廃棄されたものと思われる。

【出土遺物】２層からは、皇宋通宝（図130－10）、漆器の塗膜片、土師器（図130－９）・須恵器の小片、炭化物の付着した礫、ウメの種子が出土している。3a層および16層を採取した土壌サンプル（71g,108g）からは、イネ、アサ、アカザ属を主体とする植物遺体（第９章第17節）、サケ科の椎骨片（第９章第24節）が検出されている。

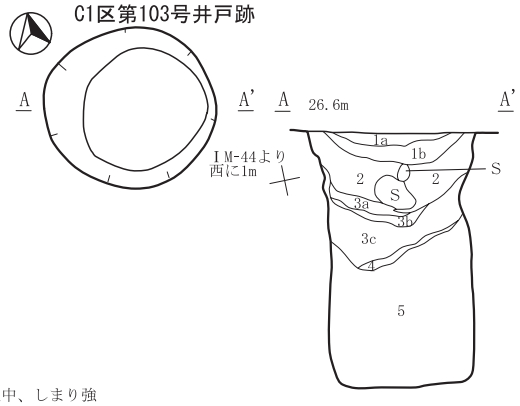
【小結】堆積土中から出土した北宋銭の年代から、本遺構の廃絶年代は、中世とみられる。また、井戸枠等の施設はみられないが、掘方の形状から井戸としての機能が想定される。

（斉藤）

C1区第101号井戸跡



C1区第103号井戸跡



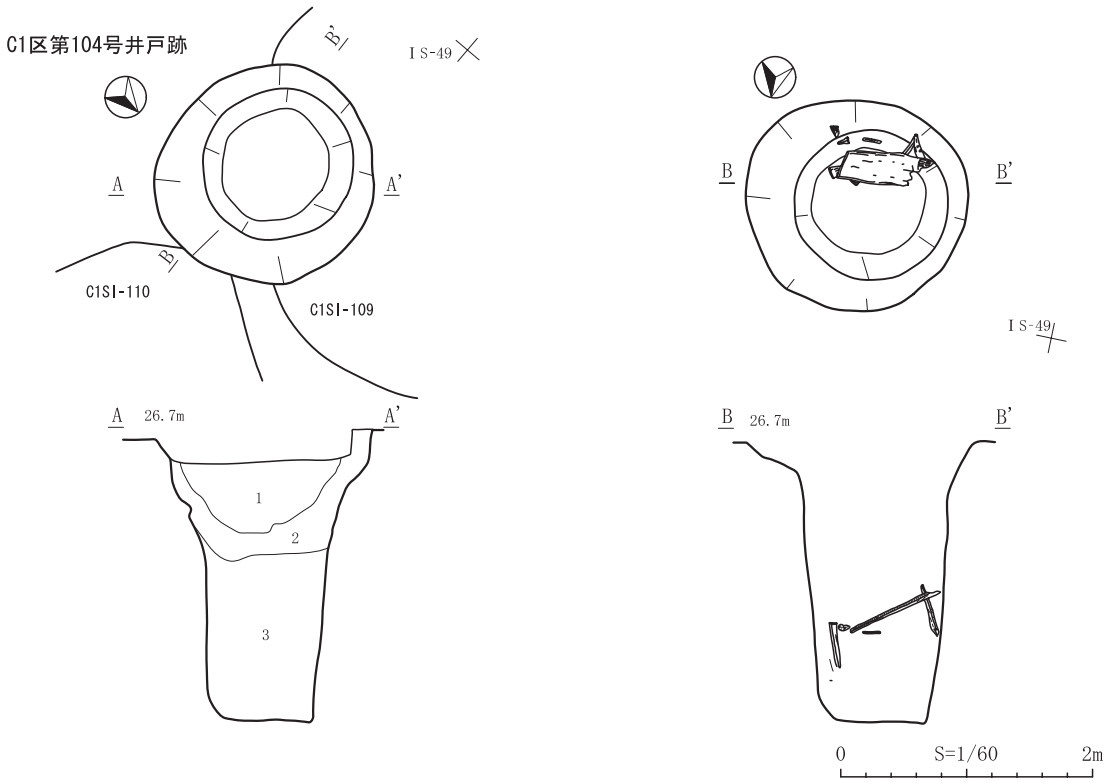
C1区第101号井戸跡　A-A'

1層	10YR3/4	暗褐色土	浮石（φ1～3㎜）極微量、炭化物（φ1～5㎜）極微量、粘性中、しまり強
2層	10YR3/3	暗褐色土	浮石（φ1～10㎜）極微量、炭化物（1～3㎜）極微量、粘性弱、しまり強
3層	10YR4/4	褐色土	にぶい黄橙色土混入、粘性中、しまり強
4層	10YR4/3	にぶい黄褐色土	浮石（φ1～15㎜）極微量、炭化物（φ1～3㎜）極微量、粘性中、しまり強
5層	10YR4/2	灰黄褐色土	炭化物（φ1～3㎜）極微量、浅黄橙色土混入、粘性中、しまり強
6層	10YR5/3	にぶい黄褐色土	浮石（φ1～3㎜）極微量、炭化物（φ1～3㎜）極微量、浅黄色土混入、粘性中、しまり強
7層	10YR5/4	にぶい黄褐色土	炭化物（φ1～5㎜）極微量、焼土（φ1～5㎜）極微量、粘性中、しまり強
8層	10YR5/2	灰黄褐色土	炭化物極微量、浅黄色土混入、粘性中、しまり強
9層	2.5YR4/1	黄灰色土	炭化物（φ1～3㎜）極微量、焼土（φ1～3㎜）極微量、浅黄色土混入、粘性中、しまり強
10層	10YR4/1	褐灰色土	炭化物（φ1～15㎜）極微量、焼土（φ1～15㎜）極微量浅黄色土混入、粘性中、しまり強
11層	2.5YR3/3	暗オリーブ褐色土	炭化物（φ1～3㎜）極微量、黒色土混入、粘性中、しまり中
12層	2.5YR3/2	黒褐色土	浮石（φ1～3㎜）極微量、炭化物（φ1～3㎜）極微量、黒色土混入、粘性中、しまり中
13層	2.5YR4/3	オリーブ褐色土	浮石（φ1～5㎜）極微量、炭化物（φ1～5㎜）極微量、粘性中、しまり中
14層	2.5YR4/2	暗灰黄色土	炭化物（φ1～3㎜）極微量、浅黄色土5%混入、粘性中、しまり中

C1区第103号井戸跡　A-A'

1a層	10YR4/3	にぶい黄褐色土	10YR4/4褐色土との混合土、炭化物（φ1～5㎜）極微量、焼土粒（φ1～3㎜）極微量、粘性弱、しまり強
1b層	10YR3/3	暗褐色土	10YR5/4にぶい黄褐色土との混合土、浮石（φ1～5㎜）極微量、10YR1.7/1黒色土ブロック状に微量混入、焼土粒（φ1～5㎜）極微量、粘性弱、しまり強、火山灰がブロック状に混入
2層	10YR4/3	にぶい黄褐色土	10YR3/4暗褐色土との混合土、炭化物（φ1～10㎜）極微量、焼土粒（φ1～3㎜）極微量、粘性弱、しまりやや強、火山灰がブロック状に混入
3a層	10YR1.7/1	黒色土	10YR3/2黒褐色土ブロック状に混入、粘性弱、しまり弱、植物質繊維中量混入
3b層	10YR3/2	黒褐色土	炭化物（φ1～10㎜）微量、粘性やや中、しまり中
3c層	10YR4/3	にぶい黄褐色土	10YR3/2黒褐色土と10YR4/4褐色粘性土との混合土、炭化物（φ1～10㎜）極微量、粘性弱、しまりやや中
4層	10YR2/1	黒色土	10YR3/2黒褐色土との混合土、粘性弱、しまり弱、植物質繊維多量に混入
5層	10YR3/2	黒褐色土	粘性弱、しまり弱

C1区第104号井戸跡



C1区第104号井戸跡　A-A'

1層	10YR3/4	暗褐色土	10YR5/3にぶい黄褐色粘質土(φ10～50㎜)ブロック状に3%、10YR5/6黄褐色粘質土(φ3～10㎜)2%含む 浮石(φ3～10㎜)極微量、炭化物(φ1～3㎜)極微量、粘性中、しまり中
2層	10YR3/4	暗褐色土	10YR5/3にぶい黄褐色粘質土(φ2～4㎜)と10YR5/6黄褐色粘質土(φ1～3㎜)微量に含む、 炭化物(φ1～3㎜)極微量、粘性弱、しまり弱
3層	10YR3/4	暗褐色土	10YR4/4褐色粘質土・10YR4/6褐色粘質土多量、炭化物(φ1～5㎜)極微量、焼土粒(φ1～5㎜)極微量、粘性中、しまり中

図129　C1区井戸跡

第104号井戸跡（C1ＳＥ－104）（図129・130）

調査段階では第118号土坑（C1ＳＫ－118）としたが、整理段階で第104号井戸跡（C1ＳＥ－104）に名称変更した。

【位置・確認】ＩＲ・ＩＳ－49グリッドに位置する。基本層序第C1Ⅲ層上面で検出した。

【重複】第109・110号竪穴遺構と重複し、本遺構が新しい。

【形態・規模】上端幅177㎝、下端幅71㎝を測り、平面形はおおむね正円をなす。地表下約１ｍの地点から湧水した。検出面からの底面の深さは約２ｍ24㎝を測る。底面を確認したが付属施設は検出されなかった。

【堆積土】人為堆積の様相を呈する。にぶい黄褐色粘質土小塊を少量含む、暗褐色土を主体とする。最上層には直径５～10㎝程度の円礫が多く含まれる土が堆積し、下層には褐色粘質土を多量に含む暗褐色土が堆積していた。

【出土遺物】土師器と珠洲が出土している。珠洲は１層から壺甕類の細片が出土しており、外面の特徴から13世紀頃のものと思われる。土師器は１・２層から坏と甕の破片が出土している。３層中より木器（図130－11～17）、トチノキの種皮が出土している。

【小結】木器の出土状況や堆積土の状況から、井桁や井側の抜き取りが完全に行われないままに井筒ごと褐色土にて一気に埋め戻し、埋め戻しの最終段階に、地盤沈下の防止のために角礫を集積し完了したという、廃棄の手順が明らかとなった。出土遺物や遺構の新旧関係および堆積土の状況から、中世以降に埋められたものと思われる。

（工藤）

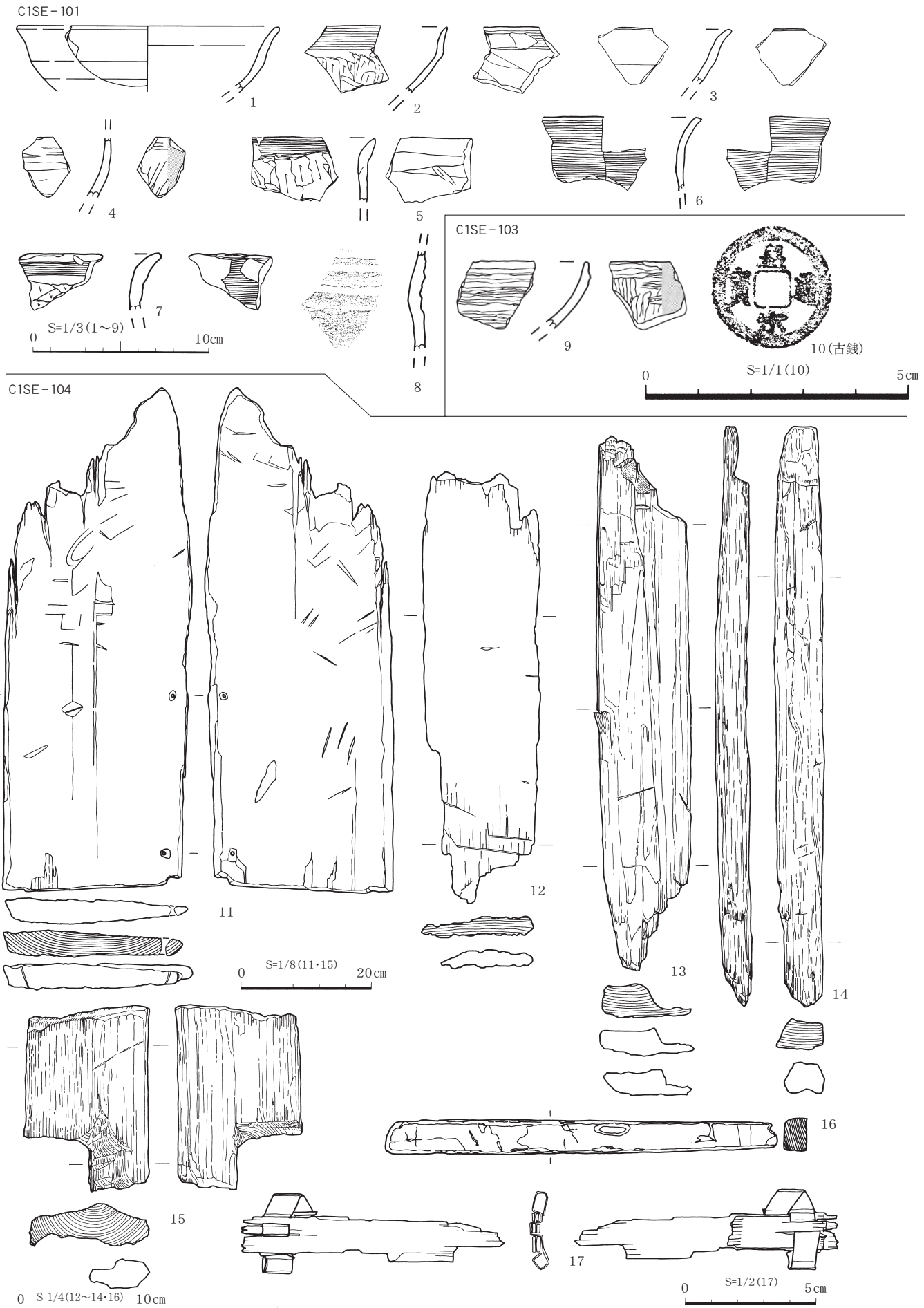


図130　C1区井戸跡出土遺物

第６節　溝跡

第101号溝跡（C1ＳＤ－101）

遺構確認時に溝跡と認識したが調査段階で遺構と判断しなかったため、欠番とした。

第102号溝跡（C1ＳＤ－102）（図131）

【位置・確認】ＩＪ・ＩＫ－42グリッドに位置する。第C1Ⅱ層上面で確認した。

【重複】第106・119号土坑、第139号ピットと重複し、本遺構が第139号ピットより古い。第106・119号土坑との新旧関係は判断できなかった。

【形態・規模】北東－南西方向に軸を持つものであり、北東部は攪乱により破壊されるため全容は不明である。確認できた範囲での長さは2.9m、上面幅49～58㎝、深さは17ｍで、断面形状はU字型を呈している。

【堆積土】暗褐色土を主体とし、炭化物を少量含む。

【壁・底面】壁は底面から緩やかに立ち上がる。底面はなだらかである。

【出土遺物】遺物は出土しなかった。

【小結】遺構の新旧関係や検出層位および堆積土の状況から、平安時代以降に埋没したと思われる。

（工藤）

第103号溝跡（C1ＳＤ－103）（図131）

【位置・確認】ＩＰ・ＩＱ－49グリッドに位置する。

【重複】第109・112号土坑、第104号溝跡、第206・264・265号ピットと重複し、本遺構が第265号ピットよりも新しく、第112号土坑・第104号溝跡、第264号ピットより古い。

【形態・規模】北東－南西方向に軸を持つものであり、大半は第104号溝跡により破壊されるため全容は不明である。確認できた範囲での長さは4.8m、上面幅は83㎝を最大とし、深さは35㎝で、断面形状はU字型と思われる。

【堆積土】暗褐色土と褐色土が堆積しており、暗褐色土には炭化物が小塊が混入する。

【壁・底面】壁は底面から緩やかに立ち上がる。底面は平坦である。

【出土遺物】１・２層より、土師器坏・甕の細片が少量出土している。坏は内外面に黒色処理を行うものと、未処理で内外面にロクロナデ調整が観察されるものがある。甕は口縁部が短く外反するものが複数と、やや強く外反し、端部に面取りを施すものがあるが一個体を構成するものではない。

【小結】本遺構の平面・断面形状から溝跡として報告したが、竪穴住居跡や竪穴遺構の可能性も考えられる。出土遺物や遺構の新旧関係および堆積土の状況から、平安時代以降に埋没したものと考えられる。

（工藤）

第104号溝跡（C1ＳＤ－104）（図131・133）

【位置・確認】ＩＮ～ＩＲ－48～51グリッドに位置する。

【重複】第108号竪穴遺構、第112・117号土坑、第103号溝跡、第114・115号竪穴住居跡、第116号竪穴遺構、第149・509・554・516・527・526・532・533・534・544・251・249・258号ピットと重複し、本遺構が第114・115号竪穴住居跡、第116号竪穴遺構、第103号溝跡、第249・251・509・516・526・527・532・533・534・544・554・558号ピットより新しく、第108号竪穴住居跡、第112・117号土坑、第149号ピットより古い。第258号ピットとの新旧関係は判断できなかった。
【形態・規模】調査区を南北に貫き延びるものであり、確認できた範囲での長さは19.4m、上面幅は92～133㎝、深さは71㎝で、断面形状はU字型を呈している。
【堆積土】暗褐色土を主体とし、上下層とも炭化物小塊が混入する。人為堆積の様相を呈する。
【壁・底面】壁面は底から急角度に立ち上がる。底面は平坦であり、南部から北部に向かって傾斜している。
【出土遺物】土師器坏・甕、かわらけ、陶器、砥石、獣骨が出土している。土師器は細片が多く少数であり、坏は体部外面が無調整で底面に木葉痕が残存するものがある。甕は体部細片が多く、口縁部が残存するものでは、口縁が大きく開き、端部に面を取り、頸部に横位の沈線を施すものがみられる。かわらけは中世のものと思われ（図133－２）、堆積土上層から出土している。陶器は珠洲甕である。砥石は破損したもので砥面が１面のみ確認できるものであり、中砥か仕上げ砥と思われる。掲載はしていない。獣骨は１層からの出土で、ウシ・ウマ類の四肢長管骨である。
【小結】出土遺物や新旧関係および堆積土の状況から、中世以降に埋没したと思われる。

（工藤）

第105号溝跡（C1ＳＤ－105）（図132・133）
【位置・確認】ＩＩ－44グリッド他に位置する。
【重複】第107号溝跡と重複し、本遺構が古いことが土層の堆積状況より確認できた。
【形態・規模】上面幅136～216㎝、底面幅40～70㎝、深さは147㎝前後を測り、断面形状は逆台形状を呈している。南北共に調査区外に延びており、確認できた長さは21m程である。
【堆積土】５～６層に分層された。褐色土を主体に一部中層付近で人為堆積の様相を呈している。
【壁・底面】壁は底面からやや急に立ち上がっている。底面はほぼ平坦に造られている。
【出土遺物】堆積土の中層や下層から土師器、須恵器、焼成粘土塊、動物遺存体（ウシ・ウマ類遊離歯片）が出土している。
【小結】出土遺物や土層の堆積状況から、平安時代に構築され埋没した可能性が高い。下層の出土遺物から、９世紀代に構築された可能性も考えられる。

（笹森）

第106号溝跡（C1ＳＤ－106）（図131・133）
【位置・確認】ＩＲ・Ｑ－47グリッドに位置する。基本層序第C1Ｉ層直下、第117号竪穴住居跡堆積土を掘り下げている過程で検出した。
【重複】第117号竪穴住居跡と重複し、本遺構はこれより新しい。
【形態・規模】確認面での最大幅は27㎝、底面の最大幅は12㎝、深さは30㎝で、断面形状はＶ字形を

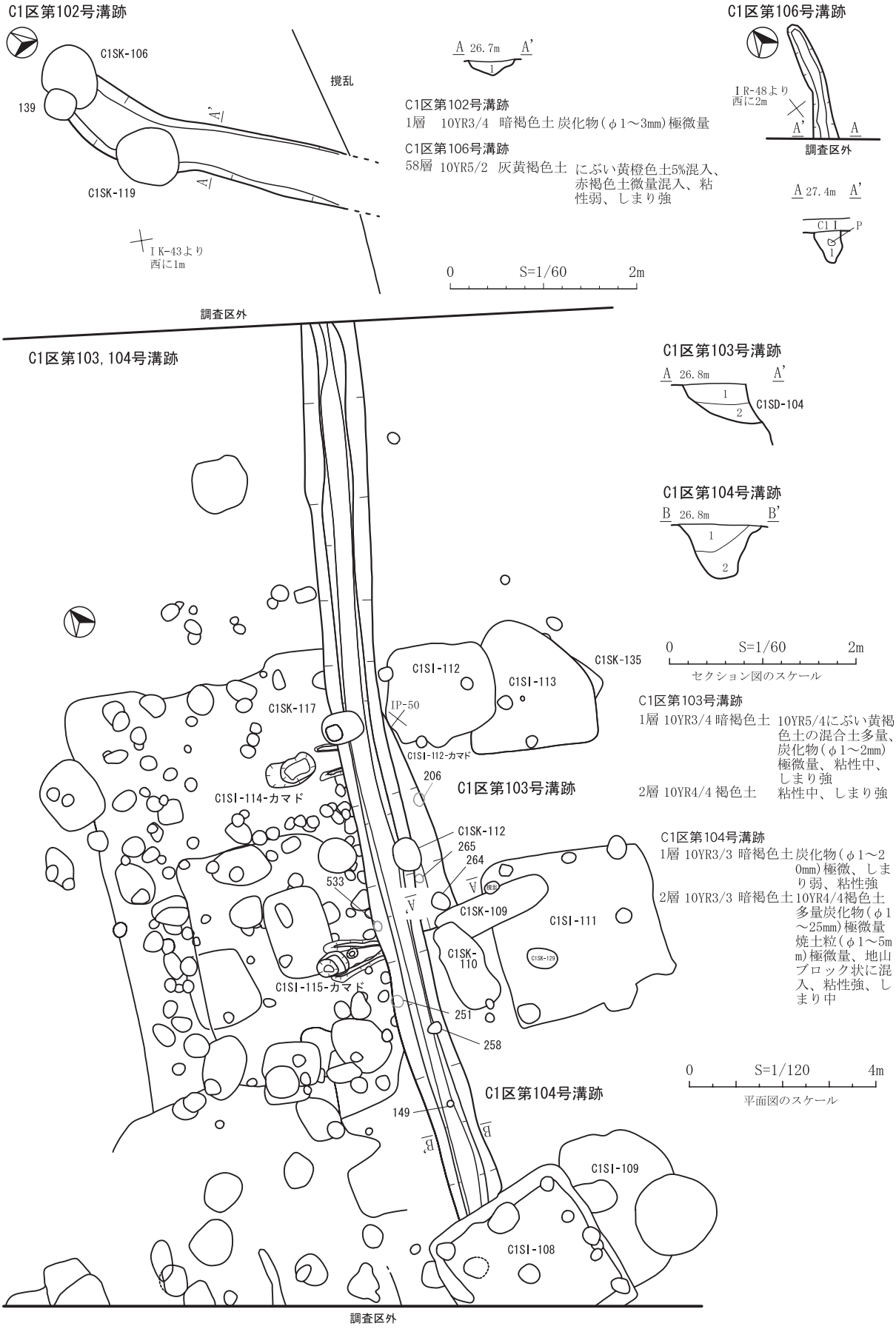

C1区第102号溝跡
C1SK-106
139
撹乱
A'
C1SK-119
IK-43より
西に1m
A 26.7m A'
1
C1区第102号溝跡
1層　10YR3/4　暗褐色土 炭化物(φ1～3mm)極微量
C1区第106号溝跡
58層 10YR5/2　灰黄褐色土 にぶい黄橙色土5%混入、赤褐色土微量混入、粘性弱、しまり強
C1区第106号溝跡
IR-48より
西に2m
A'
A
調査区外
A 27.4m A'
C1 I
P
1
0　S=1/60　2m
調査区外
C1区第103,104号溝跡
C1区第103号溝跡
A 26.8m A'
1
2
C1SD-104
C1区第104号溝跡
B 26.8m B'
1
2
0　S=1/60　2m
セクション図のスケール
C1SK-135
C1SI-112
C1SI-113
C1SK-117
IP-50
C1SI-112-カマド
206
C1区第103号溝跡
C1SI-114-カマド
C1SK-112
265
264
533
C1SK-109
C1SI-111
C1SK-110
C1SK-129
C1SI-115-カマド
251
258
C1区第104号溝跡
149
B
B'
C1SI-109
C1SI-108
調査区外
C1区第103号溝跡
1層 10YR3/4 暗褐色土　10YR5/4にぶい黄褐色土の混合土多量、炭化物(φ1～2mm)極微量、粘性中、しまり強
2層 10YR4/4 褐色土　粘性中、しまり強
C1区第104号溝跡
1層 10YR3/3 暗褐色土 炭化物(φ1～20mm)極微、しまり弱、粘性強
2層 10YR3/3 暗褐色土 10YR4/4褐色土多量炭化物(φ1～25mm)極微量 焼土粒(φ1～5mm)極微量、地山ブロック状に混入、粘性強、しまり中
0　S=1/120　4m
平面図のスケール

図131　C1区溝跡（１）

呈する。
【堆積土】黒色土の単層であり、自然堆積的様相を呈する。
【壁・底面】壁は外湾し、底面にはわずかな凹凸がみられる。
【出土遺物】堆積土中より土師器片が出土している。図133－12は底部から口縁にかけて湾曲気味に立ち上がり、口縁付近には顕著なミガキが確認される。
【小結】出土遺物、遺構の重複関係から、10世紀前葉以降に構築され埋没したと考えられる。

（斉藤）

第107号溝跡（C1ＳＤ－107）（図132・134）
【位置・確認】ＩＪ－43グリッド他に位置している。基本層序第C1Ⅲ層上面で確認した。
【重複】第105号溝跡と重複している。堆積土の観察等から、本遺構が新しいことが確認できた。また、新旧２時期の構築も確認され、それぞれ第107Ａ・第107Ｂ溝跡と呼称する。
【形態・規模】ほぼ東西方向に延び、西側は攪乱により欠失している。東側は調査区際で北東方向にやや屈曲しながら調査区外に延びている。確認できた全長は第107Ａ溝跡で約12.0m、上面幅65～100㎝、底面幅30～60㎝、深さは50㎝前後を測る。また第107Ｂ溝跡の全長は約10m、上面幅160㎝、底面幅130㎝、深さは80㎝を測る。
【堆積土】第107Ａ溝跡は３～７層、第107Ｂ溝跡は９～10層に分層できた。いずれも自然堆積の様相を呈している。
【壁・底面】基本層序第C1Ⅲ～Ⅴ層及び遺構覆土を壁・底面としている。壁は底面から途中に屈曲を持ちながら緩やかに立ち上がっている。底面はほぼ平坦に造られている。断面の形状は概ね逆台形状を呈している。
【出土遺物】堆積土中から土師器・須恵器片、陶器片、石製品、動物遺存体（ウシ・ウマ類遊離歯片）が出土している。図示できた遺物は５点。土師器２点（図134－1・2）、須恵器１点（図134－３）、陶器１点（図134－５）、砥石１点（図134－４）を図示した。陶器は珠洲擂鉢であり、13世紀のものと思われる（図134－５）。土器は近世火鉢類の破片である。掲載はしていない。砥石は砥面を４面有するものである（図134－４）。
【小結】出土遺物から古代～中世にかけての所産と考えられる。詳細については不明であるが区画溝の可能性が高いものと考えられる。

（笹森）